鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　３７

令和２年度発掘調査報告

（第２分冊）

若宮大路周辺遺跡群

今小路西遺跡

横小路周辺遺跡

山ノ内上杉邸跡

横小路周辺遺跡

多宝寺跡

令和３年３月

鎌倉市教育委員会

山ノ内上杉邸跡（山ノ内字西管領屋敷 344 番 5 地点）２区２面
遺構 34　かわらけ出土状況（西から）

横小路遺跡（二階堂字荏柄 26 番イの一部地点）４面　落ち込み出土
墨書土師器坏（図 17-157）　外底面墨書の赤外線写真

ご あ い さ つ

本市は、市域の６割以上が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、遺跡が眠る土地の上で多くの市民が生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、遺跡に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成23・24・26・28～30年度・令和元年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査12か所の調査記録を掲載しています。

本書に収めたひとつひとつの調査成果は様々な内容ですが、いずれも武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し、文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深いご理解を賜るとともに、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

令和３年３月２６日

鎌倉市教育委員会

例　　言

1　本書は令和２年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第２分冊）である。
2　本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
3　現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
4　出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
5　各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第２分冊　目次

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ
例言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ
目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ
本誌掲載の平成26・28～30年度・令和元年度発掘調査地点一覧・・・・・・・・・・・Ⅴ
調査地点位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅵ

７　若宮大路周辺遺跡群（No.242）小町一丁目 324 番４地点
第一章　遺跡の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第二章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第三章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
付編　若宮大路周辺遺跡群出土粘土塊の成分分析・・・・・・・・・・・・・・・・87

８　今小路西遺跡（No.201）由比ガ浜一丁目 163 番１地点
第一章　遺跡の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・111
第二章　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115
第四章　検出遺構と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
第五章　調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・181

９　横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字荏柄 81 番１地点
第一章　遺跡の位置と周辺の発掘調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205
第二章 調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第四章　検出遺構と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第五章　調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・275

10　山ノ内上杉邸跡（No.170）山ノ内字西管領屋敷 344 番５地点
第一章　調査地点の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・311
第二章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
第三章　考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・342

11　横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字荏柄 26 番イの一部地点
第一章　遺跡の位置と周辺の発掘調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・373
第二章　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・376

第三章　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・377
第四章　検出遺構と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・379
第五章　横小路周辺伊勢路のプラント・オパール分析と花粉分析 ・・・・・・・・409
第六章　調査成果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・413

12　多宝寺跡（№187）扇ガ谷二丁目260番1地点

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・428
第二章　調査の方法と経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・431
第三章　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・433
第四章　検出遺構と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・434
第五章　調査成果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・441

本誌掲載の平成26・28～30年度・令和元年度発掘調査地点一覧

第２分冊

	遺　跡　名	所　在　地	調　査　原　因	遺跡種別	調査面積	調　査　期　間
7	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町一丁目324番４	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都　市 城館跡	67.00	平成26年6月9日 ～平成26年9月19日
8	今小路西遺跡 (No. 201)	由比ガ浜一丁目163番１	個人専用住宅 (杭工事)	都　市 城館跡	216.79	平成28年11月1日 ～平成29年3月16日
9	横小路周辺遺跡 (No. 259)	二階堂字荏柄81番１	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	68.25	平成29年9月4日 ～平成29年12月1日
10	山ノ内上杉邸跡 (No. 170)	山ノ内字西管領屋敷344番５	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺跡	65.00	平成29年10月30日 ～平成30年2月7日
11	横小路周辺遺跡 (No. 259)	二階堂字荏柄26番イの一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	34.77	平成30年10月15日 ～平成30年12月7日
12	多宝寺跡 (No. 187)	扇ガ谷二丁目260番１	個人専用住宅 (基礎工事)	社寺跡 散布地	74.90	令和元年6月12日 ～令和元年7月24日

令和２年度の緊急発掘調査地点（1～5）
本書掲載の平成23・24・22・26・28～30年度・令和元年度発掘調査地点（①～⑫）
※遺跡名は一覧表を参照

若宮大路周辺遺跡群　(№242)

小町一丁目 324 番 4 地点

例　言

1. 本報は鎌倉市小町一丁目 324 番 4 地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 調査は個人専用住宅にかかる建築範囲約 67 ㎡を対象とし、平成 26 年 6 月 9 日から同年 9 月 19 にかけて実施した。
3. 調査体制は以下の通り

担当者	伊丹まどか
調査員	渡邊美佐子
調査補助員	松吉里永子
測量	小野夏菜・栂岡ケイト
作業員	秋田公佑・江津兵太・遠藤雅廣・鯉沼稔・鈴木敏文・鈴木道明・高柳雅一・寺尾征夫・南齋敬資・三橋幸雄

4. 本報作成は以下の分担で行った。

遺物実測	岡田慶子・清水由香里・松吉里永子
遺物図版作成	清水・伊丹
遺構図版作成	清水・伊丹
遺構・遺物観察表	田畑衣里
遺構写真	須佐仁和
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	岡田慶子
執筆・編集	伊丹

5. 本調査に係る出土遺物・図面・写真等の記録資料は鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略号は「WA1402」として整理した。
6. 本報の凡例は以下の通りである

・挿図縮尺　遺構全測図 1/60　個別遺構図 1/30・1/15　遺物実測図 1/3　銭 1/1(各挿図にはスケールを表示してある)

・遺構のレベルは海抜標高の数値を示す。

・文中で「かわらけ」と記載したものは「ロクロ成形」のかわらけを示し、「てづくね成形」のかわらけは「てづくね」と記載している。

7. 遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。復元して実測した遺物は計測値に(　)を、遺存値には[　]を付して表している。また、破片数表は整理作業時の不手際から破片のカウント及び、集計方法が不統一となったため、本報告では実測した遺物もそれぞれ「1 点」と数え、各遺構・面・構成土に破片として集計した遺物と合計して表にし、遺構・面・構成土出土遺物の割合を見るための参考とした。
8. 遺物の分類及び編年等に関して参考とした著書及び、報告書作成にあたって参考・引用した文献は巻末にまとめて表記した。
9. 本調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜わりました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

上本進二・河野眞次郎・斎木秀雄・汐見一夫・篠原典夫・滝澤晶子・松尾宜方・松島義明・宮田眞

本文目次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境
1. 歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
2. 遺跡位置とグリッド配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
3. 堆積土層 ・・8
第二章　発見された遺構と遺物
第1節　第1面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第2節　第2面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第3節　第3面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第4節　第4面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第5節　第5面の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
第6節　表土・撹乱出土の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第三章　まとめ
第1節　検出した遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
第2節　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
付編　若宮大路周辺遺跡群出土粘土塊の成分分析　藤根久・竹原弘展（パレオ・ラボ）・・・・・・87

表目次

遺構計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
遺物破片数表・・・・・・・・・・・・・・・・・・81

挿図目次

図1　調査地点と周辺の遺跡・・・・・・・・・5
図2　調査位置とグリッド配置図・・・・・・7
図3　堆積土層図・・・・・・・・・・・・・・9
図4　第1面・第2a面全測図・・・・・・・・11
図5　第2b面・第3面全測図・・・・・・・・12
図6　第4面・第5面全測図・・・・・・・・13
図7　第1面遺構1・出土遺物・・・・・・・・14
図8　第1面遺構4・出土遺物・・・・・・・・15
図9　第1面遺構78・出土遺物・・・・・・・16
図10　第1面面上・構成土出土遺物・・・・17
図11　第2a面個別遺構図・・・・・・・・・20
図12　第2a面個別遺構出土遺物・・・・・・21
図13　第2b面遺構94・出土遺物・・・・・・22
図14　第2b面遺構95A・出土遺物(1)・・・23
図15　第2b面遺構95A・出土遺物(2)・・・・24
図16　第2b面個別遺構図・出土遺物・・・・25
図17　第2面面上・構成土出土遺物(1)・・26
図18　第2面構成土出土遺物(2)・・・・・・27
図19　第2面構成土出土遺物(3)・・・・・・28
図20　第3面遺構18・・・・・・・・・・・29
図21　第3面遺構18・出土遺物・・・・・・30
図22　第3面遺構20・出土遺物(1)・・・・32
図23　第3面遺構20・出土遺物(2)・・・・33
図24　第3面遺構20・出土遺物(3)・・・・34
図25　第3面遺構95B・・・・・・・・・・・36
図26　第3面遺構95B・出土遺物(1)・・・・37
図27　第3面遺構95B・出土遺物(2)・・・・38
図28　第3面個別遺構図・出土遺物・・・・39
図29　第3面面上・構成土出土遺物(1)・・40
図30　第3面構成土出土遺物(2)・・・・・41

図 31　第 3 面構成土出土遺物 (3)・・・・・・43
図 32　第 4 面個別遺構図・・・・・・・・・44
図 33　第 4 面個別遺構・出土遺物・・・・・45
図 34　第 4 面面上・構成土出土遺物・・・・47
図 35　第 5 面個別遺構 95C・出土遺物・・・・48
図36　第5面遺構106・出土遺物(1)・・・・・50
図37　第5面遺構106・出土遺物(2)・・・・・51
図38　第5面遺構113・出土遺物・・・・・・・52
図39　表採・撹乱出土遺物・・・・・・・・・54

写真図版目次

図版 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
図版 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
図版 3・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
図版 5・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
図版 6・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
図版 7・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
図版 8・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
図版 9・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
図版 10・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
図版 11・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
図版 12・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
図版 13・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
図版 14・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
図版 15・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
図版 16・・・・・・・・・・・・・・・・・・106

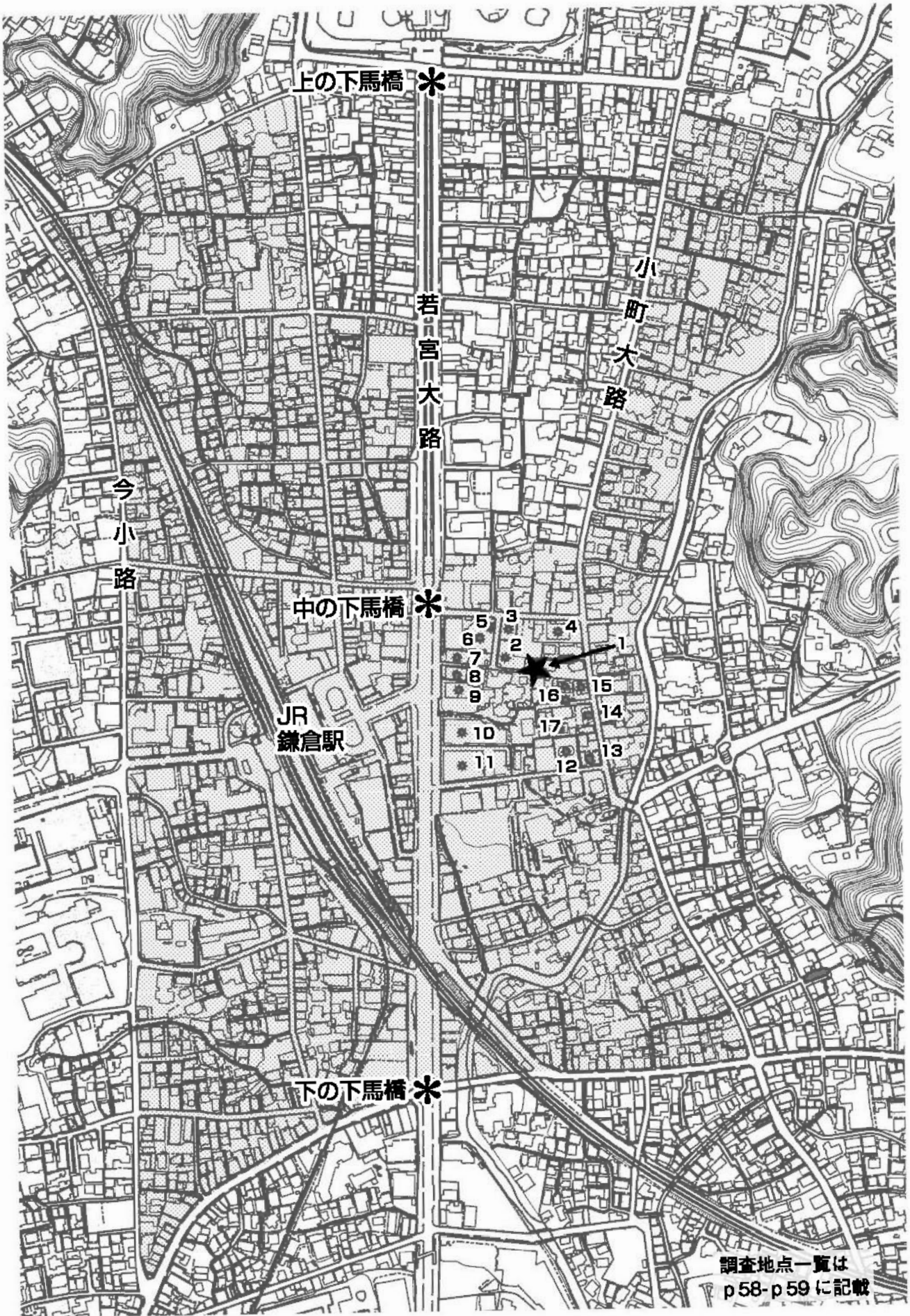


図1　調査地点と周辺の遺跡

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

1. 歴史的環境（図 1）

本調査地が位置する若宮大路周辺遺跡群（№242）は、鎌倉市街地を南北に走る若宮大路を中心に南北約 1.1km×東西約 0.6km にわたる広い範囲である。遺跡名の由来となる若宮大路は鎌倉幕府造営に際しての基軸線であり、鶴岡八幡宮への参詣道としての意味をもつ神域でもあった。『新編相模国風土記稿』等によると大路には三ヶ所に橋があり、それぞれ上の下馬橋、中の下馬橋、下の下馬橋と呼ばれ、各下馬橋には馬を降り繋ぎ止めるための釘貫が置かれていた。橋の位置は若宮大路と県道 311 号線が交差する下馬四つ角辺が「下の下馬橋」と推定され、「中の下馬橋」は享保十七年（1732）の鶴岡八幡宮境内絵図にも描かれる扇ヶ谷川が若宮大路を横切る現在の二の鳥居付近。「上の下馬橋」は諸種の資料にその名が現れないが、『吾妻鏡』建保六年六月二十七日条に「宮寺橋」の記事がみえ、三の鳥居辺にある「赤橋」が「上の下馬橋」であったと考えられている。中の下馬橋があったとする辺は現在「小町口」と呼ばれ、この辺りから若宮大路の東に南北に並走する小町大路を結ぶ道が東西方向に走っている。「小町口」という字名は『吾妻鏡』にも中の下馬橋付近で若宮大路から小町大路への道の入り口付近の呼称として記載されている。小町口から約 140m 北方に若宮大路から東に向かう小道があり、突き当たりには「宇津宮稲荷」がある。この小道以北は宇津宮辻子御所（幕府）跡といわれ、初代執権北条義時の死後嘉禄元年（1225）に、鶴岡八幡宮の東、大倉の地におかれていた御所（幕府）が失火等の厄災等を理由に移転が論議された後、嘉禎 2 年（1236）に若宮大路御所に移るまでの 11 年間と云う短い期間であったが将軍九条頼経の御所として移徙されている。『鎌倉市史（総説編）』では「宇津宮稲荷」のあるこの小道（辻子）を宇津宮御所域の南限と考えているが、小町口から若宮大路と小町大路を結ぶ道を南限と想定する説も多くの支持を受けている。また、小町口辺には 13 世紀中頃に比企氏一族の藤内定員の屋敷があったとされ、「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」ではこの道以南約 160m、現中央郵便局辺りまでを該当地として推定しており、本遺跡地は屋敷地の範囲内になる。また、屋敷地範囲のほぼ中央には「大巧寺」が存在する。日蓮宗寺院。長慶山正覚院大巧寺と号する。開山は日澄で本尊は産女霊神。寺伝では、元は十二所の梶原景時の屋敷内にあり「大行寺」と称する真言宗の寺院であったが、源頼朝がこの寺で軍評定をして大勝したので、「大巧寺」と改めたという。文永十一年（1274）、日澄により日蓮宗に改宗し、元応二年（1320）に現在の地に移転している。寺は俗に「おんめさま」と称し、安産のお守りを出すが、天文年間（1532～1554）当寺五世日棟が難産で死んだ産婦の霊魂を沈め、安産の神として祀ったことに由来すると伝える。

周辺の調査では、本調査地の西に隣接する地点 2 で石垣状遺構、井戸、溝、土坑、方形竪穴建物、方形土坑、かわらけ溜まりを検出し、13 世紀前半から 15 世紀末に比定される遺物を発見している。その西に隣接し若宮大路に面する地点 7 では、遺跡の年代を中世後期（14 世紀末葉～15 世紀）、中世前期（13 世紀前半～14 世紀中）に分け、後期では石垣遺構、池状遺構、井戸、溝、土坑を検出し、前期では方形竪穴建物、方形土坑、土坑、井戸、柱穴、かわらけ溜り（廃棄遺構）を検出している。中でも多くの遺構・遺物を検出・発見し遺跡の中核を成しているのは中世前期である。中世前期では調査区の全域から方形竪穴建物が検出され、出土遺物には多くの舶載陶磁器を発見している。方形竪穴址検出以前には遺構の削平を受け建物跡の検出はなかったが、多くの柱穴と、南北 20m をほぼ等間隔（芯芯約 3.3m）で並ぶ、若宮大路と軸線を同じくする土坑列の検出があり、この地域を大きく区画する塀（築地）と建物址の存

在を想定している。地点 7 の北に接する地点 6 では方形竪穴建物や方形竪穴状遺構、井戸、土坑、ピット、溝、かわらけ溜まり、多数のピットを検出し、13 世紀前半から 16 世紀代に比定される遺物を発見している。検出した方形竪穴建物の一つは、基礎として瓦を敷設しており、稀な事例であった。調査地の北東、小町通りに面する地点 4 では方形竪穴建物 29 軒、掘立柱建物 1 軒、道路 1 条、溝 7 条、井戸 10 基、土坑約 70 基、柱穴約 200 穴、かわらけ溜り(廃棄遺構)などを検出した。方形竪穴建物は小町大路側を表として並び、その裏手には井戸が掘られていた。13 世紀初頭から 14 世紀半ばの年代が与えられている。地点 7 の南に隣接する地点 8 では、13 世紀初頭から 16 世紀前半の遺構・遺物を検出したが、中心となるのは 14 世紀から 15 世紀初頭の時代であり、遺構の主体は方形竪穴建物と井戸である。地点 8 の南にある地点 10 は土坑墓、溝、道路状遺構、井戸、方形竪穴建築史が数多く検出されているが、方形竪穴建物と井戸が検出遺構の主体となり、13 世紀後半から 15 世紀にかけてが遺跡が一番活発に利用された時期と考える。また、15 世紀から 17 世紀にかけて営まれた土坑墓が 11 基検出されている。

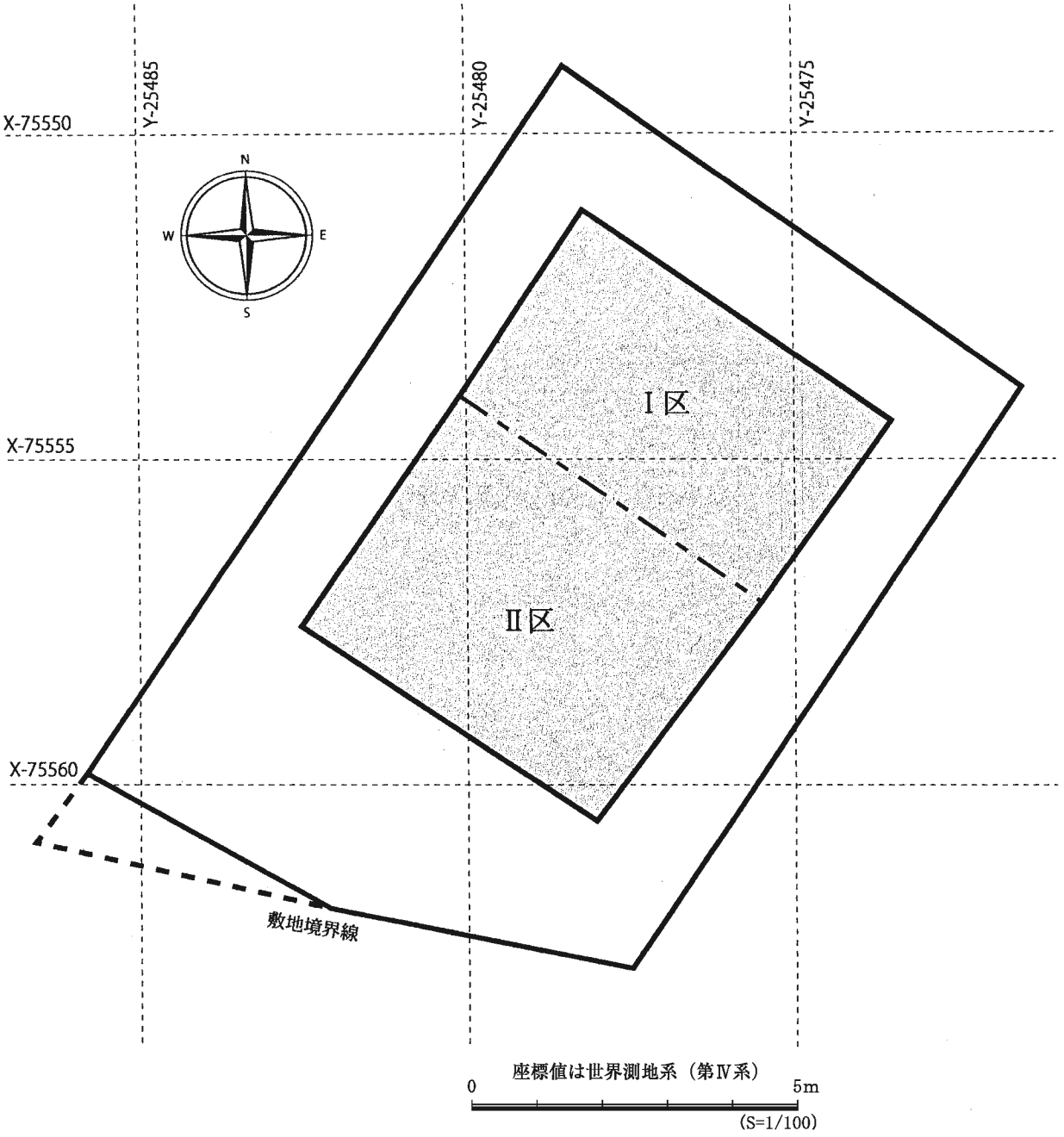


図２　遺跡位置とグリッド配置図

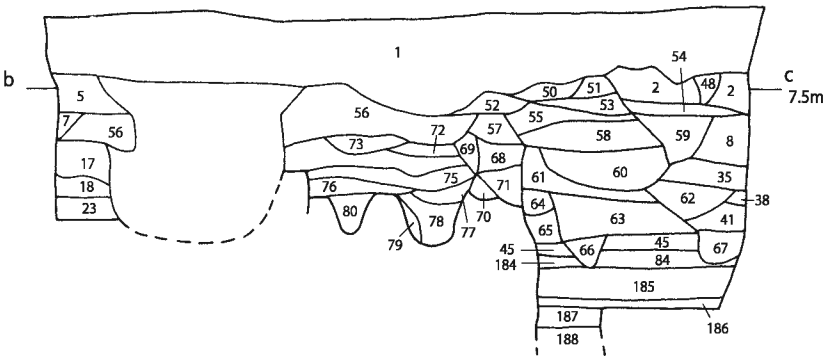
これまでの調査成果から、若宮大路の西側および中の下馬橋以南は武家屋敷とやや庶民的な様相を示す遺構・遺物が多く発見され、大路の東側、上の下馬橋から中の下馬橋の間は若宮大路幕府、宇津宮辻子幕府の幕府が造営された他、北条氏の屋敷をはじめとする有力な御家人の居館が並んでいたといわれている。本調査地は、小町口の南東約 125m、JR 鎌倉駅から直線距離で東に約 220m の位置にあり、「若宮大路周辺遺跡群」のほぼ中心に位置している。
＊調査地点一覧は本文末に記載している。

2. 遺跡位置とグリッド配置（図 2）

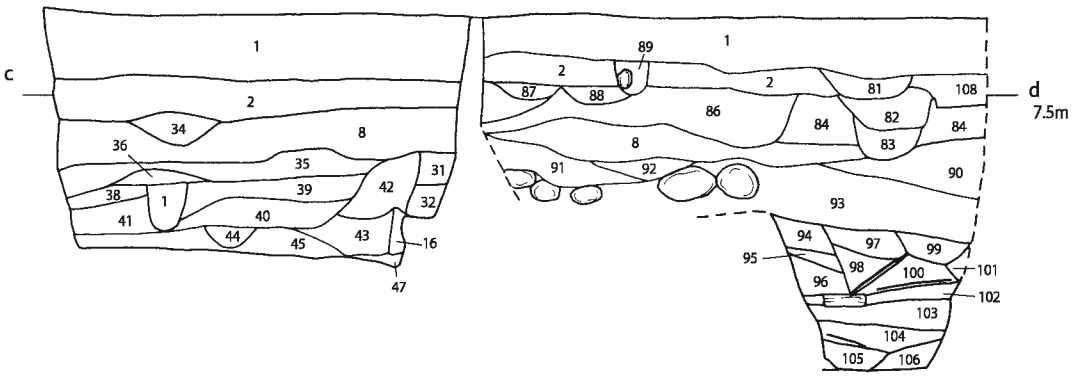
調査に伴う廃土置き場を確保するために、Ⅰ区とⅡ区に調査区を分割して調査を実施した。測量にあたっては、国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設け、光波測量儀で測定した座標値を方眼紙に示し平面図を作成した。国家座標値の移設は 4 級基準点「U099」と「U100」の 2 点間関係から開放トラバース法で行っている。4 級基準点の座標値は旧測地系に基づくことから、新測地系(JGD2011)に座標値を変換して掲載した。

3. 堆積土層（図 3）

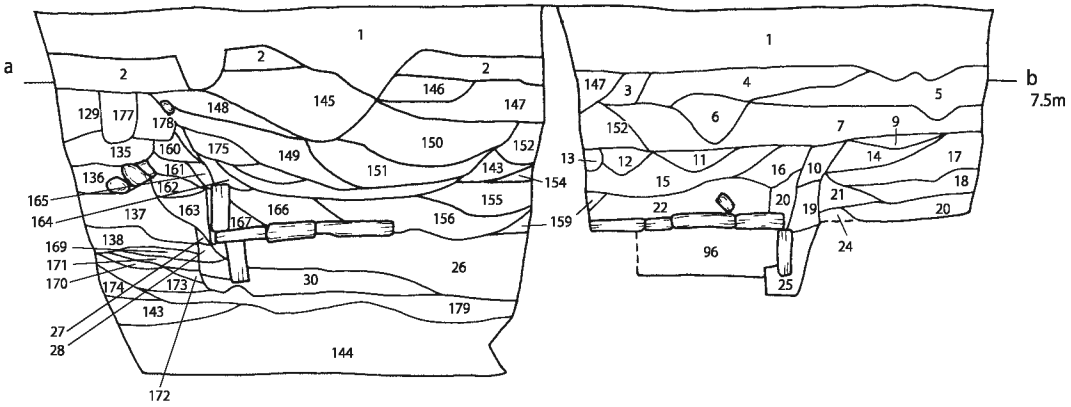
ほぼ平坦に造成されていた現地表の海抜高は約 8.1m であった。約 40cm～60cm の厚さで堆積していた表土(現代埋土)を重機によって除去し、暗褐色弱粘質土上で第 1 面遺構を検出している。第 1 面構成土は泥岩粒・炭化物を含み、やや硬く締まった堆積層であった。調査区の南側(Ⅱ区)は現代撹乱によって大きく削平を受けていた。第 1 面確認レベルは 7.60m～7.70m である。第 2 面は a・b の 2 面に分けて報告している。第 2a 面は泥岩・泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土の地業上で遺構を検出した。地盤の弱さを補強したのだろうか、地業面に泥岩塊が集中して検出される場所があった。第 2b 面は全体に上層(2a 面)の遺構などによって削平を受けていたためか版築地業面は検出していない。調査区北側(Ⅰ区)中央付近で厚く炭化物が堆積している箇所があった。第 2 面構成土は細かく砕いた破砕泥岩と泥岩粒を多く含む。第 2 面確認レベルは 7.30m～7.50m である。第 3 面は暗褐色弱粘質土の硬く締まった地業上で検出した。調査区南側(Ⅱ区)の東際で泥岩塊が堆積している箇所を検出している。第 3 面構成土は泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む。第 3 面確認レベルは 7.0m～7.1m である。第 4 面は暗褐色弱粘質土上で検出した。第 4 面構成土は泥岩粒・炭化物・黄褐色砂を含む。上層の遺構によって削平を受け地業土は一部しか検出していない第 4 面確認レベルは 6.40m～6.60m であった。第 5 面は泥岩粒を含む黄褐色砂上で遺構を検出している。第 5 面構成土は中世地山であったと考えている。第 5 面確認レベルは 6.10m である。



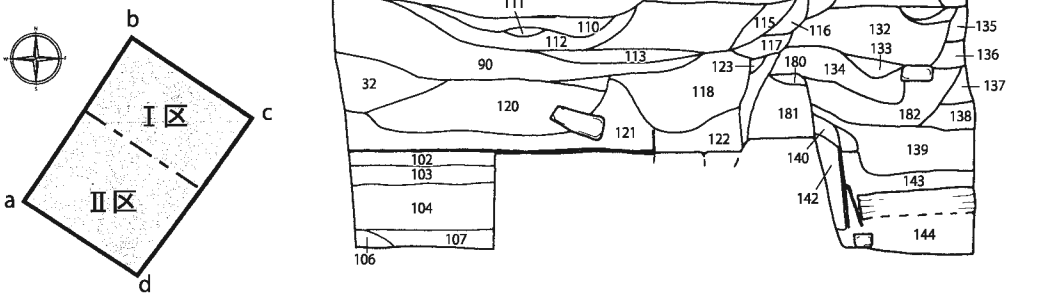
＜Ⅰ区・北壁＞



＜Ⅰ区・東壁＞　　＜Ⅱ区・東壁＞



＜Ⅱ区・西壁＞　　＜Ⅰ区・西壁＞



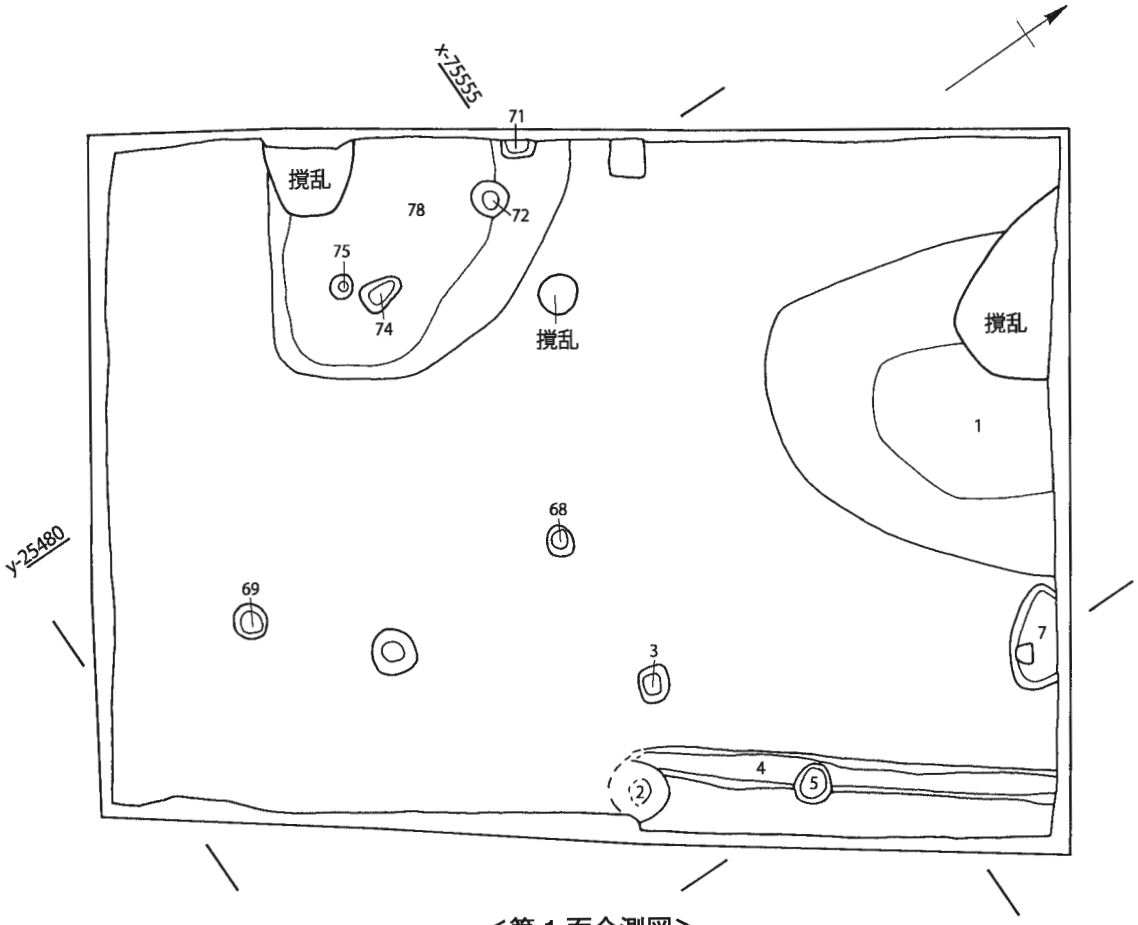
セクションポイント位置図　　＜Ⅱ区・南壁＞

0　2m
(S=1/60)

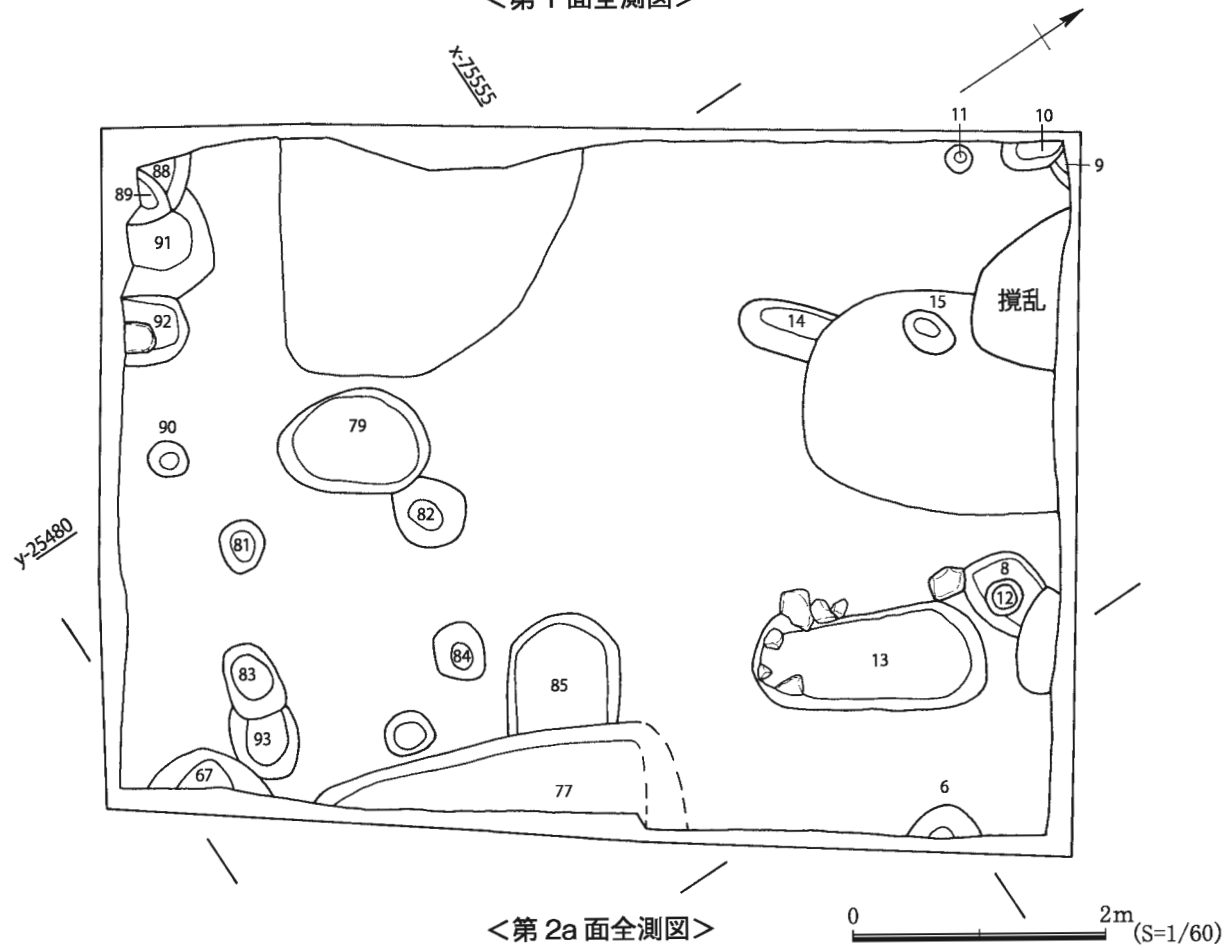
図３　堆積土層図

調査区土層注記

1	暗褐色弱粘質土	泥岩(微)・泥岩粒・炭化物・(現代埋土)
2	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・(第1面構成土)
3	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物
4	暗褐色弱粘質土	泥岩(少)・泥岩粒(多)・炭化物・(第1面構成土)
5	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物・(第1面構成土)
6	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
7	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(多)・炭化物(少)・(遺構9)
8	暗褐色弱粘質土	泥岩(少)・泥岩粒(多)・炭化物・(第2面構成土)
9	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(微)・(遺構19)
10	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構18)
11	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構18)
12	暗褐色弱粘質土	泥岩(多)・炭化物・(遺構18)
13	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・明茶褐色粘質土・(遺構18)
14	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色砂・(遺構19)
15	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構18)
16	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(少)・(遺構18)
17	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色砂・(遺構19)
18	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(微)・褐色砂・(遺構19)
19	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(微)・炭化物(少)・褐色砂・(遺構18)
20	暗褐色粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構18)
21	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構19)
22	暗褐色粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構18)
23	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・黄褐色砂(第4面構成土)
24	暗褐色弱粘質土	炭化物
25	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(微)・(遺構99)
26	黄褐色弱粘質土	泥岩・黒色粘土・黄褐色砂・(遺構99)
27	暗褐色弱粘質土	炭化物・褐色砂・(遺構99)
28	黄褐色弱粘質土	黄褐色砂(多)・(遺構99)
29	暗褐色粘土	炭化物・(遺構99)
30	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・黒色粘土・褐色砂・貝砂・(遺構99)
31	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物・(遺構20)
32	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・(遺構20)
33	暗褐色粘質土	炭化物・黄褐色砂
34	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物・褐鉄(少)
35	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物・(遺構20)
36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(微)・炭化物・褐鉄(少)・(遺構20)
37	黒褐色粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄・(遺構20)
38	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物(少)・(遺構20)
39	黒褐色粘質土	泥岩粒(少)・炭化物・褐鉄・(遺構20)
40	暗褐色粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(少)・(遺構20)
41	暗褐色粘質土	泥岩粒・炭化物(微)・黄褐色砂・(遺構20)
42	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物・黄褐色砂・(遺構20)
43	暗褐色粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄(少)・(遺構20)
44	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(微)・炭化物・褐鉄・黄褐色砂(微)・(遺構20)
45	暗褐色粘質土	炭化物・褐鉄・黄褐色砂(微)・(遺構20)
46	暗褐色粘質土	褐鉄・黄褐色砂・(遺構20)
47	黄褐色砂	
48	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(少)・(遺構4)
49	暗褐色弱粘質土	泥岩粒
50	暗褐色弱粘質土	泥岩(微)・泥岩粒(多)・炭化物・(遺構7)
51	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(微)
52	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物(微)
53	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒
54	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(微)・灰褐色砂
55	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物
56	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物(少)・(遺構1)
57	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物(少)
58	暗褐色弱粘質土	泥岩(少)・泥岩粒(少)・炭化物(少)
59	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(微)・炭化物(微)
60	暗褐色弱粘質土	泥岩(少)・泥岩粒(少)・炭化物(少)
61	暗褐色粘質土	泥岩粒(少)・炭化物(少)・(遺構20)
62	暗褐色粘質土	泥岩粒・炭化物(多)・(遺構20)
63	暗褐色粘質土	泥岩粒(微)・炭化物・褐鉄・(遺構20)
64	暗褐色粘質土	泥岩粒(多)・炭化物・褐鉄・(遺構20)
65	暗褐色粘質土	泥岩粒(微)・褐鉄(微)・(遺構20)
66	暗褐色粘質土	泥岩粒・黄褐色砂・・(遺構35)
67	暗褐色粘質土	褐鉄(微)・黄褐色砂・(遺構32)
68	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物(少)・(遺構58)
69	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・(遺構58)
70	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(微)・炭化物
71	暗褐色弱粘質土	炭化物(少)・黄褐色砂・(遺構58)
72	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・(第3面構成土)
73	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(微)・炭化物(微)・(遺構23)
74	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(微)・炭化物(微)・(第3面構成土)
75	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(微)・褐色砂・(第3面構成土)
76	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物(微)・黄褐色砂
77	暗褐色粘質土	泥岩粒(少)・炭化物(少)
78	暗褐色粘質土	泥岩粒(微)・炭化物(微)・褐鉄・黄褐色砂
79	暗褐色粘質土	黄褐色砂
80	暗褐色粘質土	炭化物(少)・黄褐色砂
81	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色粘土
82	茶褐色弱粘質土	泥岩粒(多)・(遺構67)
83	茶褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物・(遺構67)
84	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)・(第2面構成土)
85	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂
86	暗褐色弱粘質土	泥岩(多)・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂・(遺構77)
87	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・暗褐色粘質土(多)
88	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(少)・炭化物
89	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物
90	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・暗褐色粘質土・(第2面構成土)
91	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶褐色粘土
92	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)・茶褐色粘土
93	泥岩層	泥岩塊・泥岩・泥岩粒・暗褐色弱粘質土・(第2面構成土)
94	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶褐色粘土・(遺構95B)
95	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂・貝砂・(遺構95B)
96	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・貝砂・(遺構95B)
97	暗褐色弱粘質土	泥岩(多)・泥岩粒・炭化物(少)・(遺構95B)
98	暗褐色弱粘質土	炭化物(多)・茶色有機質土・貝砂・木片(多)・(遺構95B)
99	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄・木片・(遺構95B)
100	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・木片・(遺構95B)
101	暗褐色弱粘質土	炭化物(多)・茶色有機質土・貝砂・木片(多)・(遺構95B)
102	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・茶色有機質土・(遺構95B)
103	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構113)
104	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・茶色有機質土・青灰色砂・(遺構113)
105	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)・茶色有機質土・(遺構113)
106	青灰色砂	泥岩粒(微)・貝砂・(遺構113)
107	青灰色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・青灰色砂・(遺構113)
108	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
109	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(多)
110	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(多)・(遺構95A)
111	茶色粘土	(遺構95A)
112	灰褐色弱粘質土	泥岩粒・灰茶色粘土・(遺構95A)
113	黒色粘土	泥岩・褐色砂・(遺構95A)
114	暗褐色弱粘質土	泥岩(多)・泥岩粒(多)・褐色砂・黒色粘土・(遺構95A)
115	暗褐色弱粘質土	炭化物(多)・黒色粘土・(遺構95A)
116	茶褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・褐色砂・(遺構95B)
117	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構95B)
118	泥岩層	炭化物・茶褐色弱粘質土・(遺構95B)
119	炭化物層	(遺構95B)
120	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物が筋状に混入・(遺構95B)
121	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・(遺構95B)
122	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・貝砂・(遺構95B)
123	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・(遺構95B)
124	黄褐色弱粘質土	黄褐色砂・黒色粘土・(遺構95B)
125	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物
126	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)
127	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
128	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(多)・炭化物
129	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構88)
130	茶褐色弱粘質土	炭化物・褐色砂
131	茶褐色弱粘質土	泥岩粒(多)
132	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色砂
133	茶褐色弱粘質土	炭化物・褐色砂
134	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂
135	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・暗褐色粘質土
136	茶褐色弱粘質土	泥岩粒
137	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・貝砂・(第4面構成土)
138	暗褐色弱粘質土	炭化物
139	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色砂・貝砂
140	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
141	暗褐色弱粘質土	褐色砂
142	暗褐色弱粘質土	泥岩(多)・泥岩粒・炭化物
143	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・褐色砂・(遺構106)
144	黒褐色弱粘質土	炭化物・黄褐色砂・茶色有機質土・貝砂・(遺構106)
145	泥岩層	泥岩塊・暗褐色弱粘質土(少)
146	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物
147	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・茶褐色粘土
148	茶褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・褐色砂
149	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)・(遺構94)
150	泥岩層	泥岩・泥岩粒・(遺構98)
151	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構98)
152	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
153	茶褐色弱粘質土	泥岩塊・(遺構18)
154	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・(遺構18)
155	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・(遺構18)
156	暗褐色弱粘質土	炭化物・褐鉄・褐色砂・(遺構18)
157	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(多)・(遺構18)
158	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄・(遺構18)
159	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物・(遺構18)
160	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・(遺構18)
161	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(少)
162	暗褐色弱粘質土	泥岩粒(少)・炭化物
163	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・黄褐色砂・貝砂
164	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(少)・黄褐色砂
165	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物(微)・褐色砂
166	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)
167	暗褐色弱粘質土	炭化物・暗褐色粘土・褐色有機質土
168	灰褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・貝砂
169	黄褐色砂	
170	黄褐色弱粘質土	炭化物・貝砂
171	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・貝砂(多)
172	黄褐色弱粘質土	黄褐色砂・炭化物
173	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・貝砂
174	茶褐色弱粘質土	炭化物・褐鉄・黄褐色砂・貝砂
175	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)・(遺構94)
176	茶褐色弱粘質土	黄褐色砂(多)・(遺構94)
177	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物(多)
178	泥岩層	泥岩粒(多)
179	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・茶色有機質土・貝砂(多)
180	炭化物層	
181	黒色粘土	(第4面構成土)
182	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒(多)・炭化物
183	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・貝砂
184	黄褐色砂	泥岩粒(少)
185	黄褐色砂	泥岩粒(多)
186	黄褐色砂	
187	青灰色砂	
188	白色砂	

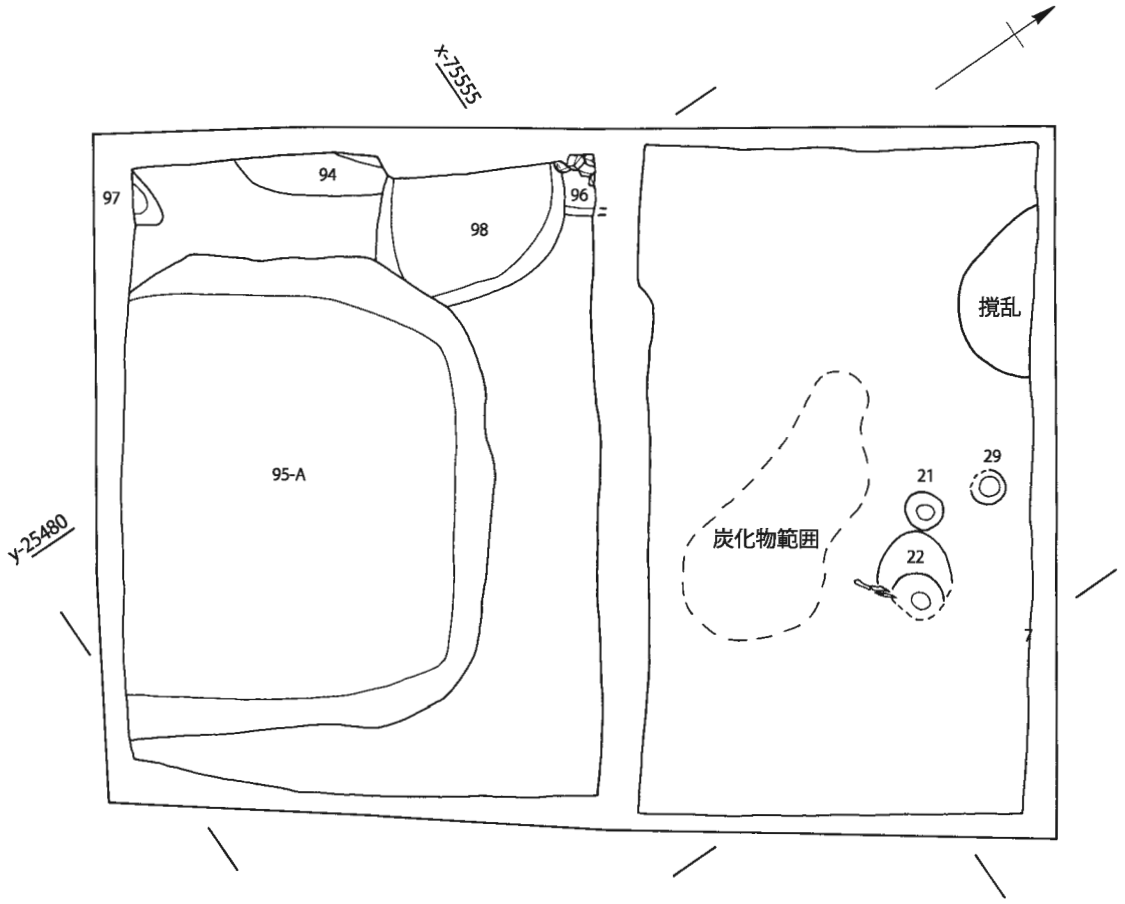


＜第１面全測図＞

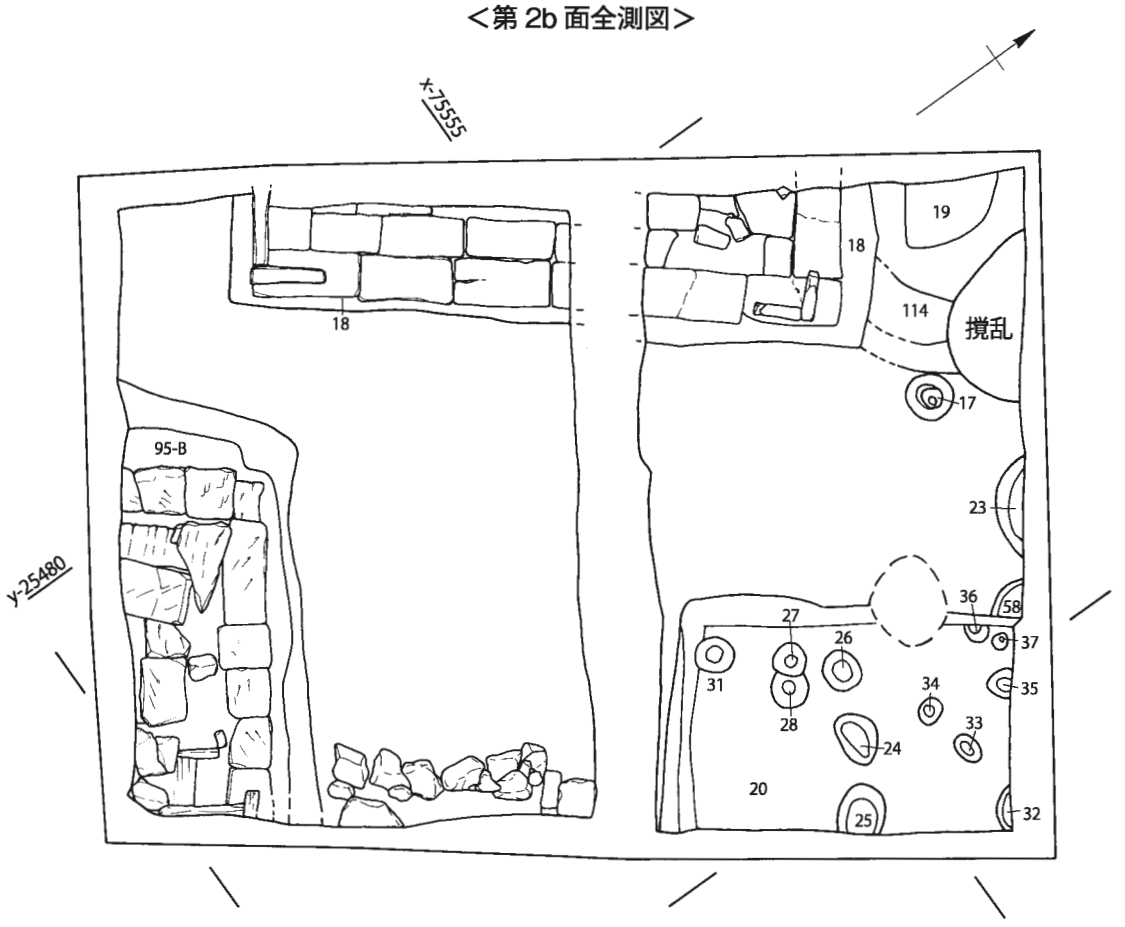


＜第2a面全測図＞

図４　第１面・第２a面全測図



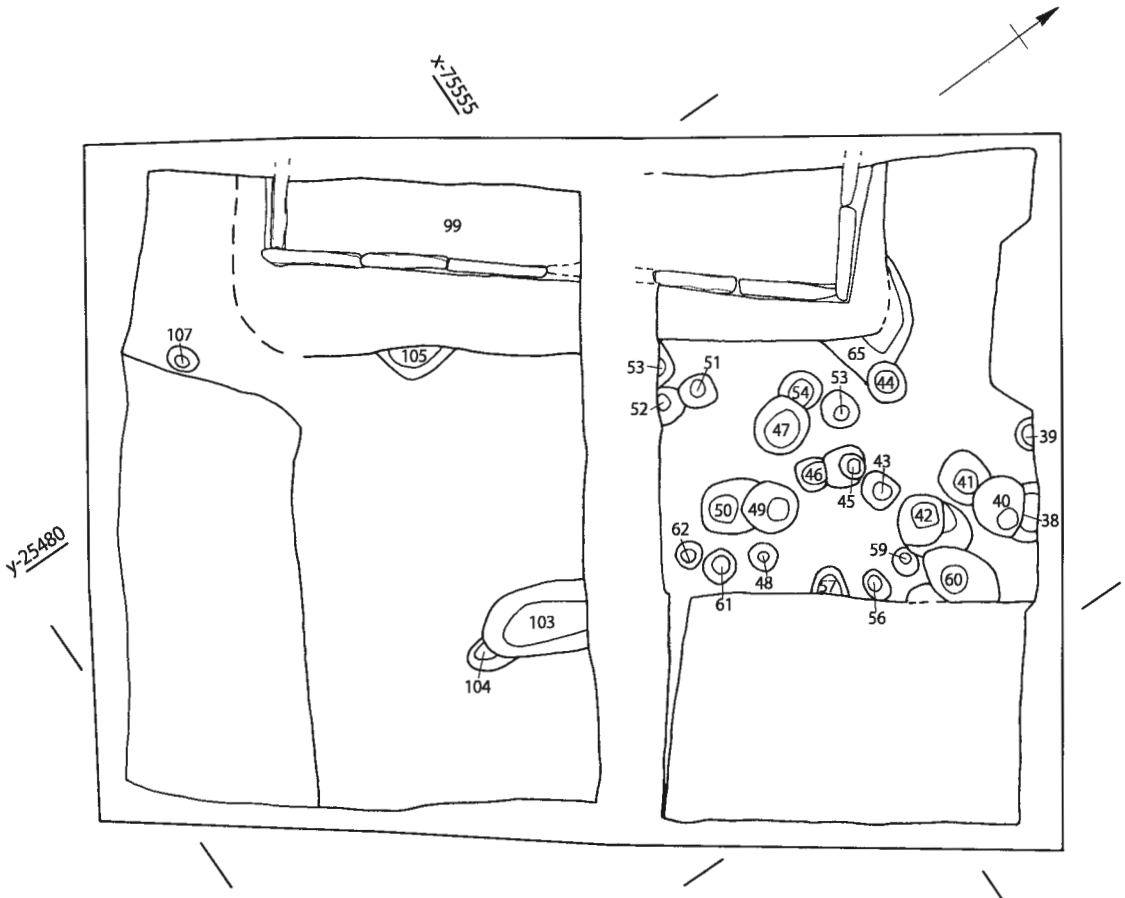
＜第 2b 面全測図＞



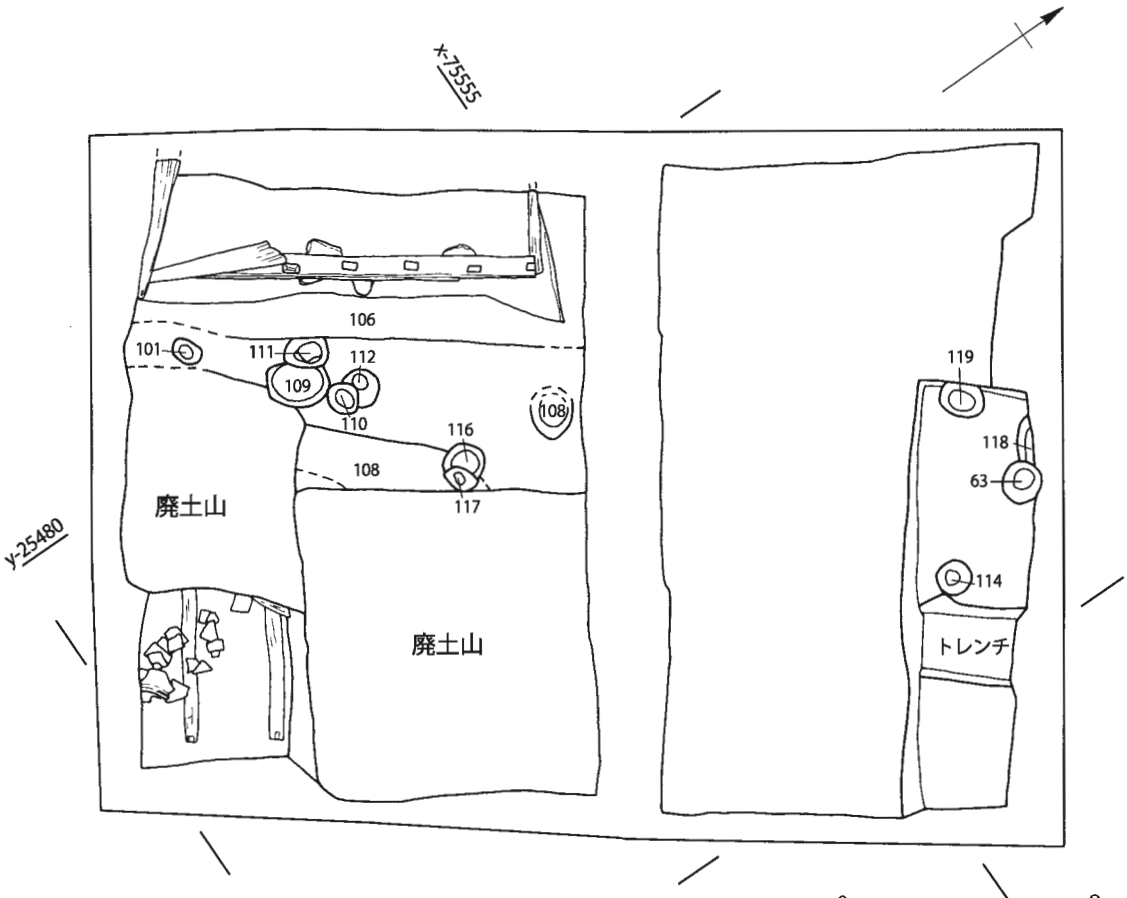
＜第３面全測図＞

0 2m (S=1/60)

図５　第２b 面・第３面全測図



＜第４面全測図＞



＜第５面全測図＞

0　2m (S=1/60)

図６　第４面・第５面全測図

第二章　発見された遺構と遺物

本調査では5枚の生活面を発見し観察、記録を行った。出土遺物を伴う遺構に関しては個別図を示し詳細を記載したが、その他の遺構に関しては全測図と遺構計測表を参考にしていただきたい。また、出土遺物数は実測遺物も1点と数え、破片数と統合した数値を破片数表にまとめて記載している。

調査は廃土の処理場を確保するために調査区をⅠ区・Ⅱ区に2分割して実施したが、本報告では各区で発見した生活面を合成して報告している。2分割して調査した生活面で、遺構に付したNo.を訂正せずに使用しているため、本報告で遺構に付したNo.は新旧を表さない。発見した遺構は上から順に記載した。

調査開始前現地表は海抜約8.10mを測り、地表面は平坦に造成されていた。

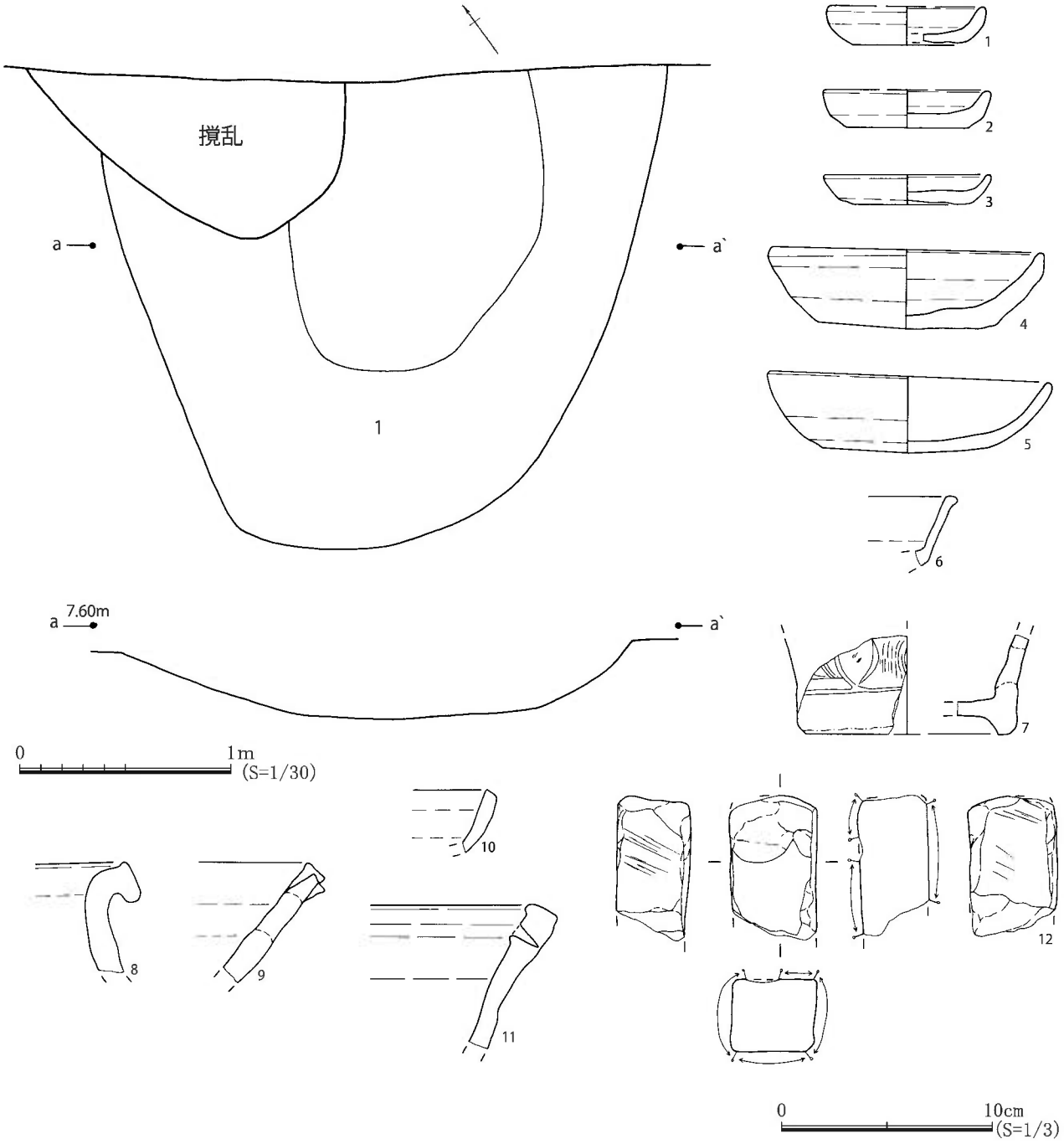


図7　第1面遺構1・出土遺物

第１節　第１面の遺構と遺物（図４・図７～図 10）

重機によって表土(現代埋土)を約 40 ㎝～50cm を取り除いた後、破砕泥岩による版築地業上で遺構を発見した。上層の撹乱によって削平を受けていたために調査区全体で遺構の検出は少ない。空閑地は泥岩による地業がおこなわれるが、大・小の泥岩が混じる雑な版築であった。調査区北(Ｉ区)で検出した遺構４の東側は狭い範囲ではあるが、破砕泥岩による丁寧な地業が残っていた。発見した遺構は溝状土坑１基・土坑２基・ピット 11 穴である。第１面確認レベルは海抜 7.60m～7.70m を測った。

遺構１（(図 7)

北壁際(Ｉ区)で発見した浅い土坑である。調査区外に遺構が延び規模は不明。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・炭化物（多）を含む。

・出土遺物（図 7）

1～5 はかわらけ。6 は青磁坏。7 は青白磁梅瓶。8 は常滑甕。9 は常滑片口鉢Ⅱ類。10 は瀬戸卸皿。11 は瓦器質火鉢。12 は石製品砥石。その他にてづくね・青磁碗・青磁皿・渥美甕・山茶碗・丸瓦・鞴の羽口・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構２（図 8）

円形を呈するピットである。調査区Ｉ区の南端で発見したため規模は不明となった。遺構４を切る。

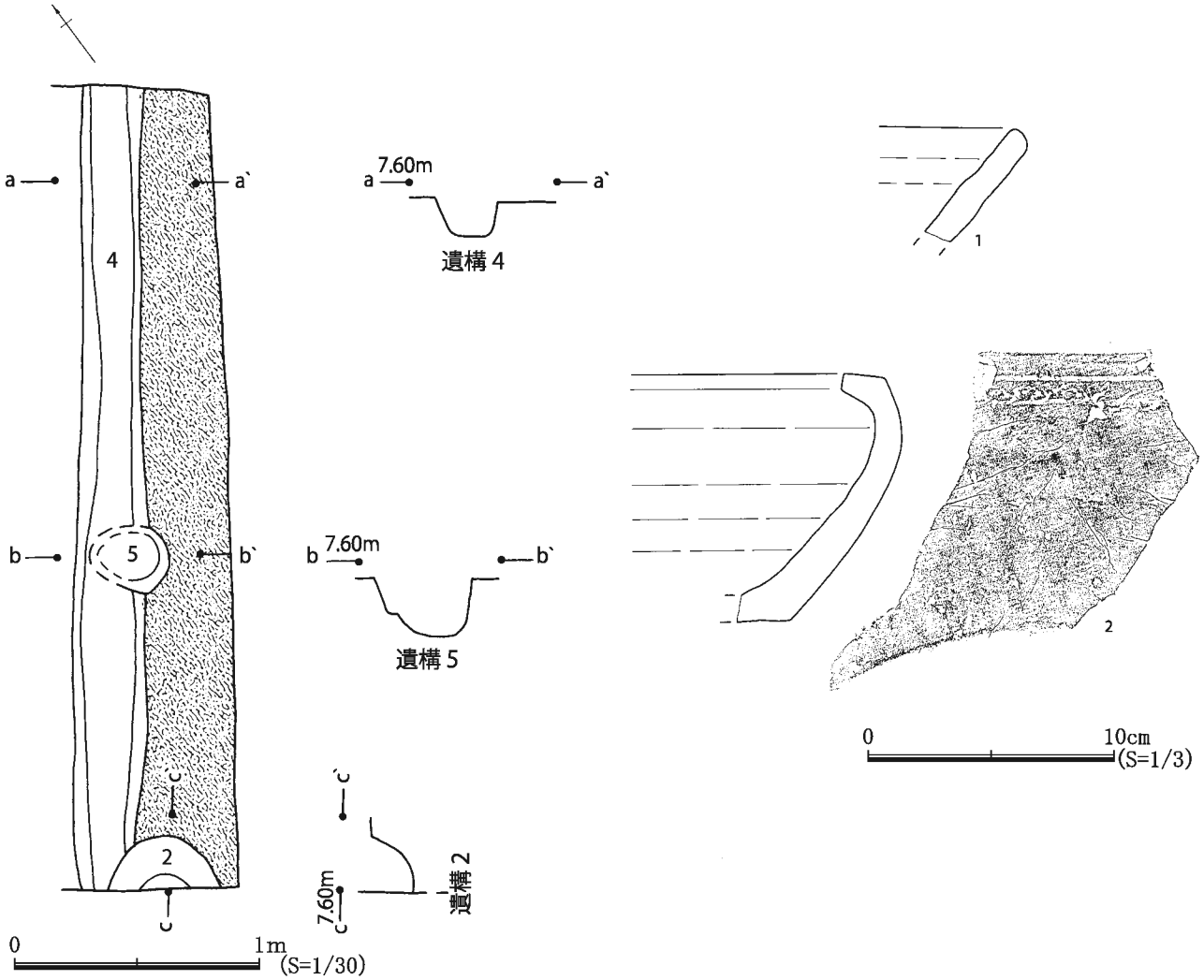


図８　第１面遺構４・出土遺物

遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 4（図 8）

溝状の遺構であるが、北端は調査区外に延び、南端は遺構 4 に切られ溝状の形状が消えている。遺構断面は逆台形を呈する。遺構 4 の東は泥岩砕片による版築地業が残っていた。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物（少）・褐鉄を含む。

・出土遺物（図 8）

1 は常滑片口鉢Ⅱ類。2 は瓦器質火鉢。その他にかわらけ・青磁蓮弁文碗・瀬戸卸皿・常滑甕・南伊勢系土鍋が破片で出土している。

遺構 5（図 7）

円形を呈するピットである。遺構 4 を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒（少）・炭化物（多）を含む。遺物は出土していない。

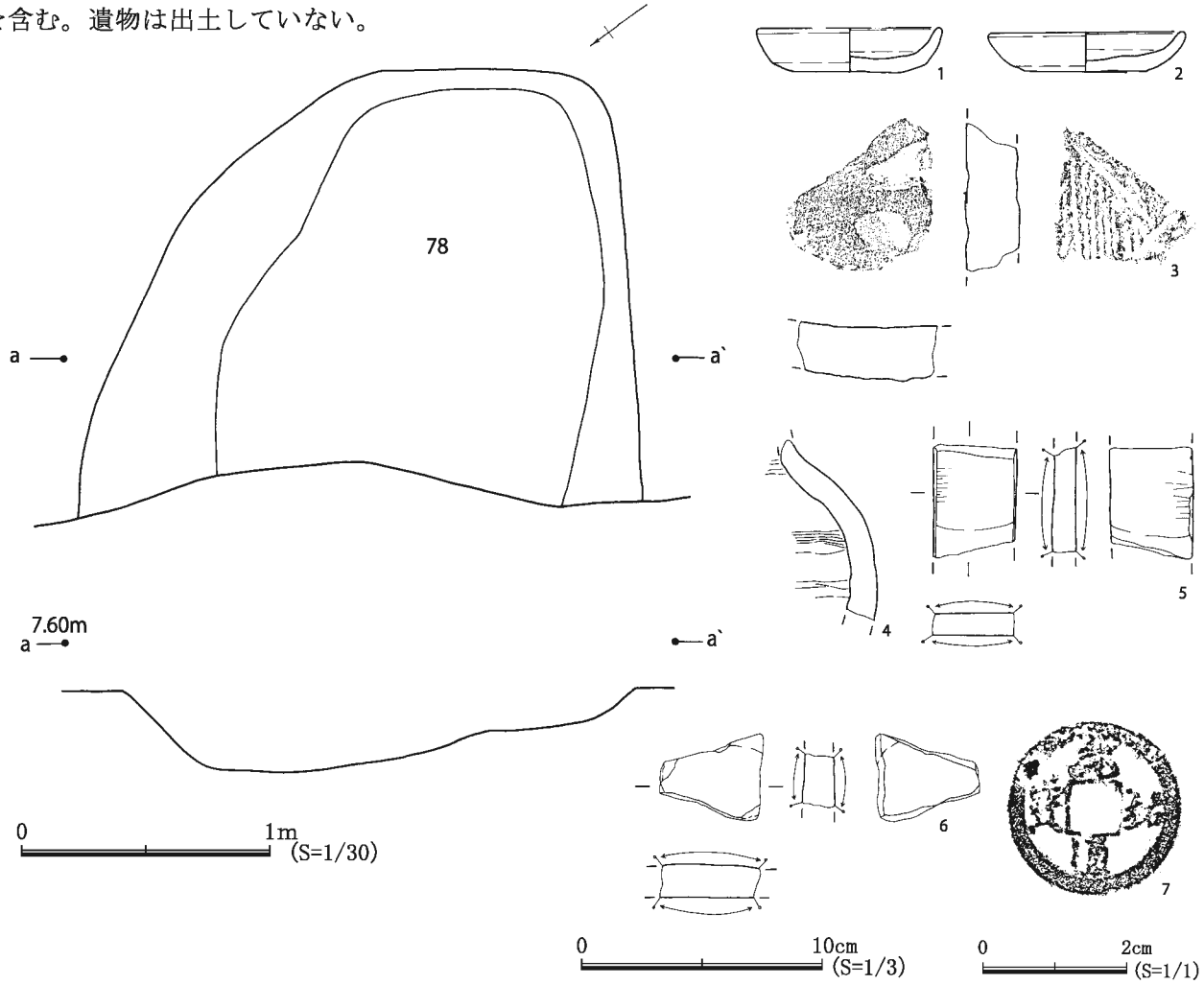


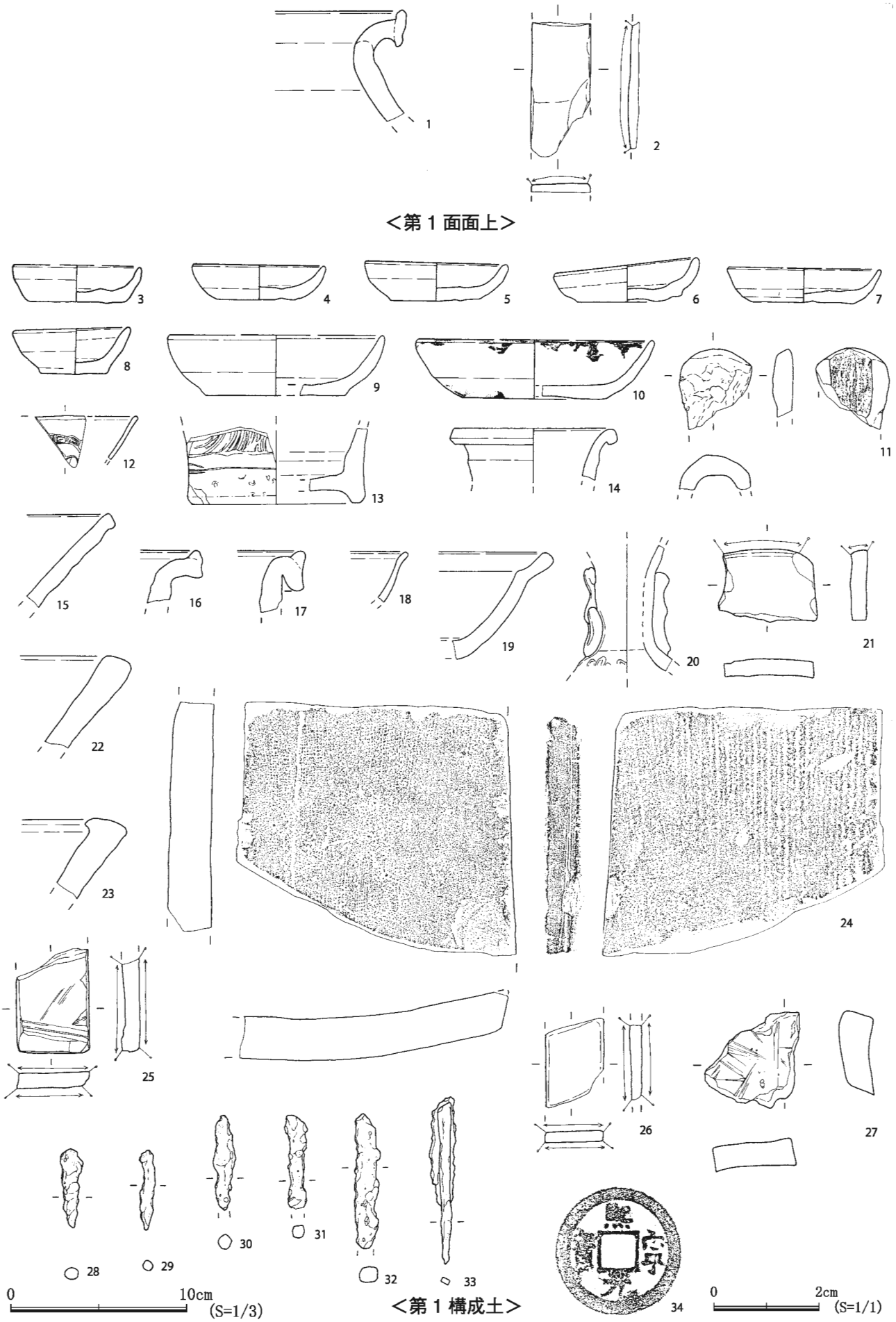
図９　第１面遺構 78・出土遺物

遺構 78（図 9）

調査区東際(Ⅱ区)で検出した不整形な浅い土坑である。調査区外に遺構が延び規模は不明となった。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩（多）・泥岩粒（多）・暗褐色粘質土を含む。

・出土遺物（図 9）

1～2 はかわらけ。3 は平瓦。4 は土器、器種不明・5～6 は石製品砥石・7 は銭。その他にてづくね・青磁蓮弁文碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘が破片で出土している。



<第1面面上>

<第1構成土>

図10　第1面面上・構成土出土遺物

第 1 面面上出土遺物（図 10）

表土を取り除き、第 1 面遺構検出時に発見した遺物である。第 1 面地業土、遺構共に現代埋土による削平を受けており、発見した遺物は少ない。

1 は常滑甕。2 は石製品砥石。その他にかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

第 1 面構成土出土遺物（図 10）

第 1 面の遺構検出後、第 2 面遺構検出までの堆積土から発見した遺物である。

3～10 はかわらけ。11 は土製品、器種不明。12 は青白磁皿。13 は青白磁梅瓶。14 は褐釉壺。15 は常滑片口鉢Ⅱ類。16～17 は常滑甕。18 は瀬戸端反碗。19 は瀬戸折縁深皿。20 は瀬戸花瓶。21 は常滑片口鉢転用品、口縁部が摩耗していた。22 は土器質火鉢。23 は瓦器質火鉢。24 は平瓦。25～26 は石製品砥石。27 は滑石鍋転用品、加工途中か。28～33 は鉄製品釘。34 は銅製品銭。その他にてづくね・白磁四耳壺・白磁碗・白磁口兀皿・青磁碗・青磁器種不明・青白磁水注・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・土師器甕・石製品滑石鍋・チャート・金属製品器種不明が破片で出土している。

第 2 節　第 2 面の遺構と遺物（図 4～図 5・図 11～図 19）

第 2 面は遺構の検出レベル・切り合いから判断し、生活面を a・b の 2 枚に分けて報告している。発見した遺構は、第 2a 面は土坑 10 基・ピット 16 穴。第 2b 面は土坑 4 基・ピット 4 穴である。第 2 面構成土は炭化物・破砕泥岩・泥岩粒を多く含む。第 2 面確認レベルは海抜 7.30m から 7.50m を測った。

第 2a 面（図 4・図 11～図 12）

第 2a 面は泥岩・泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土の地業上で遺構を検出した。調査区北側(Ⅰ区)で地業土に泥岩塊が集中して堆積する場所を検出しているが、地盤の弱さを補強した可能性を考えている。調査区南側(Ⅱ区)では褐鉄を含む硬く締まった堆積土上で遺構を発見し、地業はやや脆弱であった。

遺構 8（図 11）

長円形を呈するピットである。遺構 12 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物（図 12）

1 はかわらけ。2 は石製品砥石。3 は鉄製品釘。その他に青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

遺構 12（図 11）

円形を呈するピットである。遺構 8 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩を含む。覆土内に礎板と考えられる木材が遺存していたが、遺存状況が悪く採集できなかった。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 13（図 11）

長円形を呈する浅い土坑である。遺構端に沿うようにして不整形な泥岩が検出されている。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩を含む。

・出土遺物（図 12）

4 はかわらけ。5 は瀬戸入子。6 は産地不明壺。7 は平瓦。8 は石製品砥石。9 は銅製品銭。その他に青磁碗・青磁折縁深皿・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 67（図 11）

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩（少）・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物（図 12）

10 は青磁碗。その他に遺物は出土していない。

遺構 77（図 4）

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。個別に遺構は図示していない。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒（多）・炭化物・褐鉄を含む。

・出土遺物（図 12）

11 は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・てづくね・青磁碗・青磁器種不明・瀬戸瓶類・常滑甕・産地不明陶器・鉄製品釘が破片で出土している。かわらけは大・小合わせて 81 片の破片が出土しているがいずれも砕片のため図示することができなかった。

遺構 79（図 11）

楕円形を呈する浅い土坑である。遺構 82 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物（図 12）

12 はかわらけ。13 は渥美甕。14 はかわらけ底部を円盤状に加工している。15 は石製品砥石。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 82（図 11）

円形を呈するピットである。遺構 79 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒（少）・炭化物を含む。

・出土遺物（図 12）

16 は瀬戸縁釉小皿。その他にかわらけ・瀬戸器種不明・常滑甕が破片で出土している。

遺構 83（図 11）

不整形なピットである。遺構 93 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物（少）を含む。遺物はかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・滑石鍋が破片で出土している。

遺構 84（図 11）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物（少）を含む。

・出土遺物（図 12）

17 は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・常滑甕・火鉢・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

遺構 85（図 11）

楕円形を呈する土坑である。遺構 77 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒を含む。

・出土遺物（図 12）

18 はかわらけ。19 は常滑甕。20 は石製品砥石。21～23 は鉄製品釘。その他に青磁折縁皿・青磁器種不明・青白磁梅瓶が破片で出土している。

遺構 86（図 11）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒（少）・炭化物（少）を含む。

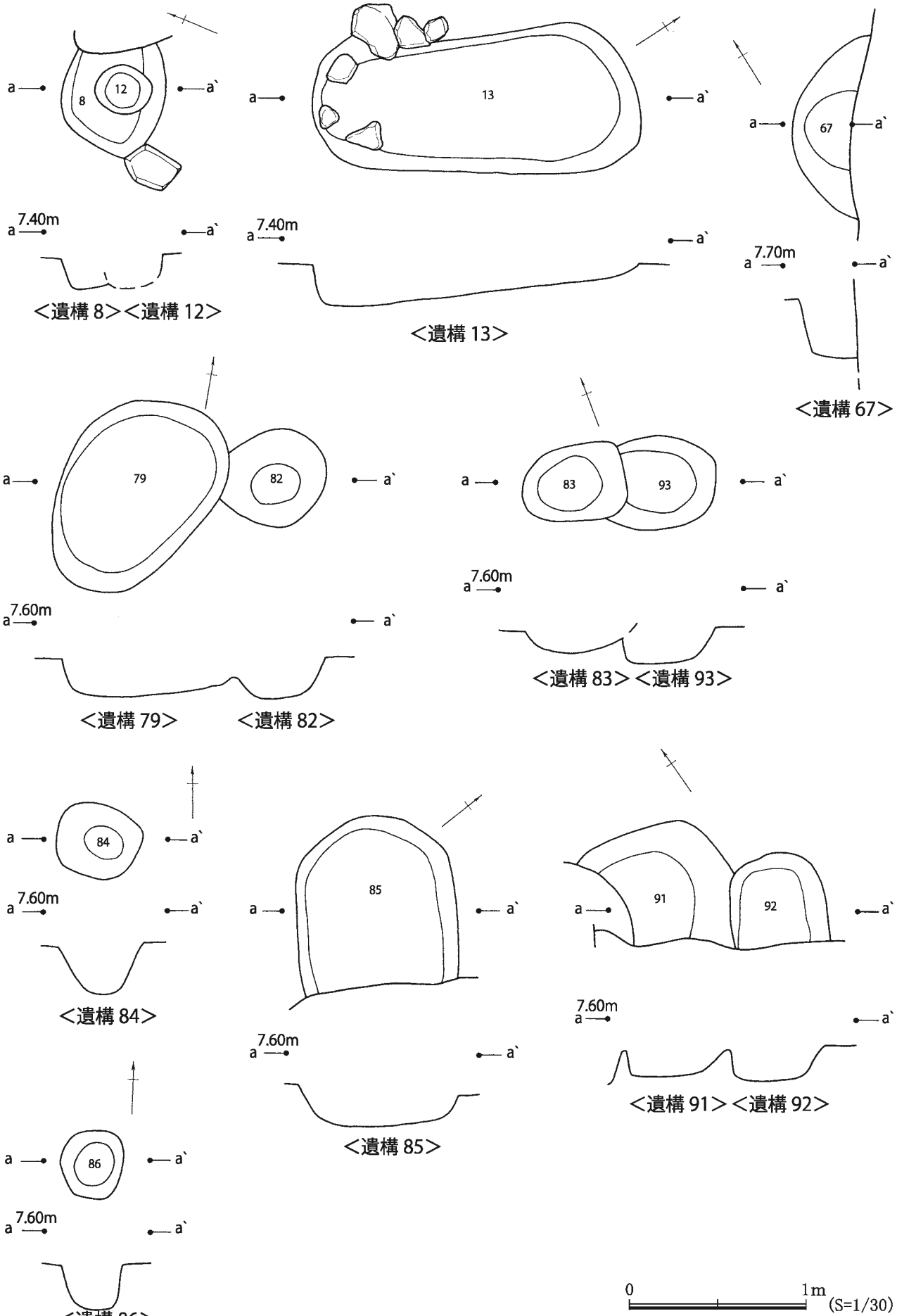


図 11　第 2 a 面個別遺構図

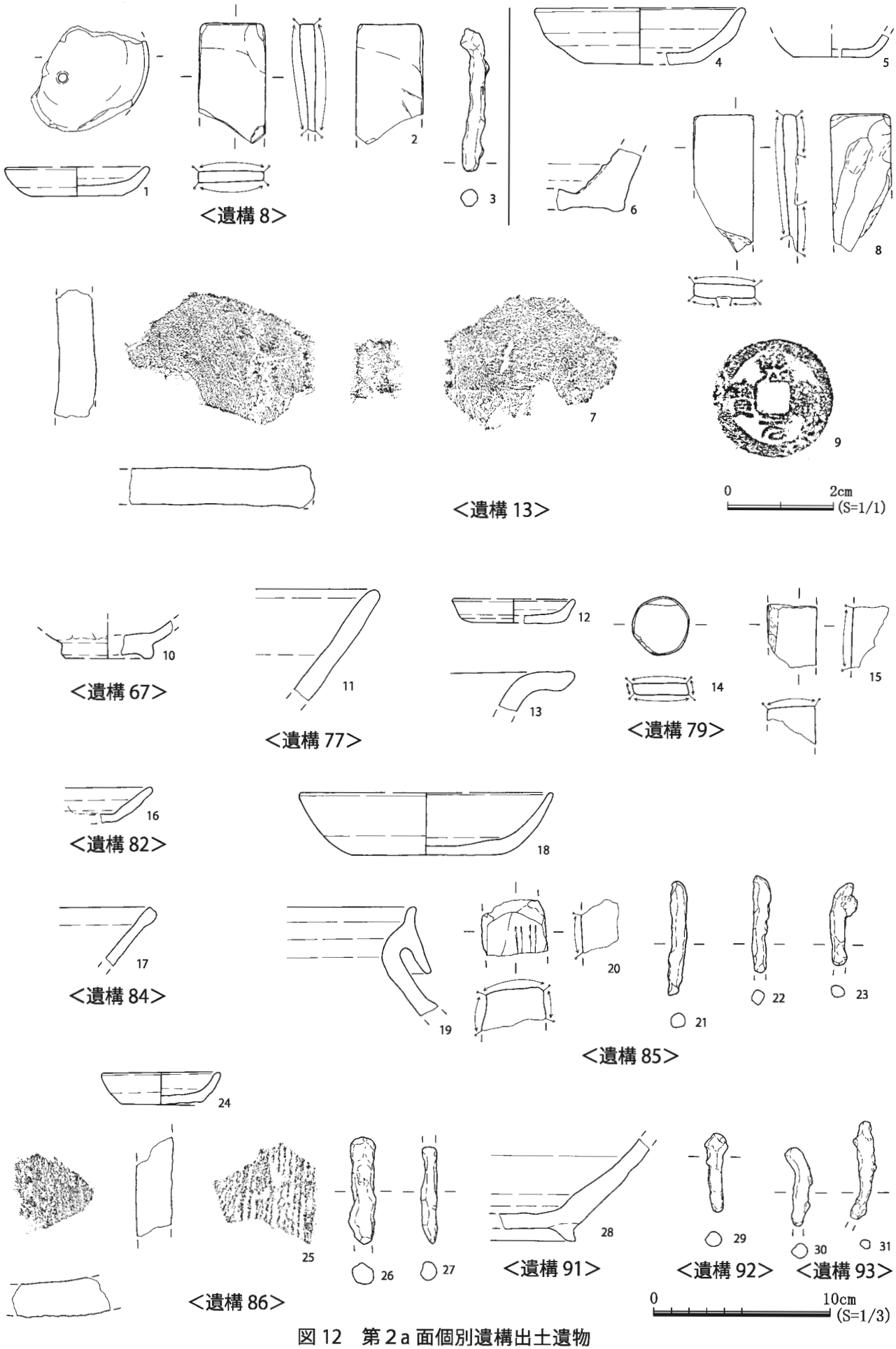


図 12　第 2 a 面個別遺構出土遺物

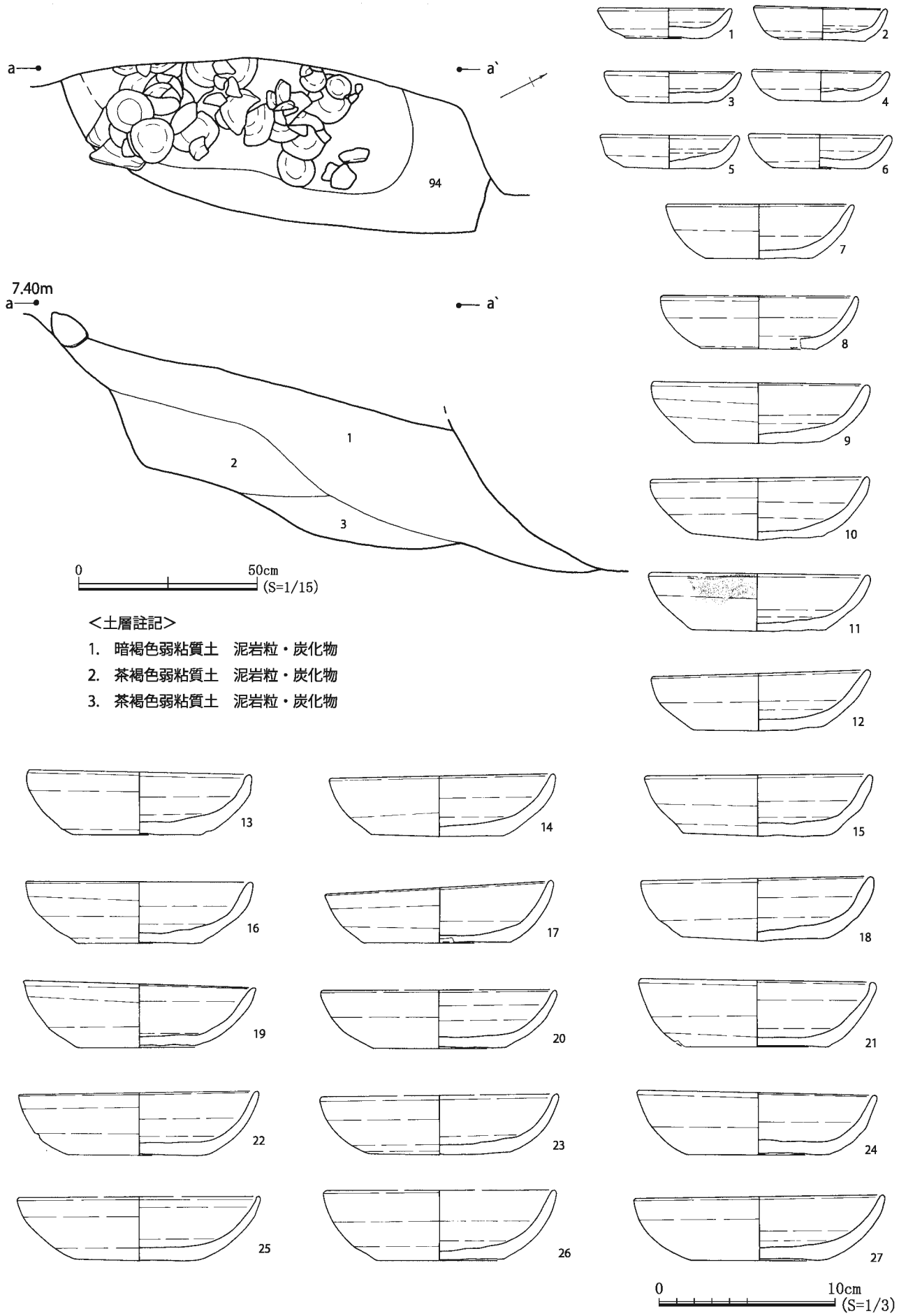
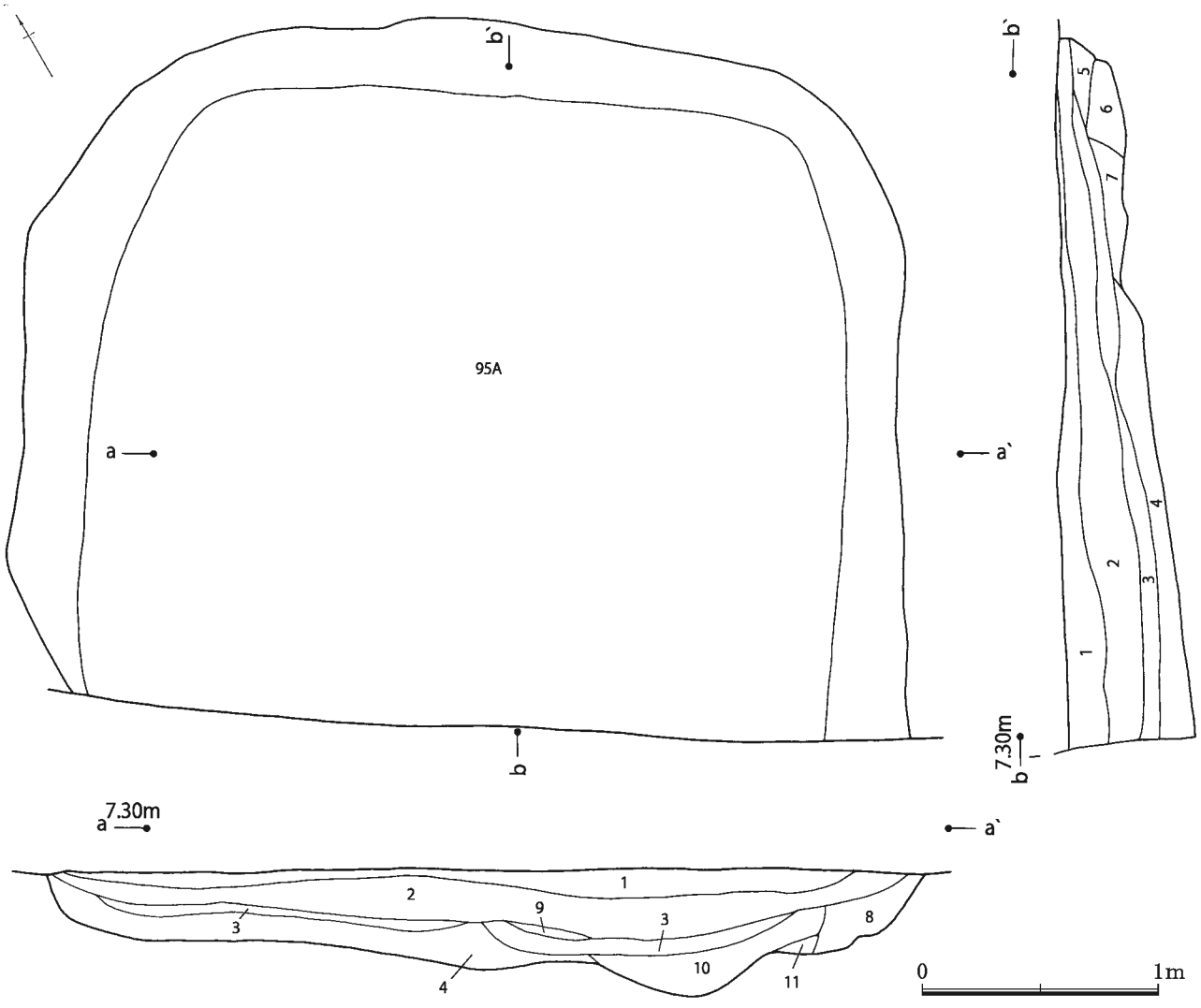


図 13　第 2 b 面遺構 94・出土遺物



<土層註記>

1. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物・灰色粘土
2. 茶褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄
3. 黒色粘土　泥岩粒・炭化物
4. 茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・砂鉄
5. 茶褐色砂質土　泥岩・泥岩粒・炭化物
6. 茶褐色砂質土　泥岩・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂
7. 黄褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・褐色砂
8. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物
9. 茶褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・黒色粘土
10. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・黒色粘土
11. 暗褐色弱粘質土　褐鉄・褐色砂質土

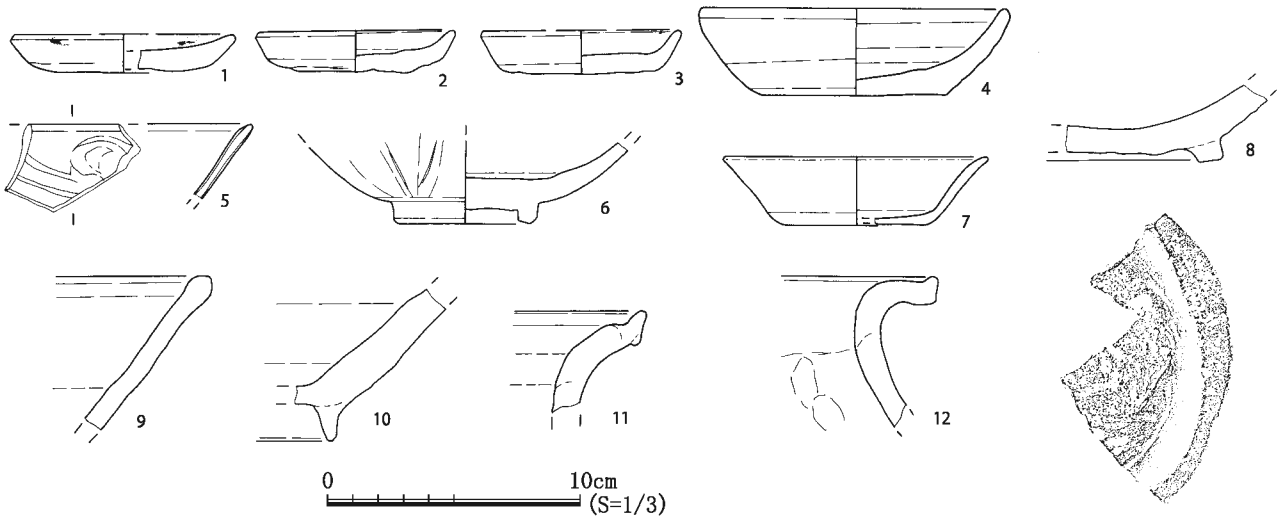


図 14　第 2 b 面遺構 95A・出土遺物（1）

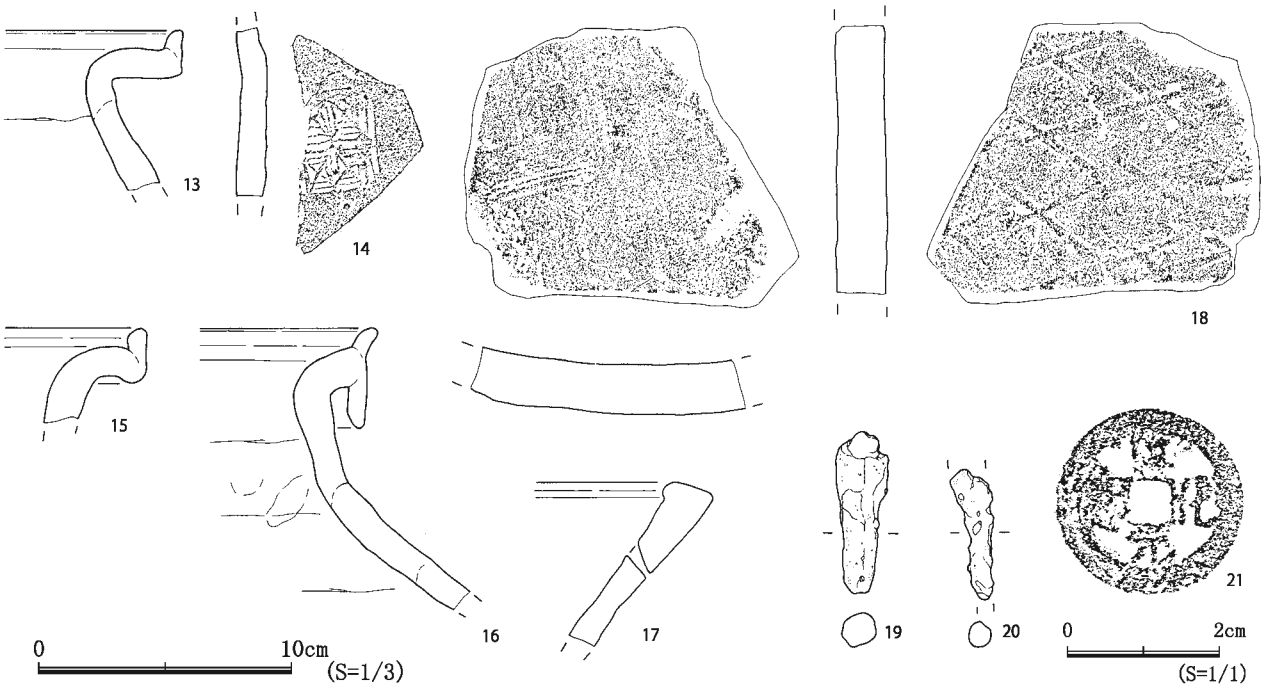


図 15　第２b 面遺構 95A・出土遺物 (2)

・出土遺物（図 12）

24 はかわらけ。25 は平瓦。26～27 は鉄製品釘。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 91（図 11）

調査区外に遺構が延び、遺構 88・89・91 に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩塊・泥岩粒（少）・炭化物（少）を含む。

・出土遺物（図 12）

28 は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構 92（図 11）

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。遺構 91 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒（少）・炭化物（少）を含み、礎石状の泥岩が遺構底面に遺存していた。

・出土遺物（図 12）

29 は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

遺構 93（図 11）

ピットである。遺構 83 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩塊・泥岩粒（少）・炭化物・黄褐色砂を含む。

・出土遺物（図 12）

30～31 は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

第 2b 面（図 5・図 13～図 16）

第 2b 面は上層の(2a 面)遺構により削平を受けたためか明瞭な版築地業は検出していない。調査区北(Ⅰ区)中央付近で炭化物がやや厚く堆積した拡がりを確認している。堆積土の中には炭化物の他に藁状の有機物、木片かわらけ等の陶土器砕片も混じっていた。調査区北東側構成土は泥岩塊を含む粗い地業が残っていたが、後述する第 3 面遺構の廃絶に伴う埋土と考えている。

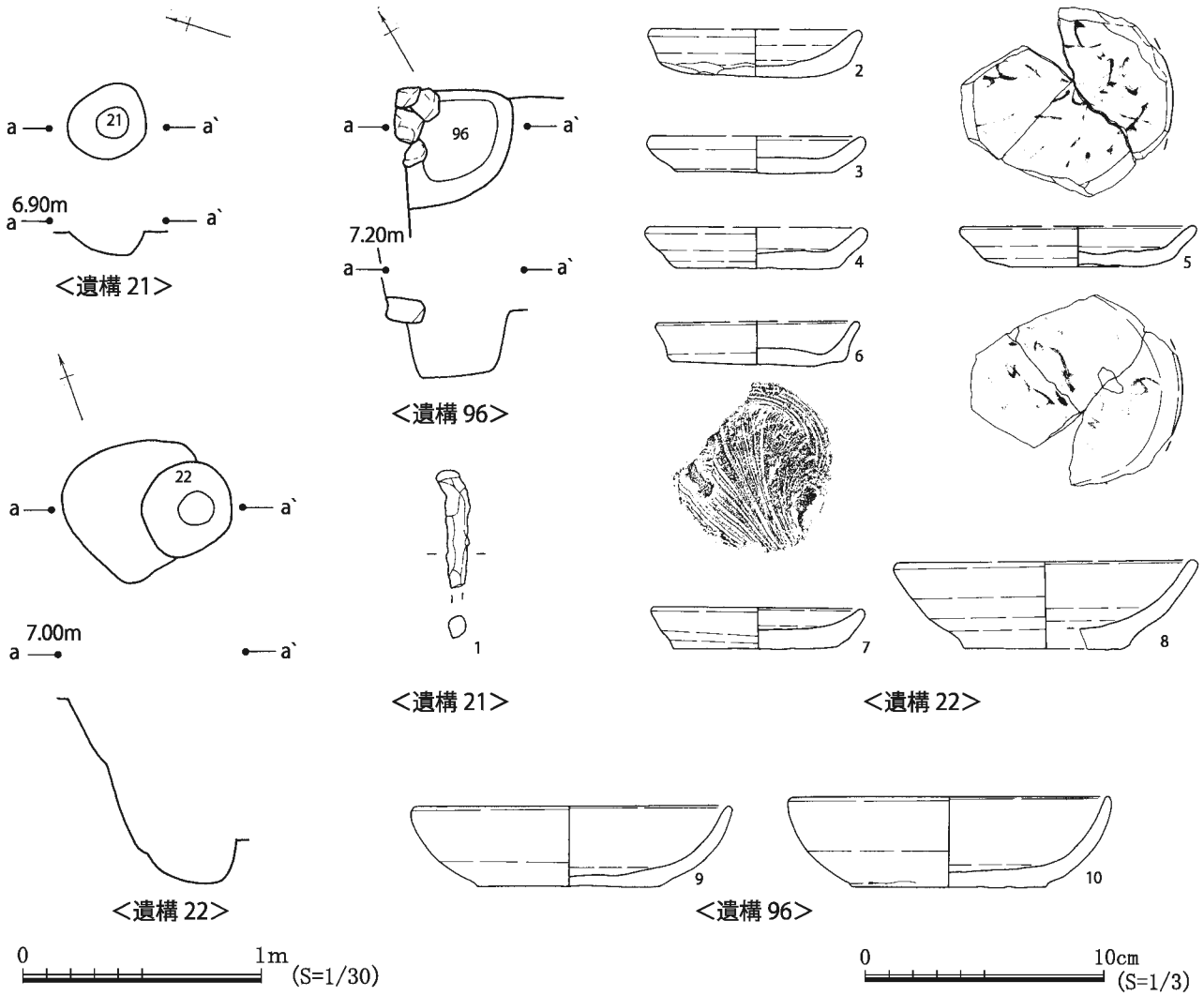


図 16　第 2b 面個別遺構図・出土遺物

遺構 21（図 16）

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物（図 16）

1 は鉄製品釘。その他にかわらけが破片で出土している。

遺構 22（図 16）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・炭化物・褐鉄を含む。

・出土遺物（図 16）

2～5 はてづくね。6～8 はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 94（図 13）

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。堆積土層図（図 13）の第 1 層でかわらけを検出し、その大半はほぼ完形の製品であった。かわらけの廃棄土坑とも考えられるが、遺構の大半が調査区外に延びてしまっているため遺構の性格は不明である。遺構覆土は黒色有機質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物（図 13）

1～27 はかわらけである。その他に瀬戸入子・渥美甕・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・火鉢・平瓦・鉄製

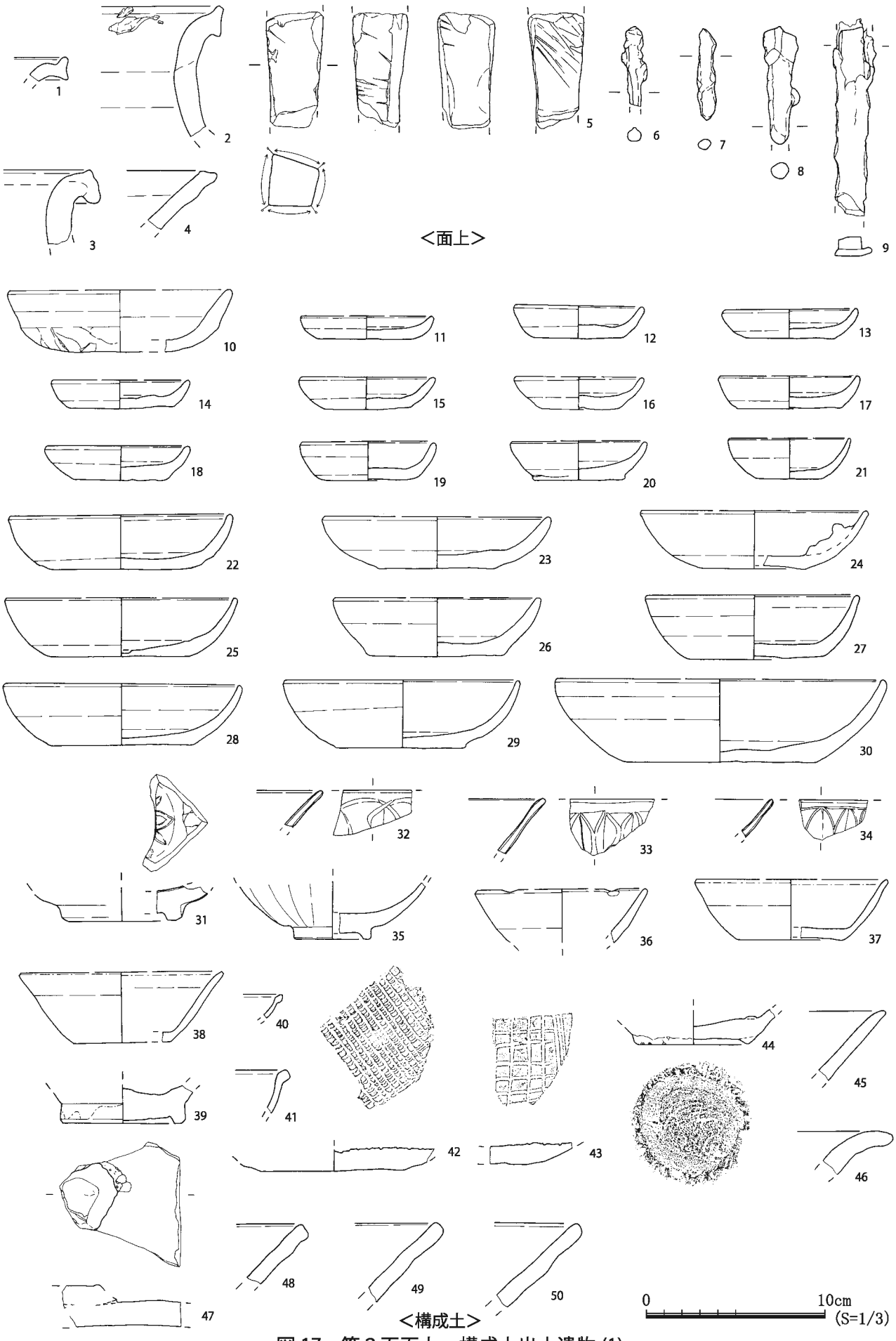
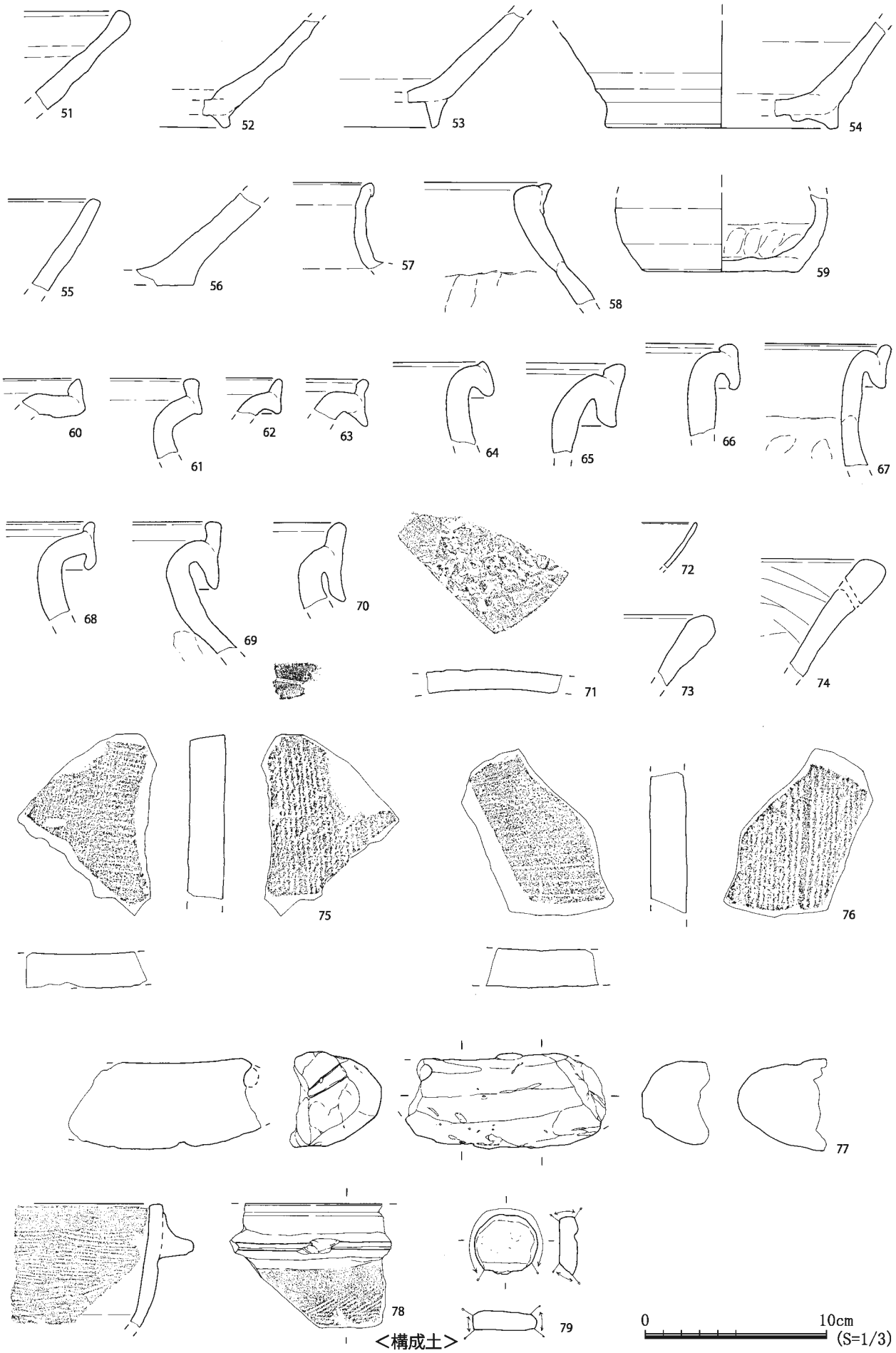


図 17　第 2 面面上・構成土出土遺物 (1)



<構成土>

図 18　第 2 面構成土出土遺物 (2)

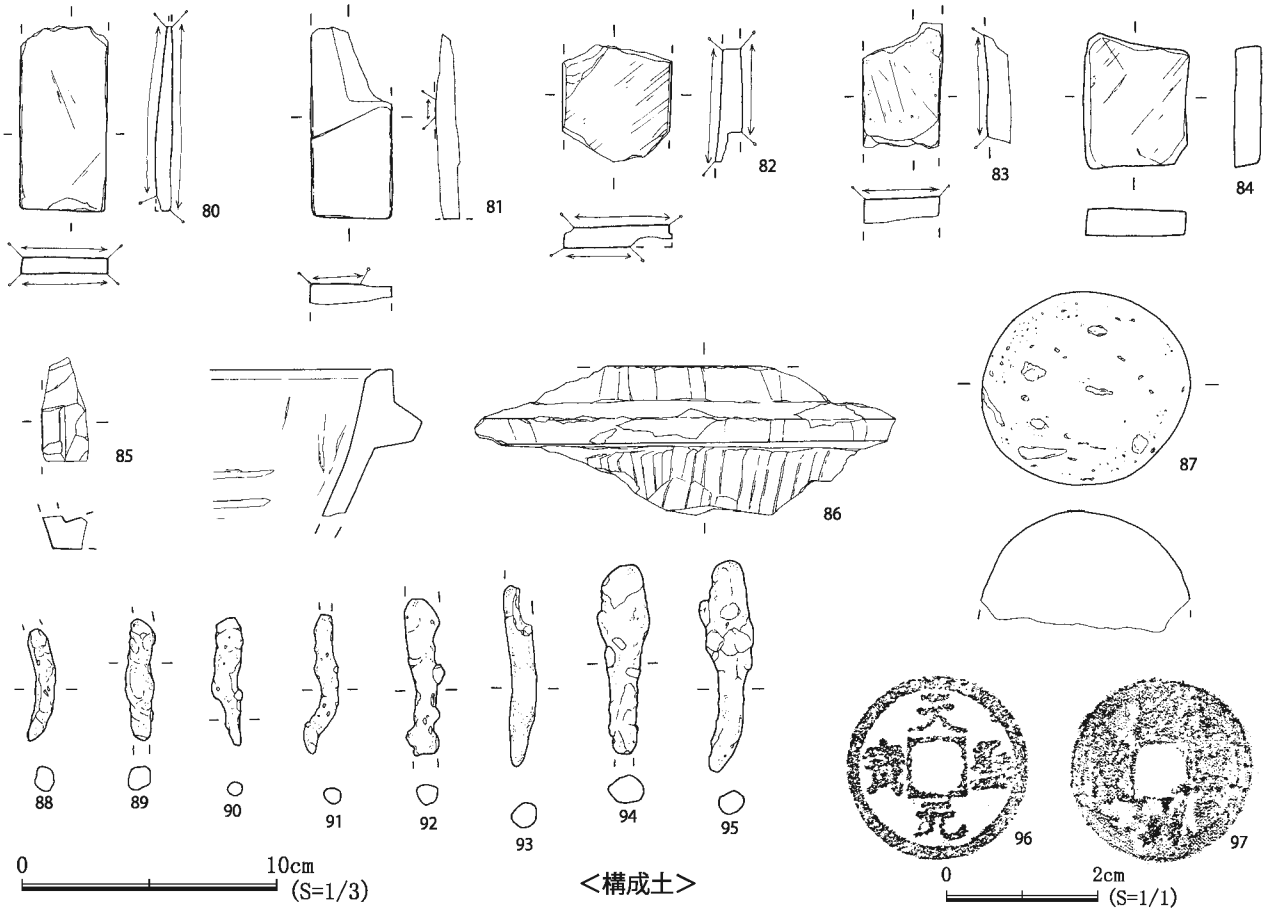


図 19　第 2 面構成土出土遺物 (3)

品釘・鉄滓が破片で出土している。

遺構 95A（図 14）

調査区外に遺構が延びる。ほぼ方形を呈する浅い土坑である。遺構覆土に炭化物を多く含み、焼痕のある泥岩も発見している。遺構覆土は堆積土層図を参照。遺構 95A のプランを確認し、十字にベルトを残して遺構の掘り下げを行ったが、その時点で後述する第 3 面遺構 95B の一部を同時に検出してしまったため遺物採集の都合から、遺構№を A・B に分け、本報告でもその№を訂正せずに使用している。

・出土遺物（図 14～図 15）

1 はてづくね。2～4 はかわらけ。5～6 は青磁碗。7 は白磁皿。8～10 は常滑片口鉢 I 類。11・13 は常滑広口壺。12・14～16 は常滑甕。17 は瓦器質火鉢。18 は平瓦。19～20 は鉄製品釘。21 は銅製品銭。その他に白磁四耳壺・白磁器種不明・青白磁皿・青白磁合子・青白磁香炉・舶載天目茶碗・渥美甕・渥美片口鉢・常滑壺・常滑片口鉢Ⅱ類・チャートが破片で出土している。

遺構 96（図 16）

遺構 98 に切られる。遺構の大半は調査区外に延び規模・形状は不明である。土坑である。覆土上層に泥岩塊が堆積する。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩塊・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物（図 16）

9～10 はかわらけ。その他に青磁碗・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

第 2 面面上出土遺物（図 17）

第 2 面遺構検出時に出土した遺物である。調査時には第 2 面を a・b の 2 面に分けて遺物採集をして

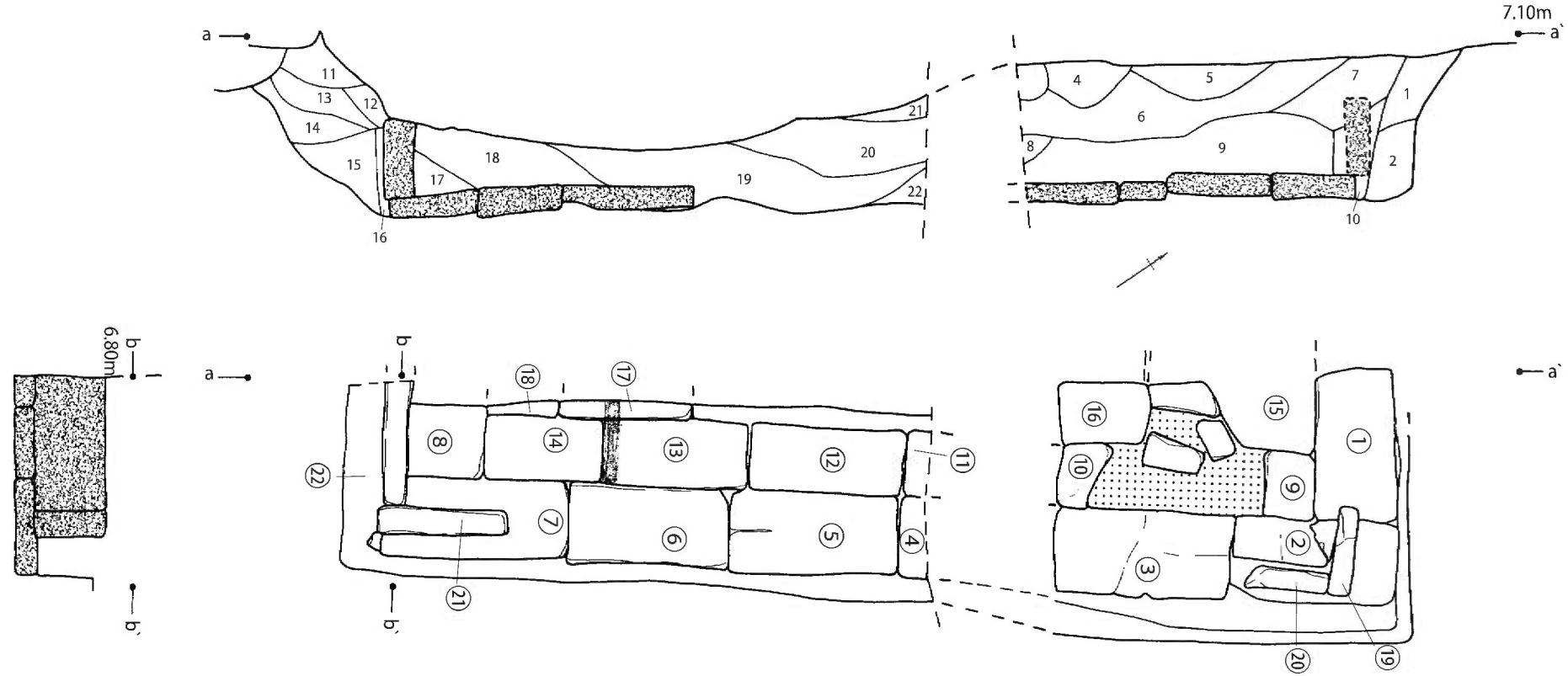


図 20　第 3 面遺構 18

1. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物
2. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物（少）
3. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒（少）・泥岩・炭化物
   明茶褐色弱粘質土
4. 暗褐色弱粘質土　泥岩（多）・炭化物
5. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物
6. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物
7. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物（少）
8. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物（少）
9. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒（多）・炭化物
10. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・黄褐色砂
11. 茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物
12. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂
13. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物（少）
14. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒（少）
15. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・黄褐色砂・貝砂
16. 灰褐色弱粘質土　泥岩・炭化物・貝砂
17. 暗褐色弱粘質土　泥岩・暗褐色粘土・褐色有機質土
18. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物（多）
19. 暗褐色弱粘質土　炭化物・褐鉄・褐色砂
20. 茶褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩・炭化物
21. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物
22. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物（多）

0　1m　(S=1/30)

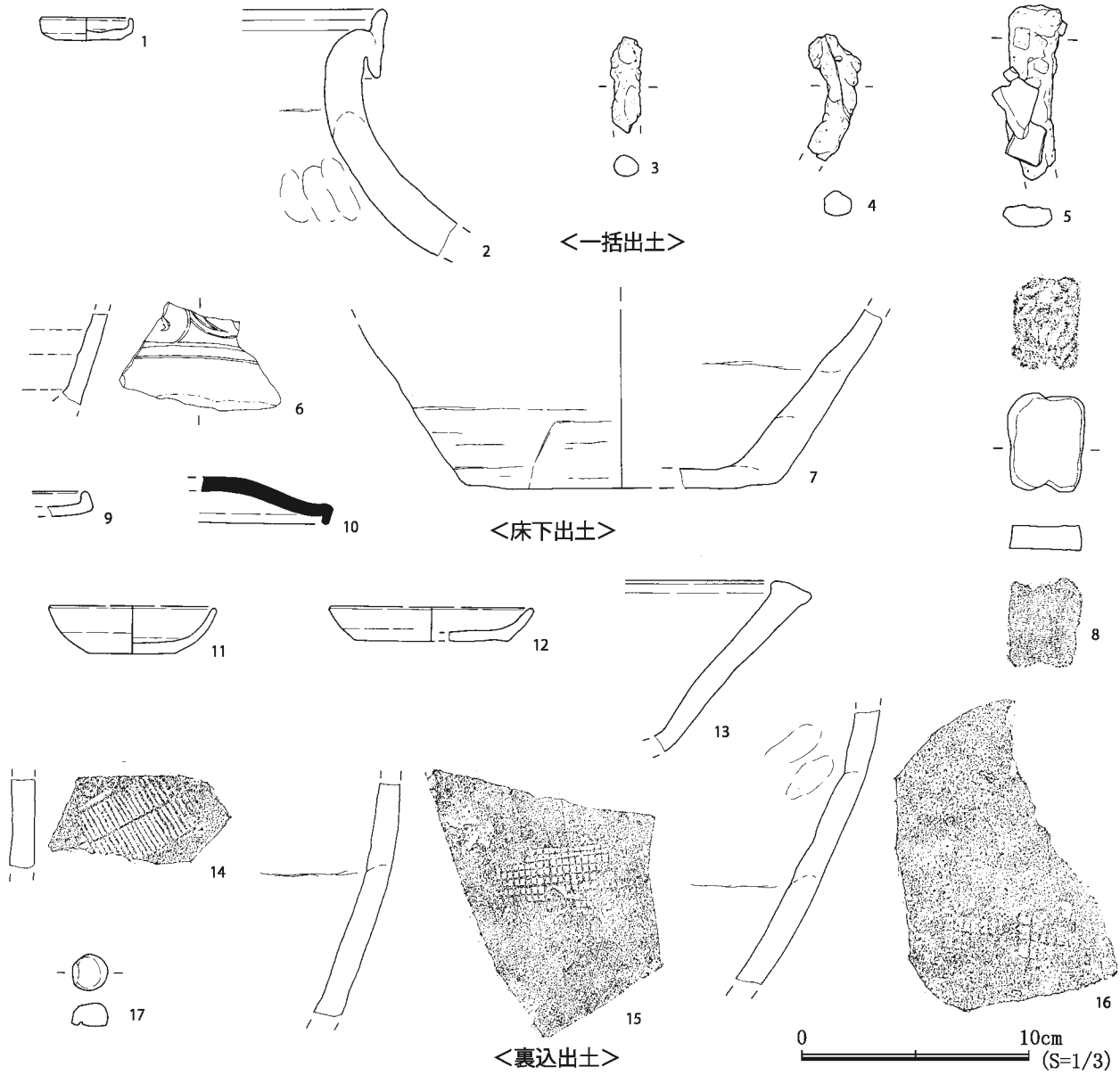


図 21　第 3 面遺構 18・出土遺物

いない。

1～2 は常滑壺。3 は常滑甕。4 は常滑片口鉢Ⅱ類。5 は石製品砥石。6～8 は鉄製品釘。9 は鉄製品器種不明、工具か。その他にかわらけ・かわらけ質器種不明・青磁碗・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質碗が破片で出土している。

第 2 面構成土出土遺物（図 17～図 19）

第 2a 面、第 2b 面の遺構検出後、第 3 面遺構検出までの堆積層から出土した遺物である。

10 はてづくね。11～30 はかわらけ。31～36 は青磁碗。37～38 は白磁皿。39 は白磁壺。40 は白磁器種不明。41 は緑釉盤。42～43 は瀬戸卸皿。44 は山茶碗。45 は渥美鉢か。46～47 は渥美甕。48 は～54 は常滑片口鉢Ⅰ類。55～56 は常滑片口鉢Ⅱ類。57～59 は常滑壺。60～70 は常滑甕。71 は産地不明甕。72 は瓦器碗。73～74 は土器質火鉢。75～76 は平瓦。77 は土製品器種不明。78 は羽釜。79 はかわらけ底部を円盤状に加工している、用途不明。80～83 は石製品砥石。84 は泥岩を方形に加工している、砥石として使用か。85 は石製品硯。86 は滑石製鍋。87 は石製品、頂部円形に加工、用途不明。88～95 は鉄製品釘。96～97 は銅製品銭。その他に白磁碗・青磁折縁皿・青磁瓶類・青磁器種不明・青白磁梅瓶・

褐釉器種不明・瀬戸皿・瀬戸四耳壺・瀬戸番・瀬戸入子・瀬戸折縁深皿・南伊勢系土鍋・土師器甕・鞴の羽口・鋳型・鉄滓が破片で出土している。

第3節　第3面の遺構と遺物（図5・図20～31）

調査区北側(Ⅰ区)で検出した遺構18と遺構20の間の空閑地は泥岩塊・泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土の版築地業が遺存していた。調査区南(Ⅱ区)東際では、プラン確認時には石積みを想定させる不整形な泥岩の並びを検出している。この石積み状の泥岩塊が遺構95覆土内にも流れ込んでいることを確認したため、上層の地業の一環であった可能性も考えたが、本報告では第3面の全測図に記録している。第3面で発見した遺構は竪穴建物3軒・土坑3基・ピット14穴である。第3面確認レベルは海抜7.0m～7.10mを測った。

遺構17(図28)

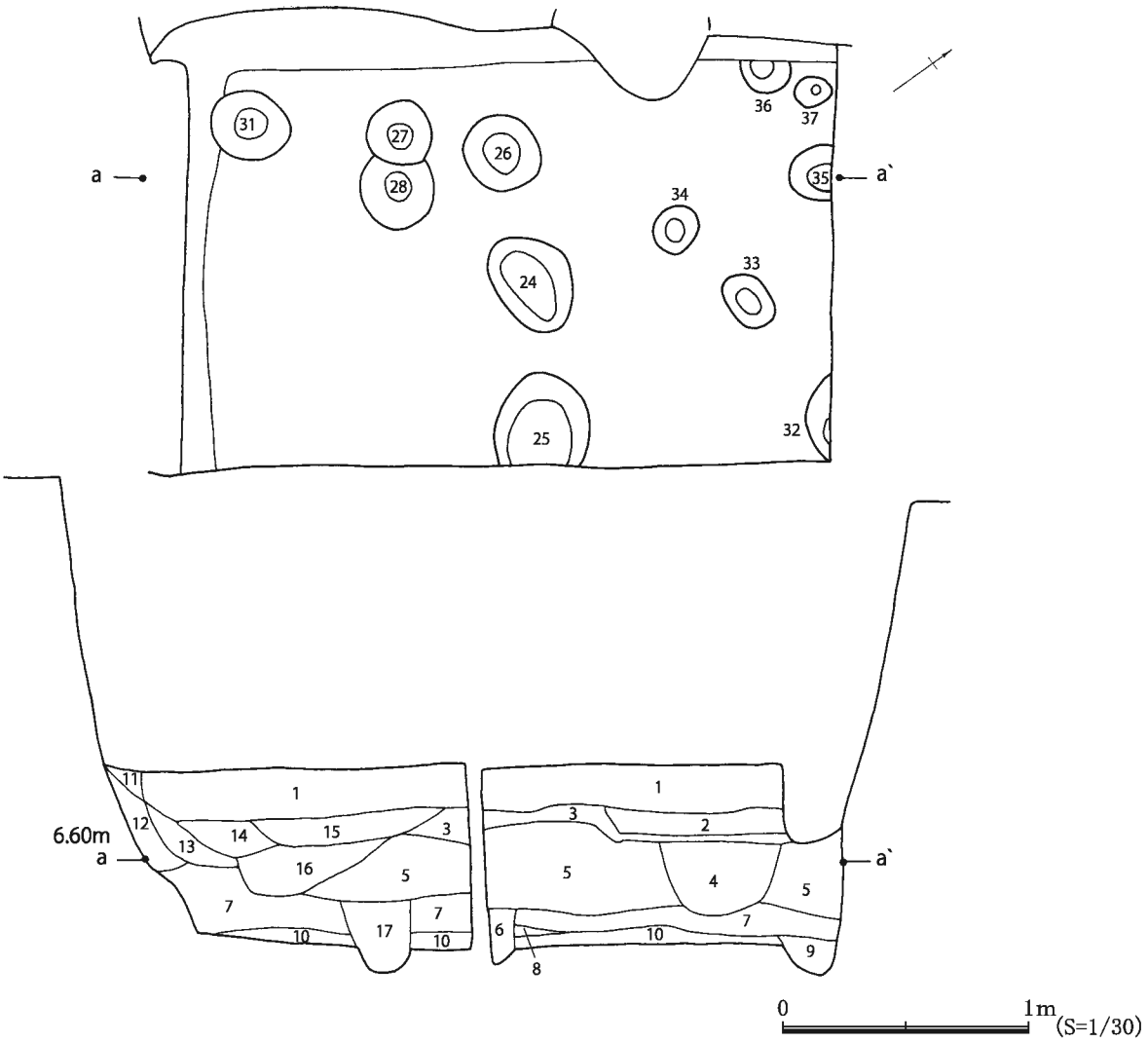
円形を呈するピットである。ピット中央に杭穴と杭痕が遺存する。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒(多)・炭化物(多)を含む。遺物はてづくね・青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

遺構18（図20）

調査区西側、Ⅰ区・Ⅱ区に跨って発見した竪穴建物である。遺構の大半は調査区外に延び規模・形状・軸方位は不明である。掘り方の遺存値は南北519cm×東西(81～118)cm×深さ(47)cm。床全面に平面長方形の板状に成形した鎌倉石(凝灰質砂岩)の切石を敷き並べている。敷石面の遺存値は南北420cm×東西(80cm)を測った。この敷石面がこの建物の床面規模になると考える。敷石の北東隅・南東隅には切石を立てた状態でL字状に置かれていた。これまでの調査成果から通常は壁四周に立てた切石が巡り、切石内側には柱を立てるホゾ穴を穿った土台材が巡ると思われるが、本調査では土台材の確認はできなかった。検出した全ての切石のサイズを記録するために番号を付し(図20)表に記載している。№13と№17の切石に跨って東西方向に焼痕の残る根太材の痕跡が遺存し、幅10cm、残存長40cmを測り調査区外に延びていた。通常この規模の竪穴建物には主屋部の長軸方向に張り出し部が付随するが、遺構の大半は調査区外に延びてしまっていたため不明である。上層の遺構によって削平を受けているが、堆積土層の状況から建物は廃絶後、上層の地業に伴い時間を置かずに埋められた様子である。

No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ	No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ	No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ
1	(76.0)	41.0	14.0	8	48.0	34.0	9.0	15	77.0	(36.0)	11.5
2	79.0	40.0	12.5	9	(21.0)	31.0	11.0	16	(42.0)	(30.0)	11.0
3	80.5	42.0	11.0	10	(21.0)	31.0	10.5	17	61.0	(8.0)	9.5
4	(15.0)	38.0	10.0	11	(9.0)	31.0	9.0	18	34.0	(9.0)	9.0
5	78.0	38.0	12.5	12	73.0	30.0	11.0	19	42.0	33.0	12.0
6	76.0	38.0	8.0	13	68.0	31.0	9.5	20	(40.0)	33.0	13.0
7	86.0	36.0	10.0	14	55.0	30.0	9.0	21	59.5	31.0	12.0
単位(cm)								22	(61.0)	33.0	9.5

＜切石計測表＞



1. 暗褐色弱粘質土　泥岩(少)・泥岩粒・炭化物(多)
2. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物・褐色砂
3. 暗褐色弱粘質土　泥岩(少)・泥岩粒(少)・炭化物(多)
4. 暗褐色弱粘質土　炭化物(少)・褐鉄
5. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物(少)・褐鉄
6. 暗褐色弱粘質土　炭化物(少)・褐鉄(少)・(遺構 26)
7. 黒褐色弱粘質土　褐鉄
8. 暗褐色弱粘質土　炭化物(少)・褐鉄(少)
9. 黒褐色弱粘質土　化物・茶褐色砂質土(遺構 35)
10. 茶褐色砂質土
11. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物(少)黄褐色砂
12. 暗褐色弱粘質土　泥岩(少)・泥岩粒・炭化物(少)・黄褐色砂
13. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物・黄褐色砂
14. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒
15. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒(少)・炭化物
16. 灰褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物・茶褐色砂
17. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物・茶褐色砂(遺構 28)

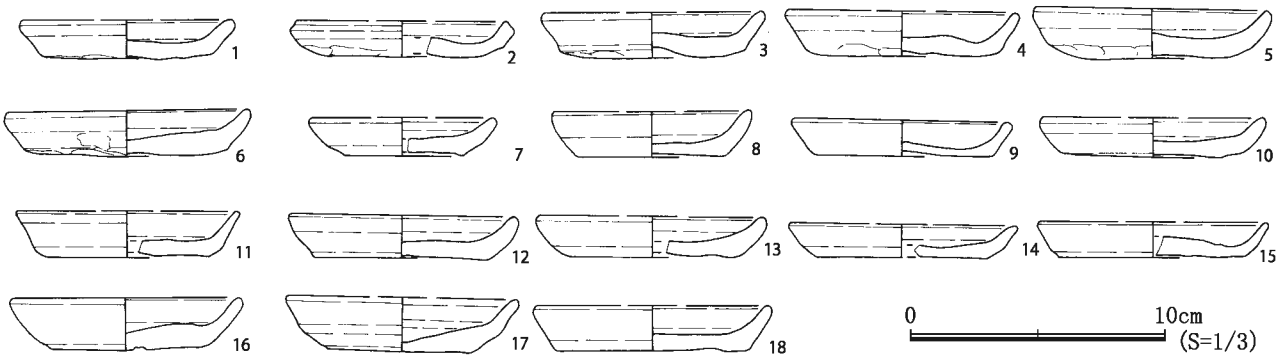


図 22　第 3 面遺構 20・出土遺物 (1)

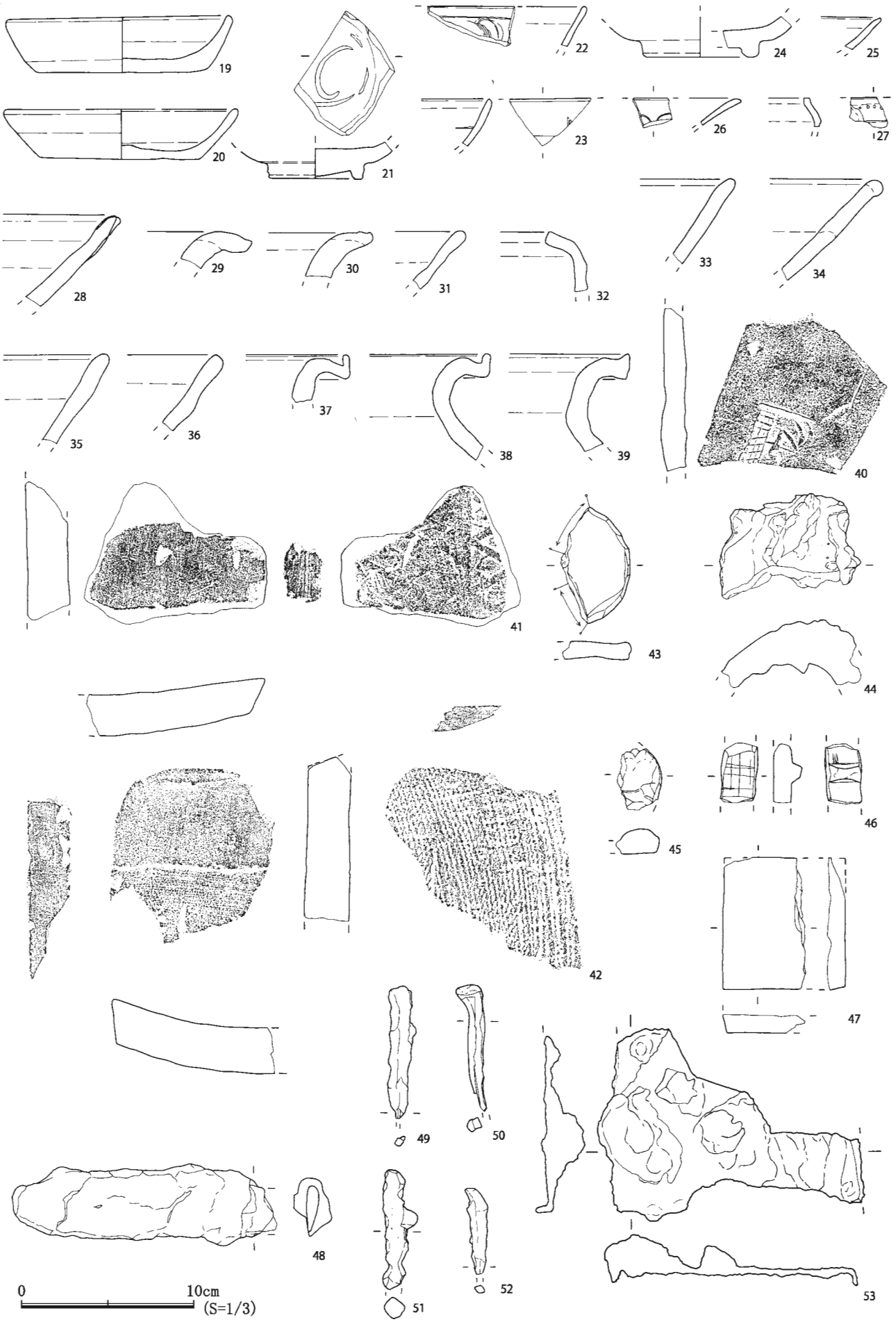


図 23　第 3 面遺構 20・出土遺物 (2)

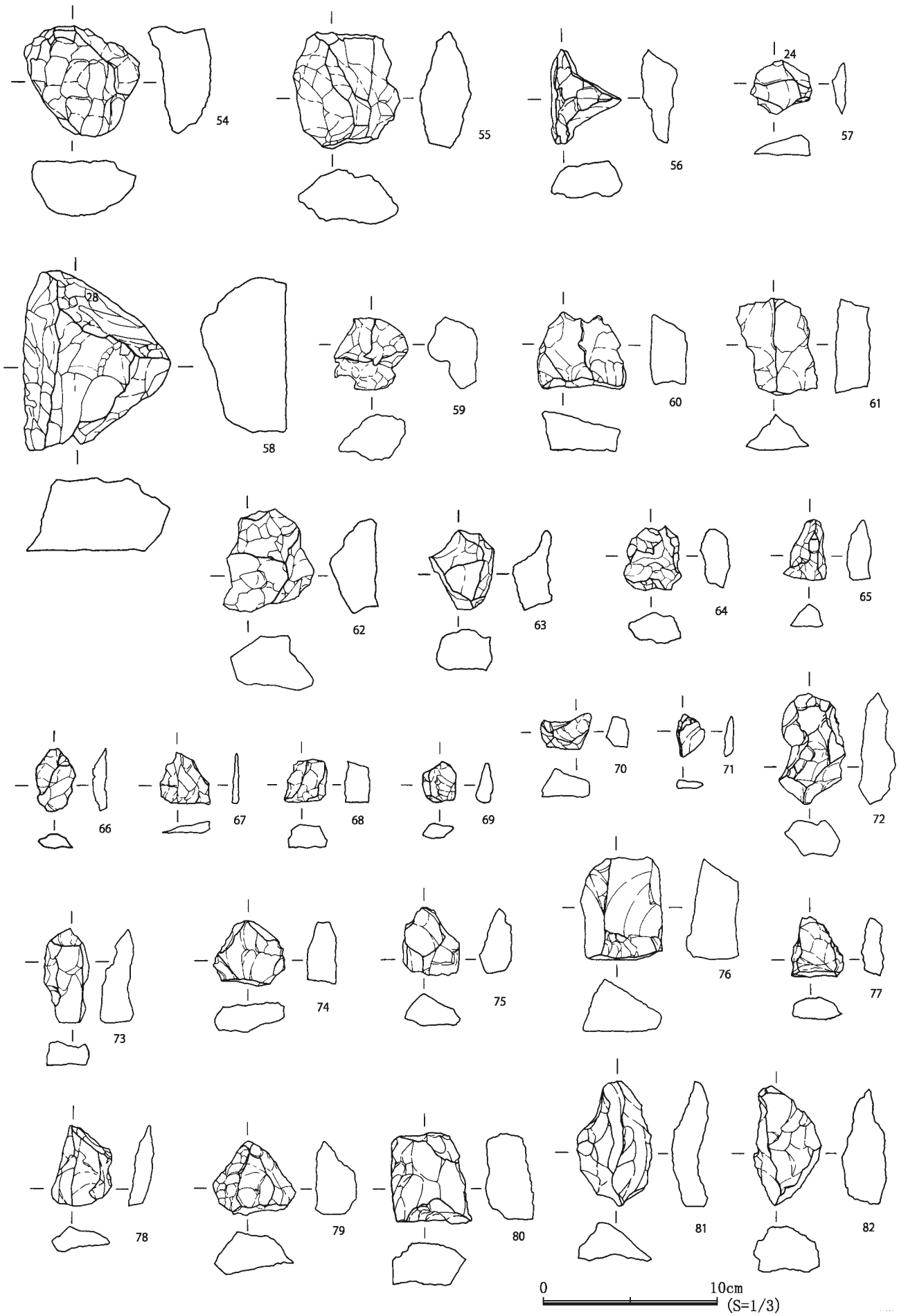


図 24　第 3 面遺構 20・出土遺物 (3)

・出土遺物（図 21）

Ⅰ区・Ⅱ区ともに出土遺物は遺構覆土一括、遺構の掘り方、床面に敷いた鎌倉石を外した遺構底面、に分けて遺物を採集している。出土遺物の数量は多いが、図示できた遺物は僅かであった。

1～5 は遺構 18 一括出土遺物。1 はかわらけ。2 は常滑甕。3～5 は鉄製品釘。6～10 は遺構底面出土遺物。6 は青白磁梅瓶。7 は常滑片口鉢Ⅱ類。8 は土錘、土器の転用品。9 は土師器甕。10 は須恵器蓋。

11～17 は掘り方出土(図 20-土層№1・2・11～16)。11～12 はかわらけ。13 は瓦器質火鉢。14～16 は常滑甕。17 は土製品用途不明、円形を呈する。その他にてづくね・白磁四耳壺・青磁碗・青白磁皿・渥美甕・渥美壺・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑壺・瓦器碗・平瓦・鉄製品刀子・鉄製品鋳型・鉄滓・加工骨が破片で出土している。

遺構 19(図 28)

土坑である。撹乱と遺構 18 に切られ規模・形状は不明。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物(多)を含む。

・出土遺物(図 28)

1～2 はてづくね。3 はかわらけ。4 は青磁碗。5 は青磁四耳壺。6 は常滑片口鉢Ⅱ類。7～8 は常滑甕。9 は鉄製品釘。10 は金属製品器種不明。その他に渥美器種不明・常滑壺が破片で出土している。

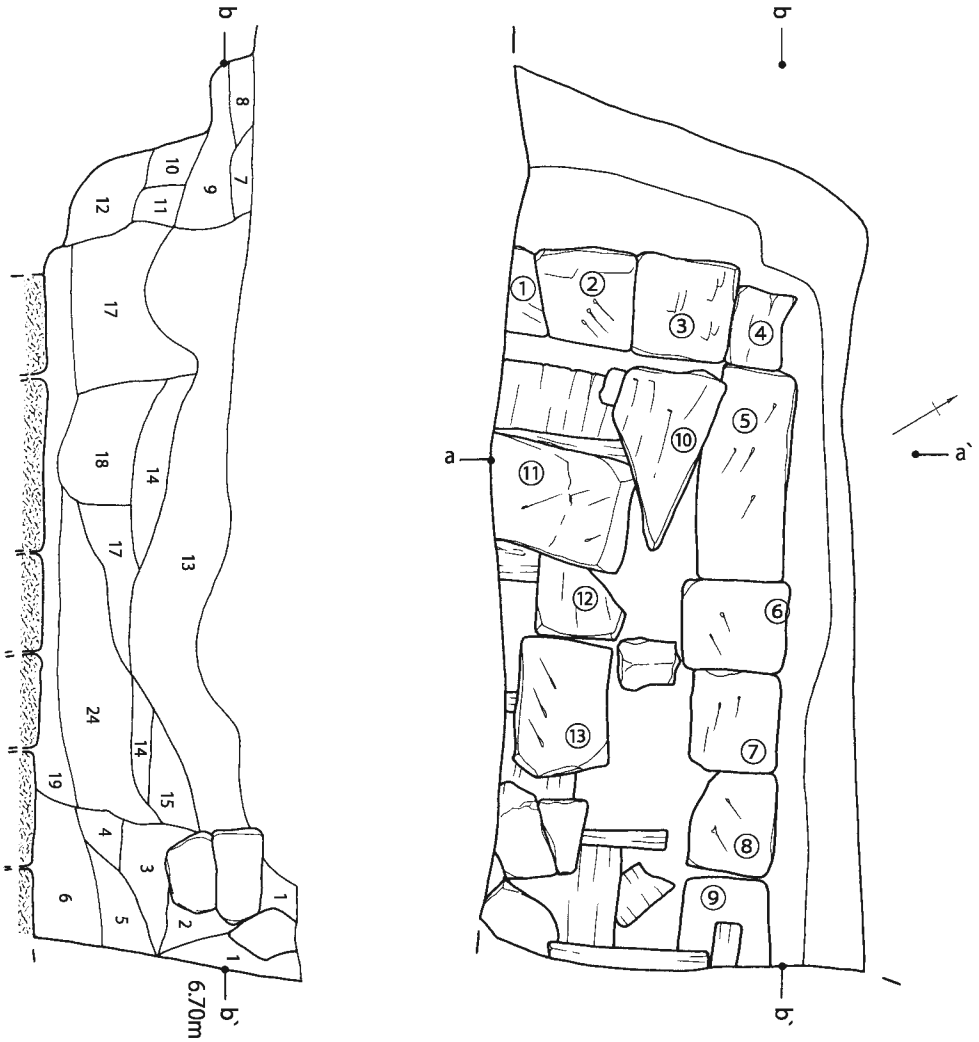
遺構 20（図 22）

調査区北東(Ⅰ区)で発見した竪穴建物である。調査区外に遺構が延びているため規模・形状・軸方位は不明となった。掘り方の遺存値は南北(265)cm・東西(187)cm・深さ（72）㎝を測る。遺構底面には褐鉄・黄褐色砂を含む硬く締まった黒褐色粘質土(第 7 層)がほぼ平坦に堆積しており、床面だったと考えている。床面上に土台となる石材・木材などは遺存していなかった。平面図に記録した遺構底面で検出した数穴のピットの内、東西に並ぶ形で検出した遺構№24・25・26 は第 7 層から掘り込まれていたが、その他のピットは第 7 層下層の堆積層(第 10 層)から掘り込まれており、ピットの深度も浅いものが多く、それぞれのピットが柱穴として機能していたかは不明である。ピット覆土には炭化物が多く含まれていた。

遺構 20 からは大小、様々な加工痕のある 56 片のチャート片が出土し(一部実測)、同一遺構覆土内で出土した量としては数量が多いと言える。浅薄な知識しか持ち合わせていないため、遺物観察表に遺物名を記載する際には、全て「火打石」である可能性を含めて「チャート」として記載してきたが、本報告に際して採集した破片について意見をいただき、中には「火打石」としては不適格な石材も多く混入していることが判明した。「火打石」として機能する石材は通常「透明」あるいは「白色」を呈しているのだがが、出土した石材の中には硬質ではあるが不透明で濁った白色の物や黒褐色、茶褐色等、白色・透明からは遠い色合いの石材も多く出土していた。これは原材を搬入して本遺跡内、もしくは鎌倉の内で「火打石」として加工し、加工後に「火打石」としては不適格な石材を捨てた可能性もあるのではないかと考えている。遺構 20 を「火打石」の加工址と推定するには、チャート片の出土位置が遺構を廃絶した際の埋土からであることや、加工の際に必要となる工具などの出土が無い等判断材料が乏しい。石材を搬入した産地としては神奈川県、特に丹沢山系ではないという意見もあり、原材の産地、搬入路、原材を市中で加工していると仮定して、その工房はどこなのか等多くの疑問が残った。また、石材の中には河床礫も混入しており、硬質な河床礫を火打石として使用していた可能性も指摘された。

・出土遺物（図 22～図 24）

1～6 はてづくね。7～20 はかわらけ。21～24 は青磁碗。25 は白磁皿。26 は白磁碗。27 は青白磁器



1. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(多)・炭化物
2. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(多)
3. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物・黒色粘土
4. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・黒色粘土
5. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)
6. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂
7. 茶褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・茶褐色粘土
8. 茶褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒
9. 茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・茶褐色砂質土
10. 黒色粘質土　泥岩粒・炭化物
11. 茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・灰褐色粘土
12. 黒色粘質土　泥岩粒・炭化物
13. 茶褐色弱粘質土　泥岩粒(多)・炭化物
14. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒
15. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(少)・炭化物(少)
16. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物(少)
17. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・茶色有機質土
18. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒(多)
19. 茶褐色弱粘質土　炭化物(多)・茶色有機質土
20. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物
21. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物(多)・褐色砂質土
22. 暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物
23. 黒褐色弱粘質土　泥岩塊・泥岩粒・茶色有機質土
24. 暗褐色弱粘質土　泥岩・泥岩粒・炭化物

図 25　第 3 面遺構 95B

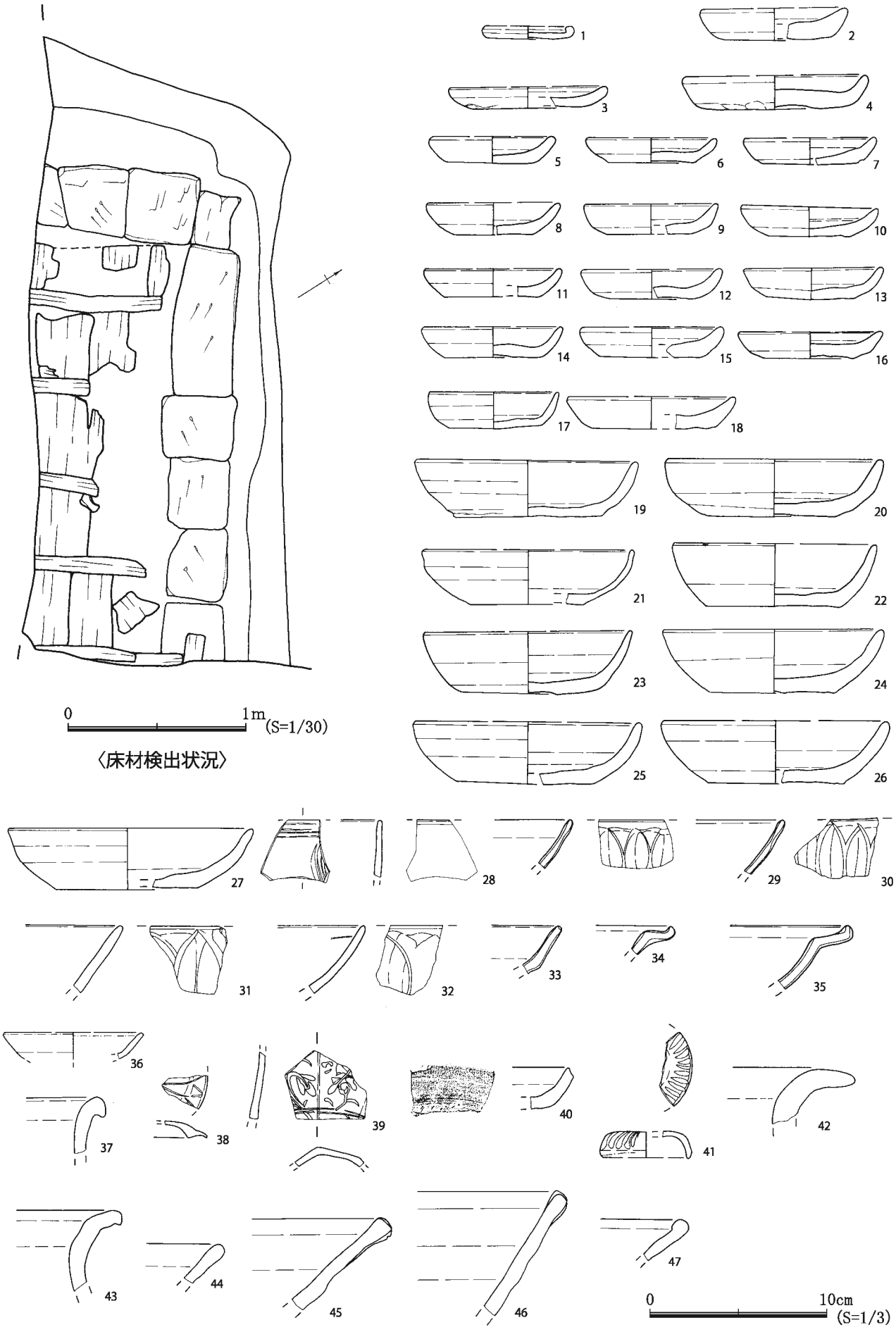


図 26　第 3 面遺構 95B・出土遺物 (1)

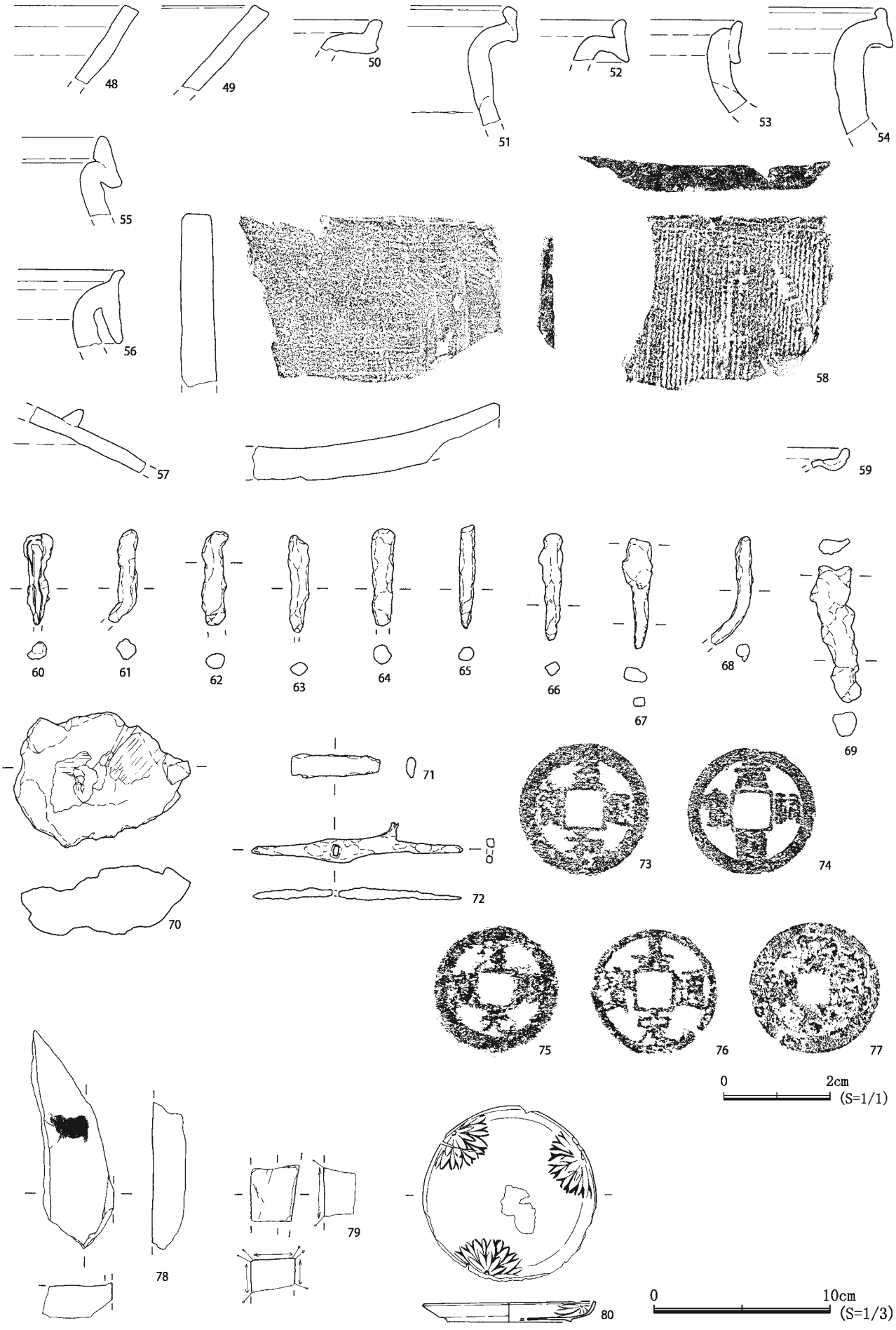


図 27　第 3 面遺構 95B・出土遺物 (2)

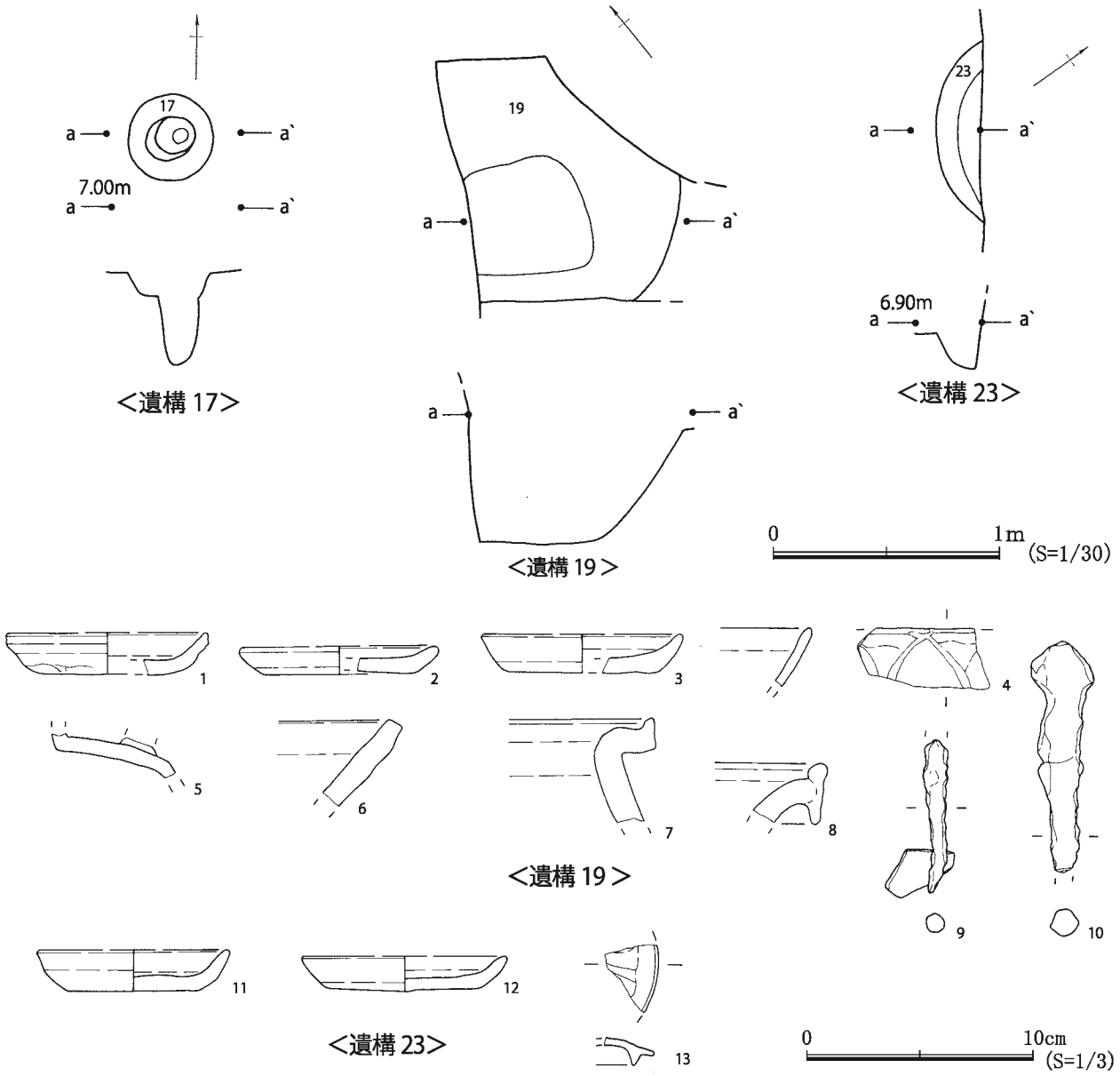


図 28　第 3 面個別遺構図・出土遺物

種不明。28 は渥美片口鉢。29～30 は渥美甕。31 は山茶碗。32 は常滑壺。33～36 は常滑片口鉢Ⅰ類。37～40 は常滑甕。41～42 は平瓦。43 はかわらけ底部を円盤状に加工、用途不明。44 は金属製品用途不明。45 は土製品、トチンか。46 は滑石鍋転用品、滑石スタンプ製作途中か。47 は石製品、硯か。48 は鉄製品刀子。49～52 は鉄製品釘。53 は鉄製品器種不明。54～82 はチャート。その他に白磁四耳壺・白磁器種不明・青磁碗・青磁皿・青磁器種不明・青白磁香炉・青白磁合子・瀬戸四耳壺・渥美甕・渥美片口鉢・常滑片口鉢Ⅱ類・火鉢・鞴の羽口・鋳型・鉄滓・漆器皿・貝・軽石・獣骨が破片で出土している。

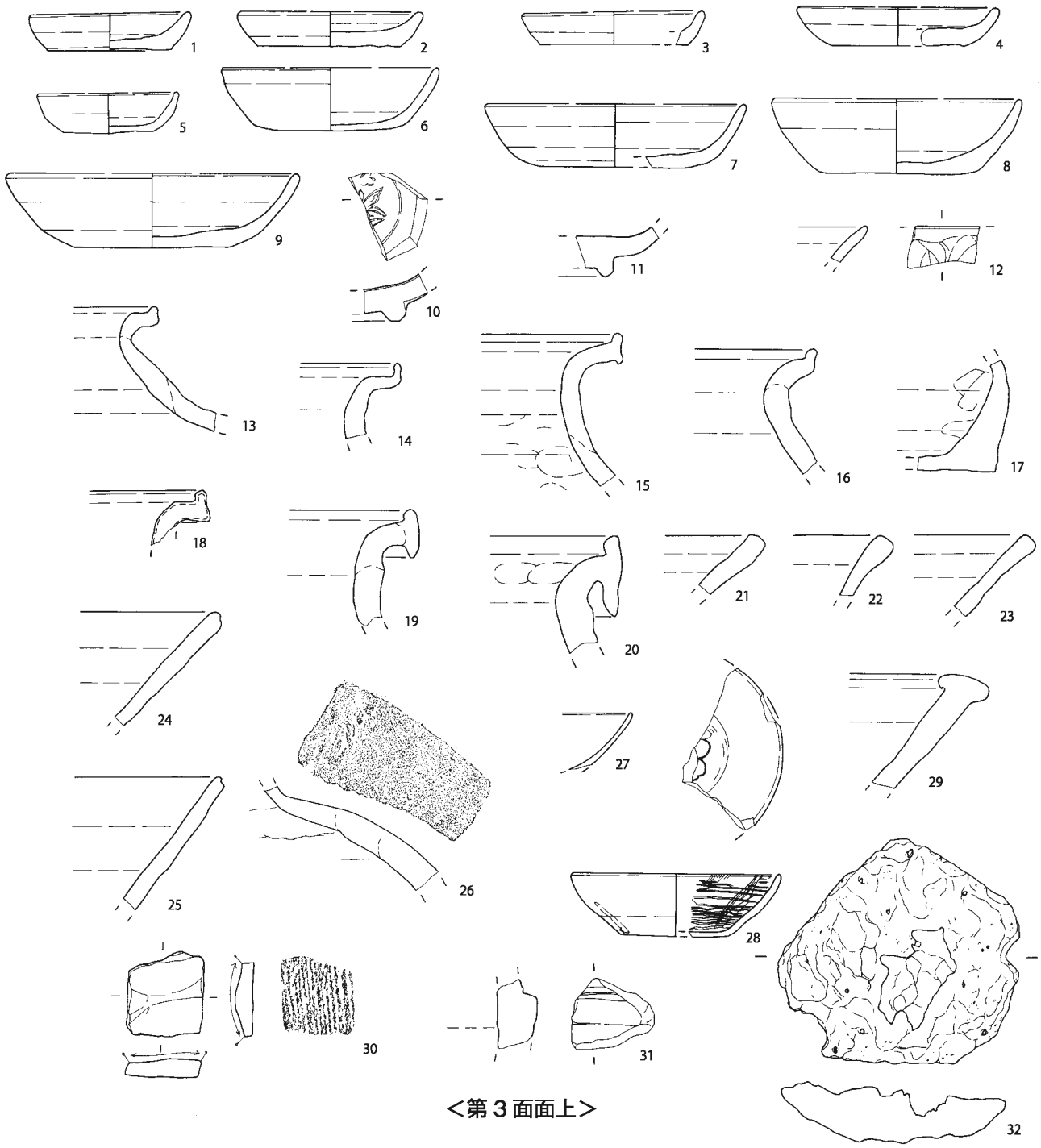
遺構 23(図 28)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物(多)・褐色砂を含む。

・出土遺物(図 28)

11～12 はかわらけ。13 は青白磁蓋。その他に常滑甕が破片で出土している。

遺構 95B（図 25～図 27）



<第３面面上>

<第３面構成土>

図 29　第３面面上・構成土出土遺物 (1)

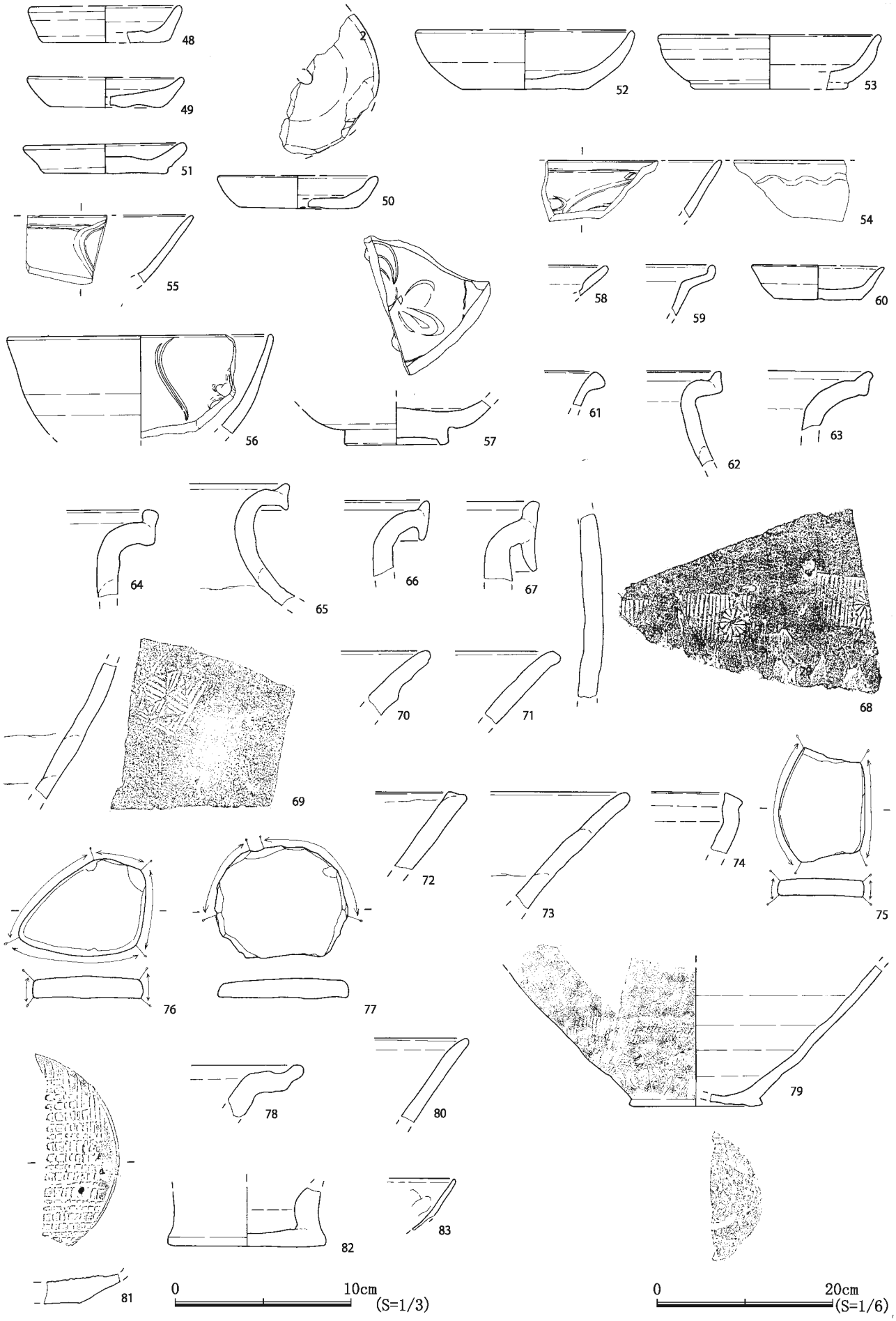


図 30　第 3 面構成土出土遺物 (2)

調査区南端で検出した竪穴建物である。調査区外に遺構が延び規模・形状・軸方位は不明である。掘り方の遺存値は南北(927)cm・東西(348)cm・深さ（87～112）cm を測る。建物床面四周に平面長方形の板状に整形した鎌倉石(凝灰質砂岩)の切石を地輻石として巡らし、南北(116)cm・東西(282)の幅で遺存していた。調査区南際で出土した切石は床面よりも上層から出土しており、建物廃棄時に投げ込まれた石材と考えている。切石の規格に統一性はなく雑に敷き詰められた印象が否めない。切石上面には根太や床材と思われる幅広い板材が検出され、投げ込まれた石材を取り除き床材と根太を検出した状況を図26に図示している。検出した材は焼痕があるものが多く、炭化している材もあった。石敷きと遺構の立ち上がりの間には壁板と思われる縦板を確認したが、炭化している等、遺存状態が悪く記録・採集することはできなかった。遺構西側の掘り方は土層堆積の状況から確認している。北側の掘り方は第2面遺構 95A によって削平・撹乱を受け明瞭な立ち上がりを確認できていない。遺構 95B の北側の調査区東際で石積みにも見える不整形な泥岩の並びを確認しているが、その一部は遺構 95B 覆土内に流れ込んでいることを土層堆積から確認し、遺構 95B 上層の遺構を廃棄した際の埋土ではなかったかと考えている。

No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ	No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ
1	(18.0)	32.0	12.0	8	40.0	35.0	11.5
2	41.0	37.0	12.0	9	34.0	34.0	11.0
3	39.0	40.0	11.0	10	(72.0)	(39.0)	12.0
4	22.0	31.0	10.5	11	(46.0)	(57.0)	11.5
5	84.0	35.0	9.5	12	(30.0)	(35.0)	12.0
6	35.0	42.0	12.0	13	(54.0)	(36.0)	11.5
7	40.0	35.0	12.0			単位(cm)	

＜切石計測表＞

・出土遺物（図 26～図 27）

1～4 はてづくね。5～27 はかわらけ。28～32 は青磁碗。33～35 は青磁坏。36 は白磁皿。37 は白磁壷。38 は青白磁蓋。39 は青白磁香炉。40 は瀬戸卸皿。41 は産地不明合子。42 は渥美甕。43 は渥美器種不明。44～47 は常滑片口鉢Ⅰ類。48～49 は常滑片口鉢Ⅱ類。50～56 は常滑甕。57 は産地不明、器種不明陶器。58 は平瓦。59 は土製品土鍋。60～68 は鉄製品釘。69～72 は鉄製品、器種不明。69 は工具か。70 は遺存状態が悪いが碗型滓である。71 は鑿か。72 は中央辺に方形の孔が開く。工具か。73～77 は銭。78 は石製品硯。79 は石製品砥石。80 は漆器皿。内外面に寄生木文を意匠する。その他に白磁器種不明・青磁皿・青磁鉢・青磁器種不明・青白磁梅瓶・緑釉盤・褐釉器種不明・瀬戸四耳壷・瀬戸入子・瀬戸器種不明・渥美片口鉢・常滑壷・山皿・南伊勢系鍋・丸瓦・石製品滑石鍋が破片で出土している。

第3面面上出土遺物（図 29）

第3面遺構検出時に出土した遺物である。1～9 はかわらけ。10～12 は青磁碗。13～20 は常滑甕。21～25 は常滑片口鉢Ⅰ類。26 は産地不明陶器。27 は瓦器碗。28 は瓦器輪花皿。29 は瓦器質火鉢。29 は瓦、加工途中か。31 は滑石鍋加工品。32 は鉄滓。その他にてづくね・白磁四耳壷・青磁碗・青白磁梅瓶・青白磁水注・青白磁合子・青白磁壷・褐釉陶器・渥美甕・常滑壷・常滑片口鉢Ⅱ類・南伊勢系土鍋・チャート・鞴の羽口・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。出土遺物量は多かったが、いずれも砕片のため図示できた製品は少ない。

第 3 面構成土出土遺物（図 29～図 31）

第 3 面の遺構検出後、第 4 面遺構検出までの堆積層から出土した遺物である。33～42 はてづくね。43～53 はかわらけ。54～57 は青磁碗。58 は青磁皿。59 は青磁坏。60 は白磁皿。61 は白磁四耳壺。62～69 は常滑甕。70 は常滑片口鉢Ⅰ類。7Ⅰ～73 は常滑片口鉢Ⅱ類。74 は常滑器種不明。75～77 は常滑甕転用品、側縁部摩耗。78～79 は渥美甕。80 は渥美片口鉢。81 は瀬戸卸皿。82 は瀬戸瓶子。83 は瓦器碗。84 は丸瓦。85 は鞴の羽口。86 はかわらけ底部を円盤状に加工している、用途不明。87 は石製品砥石。88 は泥岩加工品。89～98 は鉄製品釘。99～100 は銅製品銭。その他に白磁皿・白磁口兀皿・青白磁梅瓶・青白磁合子・褐釉壺・瀬戸入子・渥美壺・山茶碗・火鉢・瓦器質香炉が破片で出土している。

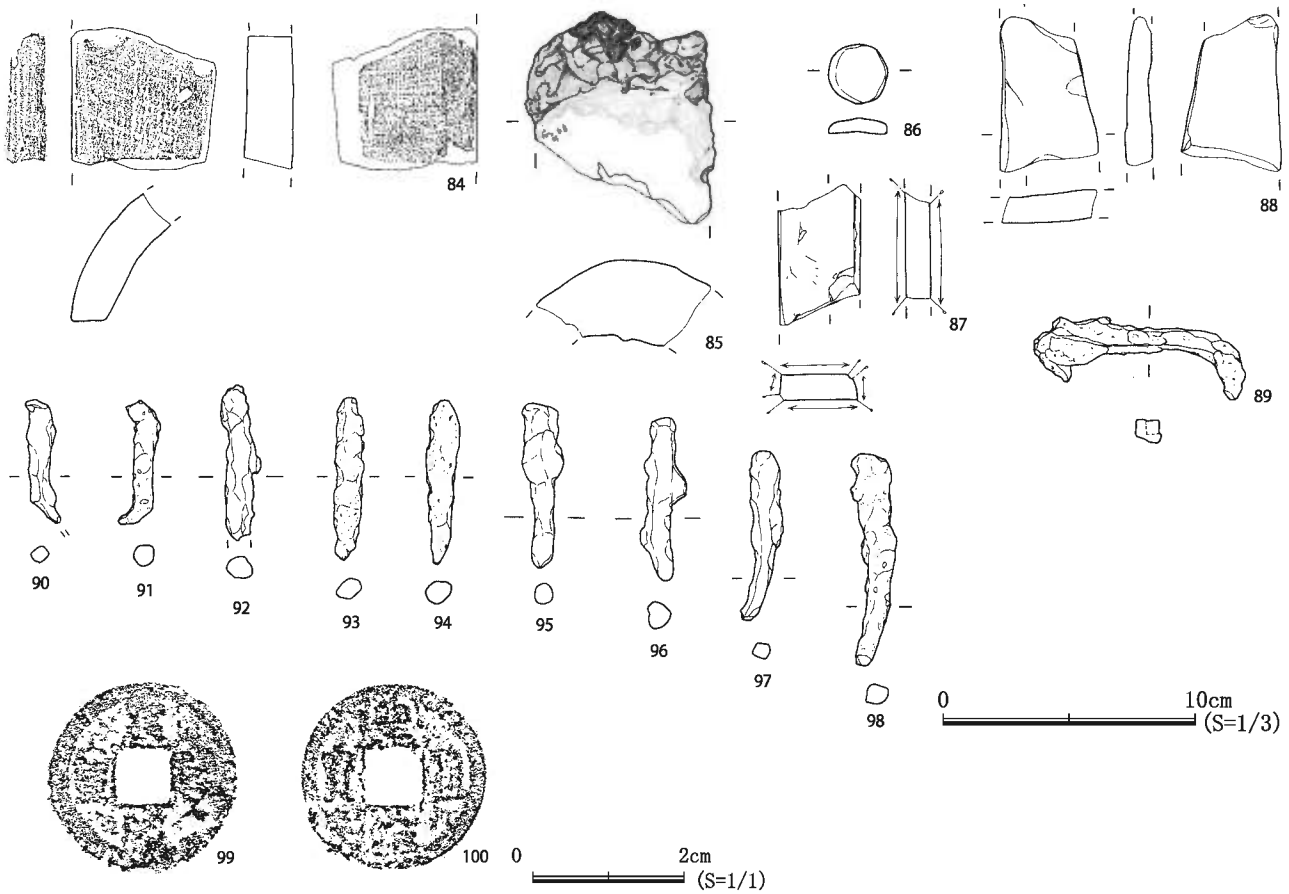
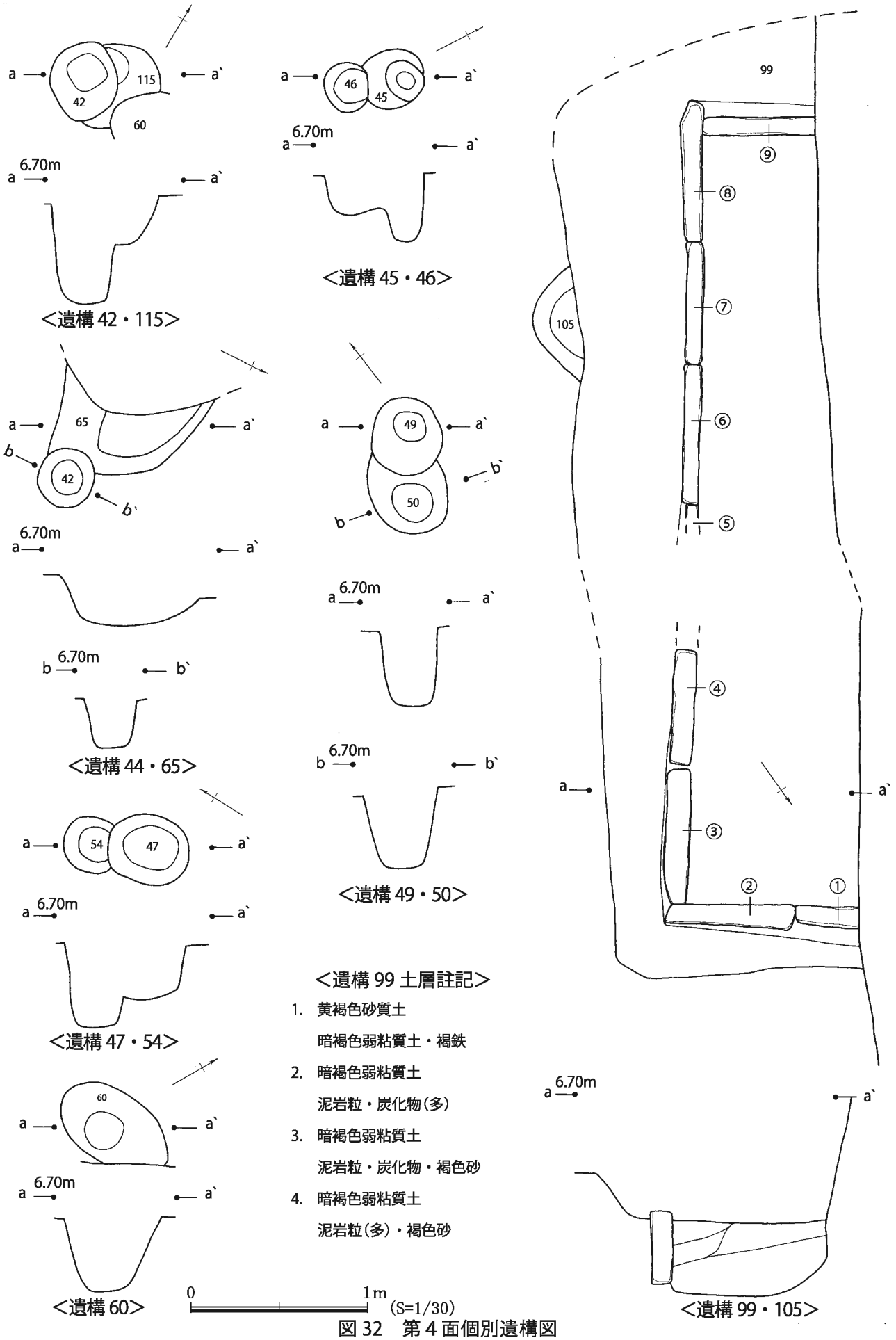


図 31　第 3 面構成土出土遺物 (3)

第 4 節　第 4 面の遺構と遺物（図 6・図 32～図 34）

調査区北(Ⅰ区)では泥岩粒の混じる暗褐色弱粘質土の地業層上で多くのピットを発見した。覆土内に根固めとして使用したと考える泥岩を含むピットを検出しているが建物を推定することはできなかった。南側(Ⅱ区)は上層の遺構によって削平を受け遺構の発見は少ない。南側の地業土は粘性が強く、褐鉄が多く混じる等、北側とはやや堆積土の様相が異なる。また、調査区南側では約海抜 6.00m で湧水も始まる。第 4 面で発見した遺構は竪穴建物 1 軒・土坑 3 基・ピット 27 穴である。第 4 面確認レベルは海抜 6.40m から 6.60m を測った。

遺構 42（図 32）



<遺構 99 土層註記>

1. 黄褐色砂質土
   暗褐色弱粘質土・褐鉄
2. 暗褐色弱粘質土
   泥岩粒・炭化物(多)
3. 暗褐色弱粘質土
   泥岩粒・炭化物・褐色砂
4. 暗褐色弱粘質土
   泥岩粒(多)・褐色砂

図 32　第 4 面個別遺構図

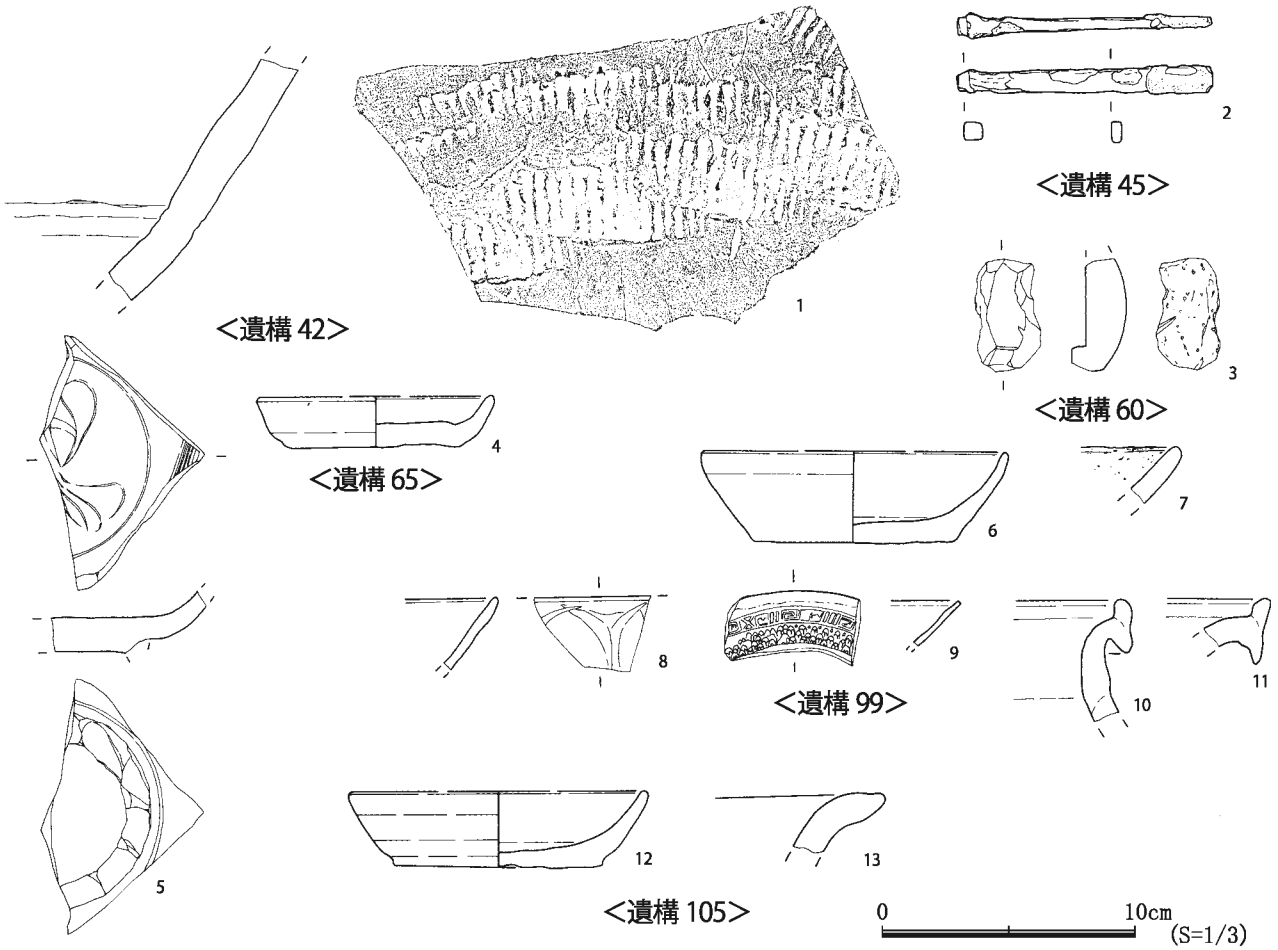


図 33　第 4 面個別遺構・出土遺物

不整円形を呈するピットである。遺構 115 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・褐色砂を含む。

・出土遺物（図 33）

1 は渥美甕。その他にてづくね・常滑甕・金属製品器種不明が破片で出土している。

遺構 44（図 32）

円形を呈するピットである。遺構 65 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む。遺構底面に泥岩塊が遺存し、柱穴であった可能性もある。遺物は出土していない。

遺構 45（図 32）

円形を呈するピットである。遺構 46 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む。

・出土遺物（図 33）

2 は鉄製品器種不明、鑿状工具か。その他に遺物は出土していない。

遺構 46（図 32）

円形を呈するピットである。遺構 45 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・褐色砂を含む。遺物は出土していない。

遺構 47（図 32）

楕円形を呈するピットである。遺構 54 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。遺物はかわらけと青磁碗が破片で出土している。

遺構 49（図 32）

円形を呈するピットである。遺構 50 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物（多）・褐色砂を含む。遺物はかわらけ・てづくね・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

遺構 50（図 32）

楕円形を呈するピットである。遺構 49 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 54（図 32）

円形を呈するピットである。遺構 47 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む。遺物は出土していない。

遺構 60（図 32）

楕円形を呈するピットである。遺構 42 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。

・出土遺物(図 33)

3 は土製品器種不明、内面型作りか。その他にてづくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構 65（図 32）

遺構 44・遺構 99 に切られ規模・形状は不明となった。土坑である。遺構覆土は暗花色粘質土・泥岩（少）・炭化物（少）・黄褐色砂を含む。

・出土遺物（図 33）

4 はかわらけ。5 は青磁碗。その他に遺物は出土していない。

遺構 99(図 32)

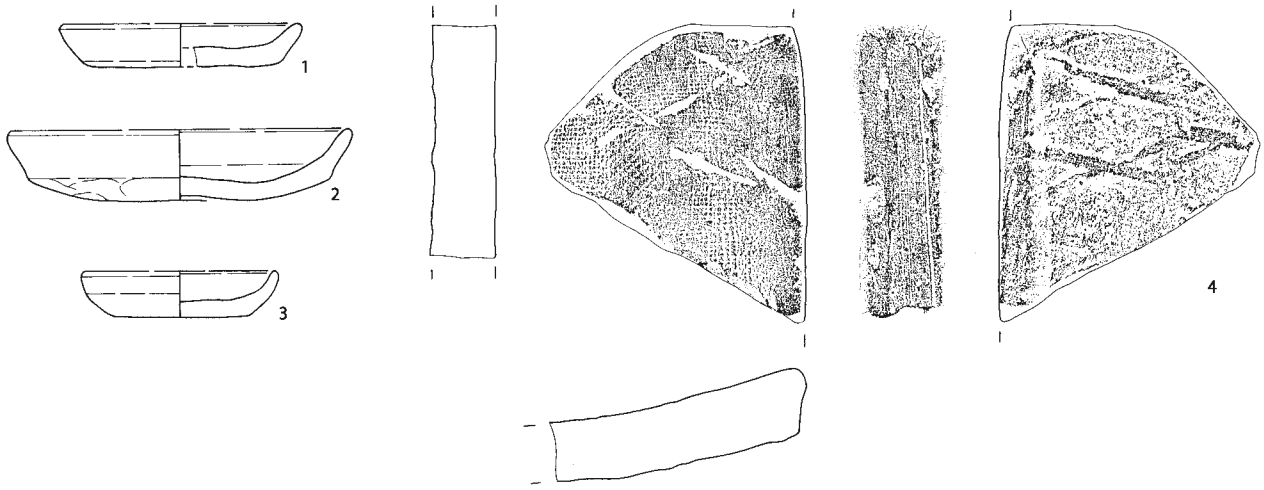
調査区外に遺構が延びているため規模・形状・軸方位は不明となった、竪穴建物である。掘り方の遺存値は南北 474cm・東西(102～133)㎝・深さ(56)㎝を測った。掘り方の内には平面長方形の板状に成形した鎌倉石(凝灰質砂岩)の切石を立て、壁石として四周に巡らしている。切石の内側の遺存値は南北 438cm×東西(65～98cm)を測った。遺構底面に地輻となるような切石、土台材等は検出していない。遺構 99 は第 3 面の遺構 18 底面に敷き並べられた切石を取り除いて検出しているが、調査時には遺構 18 と掘り方を共有している、遺構底面から地輻となる敷石や土台材等となる切石を検出していないこと等から、遺構 99 の壁石と考えている切石が、遺構 18 の敷石の下支え(土台)になる可能性も考えたが、遺構検出面積が狭小なため判断できなかった。これまでの調査成果では、上層の竪穴建物と掘り方を共有し上層の敷石下層から壁石を検出し竪穴建物を建て直している例も多く検出しており、遺構 99 もその用例かもしれない。

No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ	No.	長軸/長さ	短軸/高さ	幅/厚さ
1	(37.0)	12.0	36.0	6	79.0	9.5	36.0
2	75.0	11.5	36.5	7	69.0	9.0	33.0
3	78.0	15.0	35.0	8	80.0	11.5	38.0
4	75.0	14.0	43.0	9	(57.0)	10.5	29.0～34.0
5	(8.0)	6.0	31.0	単位(cm)			

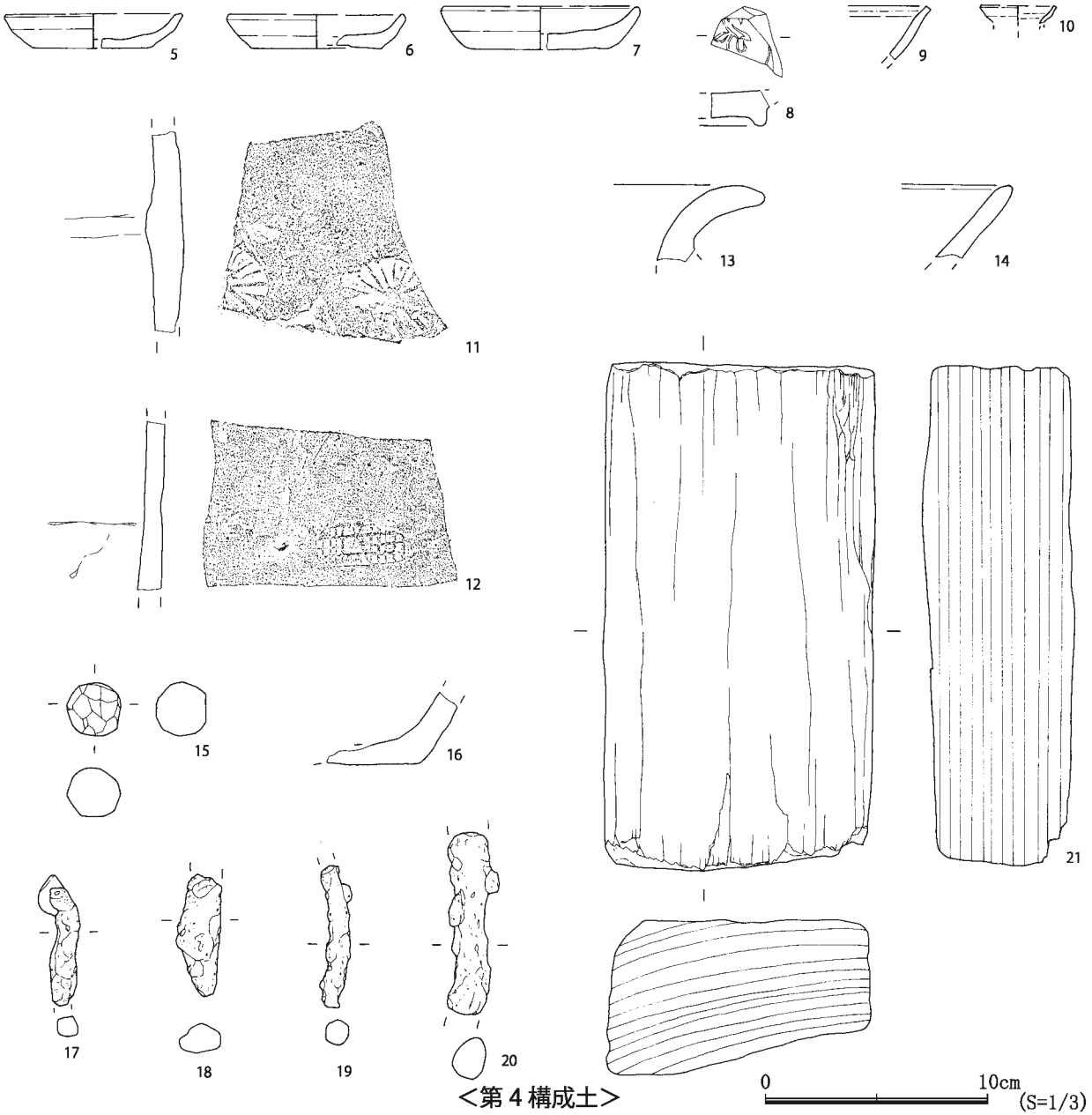
＜切石計測表＞

・出土遺物(図 33)

6～7 はかわらけ・8 は青磁碗。9 は青白磁皿。10～11 は常滑甕。その他に手づくね・青白磁合子・常



<第４面面上>



<第４構成土>

図 34　第４面面上・構成土出土遺物

滑壺・常滑片口鉢Ⅱ類・土器質火鉢・瓦器碗・石製品砥石・金属製品釘・貝・果核が破片で出土している。

遺構 105（図 32）

遺構 99 に切られる。円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒を含む。

・出土遺物（図 33）

12 はかわらけ。13 は渥美甕。その他にてづくね・青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

遺構 115(図 32)

円形を呈するピットである。遺構 42 に切られる。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・炭化物・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

第 4 面面上出土遺物（図 34）

第 4 面遺構検出時に出土した遺物である。1～2 はてづくね。3 はかわらけ。4 は平瓦。その他に青磁碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・山茶碗・石製品砥石・鉄製品釘・貝・獣骨が破片で出土している。

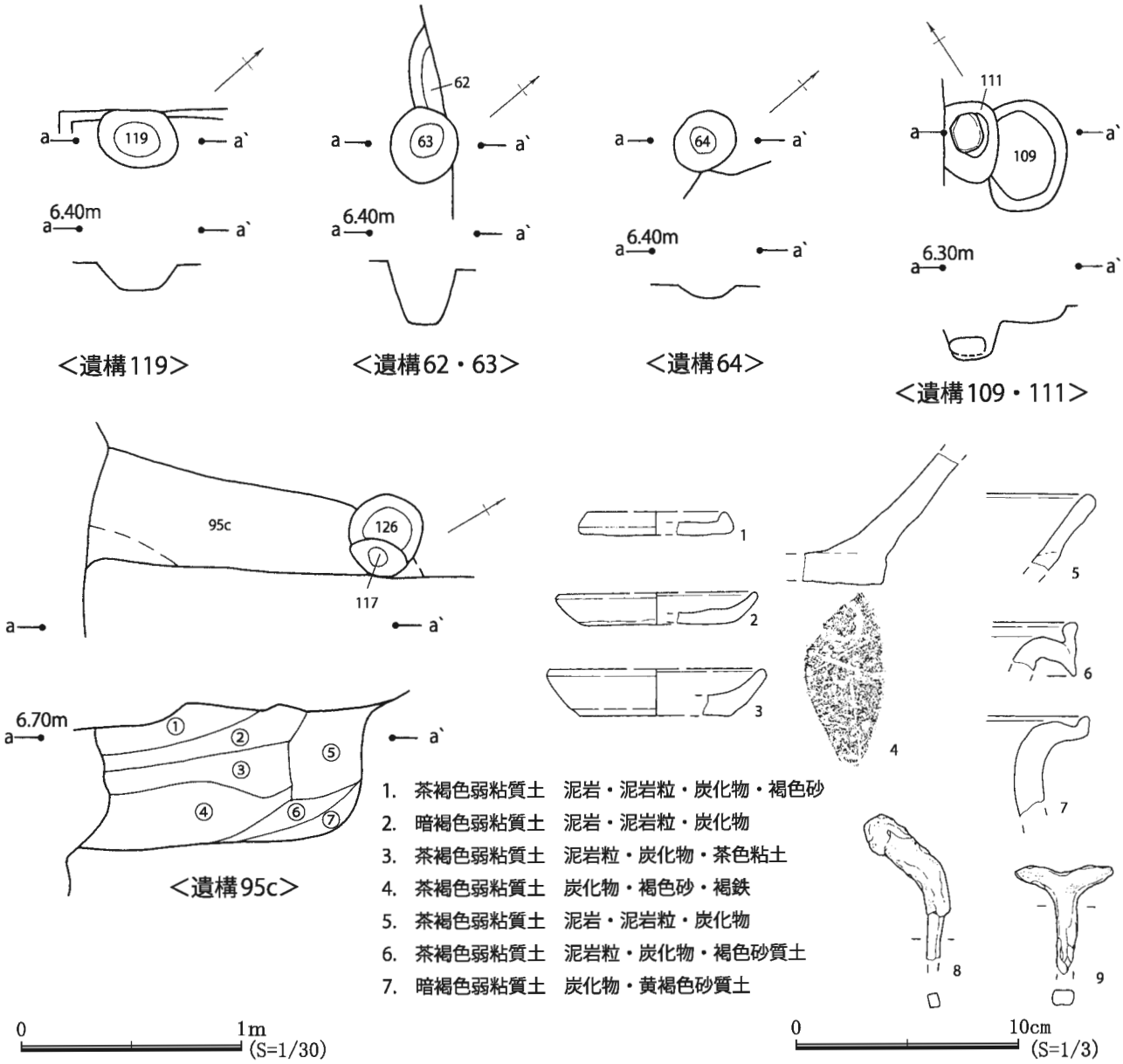


図 35　第 5 面個別遺構 95C・出土遺物

第 4 面構成土出土遺物（図 34）

第 4 面の遺構検出後、第 5 面遺構検出までの堆積層から出土した遺物である。

5～7 はかわらけ。8 は青磁碗。9 は白磁皿。10 は舶載陶器、茶入れか。11～12 は常滑甕・13 は渥美甕。14 は渥美片口鉢。15 は土製品、雑に球形に成形。16 は滑石製鍋。17～19 は鉄製品釘。20 は鉄製品用途不明。21 は木製品礎板、柱材の転用か。その他にてづくね・青磁碗・貝・獣骨が破片で出土している。

第 5 節　第 5 面の遺構と遺物（図 6・図 35～図 38）

第 5 面北側(Ⅰ区)は平面調査を行わず、調査区北端にトレンチを設け第 5 面を確認した。南側(Ⅱ区)は廃土処理の都合から、調査区東側を廃土置き場にして調査を実施したため、調査区西側約半分と、遺構 95B 下層で発見した竪穴建物の一部を報告している。第 5 面構成土は泥岩粒が僅かに混入する黄褐色砂、中世地山であると考えている。第 5 面で発見した遺構は竪穴建物 2 軒・ピット 13 穴である。第 5 面確認レベルは海抜 6.10m を測った。

遺構 63（図 6）

円形を呈するピットである。遺構 118 を切る。遺構覆土は黒褐色粘質土・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

遺構 64（図 6）

円形を呈するピットである。遺構覆土は黒褐色粘質土・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

遺構 95C（図 35）

遺構の南側を第 3 面遺構 95B に切られ、東側は未掘りとなったため規模・形状は不明である。土層の堆積状況から掘り方状の堆積が見え(5・6・7 層)、竪穴建物であった可能性を考えている。覆土最下層の 4 層からは灰赤色を呈する粘土塊が出土しており、成分分析の結果「カオリナイト」と判明した。(P.87)「カオリナイト」は陶磁器の原材料として有名だが、その他に歯磨き粉、瀉下薬、漆喰等に使用された可能性もある。本調査地で出土したカオリナイトの粘土塊は純度が高く、調査地周辺で産したとは考えにくいため、産地、販路、使用目的等多くの疑問が残った。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒（多）・炭化物・褐色砂質土・黒色粘土・褐鉄を含む。

・出土遺物（図 35）

1～2 は手づくね。1 は口唇部内向しコースター型を呈する。3 はかわらけ。4 は渥美甕。5 は常滑片口鉢Ⅰ類。6 は常滑広口壺。7 は常滑甕。8 は鉄製品釘。9 は鉄製品器種不明。その他に青磁碗・青磁皿・石製品砥石・獣骨が破片で出土している。

遺構 106（図 36～図 37）

遺構の大半が調査区外に延び規模・形状・軸方位は不明となった。竪穴建物である。遺構底面に不整形な泥岩を据え、その上に枘穴を穿った土台材を置いている。土台材と掘り方の間には壁板となる縦板を挟んでいることを、調査区南壁で確認した。（図 3・140～144 層）遺構北側と南側では東西方向の壁材と考えられる横板を検出しているが、遺構が調査区外に延びているため判断できない。遺構の南北で検出した横板が壁材であると仮定すると、南北間は約 300cm の幅となり、南北間が長軸方向になった場合は小型の建物となる。東西の遺存値は（50～70）cm、深さ（112）cm を測った。

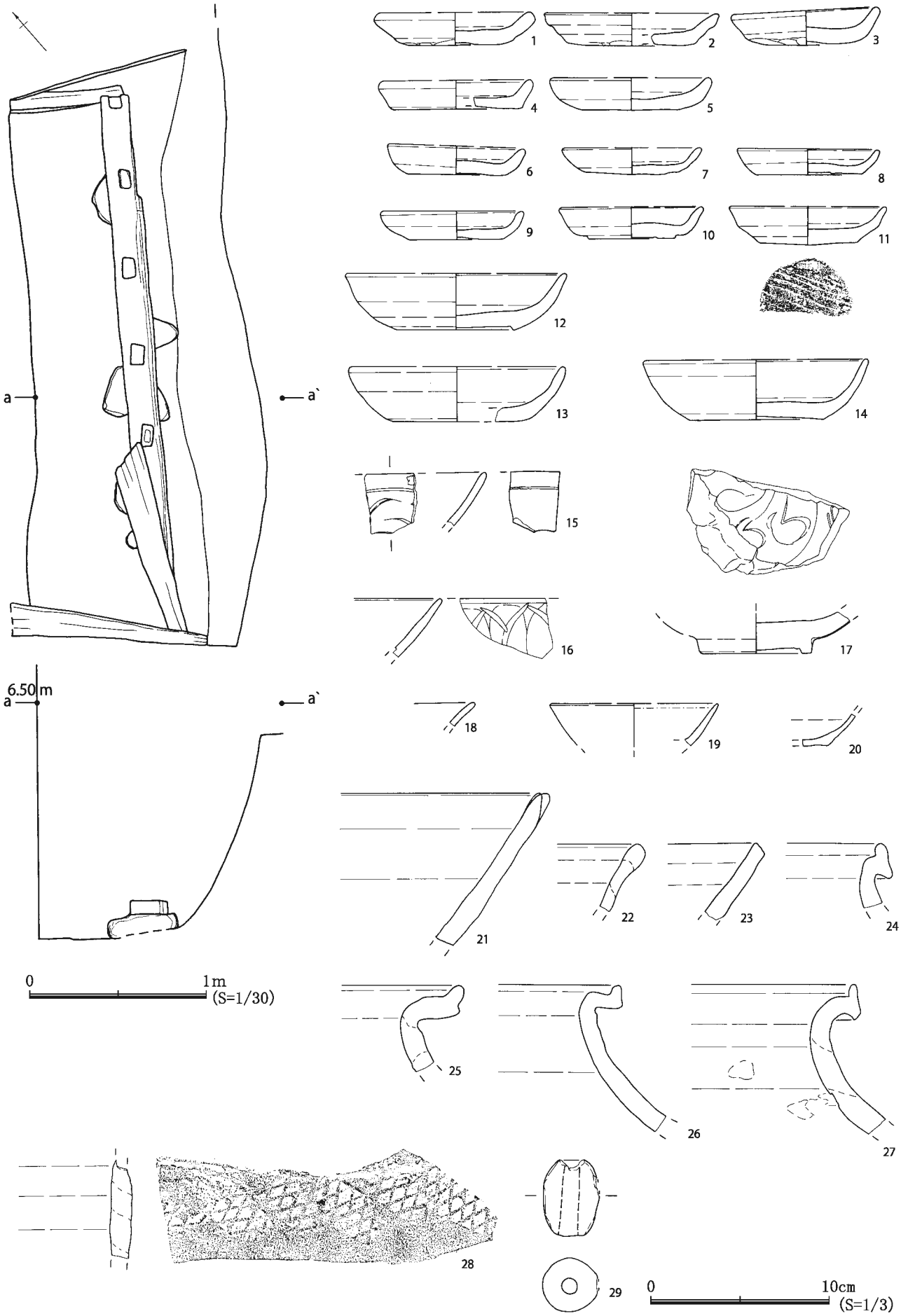


図 36　第 5 面遺構 106・出土遺物 (1)

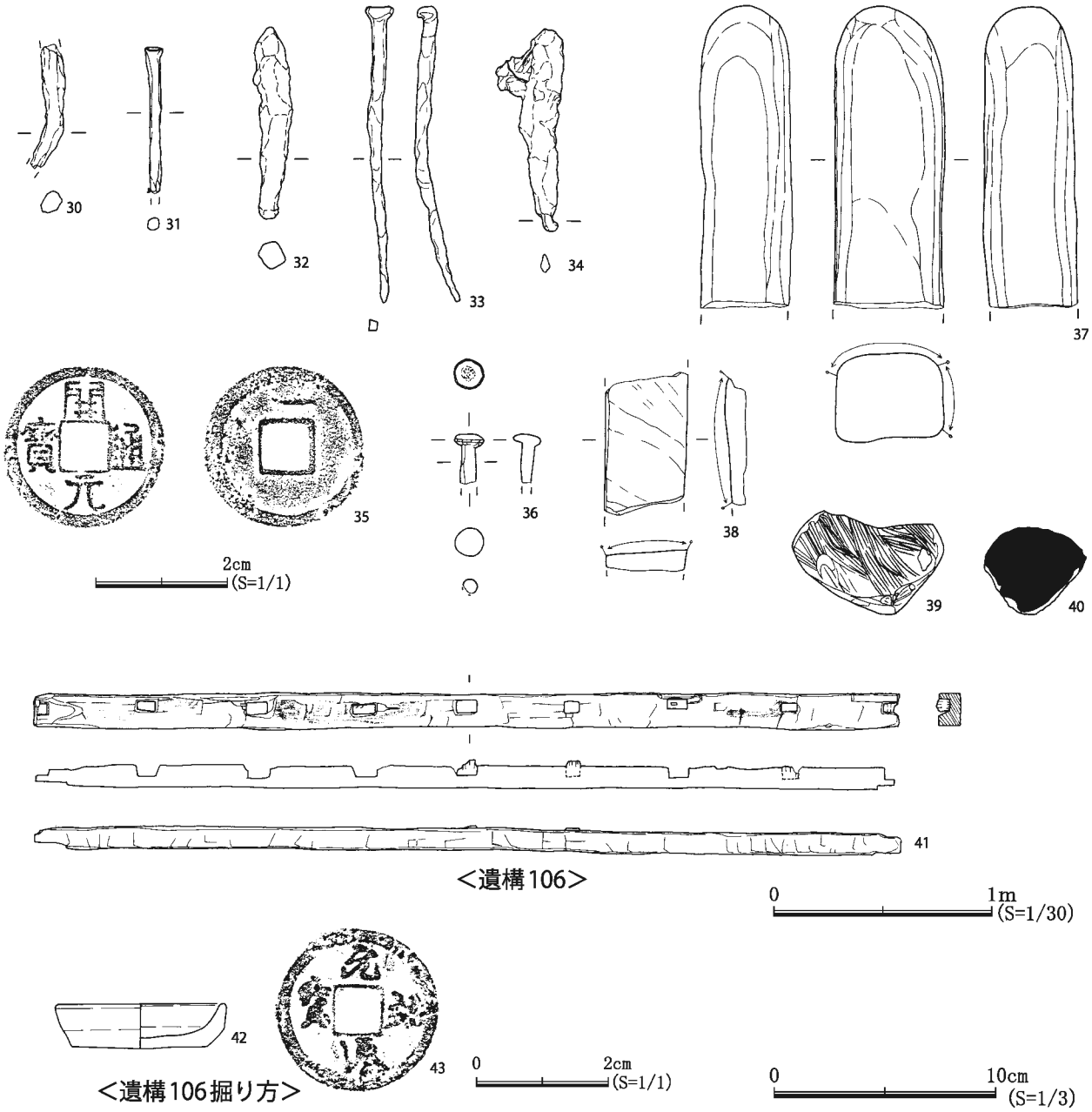


図 37　第 5 面遺構 106・出土遺物 (2)

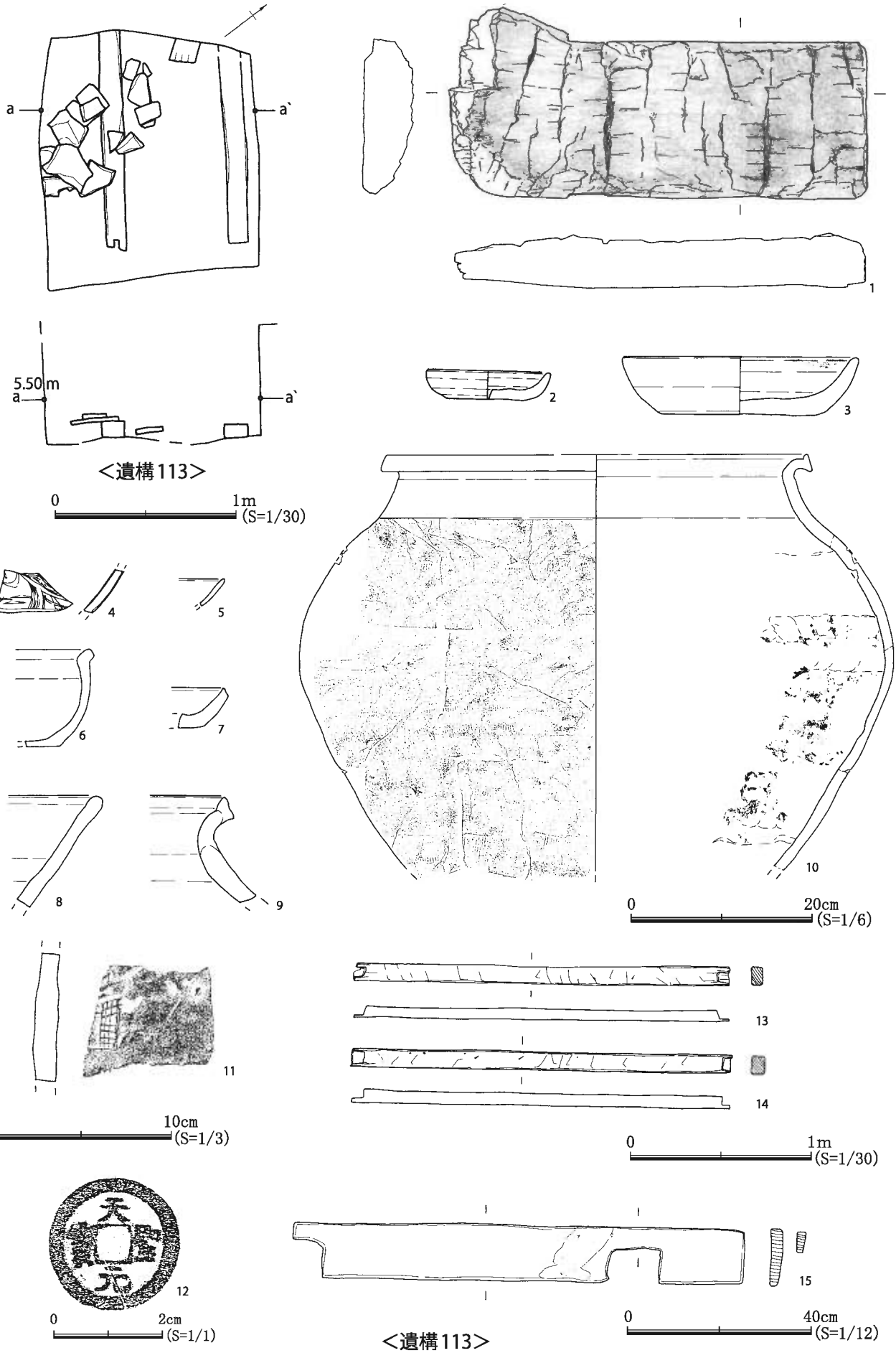
・出土遺物（図 36～図 37）

1～41 は遺構 106 覆土内出土。1～5 はてづくね。6～14 はかわらけ。15～18 は青磁碗。19 は白磁皿。20 は舶載陶器、器種不明。21 は産地不明鉢。22 は常滑片口鉢Ⅰ類。23 は常滑片口鉢Ⅱ類。24 は常滑器種不明。25～27 は常滑甕。28 は産地不明壺。29 は土製品土錘。30～33 は鉄製品釘。34 は鉄製品器種不明。35 は銭。36 は骨製品用途不明。37～38 は石製品砥石。39～40 は貝パレット。41 は木製品、建築部材。その他に手づくね成形白かわらけ・白磁碗・青白磁合子・渥美甕・常滑壺・山皿・土器質火鉢・丸瓦・滑石鍋・貝・獣骨・果核が破片で出土している。

42～43 は掘り方出土。42 はかわらけ。43 は銭。その他に手づくね・白磁四耳壺・渥美甕・常滑甕・銭・鉄製品釘・貝・果核が破片で出土している。

遺構 109(図 35)

楕円形を呈する浅いピットである。遺構 111 に切られる。遺構覆土は暗褐色粘質土・炭化物・褐鉄を



<遺構113>

<遺構113>

図 38　第 5 面遺構 113・出土遺物

含む。遺物は出土していない。

遺構 111(図 35)

円形を呈するピットである。遺構底面に泥岩の礎石が遺存していた。遺構覆土は暗褐色粘質土・炭化物・褐色砂を含む。遺物は出土していない。

遺構 113（図 38)

第 3 面遺構 95B を検出・記録後、遺構 95B の掘り方を確認するために調査区の南東角を深堀した際に東西方向に延びる土台材を検出した。土台材は両端に仕口が切られている。土台材の直上には常滑甕の破片が広がっており、整理作業時に接合を試みたところ底部の部分を除いてほとんどの破片が接合した。甕の内面には黒色の漆状物質が付着していた。限られた範囲の調査だったため、遺構の規模も形状も不明であるが、検出した建築部材は竪穴建物の土台材であったと考えている。

・出土遺物（図 38)

1 は木製品用途不明・被熱を受け炭化している。2～3 はかわらけ。4 は青磁碗。5 は白磁皿。6 は緑釉盤。7 は瀬戸卸皿。8 は常滑片口鉢 I 類。9～11 は常滑甕。10 は内面に漆状の黒色付着物有り。12 は銭。13～15 は木製品、建築部材。その他に手づくね・褐釉陶器・常滑壺・山茶碗・鉄製品釘・鉄滓が破片で出土している。

遺構 116(図 35)

円形を呈するピットである。遺構 117 に切られ、遺構 95C を切る。遺構覆土は暗褐色粘質土・炭化物を含む。遺物は出土していない。

遺構 117(図 35)

楕円形を呈するピットである。遺構 116 を切る。遺構覆土は暗褐色粘質土・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

遺構 118(図 35)

調査区外に遺構が延び、遺構 63 に切られるため規模・形状は不明。ピットである。遺構覆土は黒褐色粘質土・泥岩粒・褐鉄・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

遺構 119（図 35)

円形を呈するピットである。遺構覆土は黒褐色粘質土・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

第 6 節　表土・撹乱出土の遺物

表採・撹乱出土遺物（図 39）

表土～第 1 面検出面までの現代埋土と撹乱から出土した遺物である。1～9 はかわらけ。10 は青磁坏。11 は青白磁水注。12 は瀬戸折縁深皿。13 は瀬戸入子。14 は常滑片口碗。15～17 は常滑片口鉢 I 類。18 は常滑甕。19 は土器質火鉢。20 は泥岩加工品、用途不明。21 は土器、香炉か。22 は滑石製鍋転用品、温石か。23 は石製品砥石。その他に白磁瓶類・白磁皿・青磁碗・青磁鉢・常滑壺・瀬戸皿・瀬戸瓶子・瀬戸碗・瀬戸卸皿・瓦器質火鉢・平瓦・銅製品銭・鉄製品釘・鉄滓・獣骨が破片で出土している。

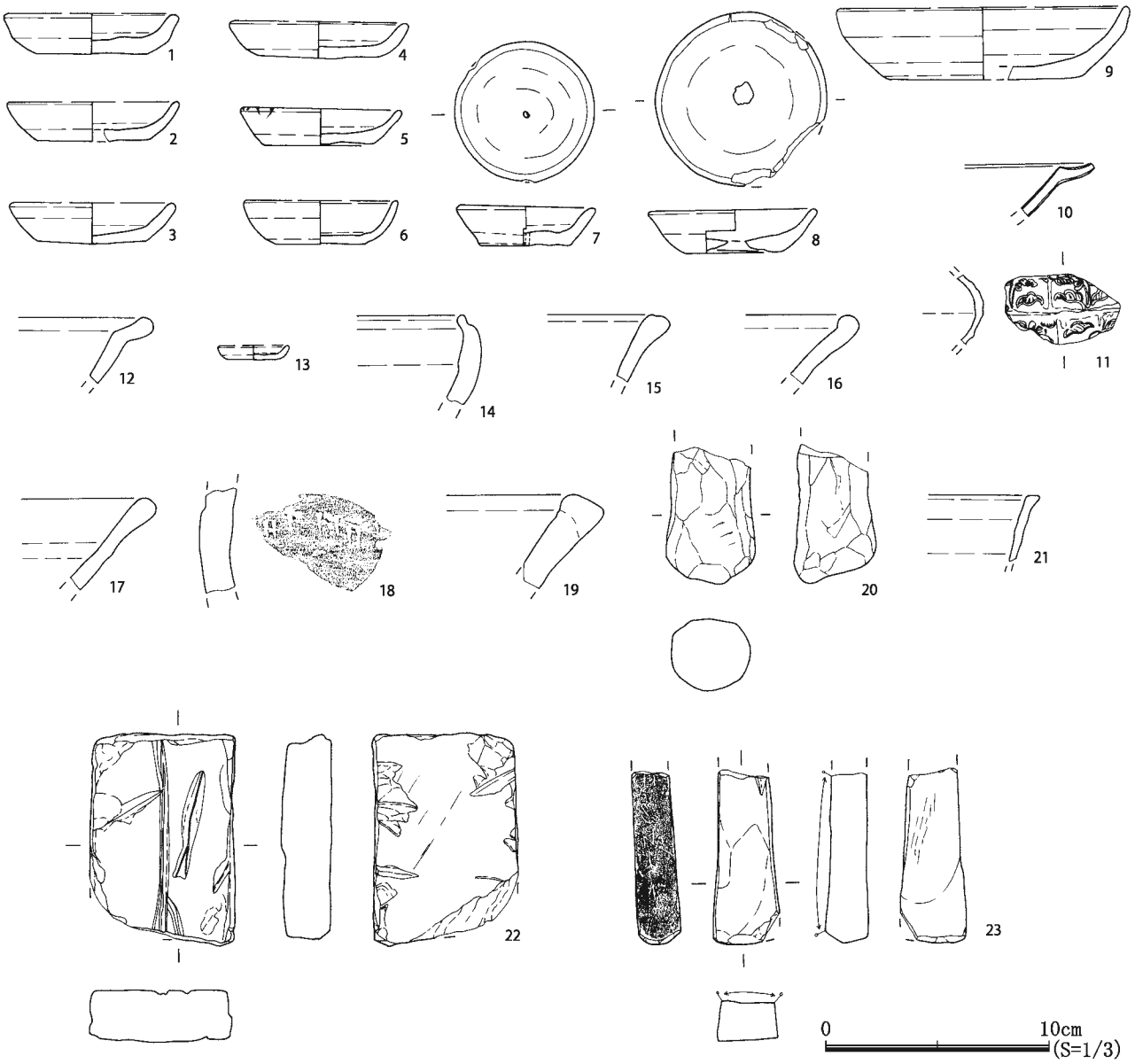


図 39　表採・攪乱出土遺物

第三章　まとめ

本調査地は鎌倉市街地のほぼ中心に位置している。調査地の北、若宮大路と小町大路を結ぶ道路辺は「小町口」と呼ばれ、『吾妻鏡』にも登場する字名である。調査地周辺の発掘調査の成果から、若宮大路の東側、小町口辺以南は町屋的な遺構・遺物が発見され、13 世紀末ごろから 14 世紀代にかけての竪穴建物が多く検出されている。この小町口辺には「藤内定員邸」があったとされているが現在までに屋敷地の跡地と推定できる調査成果は得られていない。以下、発見した順に遺構・遺物のまとめを行いたい。

第 1 節　検出した遺構と遺物

本調査は残土処理の都合から調査区を 2 分割して行っている。検出した生活面は 5 枚であるが、5 枚の生活面の内、第 2 面に関しては先行して調査したⅠ区と、後続して調査したⅡ区の合成を試みた際に若干の食い違いがあったため、遺構の切り合い、検出レベル等から判断し a・b の 2 面に分けて報告している。また、第 5 面の検出をⅠ区ではトレンチを設けて確認。Ⅱ区では残土処理の関係から第 4 面遺構の下層から発見した遺構を検出・記録した。また、本調査で検出した遺構の内、中心となるのは竪穴建物であるが、残念なことに全ての竪穴建物が調査区外に延びており、その形状・規模・軸方位等は不明となっている。本調査で出土した遺物は整理箱数にして 45 箱であった。

第 1 面は大、小の破砕泥岩による粗い版築地業上で遺構を発見しているが、全体にまばらな遺構検出状況である。調査区東北際(Ⅰ区)で検出した溝状遺構(遺構 4)の東側には泥岩を細かく砕き丁寧な地業が遺存している。この溝が区画の溝となり東に向かって屋敷地が広がっていた可能性もあるが、この溝自体が北端は調査区外に延び、南端はⅠ区とⅡ区の境目で消滅してしまっているため確証はない。出土した遺物量は少ない。出土したかわらけの多くは器肉が厚く、やや内湾気味の器壁をもつ。数点ではあるが厚い器肉をもち、器壁が外反するタイプも混じっていた。出土した国産陶磁器の生産地年代からは概ね 13 世紀後半から 14 世紀代に比定される遺物が出土しており、第 1 面は 14 世紀代の年代を与えているが 15 世紀まで下る可能性もある。

第 2 面は、第 1 面同様にややまばらな遺構検出状況を呈した。遺構を検出した地業土は第 1 面同様に泥岩塊が混じる粗い地業土であった。地業土には炭化物が多く混入し、第 2b 面、面上には炭化物が広がって堆積していた。地業土に混入した泥岩塊には被熱を受けた痕跡のあるものが混じっており、火災等の片づけによって地業土･面上に炭化物が混入したと考えている。第 2 面から出土した国産陶磁器は、13 世紀後葉から 14 世紀中頃にかけての年代に比定される遺物が出土している。国産陶磁器の生産地年代は第 1 面と大きく変化があるように思えないのだが、かわらけには変化が見え、大、中、小と 3 種類の法量に分化し、器肉が薄く、器壁が内彎する所謂薄手丸深というタイプが混じる。第 2 面は 14 世紀前半の年代を与えたい。

第 3 面は調査区北側(Ⅰ区)では泥岩塊・泥岩を含む版築地業を確認したが、南側(Ⅱ区)では上層の遺構によって削平を受けている影響で地業土はやや脆弱である。第 3 面で検出した遺構は竪穴建物が中心と

なるが、前述したように検出した全ての竪穴建物は調査区外に遺構が延びてしまい、規模・形状・軸方位等、不明な点が多い。調査区北東際(Ⅰ区)で検出した竪穴建物(遺構 20)は、褐鉄を含む硬く締まった床面を検出しているが、建物の上屋を立てるための土台材等は遺存せず、建物の構造が不明となった。竪穴底面にピットを数穴検出したが、ピット深度が浅いことや床面と考える堆積層からの掘り込みではないピットが多く、柱穴建ての構造をもつ竪穴建物とは考えにくい。Ⅰ区、Ⅱ区に跨って調査区西側で検出した竪穴建物(遺構 18)は床面全体に丁寧に成形した平面長方形の凝灰質砂岩の切石を敷き詰めていた。検出したのは建物隅の 2 ヶ所ではあるが、切石を立てた壁石を四周に並べてたと考えている。また、一部ではあるが床石の上に炭化した根太木の痕跡が遺存していた。調査区南端(Ⅱ区)で検出した竪穴建物(遺構 95B)は掘り方四周に平面長方形に成形はしているが規格性のない凝灰質砂岩の切石を並べ、床板と根太木が遺存していた。また四周に廻した切石と掘り方の間には壁板と考える材が遺存していた。検出した 3 軒の竪穴建物は、いずれも「土台建て」と呼ばれる竪穴建物に類するが、やや構造が異なっている。これは所有者、あるいは建物を立てた職人の違いか、この竪穴建物の機能の違いなのかは分からない。3 軒の竪穴建物から出土した遺物種に大きな差異はなく、出土遺物から建物の機能を推定することも難しい。遺構 20 からは火打石に使うチャートに類する石材が多く出土しているが、石材は建物廃絶時の埋土からの出土のため、石材加工等の用途をもつ建物とは判断できない。第 3 面出土の国産陶磁器の年代観は 12 世紀後半から 14 世紀初頭と幅広い生産地年代をもつ遺物が出土しているが、その中心は 13 世紀代の遺物である。また、ロクロ成形のかわらけに混じって、手づくね成形のかわらけの出土が増え、第 2 面で出土していた薄手の器肉をもち、器壁が内彎するタイプのかわらけの出土が破片も含めて僅かとなる。第 3 面は 13 世紀後半から 14 世紀初頭の年代を与えたい。

第 4 面は調査区北（Ⅰ区）と南（Ⅱ区）では地業土がやや異なり、北側は泥岩粒の混じる弱粘質土上で多くのピットを検出したが、南側は褐鉄の混じる粘性の強い地業土であり、北側に比べて極端に検出ピットが減る。また、覆土内に根固めとして使用したと考える泥岩を含むピットを検出しているが、建物を推定することはできなかった。調査区西際、Ⅰ区、Ⅱ区に跨って検出した竪穴建物（遺構 99）は第 3 面で検出した遺構 18 と同位置で検出し、掘り方を共有する。平面長方形に丁寧に成形した凝灰質砂岩の切石の壁石が掘り方の内に廻るように遺存していたが土台材となる石材、木材の検出はない。出土遺物は少なく、建物廃絶時に間をおかず埋められたようである。西に隣接する地点 2（図 1）でも遺構 18・遺構 99 と同様に、位置を変えずに建て直しを行っている竪穴建物が検出されている。この竪穴建物も後代の建物床下から壁石を検出し、前代の建物からは土台となる材を検出していないが、壁板と考える横板が壁石の内に遺存していた。第 4 面は遺構内、遺構外によらず出土遺物量が減る。国産陶器の生産地年代は 13 世紀初頭から 13 世紀半ばにかけての年代観を示す製品が出土しているが、1 点のみ 14 世紀初頭の年代観を示す常滑の甕が出土している。ロクロ成形のかわらけに比べて手づくね成形のかわらけの出土量が若干増える傾向を示すが、細片の遺物が多く、比較資料としては断定できない。年代の比定が困難ではあるが第 4 面は 13 世紀半ばから後半の年代を与えている。

第 5 面は前述したように調査区北側（Ⅰ区）はトレンチ調査。南側（Ⅱ区）は第 4 面遺構の下層から検出した遺構と遺物を記録している。Ⅰ区のトレンチ調査では泥岩粒が僅かに混入する黄褐色砂上で数穴のピットを検出した。この黄褐色砂の下層には青灰色の無遺物層が堆積していた。Ⅱ区西際では第 3 面遺構 99 の下層から枘穴を穿った土台材を床面に遺存する竪穴建物（遺構 106）を検出している。遺構 99 はⅠ区、Ⅱ区にわたって南北に 517cm を測ったが、遺構 106 はⅡ区調査区内で 1 辺は完結している様子で南北に 322cm と小型であるが、遺構が調査区外に延びて規模・形状は不明である。調査区南東

隅では第3面遺構95B下層から端部に仕口を切っている土台材を検出している。竪穴建物の土台材と思われるが、調査区壁で遺構の立ち上がりを確認することができずその規模は不明である。土台材の上には口縁部から胴部中部まで接合できた常滑甕の破片が広がっていた。Ⅱ区中央で確認した遺構95Cは遺構の一端のみの確認のため形状・規模は不明であるが、遺構覆土内から「カオリナイト」が出土している。本文でも触れたが、磁器製作の材料として有名な「カオリナイト」だが、本調査地を含む周辺で磁器製作が行われていたとは考えにくい。「カオリナイト」の用途は不明であるが、薬や漆喰の材料等にも使用されることがわかっている。本調査地で検出した第5面の出土遺物は遺構106出土の遺物を除いて出土量は減少する。国産陶器の年代は第4面と大きな変化なく13世紀初頭から13世紀半ばに比定される遺物が出土し、手づくね成形かわらけの出土量、ロクロ成形かわらけの器形・法量も第4面と大きな変化が無い。限られた範囲の調査となったため、遺構・遺物共に不明な部分の多い結果となったが、Ⅰ区トレンチ内海抜5.8mで確認した青灰色砂層と、Ⅱ区被害調査区壁の海抜5.4m辺で確認した青灰色砂層は中世地山層であったと考えている。

第2節　まとめ

周辺の調査では13世紀前葉から15世紀末に比定される遺構・遺物を発見し、検出した遺構の中心をなすのは竪穴建物であった。本調査地でも発見遺構の中心となるのは竪穴建物であり、13世紀半ばから14世紀代の遺構・遺物が発見された。

竪穴建物は地上から深さ1m内外の掘り込みを造る、所謂地下空間を持つ建物である。これまでの調査成果から竪穴建物の構造は二種類に大別され、①遺構底面四周にピット(柱穴)が廻るもの。このピットは上屋を支えるために十分な大きさの柱を持つものと、上屋を支えるには無理があるのではと思われるほど細い杭状の柱が立つ例がある。②遺構底面四周に土台角材を配するもの。この土台角材は礎石や礎板の上に置くものと、平面長方形に整形した凝灰質砂岩の切石の上に土台材を置くものがある。また、切石は床面全体に敷きつめるものと、遺構四周だけに切石を廻し、建物中央は土台材と床板を敷く二例がある。

鎌倉市街地遺跡で発見される竪穴建物は、他の地域に比べて構造類型が多様化していることが知られており、本調査地で検出した竪穴建物は、遺構底面四周にピットが廻る、所謂「柱穴建て」と呼ばれる竪穴建物の発見はなかったが、遺構底面四周に土台角材を配する「土台建て」と呼ばれる竪穴建物の類はすべての構造を狭小な調査面積内で検出した。建物構造の時期的変遷は第5面で検出した土台材の下に礎石を置くやや簡易な構造から、第4面・第3面と時代が下ると、平面長方形に整形した凝灰質砂岩切石を壁、土台に使用する構造に移っている。本調査地の出土遺物を観察すると、石材加工を窺わせる多量のチャート片や、鑿等の金属製品工具類、鋳物師の存在を窺わせる鉄滓、碗型滓、鞴の羽口、鎌倉近辺に産地はなく、何らかの使用目的で搬入したカオリナイト塊、陶磁器の修復等に使用したのだろうか、片貝に筆痕の残る漆液が付着したもの等、工人の存在を窺わせる出土遺物を見るが、全ての竪穴建物が調査区外に延び遺構の全貌が明らかにできなかったことも含め、発見した竪穴建物の用途・性格について述べることができない。

本調査地の北側に若宮大路と小町大路を結ぶ道が東西に走り、その道以北は鎌倉幕府中枢域となることがわかっている。また、本調査地を含む周辺は道を隔てると一変する様相がこれまでの調査成果で解っており、「住居」あるいは「倉庫」としての竪穴建物が並ぶ様相を本調査でも裏付けされた。また、本

調査地の南に位置する地点１では本調査地で発見した遺構の年代よりもやや下るが大巧寺に関連すると思われる土坑墓が検出されており、調査地を含む周辺の竪穴建物が大巧寺の付随施設であった可能性も考えている。

＜参考・引用文献＞

・『日本歴史大系 14 巻』　「神奈川県の地名」　平凡社　1984 年
・『鎌倉市史　総説編』　高柳光寿　吉川弘文館　1959 年
・『鎌倉市史　考古編』　赤星直忠　吉川弘文館　1967 年
・『鎌倉事典』　東京堂出版　平成 4 年　白井永二
・『中世瀬戸窯の研究』　高志書院　藤澤良祐　2008 年
・『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』　愛知県　常滑・中野晴久　2012 年
・『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』　愛知県　渥美・安井俊則　2012 年
・『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編―』　太宰府市教育委員会　2000 年
・『中世都市研究　第 1 号』「「方形竪穴建築址」考―鎌倉市内における分布と分類―」　汐見一夫　1991 年
・『中世都市研究　第 1 号』　「方形竪穴建築址の理解に向けて」－中世の大壁造建物について―　宗臺秀明　1991 年
・『考古学研究　第 46 巻　第 3 号（通巻 183 号)』　「方形竪穴建物の機能と変遷」　宗臺秀明　1992 年
・『日本考古学　第 21 号』「中世「竪穴建物」の検討」　鈴木弘太　2006 年
・『小町 1 丁目 309 番 5 地点発掘調査報告書（－松風堂ビル建設に伴う中世遺跡（推定藤内定員邸跡）の発掘長査報告書―）』　(推定)藤内定員邸跡発掘調査団　1983 年
・『(推定)藤内定員邸跡遺跡』　鎌倉市教育委員会　1985 年
『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10』(第 3 分冊)　「若宮大路周辺遺跡（№242）小町 1 丁目 325 番イ外地点」鎌倉市教育委員会　1994 年
・『宇都宮辻子幕府跡発掘調査報告書(小町 2 丁目 361 番 1 地点)』 宇都宮辻子幕府跡発掘調査団　1996 年
・『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書（小町 1 丁目 322 番地点・鎌倉スポーツクラブ用地)』　若宮大路周辺遺跡群発掘調査団　1997 年
・『若宮大路周辺遺跡群(№242)発掘調査報告書(鎌倉市小町 1 丁目 319 番 1 外 4 筆)』　－(仮称)鎌倉ホテル新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査―　株式会社齋藤建設　2018 年

＜調査地点一覧表(図 1)＞

No.	地番	所収報告書
1	小町1丁目324番4	本調査地
2	小町1丁目322	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書　鎌倉スポーツクラブ用地』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団　1997年

3	小町1丁目322番2	「若宮大路周辺遺跡群」『神奈川県埋蔵文化財調査報告30』神奈川県教育委員会　1988年
4	小町1丁目325番イ外	「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財調査報告書10(第3分冊)』鎌倉市教育委員会　1994年
5	小町1丁目321番1	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書　鎌倉警察署構内』若宮大路周辺遺跡発掘調査団　1996年
6	小町1丁目319番1外4筆	『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書(仮称)鎌倉ホテル新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』齋藤建設　2018年
7	小町1丁目319番2	「籐内定員跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1』鎌倉市教育委員会　1983年
8	小町1丁目309番5	『松風堂ビル建設工事に伴う中世遺跡(推定藤内定員邸跡)の発掘調査報告書』(推定)藤内定員邸跡発掘調査団　1983年
9	小町1丁目309番4	「籐内定員跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1』鎌倉市教育委員会　1983年
10	小町1丁目891番	『(推定)藤内定員邸跡―鎌倉市中央公民館用地内遺跡の発掘調査報告書―』鎌倉市教育委員会　1985年
11	小町1丁目305・308番	「小町1丁目305番ロ、308番所在遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1』
12	小町1丁目333番2	「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書36(第1分冊)』 2020年
13	小町1丁目333番15	「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31(第2分冊)』 2015年
14	小町1丁目331番1	報告書作成中
15	小町1丁目329番1・10	『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』㈱博通　2014年
16	小町1丁目329番1・8	『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』㈱博通　2019年
17	小町1丁目329番7	『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』㈱博通　2016年

遺構計測表

遺構No.	出土面	種別	長軸	短軸	深さ	遺構No.	出土面	種別	長軸	短軸	深さ
1	1	土坑	262	(221)	36	71	1	ピット	(27)	(15)	7
2	1	ピット	(46)	(22)	18	72	1	ピット	29	27	12
3	1	ピット	28	24	8	73	欠番				
4	1	溝状土坑	(329)	24～28	16～24	74	1	ピット	34	22	11
5	1	ピット	(32)	26	24	75	1	ピット	19	19	10
6	2a	ピット	(58)	(27)	22	76	欠番				
7	1	ピット	(79)	(27)	10	77	2a	土坑	(253)	(72)	32
8	2a	土坑	(59)	55	18	78	1	土坑	239	(177)	33
9	2a	ピット	(33)	(11)	12	79	2a	土坑	117	82	18
10	2a	ピット	(49)	(20)	14	80	欠番				
11	2a	ピット	21	20	4	81	2a	ピット	43	36	28
12	2a	ピット	31	26	17	82	2a	ピット	55	(57)	22
13	2a	土坑	183	78	31	83	2a	ピット	59	44	19
14	2a	土坑	(70)	42	33	84	2a	ピット	46	42	27
15	欠番					85	2a	土坑	(95)	92	18
16	欠番					86	2a	ピット	38	34	24
17	3	ピット	40	38	41	87	欠番				
18	3	竪穴建物	519	81～118	47	88	2a	ピット	(41)	(27)	20
19	3	土坑	(108)	(94)	28	89	2a	ピット	(41)	(23)	29
20	3	竪穴建物	(265)	(187)	(72)	90	2a	ピット	32	26	11
21	2b	ピット	32	32	9	91	2a	土坑	(69)	(66)	22
22	2b	ピット	70	62	79	92	2a	土坑	(51)	56	18
23	3	土坑	(81)	(18)	16	93	2a	ピット	(51)	54	19
24	3	ピット	44	32	8	94	2b	土坑	(120)	(35)	(37)
25	3	ピット	(38)	38	9	95－A	2b	土坑	374	(302)	55
26	3	ピット	40	33	8	95－B	3	竪穴建物	(348)	(92)	(87～112)
27	3	ピット	26	25	9	96	2b	土坑	(46)	(44)	29
28	3	ピット	31	(26)	12	97	2b	ピット	(42)	(20)	15
29	2b	ピット	28	25	20	98	2b	土坑	146	(102)	23
30	欠番					99	4	竪穴建物	474 (517)	102(133)	56
31	3	ピット	31	28	11	100	欠番				
32	3	ピット	(36)	(10)	12	101	4	ピット	24	20	9
33	3	ピット	24	17	5	102	欠番				
34	3	ピット	21	19	8	103	4	土坑	(87)	58	26
35	3	ピット	(23)	18	10	104	4	ピット	(25)	(18)	39
36	3	ピット	22	(15)	15	105	4	土坑	(63)	(26)	24
37	3	ピット	16	14	7	106	5	竪穴建物	(322)	(118)	(134)
38	4	ピット	(46)	(9)	34	107	欠番				
39	4	ピット	(27)	(15)	28	108	5	ピット	34	(26)	8
40	4	ピット	49	42	46	109	5	ピット	47	(32)	9
41	4	ピット	38	(34)	24	110	5	ピット	27	24	9
42	4	ピット	41	36	56	111	5	ピット	34	25	15
43	4	ピット	29	26	21	112	5	ピット	30	(18)	9
44	4	ピット	33	30	27	113	5	トレンチ	(130)	(120)	
45	4	ピット	(33)	33	38	114	3	土坑	(62)	(33)	33
46	4	ピット	28	25	21	115	4	ピット	(33)	(24)	24
47	4	ピット	46	40	26	116	5	ピット	34	(20)	5
48	4	ピット	25	22	10	117	5	ピット	27	17	17
49	4	ピット	44	40	44	118	5	ピット	35	27	12
50	4	ピット	(33)	42	42	119	5	ピット	(37)	(12)	15
51	4	ピット	30	28	14						
52	4	ピット	(32)	(20)	24						
53	4	ピット	30	30	21						
54	4	ピット	(25)	31	27						
55	4	ピット	(37)	(14)	27						
56	4	ピット	27	19	19						
57	4	ピット	(31)	(21)	22						
58	3	ピット	(26)	(24)	5						
59	4	ピット	22	20	22						
60	4	ピット	72	40	26						
61	4	ピット	29	27	23						
62	4	ピット	21	20	10						
63	5	ピット	34	30	28						
64	5	ピット	27	25	7						
65	4	土坑	(82)	(35)	22						
66	1	ピット	36	35	19						
67	2a	土坑	(104)	(34)	36						
68	1	ピット	24	22	22						
69	1	ピット	26	23	21						
70	欠番										

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
7	1	第1面 遺構1	土器	かわらけ	(7.30)	(5.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:橙色　e:1/4
7	2	第1面 遺構1	土器	かわらけ	(7.70)	(6.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/2
7	3	第1面 遺構1	土器	かわらけ	7.80	5.10	1.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・泥岩粒・雲母・小石粒・粗土　c:黄灰色　e:完形　g:46g
7	4	第1面 遺構1	土器	かわらけ	12.80	8.30	3.85	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:淡橙色　e:1/2　f:歪み有り
7	5	第1面 遺構1	土器	かわらけ	13.30	7.90	3.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:2/3　f:歪み大
7	6	第1面 遺構1	舶載 磁器	青磁 坏	—	—	[3.30]	a:ロクロ・内外面無文　b:精良堅緻　c:褐色　d:不透明な青緑色　e:口縁部片　f:竜泉窯・坏Ⅲ類
7	7	第1面 遺構1	舶載 磁器	青白磁 梅瓶	—	(9.60)	[4.70]	a:ロクロ・高台畳み付けと高台内露胎・外面下部1本の沈線が巡る・外面蓮華文か　b:精良堅緻　c:灰白色　d:透明な青緑色　e:底部片
7	8	第1面 遺構1	陶器	常滑 甕	—	—	[5.20]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　d:自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片　f:縁帯下部摩耗　6a型式
7	9	第1面 遺構1	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[5.70]	a:輪積み・外面口縁部下は横位のナデ・横位のナデより下は縦位のヘラによるナデ・内面横位のナデ　b:微砂・白色粒・雲母　c:橙色　e:口縁部片　f:7型式か
7	10	第1面 遺構1	陶器	瀬戸 卸皿	—	—	[2.90]	a:ロクロ　b:微砂　c:灰色　d:透明な灰緑色　e:口縁部片　f:前期後半～中期前半
7	11	第1面 遺構1	土器	火鉢	—	—	[6.80]	b:微砂・長石・黒色粒・硬質 c:暗灰色　e:口縁部片　f:ⅠC類・口縁下部に内面から穿孔有り（未貫通）・内外面黒色・瓦器質
7	12	第1面 遺構1	石製品	砥石	[6.80]	[4.10]	3.40	a:砥面1面遺存・切り出し痕1面遺存　c:黄白色　e:一部欠損　f:伊予産・中砥
8	1	第1面 遺構4	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.65]	a:輪積み・外面下部横位のナデ　b:微砂・白色粒・小石粒　c:茶褐色　d:自然降灰・茶褐色　e:口縁部片　f:6a型式
8	2	第1面 遺構4	土器	火鉢	—	—	[10.1]	a:外面横位のミガキ・内面串状工具による横位のナデ・外面口縁下部二本の界線の間に不鮮明だが菱形の中に〇文の押印が連続して施文　b:微砂・小石粒　c:白色　d:外面黒色処理 e:1/6　f:Ⅳ－B類・瓦器質
9	1	第1面 遺構78	土器	かわらけ	(7.60)	4.80	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒・粗土　c:灰黄色　e:4/5
9	2	第1面 遺構78	土器	かわらけ	8.00	5.10	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:ほぼ完形　f:歪み大 g:58g
9	3	第1面 遺構78	瓦	平瓦	[7.45]	[6.7]	2.0～2.3	a:凸面一縄目痕・凹面一布目痕・離れ砂付着　b:微砂・雲母　c:灰白色　e:小片　f:永福寺平瓦A類
9	4	第1面 遺構78	土器	器種不明	—	—	7.70	a:内面横位のナデ・外面斜位、横位のナデ　b:微砂・雲母・小石粒　c:灰黄色　e:胴部片　f:かわらけ胎土に近似・壺か
9	5	第1面 遺構78	石製品	砥石	[4.75]	3.50	0.9～1.0	a:砥面2面遺存・切り出し痕2面遺存　c:淡緑色　e:一部欠損　:鳴滝産・仕上砥
9	6	第1面 遺構78	石製品	砥石	[3.70]	[4.30]	1.2～1.4	a:砥面2面遺存　c:灰白色　e:一部欠損　f:伊予産・中砥を仕上砥として利用か
9	7	第1面 遺構78	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.70	厚さ 0.10	e:完形　f:元祐通寶・行書・北宋 初鋳年:1086年　g:3.6g
10	1	第1面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[6.30]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色　d:口縁端部から肩部にかけて自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片　f:6a～6b型式か
10	2	第1面 面上	石製品	砥石	[7.60]	[3.30]	[0.4～ 0.6]	a:砥面1面遺存・切り出し痕2面遺存 c:黄白色　e:一部欠損　f:鳴滝産・仕上砥
10	3	第1面 構成土	土器	かわらけ	(7.20)	(5.60)	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:微砂・泥岩粒　c:赤橙色 e:3/5
10	4	第1面 構成土	土器	かわらけ	7.40	4.60	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒　c:灰黄色　e:4/5
10	5	第1面 構成土	土器	かわらけ	8.20	5.10	2.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:淡橙色　e:ほぼ完形・歪み大　g:67g
10	6	第1面 構成土	土器	かわらけ	8.30	6.00	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒　c:黄灰色　e:ほぼ完形　f:歪み大　g:66g
10	7	第1面 構成土	土器	かわらけ	(8.60)	(5.60)	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:白色粒・雲母　c:橙色　e:3/5
10	8	第1面 構成土	土器	かわらけ	(6.50)	(3.80)	2.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・泥岩粒　c:赤橙色 e:2/3　f:歪み大・極小の器形
10	9	第1面 構成土	土器	かわらけ	(12.20)	(7.80)	3.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒　c:灰黄色　e:1/3
10	10	第1面 構成土	土器	かわらけ	(13.40)	(8.20)	3.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:1/3　f:口唇部厚く油煤痕・外底部黒色に変色
10	11	第1面 構成土	土製品	器種不明	[3.80]	[4.0]	[1.10]	a:表面-器壁剥離・裏面-布あるいは木目のような痕跡あり　b:海綿骨針・雲母　c:灰黄色　e:不明　f:胎土はかわらけ質
10	12	第1面 構成土	舶載 磁器	青白磁 皿	—	—	[2.40]	a:口唇部口冗・内面型押し(雷文+不明)　c:灰白色　d:透明な青灰白色　e:口縁部片
10	13	第1面 構成土	舶載 磁器	青白磁 梅瓶	—	—	[4.20]	a:ロクロ・高台畳み付きと高台内部露胎　b:精良堅緻　c:灰色　d:透明な水色　e:底部片　f:外面下部２本の沈線が巡る
10	14	第1面 構成土	舶載 陶器	褐釉 壺	(9.20)	—	[3.0]	a:輪積み　b:微砂・精良堅緻　c:暗褐色　d:暗赤褐色　e:口縁部片

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
10	15	第1面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[5.30]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:暗灰色 d:自然降灰・暗灰色 e:口縁部片 f:6a～7b型式
10	16	第1面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[2.90]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 d:自然降灰・茶褐色 e:口縁部片 f:5型式
10	17	第1面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[3.50]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:暗灰色 d:自然降灰・灰褐色 e:口縁部片 f:6b型式
10	18	第1面 構成土	陶器	瀬戸 端反碗	—	—	[2.90]	a:ロクロ b:微砂 c:灰色 d:灰緑色 e:口縁部片 f:後期Ⅳか
10	19	第1面 構成土	陶器	瀬戸 折縁深皿	—	—	[6.0]	a:ロクロ b:微砂 c:灰色 d:灰緑色 e:口縁部片 f:中期後半か
10	20	第1面 構成土	陶器	瀬戸 花瓶	—	—	[7.60]	a:ロクロ・耳環貼付け・肩部に花文の印刻 b:微砂 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:胴部片 f:中期Ⅱ期・花瓶ⅠB類
10	21	第1面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 転用品	4.10	5.00	0.90	b:微砂・白色粒 c:茶褐色 e:片口鉢の口縁端部が摩耗している
10	22	第1面 構成土	土器	火鉢	—	—	[5.25]	b:微砂・小石粒 c:赤橙色 e:口縁部片 f:ⅠB類・内外面ともに被熱のため器壁剥離・土器質
10	23	第1面 構成土	土器	火鉢	—	—	[4.50]	a:口縁端部が凸状に内面側に張り出す・内面細かい横位のナデ b:微砂 c:灰色 d:内外面黒色 e:口縁部片 f:口縁下部に孔の痕跡有・ⅠC類・瓦器質
10	24	第1面 構成土	瓦	平瓦	[13.80]	[15.70]	2.40	a:凸面-側面に平行した縄叩き痕・離れ砂付着・凹面-布目痕・離れ砂付着・端縁一ヘラケズリ b:砂粒・白色粒・硬質 c:灰色 e:不明 f:永福寺平瓦A類
10	25	第1面 構成土	石製品	砥石	[5.90]	[4.10]	[0.80]	a:砥面１面遺存・切り出し痕3面遺存 c:灰白色 e:一部欠損 f:鳴滝産・仕上砥
10	26	第1面 構成土	石製品	砥石	(4.30)	3.30	0.60	a:切り出し痕2面遺存 c:黄白色 e:両端欠損 f:産地不明・中砥を仕上砥として使用か
10	27	第1面 構成土	石製品	滑石鍋 転用品	[4.90]	5.20	1.30	c:灰色 e:口縁部片 f:内外面ともに刃物痕有・加工途中か
10	28	第1面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	4.50	0.70	0.70	a:鍛造 e:完形 f:錆付着 g:5g
10	29	第1面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	4.50	0.70	0.60	a:鍛造 e:完形 f:錆付着 g:3g
10	30	第1面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[5.30]	0.80	0.80	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:4g
10	31	第1面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[5.30]	0.60	0.70	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:6g
10	32	第1面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[7.60]	1.10	0.90	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:14g
10	33	第1面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[9.40]	[0.40]	0.30	a:鍛造 e:完形 f:錆付着・断面方形 g:14g
10	34	第1面 構成土	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.60	厚さ 0.10	f:熙寧元寶・真書・北宋・初鋳年1068年 g:4g
12	1	第2a面 遺構8	土器	かわらけ	(7.90)	(5.00)	1.65	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/3 f:底部穿孔あり
12	2	第2a面 遺構8	石製品	砥石	[6.75]	[3.80]	0.4～0.8	a:砥面2面遺存・切り出し痕3面遺存 c:灰白色 e:一部欠損 f:鳴滝産・仕上砥
12	3	第2a面 遺構8	金属 製品	鉄製品 釘	8.05	0.90	0.90	a:鍛造 e:ほぼ完形 f:錆付着 g:11g
12	4	第2a面 遺構13	土器	かわらけ	(11.60)	(6.40)	3.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・雲母・泥岩粒 c:黄橙色 e:1/5
12	5	第2a面 遺構13	陶器	瀬戸 入子	—	(4.40)	[1.30]	a:ロクロ・底部篦状工具による整形 b:微砂・白色粒 c:灰白色 e:底部片
12	6	第2a面 遺構13	陶器	産地不明 壷	—	—	[3.55]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:暗褐色 e:底部片 f:内面被熱を受けガラス化している
12	7	第2a面 遺構13	瓦	平瓦	[7.20]	[10.5]	2.0～2.4	a:凸面-ナデ整形で叩き文を消している・凹面-布目痕 b:海綿骨針・砂粒・石粒・雲母 c:灰色 e:小片 f:永福寺平瓦D類
12	8	第2a面 遺構13	石製品	砥石	[7.80]	3.40	0.70	a:砥面2面遺存・切り出し痕3面遺存 c:灰緑色 e:一部欠損 f:鳴滝産・仕上砥
12	9	第2a面 遺構13	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.20	孔幅 0.55	0.10	e:完形 f:熙寧元寶・篆書・北宋・初鋳年1068年 g:3.1g
12	10	第2a面 遺構67	舶載 磁器	青磁 碗	—	(4.80)	[2.10]	a:ロクロ・外面鎬蓮弁文・内面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な青緑色 e:底部片 f:碗Ⅱ類・竜泉窯
12	11	第2a面 遺構77	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.20]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:褐色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:4型式・内面摩耗
12	12	第2a面 遺構79	土器	かわらけ	(6.80)	(4.60)	1.35	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/4 f:内面黒色に変色
12	13	第2a面 遺構79	陶器	渥美 甕	—	—	[2.20]	a:輪積み b:微砂 c:灰色 d:自然降灰・灰黒色 e:口縁部片
12	14	第2a面 遺構79	土器	かわらけ 転用品	直径 3.10	—	0.65	b:海綿骨針・雲母 c:橙色 f:かわらけ底部を円盤状に加工・表裏面、側面共に滑らかに整形している・遊戯具か
12	15	第2a面 遺構79	石製品	砥石	[3.35]	[2.80]	[2.10]	a:砥面1面のみ遺存 c:灰黒色 e:一部欠損 f:天草産・中砥

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
12	16	第2a面 遺構82	陶器	瀬戸 緑釉小皿	—	—	[2.0]	a:ロクロ　b:微砂　c:灰色　d:透明な灰緑色　e:口縁部片　f:後期前半
12	17	第2a面 遺構84	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.35]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母・小石粒　c:暗灰色　e:口縁部片　f:5型式
12	18	第2a面 遺構85	土器	かわらけ	(14.20)	(8.40)	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:赤色粒・雲母・良土　c:黄橙色　e:1/2
12	19	第2a面 遺構85	陶器	常滑 甕	—	—	[6.30]	a:輪積み　b:白色粒・小石粒　c:暗褐色　d:自然降灰・暗赤褐色　e:口縁部片　f:7型式
12	20	第2a面 遺構85	石製品	砥石	[3.20]	[3.70]	[1.8～ 2.1]	a:砥面1面遺存・切り出し痕2面遺存　c:灰白色・部分的に赤色　e:一部欠損　f:天草産・中砥
12	21	第2a面 遺構85	金属 製品	鉄製品 釘	6.45	0.70	0.80	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:7g
12	22	第2a面 遺構85	金属 製品	鉄製品 釘	[5.50]	[0.70]	0.80	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
12	23	第2a面 遺構85	金属 製品	鉄製品 釘	[4.65]	[0.75]	0.65	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:5g
12	24	第2a面 遺構86	土器	かわらけ	(6.50)	(4.60)	1.85	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:黄橙色　e:1/2
12	25	第2a面 遺構86	瓦	平瓦	[5.60]	[5.60]	[2.0]	a:凸面-縄目痕・離れ砂・凹面-離れ砂・布目痕不明瞭　b:砂粒・小石粒・軟質　c:灰色 e:小片　f:永福寺平瓦A類
12	26	第2a面 遺構86	金属 製品	鉄製品 釘	[6.05]	[1.20]	[1.20]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:15g
12	27	第2a面 遺構86	金属 製品	鉄製品 釘	[5.40]	[0.90]	[1.0]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
12	28	第2a面 遺構91	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[5.80]	a:輪積み　高台部貼付け・外面下部横位のヘラナデ　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色 e:底部片　f:内面摩耗
12	29	第2a面 遺構92	金属 製品	鉄製品 釘	4.45	0.90	0.85	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:5g
12	30	第2a面 遺構93	金属 製品	鉄製品 釘	[4.40]	(0.90)	(0.85)	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:5g
12	31	第2a面 遺構93	金属 製品	鉄製品 釘	[5.50]	0.60	0.40	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
13	1	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	7.40	4.80	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:淡黄色　e:完形　g:51.3g
13	2	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	7.40	4.90	1.85	a:ロクロ・底部回転糸切痕不明瞭・内底強く横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:黒色粒・雲母　c:淡黄色　e:2/3　f:底部粘土板貼付けか
13	3	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	7.50	4.60	1.75	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・粗土　c:黄橙色　e:1/2　f:底部粘土板貼付けか
13	4	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	7.60	4.60	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:黄橙色　e:ほぼ完形　g:47.2g
13	5	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	7.60	5.00	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:ほぼ完形　g:52.1g
13	6	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	7.90	5.30	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:淡橙色　e:ほぼ完形　g:55.3g
13	7	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	10.40	5.90	3.05	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:黄橙色　e:ほぼ完形　g:102.3g
13	8	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	(10.90)	(6.50)	3.00	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明　b:黒色粒・雲母・泥岩粒 c:淡橙色　e:1/4
13	9	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.00	7.40	3.45	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒・粗土　c:橙色　e:ほぼ完形　g:150.0g
13	10	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.10	7.30	3.45	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒・粗土　c:橙色　e:完形　g:147.8g
13	11	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.10	7.50	3.35	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・粗土　c:橙色　e:完形　f:外側面一部に油煤痕・歪み大　g:183.1g
13	12	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.20	7.30	3.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・やや良土　c:淡橙色　e:ほぼ完形　g:152.3g
13	13	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.40	7.40	3.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・粗土　c:黄橙色　e:2/3
13	14	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.50	7.50	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:ほぼ完形　f:歪み有り　g:200.7g
13	15	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.50	8.30	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・粗土　c:灰黄色　e:4/5　f:口唇部、外側面一部に油煤痕・歪み大
13	16	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.60	7.00	3.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:黄橙色　e:完形　g:181.9g
13	17	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	12.90	8.50	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:黒色粒・雲母・良土　c:橙色 e:2/3
13	18	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	13.00	8.40	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・粗土　c:橙色　e:4/5　f:歪み大
13	19	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	13.00	6.40	3.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:赤色粒・雲母・良土　c:淡橙色 e:1/2　f:薄手の器壁をもつ・内面回転ナデ痕が顕著に残る

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
13	20	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	(13.20)	(7.60)	3.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕不明瞭 b:黒色粒・雲母 c:黄橙色 e:1/2 f:薄手の器壁をもつ
13	21	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	13.10	8.00	3.75	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:赤色粒・雲母・良土 c:淡橙色 e:ほぼ完形 f:口唇部やや内側に折れる・薄手の器壁をもつ g:180.8g
13	22	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	13.40	8.00	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・雲母・良土 c:黄橙色 f:薄手の器壁をもつ e:4/5
13	23	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	(13.40)	7.90	3.35	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:黒色粒・雲母 c:黄橙色 e:3/4 f:歪み有り
13	24	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	13.40	8.00	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・雲母・良土 c:黄橙色 e:ほぼ完形 f:底部粘土板貼付けか・外側面回転調整痕が顕著に残る。 g:205.3g
13	25	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	(13.60)	7.40	3.55	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:赤色粒・黒色粒・雲母 c:淡橙色 e:2/3 f:薄手の器壁をもつ・口唇部やや内側に折れる
13	26	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	(13.00)	(7.20)	3.95	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:赤色粒・雲母・良土 c:橙色 e:2/3
13	27	第2b面 遺構94	土器	かわらけ	13.9	7.7	3.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒 c:淡橙色 e:4/5
14	1	第2b面 遺構95A	土器	てづくね	(8.80)	—	1.50	a:てづくね・内底ナデ不明・外底指頭痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/2 f:口縁部一部に油煤痕
14	2	第2b面 遺構95-A	土器	かわらけ	7.80	4.90	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・赤色粒・雲母・c:灰黄色 e:3/4
14	3	第2b面 遺構95-A	土器	かわらけ	(7.80)	5.60	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・赤色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:3/4 f:口唇部一部に油煤痕・底部粘土板貼付けか?
14	4	第2b面 遺構95-A	土器	かわらけ	12.15	7.20	3.45	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・粗土 c:黄橙色 e:ほぼ完形 f:底部粘土板貼付けか・歪み大 g:176.0g
14	5	第2b面 遺構95A	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.0]	a:ロクロ・内面薄く草花文と雲文状の片彫・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な青緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅲ類か
14	6	第2b面 遺構95A	舶載 磁器	青磁 碗	—	5.60	[3.30]	a:ロクロ・内面無文・外面鎬蓮弁文・高台部畳み付け施釉・高台内部露胎 c:灰緑色 e:底部片 f:碗Ⅱ類・竜泉窯・見込みに細かい傷有り、使用痕か
14	7	第2b面 遺構95A	舶載 磁器	白磁 皿	(10.40)	(5.80)	2.70	a:口縁端部口兀 b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰白色 e:1/3 f:外底部板状工具で施釉・ⅢIX-1b類
14	8	第2b面 遺構96A	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.00]	a:輪積み・高台部貼付け・外面下部篦状工具による横位のナデ b:微砂・白色粒 c:灰白色 e:底部片 f:内面摩滅・高台接地面籾殻痕
14	9	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.10]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:灰色 d:自然降灰 e:口縁部片 f:6a型式
14	10	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.10]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:灰色 e:胴部片 f:高台部貼付け・胴部下部篦状工具による横位のナデ痕
14	11	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 広口壺	—	—	[4.0]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:暗赤褐色 e:口縁部片 f:4～5型式・胎土は砂分多く粘性低い
14	12	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 甕	—	—	[6.10]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰褐色 d:口縁端部と肩部に自然降灰・暗緑褐色 e:口縁部片 f:5型式
15	13	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 広口壺	—	—	[6.25]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:暗灰色 d:口縁頂部と肩部に自然降灰・暗緑褐色 e:口縁部片 f:5型式
15	14	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 甕	[8.10]	[6.90]	[1.10]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:暗茶褐色 d:自然降灰・明茶褐色 e:胴部片 f:二重升の中に×印の押印(4個1単位)
15	15	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 甕	—	—	[3.80]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰褐色 d:自然降灰・緑茶褐色 e:口縁部片 f:5型式
15	16	第2b面 遺構95A	陶器	常滑 甕	—	—	[11.1]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:暗褐色 d:口縁端部から肩部にかけて自然降灰・暗緑褐色 e:口縁部片 f:7型式
15	17	第2b面 遺構95A	土器	火鉢	—	—	[6.50]	a:内面横位のナデ・外面口縁下は横位のナデ、それ以下は指頭痕+ハケ目 b:硬質・微砂・白色粒・海綿骨針・雲母 c:赤褐色 d:内外面黒色処理か e:口縁部片 f:ⅠC類・一ヶ所穿孔有・瓦器質
15	18	第2b面 遺構95A	瓦	平瓦	[13.20]	[11.20]	1.8～2.0	a:凸面-「×」状の斜格子叩き・凹面-離れ砂付着 b:軟質・微砂・雲母・黒色粒・小石粒 c:灰色 e:小片 f:永福寺平瓦C類
15	19	第2b面 遺構95A	金属 製品	鉄製品 釘	6.30	1.30	1.20	a:鍛造 e:ほぼ完形 f:錆付着 g:18g
15	20	第2b面 遺構95A	金属 製品	鉄製品 釘	[5.20]	[0.90]	[1.00]	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:6g
15	21	第2b面 遺構95A	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.50	0.10	f:淳化元寶・真書・北宋・初鋳年990年 g:4g
16	1	第2ｂ面 遺構21	金属 製品	鉄製品 釘	[4.95]	0.70	0.90	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:7g
16	2	第2ｂ面 遺構22	土器	てづくね	(8.80)	—	2.00	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:2/3
16	3	第2ｂ面 遺構22	土器	てづくね	(8.90)	—	1.55	a:てづくね・内底回転ナデ・外底指頭＋ナデ b:海綿骨針・黒色粒・良土 c:灰黄色 e:1/3
16	4	第2ｂ面 遺構22	土器	てづくね	(9.00)	—	1.70	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ b:海綿骨針・黒色粒・雲母・良土 c:灰黄色 e:1/2

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
				単位：cm/復元値[ ]/残存値( )				a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
16	5	第2ｂ面 遺構22	土器	てづくね	(9.60)	—	1.70	a:てづくね・内底ナデ不明・外底指頭＋ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:2/3　f:表裏表面にｶﾅ文字の墨書あり（判読不明）
16	6	第2ｂ面 遺構22	土器	かわらけ	(8.30)	7.20	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデの後見込み周を回転ナデ・板状圧痕不明　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:黄橙色　e:2/3　f:底部糸切痕が不規則な形状を呈する・回転糸切の後1点を起点に糸切りをやり直している・底部には粘土痕が付着し底部粘土板貼付けの様相も呈する
16	7	第2ｂ面 遺構22	土器	かわらけ	8.70	7.00	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・赤色粒・黒色粒・雲母・泥岩粒・小石粒　c:黄橙色　e:ほぼ完形　f:歪み大　g:87g
16	8	第2ｂ面 遺構22	土器	かわらけ	(12.40)	(7.00)	3.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/3
16	9	第2b面 遺構96	土器	かわらけ	13.30	7.80	3.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・赤色粒・黒色粒・雲母　c:橙色　e:ほぼ完形　f:薄手の器壁をもつ　g:158.0g
16	10	第2b面 遺構96	土器	かわらけ	13.40	8.00	3.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母・粗土　c:黄橙色　e:ほぼ完形　f:薄手の器壁をもつ・口唇部、内外面一部に油煤痕　g:195.0g
17	1	第2面 面上	陶器	常滑 壺	—	—	[1.35]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:灰色　d:自然降灰・暗赤褐色　e:口縁部片　f:6a型式
17	2	第2面 面上	陶器	常滑 広口壺	—	—	[7.30]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色　d:自然降灰・緑茶褐色　e:口縁部片　f:6a型式
17	3	第2面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[4.20]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:灰色　d:自然降灰・暗緑褐色　e:口縁部片　f:6a型式
17	4	第2面 面上	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[3.30]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:灰色　d:自然降灰・暗赤褐色　e:口縁部片　f:6b型式か
17	5	第2面 面上	石製品	砥石	[6.60]	[3.20]	[2.80]	a:砥面2面遺存・切り出し痕２面遺存　c:灰白色　e:一部欠損　f:伊予産・中砥
17	6	第2面 面上	金属 製品	鉄製品 釘	[4.50]	[0.80]	[0.80]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
17	7	第2面 面上	金属 製品	鉄製品 釘	[5.20]	[0.70]	[0.60]	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:5g
17	8	第2面 面上	金属 製品	鉄製品 釘	[6.70]	[1.0]	[0.90]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:15g
17	9	第2面 面上	金属 製品	不明	[11.1]	[2.10]	[1.10]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着・断面長方形・工具か g:65g
17	10	第2面 構成土	土器	てづくね	(12.60)	—	3.50	a:てづくね・口唇部一段ナデ・外底指頭＋ナデ　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/4
17	11	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.40)	(5.40)	1.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:黄橙色　e:1/2
17	12	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.20)	(5.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・赤色粒・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:淡橙色　e:3/4
17	13	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.50)	(5.20)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:淡橙色　e:3/4　f:外底脇籾殻状の痕
17	14	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.70)	(5.60)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:橙色　e:2/3
17	15	第2面 構成土	土器	かわらけ	7.60	5.00	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ　b:海綿骨針・泥岩粒　c:黄橙色　e:ほぼ完形　f:糸切の糸痕が外側面まで上がる　g:54.0g
17	16	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.20)	(4.60)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・小石粒・雲母　c:黄橙色　e:3/4
17	17	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.80)	(6.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・赤色粒・雲母・良土　c:淡橙色　e:3/4　f:底部脇粘土ｸｽﾞ付着
17	18	第2面 構成土	土器	かわらけ	(8.10)	(5.30)	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母　c:橙色　e:4/5
17	19	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.60)	(5.40)	2.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・小石粒　c:灰黄色　e:1/2　f:外側面縦位の指頭によるナデ痕
17	20	第2面 構成土	土器	かわらけ	(7.60)	5.00	2.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:2/3
17	21	第2面 構成土	土器	かわらけ	(6.80)	(3.80)	2.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:白色粒・雲母　c:淡橙色　e:4/5　f:薄手の器壁をもつ・口唇部油煤痕
17	22	第2面 構成土	土器	かわらけ	(12.60)	(7.80)	3.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・小石粒　c:黄橙色　e:3/4
17	23	第2面 構成土	土器	かわらけ	(12.80)	(6.80)	2.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/2
17	24	第2面 構成土	土器	かわらけ	(12.80)	(6.10)	3.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・赤色粒・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:1/2　f:内面に鉄塊付着・薄手の器壁をもつ
17	25	第2面 構成土	土器	かわらけ	(13.00)	(7.80)	3.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:雲母・良土　c:黄橙色　e:1/3　f:薄手の器壁をもつ
17	26	第2面 構成土	土器	かわらけ	(11.60)	7.60	3.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:1/2　f:口唇部、内外面油煤痕
17	27	第2面 構成土	土器	かわらけ	12.00	7.80	3.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:ほぼ完形　g:160.0g
17	28	第2面 構成土	土器	かわらけ	(13.30)	(8.00)	3.45	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:黄橙色　e:2/3

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
17	29	第2面 構成土	土器	かわらけ	(13.40)	(7.30)	3.85	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:黄橙色 e:2/3 f:内底薄く黒色に変色
17	30	第2面 構成土	土器	かわらけ	(18.50)	(11.00)	4.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:黄橙色 e:1/3 f:特大サイズ
17	31	第2面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	(6.00)	[1.90]	a:ロクロ・見込みに草花文の印花・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:底部片 f:碗Ⅱ類・竜泉窯・高台内部露胎
17	32	第2面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.10]	a:ロクロ・外面広弁の蓮弁文・内面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明の緑青色 e:口縁部片 f:竜泉窯
17	33	第2面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.20]	a:ロクロ・外面細弁の蓮弁文 b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な灰緑色 e:口縁部片 f:碗Ⅲ類・竜泉窯・被熱を受けている
17	34	第2面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.20]	a:ロクロ・外面細弁の蓮弁文・内面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な青緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・小碗Ⅲ類
17	35	第2面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	(4.00)	[3.20]	a:ロクロ・外面鏑蓮弁文・内面無文・高台部畳み付けと内部露胎 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な暗緑色 e:口縁部片 f:碗Ⅲ類・竜泉窯・見込み部分細かく傷が残る、使用痕か
17	36	第2面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	(9.70)	—	[3.00]	a:ロクロ・口縁部輪花状・内外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な灰緑色 e:口縁部片 f:小碗Ⅰ-3類・竜泉窯
17	37	第2面 構成土	舶載 磁器	白磁 皿	(10.80)	(6.00)	3.40	a:ロクロ・底部糸切り痕・口唇部口冗 b:精良堅緻・硬質 c:灰白色 d:灰白色 d:e:1/4 f:皿Ⅸ-Ⅰ類
17	38	第2面 構成土	舶載 磁器	白磁 皿	(11.40)	(5.60)	4.00	a:ロクロ・底部糸切り痕・口唇部口冗 b:精良堅緻・硬質 c:灰白色 d:灰白色 d:e:1/5 f:皿Ⅸ-Ⅰ類
17	39	第2面 構成土	舶載 磁器	白磁 壺	—	(7.80)	[2.15]	a:底部回転ヘラ切り・高台貼付け・高台畳み付けと内部露胎 c:灰白色 d:暗灰色 e:底部片 f:被熱を受け黒色に変色・四耳壺か
17	40	第2面 構成土	舶載 磁器	白磁 器種不明	—	—	[1.30]	b:堅緻 c:灰白色 d:内面透明な灰白色 e:口縁部片 f:外面釉剥離
17	41	第2面 構成土	舶載 陶器	緑釉 盤	—	—	[2.50]	b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 d:緑褐色 e:口縁部片
17	42	第2面 構成土	陶器	瀬戸 卸皿	—	(8.00)	[1.20]	a:ロクロ・底部回転糸切・底部露胎 b:微砂 c:灰色 d:灰緑色・ハケヌリ e:底部片 f:内面黒色に変色・卸目部分摩耗
17	43	第2面 構成土	陶器	瀬戸 卸皿	[5.20]	[4.60]	[1.30]	a:ロクロ・底部底部回転糸切・底部露胎 b:微砂 c:灰色 d:灰黄色 e:底部片 f:卸目幅大
17	44	第2面 構成土	陶器	尾張型 山茶碗	—	6.20	[1.90]	a:ロクロ・底部回転糸切・高台部貼付け b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 e:底部片 f:見込み摩耗・高台部籾殻痕・雑な整形
17	45	第2面 構成土	陶器	渥美 湖西系 鉢か	—	—	[3.90]	b:微砂・白色粒・軟質 c:灰色 e:口縁部片
17	46	第2面 構成土	陶器	渥美 甕	—	—	[2.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 d;自然降灰・灰黒色 e:口縁部片 f:2b形式
17	47	第2面 構成土	陶器	渥美 甕か	[7.0]	[6.60]	[1.2～ 2.4]	c:灰色 d:内外面自然降灰・暗褐色 e:胴部片 f:外面に陶器片付着
17	48	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 e:口縁部片 f:6a～6b型式
17	49	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[4.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 e:口縁部片 f:6a～6b型式
17	50	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[4.70]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 e:口縁部片 f:6a～6b型式
18	51	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[5.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 e:口縁部片 f:6a～6b型式
18	52	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.0]	a:輪積み・外面下部篦状工具による横位に整形・高台部貼付け b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 e:底部片 f:内外面黒色に変色・内面摩耗
18	53	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.50]	a:輪積み・高台部貼付け b:微砂・雲母 c:灰橙色 e:底部片 f:内面摩耗
18	54	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	(13.00)	[6.0]	a:輪積み・高台部貼付け b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 e:底部片 f:内面摩耗
18	55	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.90]	a:輪積み b:白色粒・雲母 c:暗褐色 e:口縁部片 f:6a～6b型式
18	56	第2面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[5.20]	a:輪積み・胴部下部篦状工具による縦位の整形 b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:茶褐色 e:底部片 f:内面摩耗
18	57	第2面 構成土	陶器	常滑 壺	—	—	[4.75]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 d:内外面自然降灰・暗緑褐色 e:口縁部片
18	58	第2面 構成土	陶器	常滑 広口壺	—	—	[7.10]	a:輪積み・外面指頭による横位のナデ b:微砂・白色粒・小石粒・雲母 c:暗褐色 e:口縁部片 f:9型式
18	59	第2面 構成土	陶器	常滑 壺	—	8.40	[4.40]	a:輪積み・内面指頭による整形痕 b:微砂・白色粒・雲母 c:灰褐色 e:底部片 f:外面被熱により器壁剥離・蔦口壺か
18	60	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[2.20]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 e:口縁部片 f:5型式
18	61	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[4.50]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 d:外面口唇部から肩部にかけて自然降灰・暗緑褐色 e:口縁部片 f:5型式・口縁端部摩耗
18	62	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[2.0]	a:輪積み b:白色粒 c:暗灰色 e:口縁部片 f:6a型式

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
18	63	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[2.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗赤褐色　e:口縁部片　f:6b型式
18	64	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[4.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:灰色　d:口縁部から肩部にかけて自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片　f:6a型式
18	65	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[5.0]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗茶褐色　e:口縁部片　f:7型式
18	66	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[5.10]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:褐色　e:口縁部片　f:6a型式
18	67	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[6.70]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母・小石粒　c:暗灰色　e:口縁部片　f:6a型式
18	68	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[5.50]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗褐色　e:口縁部片　f:6b型式
18	69	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[7.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:暗褐色　e:口縁部片　f:7型式
18	70	第2面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[4.80]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母・小石粒　c:褐色　e:口縁部片　f:7型式
18	71	第2面 構成土	陶器	産地不明 甕	[8.90]	[4.50]	[1.10]	a:ロクロ　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　e:胴部片　f:外面押印(文様意匠不明)
18	72	第2面 構成土	瓦器質	瓦器 碗	—	—	[2.60]	a:外面指頭による縦位の整形痕　c:灰色　e:内面黒色処理の痕跡が残るが、外面は未処理
18	73	第2面 構成土	土器	火鉢	—	—	[4.0]	b:微砂・海綿骨針・白色粒・雲母　c:赤褐色　e:口縁部片　f:ＩB類・外面火熱によって器壁剥離・内面黒色に変色・土器質
18	74	第2面 構成土	土器	火鉢	—	—	[6.50]	a:内面ヘラ状工具による斜位の整形・外面上部横位のヘラナデ・外面下部指頭による整形の後櫛状工具による縦位の整形痕　b:微砂・軟質　c:灰褐色　e:口縁部片　f:ＩB類・穿孔有・土器質
18	75	第2面 構成土	瓦	平瓦	[10.10]	[7.20]	1.9～2.0	a:凸面-縄目痕・離れ砂付着　凹面-布目痕・離れ砂付着　狭端面―ヘラケズリ　b:雲母・白色粒・硬質　c:暗橙色　e:小片　f:永福寺平瓦A類
18	76	第2面 構成土	瓦	平瓦	[9.0]	[6.10]	1.9～2.0	a:凸面-縄目痕・離れ砂付着　凹面-布目痕・離れ砂付着　b:微砂・白色粒　c:暗灰色 e:小片　f:永福寺平瓦A類
18	77	第2面 構成土	土製品	不明	[4.70]	[10.80]	[4.50]	b:微砂・雲母・小石粒　c:橙褐色　e:不明　f:鋳型か・一部鉄分付着
18	78	第2面 構成土	土製品	羽釜	—	—	[6.80]	a:内面-串状工具による横位の整形痕・外面櫛状工具による横位・斜位の整形痕　b:微砂・白色粒　c:灰赤褐色　e:口縁部片　f:鍔部貼付け・西国系か
18	79	第2面 構成土	土器	かわらけ 転用品	[3.2]	3.60	1.00	c:橙色　e:一部欠損　f:かわらけ底部を円盤状に加工
19	80	第2面 構成土	石製品	砥石	[7.20]	3.40	0.2～0.6	a:切り出し痕３面遺存・砥面１面遺存　c:灰色　e:一部欠損　f:鳴滝産・仕上砥
19	81	第2面 構成土	石製品	砥石	[7.50]	3.20	[0.4～ 0.8]	a:切り出し痕３面遺存　砥面剥離　c:灰白色　e:一部欠損　f:鳴滝産・仕上砥
19	82	第2面 構成土	石製品	砥石	[4.60]	4.30	0.8～0.9	a:切り出し痕２面遺存　砥面１面遺存　c:灰白色　e:一部欠損　f:鳴滝産・仕上砥・砥面に斜めの刃物痕
19	83	第2面 構成土	石製品	砥石	[4.90]	3.00	[0.8～ 1.0]	a:切り出し痕２面遺存　砥面１面遺存　c:灰黄白色　e:一部欠損　f:伊予産・中砥
19	84	第2面 構成土	石製品	泥岩 加工品	[5.30]	[4.10]	1.10	a:方形に加工　c:灰黄色　e:一部欠損　f:砥石として利用か
19	85	第2面 構成土	石製品	硯	[4.10]	[1.80]	[1.20]	c:暗赤褐色　e:陸の一部分のみ遺存　f:鳴滝産
19	86	第2面 構成土	石製品	滑石鍋	—	—	[5.70]	a:外面鍔上下は縦位の整形痕　c:灰白色　e:小片・産地不明
19	87	第2面 構成土	石製品	不明 加工品	7.50	8.20	[4.85]	a:頂部円形に加工　c:暗灰色　e:下部欠損・一部黒色に変色
19	88	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[4.30]	0.80	1.00	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:4g
19	89	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[4.70]	0.80	0.90	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
19	90	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	5.00	0.50	0.60	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:5g
19	91	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[5.50]	0.70	0.60	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:4g
19	92	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[6.10]	0.80	0.80	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:10g
19	93	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[7.00]	1.00	1.00	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:9g
19	94	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	7.40	[1.40]	[1.10]	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:11g
19	95	第2面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	8.30	1.00	0.90	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:15g
19	96	第2面 構成土	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.60	0.10	a:鋳造　e:完形　f:天聖元寶・真書・北宋・初鋳年1023年　g:2g
19	97	第2面 構成土	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.60	0.10	a:鋳造　e:完形　f:判読不明　g:3g

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
21	1	第3面 遺構18 一括	土器	かわらけ	4.00	2.90	1.00	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母　c:灰黄色　e:完形　f:口唇部内折れ・極小の器形　g:11g
21	2	第3面 遺構18 一括	陶器	常滑 甕	—	—	[11.0]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:暗茶褐色　d:肩部に白濁した自然降灰　e:口縁部片　f:7型式
21	3	第3面 遺構18 一括	金属製品	鉄製品 釘	[4.25]	[1.10]	[0.90]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
21	4	第3面 遺構18 一括	金属製品	鉄製品 釘	[5.60]	[1.20]	[1.10]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:13g
21	5	第3面 遺構18 一括	金属製品	鉄製品 釘	[7.80]	[2.20]	[1.0]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:31g　f:かわらけ片付着
21	6	第3面 遺構18 床下	舶載磁器	青白磁 梅瓶	[7.20]	[4.70]	[0.80]	a:ロクロ　b:精良堅緻　c:灰色　d:青灰色　e:胴部下部片　f:胴部下部に２本の沈線が巡る・渦巻き文
21	7	第3面 遺構18 床下	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	14.00	[8.0]	a:輪積み・胴部下部篦状工具による横位のナデ調整・外底部ヘラ状工具による整形　b:微砂・白色粒・小石粒　c:茶褐色　e:1/2(口縁部辺は欠損)　f:内面摩滅
21	8	第3面 遺構18 床下	土製品	土錘	4.10	3.40	1.10	b:雲母・小石粒・白色粒　f:縄文式土器(器種不明)の転用品・表裏面共に磨滅
21	9	第3面 遺構18 床下	土器	土師器 盤	—	—	[1.10]	b:微砂・海綿骨針・硬質　c:暗橙色　e:1/6　f:口唇部内折れ
21	10	第3面 遺構18 床下	陶器	須恵器 蓋	—	—	[2.0]	a:回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ　b:微砂・白色粒　c:灰褐色　e:小片
21	11	第3面 遺構18 裏込め	土器	かわらけ	(7.40)	3.80	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・白色粒　c:黄橙色　e:3/5　f:口唇部油煤痕
21	12	第3面 遺構18 裏込め	土器	かわらけ	(9.00)	(6.80)	1.50	a:ロクロ・緩い底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/5
21	13	第3面 遺構18 裏込め	土器	火鉢	—	—	[7.70]	a:内面横位のナデ・外面口縁下は横位のナデ、外面中位は指頭によるナデ　b:微砂・雲母・白色粒　c:灰褐色　d:内外面黒色・炭素吸着　e:口縁部辺　f:ＩＣ類・瓦器質
21	14	第3面 遺構18 裏込め	陶器	常滑 甕	[8.30]	[4.60]	[1.0]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:褐色　d:自然降灰・暗緑褐色　e:胴部片　f:外面2段重ねの縦線文が1単位の押印
21	15	第3面 遺構18 裏込め	陶器	常滑 甕	[12.0]	[11.30]	[1.20]	a:輪積み　b:微砂‥白色粒・黒色粒・雲母・小石粒　c:茶褐色　d:自然降灰・明茶褐色　e:胴部片　f:外面細かい格子文の押印
21	16	第3面 遺構18 裏込め	陶器	常滑 甕	[14.0]	[10.0]	[1.10]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:暗褐色　d:自然降灰・明茶褐色　e:胴部片　f:外面縦長の格子文の押印
21	17	第3面 遺構18 裏込め	土製品	用途不明	1.50	1.60	[1.20]	b:微砂・雲母・小石粒・かわらけ胎土に近似　f:頂部摩耗・円形を呈する
22	1	第3面 遺構20	土器	てづくね	(8.20)	—	[1.60]	a:てづくね・内底ナデ不明瞭・口唇部一段ナデ・外底指頭＋ナデ・板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰白色　e:1/4
22	2	第3面 遺構20	土器	てづくね	(8.40)	—	1.40	a:てづくね・内底ナデ・口唇部一段ナデ面取り風・外底指頭＋ナデ　b:雲母・黒色粒　c:灰白色　e:1/4　f:歪み大・底部に粘土結合痕有り
22	3	第3面 遺構20	土器	てづくね	(8.60)	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・口唇部一段ナデ・外底指頭＋ナデ　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/4
22	4	第3面 遺構20	土器	てづくね	(9.00)	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ・板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/3　f:内面黒色に変色
22	5	第3面 遺構20	土器	てづくね	9.20	—	2.00	a:てづくね・内底ナデ不明瞭・口唇部一段ナデ・外底指頭によるナデ　b:海綿骨針・雲母・小石粒・良土　c:淡橙色　e:4/5　f:口唇部1ヶ所に油煤痕・歪み大
22	6	第3面 遺構20	土器	てづくね	9.65	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・口唇部一段ナデ・外底指頭＋ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:4/5　f:雑な整形・歪み大
22	7	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(7.30)	(4.70)	1.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/2
22	8	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(7.70)	(6.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:黄橙色　e:1/2
22	9	第3面 遺構20	土器	かわらけ	8.50	7.00	1.45	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:ほぼ完形　g:55g
22	10	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(8.80)	(6.30)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデの後見込み周囲を回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:黄橙色　e:2/3
22	11	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(8.80)	(6.20)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:黄橙色　e:1/3
22	12	第3面 遺構20	土器	かわらけ	8.90	6.90	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底見込みを回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・良土　c:灰黄色　e:ほぼ完形　g:77g
22	13	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(8.90)	(6.10)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:淡橙色　e:1/3
22	14	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(9.00)	(6.70)	1.30	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:橙色　e:2/3
22	15	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(9.00)	(7.50)	1.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底見込み周囲を強く回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/3
22	16	第3面 遺構20	土器	かわらけ	9.10	6.00	2.00	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:淡橙色　e:3/4

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
				単位：cm/復元値[ ]/残存値( )				a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
22	17	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(9.10)	(5.80)	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強くナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒　c:灰黄色　e:1/3　f:底部貼り付け（巻いた痕跡有）・内外面黒色に変色・内面器壁被熱の為剥離
22	18	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(9.20)	(7.70)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:橙色　e:3/4　f:歪み大
23	19	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(12.50)	9.70	3.15	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・粗土　c:灰黄色　e:4/5　f:歪み大
23	20	第3面 遺構20	土器	かわらけ	(13.20)	(9.30)	2.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・泥岩粒　c:橙色　e:2/3
23	21	第3面 遺構20	舶載 磁器	青磁 碗	—	(5.40)	[2.10]	a:ロクロ・見込みに片彫蓮華文・外面無文・高台部畳み付け・内部露胎　b:精良・やや軟質　c:黄灰色　e:底部片　f:竜泉窯・碗Ⅰ類
23	22	第3面 遺構20	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[1.95]	a:ロクロ・内面片彫文と櫛目で施文・外面無文　b:精良堅緻　c:灰黒色　d:透明な灰緑色　e:口縁部片　f:竜泉窯・碗Ⅰ類
23	23	第3面 遺構20	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.70]	a:ロクロ・内面口縁下に沈線が巡る・外面櫛掻文　b:精良堅緻　c:灰色　d:透明な淡緑色　e:口縁部片　f:同安窯系・内外面に気泡を多く見る
23	24	第3面 遺構20	舶載 磁器	青磁 碗	—	(6.20)	[2.30]	a:ロクロ・内外面無文・高台部畳み付け・内女部露胎　b:精良堅緻　c:灰色　d:透明な暗緑色　e:底部片　f:竜泉窯・碗Ⅰ類・全体に貫入をみる
23	25	第3面 遺構20	舶載 磁器	白磁 皿	—	—	[1.85]	a:ロクロ・口唇部露胎　b:精良堅緻　c:白色　d:灰白色　e:口縁部片　f:皿Ⅳ類
23	26	第3面 遺構20	舶載 磁器	白磁 碗	—	—	[1.75]	a:ロクロ・内面櫛目文か・外面無文　b:精良堅緻　c:白色　d:不透明な淡水色　e:口縁部片
23	27	第3面 遺構20	舶載 磁器	青白磁 器種不明	—	—	[1.60]	a:口縁部露胎・外面連珠文・内外面施釉　b:精良堅緻　c:灰色　d:透明な灰緑色　e:口縁部片　f:小壺か
23	28	第3面 遺構20	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[5.20]	a:輪積み　b:微砂　c:灰褐色　e:口縁部片　f:2b型式か・内外面黒色に変色・油煤か
23	29	第3面 遺構20	陶器	渥美 甕	—	—	[2.15]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　e:口縁部片　f:2a型式か
23	30	第3面 遺構20	陶器	渥美 甕	—	—	[2.60]	a:輪積み　b:微砂　c:灰色　e:口縁部片　f:2a～2b型式
23	31	第3面 遺構20	陶器	尾張系 山茶碗	—	—	[3.30]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色　d:口縁端部のみ自然降灰・灰色　e:口縁部片　f:尾張系・6～7型式
23	32	第3面 遺構20	陶器	常滑 壺	—	—	[3.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:暗赤褐色　e:口縁部片　f:無頸壺か
23	33	第3面 遺構20	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[4.80]	a:輪積み・内外面横位のナデ整形　b:微砂・白色粒　c:赤褐色　e:口縁部片　f:6a～6b型式
23	34	第3面 遺構20	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[5.90]	a:輪積み・内外面横位のナデ整形・外面下部篦状工具による横位のナデ整形　b:微砂・白色粒　c:灰色　e:口縁部片　f:5～6a型式
23	35	第3面 遺構20	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[5.0]	a:輪積み・内外面横位のナデ整形　b:微砂・白色粒　c:赤褐色　d:口縁端部から内面にかけて自然降灰・暗緑褐色　e:口縁部片　f:6a～6b型式
23	36	第3面 遺構20	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[4.30]	a:輪積み・内外面横位のナデ整形　b:微砂・白色粒　c:赤褐色　d:口縁端部から内面と外面上部にかけて自然降灰・暗緑褐色　e:口縁部片　f:6a～6b型式
23	37	第3面 遺構20	陶器	常滑 甕	—	—	[2.70]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:暗褐色　d:自然降灰・灰緑色　e:口縁部片　f:5型式
23	38	第3面 遺構20	陶器	常滑 甕	—	—	[6.0]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:暗褐色　d:口縁端部に自然降灰・暗緑褐色　e:口縁部片　f:5型式
23	39	第3面 遺構20	陶器	常滑 甕	—	—	[5.50]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・黒色粒　c:暗灰色　d:自然降灰・暗赤褐色　e:口縁部片　f:5型式か・口縁端部は白濁した降灰釉
23	40	第3面 遺構20	陶器	常滑 甕	[10.50]	[8.50]	1.2～1.4	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:褐色　d:自然降灰・明褐色　e:胴部片　f:斜格子+草花文の押印
23	41	第3面 遺構20	瓦	平瓦	[10.40]	[8.0]	[2.2～ 2.4]	a:凸面-やや大きめの斜格子の叩き痕・凹面-丁寧にナデ消し　b:微砂・小石粒　c:灰黄色　e:小片　f:永福寺平瓦D類か
23	42	第3面 遺構20	瓦	平瓦	[13.40]	[10.80]	[2.4～ 2.8]	a:凸面-縄目叩き痕・離れ砂付着・凹面-布目痕・雑なナデ消し・側縁ヘラ削り　b:微砂・軟質　c:灰色　e:小片　f:永福寺平瓦A類
23	43	第3面 遺構20	土器	かわらけ 転用品	[6.20]	[4.0]	[0.85～ 1.0]	a:ロクロ・糸切痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:橙色　e:底部片・1/3　f:底部を円盤状に加工・丁寧な整形
23	44	第3面 遺構20	金属 製品	用途不明	[5.30]	[8.0]	[3.30]	c:暗黒褐色　e:小片　f:強い被熱を受け溶解している・一部ガラス化　g:130g
23	45	第3面 遺構20	土製品	用途不明	[3.55]	[2.50]	0.9～1.4	a:手びねり　b:白色粒・雲母　c:灰黄色　e:小片　f:強い被熱を受け一部黒色に変色・原型は円形を呈していたか・ﾄﾁﾝなどの焼成道具の可能性もある
23	46	第3面 遺構20	石製品	滑石鍋 転用品	[3.35]	[1.60]	[1.6～ 1.0]	c:灰黒色　f:内面基盤の目状に線刻あり・外面加工痕か一部刃物痕残る・滑石スタンプ製作途中で破損した製品か
23	47	第3面 遺構20	石製品	不明	[7.50]	[4.70]	[1.05]	c:暗青灰色　e:小片　f:砥石状の形状を呈する・硯製作途中か
23	48	第3面 遺構20	金属 製品	鉄製品 刀子	[15.10]	[4.30]	2.00	a:鍛造　f:錆の付着著しく原型は不明だが刃物状を呈する断面を確認している・刃物状部分一幅2.5cm・厚さ0.6cm　g:244g
23	49	第3面 遺構20	金属 製品	鉄製品 釘	[7.50]	0.40	0.45	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着・断面方形 g:15g
23	50	第3面 遺構20	金属 製品	鉄製品 釘	[6.80]	[1.30]	[1.20]	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:14g

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
23	51	第3面 遺構20	金属 製品	鉄製品 釘	[7.10]	1.20	0.60	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着・断面方形 g:12g
23	52	第3面 遺構20	金属 製品	鉄製品 釘	[4.90]	0.60	0.45	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:4g
23	53	第3面 遺構20	金属 製品	鉄製品 器種不明	[10.3]	[10.9]	[0.2～ 3.1]	e:一部欠損　f:錆付着・両端に浅い折り返しあり・蓋状になるのか g:139.0g
24	54	第3面 遺構20	石製品	チャート	[6.2]	[6.7]	[3.5]	f:河床礫を加工して使用した可能性有り・硬質・黒色の鉱石と白色の石英が層状になる
24	55	第3面 遺構20	石製品	チャート	[6.6]	[6.0]	[3.1]	f:チャートではなく、生き物の化石の可能性有り・明茶色
24	56	第3面 遺構20	石製品	チャート	[5.3]	[4.0]	[2.1]	f:チャートではなく砥石として使用か・凝灰岩・灰色
24	57	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.1]	[3.4]	[1.2]	f:石英・火打石として使用か・白色透明
24	58	第3面 遺構20	石製品	チャート	[10.3]	[8.4]	[5.2]	f:石英・火打石として使用か・白茶色不透明
24	59	第3面 遺構20	石製品	チャート	[4.0]	[4.2]	[3.0]	f:石英・火打石として使用か・白色不透明・灰黒色の鉱石が層状に混じる
24	60	第3面 遺構20	石製品	チャート	[4.4]	[5.0]	[2.2]	f:石英・火打石として使用か・白色不透明
24	61	第3面 遺構20	石製品	チャート	[5.4]	[4.6]	[2.0]	f:石英・火打石として使用か・黄白色不透明
24	62	第3面 遺構20	石製品	チャート	[5.9]	[5.1]	[3.1]	f:石英・火打石として使用か・黄白色不透明
24	63	第3面 遺構20	石製品	チャート	[4.5]	[3.7]	[2.2]	f:石英・火打石として使用か・黄白色不透明
24	64	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.6]	[3.3]	[1.7]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・やや不透明な白色
24	65	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.6]	[2.5]	[1.3]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・やや不透明な白色
24	66	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.6]	[2.2]	[0.8]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・白色透明
24	67	第3面 遺構20	石製品	チャート	[2.9]	[2.8]	[0.7]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・白色不透明・不透明と透明が層状になっている
24	68	第3面 遺構20	石製品	チャート	[2.5]	[2.4]	[1.4]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・やや不透明な灰色
24	69	第3面 遺構20	石製品	チャート	[2.3]	[1.9]	[0.9]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・白色透明
24	70	第3面 遺構20	石製品	チャート	[2.0]	[2.9]	[1.7]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・白色不透明・褐色の鉱石が層状に混じる
24	71	第3面 遺構20	石製品	チャート	[2.4]	[1.6]	[0.5]	f:メノウの可能性あり・火打石として使用可能・白色透明
24	72	第3面 遺構20	石製品	チャート	[6.3]	[3.3]	[2.0]	f:白色透明
24	73	第3面 遺構20	石製品	チャート	[5.4]	[2.6]	[2.4]	f:白色透明
24	74	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.8]	[4.0]	[1.6]	f:白色透明
24	75	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.8]	[3.2]	[1.8]	f:白色透明
24	76	第3面 遺構20	石製品	チャート	[5.8]	[4.6]	[3.4]	f:灰白色不透明・ハツリ痕有り
24	77	第3面 遺構20	石製品	チャート	[3.4]	[3.0]	[1.2]	f:質の良くないチャート・火打石として使用不可か・褐色不透明
24	78	第3面 遺構20	石製品	チャート	[4.7]	[3.4]	[1.4]	f:質の良くないチャート・火打石として使用不可か・黒褐色不透明
24	79	第3面 遺構20	石製品	チャート	[4.2]	[4.7]	[2.4]	f:質の良くないチャート・火打石として使用不可か・黄褐色不透明
24	80	第3面 遺構20	石製品	チャート	[5.2]	[4.1]	[2.7]	f:質の良くないチャート・火打石として使用不可か・黒褐色不透明・石英混じる
24	81	第3面 遺構20	石製品	チャート	[7.1]	[4.3]	[2.2]	f:質の良くないチャート・火打石として使用不可か・茶褐色不透明・メノウに似る
24	82	第3面 遺構20	石製品	チャート	[6.8]	[3.8]	[2.6]	f:質の良くないチャート・火打石として使用不可か・灰褐色不透明・雲母混じる
26	1	第3面 遺構95B	土器	てづくね	(4.80)	—	0.70	a:てづくね・口唇部内折れ・内底回転ナデ・外底部指頭によるナデ　b:微砂・雲母・硬質　c:灰白色　e:1/4
26	2	第3面 遺構95B	土器	てづくね	(8.00)	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・外底ナデ　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:灰黄色　e:1/5
26	3	第3面 遺構95B	土器	てづくね	(8.70)	—	1.20	a:てづくね・内底ナデ・外底ナデ　b:海綿骨針・雲母・良土　c:淡黄橙色　e:1/3
26	4	第3面 遺構95B	土器	てづくね	(10.20)	—	1.90	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/3

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
26	5	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(6.60)	(5.00)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切不明瞭・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・白色粒・泥岩粒・粗土 c:赤橙色 e:1/4
26	6	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.10)	(4.80)	1.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・小石粒 c:灰黄色 e:1/3
26	7	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.30)	(5.50)	1.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・雲母 c:灰黄色 e:1/2 f:口唇部一部黒色に変色
26	8	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.30)	(4.40)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 c:橙色 e:1/4
26	9	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.40)	(4.80)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・雲母・泥岩粒 c:淡黄橙色 e:1/3
26	10	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	7.60	4.50	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒・小石粒 c:灰黄色 e:4/5
26	11	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.60)	(5.20)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・雲母 c:灰黄色 e:1/3
26	12	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.60)	(4.90)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明 b:黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:1/3
26	13	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	7.70	5.00	1.75	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデの後見込み外周を回転ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・小石粒 c:灰黄色 e:1/2 f:歪み大
26	14	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.70)	(5.20)	1.75	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母・硬質 c:赤橙色 e:1/2
26	15	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(7.80)	(5.60)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:1/3
26	16	第3面 遺構96B	土器	かわらけ	(7.80)	4.80	1.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母・泥岩粒 c:黄橙色 e:2/3
26	17	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	7.20	5.20	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:赤色粒・雲母 c:淡黄橙色 e:ほぼ完形 g:45g
26	18	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(9.40)	(7.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:淡橙色 e:1/3
26	19	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	12.50	8.20	3.25	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕 b:海綿骨針・泥岩粒・雲母・小石粒・粗土 c:橙色 e:ほぼ完形 f:外面黒色に変色・歪み大 g:153.0g
26	20	第3面 遺構96B	土器	かわらけ	12.00	7.20	3.25	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・赤色粒・雲母・泥岩粒・小石粒・粗土 c:黄橙色 e:ほぼ完形 f:見込み一部が黒色に変色・口唇部1ヶ所に油煤痕 g:176.8g f:歪み大
26	21	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(11.70)	(6.30)	3.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明 b:赤色粒・黒色粒・雲母・粗土 c:橙色 e:1/3 f:薄手の器壁をもつ
26	22	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(11.40)	(7.60)	3.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:淡橙色 e:2/3 f:口唇部一部油煤痕
26	23	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(11.60)	7.50	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデの後見込み周を回転ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:2/3
26	24	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	12.30	7.00	3.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・雲母 c:橙色 e:4/5 f:内面薄く黒色に変色・歪み大
26	25	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	(12.50)	(7.80)	3.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:1/3 f:底部粘土板貼付けか
26	26	第3面 遺構96B	土器	かわらけ	(12.60)	(7.60)	3.55	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・赤色粒・黒色粒・雲母・泥岩粒・小石粒・粗土 c:灰黄色 e:1/2
26	27	第3面 遺構95B	土器	かわらけ	13.65	8.00	3.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明 b:黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:3/4 f:底部粘土板貼付けか・歪み大
26	28	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 碗	[3.20]	[4.0]	[0.30]	a:ロクロ・外面無文・内面櫛掻文 b:精良堅緻 c:白色 d:透明な淡緑色 e:口縁部片 f:口縁端部は薄く、やや外反する・産地不明・同安窯系
26	29	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.70]	a:ロクロ・内面無文・外面蓮弁文（細弁） b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な水色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅲ類
26	30	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.05]	a:ロクロ・内面無文・外面蓮弁文（細弁） b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な水色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅲ類・全体に細かい貫入が入る
26	31	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.80]	a:ロクロ・内面無文・外面鎬蓮弁文（広弁） b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な青緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅲ類
26	32	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.85]	a:ロクロ・内面無文・外面鎬蓮弁文（広弁） b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・型式不明
26	33	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 坏	—	—	[2.70]	a:ロクロ・内外面無文・体部下位はく字状に屈曲 b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・坏Ⅲ類
26	34	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 坏	—	—	[1.60]	a:ロクロ・内外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・坏Ⅲ類・外面口縁部下の釉溜りに気泡があく
26	35	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青磁 坏	—	—	[3.60]	a:ロクロ・内外面無文 b:精良堅緻 c:灰白色 d:不透明な青緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・坏Ⅲ類
26	36	第3面 遺構95B	舶載 磁器	白磁 皿	(7.80)	—	[1.50]	a:ロクロ・口唇部露胎 b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰白色 e:口縁部片 f:皿Ⅸ類
26	37	第3面 遺構95B	舶載 磁器	白磁 壺	—	—	[3.20]	a:ロクロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:透明な灰白色 e:口縁部片 f:四耳壺か
26	38	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青白磁 蓋	—	—	0.90	a:型作り b:精良・やや軟質 c:白色 d:透明な水色 e:口縁部片 f:内面露胎・外面施文は菊花の型押しか

単位（cm）

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
26	39	第3面 遺構95B	舶載 磁器	青白磁 香炉	[4.50]	[3.80]	[0.40]	a:成形法不明・内面縦位の指頭ナデ　b:精良堅緻　c:灰白色　d:透明な灰青色　e:胴部片　f:外面は被熱を受け釉が剥離している・六角形～八角形の器形を呈する・外面植物文型押し・香炉・元～明朝期の福建省産の可能性有り（篠原典生氏(中央大学)にご教示頂いた）
26	40	第3面 遺構95B	陶器	瀬戸 卸皿	—	—	[2.35]	a:ロクロ　b:微砂　c:灰色　d:ハケヌリ・灰緑色　e:口縁部片　f:前期
26	41	第3面 遺構95B	陶器	産地不明 合子	(4.90)	—	[1.40]	a:型作り・内面露胎　b:微砂　c:灰黄色　d:透明な灰黄色　e:1/5　f:頂部蓮弁文・蓋部分
26	42	第3面 遺構95B	陶器	渥美 甕	—	—	[3.40]	a:輪積み　b:微砂　c:灰色　d:自然降灰・灰黒色　e:口縁部片　f:2b型式
26	43	第3面 遺構95B	陶器	渥美 器種不明	—	—	[4.70]	a:輪積み　b:微砂　c:灰黒色　d:自然降灰・灰黒色・口縁端部から外面にかけて白濁した降灰釉　e:口縁部片　f:小型の壺か
26	44	第3面 遺構95B	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[2.20]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:赤褐色　e:口縁部片　f:5型式
26	45	第3面 遺構95B	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[5.10]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色　e:口縁部片　f:6a型式
26	46	第3面 遺構95B	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[7.00]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色　e:口縁部片　f:6a型式
26	47	第3面 遺構95B	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[2.35]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:灰褐色　d:自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片　f:6b型式
27	48	第3面 遺構95B	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　d:口縁端部と内面に自然降灰・暗緑灰色　e:口縁部片　f:7型式
27	49	第3面 遺構95B	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.85]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:茶褐色　d:自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片　f:8型式
27	50	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[1.90]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　d:自然降灰・暗灰色　e:口縁部片　f:4型式
27	51	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[6.70]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:灰色　d:自然降灰・褐色　e:口縁部片　f:5型式
27	52	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[2.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗褐色　d:自然降灰・暗赤褐色　e:口縁部片　f:6a型式
27	53	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[5.20]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:褐色　d:自然降灰・暗茶褐色　e:口縁部片　f:6a型式
27	54	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[7.15]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰褐色　d:自然降灰・茶褐色　e:口縁部片　f:6a型式
27	55	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[4.50]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:褐色　d:自然降灰・褐色　e:口縁部片　f:6b型式
27	56	第3面 遺構95B	陶器	常滑 甕	—	—	[4.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗褐色　d:自然降灰・灰茶褐色　e:口縁部片　f:7～8型式
27	57	第3面 遺構95B	陶器	産地不明 器種不明	—	—	[3.55]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:灰黒色　d:自然降灰・灰緑色　e:胴部片　f:突帯部貼付・胎土は常滑窯製品に近似
27	58	第3面 遺構95B	瓦	平瓦	[10.0]	[14.8]	1.8～2.0	a:凸面一縄叩き痕・離れ砂付着・凹面一離れ砂付着・布目痕をナデ消している・端面一ヘラケズリ　b:微砂・白色粒・雲母　c:暗灰色　e:小片　f:永福寺平瓦A類
27	59	第3面 遺構95B	土製品	土鍋	—	—	[1.20]	a:口縁部内側に折り返す　b微砂・白色粒・雲母　:c:灰黒色　d:黄白色（器表面色調）　f:南伊勢系
27	60	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	[5.10]	1.00	1.10	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:9g
27	61	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	[5.20]	1.10	1.20	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:8g
27	62	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	[5.30]	1.00	0.80	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:7g
27	63	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	[5.50]	1.00	0.70	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
27	64	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	[5.45]	1.00	1.00	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:9g
27	65	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	5.80	0.80	0.75	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:5g
27	66	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	6.00	0.80	0.80	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:7g
27	67	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	6.20	1.20	0.70	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着・断面方形 g:10g
27	68	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 釘	[6.10]	0.90	0.70	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:7g
27	69	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 器種不明	2.20	7.60	0.8～1.3	e:不明　f:錆付着著しく元の形状不明・一部断面方形を呈する　g:22g
27	70	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 器種不明	7.60	10.00	2.9～3.6	f:錆付着激しい・外面が丸味を呈する（碗型か？）　g:257g
27	71	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 器種不明	[5.00]	1.10	0.50	e:不明　f:錆付着 g:22g　f:片端部扁平を呈する・小型の鑿か

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
				単位：cm/復元値[ ]/残存値( )				a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
27	72	第3面 遺構95B	金属 製品	鉄製品 器種不明	[12.60]	0.7～1.6	0.4～0.9	e:不明　f:錆付着・中央に貫通しない穴有・工具か・断面方形　g:36g
27	73	第3面 遺構95B	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.65	0.10	e:完形　f:至和通寶・真書・北宋・初鋳年1054年　g:4g
27	74	第3面 遺構95B	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.70	0.10	e:完形　f:元祐通寶・篆書・北宋・初鋳年1086年　g:4g
27	75	第3面 遺構95B	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.30	孔幅 0.65	0.10	e:完形　f:淳熙元寶・真書・南宋・初鋳年1174年　g:4g
27	76	第3面 遺構95B	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.3	孔幅 0.65	0.10	e:完形　f:嘉定通寶・真書・北宋・初鋳年1208年　g:3g
27	77	第3面 遺構95B	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.50	0.10	e:完形　f:判読不明　g:4g
27	78	第3面 遺構95B	石製品	硯	[12.20]	[3.90]	[1.0～ 1.9]	c:暗赤褐色　f:陸部遺存・墨痕が一部に付着
27	79	第3面 遺構95B	石製品	砥石	[3.15]	2.3～2.7	[1.5～ 1.8]	a:器表面が剥離しているため、砥面・切り出し痕など不明　e:一部欠損　f:伊予産
27	80	第3面 遺構95B	漆器	皿	9.60	7.00	1.10	a:内外面黒色漆樣漆・内外面赤色系漆による漆絵（手描き）・輪高台　e:ほぼ完形　f:口縁一部欠損・内面外面ともに口縁部辺三ヶ所に寄生木文を配する
28	1	第3面 遺構19	土器	てづくね	(8.80)	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・口唇部一段ナデ面取り風・外底ナデ整形　b:海綿骨針　c:灰黄色　e:1/4
28	2	第3面 遺構19	土器	てづくね	(8.60)	—	1.20	a:てづくね・外底ナデ整形　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:灰黄色　e:1/5
28	3	第3面 遺構19	土器	かわらけ	(8.70)	(6.70)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:灰黄色　e:1/4
28	4	第3面 遺構19	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.60]	a:ロクロ・外面片彫蓮弁文・弁の中央に鎬はない　b:精良堅緻　c:灰色　d:暗灰緑色の不透明釉　e:口縁部片　f:碗Ⅱ類
28	5	第3面 遺構19	舶載 磁器	青磁 四耳壺	—	—	[2.0]	a:ロクロ　b:黒色粒・堅緻　c:灰色 d:灰緑色　e:肩部小片
28	6	第3面 遺構19	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[3.80]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:灰色　d:暗緑灰色　e:口縁部片　f:7型式
28	7	第3面 遺構19	陶器	常滑 甕	—	—	[4.60]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母・小石粒　c:茶褐色　d:暗褐色・肩部に自然降灰　e:口縁部片　f:5型式
28	8	第3面 遺構19	陶器	常滑 甕	—	—	[2.70]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母・小石粒　c:灰黒色　d:明茶褐色　e:口縁部片　f:6b～7型式
28	9	第3面 遺構19	金属 製品	鉄製品 釘	6.75	1.10	0.80	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:10g　f:かわらけ片付着
28	10	第3面 遺構19	金属 製品	器種不明	[10.30]	[1.20]	1.20	e:一部欠損　f:錆付着 g:36g
28	11	第3面 遺構23	土器	かわらけ	(8.40)	(5.90)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:灰黄色　e:1/4
28	12	第3面 遺構23	土器	かわらけ	(8.90)	(6.60)	1.55	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/4
28	13	第3面 遺構23	舶載 磁器	青白磁 蓋	—	—	[1.0]	a:型作り・頂部蓮弁文・内面露胎　b:精良・やや軟質　c:灰茶色　d:透明な水色　e:小片
29	1	第3面 面上	土器	かわらけ	7.70	6.10	1.85	a:ロクロ・底部回転糸切・内底回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:灰黄色　e:1/2
29	2	第3面 面上	土器	かわらけ	(8.80)	(7.20)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明瞭・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・白色粒・泥岩粒　c:灰黄色　e:1/2　f:内面全体が黒色に変色
29	3	第3面 面上	土器	かわらけ	(8.80)	(7.30)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母　c:赤橙色　e:1/3　f:歪み大
29	4	第3面 面上	土器	かわらけ	(9.60)	(6.40)	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:黄橙色　e:1/3　f:歪み有
29	5	第3面 面上	土器	かわらけ	(6.80)	(4.20)	2.00	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕　b:雲母・黒色粒　c:赤橙色　e:1/5　f:やや薄手の器壁
29	6	第3面 面上	土器	かわらけ	(10.60)	(7.40)	3.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:雲母・黒色粒　c:淡橙色　e:1/2　f:口縁部内彎する薄手の器壁をもつ
29	7	第3面 面上	土器	かわらけ	(12.70)	(7.20)	3.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:灰黄色　e:1/4
29	8	第3面 面上	土器	かわらけ	(12.20)	(7.40)	3.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒　c:淡橙色　e:2/3
29	9	第3面 面上	土器	かわらけ	(14.20)	7.60	3.65	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・黒色粒・良土　c:淡黄色　e:2/3
29	10	第3面 面上	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.30]	a:ロクロ・見込みに草花文の印刻・外面小片のため文様不明・高台部畳み付けと内部露胎　b:精良堅緻　c:灰色　d:淡緑色　e:底部片　f:碗Ⅱ類・竜泉窯
29	11	第3面 面上	舶載 磁器	青磁 無文碗	—	—	[2.40]	a:ロクロ・内外面無文・高台部畳み付けと内部露胎・高台部断面四角　b:精良堅緻　c:灰緑色　e:底部片　f:竜泉窯・体部下位は腰が張る
29	12	第3面 面上	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[1.80]	a:ロクロ・外面片彫蓮弁文　b:精良堅緻　c:灰色　d:灰緑色　e:口縁部片　f:碗Ⅲ類・竜泉窯

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
29	13	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[6.20]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:暗褐色 d:口縁上部と肩部に自然降灰 e:口縁部片 f:4型式
29	14	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[3.70]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰褐色 d:口縁頂部に自然降灰 e:口縁部片 f:5型式
29	15	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[7.50]	a:輪積み・内面指頭による整形痕 b:微砂・白色粒・雲母 c:赤褐色 d:茶褐色・肩部に自然降灰e:口縁部片 f:5型式
29	16	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[6.15]	a:輪積み b:微砂・雲母 c:灰褐色 d:口縁頂部と肩部に自然降灰・暗赤褐色 e:口縁部片 f:5型式
29	17	第3面 面上	陶器	常滑 壺	—	—	[5.55]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:暗灰色 d:外面全体に自然降灰・茶褐色 e:底部片
29	18	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[2.65]	a:輪積み b:微砂・白色粒・粘性強い c:灰色 d:口縁頂部に自然降灰・茶褐色 e:口縁部片 f:5型式
29	19	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[5.70]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:暗褐色 d:口縁頂部と肩部に自然降灰・暗褐色 e:口縁部片 f:6a型式
29	20	第3面 面上	陶器	常滑 甕	—	—	[5.80]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 d:自然降灰・暗茶褐色 e:口縁部片 f:7型式
29	21	第3面 面上	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[2.90]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:赤褐色 d:自然降灰・茶褐色 e:口縁部片 f:5型式
29	22	第3面 面上	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[2.90]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 d:口縁頂部から内面にかけて自然降灰 e:口縁部片 f:6a型式・内面油煤痕か、黒色に変色
29	23	第3面 面上	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[4.0]	a:輪積み b:微砂・海綿骨針・雲母・白色粒・軟質 c:灰白色 e:口縁部片 f:6a型式・内面摩耗
29	24	第3面 面上	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[5.60]	a:輪積み b:微砂海綿骨針・白色粒・雲母 c:灰色 d:内面自然降灰・灰白色 e:口縁部片 f:6a型式
29	25	第3面 面上	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.50]	a:輪積み・内面横位のヘラ状工具による整形痕 b:微砂・海綿骨針・白色粒・雲母 c:暗灰白色 d：口縁端部に自然降灰・暗褐色 e:口縁部片 f:6a型式
29	26	第3面 面上	陶器	産地不明 器種不明	[9.60]	[5.0]	[1.30]	a:輪積み・外面ヘラ状工具による整形痕 b:微砂・白色粒・雲母・小石粒・軟質 c:灰白色 e:胴部片 f:内面の粘土紐輪積み痕が顕著
29	27	第3面 面上	瓦器	碗	—	—	[2.80]	a:外面指頭による整形痕 c:灰黒色 e:口縁部片 f:内外面黒色処理
29	28	第3面 面上	瓦器	輪花皿	(10.20)	(5.40)	3.10	a:内外面黒色処理・内面口縁部に平行した圏線状のヘラミガキ・内側面一部に縦位のヘラミガキ・見込み部暗文(文様不明) c:灰色 e:1/4
29	29	第3面 面上	土器	火鉢	—	—	[5.70]	a:口縁端部内面側に凸帯上に張り出す b:微砂・白色粒・雲母 c:暗灰色 d:内外面黒色処理 e:口縁部片 f:内外面磨き・ＩＣ類・瓦器質
29	30	第3面 面上	瓦	平瓦 加工品	[4.20]	[3.75]	[0.45～ 0.9]	b:微砂 c:灰色 e:小片 f:縄目痕・離れ砂・二次的(加工)による摩滅か ・八幡宮草創期瓦の胎土に近似
29	31	第3面 面上	石製品	滑石鍋 加工品	[3.20]	[4.0]	[1.90]	c:灰白色 e:小片 f:滑石鍋転用途中の破片か
29	32	第3面 面上	金属 製品	鉄滓	11.00	11.90	1.8～2.5	f:碗型を呈しており鋳造に伴う鉄滓か g:368.8g
29	33	第3面 構成土	土器	てづくね	(8.00)	—	1.75	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ b:海綿骨針・雲母 c:淡橙色 e:1/2 f:歪み大
29	34	第3面 構成土	土器	てづくね	8.70	—	2.00	a:てづくね・内底回転ナデ・口唇部1段ナデ・外底指頭 b:海綿骨針・雲母 c:灰黄色 e:2/3 f:歪み大
29	35	第3面 構成土	土器	てづくね	(8.00)	—	1.40	a:てづくね・内底ナデ・口唇部1段ナデ・外底ナデ b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:橙色 e:1/4
29	36	第3面 構成土	土器	てづくね	8.60	—	1.60	a:てづくね・内底ナデ不明・外底ナデ b:海綿骨針・雲母 c:灰色 e:2/3 f:内面黒色に変色・歪み大
29	37	第3面 構成土	土器	てづくね	(9.00)	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・外底ナデ b:海綿骨針・黒色粒・雲母・小石粒 c:灰黄色 e:1/4
29	38	第3面 構成土	土器	てづくね	9.20	—	1.90	a:てづくね・内底ナデ不明・外底ナデ b:海綿骨針・黒色粒 c:灰黄色 e:ほぼ完形 f:内面器壁剥離 g:76g
29	39	第3面 構成土	土器	てづくね	(11.20)	—	2.70	a:てづくね・内底ナデ不明・口唇部1段ナデ・外底指頭＋ナデ b:海綿骨針・雲母 c:橙色 e:1/6
29	40	第3面 構成土	土器	てづくね	(13.40)	—	2.75	a:てづくね・内底ナデ・口唇部1段ナデ面取り風・外底指頭 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/3
29	41	第3面 構成土	土器	てづくね	(13.60)	—	3.10	a:てづくね・内底ナデ不明・口唇部1段ナデ面取り風・外底指頭＋ナデ b:海綿骨針・雲母 c:黄橙色 e:1/5
29	42	第3面 構成土	土器	てづくね	(13.70)	—	3.10	a:てづくね・口唇部面取り風・内底ナデ不明・外底ナデ b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:橙色 e:1/3
29	43	第3面 構成土	土器	かわらけ	(7.40)	(5.00)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・赤色粒・雲母 c:橙色 e:1/2
29	44	第3面 構成土	土器	かわらけ	7.10	4.20	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒 c:黄灰色 e:ほぼ完形 f：底部粘土板貼付けか・歪み大 g:46g
29	45	第3面 構成土	土器	かわらけ	(8.40)	(6.80)	1.55	a:ロクロ・底部回転糸切不明瞭・内底ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母・泥岩粒・粗土 c:橙色 e:1/3 f:底部糸切痕・板状圧痕はナデ消したのか不明瞭を呈する
29	46	第3面 構成土	土器	かわらけ	(8.40)	6.00	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:2/3

単位（cm）

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
29	47	第3面 構成土	土器	かわらけ	(8.20)	(7.40)	1.65	a:ロクロ・底部回転糸切不明瞭・内底ナデ不明・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・粗土 c:灰黄色 e: f:内面黒色に変色
30	48	第3面 構成土	土器	かわらけ	(8.40)	(7.20)	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切・内底見込み周を強く回転ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/3
30	49	第3面 構成土	土器	かわらけ	(8.80)	(6.40)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底見込み中央を強くナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・雲母・良土 c:灰黄色 e:1/3
30	50	第3面 構成土	土器	かわらけ	(8.80)	(6.60)	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/2 f:見込み中央に穿孔あり
30	51	第3面 構成土	土器	かわらけ	9.10	7.00	1.65	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:淡橙色 e:3/4 f:歪み大・雑な整形
30	52	第3面 構成土	土器	かわらけ	(12.40)	7.30	3.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・雲母・小石粒 c:灰黄色 e:2/3
30	53	第3面 構成土	土器	かわらけ	(12.50)	(8.60)	3.10	a:ロクロ・底部静止糸切・内底ナデ・外底板状圧痕不明 b:黒色粒・雲母 c:灰黄色 e:1/5 f:底部粘土板貼付けか
30	54	第3面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.30]	a:ロクロ・内面片彫蓮華文・外面口唇部下に片彫波状文（蓮弁の頂部を表現か） b:精良堅緻 c:灰色 d:不透明な水色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ類か
30	55	第3面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.90]	a:ロクロ・内面二又片刃によって分割線を意匠（五分割か）・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ-4a類
30	56	第3面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	(14.80)	—	[5.60]	a:ロクロ・内面二又片刃によって分割線を意匠（五分割か）・分割線の内部には花文・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ-4a類
30	57	第3面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	(5.60)	[2.50]	a:ロクロ・見込みと内側面に片彫蓮華文・外面無文・高台畳み付けと高台内部露胎 b:精良堅緻 c:灰色 d:淡緑色 e:底部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ-2類
30	58	第3面 構成土	舶載 磁器	青磁 皿	—	—	[1.70]	a:ロクロ・内面見込み文様不明（少片のため）・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・皿Ⅰ類
30	59	第3面 構成土	舶載 磁器	青磁 坏	—	—	[3.0]	a:ロクロ・内外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・坏Ⅲ類
30	60	第3面 構成土	舶載 磁器	白磁 皿	(7.50)	(5.00)	1.90	a:ロクロ・口唇部露胎 b：灰色 c:灰白色 e:2/3 f:皿Ⅸ－1a類・外底板状工具で釉伸ばして施釉
30	61	第3面 構成土	舶載 磁器	白磁 四耳壺	—	—	[2.0]	b:精良堅緻 c:白色 d:透明な淡緑色 e:口縁部片 f:四耳壺Ⅲ類
30	62	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[5.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:褐色 d:自然降灰・暗緑褐色 e:口縁部片 f:5型式
30	63	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[3.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:褐色 e:口縁部片 f:4型式か
30	64	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[5.0]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:褐色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:5型式
30	65	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[7.20]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:暗褐色 d:自然好米・暗緑褐色 e:口縁部片 f:6a型式
30	66	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[4.30]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:茶褐色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:6a型式
30	67	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	—	—	[4.50]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 d:自然降灰・灰白色 e:口縁部片 f:7型式
30	68	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	[14.90]	[10.60]	[1.20]	a:輪積み・内面-篦状工具による横位のナデ・外面-縦格子＋菊花の押印文 b:微砂・白色粒・黒色粒・小石粒 c:茶褐色 d:自然降灰・暗褐色 e:胴部片
30	69	第3面 構成土	陶器	常滑 甕	[9.90]	[9.40]	0.80	a:輪積み・内面-篦状工具による横位のナデ・外面-三重升の中に×の押印・４つで１単位 b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:褐色 d:自然降灰・明茶褐色 e:胴部片
30	70	第3面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.70]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 d:自然降灰・灰緑色 e:口縁部片 f:6a型式
30	71	第3面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.10]	a:輪積み・口唇部外側に引いて成形 b:微砂・白色粒・小石粒 c:褐色 d:自然降灰・暗褐色 e:口縁部片 f:型式不明
30	72	第3面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:明茶色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:6b～7型式
30	73	第3面 構成土	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[6.70]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:暗赤褐色 d:自然降灰・暗赤褐色 e:口縁部片 f:6a型式
30	74	第3面 構成土	陶器	常滑 器種不明	—	—	[3.30]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:内外面篦状工具による横位のナデ・片口碗か
30	75	第3面 構成土	陶器	常滑甕 転用品	6.50	4.90	0.80	b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 e:胴部片 f:側縁部２面が摩耗
30	76	第3面 構成土	陶器	常滑甕 転用品	5.60	6.40	1.30	b:微砂・白色粒・雲母 c:灰色 e:胴部片 f:側縁部周が摩耗
30	77	第3面 構成土	陶器	常滑甕 転用品	6.30	7.50	[0.8～ 1.0]	b:微砂・白色粒 c:褐色 e:小片 f:甕胴部片を円形状になるように打ち掻いて成形している・側縁部一部摩耗
30	78	第3面 構成土	陶器	渥美 甕	—	—	[3.0]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:暗褐色 e:口縁部片 f:2a～2b型式か
30	79	第3面 構成土	陶器	渥美 甕	—	(15.20)	[16.0]	a:輪積み・内面指頭によるナデ・外面縦線文の押印・胴部下部一縦位の指頭によるナデ b:微砂・白色粒 c:暗灰色 e:胴部片 f:格子状の押印文

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
30	80	第3面 構成土	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[4.80]	a:輪積み　b:微砂　c:灰色　e:口縁部片　f:2b型式か
30	81	第3面 構成土	陶器	瀬戸 卸皿	—	—	[1.60]	a:外底糸切・外面櫛状工具による横位のナデ　b:微砂　c:灰黄色　e:底部片
30	82	第3面 構成土	陶器	瀬戸 瓶子	—	(9.00)	[3.40]	a:ロクロ・底部ヘラナデ　b:微砂　c:灰色　d:灰緑色・底部露胎　e:底部片
30	83	第3面 構成土	瓦器	碗	—	—	[3.0]	a:てづくね・外面指頭による整形痕　b:微砂　c:灰色　d:黒色処理　e:口縁部片
31	84	第3面 構成土	瓦	丸瓦	[5.60]	[5.70]	[5.0]	a:凸面一縄目痕・凹面一布目痕・端部一箆による整形　b:微砂・白色粒・雲母　c:灰色　e:小片　f:永福寺男瓦A類
31	85	第3面 構成土	土製品	輔の羽口	[8.30]	[7.50]	[3.20]	c:灰黒色　e:小片　f:一部被熱を受け黒色に変色・ｶﾞﾗｽ質化
31	86	第3面 構成土	土製品	かわらけ 転用円盤	2.30	2.30	0.55	b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:黄橙色　f:かわらけ底部を円盤状に加工・遊戯具か
31	87	第3面 構成土	石製品	砥石	[5.50]	3.20	1.00	a:砥面2面遺存・切り出し痕2面遺存　c:灰黄色　e:一部欠損　f:鳴滝産・仕上砥
31	88	第3面 構成土	石製品	泥岩 加工品	[6.30]	[3.80]	[1.0～ 1.1]	f:泥岩を砥石として加工か・用途不明
31	89	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[4.90]	0.70	0.65	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:6g
31	90	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	4.90	0.80	0.80	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:5g
31	91	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[6.10]	[1.0]	0.85	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:10g
31	92	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	6.40	1.00	0.90	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:7g
31	93	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	6.40	1.10	1.00	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:6g
31	94	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	6.50	0.70	0.80	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:13g
31	95	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	6.50	0.90	1.00	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:11g
31	96	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	6.65	0.70	0.60	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:9g
31	97	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 掛金	8.30	0.80	1.00	a:鍛造　e:完形　f:錆付着・断面方形 g:25g
31	98	第3面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	8.40	0.90	0.70	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着 g:14g
31	99	第3面 構成土	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.60	0.10	a:鋳造　e:ほぼ完形　f:判読不明　g:3g
31	100	第3面 構成土	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.70	0.10	a:鋳造　e:ほぼ完形　f:皇宋通寶・真書・北宋・初鋳年1038年　g:3g
33	1	第4面 遺構42	陶器	渥美 甕	—	—	—	a:輪積み・内面ヘラ状工具によるナデ・外面縦線文の不規則な押印　b:微砂・白色粒　c:灰色　d:自然降灰　e:胴部片　f:傾き不明
33	2	第4面 遺構45	金属 製品	鉄製品 器種不明	[10.05]	0.80	0.4～0.7	a:鍛造　e:ほぼ完形　f:錆付着　g:14g　f:鑿状工具か・断面方形
33	3	第4面 遺構60	土製品	器種不明	[4.30]	[2.20]	[1.50]	a:外面-未貫通の孔12ヶ所遺存・内面-型作りか　b:微砂・小石粒　c:灰白色　d:釉調不明・剥離か　e:不明　f:全体に被熱を受けている
33	4	第4面 遺構65	土器	かわらけ	(9.20)	(6.80)	2.00	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデの後見込み周囲を強く回転ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:黄灰色　e:1/3
33	5	第4面 遺構65	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.50]	a:ロクロ・見込みと内面に片彫蓮弁文・外面無文・高台内部露胎　b:精良堅緻　c:灰色　d:暗緑色　e:底部片　f:竜泉窯・碗Ⅰ類・高台部分を意図的に打ち欠いている
33	6	第4面 遺構99	土器	かわらけ	(12.00)	(7.80)	3.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒・小石粒・粗土　c:橙色　e:1/2　f:歪み大
33	7	第4面 遺構99	土器	かわらけ	—	—	[2.0]	a:ロクロ　b:海綿骨針・雲母　c:暗赤褐色　e:小片　f:内面全体に鉄分が溶けたものが付着・取瓶として利用か
33	8	第4面 遺構99	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.80]	a:ロクロ・内面蓮弁文・広弁・弁中央に鎬はない・外面無文　b:精良堅緻　c:灰色　d:不透明な灰緑色　e:口縁部片　f:竜泉窯・碗Ⅱ類
33	9	第4面 遺構99	舶載 磁器	青白磁 皿	—	—	[1.80]	a:口唇部露胎・内面型押し一雷文・鱗状文　b:精良堅緻　c:白色　d:透明な水色　e:口縁部片
33	10	第4面 遺構99	陶器	常滑 甕	—	—	[4.80]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:灰色　d:自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片　f:6b形式
33	11	第4面 遺構99	陶器	常滑 甕	—	—	[2.60]	a:輪積み　b:微砂・雲母　c:褐色　d:自然降灰・灰緑色　e:口縁部片　f:6b～7型式か・外面被熱を受けたか釉剥離
33	6	第4面 遺構105	土器	かわらけ	(11.50)	(8.20)	3.00	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕・底部粘土板貼付け　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:灰黄色　e:1/2　f:歪み大・口唇部～外面一部にかけて被熱を受けたためか白色に変色

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
				単位：cm/復元値[ ]/残存値( )				a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
33	13	第4面 遺構105	陶器	渥美 甕	—	—	[2.30]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:灰色　d:自然降灰・灰黒色　e:口縁部片　f:2a～2b型式
34	1	第4面 面上	土器	てづくね	(9.40)	—	1.80	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ　b:海綿骨針・赤色粒・雲母　c:灰黄色　e:1/3 f:歪み大
34	2	第4面 面上	土器	てづくね	(13.40)	—	2.80	a:てづくね・内底ナデ・口唇部１段ナデ・外底指頭痕顕著　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒 c:黄灰色　e:1/4
34	3	第4面 面上	土器	かわらけ	(7.60)	(5.20)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切不明瞭・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・雲母・泥岩粒　c:橙色　e:1/3
34	4	第4面 面上	瓦	平瓦	[11.6]	[10.0]	2.3～2.7	a:凸面-大きく太い斜格子の叩き痕・凹面-布目痕・端面ヘラ整形　b:微砂・雲母　c:灰黒色　e:小片　f:時期不明・胎土は永福寺Ⅰ期に近似する
34	5	第4面 構成土	土器	かわらけ	(7.80)	(5.20)	1.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕　b:海綿骨針・赤色粒・黒色粒・雲母　c:灰黄色　e:1/5　f:歪み大
34	6	第4面 構成土	土器	かわらけ	(7.80)	(5.80)	1.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母　c:灰黄色　e:1/5
34	7	第4面 構成土	土器	かわらけ	(8.80)	(6.40)	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭　b:海綿骨針　c:灰黄色 e:1/4　f:口唇部内側黒色に変色
34	8	第4面 構成土	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[1.60]	a:ロクロ・見込みに片彫で草花文・高台部畳み付け、高台内部露胎・小片のため内外面文様不明 b:精良堅緻　c:灰色　d:灰緑色　e:底部片　f:竜泉窯・碗Ⅰ類
34	9	第4面 構成土	舶載 磁器	白磁 皿	—	—	[2.40]	a:口唇部露胎　b:精良　c:白色　d:灰白色　e:口縁部片　f:皿Ⅸ類
34	10	第4面 構成土	舶載 陶器	器種不明	(3.20)	—	[0.90]	a:ロクロ　b:精良・硬質 c:明褐色　d:暗茶褐色　e:口縁部片　f:茶入れか
34	11	第4面 構成土	陶器	常滑 甕	[10.10]	[10.40]	1.2～1.6	a:輪積み・内面横位のヘラナデ＋指頭痕　b:微砂・白色粒　c:灰色　d:自然降灰・明茶褐色　e:胴部片 f:外面菊花文の押印（弁数不明）
34	12	第4面 構成土	陶器	常滑 甕	[11.60]	[7.50]	0.8～1.1	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　d:自然降灰・暗褐色　e:胴部片　f:外面格子中央に米の押印
34	13	第4面 構成土	陶器	渥美 甕	—	—	[3.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:暗灰色　d:自然降灰・暗灰色　e:口縁部片　f:2b型式か
34	14	第4面 構成土	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[3.20]	a:輪積み・内外面横位のナデ整形　b:微砂・雲母　c:灰色　d:自然降灰　e:口縁部片 f:2b型式か
34	15	第4面 構成土	土製品	用途不明	2.40	2.40	2.15	a:不明　b:微砂・雲母　c:黄灰色　e:完形　f:全体をヘラ状工具で削って球形に成形・雑な整形　g:9g
34	16	第4面 構成土	石製品	滑石鍋	—	—	[3.20]	c:灰白色　e:底部片　f:外底面、外側面共に煤付着
34	17	第4面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[5.90]	[0.90]	0.80	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:8g
34	18	第4面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[5.40]	[1.90]	1.40	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:12g
34	19	第4面 構成土	金属 製品	鉄製品 釘	[6.40]	1.00	1.10	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:9g
34	20	第4面 構成土	金属 製品	鉄製品 用途不明	[8.20]	[1.50]	1.80	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:35g　f:断面方形
34	21	第4面 構成土	木製品	礎板	[22.5]	[12.0]	[6.9]	f:柱材の転用か
35	1	第5面 遺構95C	土器	てづくね	(6.20)	(7.00)	1.05	a:てづくね・内底ナデ・外底ナデ　b:海綿骨針・雲母　c:橙色　e:1/4　f:口唇部断面三角形を呈する・コースター型
35	2	第5面 遺構95C	土器	てづくね	(9.00)	—	1.40	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭＋ナデ　b:雲母・良土　c:黄灰色　e:1/4
35	3	第5面 遺構95C	土器	かわらけ	(9.60)	(6.80)	2.10	a:ロクロ・底部回転糸切不明瞭・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明　b:海綿骨針・黒色粒・雲母　c:灰橙色　e:1/5　f:口唇部黒色に変色
35	4	第5面 遺構95C	陶器	渥美 甕	—	—	[6.0]	a:輪積み　b:微砂・白色粒　c:灰白色　d:自然降灰　e:底部片　f:内底面一部黒色に変色・外底部木葉痕
35	5	第5面 遺構95C	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母・小石粒c:暗灰色　c:灰色　d:自然降灰　e:口縁部片 f:6a型式
35	6	第5面 遺構95C	陶器	常滑 広口壺	—	—	[2.40]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:暗茶褐色　d:自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片 f:6a型式
35	7	第5面 遺構95C	陶器	常滑 甕	—	—	[4.60]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・雲母　c:暗灰色　d:自然降灰・茶褐色　e:口縁部片　f:5型式
35	8	第5面 遺構95C	金属 製品	鉄製品 釘	[7.40]	0.50	0.60	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着・断面方形 g:14g
35	9	第5面 遺構95C	金属 製品	器種不明	[4.90]	1.0～4.3	0.70	a:鍛造　e:一部欠損　f:錆付着 g:13g　f:端部T字状・断面方形
36	1	第5面 遺構106	土器	てづくね	(8.60)	—	1.85	a:てづくね・内底ナデ・口唇部１段ナデ面取り風・外底指頭＋ナデ　b:海綿骨針・雲母・硬質・良土　c:赤橙色　e:1/3
36	2	第5面 遺構106	土器	てづくね	(9.60)	—	1.85	a:てづくね・内底ナデ・口唇部１段ナデ・外底指頭＋ナデ　b:海綿骨針・雲母　c:灰黄色　e:1/3　f:内面薄く黒色に変色
36	3	第5面 遺構106	土器	てづくね	8.20	—	1.95	a:てづくね・口唇部１段ナデ・外底指頭＋ナデ・内底ナデ　b:海綿骨針・白色粒・雲母 c:淡橙色　e:2/3　f:歪み大・内外面黒色に変色
36	4	第5面 遺構106	土器	てづくね	(8.40)	—	1.65	a:てづくね・内底回転ナデ・外底ナデ　b:雲母・良土　c:灰黄色　e:2/4　f:歪み有

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
					単位：cm/復元値[ ]/残存値( )			a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
36	5	第5面 遺構106	土器	てづくね	(8.80)	—	1.85	a:てづくね・内底ナデ・外底ナデ b:海綿骨針・白色粒・雲母・泥岩粒・粗土 c:灰黄色 e:1/3
36	6	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(7.60)	(5.80)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・赤色粒・雲母・泥岩粒 c:黄橙色 e:ほぼ完形 g:52g f:歪み大
36	7	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(7.70)	(4.80)	1.55	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・赤色粒・雲母・泥岩粒・小石粒 c:橙色 e:1/2
36	8	第5面 遺構106	土器	かわらけ	7.80	5.90	1.50	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母・泥岩粒 c:橙色 e:1/2 f:歪み大
36	9	第5面 遺構106	土器	かわらけ	7.90	5.30	1.65	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:2/3 f:被熱を受け内外面器壁剥離・口唇部油煤痕
36	10	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(7.90)	(5.00)	1.70	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:黄橙色 e:2/3 f:底部粘土板貼付けか
36	11	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(8.70)	(5.60)	2.20	a:ロクロ・底部静止糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・雲母 c:黄橙色 e:1/3 f:外面黒色に変色
36	12	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(12.20)	6.50	3.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・赤色粒・雲母泥岩粒・小石粒・粗土 c:橙色 e:3/4 f:歪み大
36	13	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(12.00)	(7.30)	3.15	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 c:淡赤橙色 e:1/4 f:被熱を受けたためか内外面器壁剥離・内外面一部に黒色の付着物有り
36	14	第5面 遺構106	土器	かわらけ	(12.50)	(7.60)	3.40	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・赤色粒・雲母・泥岩粒 c:淡橙色 e:2/3
36	15	第5面 遺構106	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.0]	a:ロクロ・内面片彫蓮華文・外面口縁下に沈線が巡る b:微砂・軟質 c:灰色 d:透明な淡緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ類
36	16	第5面 遺構106	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[3.30]	a:ロクロ・内面無文・外面鏑蓮弁文（広弁） b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な淡緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・碗Ⅱ類か
36	17	第5面 遺構106	舶載 磁器	青磁 碗	—	6.20	[2.35]	a:ロクロ・高台畳み付け、高台内部露胎・内面、見込み内片彫の蓮華文・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:底部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ類
36	18	第5面 遺構106	舶載 磁器	青磁 椀	—	—	[1.30]	a:ロクロ・内外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色 e:口縁部片 f:竜泉窯・小碗Ⅰ類か
36	19	第5面 遺構106	舶載 磁器	白磁 皿	(9.40)	—	[2.40]	a:ロクロ・口唇部露胎 b:精良堅緻 c:白色 d:灰白色 e:口縁部片 f:皿Ⅸ類
36	20	第5面 遺構106	舶載 陶器	不明	—	—	[1.80]	a:ロクロ・底部ヘラナデ b:精良堅緻 c:暗褐色 d:外面下部露胎・内面暗茶褐色 e:底部片 f:茶入れか・福建産陶器に胎土近似
36	21	第5面 遺構106	陶器	産地不明 鉢	—	—	[8.70]	a:輪積み・外面指頭痕と横位のナデ・口唇部一部を指頭によって内側に押し込んでいる箇所あり（輪花型に整形か） b:微砂・軟質 c:赤灰色 e:口縁部片 f:胎土は渥美窯製品に近似・内面摩耗
36	22	第5面 遺構106	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.80]	a:輪積み b:微砂・雲母 c：灰色 e:口縁部片 f:6a型式
36	23	第5面 遺構106	陶器	常滑 片口鉢 Ⅱ類	—	—	[4.35]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c：灰褐色 d:自然降灰・暗褐色 e:口縁部片 f:6b型式
36	24	第5面 遺構106	陶器	常滑 器種不明	—	—	[3.65]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c：灰色 d:自然降灰・暗緑色 e:口縁部片 f:6a型式・広口壺か
36	25	第5面 遺構106	陶器	常滑 甕	—	—	[4.90]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:暗灰色 d:自然降灰・暗黒褐色 e:口縁部片 f:5型式
36	26	第5面 遺構106	陶器	常滑 甕	—	—	[8.30]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母・小石粒 c:褐色 d:自然降灰・赤褐色 e:口縁部片 f:5型式
36	27	第5面 遺構106	陶器	常滑 甕	—	—	[8.40]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c：褐色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:6a型式
36	28	第5面 遺構106	陶器	産地不明 壺	—	—	[5.60]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰黒色 d:自然降灰・灰黒色 e:胴部片 f:上端部粘土紐接合部から破損・傾き、天地不明・長石が混じる胎土だが渥美窯に近似
36	29	第5面 遺構106	土製品	土錘	4.30	外径 3.20 内径 1.10	1.10	b:黒色粒・白色粒・雲母 c:一部欠損 e:灰白色
37	30	第5面 遺構106	金属 製品	鉄製品 釘	[5.70]	[1.0]	[0.90]	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:10g
37	31	第5面 遺構106	金属 製品	鉄製品 釘	[6.70]	[0.70]	[0.55]	a:鍛造 e:一部欠損 f:断面四角形・錆付着 g:5g
37	32	第5面 遺構106	金属 製品	鉄製品 釘	[8.75]	[1.20]	[1.20]	a:鍛造 e:完形 f:錆付着 g:20g
37	33	第5面 遺構106	金属 製品	鉄製品 釘	13.50	0.40	0.55	a:鍛造 e:完形 f:断面四角形・錆付着 g:24g
37	34	第5面 遺構106	金属 製品	鉄製品 不明	[9.20]	[0.40]	[0.80]	a:鍛造 e:一部欠損 f:錆付着 g:34g
37	35	第5面 遺構106	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.70	0.10	e:完形 f:開元通寶・唐代・初鋳年621年・裏面「上月」 g:3.2g
37	36	第5面 遺構106	骨製品	用途不明	[2.25]	[0.60]	[1.3～ 0.6]	e:一部欠損 f:鈑の形状を呈する・整形はやや雑 g:1g
37	37	第5面 遺構106	石製品	砥石	[13.8]	[5.0]	[4.20]	a:砥面２面遺存・切り出し痕１面遺存 c:灰緑色 e:一部欠損 f:荒砥・産地不明（長崎：大村湾周辺か）・端部摩耗
37	38	第5面 遺構106	石製品	砥石	[6.50]	3.70	[0.50～ 0.95]	a:砥面１面遺存・切り出し痕２面遺存 c:灰緑色 e:一部欠損 f:鳴滝産・仕上砥

単位（cm）

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
				単位：cm/復元値[ ]/残存値( )				a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
37	39	第5面 遺構106	貝	漆 パレット	—	—	—	f:チョウセンハマグリの内面に漆パレットとして使用した刷毛痕(黒色系漆)が残る
37	40	第5面 遺構107	貝	漆 パレット	—	—	—	f:チョウセンハマグリの内面に黒色系漆が全面に塗布される。漆パレットとして使用か
37	41	第5面 遺構106	木製品	建築部材	[397.0]	[15.0]	[10.0]	f:規格性のあるホゾが切られる。ホゾとホゾの芯芯距離は47.5cmと50cmであった・ホゾが残る面に焼痕有・手斧痕有り・桟か
37	42	第5面 遺構106 掘り方	土器	かわらけ	7.50	6.20	2.05	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:ほぼ完形 g:60g f:歪み有り
37	43	第5面 遺構106 掘り方	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.50	孔幅 0.70	0.10	e:完形 f:元祐通寶・行書・北宋・初鋳年1086年 g:4.2g
38	1	第5面 遺構113	木製品	用途不明	[22.9]	[10.20]	[3.0]	被熱を受け焼け焦げている・礎板か
38	2	第5面 遺構113	土器	かわらけ	(6.80)	(4.20)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不の後見込み回転ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・雲母 c:橙色 e:1/4
38	3	第5面 遺構113	土器	かわらけ	(13.00)	(8.40)	3.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底強く横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・雲母 c:橙色 e:1/2 f:内面一部が黒色に変色
38	4	第5面 遺構113	舶載 磁器	青磁 碗	—	—	[2.30]	a:ロクロ・内面片彫蓮華文・外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な淡緑色 e:胴部片 f:竜泉窯・碗Ⅰ類
38	5	第5面 遺構113	舶載 磁器	白磁 皿	—	—	[1.50]	a:ロクロ・口唇部露胎 b:精良堅緻 c:白色 d:灰白色 e:口縁部片 f:皿IX類
38	6	第5面 遺構113	舶載 陶器	緑釉 盤	—	—	[5.30]	a:口縁玉縁状を呈する・体部扁平な鉢状・内外側面無文・見込みに2条の沈線巡る・底部施釉 b:軟質・微砂・白色粒・雲母 c:灰黒色 d:濃緑色 e:胴部片
38	7	第5面 遺構113	陶器	瀬戸 卸皿	—	—	[2.20]	a:ロクロ b:微砂 c:灰色 d:ハケヌリ・灰緑色 e:口縁部片 f:中期Ⅲ
38	8	第5面 遺構113	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[6.10]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c：灰色 e:口縁部片 f:5型式
38	9	第5面 遺構113	陶器	常滑 甕	—	—	[5.80]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:褐色 d:自然降灰・暗褐色 e:口縁部片 f:5型式
38	10	第5面 遺構113	陶器	常滑 甕	46.80	—	[47.0]	a:輪積み・内面指頭による整形痕・外面上位は篦状工具による縦位の整形痕・下部は横位の整形痕・外面不規則に縦格子+菊花文の押印 b:微砂・白色粒・黒色粒 c:茶褐色 e:底部欠損 f:5型式・内面に漆状の付着物
38	11	第5面 遺構113	陶器	常滑 甕	—	—	[3.80]	a:輪積み b:微砂・白色粒・雲母 c:明褐色 d:自然降灰・茶褐色 e:胴部片 f:格子の押印
38	12	第5面 遺構113	金属 製品	銅製品 銭	直径 2.40	孔幅 0.60	0.10	e:完形 f:天聖元寶・真書・北宋・初鋳年1023年 g:4.0g
38	13	第5面 遺構113 南東A	木製品	建築部材	[209.0]	[10.0]	[6.0]	f:不規則に打ちこまれた釘3ヶ所遺存・角は丁寧に面取りしている・両端部ホゾが切られる
38	14	第5面 遺構113 南東B	木製品	建築部材	[211.5]	[10.0]	[7.0]	f:不規則に打ちこまれた釘5ヶ所遺存・角は丁寧に面取りしている・両端部ホゾが切られる
38	15	第5面 遺構113	木製品	建築部材	[101.0]	[12.40]	[2.70]	f:一部焼痕有・漆喰と考える白い付着物有り
39	1	表採 撹乱	土器	かわらけ	(7.30)	(4.80)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明瞭 b:海綿骨針・黒色粒・雲母泥岩粒 c:灰黄色 e:1/4
39	2	表採 撹乱	土器	かわらけ	(7.50)	(5.00)	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・やや硬質 c:暗橙色 e:1/4
39	3	表採 撹乱	土器	かわらけ	(7.00)	4.80	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母・泥岩粒・小石粒 c:灰黄色 e:2/3
39	4	表採 撹乱	土器	かわらけ	(7.60)	(5.40)	1.60	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:1/3
39	5	表採 撹乱	土器	かわらけ	6.85	5.00	1.65	a:ロクロ・底部回転糸切・内底ナデ不明・外底板状圧痕 b:海綿骨針・黒色粒・赤色粒・雲母 c:灰黄色 e:4/5 f:口唇部油煤痕・歪み大
39	6	表採 撹乱	土器	かわらけ	(6.65)	3.90	1.95	a:ロクロ・底部回転糸切・内底回転ナデ・外底板状圧痕 b:黒色粒・雲母 c:淡橙色 e:3/4 f:歪み大
39	7	表採 撹乱	土器	かわらけ	5.80	4.30	1.80	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:海綿骨針・泥岩粒 c:橙色 e:ほぼ完形 f:底部中央に穿孔あり・歪み有り g:30g
39	8	表採 撹乱	土器	かわらけ	7.20	4.30	1.90	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕不明 b:海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 c:黄橙色 e:ほぼ完形 f:底部中央に穿孔あり g:40g
39	9	表採 撹乱	土器	かわらけ	(12.70)	(8.60)	3.20	a:ロクロ・底部回転糸切・内底横ナデ・外底板状圧痕 b:黒色粒・雲母・泥岩粒 c:灰黄色 e:1/4
39	10	表採 撹乱	舶載 磁器	青磁 坏	—	—	[2.30]	a:ロクロ・内外面無文 b:精良堅緻 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:口縁部片 f:坏Ⅲ類
39	11	表採 撹乱	舶載 磁器	青白磁 水注	—	—	[3.10]	a:外面草花文の型押し b:精良堅緻 c:白色 d:淡水色 d:胴部片 f:外面被熱を受け釉剥離
39	12	表採 撹乱	陶器	瀬戸 折縁深皿	—	—	[2.90]	a:ロクロ b:微砂 c:灰色 d:透明な灰緑色 e:口縁部片 f:中期前半・口唇部釉剥離
39	13	表採 撹乱	陶器	瀬戸 入子	(3.00)	(2.20)	0.60	a:ロクロ・底部ヘラ状工具による整形 b:微砂 c:自然降灰 e:1/4
39	14	表採 撹乱	陶器	常滑 片口碗	—	—	[3.95]	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰色 d:自然降灰・明茶褐色 e:口縁部片 f:4型式か

単位（cm）

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	産地 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
				単位：cm/復元値[ ]/残存値( )				a: 成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:残存率 f:備考 g:重量
39	15	表採 撹乱	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.0]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・小石粒　c:灰色　d:自然降灰・灰色　e:口縁部片　f:6b型式
39	16	表採 撹乱	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[3.05]	a:輪積み　b:微砂・白色粒・黒色粒・雲母　c:茶褐色　d:自然降灰・明茶褐色　e:口縁部片　f:6b型式
39	17	表採 撹乱	陶器	常滑 片口鉢 Ⅰ類	—	—	[4.10]	a:輪積み・内外面横位のナデ　b:微砂・白色粒　c:灰白色　d:自然降灰　e:口縁部片　f:6型式
39	18	表採 撹乱	陶器	常滑 甕	—	—	[4.70]	a:輪積み　b:微砂・黒色粒・白色粒・雲母　c:明褐色　d:自然降灰・灰色　e:胴部片　f:不規則に頂部三角形の棒状の押印あり
39	19	表採 撹乱	土器	火鉢	—	—	[4.15]	a:口縁部内面側に凸帯状に張り出す・外面ヘラ状工具による横位のナデ・内面摩耗のため整形痕不明　b:微砂・雲母・黒色粒　c:灰色　e:口縁部片　f:口縁直下に穿孔あり(貫通)・ⅠC類・土器質
39	20	表採 撹乱	泥岩	用途不明	[6.0]	[3.90]	3.20	b:泥岩加工品 f:何かの脚にも見えるが器種・用途は不明・断面円形を呈する
39	21	表採 撹乱	土器	器種不明	—	—	[2.95]	a:ロクロ　b:微砂　c:灰黒色　d:自然降灰・灰色　e:口縁部片　f:胎土は硬質・香炉か・中世前期より新しい可能性有
39	22	表採 撹乱	石製品	滑石鍋 転用品	[9.50]	[6.30]	2.25	c:灰赤色　e:一部欠損　f:方形に加工・表裏面に刃物痕多数有・側縁部3面に煤付着・温石として転用か
39	23	表採 撹乱	石製品	砥石	[7.7]	2.4～2.9	[1.6～1.9]	a:砥面1面　生産地加工痕2面 c:淡黄褐色　e:一部欠損　f:上野産・中砥　採掘地は大仁田か

単位（cm）

出土遺物破片数表

第1面　遺構1		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	115
	かわらけ　ロクロ成形（小）	17
	白かわらけ　ロクロ成形（大）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	1
【青磁】		
舶載	碗	1
	蓮弁文碗	4
	坏	1
	折縁皿	1
【青白磁】		
舶載	梅瓶	4
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
渥美	甕	2
常滑	甕	69
	片口鉢Ⅱ類	1
	不明	1
	山茶碗	1
【土器】		
	火鉢	1
【瓦】		
	丸瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【土製品】		
	轆の羽口	1
【金属製品】		
	釘	3
【自然遺物】		
	獣骨	○
合計		227

第1面　遺構2		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	6
	かわらけ　ロクロ成形（小）	3
合計		9

第1面　遺構4		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	55
	かわらけ　ロクロ成形（小）	5
【青磁】		
舶載	蓮弁文碗	1
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	5
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦器質土器】		
	火鉢	1
【土器】		
	南伊勢系土鍋	1
合計		70

第1面　遺構7		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	17
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		20

第1面　遺構66		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	7
合計		7

第1面　遺構68		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	2
合計		2

第1面　遺構69		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1
瀬戸	折縁深皿	1
合計		2

第1面　遺構71		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		2

第1面　遺構74		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1
合計		1

第1面　遺構75		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	7
	かわらけ　ロクロ成形（小）	2
合計		9

第1面　遺構78		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	161
	かわらけ　ロクロ成形（小）	15
	かわらけ　てづくね成形（大）	1
【青磁】		
舶載	蓮弁文碗	2
【陶器】		
常滑	甕	28
	片口鉢Ⅰ類	6
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	2
	チャート	1
【土製品】		
	壺	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
合計		221

第1面面上		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	36
	かわらけ　ロクロ成形（小）	2
【陶器】		
常滑	甕	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		41

第1面構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	823
	かわらけ　ロクロ成形（小）	144
	かわらけ　てづくね成形（大）	14
	かわらけ　てづくね成形（小）	2
【白磁】		
舶載	四耳壺	1
	碗	1
	口兀皿	4
【青磁】		
舶載	碗	1
	蓮弁文碗	6
	器種不明	5
【青白磁】		
舶載	梅瓶	2
	水注	2
	皿	1
【陶器】		
瀬戸	瓶類	1
	碗	2
	折縁深皿	2
【陶器】		
常滑	甕	254
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	18
	片口鉢Ⅱ類	1
【土器】		
	火鉢	16
	土師器甕	1
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	砥石	2
	チャート	2
	滑石鍋	1
	滑石鍋加工品	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	26
	器種不明	1
合計		1338

第2a面　遺構6		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	14
	かわらけ　ロクロ成形（小）	4
【陶器】		
常滑	甕	2
	鉢	1
【金属製品】		
	釘	1
【自然遺物】		
	獣骨	○
合計		22

第2a面　遺構8		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	35
	かわらけ　ロクロ成形（小）	8
【青磁】		
	蓮弁文碗	1
【陶器】		
常滑	甕	34
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	3
合計		82

第2a面　遺構10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	4
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
合計		5

第2a面　遺構12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	2
	かわらけ　ロクロ成形（小）	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		5

第2a面　遺構13		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	32
	かわらけ　ロクロ成形（小）	8
【青磁】		
	蓮弁文碗	1
	折縁深皿	1
【陶器】		
常滑	甕	13
産地不明	壺	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	3
	合計	62

自然遺物は数量・種別を記載していない

出土遺物破片数表

第2a面　遺構14		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	26
	かわらけ　ロクロ成形（小）	2
【陶器】		
常滑	甕	7
【自然遺物】		
	チャート	○
	獣骨	○
	合計	35

第2a面　遺構15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

第2a面　遺構67		
産　地	器　種	破片数
【青磁】		
	碗	1
	合計	1

第2a面　遺構77		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	極小かわらけ　ロクロ成形	1
	かわらけ　ロクロ成形（大）	68
	かわらけ　ロクロ成形（小）	12
	かわらけ　てづくね成形(大)	1
【青磁】		
	蓮弁文碗	3
	不明	1
【陶器】		
瀬戸	瓶類	1
常滑	甕	26
	片口鉢Ⅰ類	2
産地不明	不明	1
【金属製品】		
	釘	3
	合計	119

第2a面　遺構79		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	75
	かわらけ　ロクロ成形（小）	17
	加工品	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	7
	片口鉢Ⅰ類	1
【瓦器質土器】		
	火鉢	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	105

第2a面　遺構82		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	59
	かわらけ　ロクロ成形（小）	10
【陶器】		
瀬戸	皿	1
	不明	1
常滑	甕	11
	合計	82

第2a面　遺構83		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	13
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅱ類	1
【石製品】		1
	滑石鍋	1
	合計	18

第2a面　遺構84		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	極小かわらけ（ロクロ成形）	1
	かわらけ　ロクロ成形（大）	38
	かわらけ　ロクロ成形（小）	12
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
【土器】		
	火鉢	1
【金属製品】		
	釘	1
【自然遺物】		
	獣骨	○
	合計	55

第2a面　遺構85		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	43
	かわらけ　ロクロ成形（小）	9
【青磁】		
舶載	折縁皿	1
	不明	2
【青白磁】		
舶載	梅瓶	1
【陶器】		
常滑	甕	17
産地不明	不明	1
【金属製品】		
	釘	5
	合計	79

第2a面　遺構86		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	18
	かわらけ　ロクロ成形（小）	11
【陶器】		
常滑	甕	2
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	釘	3
	合計	35

第2a面　遺構90		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	2
	合計	2

第2a面　遺構91		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	17
	かわらけ　ロクロ成形（小）	3
【陶器】		
常滑	甕	4
	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	25

第2a面　遺構92		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	11
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
【陶器】		
常滑	甕	2
【金属製品】		
	釘	1
【自然遺物】		
	獣骨	○
	合計	15

第2a面　遺構93		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	3
【陶器】		
常滑	甕	5
【金属製品】		
	釘	3
	合計	11

第2b面　遺構21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	3
【金属製品】		
	釘	1
	合計	5

第2b面　遺構22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	21
	かわらけ　ロクロ成形（小）	5
	かわらけ　てづくね成形（大）	6
	かわらけ　てづくね成形（小）	5
【陶器】		
常滑	甕	6
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	44

第2b面　遺構94		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	21
	かわらけ　ロクロ成形（小）	9
【陶器】		
瀬戸	入子	1
渥美	甕	2
常滑	甕	12
	片口鉢Ⅰ類	2
【土器】		
	火鉢	1
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	釘	2
	鉄滓	1
	合計	52

第2b面　遺構95A		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	310
	かわらけ　ロクロ成形（小）	47
	かわらけ　てづくね成形（大）	37
	かわらけ　てづくね成形（小）	17
【白磁】		
	四耳壺	5
	器種不明	1
	口冗皿	5
【青磁】		
	碗	2
	蓮弁文碗	5
【青白磁】		
	皿	1
	合子	2
	香炉	1
【陶器】		
舶載	天目茶碗	1
渥美	甕	1
	片口鉢	1
常滑	甕	119
	壺	2
	片口鉢Ⅰ類	10
	片口鉢Ⅱ類	1
産地不明	器種不明	1
【瓦器質土器】		
	火鉢	1
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	チャート	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	12
	器種不明	1
	合計	588

自然遺物は数量・種別を記載していない

出土遺物破片数表

第2b面　遺構96		
産　地	器　種	破片
【かわらけ】		数
	かわらけ　ロクロ成形（大）	14
	かわらけ　ロクロ成形（小）	6
【青磁】		
	蓮弁文碗	1
【陶器】		
常滑	甕	3
【金属製品】		
	釘	1
	合計	25

第2b面　遺構97		
産　地	器　種	破片
【かわらけ】		数
	かわらけ　ロクロ成形（大）	2
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

第2面面上		
産　地	器　種	破片
【かわらけ】		数
	かわらけ　ロクロ成形（大）	79
	かわらけ　ロクロ成形（小）	9
	器種不明	1
【青磁】		
	蓮弁文碗	1
	碗	1
【陶器】		
常滑	甕	41
	片口鉢Ⅰ類	5
	片口鉢Ⅱ類	3
【瓦器質土器】		
	碗	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	3
	器種不明	1
	合計	14
		6

第2面構成土		
産　地	器　種	破片
【かわらけ】		数
	かわらけ　ロクロ成形（大）	2413
	かわらけ　ロクロ成形（小）	31
	白かわらけ　てづくね成形	61
	かわらけ　てづくね成形（大）	17
	かわらけ　てづくね成形（小）	26
	かわらけ加工品（円盤状）	1
【白磁】		
舶載	四耳壺	1
	碗	2
	皿	2
	口兀皿	11
	器種不明	1
【青磁】		
舶載	碗	8
	蓮弁文碗	29
	折縁皿	4
	瓶類	1
	器種不明	3
【青白磁】		
舶載	梅瓶	10
【陶器】		
舶載	褐釉陶器	3
瀬戸	皿	1
	四耳壺	1
	盤	1
	入子	6
	折縁深皿	1
	卸皿	8
渥美	甕	19
常滑	甕	75
	壺	13
	片口鉢Ⅰ類	55
	片口鉢Ⅱ類	31
【土器】		
	火鉢	4
	南伊勢系鍋	1
	土師器甕	1
【瓦器質土器】		
	碗	3
	火鉢	3
【瓦】		
	平瓦	5
【石製品】		
	砥石	9
	硯	3
	滑石鍋	2
	チャート	1
	五輪塔	1
【土製品】		
	鞴の羽口	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	44
	鋳型	1
	鉄滓	9
	合計	3982

第3面　遺構17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	10
【青磁】		
	碗	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	13

第3面　遺構18		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	極小かわらけ　ロクロ成形	1
	かわらけ　ロクロ成形（大）	95
	かわらけ　ロクロ成形（小）	9
	かわらけ　てづくね成形（大）	7
	かわらけ　てづくね成形（小）	2
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	33
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	2
【土器】		
	土師器甕	2
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	刀子	1
	釘	4
	鋳型	1
	合計	160

第3面　遺構18床下		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	124
	かわらけ　ロクロ成形（小）	5
	かわらけ　てづくね成形（大）	88
	かわらけ　てづくね成形（小）	9
【青磁】		
	蓮弁文碗	2
	碗	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
	皿	2
【陶器】		
渥美	甕	3
	壺	1
常滑	甕	62
	壺	1
	片口鉢Ⅱ類	3
産地不明	器種不明	1
須恵器	蓋	1
【土器】		
	火鉢	2
	土師器甕	1
	坩堝	1
【瓦器質土器】		
	碗	1
【石製品】		
	砥石	2
【骨製品】		
	加工骨	1
【金属製品】		
	釘	2
	不明	1
【自然遺物】		
	貝	○
	果核	○
	合計	315

第3面　遺構18（裏込め）		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	極小かわらけ（ロクロ成形）	1
	かわらけ　ロクロ成形（大）	43
	かわらけ　ロクロ成形（小）	14
	かわらけ　てづくね成形（大）	26
	かわらけ　てづくね成形（小）	3
【白磁】		
	四耳壺	2
【青磁】		
	碗	1
	蓮弁文碗	3
【陶器】		
常滑	甕	36
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	5
【瓦器質土器】		
	火鉢	2
【土製品】		
	不明	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	5
	鉄滓	1
	器種不明	3
	合計	149

第3面　遺構19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	99
	かわらけ　ロクロ成形（小）	22
	かわらけ　てづくね成形（大）	47
	かわらけ　てづくね成形（小）	6
【青磁】		
	蓮弁文碗	1
	瓶類	1
	器種不明	1
【陶器】		
渥美	器種不明	1
常滑	甕	20
	壺	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【金属製品】		
	釘	3
	合計	203

第3面　遺構20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	427
	かわらけ　ロクロ成形（小）	125
	かわらけ　てづくね成形（大）	262
	かわらけ　てづくね成形（小）	100
	転用品（円盤状）	1
【白磁】		
	四耳壺	1
	口兀皿	1
	器種不明	1
【青磁】		
	碗	14
	皿	3
	蓮弁文碗	5
	器種不明	2
【青白磁】		
	皿	1
	合子	2
	香炉	1
【陶器】		
瀬戸	四耳壺	1
渥美	甕	49
	片口鉢	1
常滑	甕	320
	壺	6

自然遺物は数量・種別を記載していない

出土遺物破片数表

	片口鉢Ⅰ類	12
	片口鉢Ⅱ類	12
産地不明	甕	1
【瓦器質土器】		
	火鉢	3
【瓦】		
	平瓦	7
【石製品】		
	滑石スタンプ	1
	硯	1
	チャート	56
【土製品】		
	輔の羽口	3
【漆製品】		
	皿	1
【金属製品】		
	釘	20
	鋳型	1
	鉄滓	1
	器種不明	1
【自然遺物】		
	貝	○
	軽石	○
	獣骨	○
	合計	1443

第3面　遺構23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	7
	かわらけ　ロクロ成形（小）	6
【青白磁】		
	合子	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	15

第3面　遺構24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	3
	かわらけ　てづくね成形（小）	1
	合計	4

第3面　遺構32		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	1
	合計	1

第3面　遺構95B		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1331
	かわらけ　ロクロ成形（小）	149
	かわらけ　てづくね成形（大）	34
	かわらけ　てづくね成形（小）	14
【白磁】		
	四耳壺	1
	口兀皿	2
	皿	2
	器種不明	2
【青磁】		
	碗	7
	皿	1
	蓮弁文碗	13
	折縁鉢	2
	折腰鉢	1
	器種不明	1
【青白磁】		
	梅瓶	2
	合子	3
【陶器】		
舶載	緑釉盤	1
	褐釉陶器	3
瀬戸	四耳壺	3
	入子	1
	卸皿	3
	器種不明	1
渥美	甕	14
	片口鉢	3
常滑	甕	286
	壺	4
	片口鉢Ⅰ類	23
	片口鉢Ⅱ類	3
	山皿	1
【土器】		
	火鉢	3
	南伊勢系鍋	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	2
【石製品】		
	砥石	5
	硯	2
	滑石鍋	1
	チャート	1
【金属製品】		
	銭貨	6
	釘	53
	鉄滓	1
	不明	7
【自然遺物】		
	貝	○
	獣骨	○
	合計	2044

第3面面上		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	392
	かわらけ　ロクロ成形（小）	113
	白かわらけ　てづくね成形	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	117
	かわらけ　てづくね成形（小）	14
【白磁】		
	四耳壺	1
【青磁】		
	碗	5
	蓮弁文碗	8
【青白磁】		
	梅瓶	6
	水注	1
	合子	1
	壺	1
	器種不明	2
【陶器】		
舶載	褐釉陶器	1
渥美	甕	7
常滑	甕	218
	壺	4
	片口鉢Ⅰ類	13
	片口鉢Ⅱ類	4
【土器】		
	火鉢	1
	南伊勢系鍋	2
	器種不明	1
【瓦器質土器】		
	碗	1
【瓦】		
	平瓦加工品	1
【石製品】		
	チャート	4
	滑石鍋加工品	1
【土製品】		
	輔の羽口	2
【金属製品】		
	釘	22
	器種不明	1
【自然遺物】		
	獣骨	○
	合計	945

第3面構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1466
	かわらけ　ロクロ成形（小）	302
	白かわらけ　てづくね成形	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	423
	かわらけ　てづくね成形（小）	6
	かわらけ　てづくね成形（コースター型）	1
	加工品（円盤状）	1
【白磁】		
	皿	3
	口兀皿	8
	器種不明	2
【青磁】		
	碗	26
	皿	2
	蓮弁文碗	16
	壺	1
	坏	1
	器種不明	2
【青白磁】		
	梅瓶	1
	合子	4
【陶器】		
舶載	褐釉壺	1
瀬戸	壺	2
	入子	1
	卸皿	1
渥美	甕	21
	壺	1
	片口鉢	1
常滑	甕	556
	壺	6
	片口鉢Ⅰ類	45
	片口鉢Ⅱ類	18
	転用品	3
	山茶碗	2
	器種不明	2
【瓦器質土器】		
	碗	2
【土器】		
	火鉢	2
	香炉	
【瓦】		
	丸瓦	2
【石製品】		
	砥石	6
【土製品】		
	輔の羽口	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	鋳型	1
	釘	59
	合計	3002

第4面　遺構38		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	3
	合計	3

第4面　遺構40		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
	合計	1

第4面　遺構41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	2
	合計	2

第4面　遺構42		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	2
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	1
【金属製品】		
	器種不明	1
	合計	5

第4面　遺構43		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（小）	1
【青磁】		
	碗	1
	合計	2

第4面　遺構45		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	器種不明	1
	合計	1

自然遺物は数量・種別を記載していない

出土遺物破片数表

第4面　遺構47		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	5
	かわらけ　てづくね成形（小）	1
【青磁】		
	碗	1
	合計	7

第4面　遺構49		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	9
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	4
	かわらけ　てづくね成形（小）	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	18

第4面　遺構50		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	6
	かわらけ　てづくね成形（小）	2
	合計	8

第4面　遺構51		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	4
【青磁】		
	器種不明	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	8

第4面　遺構52		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（小）	2
	かわらけ　てづくね成形（大）	2
	合計	4

第4面　遺構60		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　てづくね成形（大）	4
	かわらけ　てづくね成形（小）	4
【陶器】		
常滑	甕	1
産地不明	器種不明	1
	合計	10

第4面　遺構65		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	3
	かわらけ　ロクロ成形（小）	3
	かわらけ　てづくね成形（大）	3
【青磁】		
	碗	1
	合計	10

第4面　遺構99		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	122
	かわらけ　ロクロ成形（小）	3
	かわらけ　てづくね成形（大）	83
	かわらけ　てづくね成形（小）	6
【青磁】		
	蓮弁文碗	1
	櫛描文碗	1
【青白磁】		
	皿	1
	合子	3
	壺	1
【陶器】		
常滑	壺	1
	壺	63
	片口鉢Ⅱ類	3
【土器】		
	火鉢	1
【瓦器質土器】		
	碗	1
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	釘	2
【自然遺物】		
	貝	○
	果核	○
	合計	295

第4面　遺構101		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	23
	かわらけ　ロクロ成形（小）	4
	かわらけ　てづくね成形（小）	4
【陶器】		
渥美	片口鉢	1
常滑	甕	6
	壺	1
【石製品】		
	滑石鍋	1
【金属製品】		
	釘	1
	鉄滓	1
【自然遺物】		
	獣骨	○
	合計	42

第4面　遺構103		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	5
	かわらけ　てづくね成形（大）	3
【陶器】		
常滑	甕	4
	合計	12

第4面　遺構104		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1
	合計	1

第4面　遺構105		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	3
	かわらけ　ロクロ成形（小）	2
	かわらけ　てづくね成形（大）	8
【青磁】		
	碗	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	2
	合計	17

第4面面上		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	23
	かわらけ　ロクロ成形（小）	7
	かわらけ　てづくね成形（大）	61
	かわらけ　てづくね成形（小）	7
【青磁】		
	蓮弁文碗	2
【陶器】		
常滑	甕	26
	片口鉢Ⅰ類	1
	山茶碗	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	1
【自然遺物】		
	貝	○
	獣骨	○
	合計	131

第4面構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	99
	かわらけ　ロクロ成形（小）	21
	かわらけ　てづくね成形（大）	74
	かわらけ　てづくね成形（小）	13
【白磁】		
	皿	1
	口兀皿	1
【青磁】		
	碗	3
	蓮弁文碗	5
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
褐釉	壺	1
渥美	甕	1
常滑	甕	66
	片口鉢Ⅰ類	3
【土器】		
	土師器器種不明	1
【木製品】		
	礎板	1
【土製品】		
	玉状製品	1
【金属製品】		
	釘	10
	鉄滓	2
【自然遺物】		
	貝	○
	獣骨	○
	合計	304

第5面　遺構95C		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	33
	かわらけ　ロクロ成形（小）	10
	かわらけ　てづくね成形（大）	30
	かわらけ　てづくね成形（小）	4
【青磁】		
	碗	1
	皿	1
	蓮弁文碗	2
【陶器】		
渥美	甕	2
常滑	甕	42
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	2
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	釘	4
【自然遺物】		
	獣骨	○
	合計	134

第5面　遺構106		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	285
	かわらけ　ロクロ成形（小）	68
	白かわらけ　てづくね成形（小）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	97
	かわらけ　てづくね成形（小）	13
【白磁】		
	碗	1
	皿	1
【青磁】		
	蓮弁文碗	7
	碗	1
【青白磁】		
	合子	2
【陶器】		
舶載	壺	1
渥美	甕	5
常滑	甕	149
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	4
	山皿	1

自然遺物は数量・種別を記載していない

出土遺物破片数表

【土器】		
	火鉢	2
	器種不明	1
【瓦】		
	丸瓦	1
【石製品】		
	砥石	2
	滑石鍋	3
【木製品】		
	不明	6
【骨製品】		
	鏃	1
【土製品】		
	土錘	1
【金属製品】		
	銭貨	1
【自然遺物】		
	貝	○
	獣骨	○
	果核	○
	合計	657

第5面　遺構106掘り方		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	6
	かわらけ　ロクロ成形（小）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	1
	かわらけ　てづくね成形（小）	4
【白磁】		
	四耳壺	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	2
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
【自然遺物】		
	貝	○
	果核	○
	合計	14

第5面　遺構113		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	46
	かわらけ　ロクロ成形（小）	11
	かわらけ　てづくね成形（大）	36
	かわらけ　てづくね成形（小）	6
【白磁】		
	皿	1
【青磁】		
	碗	2
【陶器】		
舶載	緑釉盤	1
	褐釉陶器	1
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	96
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	7
	山茶碗	1
【木製品】		
	建材	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
	鉄滓	1
	合計	214

第5面構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形（大）	1
	かわらけ　てづくね成形（大）	13
	かわらけ　てづくね成形（小）	1
【陶器】		
常滑	壺	2
	片口鉢Ⅱ類	1
【金属製品】		
	釘	2
	合計	20

	かわらけ　ロクロ成形（小）	52
	かわらけ　てづくね成形（大）	39
	かわらけ　てづくね成形（小）	3
【白磁】		
	瓶類	1
	皿	1
	口元皿	1
【青磁】		
	碗	2
	蓮弁文碗	4
	鉢	1
	坏	2
	器種不明	1
【青白磁】		
	水注	1
	玉状製品	1
【陶器】		
常滑	甕	15
	壺	2
	片口鉢Ⅰ類	2
瀬戸	皿	1
	瓶子	1
	入子	1
	碗	1
	鉢	3
	折縁深皿	1
	卸皿	1
	器種不明	1
【土器】		
	火鉢	1
【瓦器質土器】		
	火鉢	1
	器種不明	1
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	3
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	11
	鉄滓	2
	不明	1
【自然遺物】		
	獣骨	○
	合計	576

自然遺物は数量・種別を記載していない

若宮大路周辺遺跡群出土粘土塊の成分分析

藤根　久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

若宮大路周辺遺跡群の小町一丁目 324 番 4 地点では、中世（13～14 世紀）の方形竪穴建物、土坑、柱穴、かわらけ溜まり、溝状土坑を検出し、舶載陶磁器、国産陶器、木製品等の遺物が出土している。

ここでは、遺構 95C 覆土より出土した粘土塊について、電子顕微鏡観察、蛍光X線分析および赤外分光分析を行い、材質を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、遺構 95C 第 4 層から出土した粘土塊である（表 1、図版 1-1）。試料は、灰赤色の粘土で 25×10cm ほどの塊の状態で出土した。分析は、粘土について電子顕微鏡観察、蛍光X線分析および赤外分光分析を行った。

表1　分析試料とその詳細

分析No.	試料	色調	層位	備考
1	粘土塊	灰赤色（7.5R6/2）	第40層	遺構外堆積土

試料は、耳かき 1 杯程度を 10cc の遠沈管に入れ、精製水に溶かして超音波洗浄機で分散させた後、しばらく静置した。懸濁物を蛍光X線分析用マイラーフィルムおよび走査型電子顕微鏡観察用試料台にそれぞれ滴下し、40℃に設定した恒温乾燥機内で乾燥させた。

蛍光X線分析は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計 SEA1200VX を使用した。測定条件は、X線管がロジウム（Rh）ターゲットで、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV（一次フィルタ無し）・50kV（一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用）の計 3 条件で、測定時間は各条件 500～1000s、管電流自動設定、照射径 8mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ファンダメンタル・パラメータ法（FP 法）による定量計算を行った。

電子顕微鏡観察は、日本電子株式会社製走査型電子顕微鏡 JSM-5900LV を使用した。試料は、イオンスパッタ装置で金蒸着を施した後、二次電子像を観察した。

赤外分光分析は、蛍光X線に用いた試料から小片を採取し、厚さ 1mm 程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に押しつぶして、油圧プレス器を用いて約 7 トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光（株）製 FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定し、粘土鉱物の吸収スペクトルと比較・検討した。

3. 結果および考察

分析した試料は、精製水に加えて懸濁させると、ラメ塗料のようにキラキラとした質感が見られた。

懸濁液を乾燥した試料の蛍光X線分析では、二酸化ケイ素（SiO_2）が最も多く 44.61%、次いで酸化アルミニウム（Al_2O_3）が 34.70%であった。その他は、酸化鉄（Fe_2O_3）が 4.35%、酸化硫黄（SO_3）が 4.72%、酸化リン（P_2O_5）が 4.30%、酸化チタン（TiO_2）が 4.19%、酸化カルシウム（CaO）が 1.69%、

酸化カリウム（K_2O）が 1.38%であった。酸化クロム（Cr_2O_3）、酸化マンガン（MnO）、酸化銅（CuO）、酸化亜鉛（ZnO）も僅かに検出された（表 2）。

表2　懸濁乾燥試料の蛍光Ｘ線分析結果（重量%）

分析No.	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	CuO	ZnO	合計
1	34.70	44.61	4.30	4.72	1.38	1.69	4.19	0.02	0.02	4.35	0.01	0.01	100.00

同様に懸濁液を乾燥した試料の走査型電子顕微鏡を用いた二次電子像では､径が１μｍ以下の六角形の板状粒子が多数観察された(図版1-2)。

赤外分光分析では、複数箇所において顕著な吸収がみられた（図版1-3)。

表3　粘土の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	位置	強度
1	3937.93	95.7393
2	3872.36	95.4798
3	3826.08	94.8950
4	3779.80	94.7463
5	3694.94	40.7422
6	3660.23	46.9673
7	3621.66	33.7906
8	3478.95	63.4469
9	1828.19	95.4897
10	1631.48	88.2275
11	1114.65	15.0851
12	1029.80	6.6696
13	917.95	18.1868
14	794.53	58.6434
15	690.39	50.7803
16	582.40	27.8131

赤外線吸収は、化合物中の振動する原子にその振動に等しい振動数の赤外線があたると、振動の共鳴が起こって赤外線が吸収されることを利用して化合物を同定することができる。図１に主な粘土鉱物の赤外吸収スペクトル図を示す。粘土塊の赤外線吸収は、カオリナイトの吸収とほぼ一致する。

カオリナイトは、地表付近の酸性環境で生成しやすく、花崗岩類をはじめ石英斑岩、酸性火山岩など長石に富む岩石の風化あるいは熱水変質によってできる。カオリナイトは、日本では、白色で可塑性が低く、板矢（山形県)、関白（栃木県)、神明（岐阜県）などにおいて産し、陶磁器、塗料、化粧品や医薬品などに用いられている（白水，1988)。

若宮大路周辺遺跡群において出土した粘土塊は、純度の高いカオリナイトであり、若宮大路周辺遺跡群の周辺においては得られないと考えられるため、他地域から持ち込まれた可能性が高い。なお、この粘土塊は、やや赤味のある粘土塊であるが、主に酸化鉄（Fe_2O_3）による着色と考えられる。

4. 考察

若宮大路周辺遺跡群から出土した粘土塊について、電子顕微鏡観察、蛍光Ｘ線分析および赤外分光分析を行った。その結果、カオリナイトであることが判明した。この粘土は、遺跡周辺においては得られないと考えられるため、他地域から持ち込まれた、より人為が関わった遺物と考えられた。

引用・参考文献

白水晴雄（1988）粘土鉱物学―粘土科学の基礎―．185p，朝倉書店.

牧野和孝（1998）鉱物資源百科辞典．1390p，日刊工業新聞社.

地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）増補改訂 地学事典．1612p，平凡社.

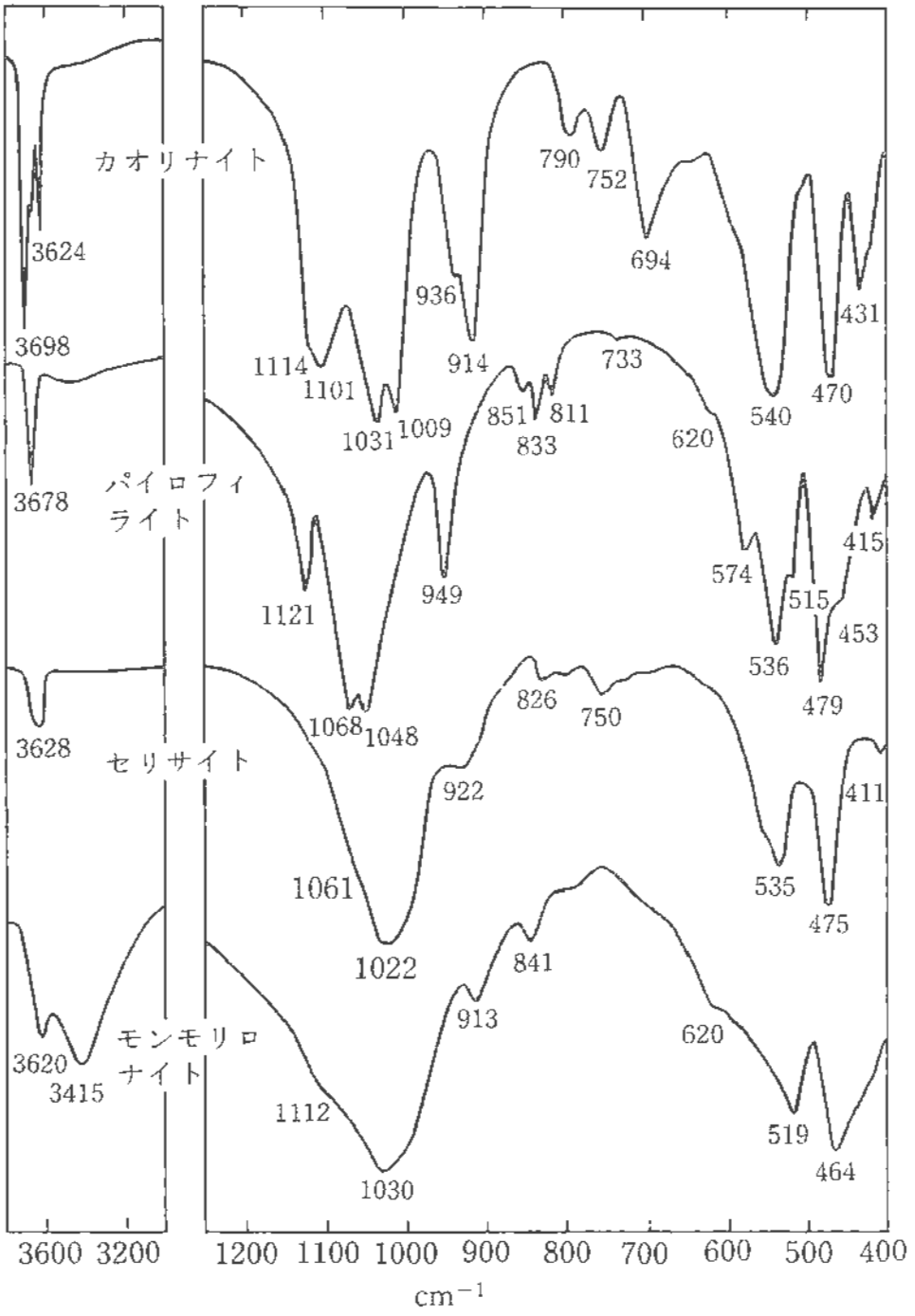
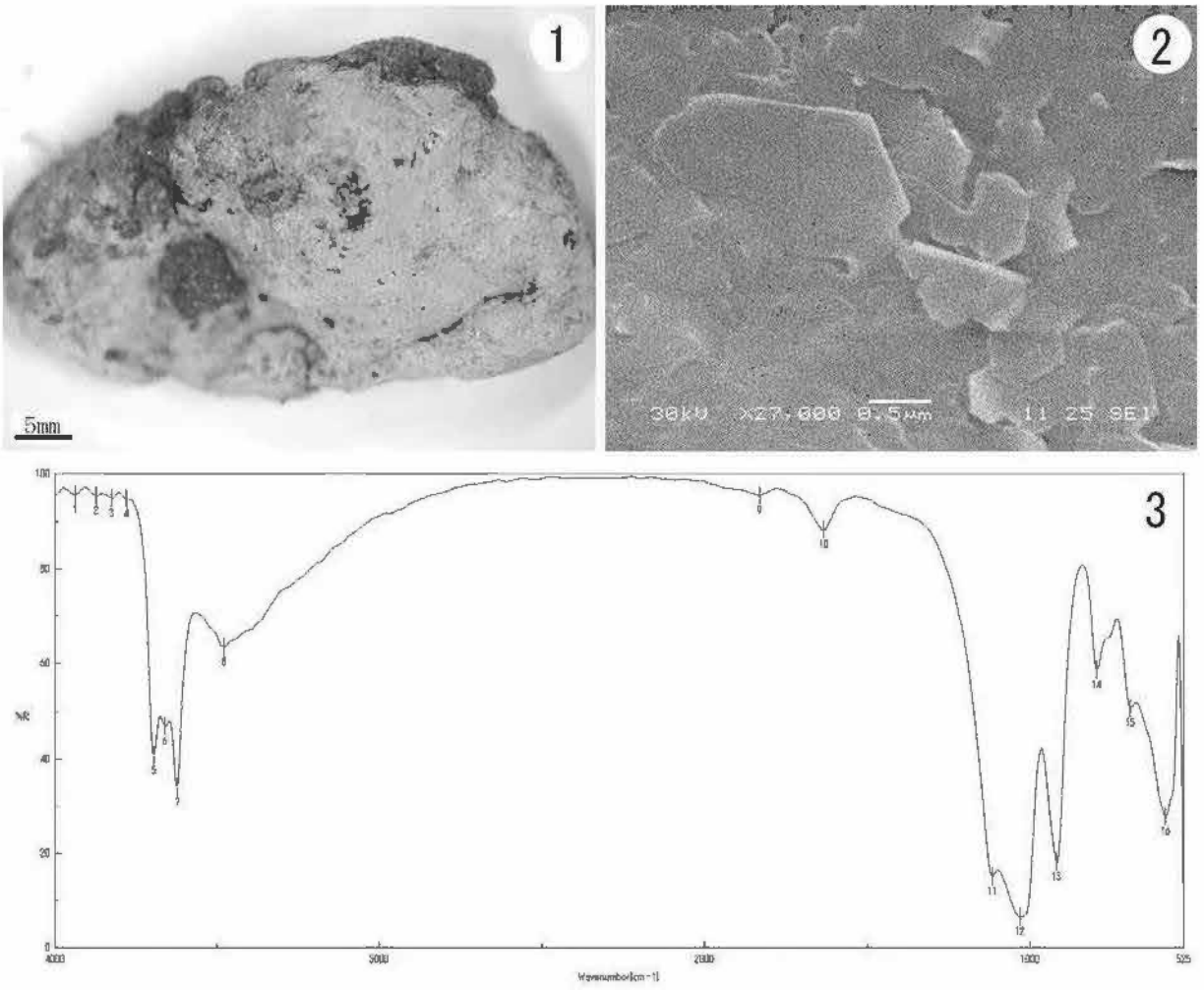


図1　代表的な粘土鉱物の赤外線吸収スペクトル（白水（1988）より引用）



図版 1　粘土塊と懸濁試料の電子顕微鏡写真および赤外線分校スペクトル図

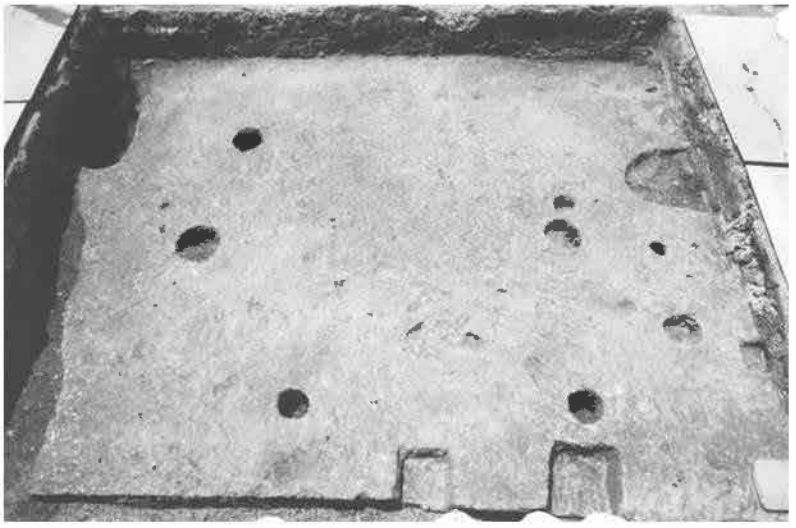
1. 粘土塊　2. 電子顕微鏡写真（二次電子像）

3. 赤外線分光スペクトル図（数字：赤外吸収位置（表 3 に対応））

▲ 遺構４（南から）

◀ Ⅰ区　第１面全景（北から）

Ⅱ区　第１面全景（北から） ▶



◀ Ⅰ区　第２面全景（北から）

Ⅱ区　第２面全景（北から） ▶

図版２

▲　第26面　遺構94・かわらけ出土状況

▲　Ⅰ区　第３面全景（北から）

▲　Ⅱ区　第３面全景（北から）

第３面　遺構 20（東から）　▶

▲　第３面　遺構 95B（南から）

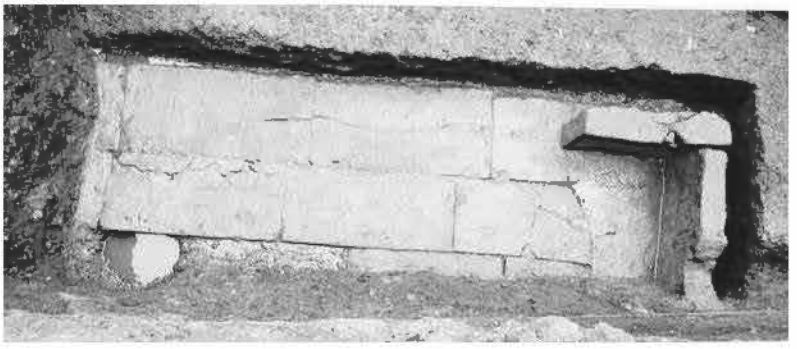
▲　第３面　遺構 95B 床板検出状況
（東から）

◀　Ⅱ区東壁に沿って検出した
泥岩と遺構 95B の関係

図版４

◀ 第３面。Ⅰ区　遺構 18（西から）

第３面・Ⅱ区　遺構 18（西から）▶

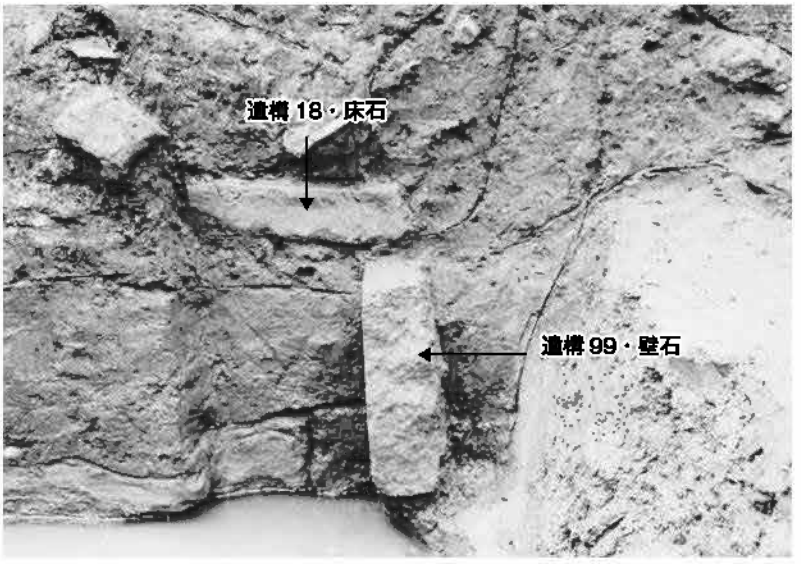


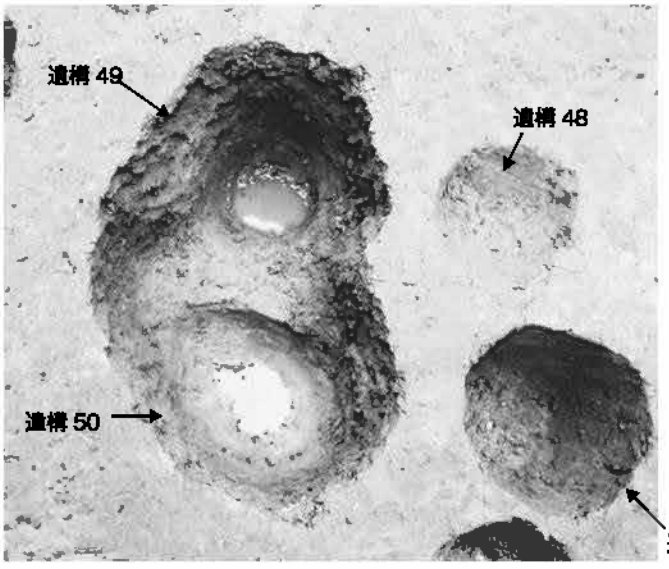
▲ Ⅰ区　第４面全景（北から）

第４面・Ⅰ区　遺構 99・検出前の状況▶
（西から）

◀ Ⅱ区・第4面　遺構99（西から）

第3面・遺構18と
第4面遺構99出土状況 ▶
（Ⅰ区西壁 Section から）



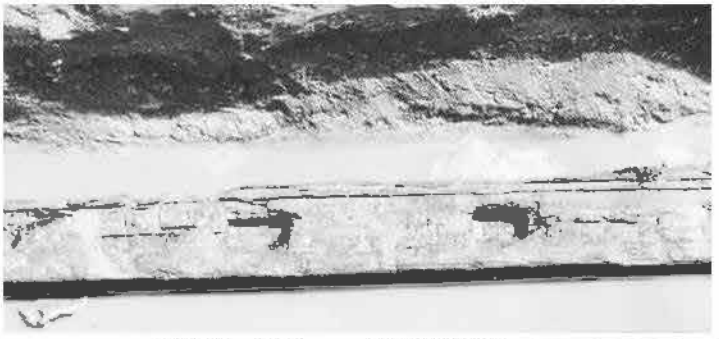


◀ 第4面　土拡・ピット検出状況（南から）

図版６

▲　Ⅱ区　第５面全景（北から）

▲　Ⅰ区　第５面全景（東から）



▲　第５面・遺構 106　根駄検出状況

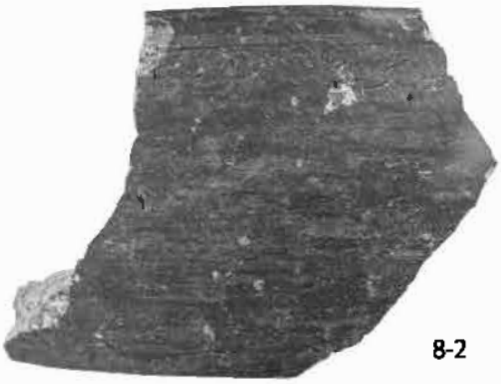
▲　第５面・遺構 113（西から）
根駄と常滑甕の出土状況

◀　第５面・遺構 113（東から）
壁板検出状況

▼第1面

7-3

7-6


8-2

△遺構4

7-5

7-7

7-9

△遺構1

7-8

9-2

△遺構78

10-1

△第1面面上

10-4

10-5

10-16

10-20

10-22

10-11

10-19

△第1面面上構成土

▼第2a面

12-1

△遺構8

12-3

12-8

12-11

△遺構77

12-14

△遺構14

12-9

△遺構13

12-17

△遺構84

図版8

▼第 2b 面

13-4

13-5

13-10

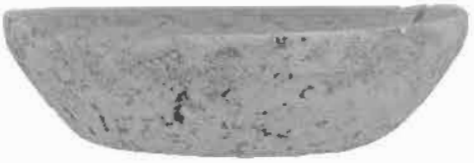
13-11

13-12

13-16

△遺構 94

14-3



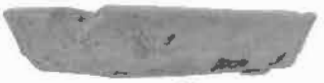
14-4

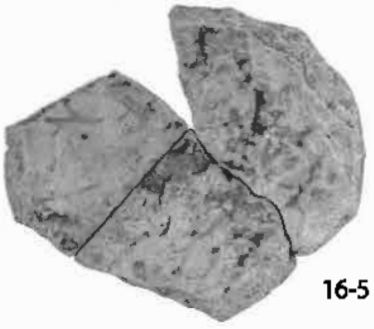
14-12

15-13

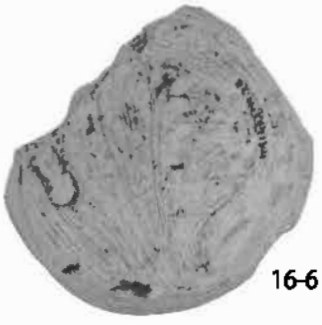
15-18

△遺構 95A

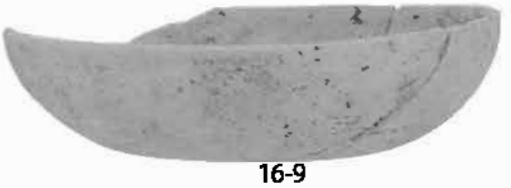




16-5



16-6



16-9

△遺構 96

16-7

△遺構 22

▼第3面

21-1

21-2

21-8

21-10

△遺構18

21-13

21-17

22-4

22-12

22-9

23-20

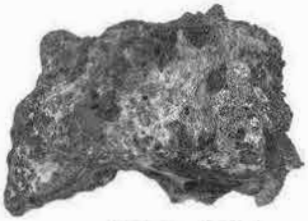
23-21

23-31

23-33

23-35

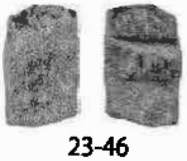
23-40

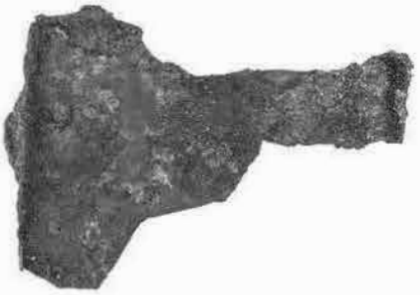


23-45

23-50

23-44


23-46



23-53

23-48

△遺構20

図版 10

▼第 3 面

21-1

21-2

21-8

21-10

△遺構 18

21-13

21-17

22-4

22-12

22-9

23-20

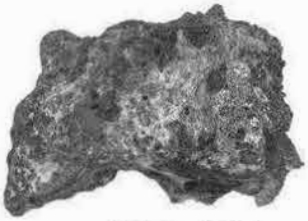
23-21

23-31

23-33

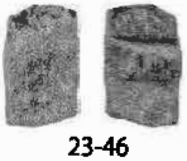
23-35

23-40



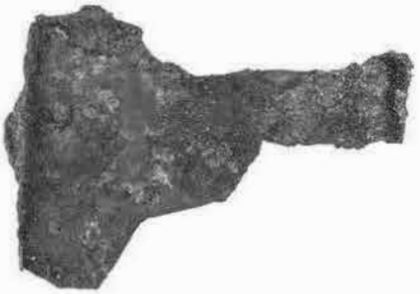
23-45

23-44



23-46

23-50



23-53

23-48

△遺構 20

▼第 3 面

21-54

24-55

24-56

24-58

24-59

24-60

24-61

24-62

24-63

24-64

24-65

24-66

24-67

24-68

24-69

24-70

24-71

24-72

24-73

24-74

24-75

24-76

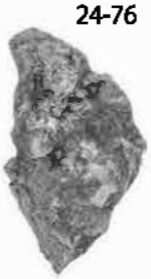
24-77

24-78

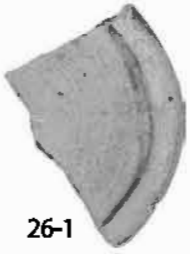
24-79

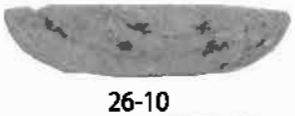
24-80

24-81


24-82

△遺構 20


26-1


26-10

26-13

26-15

26-19

26-27

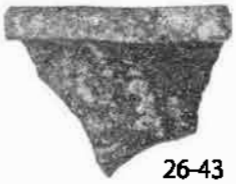
26-28

26-31

26-34

26-39

26-42


26-43

27-49

27-55

△遺構 95B

図版 12

▼第 3 面

27-68

27-69

27-70

27-73

27-74

27-75

27-72

27-76

27-77

28-7

△遺構 19

28-10

27-58

28-13

△遺構 23

27-80

△遺構 95B

29-1

29-3

29-10

29-13

△第 3 面面上

29-20

▼第 3 面

29-24

29-28

29-29

△第 3 面面上

29-32

29-44

29-34

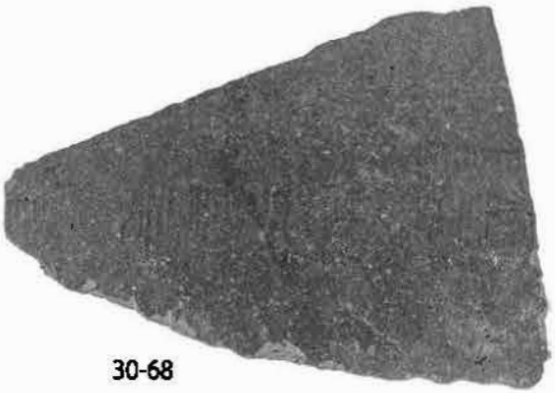
29-42

30-51

30-52

30-54

30-57


30-68

30-69

30-64

30-76

30-77

31-98

31-99

31-86

31-88

31-100

△第 3 面構成土

図版 14

▼第 4 面
34-1
34-3
34-4
△第 4 面面上
34-11
34-12
34-13
34-15
34-20
△第 4 面構成土
▼第 5 面
35-1
35-2
35-3
35-7
35-8
35-9
△遺構 95 c
36-6
36-12
36-16
36-25
36-17
36-27
36-28
△遺構 106

▼第 5 面

36-29

37-33

37-35

37-36

37-38

37-37

37-39

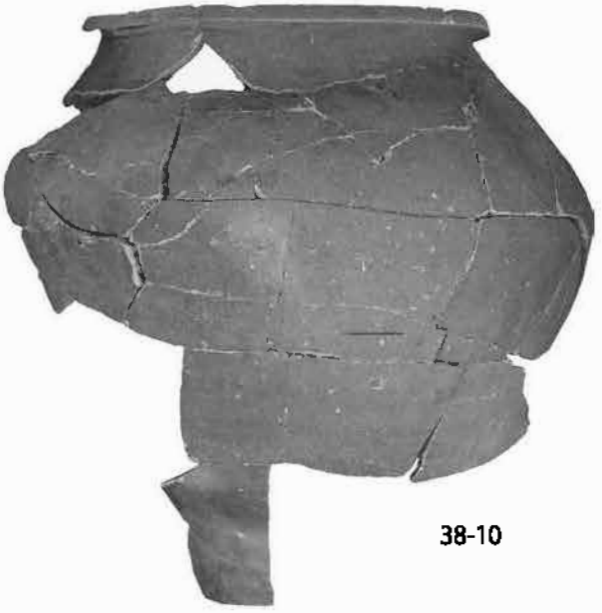
37-40

△遺構 106

37-42

37-43

△遺構 106 掘り方



38-10

38-4

38-6

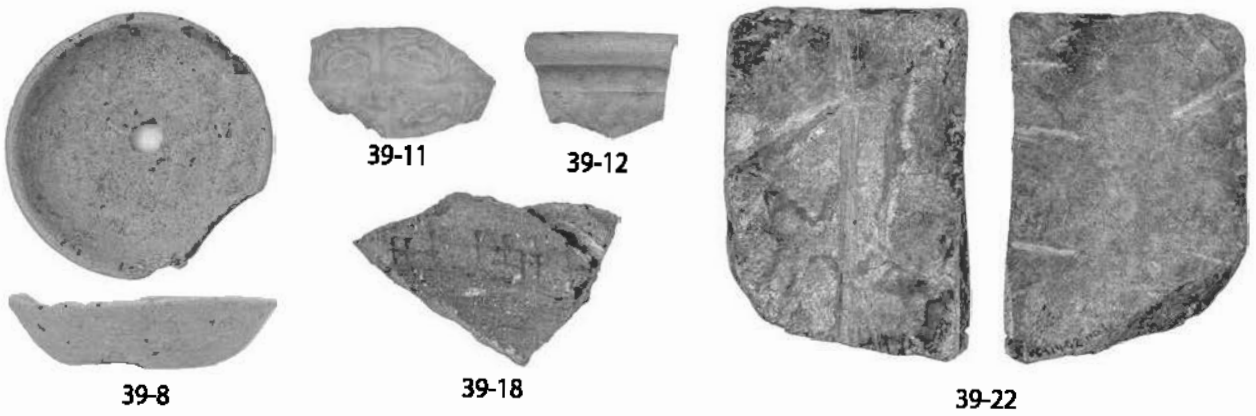
39-7

38-9

38-12

△遺構 113

図版 16



▲表採・撹乱

今小路西遺跡（No.201）

由比ガ浜一丁目163番1地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市由比ガ浜一丁目163番1において実施した、今小路西遺跡（鎌倉市No.201）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は平成28年11月1日から平成29年3月16日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、216.79㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

調　査　員　　岡本夏菜、神田倫子、小泉海斗、佐藤千尋、菅野知子、栂岡ケイト、渡邊美佐子
（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

作　業　員　　安藤宗幸、石田光久、大滝信治、小松原一郎、髙柳雅一、寺尾征夫、德安秀昭、永野幹晴、吉澤　功　（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）

整理作業参加者　岩崎卓治、押木弘己、神田倫子、菅野知子、須佐直子、田畑衣理、栂岡ケイト
（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

4．本報告の作成は、以下の分担で行った。

本文執筆・編集　押木

遺物挿図作成　　菅野

遺物観察表作成　田畑

遺構挿図・写真図版作成、遺物撮影・写真図版作成、遺物カウント表作成　押木

5．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＩＮ１６０３」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。

2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正後）に基づいている。

3．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより0°　09′　25″ほど東に振れている。

4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

5．出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、 筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明　2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年―東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要　第56号　第4部　人文・社会・自然科学編』鶴見大学

◆瓦質土器：河野眞知郎　1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河　第2集』神奈川県考古学会

◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡ⅩⅤ―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会　2000

◆瀬戸窯製品：藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史　別編窯業3　中世・近世常滑系』愛知県　2012

本文目次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　遺跡の立地 ……111
　第２節　周辺の調査成果 ……111
第二章　調査の方法と経過
　第１節　調査の経緯と経過 ……113
　第２節　調査の方法 ……113
第三章　基本土層 ……115
第四章　検出遺構と出土遺物
　第１節　検出遺構 ……117
　第２節　出土遺物 ……134
第五章　調査成果のまとめ
　第１節　１面～２面下遺構群の年代観 ……181
　第２節　３面遺構の年代と土地利用 ……182
　第３節　３面下の様相について ……182

挿図目次

図１　今小路西遺跡の範囲と調査地点の位置‥112
図２　調査区配置図 ……114
図３　土層断面図 ……116
図４　１面全体図 ……118
図５　１面下全体図 ……119
図６　１面下②全体図 ……120
図７　２面全体図 ……121
図８　２面下全体図 ……122
図９　３面・３面下全体図 ……123
図10　１面下　遺構447（据え甕）周辺
　・遺構203（柱穴列） ……124
図11　Ⅱ区１面下② 遺構474（竪穴建物）
　……125
図12　Ⅰ区２面　遺構253（竪穴建物）
　・遺構324（土坑） ……126
図13　Ⅱ区２面　遺構541（竪穴建物）周辺
　……127
図14　Ⅱ区２面　遺構514・584（竪穴建物）
　……129
図15　Ⅱ区２面　遺構516・542（竪穴建物）
　……131
図16　３面遺構573（井戸） ……131
図17　Ⅰ区　表土～３面　出土遺物図 ……134
図18　Ⅰ区　１面遺構　出土遺物 ……135
図19　Ⅰ区　１面下　出土遺物(1) ……137
図20　Ⅰ区　１面下　出土遺物(2) ……138
図21　Ⅰ区１面下・１面下②遺構　出土遺物
　……139
図22　Ⅰ区１面下②・２面遺構　出土遺 ‥‥140
図23 Ⅰ・Ⅱ区１面下②・２面・２面下
　出土遺物 ……141
図24　Ⅱ区１面下遺構　出土遺物 ……143
図25　Ⅱ区１面下の遺構、Ⅰ・Ⅱ区１面下
　出土遺物 ……144
図26　Ⅰ・Ⅱ区１面下・２面下　出土遺物 …145
図27　Ⅱ区１面下・１面下②　出土遺物 …146
図28　Ⅱ区１面下②～３面　出土遺物 ……147
図29　Ⅱ区１面下②・２面　出土遺物 ……148
図30　Ⅱ区３面　遺構573（井戸）出土遺物
　……149
図31　Ⅱ区３面下　遺構578（流路状遺構）、
　Ⅰ・Ⅱ区３面・３面下　出土遺物 ……150

表目次

表１　今小路西遺跡周辺の調査地点　・・・・・・・113
表２　検出遺構一覧　・・・・・・・・・・・・・・・132・133
表３　出土遺物カウント・計量表　・・・151 ～ 167
表４　出土遺物観察表　・・・・・・・・・・・・168 ～ 180

写真図版目次

図版１
１．現地調査前（北東から）
２．Ⅰ区　表土掘削状況（東から）
３．Ⅰ区１面 全景（南から）
４．Ⅰ区２面 泥岩塊列（北から）
５．Ⅰ区２面 遺構 203 柱穴列（北から）
６．Ⅰ区２面 遺構 223 かわらけ検出状況（北から）
７．Ⅰ区２面 遺構 223b かわらけ出土状況（西から）
図版２
１．Ⅰ区２面 全景（西から）
２．Ⅰ区２面 遺構 253 竪穴建物（南東から）
３．Ⅰ区２面 遺構 245 土坑（西から）
４．Ⅰ区２面 遺構 386 土坑（南から）
５．Ⅰ区２面 北東隅遺構群（西から）
図版３
１．Ⅰ区２面 遺構 324 土坑（南から）
２．Ⅰ区２面 遺構 324 土坑 猫骨検出状況（南から）
３．Ⅰ区３面 全景（西から）
４．Ⅰ区３面上 管玉検出状況
５．Ⅰ区３面下トレンチ掘削後 全景（南から）
６．Ⅰ区３面下トレンチ（南から）
７．Ⅰ区 南壁断面（2 面遺構 253 竪穴建物・北から）
８．Ⅰ区 埋め戻し作業状況（東から）
図版４
１．Ⅱ区 1 面 全景（西から）
２．Ⅱ区２面 硯出土状況
３．Ⅱ区２面 遺構 447 ～ 449（南から）
４．Ⅱ区２面 遺構 447 ～ 449（南東から）
５．Ⅱ区２面 遺構 447（南東から）
６．Ⅱ区２面 遺構 474 竪穴建物（北東から）
７．Ⅱ区２面 遺構 474 竪穴建物（西から）
８．Ⅱ区２面 遺構 516 竪穴建物（東から）
図版５
１．Ⅱ区２面 全景（北から）
２．Ⅱ区２面 遺構 541 竪穴建物（南西から）
３．Ⅱ区２面 遺構 514 竪穴建物（北西から）
４．Ⅱ区２面 遺構 516・542 竪穴建物（南東から）
５．Ⅱ区２面 遺構 552 土坑 遺物出土状況（西から）
図版６
１．Ⅱ区２面 全景（北から）
２．Ⅱ区２面下 遺構 573 井戸 粘土埋没状況（北西から）
３．Ⅱ区２面下 遺構 573 井戸 青磁皿出土状況
４．Ⅱ区２面下 遺構 573 井戸 遺物出土状況（南から）
５．Ⅱ区２面下 遺構 573 井戸 遺物出土状況（南東から）
図版７
１．Ⅱ区３面下 全景（北から）
２．Ⅱ区３面下 遺構 578 溝状遺構（北から）
３．Ⅱ区３面下 遺構 578 溝状遺構断面（北から）
４．Ⅱ区３面下 遺構 578 遺物出土状況（北から）
５．Ⅱ区埋め戻し後（北西から）
図版８～図版 18　出土遺物

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

第1節　遺跡の立地

本調査地は鎌倉市由比ガ浜一丁目163番1に所在する。「今小路」は鎌倉低地を南北に走る道路で、寿福寺門前～六地蔵交差点に通じている。今小路西遺跡(鎌倉市No.201)はこの西側一帯に広がる遺跡で、南北約1.1㎞、東西は最大で300ｍの範囲に広がる。本遺跡は市立御成小学校を挟んで基盤層が異なり、この以北では丘陵裾における黒褐色粘質土で、以南では海岸砂丘の後背地となる砂堆が広がり、小学校地点南東域～市役所前交差点付近にまで続いていたことが明らかとなっている。本地点は遺跡南西部の砂堆上に立地し、現地表面の標高は9.8ｍを測る。本地点の西辺には「塔の辻」から佐助ヶ谷に抜ける南北道が接し、これを挟んだ西側エリアは笹目遺跡（No.207）となる。また、南接する東西道路を東に200ｍほど向かうと六地蔵に至り、今小路と接続する。

第2節　周辺の調査成果

本遺跡の南部、社会福祉センター南辺の東西道以南では、小規模な事例が主体だが20地点を超える発掘調査が実施されている(図1)。その中でも福祉センターに近いエリア北域で調査が集中しているが、全体の空間構成を復元できるだけの情報は得られていない。概して、中世では2～3段階の掘り込み面で竪穴建物や大小の土坑、柱穴が検出され、かわらけ以下の雑多な遺物が出土する傾向が見て取れる。地点によっては6～8枚の遺構面が確認された事例があり、13世紀前半までは低調だった土地利用が、後半以降になると繰り返しの利用にともない遺構密度が増すようになる。大よそ14世紀前半までは、目立った遺物様相差を見せないまま雑然とした空間利用がなされたようである。南北朝期に入ると再び低調な利用へと変化して都市鎌倉の衰退を窺わせるが、15世紀代と見られる外反かわらけの一括廃棄土坑や、これと近接する掘立柱建物などの検出例なども散見され（図1-⓬地点)、当エリアでの営為が細々とではあるが、続いていた状況を窺い知ることができる。

今小路遺跡では、御成小学校校地での調査が最も知られるところであろう。校舎建て替えにともない総計9000㎡の調査が行われ、明治～大正年間の皇室御用邸が最上層で発見されたのを皮切りに、鎌倉時代後期の上級武家屋敷、奈良時代の郡衙政庁などが相次いで確認され、鎌倉でも未だ類を見ない基調な成果が挙がっている❸・❺。

図１　今小路西遺跡の範囲と調査地点の位置

表１　今小路西遺跡周辺の調査地点（番号は図１に対応）

No.	地番	調査年度	面積（㎡）	所収文献
今小路西遺跡（No. 201）				
❶	**由比ガ浜一丁目 163 番 1**	**2016**	**217**	**本報告**
❷	由比ガ浜一丁目 148 番 11	1982	96	『神奈川県埋蔵文化財調査報告 26』
❸	御成町 625 番 3（御成小）	1984	6000	『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　河野眞知郎ほか 1990
❹	御成町 625 番 2（社会福祉 C）	1989	2810	『今小路西遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　宮田 眞ほか 1993
❺	御成町 625 番 3（御成小 5 次）	1991	3000	『今小路西遺跡（御成小学校内）第 5 次発掘調査概報』鎌倉市教育委員会　河野眞知郎ほか 1993
❻	由比ガ浜一丁目 148 番 1	2000	51	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会　野本賢二 2002
❼	由比ガ浜一丁目 148 番 5	2001	115	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会　滝澤晶子ほか 2004
❽	由比ガ浜一丁目 157 番 7 外	2005	64	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄ほか 2012
❾	由比ガ浜一丁目 141 番 5 外	2005	155	『今小路西遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所　香川達郎ほか 2007
❿	由比ガ浜一丁目 197 番 2 外	2006	20	『今小路西遺跡発掘調査報告書』鎌倉遺跡調査会　齋木秀雄ほか 2007
⓫	由比ガ浜一丁目 151 番 1 の一部	2007	73	『今小路西遺跡発掘調査報告書』鎌倉遺跡調査会　鯉渕義紀 2012
⓬	由比ガ浜一丁目 147 番 2 外	2005	112	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 4 分冊）』鎌倉市教育委員会　永田史子・齋藤修佑 2017
⓭	由比ガ浜一丁目 147 番 1 の一部	2007	15+40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 4 分冊）』鎌倉市教育委員会　永田史子・齋藤修佑 2017
⓮	由比ガ浜一丁目 160 番 17	2013	40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　後藤　健 2019
⓯	由比ガ浜一丁目 160 番 1、8	2014	49	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　後藤　健 2019
笹目遺跡（No. 201）				
⓰	笹目町 425 番 1	1992	30	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　田代郁夫 1994
⓱	笹目町 302 番 5	1993	200	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 11（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会　田代郁夫ほか 1995
⓲	笹目町 302 番 11	2000	58	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　宗臺秀明ほか 2002

第二章　調査の方法と経過

第 1 節　調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設工事に先立つ埋蔵文化財の記録保存調査として、鎌倉市教育委員会文化財課（市教委）が実施した。建設計画では基礎工事として最大深度 2.3 ｍの地盤改良（柱状改良）を行う設計であったことから、市教委では平成 28 年 8 月 9 日に確認調査を行い、地表下 90 ㎝と 130 ㎝で 2 枚の中世遺構面を確認した。この結果を受け、建設計画の実施に当たっては、事前に本格的な発掘調査を行う必要があるという判断に至った。

発掘調査は建築範囲の約 250 ㎡を予定して開始した。平成 28 年 10 月 13 日に工事範囲東半部（Ⅰ区）の表土掘削から着手し、翌年 1 月 12・13 日にⅠ区の埋め戻しと西半部Ⅱ区の表土掘削を行った。3 月 15・16 日にはⅡ区の埋め戻しと調査用具の撤収を行って現地での全工程を終えた。出土品・記録類の整理作業と報告書の作成業務は、文化財課分室で断続的に行った。

第 2 節　調査の方法

今回の発掘調査は土壌改良の施工範囲を対象としたが、安全面を配慮して隣地や道路との境界線から十分な距離を取ったため、調査面積は当初予定の 250 ㎡から、最終的には 216.79 ㎡まで減少した。

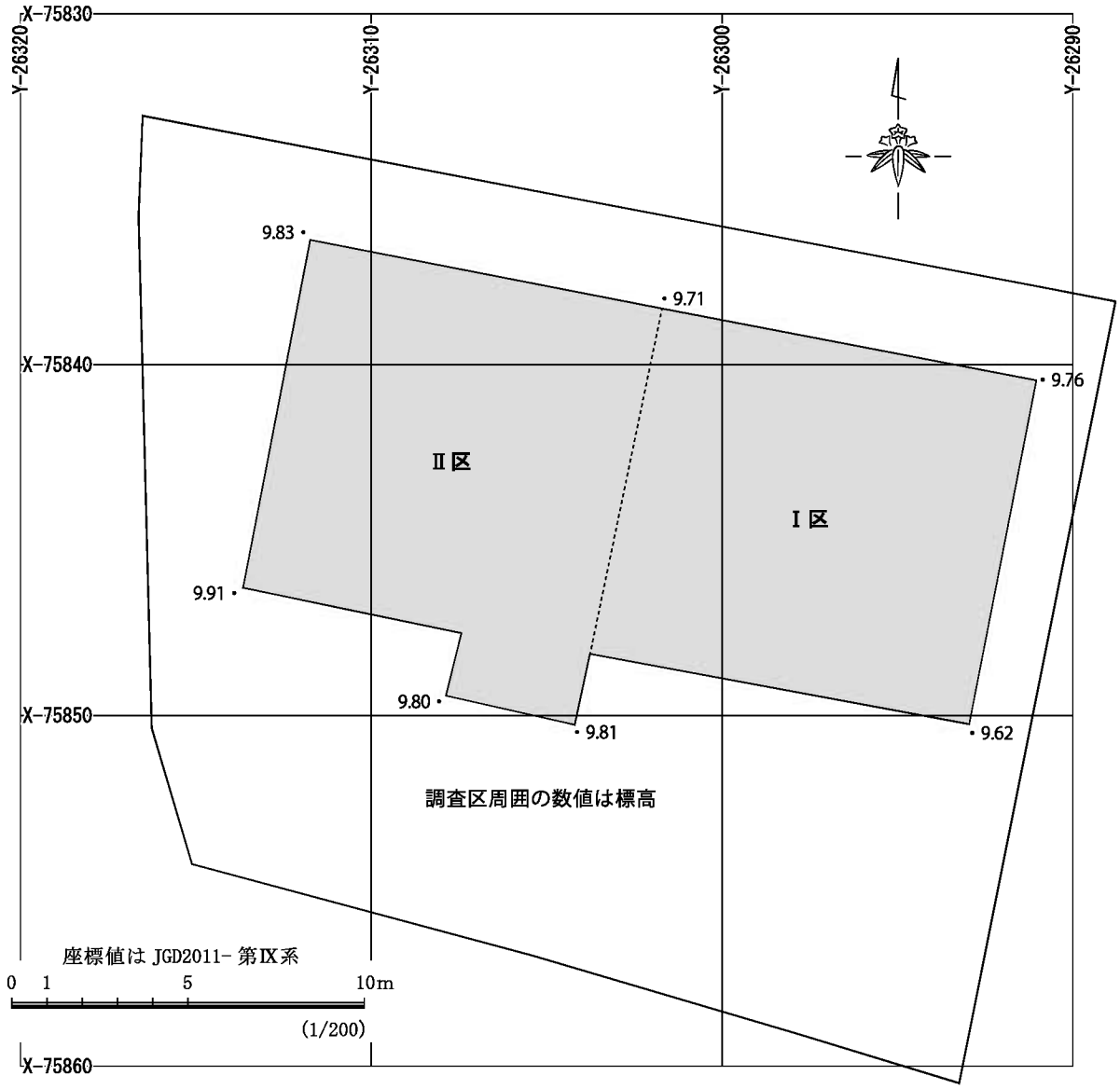


図２　調査区配置図

掘削にともなう発生土置き場を確保するため調査区は２分割し、Ⅰ区（東半部）→Ⅱ区（西半部）の順に着手した（図 2)。Ⅰ・Ⅱ区ともに地表から 50cm までは重機で掘り下げ、以下は人力による掘削に移行した。地表下約 80 cmで泥岩ブロックを多く含み比較的硬い土層が検出されたことから、この面を中世１面として遺構確認を行った。この後、重層する遺構面を検出しながら順次遺構掘削と記録作業を進め、地表下約２ｍのところで中世基盤層となる黒褐色砂質土層に達した。古墳時代後期を主体とする遺物包含層で、これを取り除いた無遺物の黄褐色砂層を確認したところで掘削を終了した（次章参照)。Ⅰ区では、黒褐色砂質土の除去を全域では行わなかった。

測量には国家座標系（JGD2011）の基準軸を用いることとし、道上に打たれた都市再生街区多角点 20B31 と鎌倉市３級基準点 53123 と２点間の関係を起点に、開放トラバース測量によって調査地敷地内に基準点を移設した。それと同時に、標高（垂直座標）も 20B31（9.108 ｍ）を起点として移設した。

第三章　基本土層

図３には、調査区壁の土層断面図を掲げた。調査前、地表面の標高（GL）は 9.6 ～ 9.9 ｍを計測し、敷地の南東側に向けてやや低くなっていた。表土以下の堆積土は砂地であり、腐植度合の強弱等により８層程度に大別することができた。各層序は、硬さや含有物の多寡等の違いによって細分される。

表土は層厚 20 ～ 60 ㎝を測り、所々に現代のゴミ穴（撹乱）が深く掘り込まれていた。表土直下には近世以降の堆積土と見られるⅠ層が 40 ～ 50 ㎝ほどの厚さで堆積しており、ここまでを重機で除去した後、人力による掘削・調査に移行した。

Ⅱ層は中世遺物包含層で層厚 10 ～ 30㎝を測る。この上面で遺構確認を試みたが、多くは近世以降の掘り込みであり、確実に中世に遡る事例は認められなかった。

Ⅲ層は中世遺構の掘り込み層であると同時に、下層の中世遺構を覆っている。全体で１ｍ程度の厚さを測る中、現地の土層観察では４層に細分できた。本報告ではⅢａ・Ⅲｂの２層に集約して提示したが、下位の層序ほど腐植質土の混入量が減り、砂質感が強くなる傾向が見て取れた。中世の遺構は基本的にⅢ層の中で構築が繰り返されたが、泥岩ブロックを用いた盛り土・嵩上げ整地は施されず、竪穴建物等を構築する度に周囲の窪みを埋めるなど、簡単な地ならしが行われたようである。そのため、現地調査でも明確な生活面は認識できず、Ⅲ層を段階的に掘り下げて行く過程で遺構確認を繰り返した。中世のの最下層で検出された遺構 573（井戸）だけはⅢ層に覆われる形で遺存しており、出土遺物の様相も、Ⅲ層検出遺構群のそれとは時期的な隔たりが認められた。以下の報告では、Ⅲ層上面を１面とし、Ⅲ層の掘り下げ段階で確認された中世遺構群を上から順に１面下→１面下②→２面と呼称し、Ⅲ層下の遺構 573 検出面は３面と呼ぶ。

Ⅳ層は腐植性の強い黒褐色砂質土で、鎌倉の発掘従事者が「チョコレート」と呼称する層序である。当地点では黄色砂の混入度合などから３層に細分できた。古代以前の遺物を包含する。

Ⅴ層も、古代以前の遺物を少量ながら包含している。

Ⅵ・Ⅶ層は無遺物の自然堆積砂層で、Ⅵ層には微細な貝殻粒子が含まれる。

今回の調査では、Ⅰ区で標高 7.8 ｍまで、Ⅱ区では標高 7.4 ｍ前後の深さまで掘り下げて上述の基本層序を確認し、Ⅳ層以下が中世より古い段階の堆積土であることを把握できた。Ⅳ層に限って堆積状況を見てみると、調査区南西部で検出レベルが最も低く、また厚く遺存していた。北西部では中世遺構の構築時に削り取られてしまったようで、それだけ本来の堆積レベルが高位にあったことを推察させる。現況に比べれば起伏の目立つ地形であったのだろう。

以下、図３に対応する基本土層の様相について、観察所見を示しておく。

基本土層

０　　暗褐色砂　　表土・撹乱。
Ⅰａ　暗灰褐色砂　　近世以降の耕作土。締まり弱い。
Ⅰｂ　暗灰褐色砂　　Ⅰａ層より締まりあり。泥岩粒微量。
Ⅱ　　暗褐色砂質土　泥岩粒多量。中世遺物包含層。上面が１面。
Ⅲａ　暗褐色砂質土　泥岩粒少量。締まりややあり。
Ⅲｂ　暗褐色砂質土　Ⅲａ層よりも砂質感が強い。

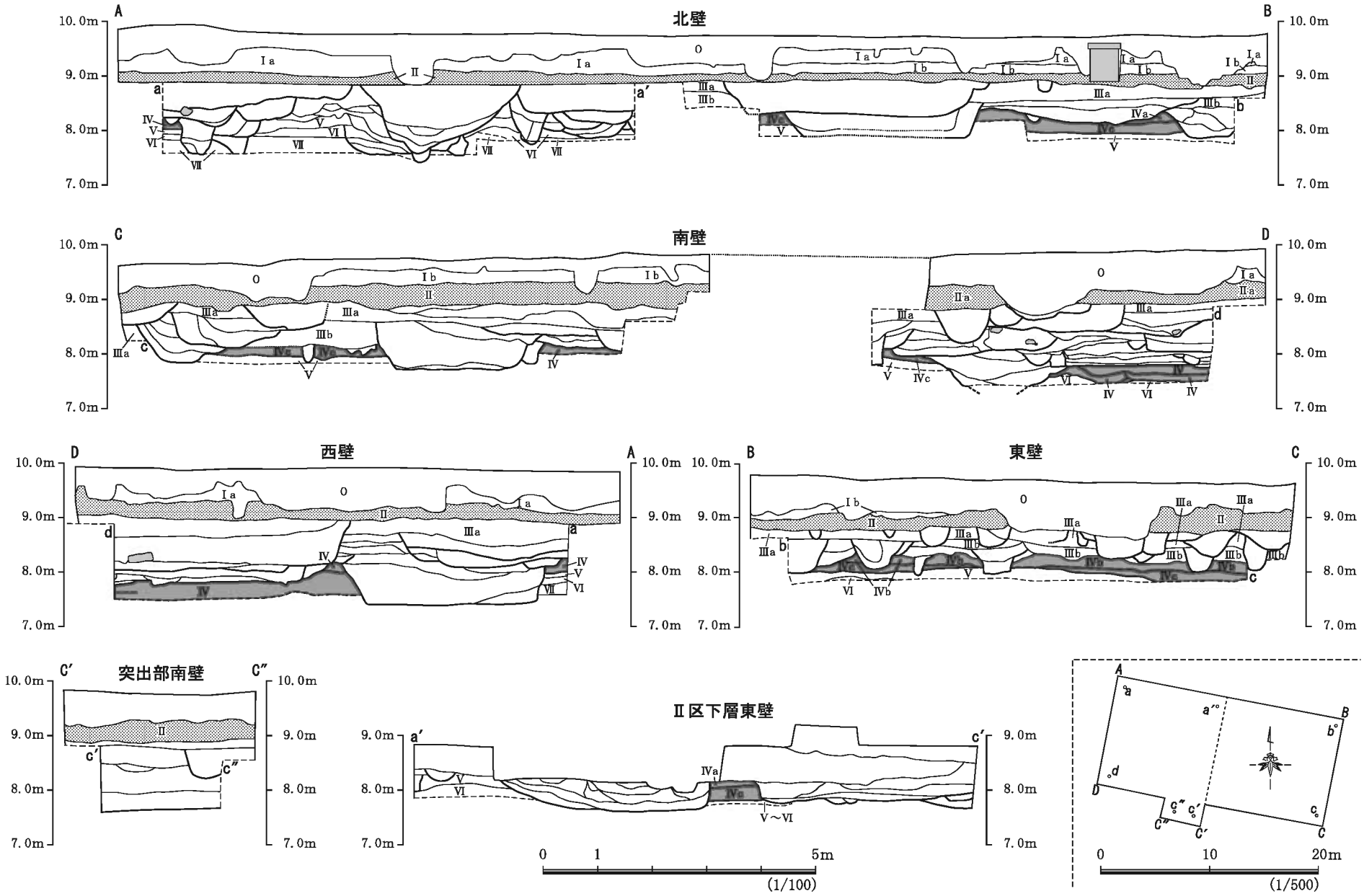


図３　土層断面図

Ⅳａ　黒褐色砂質土　古代遺物包含層。微細な礫粒を含む。
Ⅳｂ　黒褐色砂質土　「チョコレート層」。古代遺物包含層。微粒の黒色砂が主体。
Ⅳｃ　黒褐色砂質土　黄褐色砂を含む。Ⅴ層への漸移層。
Ⅴ　　黄褐色砂　　場所によって濁りあり。古代遺物混入。
Ⅵ　　灰白色砂　　貝殻粒を含む。締まり弱い。
Ⅶ　　黒灰色砂

遺構埋土（表１に対応）

A　暗褐色砂質土　泥岩粒少量。
B　黄褐色土　　泥岩ブロックが主体。
C　暗褐色砂　　泥岩粒微量。
D　黒色砂　　炭化物粒子多量。
E　灰褐色粘質土
F　黄色砂
G　灰色砂　　貝殻粒多量。
H　黒色砂

第四章　検出遺構と出土遺物

第１節　検出遺構

以下、各遺構面（段階）で検出された遺構について説明する。記述は代表的な遺構にとどめるので、他のものは表２に一覧としてまとめた。平面規模等、必要に応じて全体図ほかの図面から計測されたい。なお、遺構間の重複があるものは、原則として番号の小さい遺構を新しいものとして捉えている。

（１）１面の遺構（図 4）

１面は地表下 80cm の標高 8.8 ～ 9.0 ｍで確認した。基本土層のⅡ層上面で、近代以降の撹乱と土坑が検出された。土坑はＩ区に集中しており、埋土はＩ層をベースとするものが多いことから、近世の遺構も含まれることが推察できる。他に、面上で凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）が割石となって集中する箇所が見受けられたが、規則的な配列状況としては確認できなかった。

表採・表土掘削時も含め、１面に関わる出土遺物は図 17-1 ～ 12 に掲載した。

（２）１面下の遺構（図 5）

地表下約 100cm の標高 8.6 ～ 8.8 ｍで確認された。主にⅢａ層の上面で確認された遺構群で、大小の土坑や柱穴列、据甕などが確認された。Ⅱ区南東角付近では多くの土坑が重複して見つかったが、土層断面の観察からは複数の遺構が切り合っている状況は確認できなかった。これら土坑群の下位には竪穴建物（2 面－遺構 516）が埋没しており、その後もⅣａ層直上まで削平する営為があったようなので、この埋土の微細な土質差を個別遺構として誤認した結果と考えている。本報告では現地調査時の平面図をそのまま使用し、遺物の帰属遺構にも変更を加えずに提示したが、基本的には全て一つの遺構（落ち込み）、もしくは遺物包含層に帰属させるべきものと理解されたい。

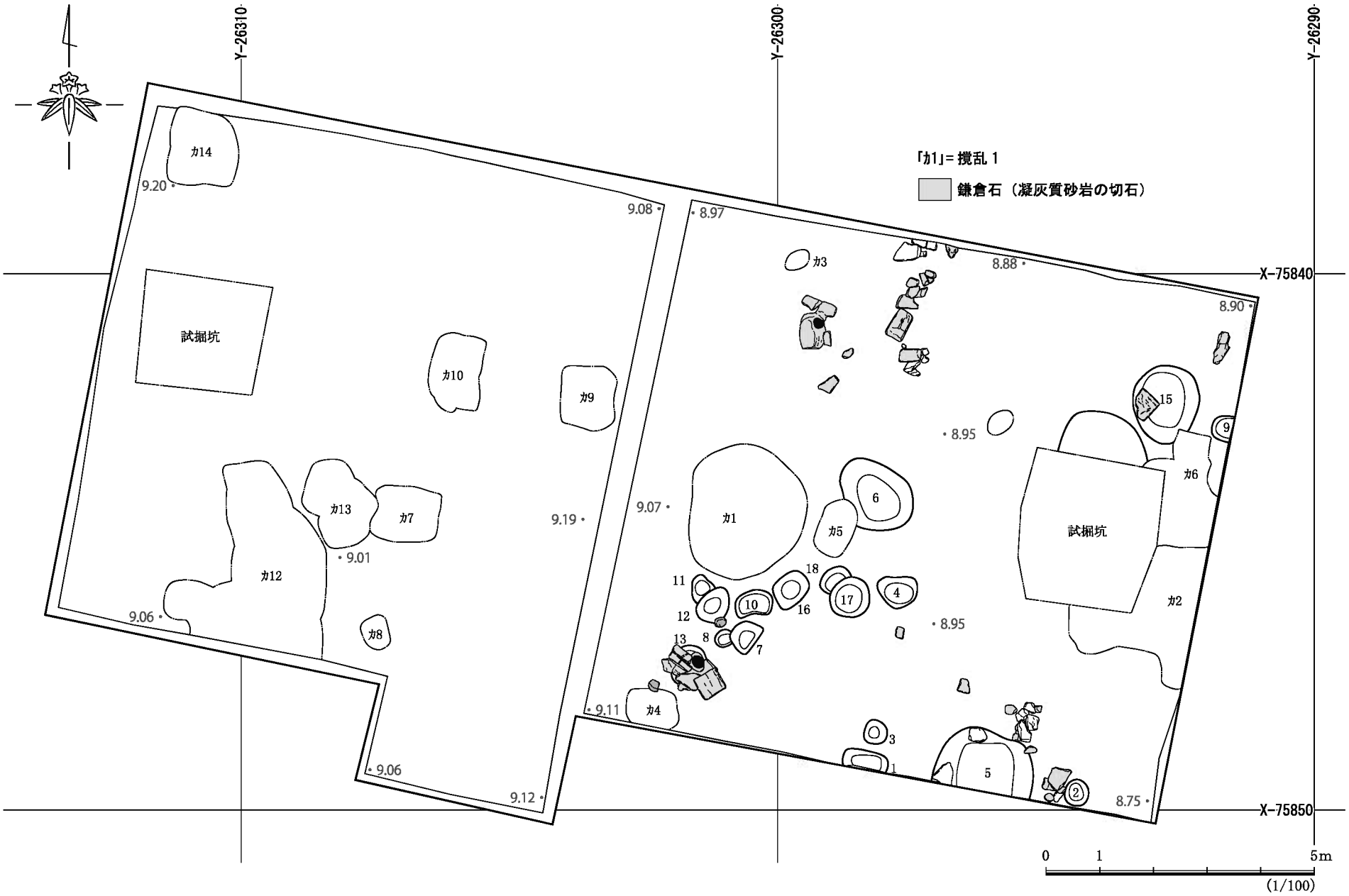

Y-26310
Y-26300
Y-26290
X-75840
X-75850
「カ1」= 撹乱 1
鎌倉石（凝灰質砂岩の切石）
カ14
9.20
9.08
試掘坑
カ10
カ9
カ13
カ7
9.19
9.01
カ12
9.06
カ8
9.06
9.12
8.97
カ3
8.88
8.90
8.95
15
9
カ6
9.07
カ1
6
カ5
試掘坑
18
11
10
16
17
4
12
8.95
カ2
13
8
7
9.11
カ4
3
1
5
2
8.75
0
1
5m
(1/100)

図４　１面全体図

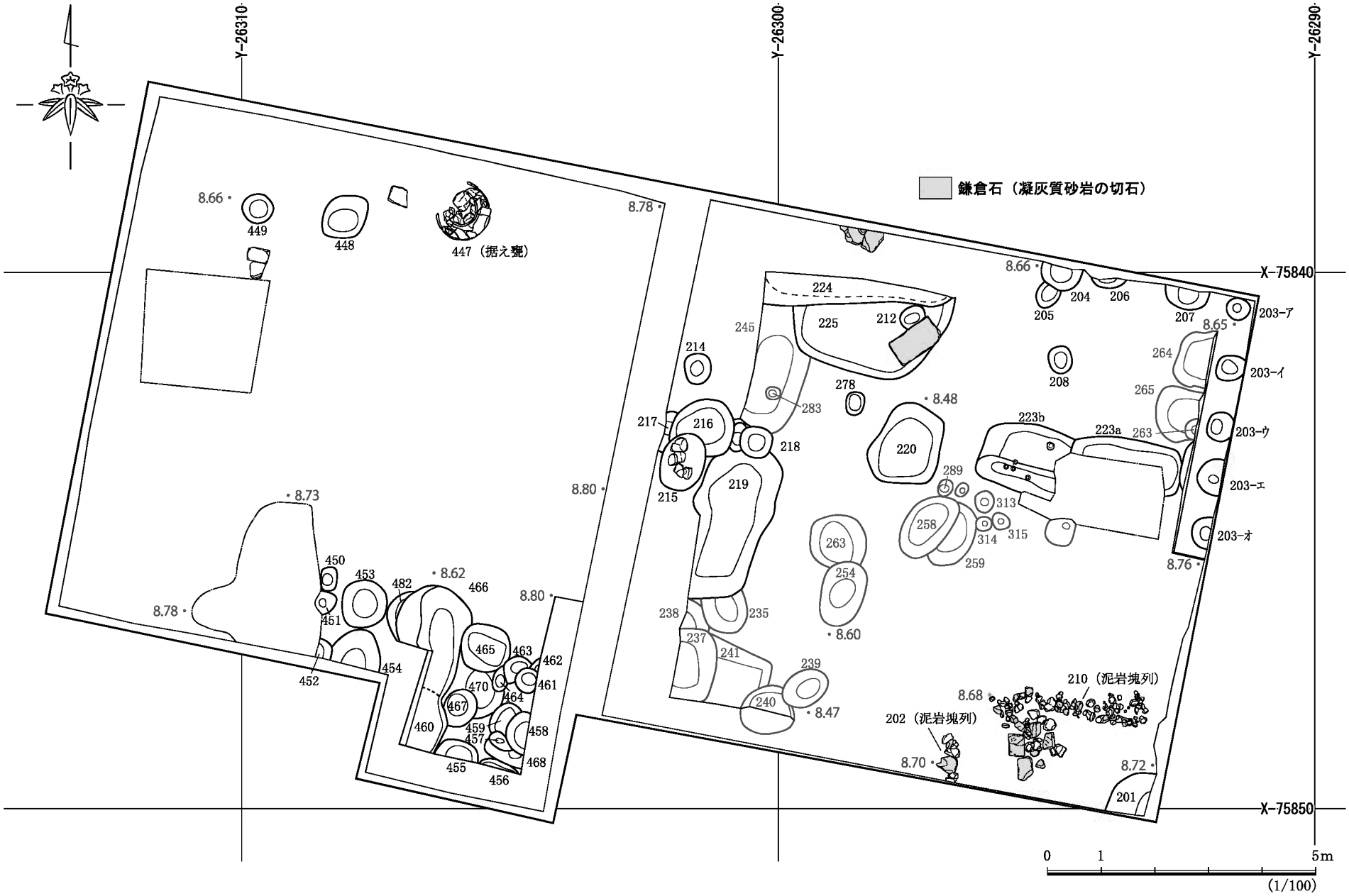

Y-26310
Y-26300
Y-26290
X-75840
X-75850
鎌倉石（凝灰質砂岩の切石）
447（据え甕）
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
470
482
201
202（泥岩塊列）
203-ア
203-イ
203-ウ
203-エ
203-オ
204
205
206
207
208
210（泥岩塊列）
212
214
215
216
217
218
219
220
223a
223b
224
225
235
237
238
239
240
241
245
254
258
259
263
264
265
278
283
289
313
314
315
8.47
8.48
8.60
8.62
8.65
8.66
8.68
8.70
8.72
8.73
8.76
8.78
8.80
0
1
5m
(1/100)

図５　１面下全体図

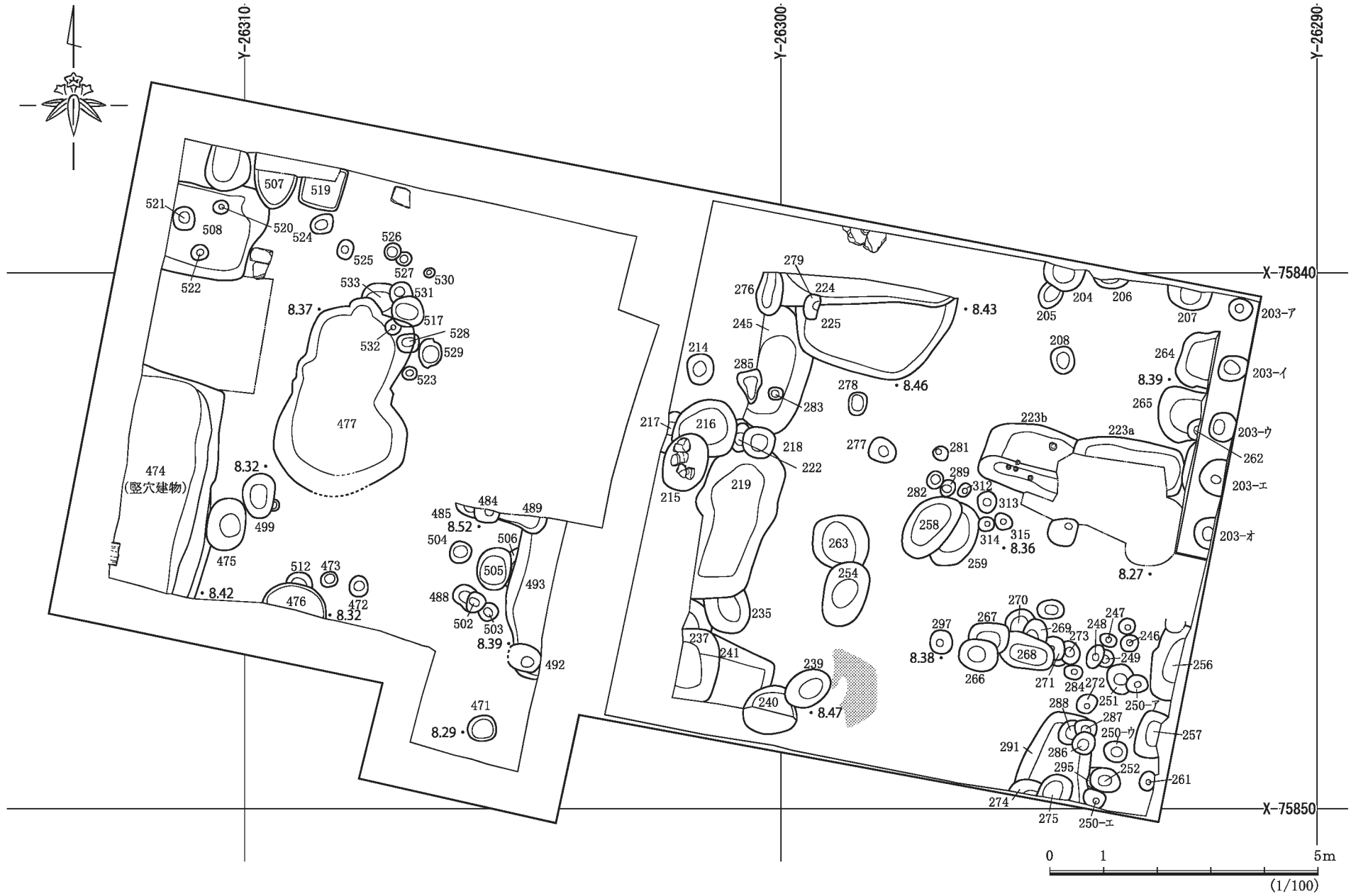

Y-26310
Y-26300
Y-26290
X-75840
X-75850
474
(竪穴建物)
477
8.37
8.32
8.42
8.52
8.39
8.29
8.43
8.46
8.36
8.27
8.38
8.47
203-ア
203-イ
203-ウ
203-エ
203-オ
250-ア
250-ウ
250-エ
0
1
5m
(1/100)

図６　１面下②全体図

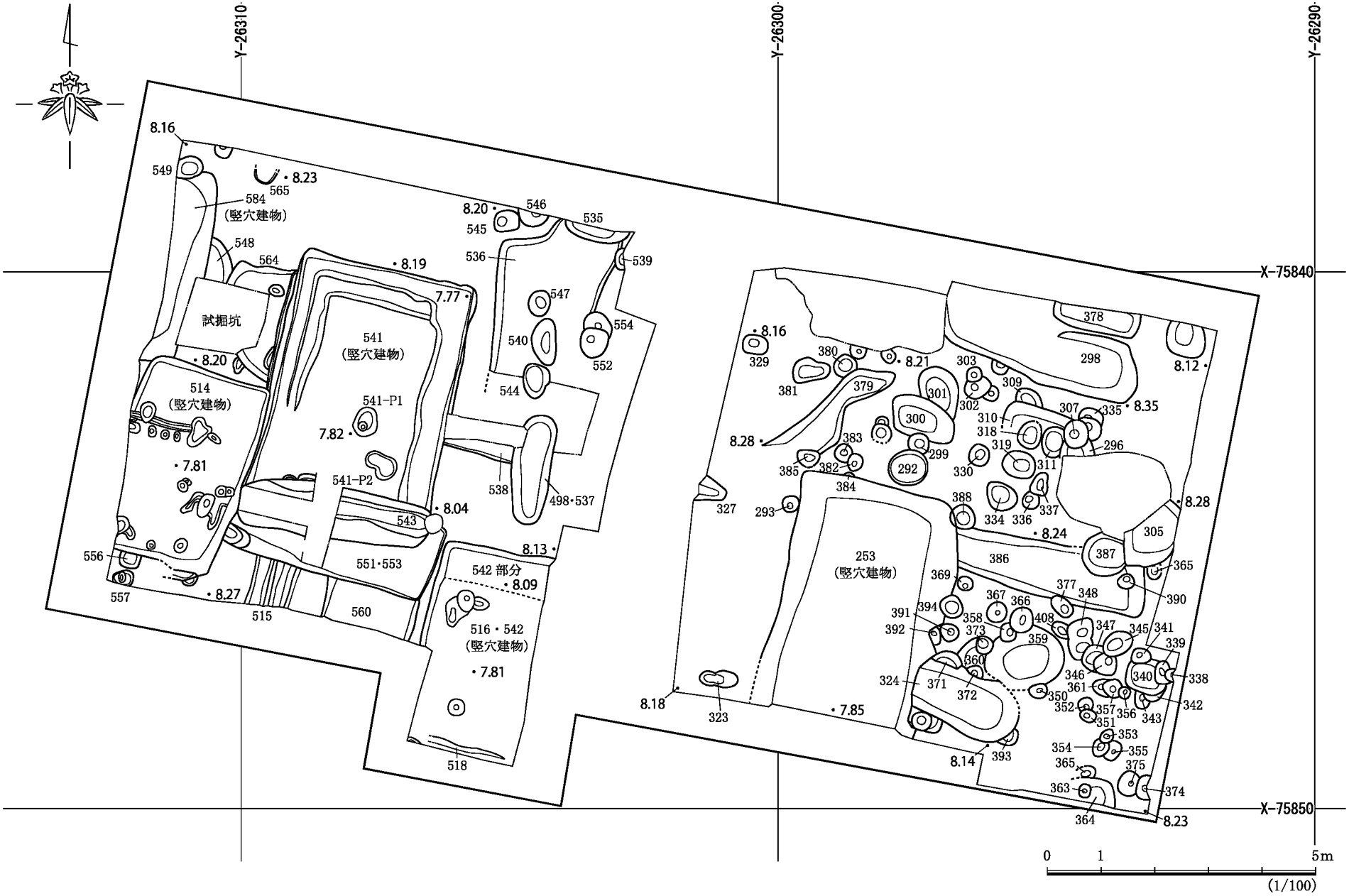

Y-26310
Y-26300
Y-26290
X-75840
X-75850
試掘坑
541
(竪穴建物)
514
(竪穴建物)
541-P1
541-P2
551・553
542 部分
516・542
(竪穴建物)
253
(竪穴建物)
0
1
5m
(1/100)

図７　２面全体図

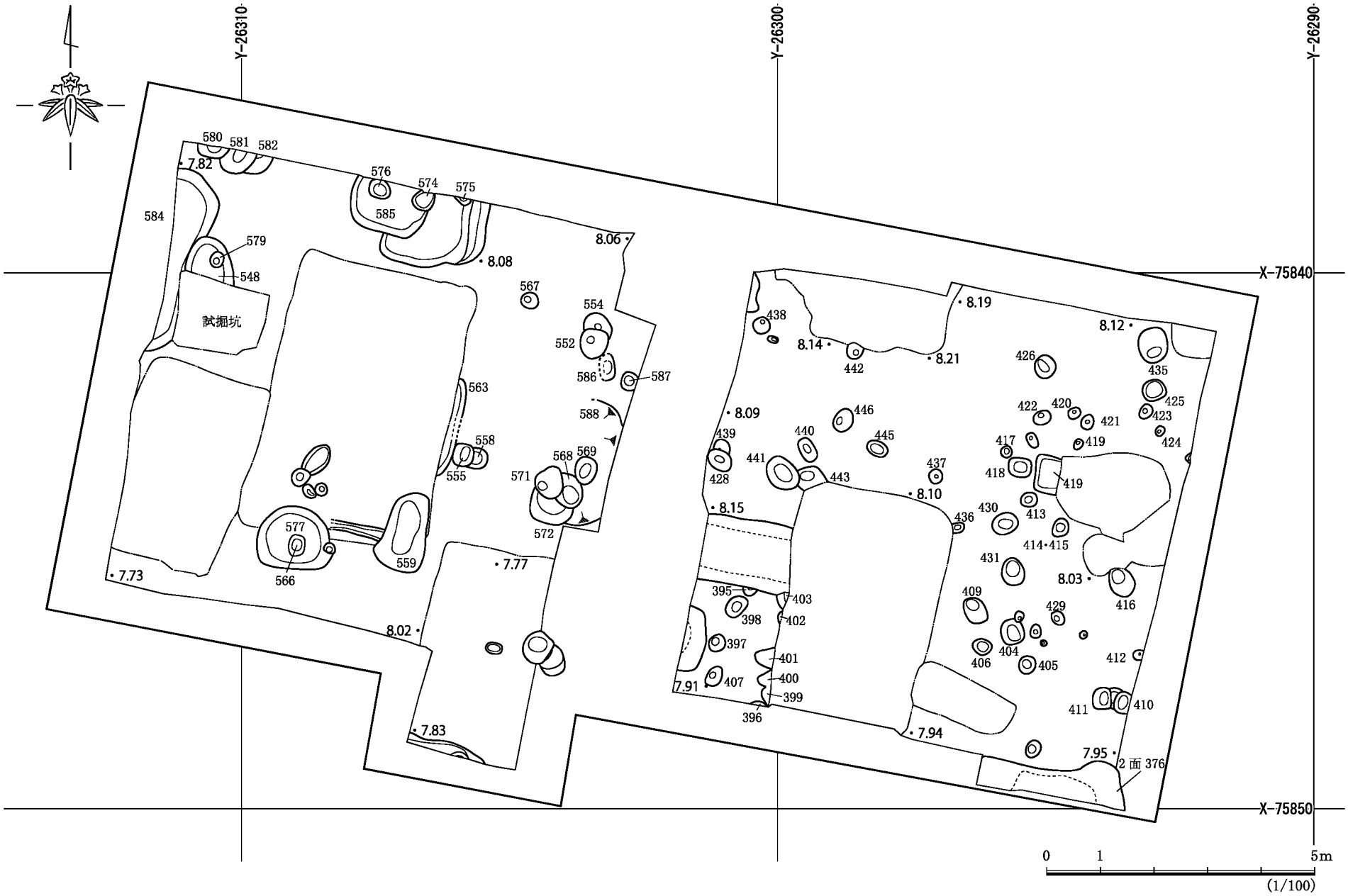


図８　２面下全体図

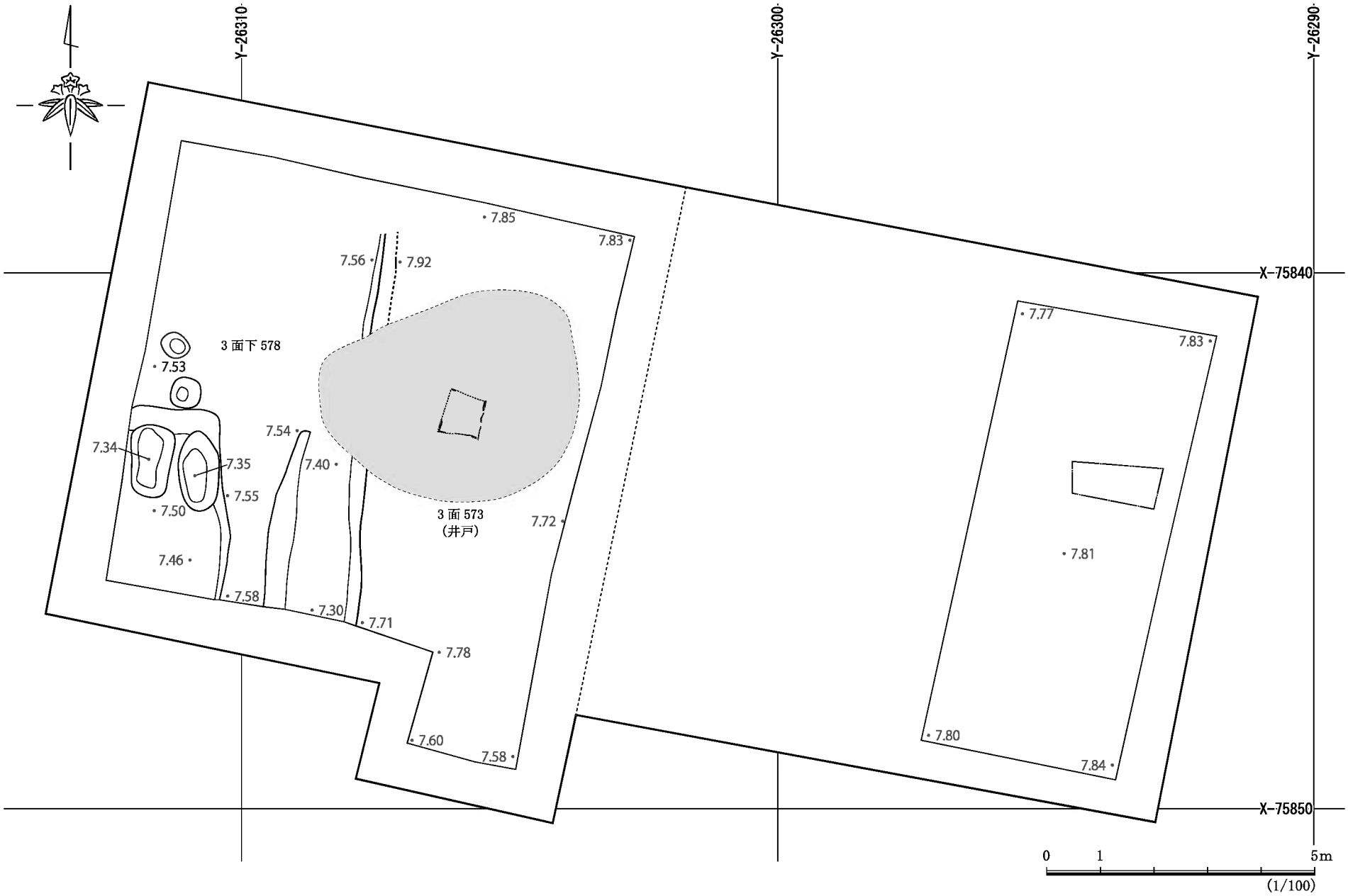

Y-26310
Y-26300
Y-26290
X-75840
X-75850
3面下578
3面573
(井戸)
7.85
7.83
7.56
7.92
7.53
7.54
7.34
7.35
7.40
7.55
7.50
7.72
7.46
7.58
7.30
7.71
7.78
7.60
7.58
7.77
7.83
7.81
7.80
7.84
0
1
5m
(1/100)

図９　３面・３面下全体図

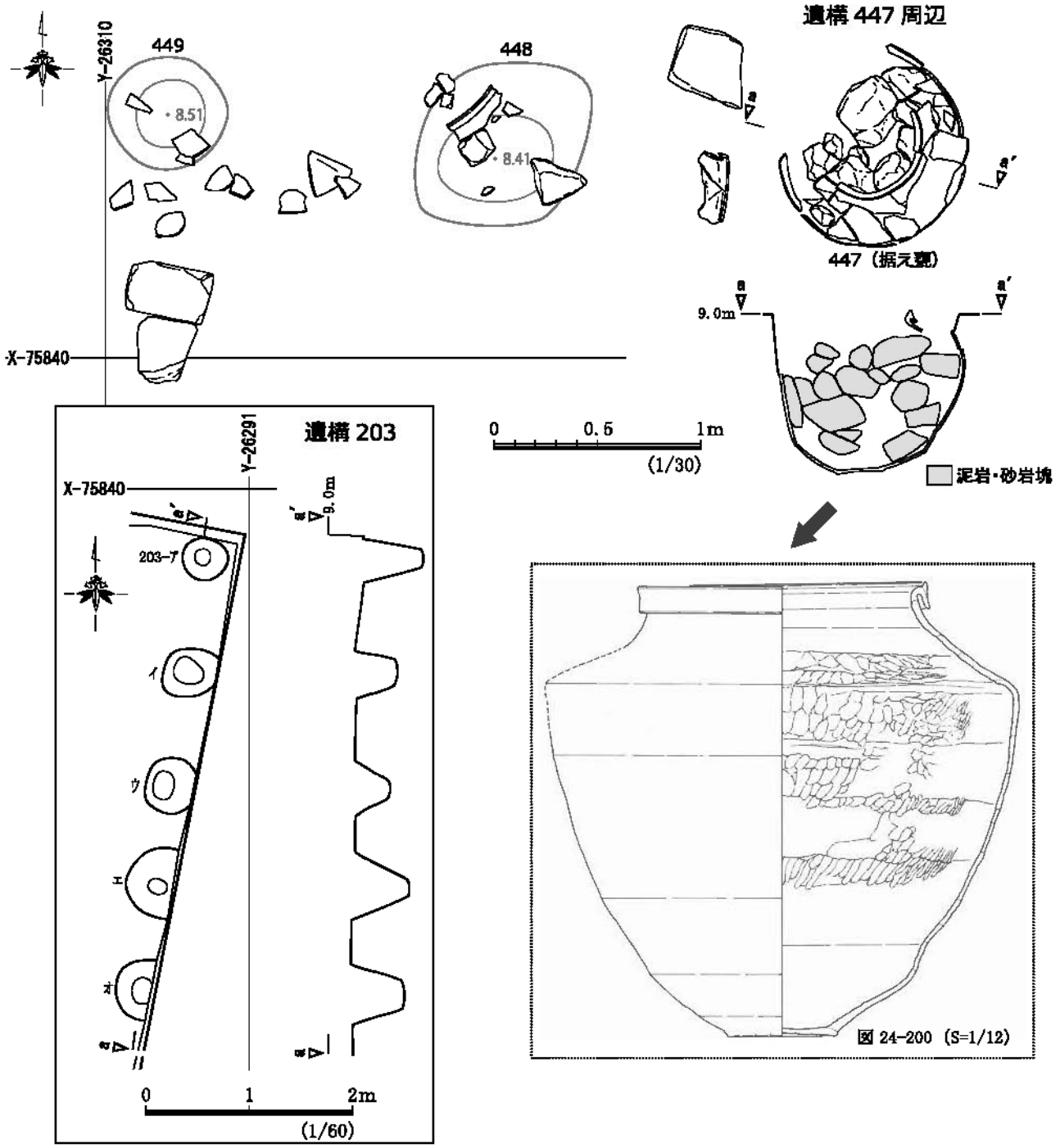
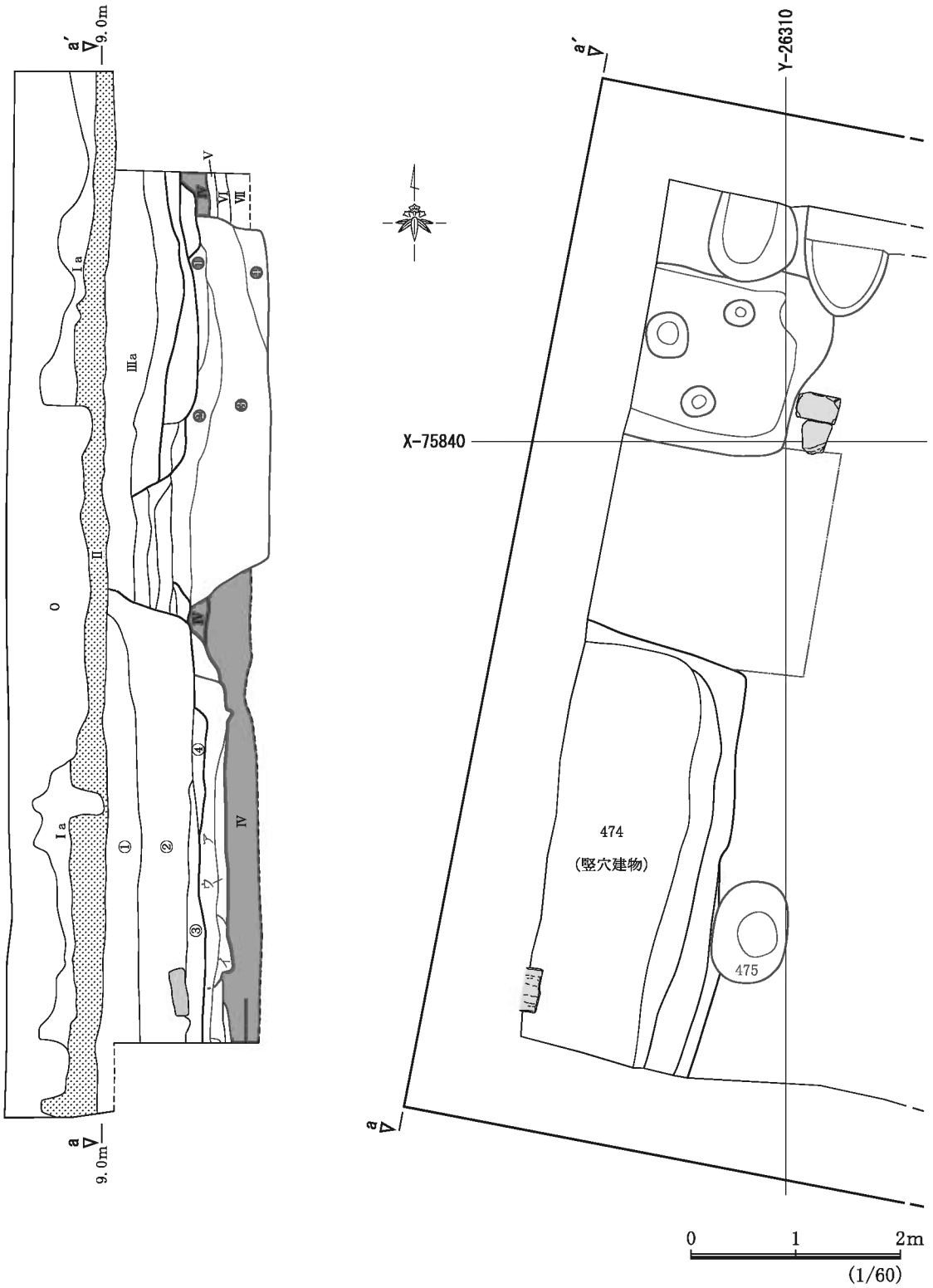


図 10　1 面下　遺構 447（据え甕）周辺・遺構 203（柱穴列）

据え甕遺構（遺構 447：図 10）

Ⅱ区北部で検出された。常滑窯の大甕を据え置いた遺構だが、明確な掘り込みによる据え方は確認できなかった。廃絶段階で甕の内部に泥岩や砂岩のブロックを投げ込んだようで、東半側の口縁部は充填されたブロックの上に落ち込んでいた。本遺構の西側では 2 基の土坑が並ぶように検出され（遺構 448・449）、448 では約 10 kg、449 では約 3.8 kg もの常滑甕片が出土している（表 3）。両土坑とも 447 よりは浅いものだが、元々はここにも甕が据えてあって、破損などで使えなくなったものが破砕・廃棄された痕と見ることもできる。この一帯での検出遺構がこれら 3 基に限られる点も、気に掛かるところである。

本遺構の出土遺物は、図 24-194 ～ 200 に掲載した。



◆ a-a′

【遺構 474】

①．暗灰褐色砂　　砂質土。泥岩粒多量。

②．暗灰褐色砂　　砂質土。泥岩粒やや多い。

③．暗黄褐色土　　砂質土。泥岩粒少量。

④．暗黄褐色土　　砂質土。泥岩粒微量。

ア～エ【2 面 遺構 514】→図 14 参照

❶～❹【2 面 遺構 584】→図 14 参照

図 11　Ⅱ区 1 面下②　遺構 474（竪穴建物）

柱穴列（遺構 203：図 10）

Ⅰ区の北東角付近で確認された。直径約 40cm のピット 5 基が南北に連なり、北側は調査区外に続くため、さらに延びるものかは不明である。柱の痕跡は確認できなかったが、ピット底面の中心間距離は 100 ～ 110 cmを測り、大よそ半間ごとに設定されたことが分かる。各ピットの深さは不揃いで、確認面から深いものではなかった。スパンが短いことも含め、建物ではなく簡素な柵列（塀）のような構造物と考えるべき遺構だろう。N7.5° E。

各柱穴からはロクロかわらけや常滑片が出土しているが、小片のみで図示できるものはなかった。

この他、Ⅰ区南東角付近の面上では泥岩のブロックや凝灰質砂岩の切石が直線的に並んだ状態で検出されたが（遺構 202：図 5）、これにともなう掘り込みは確認できなかった。

（3）1 面下②の遺構（図 6）

地表下 130cm の標高 8.4 ～ 8.5 mで確認した遺構群で、層位的にはⅢb 層の上面付近にあたる。ここでも土坑やピットを主体とする遺構分布が認められたが、Ⅱ区南西角では竪穴建物（遺構 474）も検出された。Ⅱ区中央で検出された大型の土坑（遺構 477）は、下位に 2 面の竪穴建物（遺構 541）が存在するので、この埋土上層に当たる部分を土坑と認識した可能性も否定できない。

竪穴建物（遺構 474：図 11）

Ⅱ区の南西角で検出された。層位的にはⅢa 層を掘り込んで、Ⅱ層に覆われることから、1 枚上層に

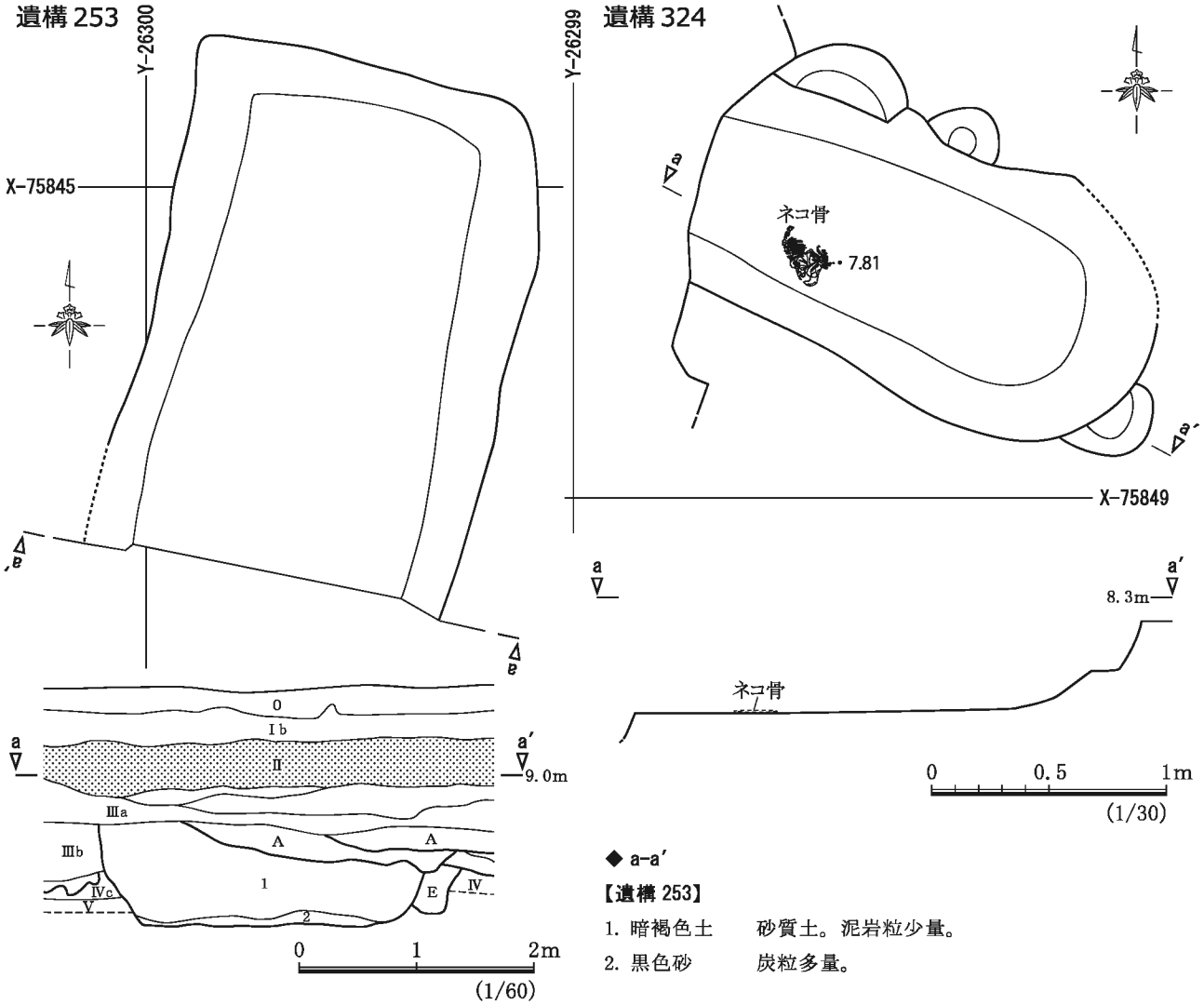


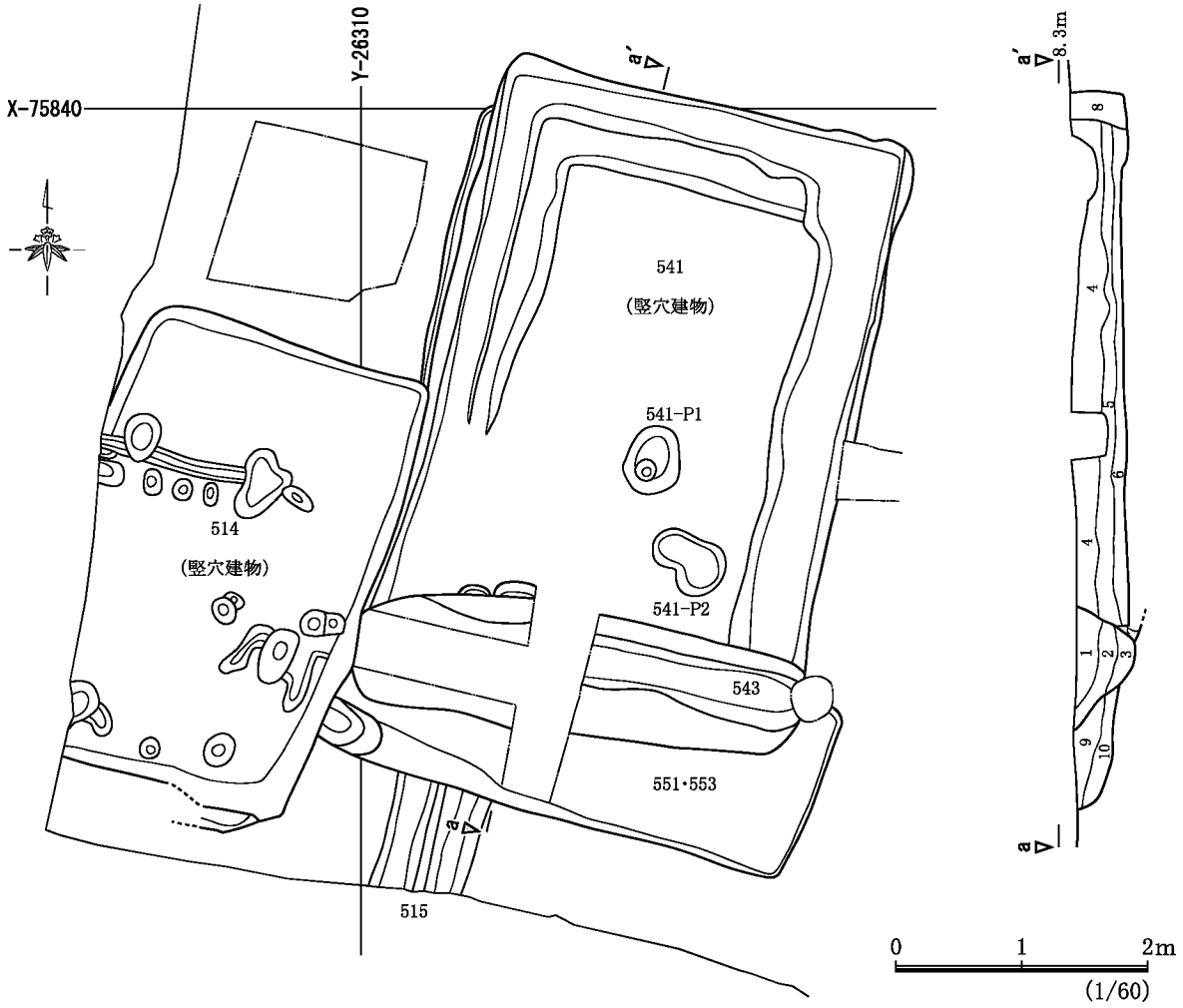
図 12　Ⅰ区 2 面　遺構 253（竪穴建物）・遺構 324（土坑）

位置付けるのが妥当かもしれない。遺構の大部分は調査区外へと続き、南北4.0ｍ、南北1.7ｍまでを確認できた。土層断面の観察では95㎝ほどの深さを測り、底面標高は8.05ｍ前後である。底面は平坦で、根太材の腐植痕跡などは確認できなかった。N10° E。本遺構の下位には、2面竪穴建物（遺構514）が存在していた。

本遺構の出土遺物は、図27-321～323に掲載した。

（4）2面の遺構（図7）

地表下約150㎝の標高8.2～8.3ｍで確認された遺構群である。レベルとしてはⅢｂ層の中～下部に相当するが、土層断面の観察により、竪穴建物の多くはⅢａ層下端＝Ⅲｂ層上面まで立ち上がることが確認されている。従って、層位的には1面下②の遺構群と大きく異ならないが、切り合いの上では2面建物群の方が古くなる傾向を指摘できる。



◆ a-a'

【遺構543】

1. 暗灰褐色砂　黄色砂が斑文状に入る。
2. 暗灰褐色砂　炭粒少量。
3. 灰褐色砂　灰色味やや強い。

【遺構551・553】

9. 暗灰色褐色土　褐色味やや強い。
10. 灰黄色砂　貝殻粒やや多い。締まりあり。

【遺構541】

4. 暗灰褐色土　砂質土。炭粒・灰・貝殻粒・泥岩粒多量。
5. 暗灰褐色土　砂質土。貝殻粒非常に多い。締まり・粘性あり。
6. 暗灰褐色土　砂質土。黄色砂が帯状に入る。
7. 暗灰褐色土　砂質土。貝殻粒やや多い。締まりあり。

【遺構573（3面井戸）?】

8. 暗灰褐色土　砂質土。締まり弱い。

図13　Ⅱ区2面　遺構541（竪穴建物）周辺

竪穴建物（遺構 253：図 12）

Ⅰ区の南部で検出され、南側は調査区外に続く。東西幅は 3.2 ｍで、南北は 4.3 ｍ以上を測る矩形のプランを呈する。土層断面の観察によればⅢａ層の下端まで立ち上がり、深さは約 90 ㎝、底面レベルは 7.7 ｍ前後であった。湧水レベルの下位にあったため底面の砂が流れてしまい、根太材などの痕跡を確認することはできなかった。N15° E。

土坑（遺構 324：図 12）

Ⅰ区南部で検出され、西端は遺構 253 に切られる。中心軸が N64° W の長楕円形を呈し、長さ 2.1 ｍ以上、幅 1.2 ｍを測る。確認面からの深さは 40㎝、底面は平坦で標高 7.8 ｍを測る。底面では横向きになったネコの骨が検出され、後肢のみ欠失していた。

本遺構の出土遺物は、図 23-175 ～ 181 に掲載した。

竪穴建物（遺構 541：図 13）

Ⅱ区中央部で検出された。南端が他遺構との重複によって失われ、また南西角付近の一部を竪穴建物（遺構 514）に切られていた。北西角付近では、同軸線の竪穴を切っている痕跡が認められ、同位置で建て替えられた可能性がある。東西辺は 3.45 ｍで、南北規模は不確実だが、断面図（a-a′）に見えるわずかな立ち上がりを南壁と仮定すれば、4.2 ｍ前後に復元できる。確認面からは 40㎝の深さがあり、底面は平坦で標高 7.8 ｍ前後であった。底面の東西辺と北辺では、幅 60 ㎝、深さ 5㎝ほどのごく浅い落ち込みが巡っていた。全周はしていなかったが、土台材に関わる痕跡と見られる。土層観察ベルトの北端では垂直気味に立ち上がる土層が確認され、壁板の痕跡かと思われる。

本遺構の出土遺物は、図 29-369 ～ 394 に掲載した。

竪穴建物（遺構 514：図 14）

Ⅱ区南西角で検出された。一部が調査区外に続くが、全体規模として長辺 3.7 ｍ×短辺 2.5 ｍを把握することができた。南北に長軸を持つ矩形プランを呈し、N17° E を指す。上部を別の建物（遺構 474）に切られていたため掘り込み層は定かでなく、深さも断面観察により 30㎝弱を確認し得たに過ぎない。底面は標高 7.8 ｍ前後を測り平坦で、面上では拳大程度の小穴など、やや腐植した痕跡を確認できた。根太材や補強用の杭などに関わる痕だろう。北東角付近で竪穴建物（遺構 541）と接し、わずかな切り合い部分から本建物が新しい遺構と判断した。

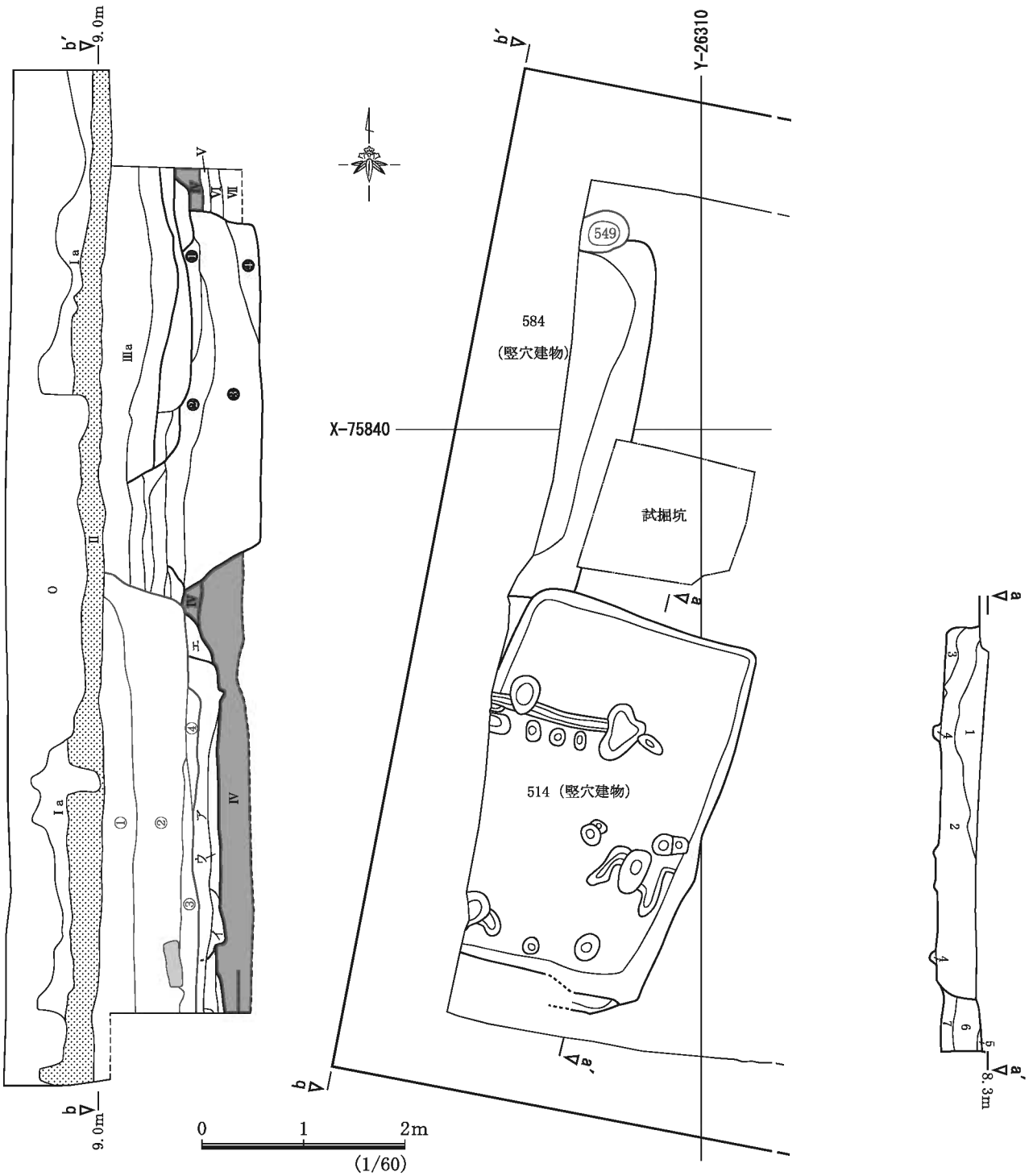
本遺構の出土遺物は、図 29-358 ～ 364 に掲載した。

竪穴建物（遺構 584：図 14）

Ⅱ区の北西角付近で検出された。遺構の大部分が調査区外に続くため、全体像を把握することができなかった。南北辺は大よそ 3.7 ｍを測り、東西は 80 ㎝までを計測し得た。土層断面では、掘り込みの深さは 75 ㎝までを確認でき、底面標高は 7.4 ｍ前後であった。Ⅳ層を掘り込んでいることは確認できたが、それより上位は遺構や遺物包含層が覆っていたことから、本来の掘り込み面について確証を得ることができなかった。検出範囲が限られていたこともあり、底面での構造材痕跡は確認できなかった。ただ、本遺構の埋土は他と異なり腐植砂質土がベースでなく黄～灰白色砂が主体となっており、遺物も全く出土していない点には注意を要する。このことから他の竪穴建物よりは早い段階で埋没した可能性が考えられ、竪穴とした認識自体も確定できるものではないことを述べておく。東辺は、N16° E 前後を指す。

竪穴建物（遺構 516・542：図 15）

Ⅱ区の南東角で検出された。東辺と南辺は調査区外にあり、確認できなかった。北辺沿いにわずかな



◆ b-b′

【遺構 514】

ア．黄灰色砂　締まりあり。
イ．暗黄褐色砂　締まりあり。
ウ．暗黄褐色砂　粘質土を含む。
エ．暗褐色土　砂質土。Ⅳ層に近似。締まりあり。

【遺構 584】

❶．暗黄褐色土　砂質土。
❷．黄褐褐色砂　微細砂。締まりあり。
❸．灰白色砂　自然堆積砂に似るが、微量の炭粒を含んで若干濁る。
❹．暗灰褐色土　砂質土。砂と粘質土の互層。

①～④【1 面下② 遺構 474】→図 11 参照

◆ a-a′

【遺構 514】

1. 暗灰褐色土　砂質土。泥岩粒・炭粒少量。締まりあり。
2. 暗灰褐色土　貝殻粒多量、炭粒少量。
3. 灰褐色砂　黒色砂が斑文状に入る。締まり弱い。
4. 灰褐色砂　締まり弱い。

図 14　Ⅱ区 2 面　遺構 514・584（竪穴建物）

埋土様相の差が認められたため、この部分を別遺構（542）に設定したが、土層断面の観察からは確実な遺構とするだけの情報がなかったことから、516・542を同一の建物と判断した。東西が2.1ｍ以上、南北が4.0ｍ以上を測る。断面観察では30cmほどの深さを確認し、底面標高は7.8ｍを測る。底面上では、小ピットや根太材の痕跡と思われる腐植質砂の落ち込みが確認された。Ⅳａ層を掘り込んでいることは確認できたが、直上にはⅢ層をベースとするＡタイプの埋土が堆積しており、埋没後の土地利用により本来の掘り込み面が失われてしまった可能性が高い。N14° E。

本遺構の出土遺物は、図29-365（遺構516）と397（遺構542）の2点を掲載した。

（５）2面下の遺構（図8）

地表下約160cmの標高8.1～8.2ｍで確認された遺構群である。土坑・ピットが中心で、散漫な分布状況であった。上層の遺構を完掘したことで検出できたものに加え、上層で見落とした遺構も含まれているだろう。個別遺構の説明は省略する。

（６）3面の遺構（図9）

地表下約200 cmの標高7.8ｍ前後で確認された遺構で、中世では最下層となる。ここに帰属するのは井戸1基（遺構573）のみである。

井戸（遺構573：図16）

Ⅱ区の東部で検出された。2面の竪穴建物（遺構573）を完掘した底面上でＶ層を切る楕円形プランが見つかり、東側に広がる状況が確認された。大よそＶ層上面での確認となり、平面図（図16）ではⅡ区の東壁に接していないが、土層断面図には、確認面よりも高いレベルでⅣａ層を切っている様子が表れている（図3下段：a′ -c′）。掘方は東西径4.8ｍ×南北径4.0ｍと大型で、やや不整な楕円形を呈する。このほぼ中央で80cm四方の井戸枠が検出された。湧水による砂の流入が著しく、十分な確認は行えなかったが、各辺とも板を立て並べてあり、おそらく隅柱と横桟とで立て板を固定していたものと考えられる。湧水のため、井戸枠上端より下位の掘り下げは断念した。井戸枠上位の埋土はレンズ状堆積を示し、この中ほど付近では炭化物が入った粘質土の広がりを確認できた（5層）。この5層下部では大量の瓦を主体とする遺物が出土しており、この様相から、井戸は13世紀前半のうちには廃絶して埋没過程に入っていた可能性が高い。井戸枠西辺のラインは、N20° Eを指す。

本遺構の出土遺物は、図30-407～424に掲載した。

（７）3面下の遺構（図9）

確認レベルは3面と同じで、標高7.8ｍ前後である。大よそＶ層の上面を検出した際、Ⅱ区の西部で南北に延びる溝状の浅い落ち込み（遺構578）が確認された。Ⅰ区では、Ｖ層まで掘り下げたのは東半のみで、明確な落ち込みは確認できなかった。

溝状遺構（遺構578）

Ⅱ区では中央部を境に東西でＶ層の検出レベルが異なり、西半部は40cmほど低くなっていた。落ち込みの東岸は40cmほどの段差となっており、N5° Eで延びる。埋土はⅣ層がベースとなり、古墳時代後～終末期を中心とする土師器・須恵器片が少量だが出土している。底面には所々で凹凸が認められ、人工的な遺構ではなく一時的な水流等によってＶ層以下の砂層が侵食された痕跡と考えている。Ⅳ層はわずかながら西に向けて下がっており、こうした微地形が影響して、本遺構付近を水が流れるケースがあったのだろう。

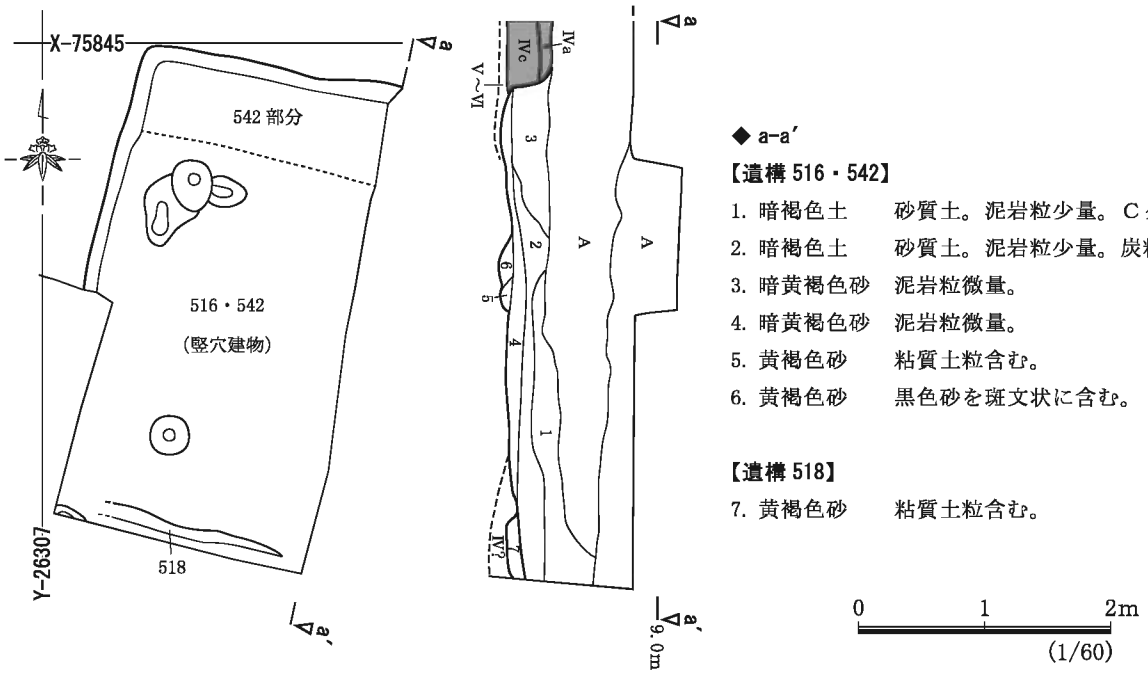


図 15　Ⅱ区 2 面　遺構 516・542（竪穴建物）

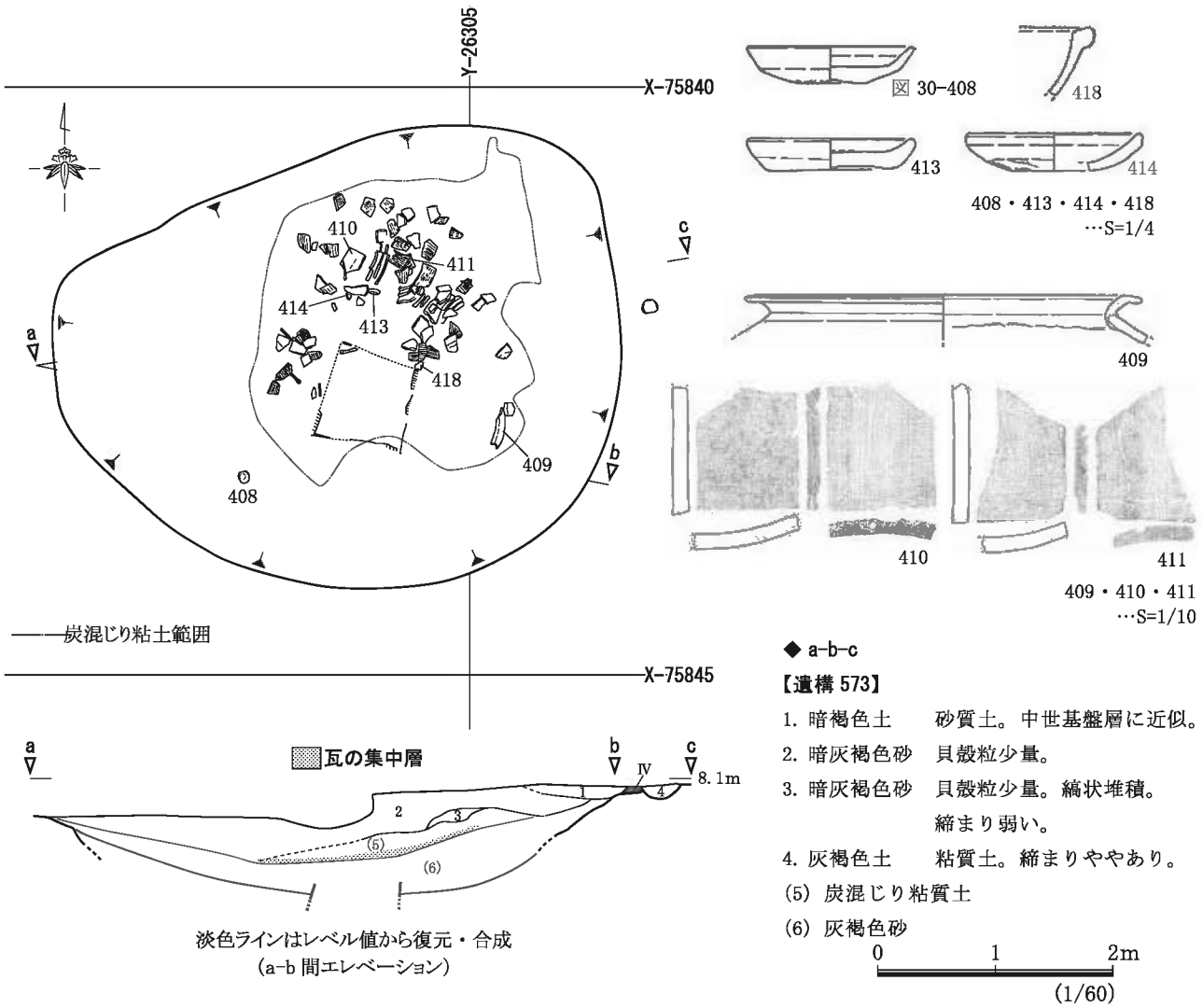


図 16　3 面遺構 573（井戸）

表２　検出遺構一覧（一部欠番含む）

区	面	遺構No.	底面標高(m)	埋土タイプ	遺物図
Ⅰ	1	1	8.80	A	
Ⅰ	1	2	8.63	A	
Ⅰ	1	3	8.86	A	
Ⅰ	1	4	8.87	A	
Ⅰ	1	5	8.44	A	図18
Ⅰ	1	6	8.53	A	図18
Ⅰ	1	7	8.87	A	
Ⅰ	1	8	8.95	A	
Ⅰ	1	9	8.75	A	図18
Ⅰ	1	10	8.93	A	
Ⅰ	1	11	8.84	A	
Ⅰ	1	12	8.83	A	
Ⅰ	1	13	8.96	A	
Ⅰ	1	14	欠番		
Ⅰ	1	15	8.55	A	図18
Ⅰ	1	16	8.81	A	
Ⅰ	1	17	8.90	A	
Ⅰ	1	18	8.86	A	
Ⅰ	1面下	201	8.37	A	
Ⅰ	1面下	202	—	—	
Ⅰ	1面下	203ｱ	8.08	A	
Ⅰ	1面下	203ｲ	8.33	A	
Ⅰ	1面下	203ｳ	8.34	A	
Ⅰ	1面下	203ｴ	8.22	A	
Ⅰ	1面下	203ｵ	8.27	A	
Ⅰ	1面下	204	8.46	C	
Ⅰ	1面下	205	8.51	C	
Ⅰ	1面下	206	8.55	C	
Ⅰ	1面下	207	8.45	C	
Ⅰ	1面下	208	8.45	C	
Ⅰ	1面下	210	—	—	
	欠番	211			図21
Ⅰ	1面下	212	8.38	B	
Ⅰ	1面下	214	8.25	C	図21
Ⅰ	1面下	215	—	D	
Ⅰ	1面下	216	8.18	C	
Ⅰ	1面下	217	8.26	C	
Ⅰ	1面下	218	8.32	C	
Ⅰ	1面下	219	8.10	A	図21
Ⅰ	1面下	220	8.23	D	図21
	欠番	221			図21
Ⅰ	1面下	222	8.30	A	
Ⅰ	1面下	223a	8.27	A＋D	図21
Ⅰ	1面下	223b	8.13	A＋D	図21
Ⅰ	1面下	224	(8.15)	A	
Ⅰ	1面下	225	8.20	A	
Ⅰ	1面下②	235	8.21	C	図21
Ⅰ	1面下②	237	8.15	C	
Ⅰ	1面下②	239	8.28	C	図21
Ⅰ	1面下②	240	8.36	A	
Ⅰ	1面下②	241 321	7.98	A	図21 図23
Ⅰ	1面下②	245	8.16	炭	図22
Ⅰ	1面下②	246	8.21	C	
Ⅰ	1面下②	247	8.19	C	
Ⅰ	1面下②	248	8.22	C	
Ⅰ	1面下②	249	8.31	C	
Ⅰ	1面下②	250ｱ	8.15	C	
Ⅰ	1面下②	250ｳ	8.35	C	
Ⅰ	1面下②	250ｴ	8.22	C	
Ⅰ	1面下②	251	8.24	C	
Ⅰ	1面下②	252	8.16	C	
Ⅰ	1面下②	253	7.85	図12	図22
Ⅰ	1面下②	254	8.32	A	
Ⅰ	1面下②	256	8.23	C	
Ⅰ	1面下②	257	8.13	C	図21
Ⅰ	1面下②	258	8.40	A	図21
Ⅰ	1面下②	259	8.41	A	
Ⅰ	1面下②	261	8.15	F	
Ⅰ	1面下②	263	8.42	A	
Ⅰ	1面下②	264	8.16	E	
Ⅰ	1面下②	265	8.11	E	図21
Ⅰ	1面下②	266	8.26	A	
Ⅰ	1面下②	267	8.21	A	
Ⅰ	1面下②	268	8.24	A	
Ⅰ	1面下②	269	8.36	A	
Ⅰ	1面下②	270	8.36	A	
Ⅰ	1面下②	271	8.02	A	
Ⅰ	1面下②	272	8.12	C	図21
Ⅰ	1面下②	273	8.21	C	図22
Ⅰ	1面下②	274	8.14	A	
Ⅰ	1面下②	275	8.11	A	
Ⅰ	1面下②	276	8.03	A	
Ⅰ	1面下②	277	8.02	C	
Ⅰ	1面下②	278	8.14	F	
Ⅰ	1面下②	279	7.97	C	
Ⅰ	1面下②	281	8.16	C	
Ⅰ	1面下②	282	8.31	C	
Ⅰ	1面下②	283	8.13	A	
Ⅰ	1面下②	284	8.25	C	
Ⅰ	1面下②	285	8.08	C	
Ⅰ	1面下②	286	8.13	C	
Ⅰ	1面下②	287	8.15	C	
Ⅰ	1面下②	288	8.12	C	図22
Ⅰ	1面下②	289	—	C	
Ⅰ	1面下②	291	8.06	C	図22
Ⅰ	2面	292	8.13	F	
Ⅰ	2面	293	8.10	F	
Ⅰ	1面下②	295	8.23	C	
Ⅰ	2面	296	7.96	F	
Ⅰ	1面下②	297	8.18	F	
Ⅰ	2面	298	8.10	E	図22
Ⅰ	2面	299	8.10	D	
Ⅰ	2面	300	8.15	D	
Ⅰ	2面	301	8.12	D	図22
Ⅰ	2面	302	8.09	D	
Ⅰ	2面	303	8.24	E	
Ⅰ	2面	305	7.87	C	図22
Ⅰ	2面	307	8.05	D	
Ⅰ	2面	309	8.25	D	
Ⅰ	2面	310	8.13	F	
Ⅰ	2面	311	8.08	F	
Ⅰ	1面下②	312	8.15	F	
Ⅰ	1面下②	313	8.14	C	
Ⅰ	1面下②	314	8.10	F	
Ⅰ	1面下②	315	8.21	C	図23
Ⅰ	2面	318	8.04	F	
Ⅰ	2面	319	7.98	F	
Ⅰ	2面	323	7.98	A	
Ⅰ	2面	324	7.81	F	図23
Ⅰ	2面	327	7.98	D	図23
Ⅰ	2面	329	7.82	D	
Ⅰ	2面	330	8.05	G	
Ⅰ	2面	334	7.98	F	
Ⅰ	2面	335	7.97	G	図23
Ⅰ	2面	336	7.94	F	
Ⅰ	2面	337	—	E	
Ⅰ	2面	338	8.16	A	
Ⅰ	2面	339	7.96	F	
Ⅰ	2面	340	8.15	F	
Ⅰ	2面	341	7.98	F	
Ⅰ	2面	342	8.09	F	
Ⅰ	2面	343	7.89	F	
Ⅰ	2面	345	8.08	F	
Ⅰ	2面	346	7.96	F	
Ⅰ	2面	347	8.13	F	図23
Ⅰ	2面	348	8.05	F	
Ⅰ	2面	350	8.09	F	
Ⅰ	2面	351	8.16	F	
Ⅰ	2面	352	8.06	F	
Ⅰ	2面	353	8.18	F	
Ⅰ	2面	354	8.15	F	
Ⅰ	2面	355	8.12	F	
Ⅰ	2面	356	8.15	F	
Ⅰ	2面	357	8.14	F	
Ⅰ	2面	358	7.87	A	
Ⅰ	2面	359	7.93	C	
Ⅰ	2面	360	8.10	C	
Ⅰ	2面	361	8.13	F	
Ⅰ	2面	363	8.02	C	
Ⅰ	2面	364	8.06	C	
Ⅰ	2面	365	8.09	C	図23
Ⅰ	2面	366	7.97	F	図23
Ⅰ	2面	367	8.06	C	
Ⅰ	2面	369	8.10	F	
Ⅰ	2面	371	8.04	F	
Ⅰ	2面	372	7.97	F	
Ⅰ	2面	373	7.87	C	
Ⅰ	2面	374	7.89	C	
Ⅰ	2面	375	7.98	C	
Ⅰ	2面下	376	7.66	C	図23
Ⅰ	2面	377	8.07	F	
Ⅰ	2面	378	8.08	F＋炭	
Ⅰ	2面	379	8.10	F	図23
Ⅰ	2面	380	8.02	F	
Ⅰ	2面	381	8.14	F	
Ⅰ	2面	382	8.10	F	
Ⅰ	2面	383	7.99	F	
Ⅰ	2面	384	8.22	F	
Ⅰ	2面	385	8.16	C	
Ⅰ	2面	386	8.03	F	
Ⅰ	2面	387	7.89	F	図23
Ⅰ	2面	388	8.11	F	
Ⅰ	2面	390	7.87	F	
Ⅰ	2面	391	8.03	F	
Ⅰ	2面	392	7.90	F	
Ⅰ	2面	393	8.01	F	
Ⅰ	2面	394	8.03	F	
Ⅰ	2面下	395	8.04	A	
Ⅰ	2面下	396	—	F	
Ⅰ	2面下	397	7.73	H	
Ⅰ	2面下	398	7.88	G	
Ⅰ	2面下	399	—	H	
Ⅰ	2面下	400	—	H	
Ⅰ	2面下	401	—	H	
Ⅰ	2面下	402	—	H	
Ⅰ	2面下	403	7.81	H	
Ⅰ	2面下	404	7.85	H	
Ⅰ	2面下	405	7.83	H	
Ⅰ	2面下	406	7.86	H	
Ⅰ	2面下	407	7.69	H	
Ⅰ	2面下	408	8.17	F	
Ⅰ	2面下	409	7.64	F	
Ⅰ	2面下	410	7.85	H	
Ⅰ	2面下	411	7.81	H	

区	面	遺構No.	底面標高(m)	埋土タイプ	遺物図
Ⅰ	2面下	412	7.86	F	
Ⅰ	2面下	413	7.92	H	
Ⅰ	2面下	414 415	7.95	H	
Ⅰ	2面下	416	7.70	H	
Ⅰ	2面下	417	8.00	H	
Ⅰ	2面下	418	7.98	H	
Ⅰ	2面下	419	7.95	H	
Ⅰ	2面下	420	7.93	H	
Ⅰ	2面下	421	7.95	H	
Ⅰ	2面下	422	7.98	H	
Ⅰ	2面下	423	7.90	H	
Ⅰ	2面下	424	7.99	H	
Ⅰ	2面下	425	7.88	H	
Ⅰ	2面下	426	7.89	C	
Ⅰ	2面下	428	7.93	H	
Ⅰ	2面下	429	7.90	H	
Ⅰ	2面下	430	7.88	H	
Ⅰ	2面下	431	7.88	H	
Ⅰ	2面下	432	7.91	H	
Ⅰ	2面下	435	7.95	F＋H	
Ⅰ	2面下	436	7.98	H	
Ⅰ	2面下	437	7.95	H	
Ⅰ	2面下	438	7.87	—	図26
Ⅰ	2面下	439	7.98	H	
Ⅰ	2面下	440	7.92	H	
Ⅰ	2面下	441	7.92	H	
Ⅰ	2面下	442	8.13	E	
Ⅰ	2面下	443	7.82	H	
Ⅰ	2面下	445	7.98	H	
Ⅰ	2面下	446	7.95	H	
Ⅱ	1面下	447	—	A	図24
Ⅱ	1面下	448	8.41	A	図24
Ⅱ	1面下	449	8.51	A	図25
Ⅱ	1面下	450	8.32	B	
Ⅱ	1面下	451	8.34	B	
Ⅱ	1面下	452	8.41	B	
Ⅱ	1面下	453	8.37	A	
Ⅱ	1面下	454	8.18	B	
Ⅱ	1面下	455	8.22	A	
Ⅱ	1面下	456	8.41	A	
Ⅱ	1面下	457	8.34	A	
Ⅱ	1面下	458	8.19	A	図26
Ⅱ	1面下	459	8.19	A	図26
Ⅱ	1面下	460	7.81	A	図26
Ⅱ	1面下	461	8.30	A	
Ⅱ	1面下	462	8.36	A	
Ⅱ	1面下	463	8.34	A	
Ⅱ	1面下	464	8.37	A	
Ⅱ	1面下	465	8.11	A	
Ⅱ	1面下	466	7.84	A	
Ⅱ	1面下	467	7.87	A	図26
Ⅱ	1面下	468	8.05	A	
Ⅱ	1面下	470	7.98	A	

区	面	遺構No.	底面標高(m)	埋土タイプ	遺物図
Ⅱ	1面下②	471	7.98	A	
Ⅱ	1面下②	472	8.22	C	
Ⅱ	1面下②	473	8.32	C	
Ⅱ	1面下②	474	7.99	図11	図27
Ⅱ	1面下②	475	8.07	B	
Ⅱ	1面下②	476	8.09	炭	図27
Ⅱ	1面下②	477	8.07	C	
Ⅱ	1面下②	482	8.40	A	
Ⅱ	1面下②	484	8.31	C	
Ⅱ	1面下②	485	8.23	C	
Ⅱ	1面下②	488	8.21	C	
Ⅱ	1面下②	489	8.23	C	
Ⅱ	1面下②	492	8.20	A	
Ⅱ	1面下②	493	8.04	A	図27
Ⅱ	1面下②	498 537	7.84	A	
Ⅱ	1面下②	499	8.11	C	
Ⅱ	1面下②	502	8.07	C	
Ⅱ	1面下②	503	7.98	C	
Ⅱ	1面下②	504	8.27	C	
Ⅱ	1面下②	505	8.18	C	
Ⅱ	1面下②	506	8.05	C	
Ⅱ	1面下②	507	8.26	A	
Ⅱ	1面下②	508	8.03	A	図27
Ⅱ	1面下②	512	8.18	A	
Ⅱ	2面	514	7.80	図14	図29
Ⅱ	2面	515	7.76	F	
Ⅱ	2面	516 542	7.81	図15	図29
Ⅱ	1面下②	517	7.87	A	図29
Ⅱ	2面	518	7.81	A	
Ⅱ	1面下②	519	8.21	A	
Ⅱ	1面下②	520	7.95	F	
Ⅱ	1面下②	521	7.93	E	
Ⅱ	1面下②	522	7.97	E	
Ⅱ	1面下②	523	8.05	A	
Ⅱ	1面下②	524	8.11	A	
Ⅱ	1面下②	525	8.17	A	
Ⅱ	1面下②	526	8.12	—	
Ⅱ	1面下②	527	8.11	A	
Ⅱ	1面下②	528	7.97	A	
Ⅱ	1面下②	529	7.92	A	
Ⅱ	1面下②	530	8.11	A	
Ⅱ	1面下②	531	7.78	A	
Ⅱ	1面下②	532	7.91	A	
Ⅱ	1面下②	533	7.95	A	図29
Ⅱ	2面	535	7.81	A	
Ⅱ	2面	536	8.13	A	
Ⅱ	2面	538	8.04	A	
Ⅱ	2面	539	8.12	A	
Ⅱ	2面	540	7.93	A	図29
Ⅱ	2面	541	7.74	図13	図29
Ⅱ	2面	543	7.65	図13	
Ⅱ	2面	544	7.63	A	

区	面	遺構No.	底面標高(m)	埋土タイプ	遺物図
Ⅱ	2面	545	7.84	H	
Ⅱ	2面	546	7.74	H	
Ⅱ	2面	547	8.10	炭	
Ⅱ	2面	548	7.98	E	
Ⅱ	2面	549	8.04	E	
Ⅱ	2面	551 553	7.89	H	図29
Ⅱ	2面	552	7.79	H	図29
Ⅱ	2面	554	7.83	H	
Ⅱ	2面下	555	7.86	D	
Ⅱ	2面	556	7.73	H	
Ⅱ	2面	557	7.71	H	
Ⅱ	2面下	558	7.88	—	
Ⅱ	2面下	559	7.45	C	
Ⅱ	2面	560	7.98	G	
Ⅱ	2面下	563	7.82	C	
Ⅱ	2面	564	8.02	F	
Ⅱ	2面	565	8.17	—	
Ⅱ	2面下	566	7.55	E	
Ⅱ	2面下	567	7.86	—	
Ⅱ	2面下	568	7.93	E	
Ⅱ	2面下	569	7.99	E	
Ⅱ	2面下	571	7.52	E	
Ⅱ	2面下	572	7.74	E	
Ⅱ	3面	573	(7.09)	図16	図30
Ⅱ	2面下	574	7.38	G	
Ⅱ	2面下	575	7.49	G	
Ⅱ	2面下	576	7.76	G	
Ⅱ	2面下	577	7.52	E	
Ⅱ	3面下	578	7.29	Ⅳ	図31
Ⅱ	2面下	579	7.76	G	
Ⅱ	2面下	580	7.77	—	
Ⅱ	2面下	581	7.74	—	
Ⅱ	2面下	582	7.68	—	
Ⅱ	2面	584	7.27	黄色砂	
Ⅱ	2面下	585	7.55	G	
Ⅱ	2面下	586	8.10	G	
Ⅱ	2面下	587	8.02	H	
Ⅱ	2面下	588	—	C	
Ⅰ	1面	カ1	—	—	図17
Ⅰ	1面	カ2	—	—	図17
Ⅰ	1面	カ3	—	—	
Ⅰ	1面	カ4	—	—	
Ⅰ	1面	カ5	—	—	
Ⅰ	1面	カ6	—	—	図17
Ⅰ	1面	カ7	—	—	
Ⅰ	1面	カ8	—	—	
Ⅰ	1面	カ9	—	—	
Ⅰ	1面	カ10	—	—	
Ⅰ	1面	カ11	—	—	
Ⅰ	1面	カ12	—	—	図17
Ⅰ	1面	カ13	—	—	
Ⅰ	1面	カ14	—	—	

・遺構番号は現地調査時に付したものを使用し、切り合い関係にある遺構は、**原則として**番号が小さい方が新しい。

・平面規模は、該当面の全体図から概略値を得られたい。

遺構埋土の分類（表1に対応）

A　暗褐色砂質土　泥岩粒少量。

B　黄褐色土　泥岩ブロックが主体。

C　暗褐色砂　泥岩粒微量。

D　黒色砂　炭化物粒子多量。

E　灰褐色粘質土

F　黄色砂

G　灰色砂　貝殻粒多量。

H　黒色砂

第２節　出土遺物

出土量に関する情報は表３のカウント・計量表にまとめた。遺物個々の特徴については、表４の遺物観察表を参照されたい。

以下、Ⅰ区とⅡ区に分けて、各層位・遺構出土の遺物について概要を説明する。

（１）Ⅰ区の出土遺物

Ⅰ区表土～１面の出土遺物（図 17）

表採資料も含め、１～ 12 として掲載した。

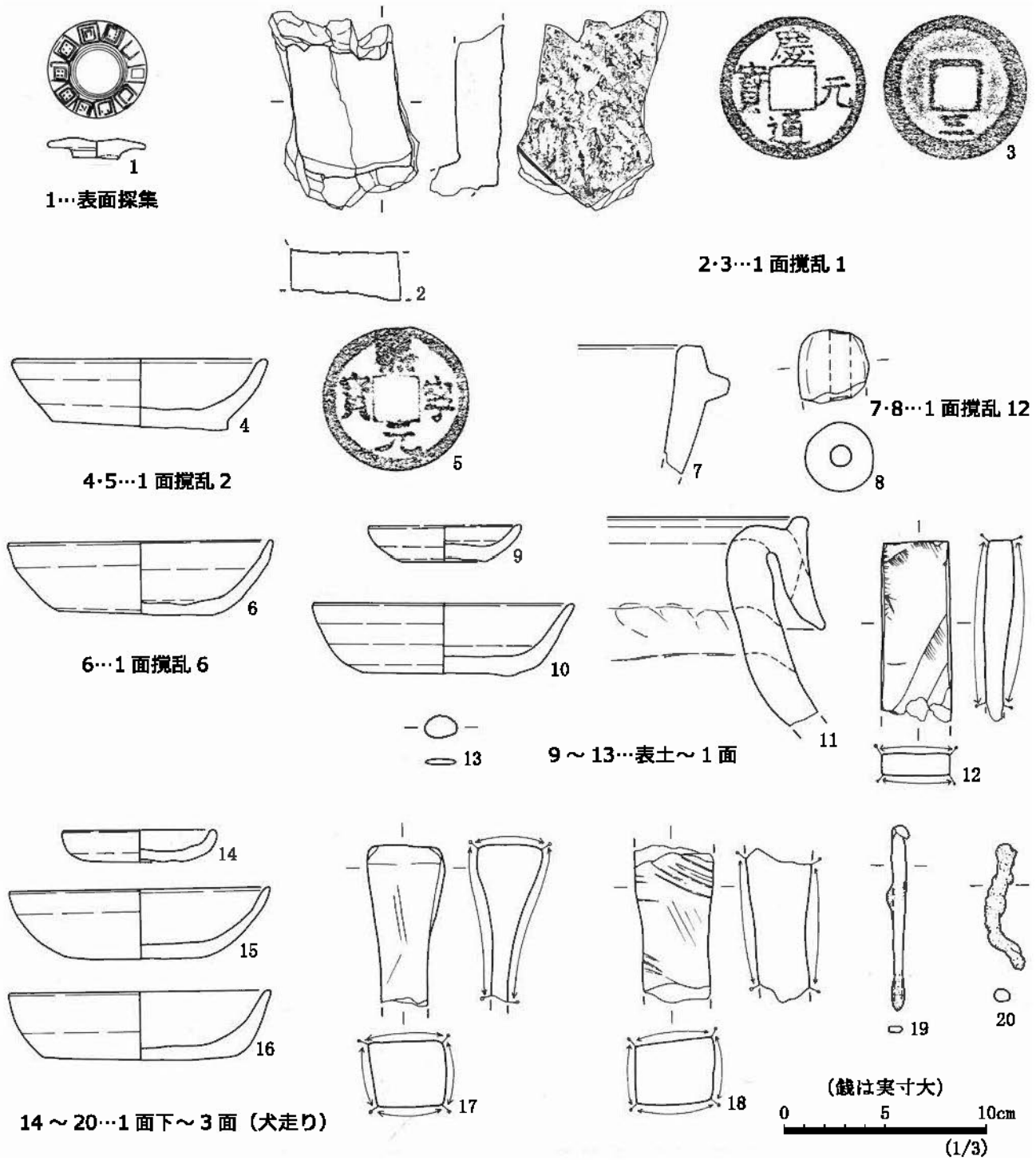


図 17　Ⅰ区　表土～３面　出土遺物

1は表採資料で、国産陶器の蓋である。近世以降の所産だろうが、具体的な年代・産地は不明。11の常滑甕は8型式で、14世紀後半の所産とされる。かわらけは14世紀前半までの資料が主体となろうが、10の大皿は口縁部が若干外方に引き伸ばされており、他よりも新しい要素を備えているかもしれない。

Ⅰ区1面下～3面の出土遺物（図17）

14～20に示した。Ⅰ区犬走り部分の土層観察のため清掃した際に出土した遺物で、確実な出土層位を把握できなかったものである。1面下～2面下で出土した資料と同時期の製品が主体となる。

Ⅰ区1面遺構の出土遺物（図18）

各土坑から出土した遺物で、遺構5・6のかわらけ小皿（21・24）は体部が丸みを帯び、やや深身の器形である。遺構15出土の瀬戸折縁中皿は、中期後半以降の製品と見られる。

Ⅰ区1面下掘り下げ時の出土遺物（図19・20）

1面下～2面までを掘り下げた際に出土した遺物だが、純粋に遺物包含層に限られるものではなく、本来は遺構埋土に入っていた資料も含まれるだろう。かわらけは殆どをロクロ成形品が占め、図化資料もロクロのみとなった。大・中・小の三法量があり、各法量とも体部に丸みを帯びた資料が主体となる。大・中型は深身だが、小皿には低平なものとやや深身のものがあり、体部が直線的で深身となる資料も見られた。63・64は東濃型の山茶碗小皿（山皿）と見られ、64は低平で外反する器形から、第7型式以降の資料と考えられる。瀬戸窯の製品（71～75）は中期前半までの製品が主体で、常滑甕（77）は7～8型式に当たり、概ね14世紀代の所産品が中心となっている。

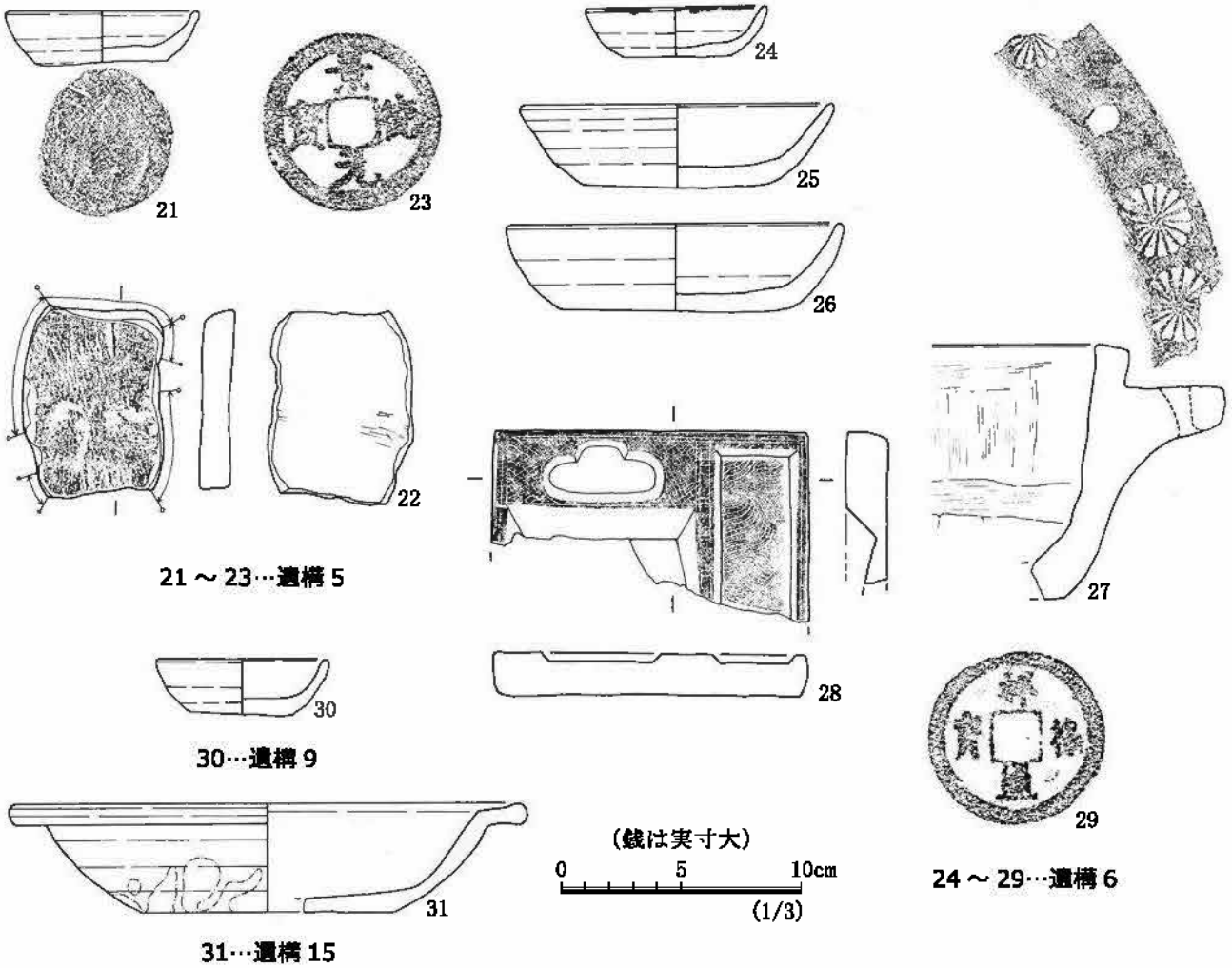


図18　Ⅰ区　1面遺構　出土遺物

Ⅰ区1面下～2面下　遺構出土遺物（図21～23）

Ⅰ区において、1面下・1面下②・2面・2面下の4時期に区分した遺構からの出土遺物である。前節でも述べたように、基本的にはⅢ層上面および層中の段階的な掘り下げにともない確認できた遺構で、明確な整地面を把握し得た中で検出されたものではない。よって、設定した時期区分通りには遺物様相が新旧の変化を見せていない点、先に述べておきたい。また、遺物図は遺構番号の順で掲載したので、時期区分が前後しながらの提示となっている点、注意されたい。

1面下の遺構211（図21-102～105）・221（111～113）は、整理作業時に欠番となったので、遺構外に帰属させる。遺構223（115～117）は完形ないし準完形のロクロかわらけ小皿3点が出土している。口径7.5㎝前後で底径・器高も揃っているが、体部の内湾度には個体差が見られる。

1面下②の遺構253のロクロかわらけ（図21-118～122）は大・中・小の三法量が揃っており、器形も斉一的である。中皿（119）は口径11.3㎝とやや大きいが、大皿（120）は14.1㎝とひと際大きく、重量も119の倍となる。小皿は完形でなかったため計量しなかったが、法量が近い遺構223の115～117は50ｇ前後なので、小50・中100・大200ｇという倍数を基準に製作されたことを推測させる。

1面下②の遺構272では、完形の分銅が出土している（図21-133）。釣鐘形を呈し、上端面の中央に細い針金による紐が付く。重量は18.5ｇで、ほぼ5匁に相当する。

2面の遺構253は竪穴建物で、図22-134～151が出土遺物である。ロクロかわらけの小皿には低平なもの（134～137）と体部が直線的で深身のもの（140・141）、両者の中間的な深さを呈するもの（138・139）に分けることができる。深身の資料が、やや新しい要素を備えていると思われる。

1面下②の遺構291のロクロかわらけ小皿は丸みを帯び低平な器形で、口径が7㎝前後の資料が複数個体見られる（図22-159～162など）。これに対し、2面遺構305の同種品は7㎝台後半～8㎝前後にまとまり、底径もわずかに広い。

2面遺構324はネコの骨が出土した土坑で、ロクロかわらけの大皿は、広い底部から体部が低く立ち上がる（図23-176・177）。図化資料はなかったが手づくねかわらけも少量出土しており、176・177も他遺構のかわらけより古い様相を留めている。

2面遺構347では、1点のみ出土した遺物が手づくねかわらけの大皿であった（図23-182）。

Ⅰ区1面下～3面上　掘り下げ時・遺構外の出土遺物（図23・25・26）

Ⅰ区において1面下～3面上まで段階的に掘り下げを行った際に出土した遺物で、遺構に帰属させることができなかった資料である。図25-235～26-270が1面下～2面、26-271～274が2面下、23-191が3面上遺構外、23-192が2面遺構外と、分かれて提示してしまっている。191と274は、Ⅳ層中に包含されていたもので、191はグリーンタフ製の管玉、274は古墳時代前期頃の土師器台付甕である。また、中世層である1面下からは、246の円筒埴輪片が出土している。

Ⅰ区3面下　遺構外の出土遺物（図31）

Ⅰ区において、3面下（Ⅳ層以下）を掘り下げる際に出土した遺物で、430～434がⅠ区からの出土である。431の皇宋通寶は、中世層からの混入であろう。433は古代の平瓦で、凹面に布目痕、凸面に斜格子のタタキ具痕が残る。御成小学校以北、商工会議所の東側一帯では古代瓦が多く出土しており、本型式の資料も含まれる。この一帯に郡衙に隣接する古代寺院が存在したことは確実視されているが、今のところ明確な寺院関連以降の検出例はない。434は滑石製の垂飾品で、勾玉の模造品と見られる。

Ⅰ区では3面下の掘り下げは東半部のみにとどまった。資料数はⅡ区の方が充実しており、流路状の遺構（遺構578）にともなう事例もあった。

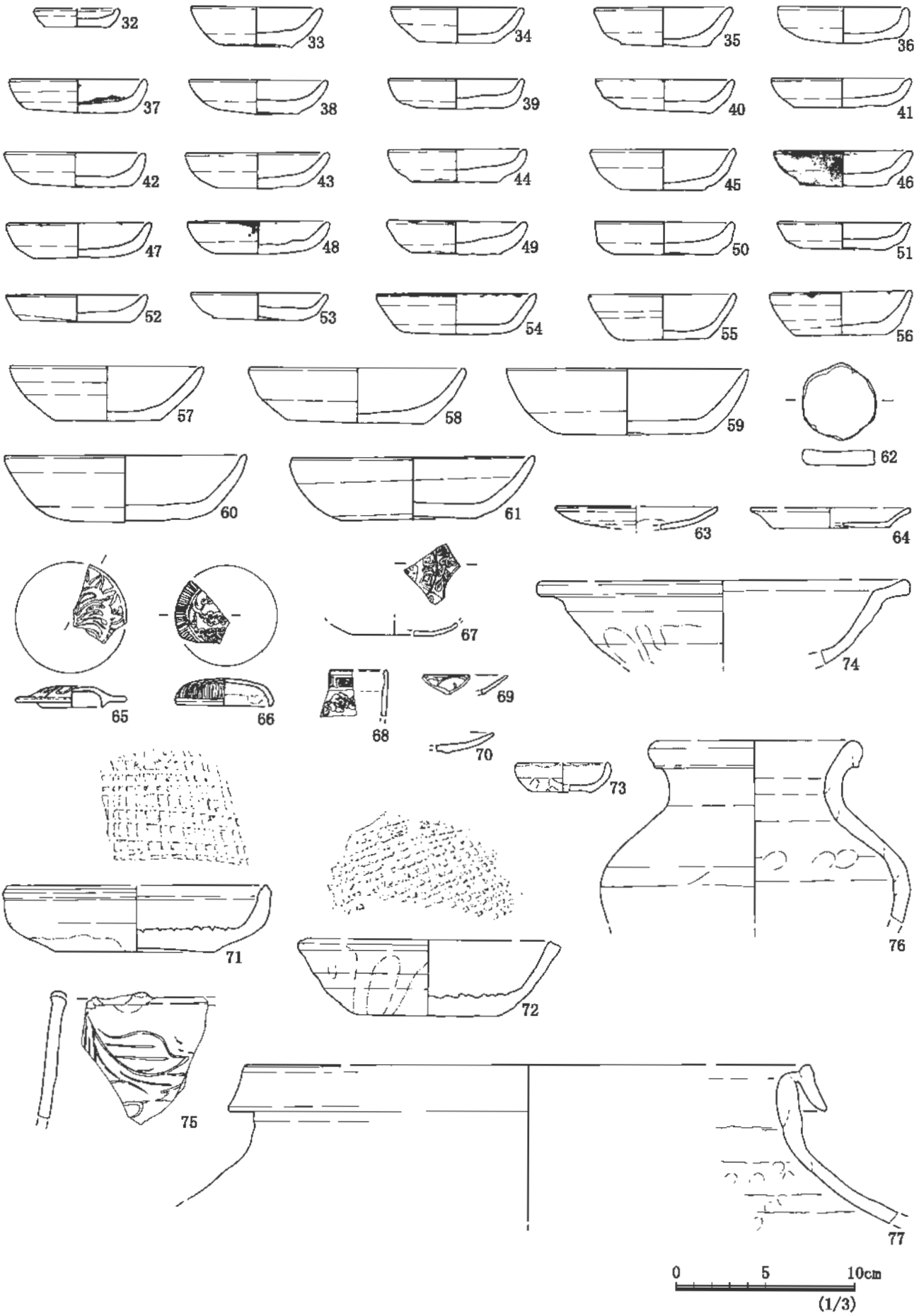


図19　Ⅰ区　1面下　出土遺物 (1)

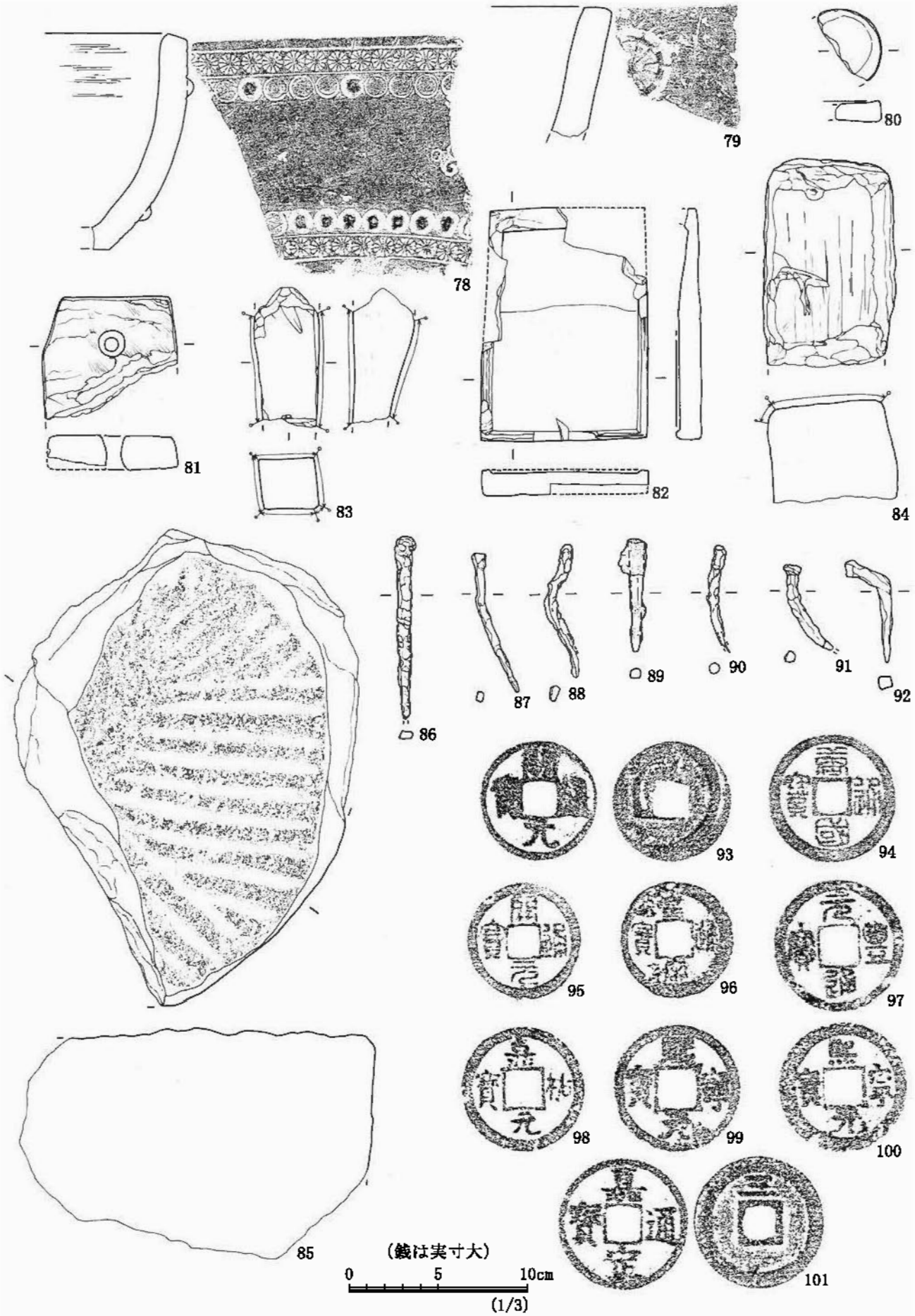
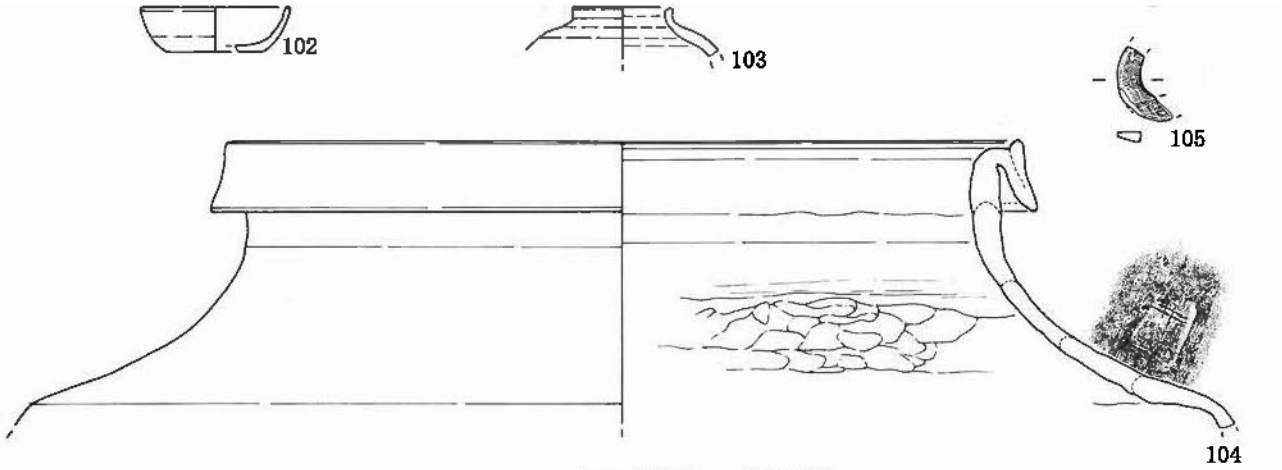
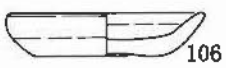


図20　Ⅰ区　1面下　出土遺物 (2)

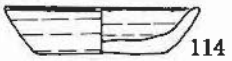


102 ～ 105…1 面下遺構 211（遺構外）

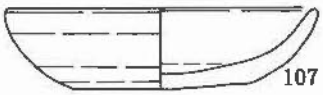


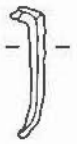
106…1 面下遺構 214

109･110…1 面下遺構 220

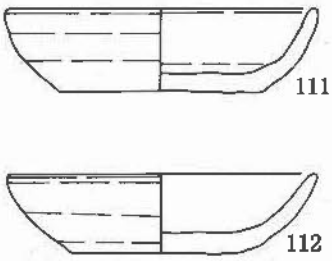


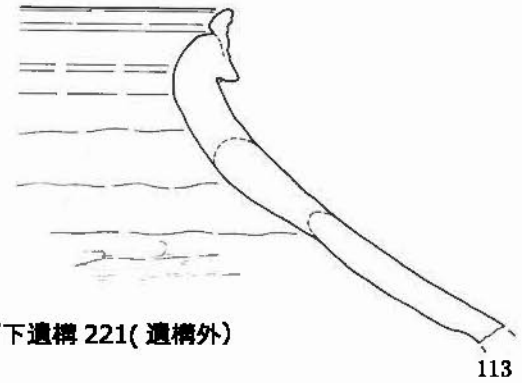
114…1 面下遺構 222



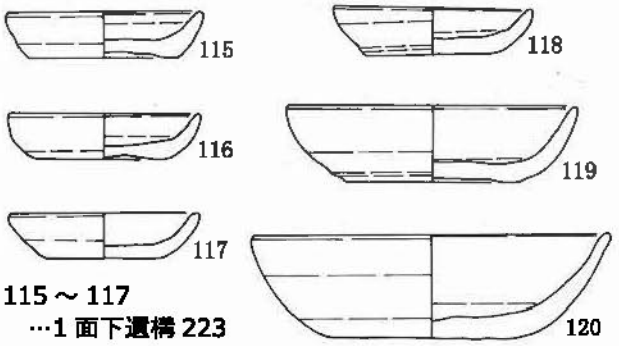


107･108…
1 面下遺構 219

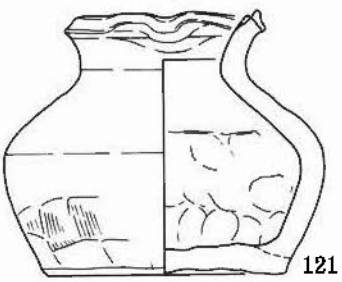


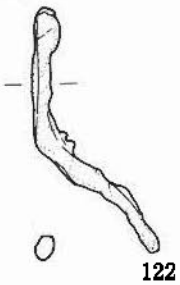


111 ～ 113…1 面下遺構 221（遺構外）

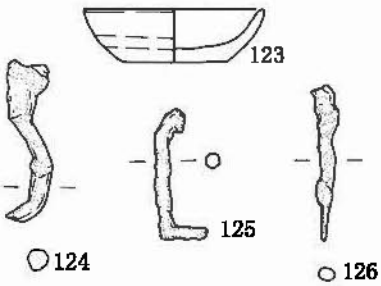


115 ～ 117
…1 面下遺構 223

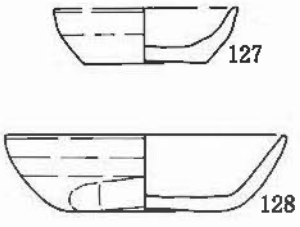




118 ～ 122…1 面下②遺構 235



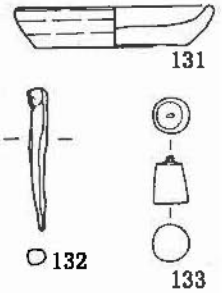
123 ～ 126…1 面下②遺構 239



127･128…1 面下②
遺構 241（321）

129…1 面下②遺構 258

130…1 面下②遺構 265



131 ～ 133
…1 面下②遺構 272

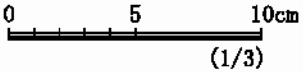


図 21　Ⅰ区 1 面下・1 面下②遺構　出土遺物

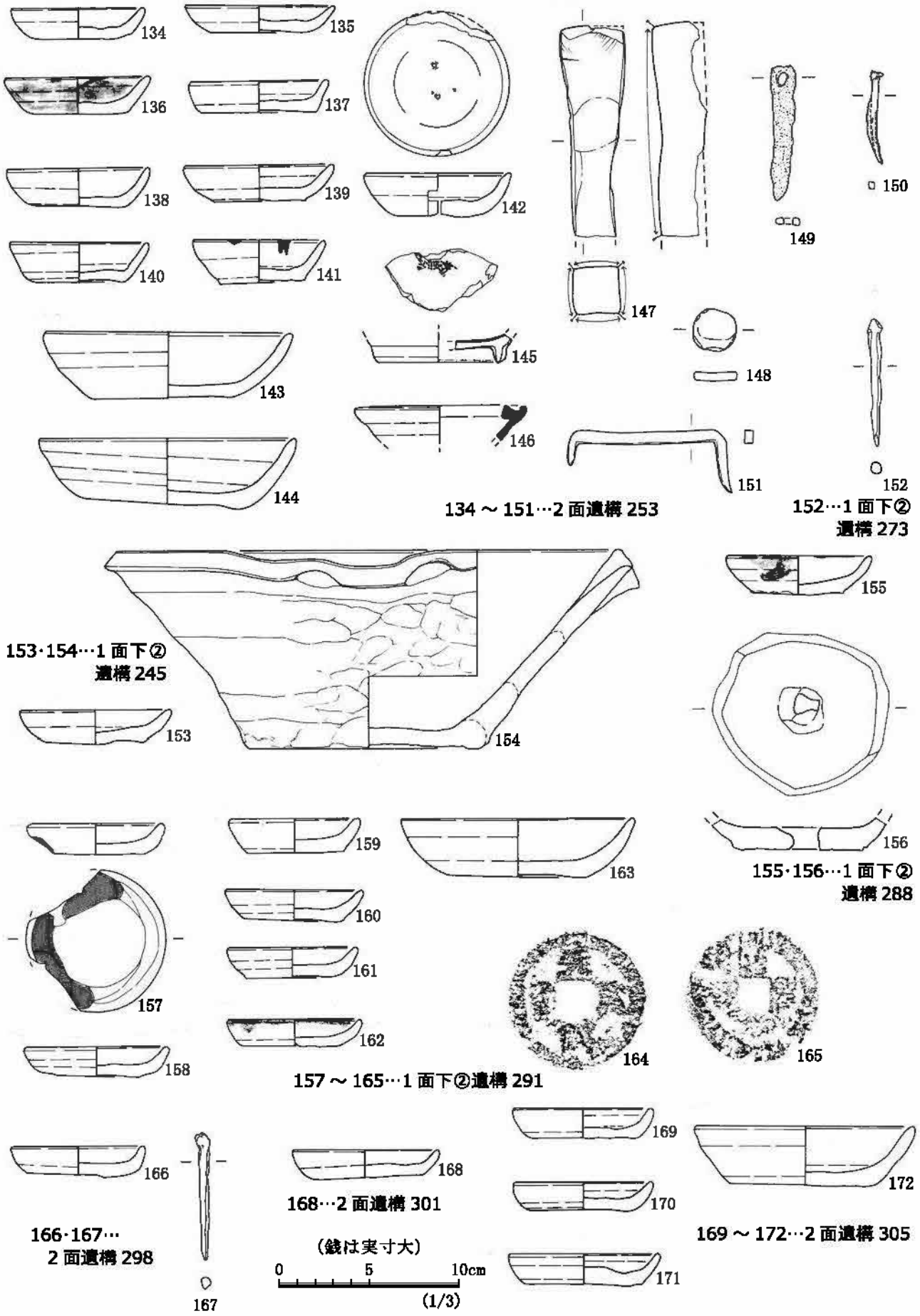
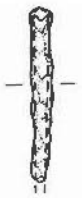
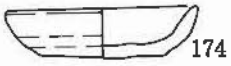


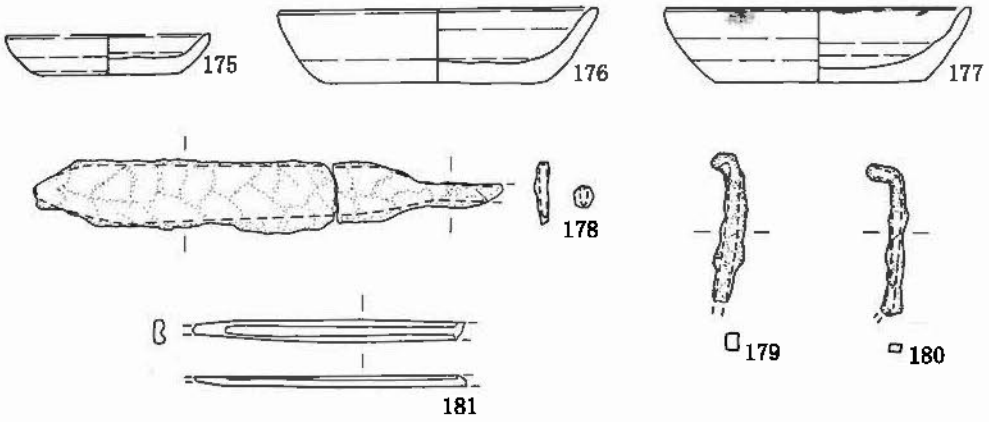
図22　I区1面下②・2面遺構　出土遺物



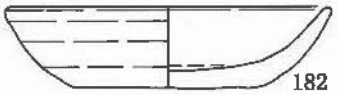
173…1 面下②
遺構 315



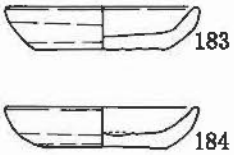
174…1 面下②
遺構 321 (241)



175 ～ 181…2 面遺構 324

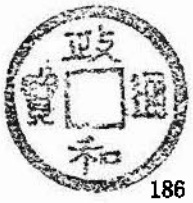


182…2 面遺構 327

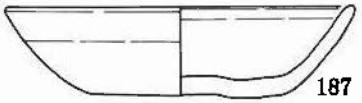


183·184…2 面遺構 335

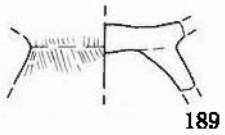
185…2 面遺構 347



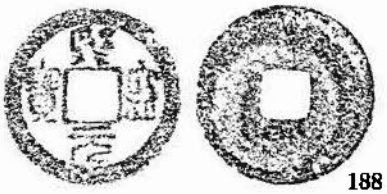
186…2 面遺構 365



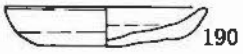
187…2 面遺構 366



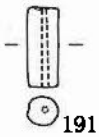
189…2 面遺構 379



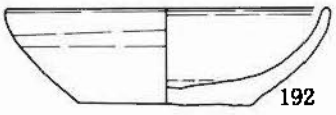
188…2 面下（2 面）遺構 376



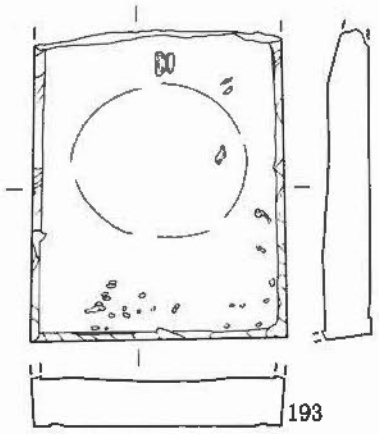
190…2 面遺構 387



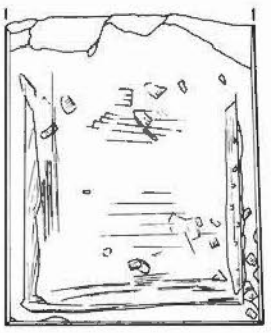
191…Ⅰ区 3 面上
遺構外（Ⅳ層上）



192…Ⅰ区 2 面遺構外



193…Ⅱ区 2 面遺構外



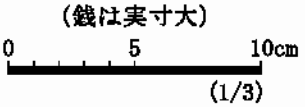


図 23　Ⅰ・Ⅱ区 1 面下②・2 面・2 面下　出土遺物

（2）Ⅱ区の出土遺物

Ⅱ区1面下～2面下　遺構出土遺物（図24～29）

Ⅱ区1面下～2面下の調査時、遺構から出土した遺物である。Ⅰ区と同様、設定した時期区分と遺物様相の新旧に齟齬があるかもしれない。

1面下遺構447は据甕遺構で、図24-194～200に図化できた遺物を掲載した。200の常滑窯大甕は、縁帯幅が大きく8型式の資料である。ロクロかわらけ（194～198）は大・中・小の三法量が認められ、いずれも体部が丸みを帯び、やや深身器形となっている。

1面下遺構448からも、8型式の常滑甕が出土している（図24-201）。203の東播系須恵器の片口鉢は、口縁部の内面がナデによって凹んでいる。

1面下遺構449からは、舶載品の「唐物天目」（図25-207）が出土している。208は常滑6b～7型式の甕である。

遺構447～449は同一面上に近接して並んで検出された。ここからの遺物様相は新旧が混在した状況といえるが、447の据甕（200）を根拠とすれば、14世紀代の後半以降に形成された遺構群と理解することができる。

1面下②検出の遺構474は竪穴建物で、埋土出土のロクロかわらけ小皿は体部に丸みを帯び低平器形である（図27-321）。

1面下②の遺構477は大型土坑で、下位にある竪穴建物（遺構541）の埋土上層部分であった可能性もある。出土したロクロかわらけ小皿は、体部に丸みを帯び低平な器形である（図27-324～326）。

2面遺構514は474の下位で検出された竪穴建物で、埋土の下層のみが遺存していたため出土遺物は少ない（図29-358～364）。362の滑石製紡錘車は、古墳時代前後の所産品が混入したものであろう。

2面の遺構541は竪穴建物で、埋土を中心に、比較的多くの遺物が出土している（図29-369～396）ロクロかわらけの小皿は図化できた個体が多く、体部が丸みを帯びた資料が占める中、低平（369～382・384）と、やや深身（383・385）となる2種類の器形が見て取れる。1点のみ図化できた大皿（386）は、やや深身器形を呈する。387の常滑甕は6a型式と見られ、本建物の廃絶が13世紀後半以降となることを示している。

2面遺構516（542）は竪穴建物で、図化できた遺物はロクロかわらけの小皿1点のみである（図29-365）。体部はやや丸みを帯び、低平な器形である。

2面の遺構552はピットで、ロクロかわらけの大・中・小各1点を図示できた。いずれも体部が丸みを帯び、やや深身の器形となっている。遺構552周辺から出土した大皿401・402は、400よりも体部の丸みが弱く口径が大きいことから、やや古い様相を見せているといえる。この一帯には3面井戸（遺構573）の埋土最上層が堆積していた可能性があるので、403の同安窯系青磁皿ともども、ここに帰属させることができるかもしれない。

Ⅱ区1面下～3面　掘り下げ時・遺構外の出土遺物（図23～29）

Ⅱ区において1面下～3面上まで段階的に掘り下げを行った際に出土した遺物で、遺構に帰属させることができなかった資料である。Ⅰ区と同様、本来は竪穴建物など大型遺構の埋土中に包含されていたものも一緒に混ぜて取り上げてしまった可能性が高い。図25-209～234と図26-286～27-320が1面下～1面下②、図28-337～357が1面下②～3面、図29-405・406が2面遺構外、図23-193が2面下の遺構外で取り上げたものである。

1面下のロクロかわらけ小皿は211～218のように深身器形が主体で、下層に行くにつれて低平器形

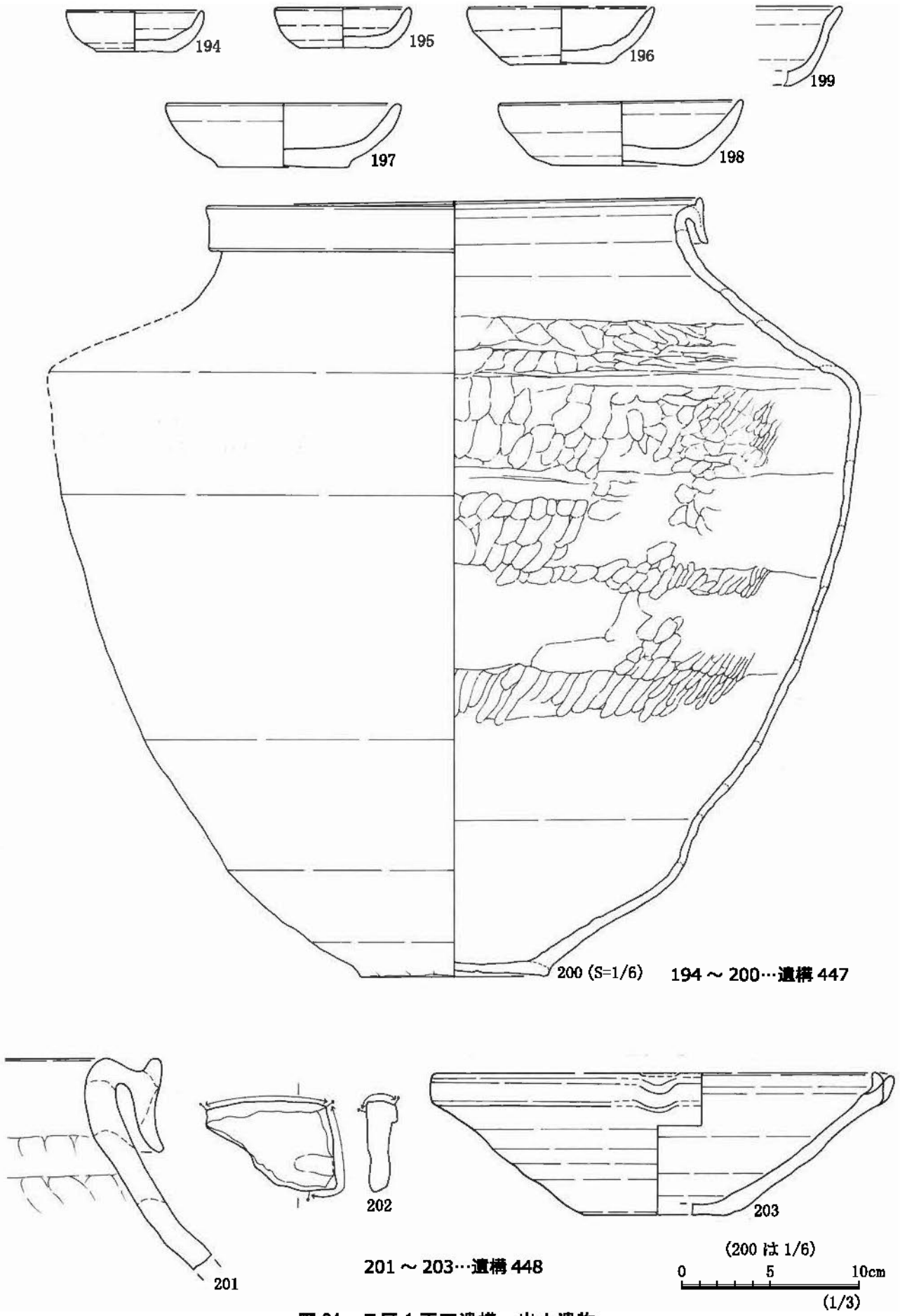
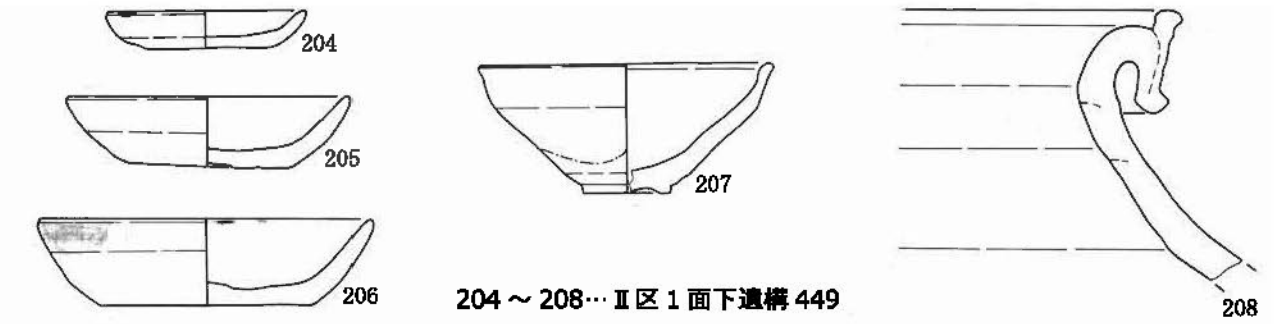
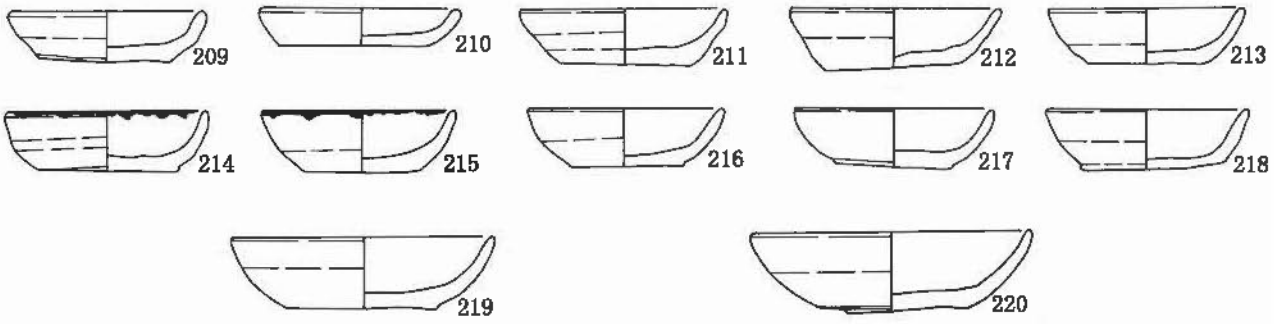
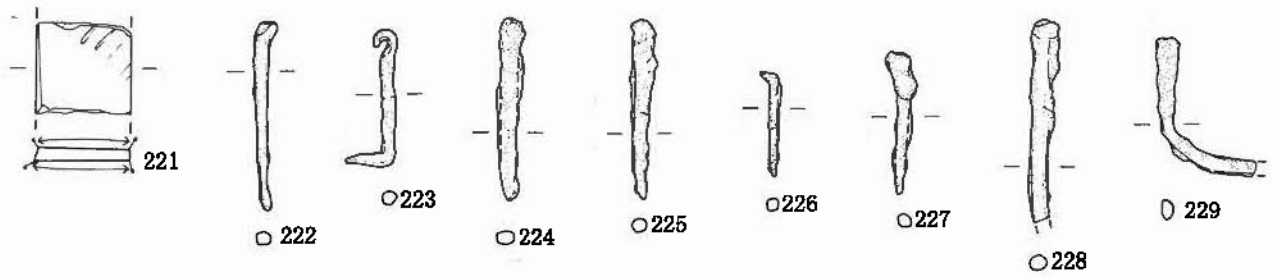


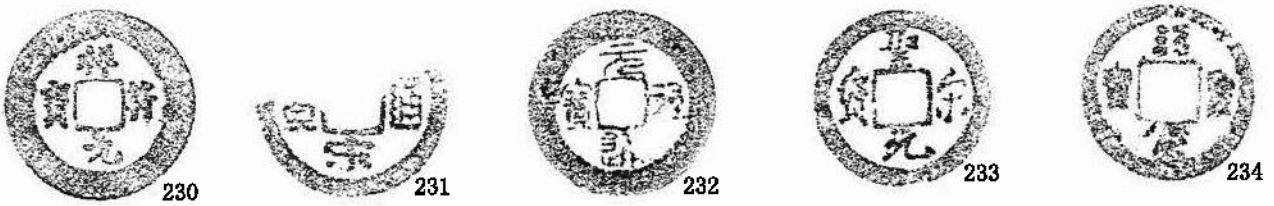
図 24　Ⅱ区 1 面下遺構　出土遺物



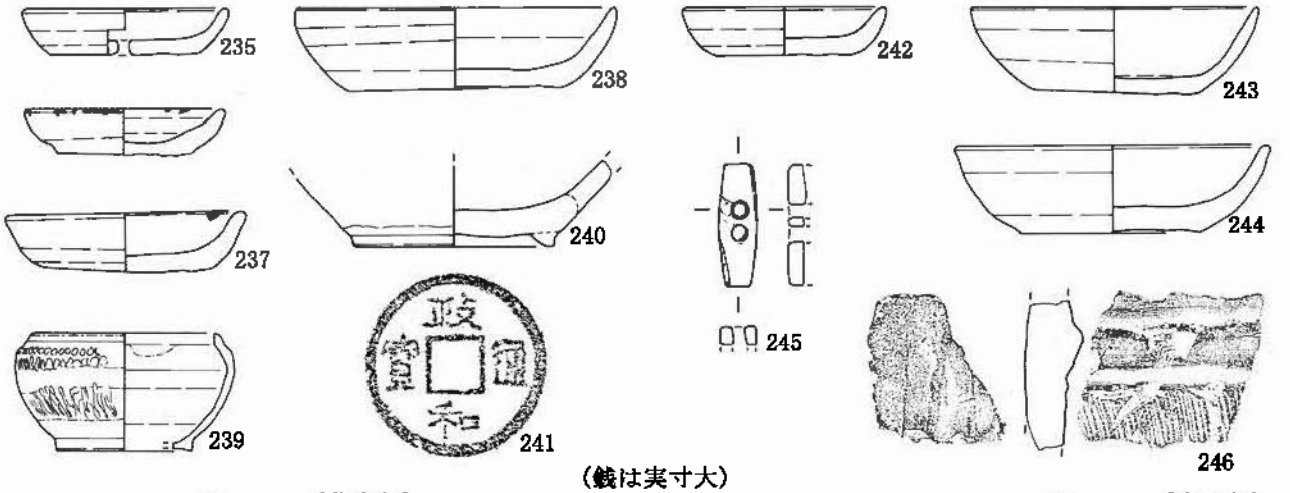
204～208…Ⅱ区１面下遺構449







209～234…Ⅱ区１面下



235～241…Ⅰ区１面下（北東部）

（銭は実寸大）

0　5　10cm

(1/3)

242～246…Ⅰ区１面下（南西部）

図25　Ⅱ区１面下の遺構、Ⅰ・Ⅱ区１面下　出土遺物

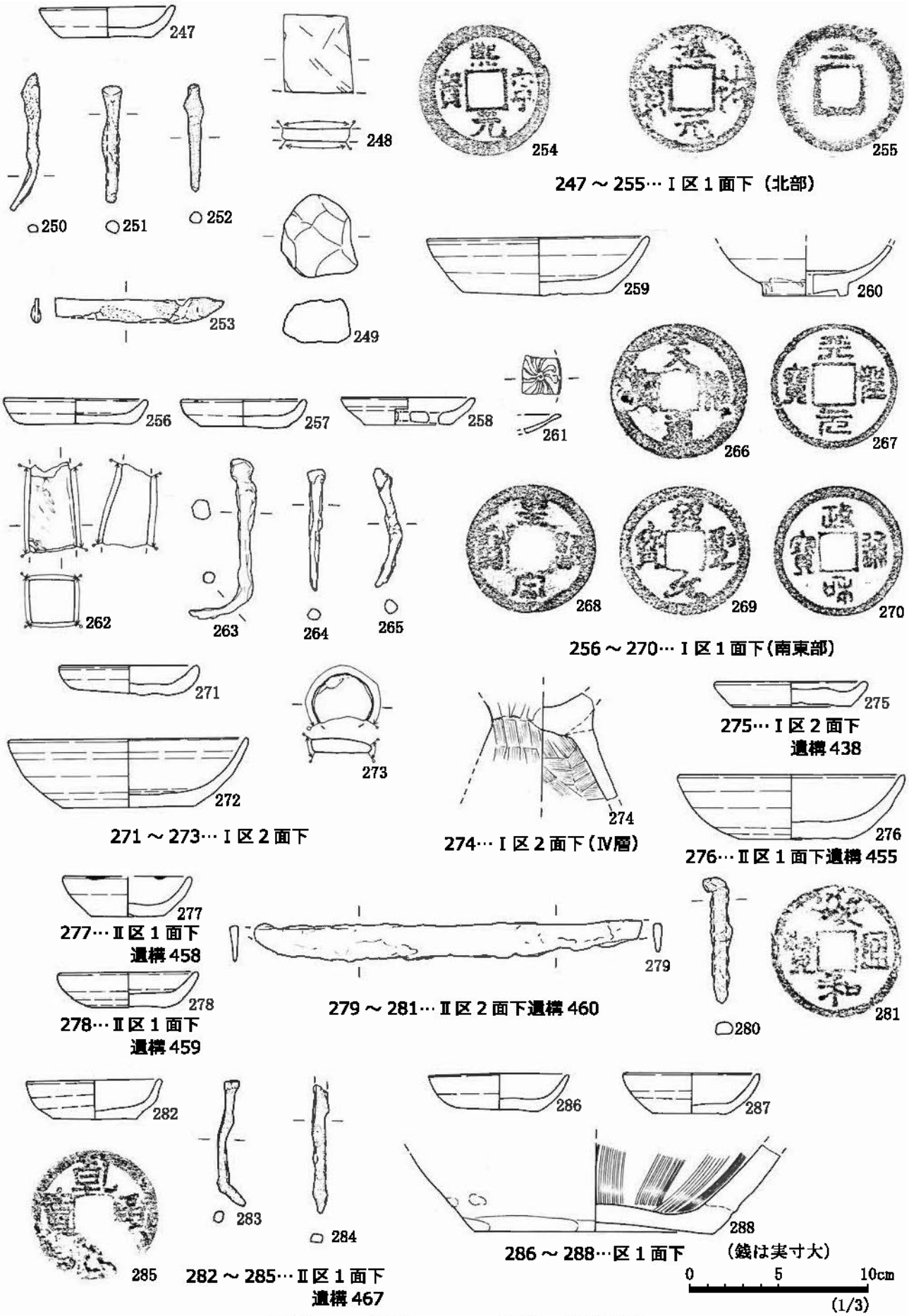
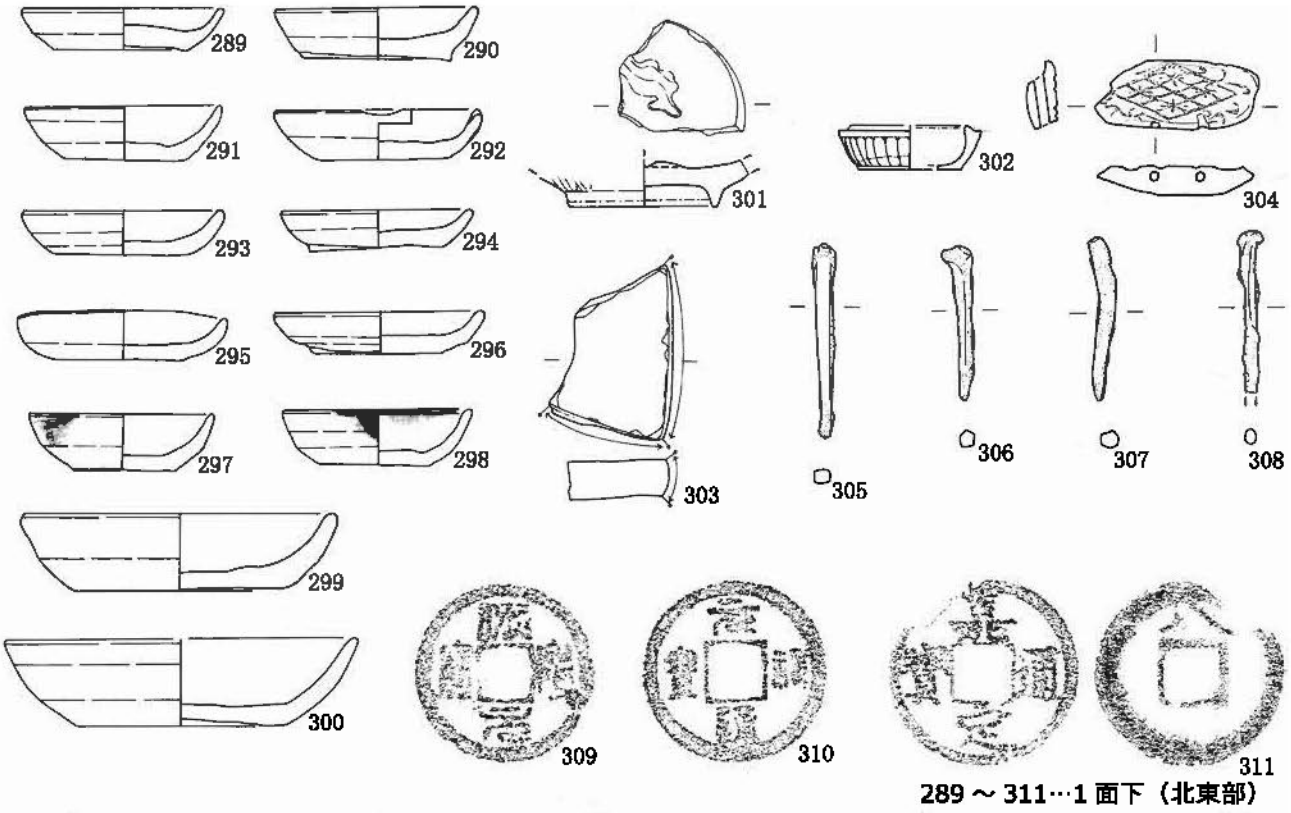
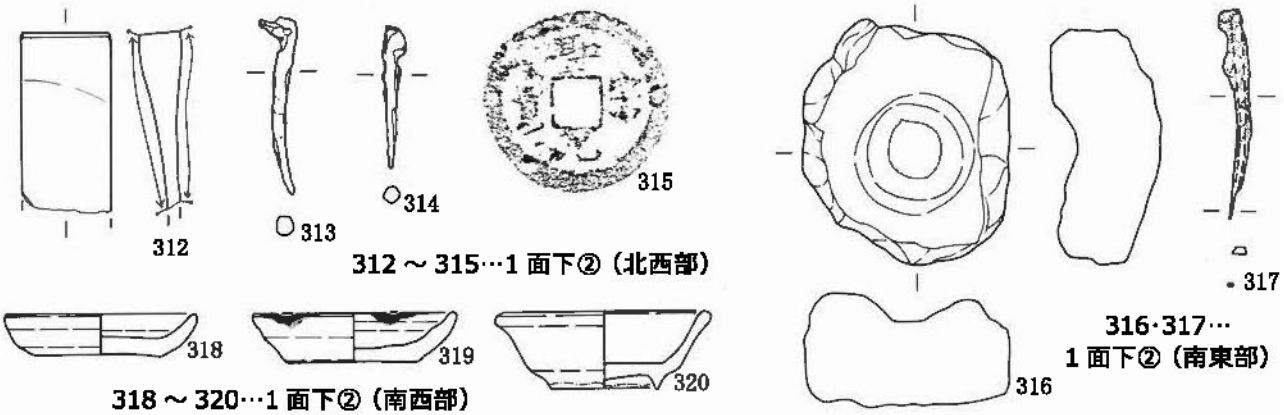


図26　Ⅰ・Ⅱ区1面下・2面下　出土遺物



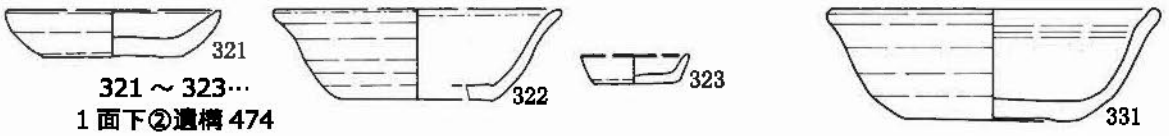
289～311…1面下（北東部）



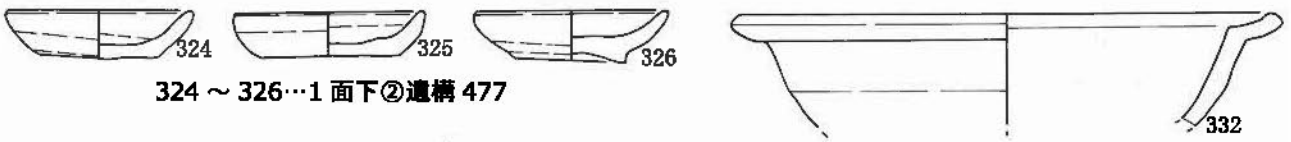
312～315…1面下②（北西部）

316·317…
1面下②（南東部）

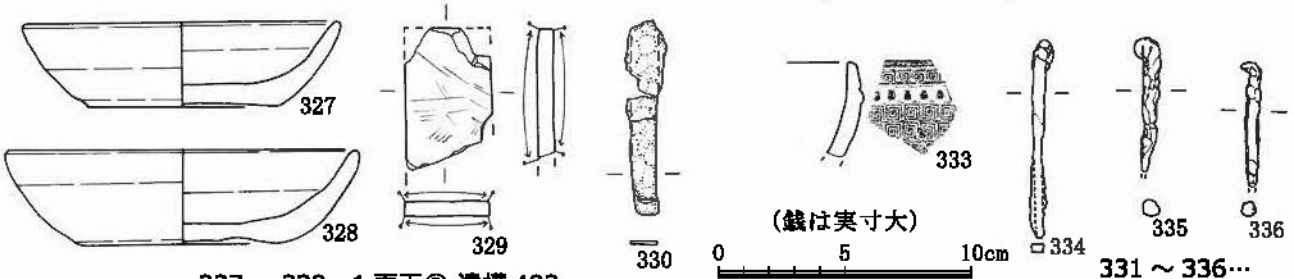
318～320…1面下②（南西部）



321～323…
1面下②遺構474



324～326…1面下②遺構477



327～330…1面下② 遺構493

331～336…
1面下② 遺構508

図27　Ⅱ区1面下・1面下②　出土遺物

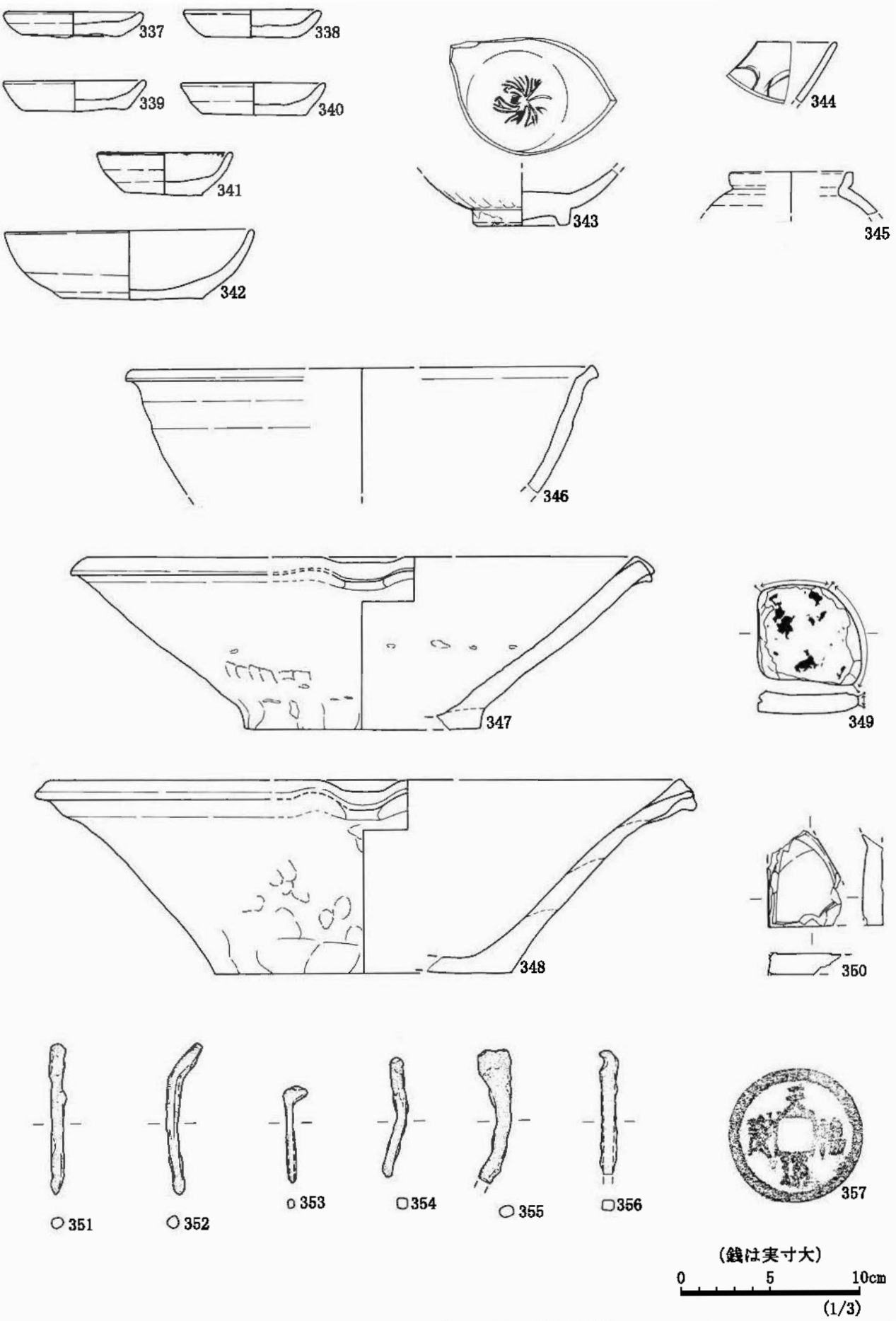


図 28　Ⅱ区 1 面下②～ 3 面　出土遺物

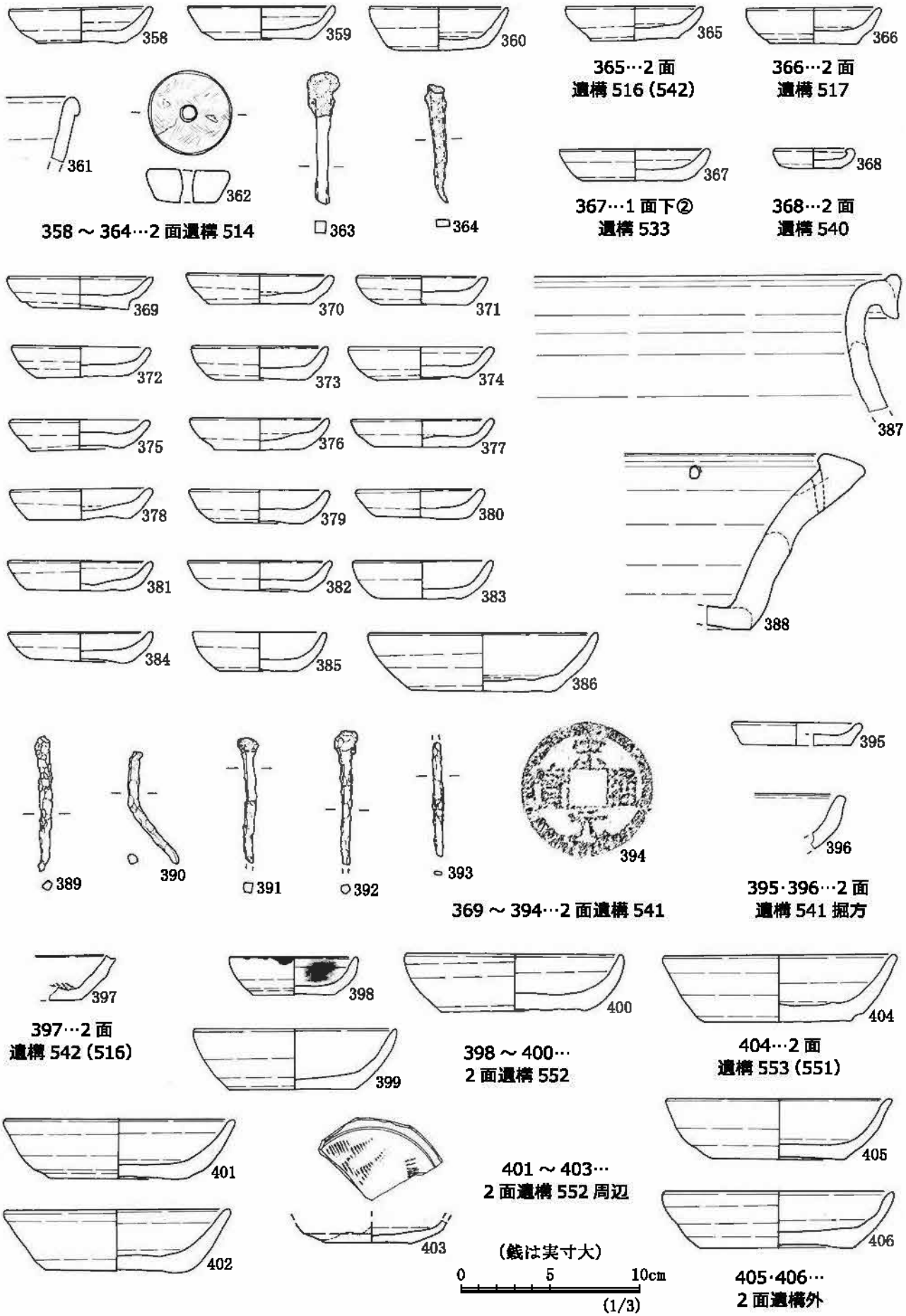


図 29　Ⅱ区 1 面下②・2 面　出土遺物

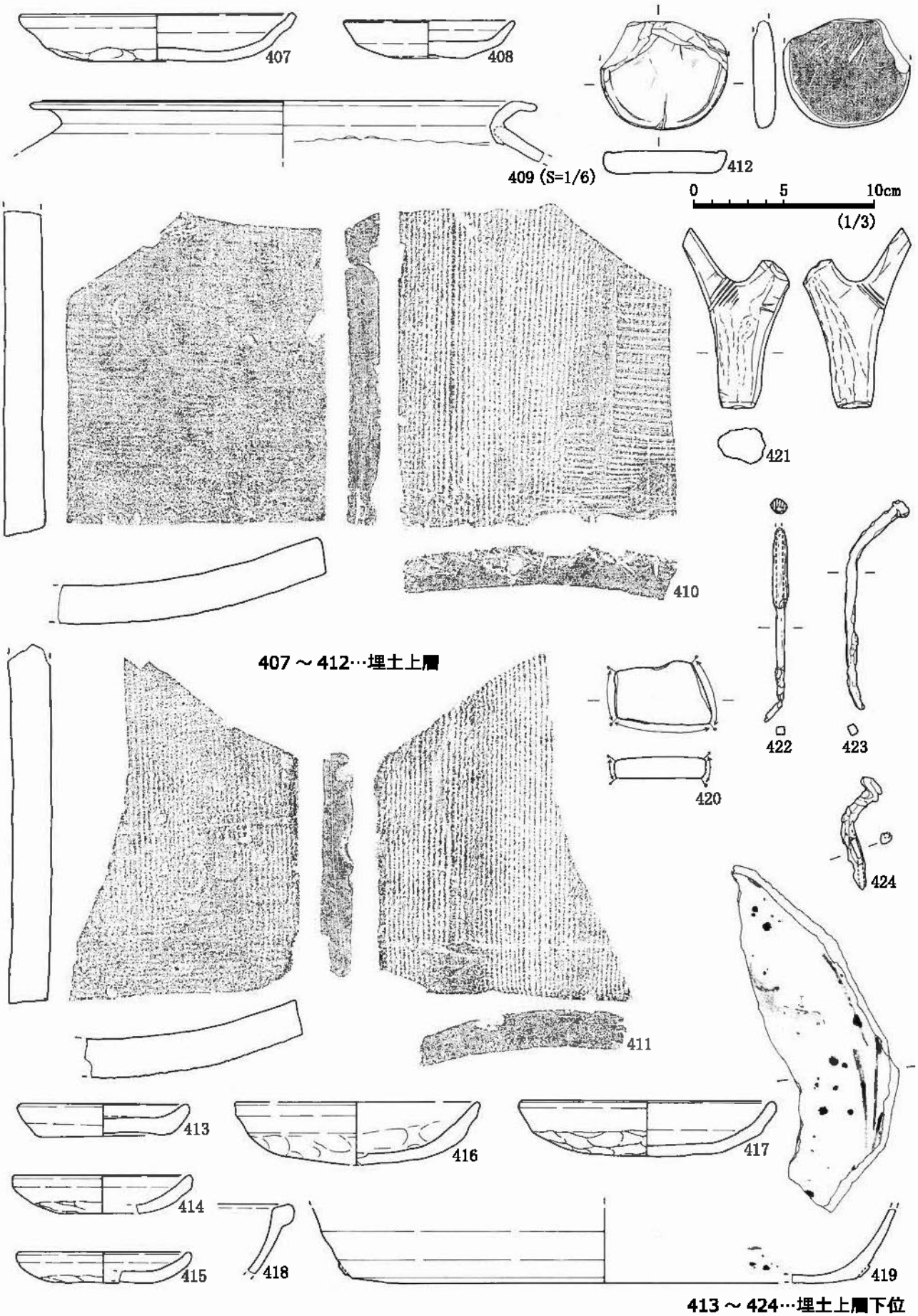


図 30　Ⅱ区 3 面　遺構 573（井戸）出土遺物

が中心となる傾向は見て取れるが、上述した取り上げ状況であるため、随所で新旧様相の混乱も生じている。

Ⅱ区3面　井戸（遺構573）の出土遺物（図30）

本遺構出土のかわらけは手づくねが多く、大皿の重量比では76%を占めている（表3）。図化できた資料には器壁が厚く深身気味の個体もあることから（416）、在地化が進んだ段階の所産と考えられる。大量に出土した瓦は永福寺Ⅰ期の所用瓦のみで、平瓦（女瓦）A類は50㎏超も出土している。前節で述べたように埋土中でも井戸枠より上位の堆積層から集中して出土していることから（図16）、井戸の廃絶～埋没過程において、不要となった瓦が一括廃棄された可能性を指摘できる。図30には、端面の残る2点を掲載した（410・411）。この他、ロクロかわらけ小皿（413）、龍泉窯系青磁皿Ⅰ類（408）、渥美窯の甕（409）、泉州窯系黄釉盤（418・419）などが井戸枠よりも上位の堆積土から出土しており、13世紀前葉を大幅に下らない時期の所産品のみで構成されている点、2面下以降の遺物様相とは明確に異なっている。

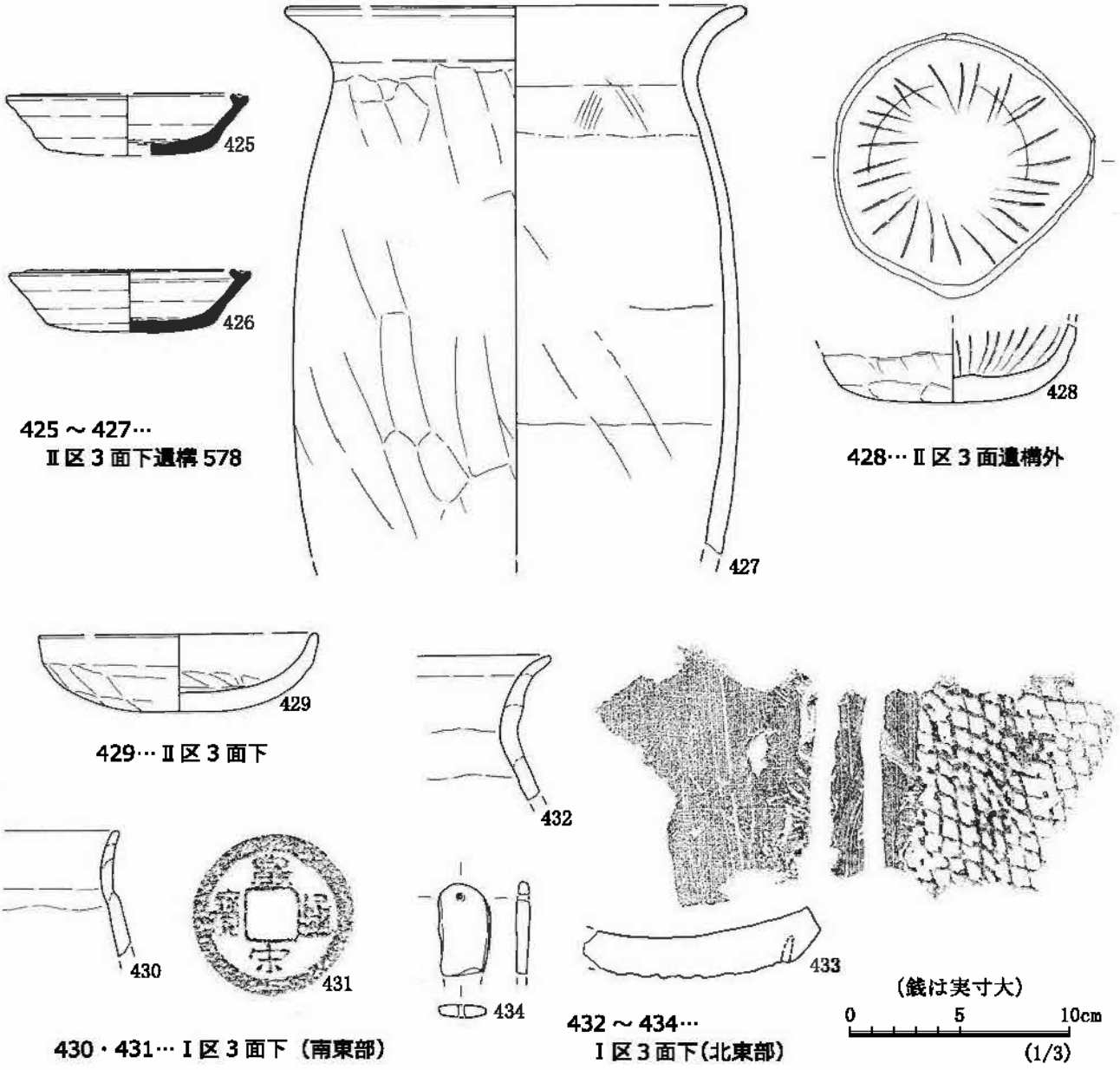


図31　Ⅱ区3面下　遺構578（流路状遺構）、Ⅰ・Ⅱ区3面・3面下　出土遺物

表３　出土遺物カウント・計量表

（黒字欄は欠番遺構）

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量(g)*
Ⅰ区1面遺構					
1	ロクロかわらけ	大		1	*18*
	かわらけ	小片		1	*5*
	常滑	甕		5	*305*
2	ロクロかわらけ	大		5	*43*
	鉄製品	釘		1	*3*
3	常滑	甕		1	*18*
4	ロクロかわらけ	小		5	*43*
		大		13	*209*
	かわらけ	小片		2	*2*
	常滑	甕		1	*29*
	瓦質土器	火鉢		1	*20*
5A	ロクロかわらけ	小		2	*61*
		大		10	*125*
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	*69*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	2	*81*
		甕		7	*364*
	青白磁	皿		1	*5*
	銅製品	銭		1	*3*
	鉄製品	釘		5	*43*
	自然遺物	獣骨		1	
5B	ロクロかわらけ	小		10	*128*
		大		13	*140*
	かわらけ	小片		11	*23*
	土器	南伊勢系鍋		1	*4*
	瀬戸	卸皿		1	*3*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*253*
			Ⅱ	2	*180*
		甕		14	*1605*
		転用研磨具		1	*99*
	瓦質土器	火鉢		2	*22*
	土師器	甕		1	*11*
	鉄製品	釘		6	*33*
	骨製品	加工骨		1	*11*
6	ロクロかわらけ	小		9	*127*
		大		22	*635*
	かわらけ	小片		14	*44*
	常滑	甕		4	*324*
	瓦質土器	火鉢	Ⅳ-2	1	*512*
				1	*54*
	石製品	硯	鳴滝	1	*251*
	銅製品	銭		1	*4*
	鉄製品	釘		1	*13*
7	ロクロかわらけ	大		2	*14*
	常滑	甕		1	*36*
	瓦質土器	火鉢	Ⅳ	1	*136*
8	ロクロかわらけ	大		3	*22*
9	ロクロかわらけ	小		5	*88*
		大		10	*95*
10	ロクロかわらけ	大		2	*15*
		小片		3	*13*
	瀬戸	折縁皿		1	*127*
	常滑	甕		1	*12*
11	ロクロかわらけ	大		2	*60*
	常滑	甕		8	*950*
	瓦質土器	火鉢		1	*60*
12	ロクロかわらけ	小		1	*4*
		大		1	*18*
	かわらけ	小片		6	*24*
	常滑	甕		5	*311*
	瓦質土器	火鉢	Ⅳ	1	*49*
				2	*23*
	自然遺物	獣骨		1	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量(g)*
13	ロクロかわらけ	大		1	*10*
	常滑	甕		2	*145*
	瓦質土器	火鉢		1	*140*
14	ロクロかわらけ	小		6	*97*
		大		24	*370*
	かわらけ	小片		2	*11*
	白磁	小片		1	*2*
	青白磁	合子蓋		1	*2*
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	*40*
	瀬戸	折縁皿		4	*346*
		壺瓶		2	*246*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	5	*281*
			Ⅱ	3	*286*
		甕		53	*4260*
	備前	すり鉢		1	*252*
	瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	*194*
			Ⅳ	1	*84*
				1	*119*
	石製品	滑石片		1	*6*
	須恵器	坏		1	*2*
	鉄製品	釘		3	*15*
		板状製品		1	*8*
15	ロクロかわらけ	小		4	*40*
		大		9	*98*
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	*21*
	瀬戸	折縁鉢		1	*113*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	4	*341*
		甕		46	*5397*
	備前	すり鉢		3	*357*
	瓦質土器	火鉢		7	*645*
	瓦	平瓦	A	1	*134*
	石製品	中砥	天草	1	*250*
	鉄製品	釘		1	*4*
	自然遺物	アカニシ		1	
16	ロクロかわらけ	大		4	*40*
	常滑	甕		5	*369*
17	ロクロかわらけ	小		2	*12*
	常滑	甕		2	*107*
Ⅰ区1面下遺構					
201	ロクロかわらけ	小		5	*32*
		大		4	*56*
		小片		5	*19*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	*25*
		甕		2	*36*
	瓦質土器	火鉢	Ⅲ	2	*177*
202	ロクロかわらけ	小		2	*21*
		大		6	*100*
		小片		5	*21*
	常滑	甕		2	*140*
		壺		1	*61*
	瓦	平瓦	B	1	*54*
	鉄製品	釘		1	*3*
		鉄滓		1	*187*
203ア	常滑	甕		1	*25*
203イ	ロクロかわらけ	大		1	*8*
	渥美	甕		1	*39*
203ウ	ロクロかわらけ	大		2	*19*
	常滑	甕		2	*48*
	鉄製品	釘		2	*13*
203エ	ロクロかわらけ	大		2	*26*
	常滑	甕		1	*9*
204	ロクロかわらけ	小		3	*22*
		大		4	*118*
	かわらけ	小片		6	*28*
	龍泉窯系青磁	碗皿		1	*1*

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
204	常滑	甕		3	39
205	ロクロかわらけ	小		1	7
207	ロクロかわらけ	大		3	83
	鉄製品	釘		1	9
208	ロクロかわらけ	小		1	32
		大		6	47
	白かわらけ	ロクロ		1	6
	常滑	甕		2	35
	鉄製品	釘		1	12
211	ロクロかわらけ	小		25	251
		大		87	1120
	かわらけ	小片		75	325
	白磁	碗小片		2	2
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅱor Ⅲ	1	5
		折縁皿		1	3
	舶載施釉陶器	黄釉盤		3	15
	瀬戸	入子		2	7
		卸皿		1	33
		折縁皿？		1	20
		水滴？		1	8
	尾張型	山茶碗		1	24
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	34
			Ⅱ	4	149
		甕		69	9971
		壷		3	34
	瓦質土器	火鉢		12	420
	土師器	甕		3	44
	須恵器	坏？		1	6
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	8
	鉄製品	釘		17	120
		鉄滓		1	115
	骨製品	飾り具		1	1
	自然遺物	獣骨		1	
212	手づくねかわらけ	大		1	10
	ロクロかわらけ	大		1	8
	瓦質土器	火鉢		1	39
214	ロクロかわらけ	小		1	45
		大		8	93
	鉄製品	釘		1	4
	自然遺物	獣骨		1	
215	手づくねかわらけ	小		2	12
	ロクロかわらけ	小		2	13
		大		12	222
	高麗青磁	壷		1	56
	常滑	甕		1	59
	石製品	滑石鍋	西彼杵	1	50
		仕上げ砥	鳴滝	1	36
	自然遺物	獣骨		3	
216	ロクロかわらけ	小		4	43
		大		9	198
	白かわらけ	ロクロ		1	4
	青白磁			1	2
	龍泉窯系青磁	碗皿		1	1
	舶載施釉陶器	黄釉鉄絵盤		1	10
	常滑	片口鉢	Ⅰ	3	63
		甕		5	685
	渥美	甕		1	54
	瓦質土器	火鉢		1	70
	土師器	甕		1	9
217	ロクロかわらけ	大		2	26
	常滑	甕		2	81
218	ロクロかわらけ	小		1	15
		大		8	155
	かわらけ	小片		5	20
	白かわらけ	手づくね		1	5

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
218	瀬戸	洗		1	33
	常滑	甕		2	97
	鉄製品	釘		1	5
	自然遺物	獣骨		2	
219	ロクロかわらけ	小		12	101
		大		41	597
	かわらけ	小片		6	18
	白磁	碗	Ⅸ	1	21
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅱor Ⅲ	1	2
	瀬戸	入子		1	4
		壷瓶		2	176
	常滑	片口鉢	Ⅱ	3	381
		甕		14	791
		壷		1	47
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	79
				6	141
	瓦	平瓦	D	1	65
	自然遺物	獣骨		5	
220	手づくねかわらけ	小		1	25
	ロクロかわらけ	小		10	228
		大		24	324
	かわらけ	小片		15	84
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	38
		甕		17	524
	鉄製品	釘		7	39
	須恵器	蓋		1	6
	自然遺物	獣骨		1	
221	ロクロかわらけ	小		1	11
		大		12	327
	常滑	甕		1	514
222	ロクロかわらけ	小		1	45
		大		2	12
	かわらけ	小片		1	1
	常滑	甕		1	31
	鉄製品	釘		1	4
223	ロクロかわらけ	大		2	305
223a	ロクロかわらけ	大		5	54
	かわらけ	小片		1	1
	常滑	甕		1	36
	鉄製品	刀子？		1	10
	自然遺物	キサゴ		1	
223b	ロクロかわらけ	大		18	209
	かわらけ	小片		8	35
	白磁	碗		1	4
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	43
		甕		2	71
		壷		2	378
	鉄製品	釘		2	32
	自然遺物	獣骨		1	
224	手づくねかわらけ	大		1	6
	ロクロかわらけ	小		5	71
		大		10	185
	白磁	碗		1	3
	かわらけ	小片		3	13
	常滑	片口鉢	Ⅱ	3	100
		甕		4	156
	渥美	甕		1	73
	土師器	甕		1	11
	須恵器	坏		1	9
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	7
	鉄製品	釘		1	10
225	ロクロかわらけ	小		6	66
		大		22	341
	かわらけ	小片		11	43
	土器	吉備系碗		1	4

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
225	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	13
			Ⅱ	1	194
		甕		12	645
		壺		2	240
	瀬戸	壺瓶		1	8
	瓦質土器	火鉢		6	567
	瓦	平瓦	A	1	135
	土師器	坏		1	21
		甕		2	26
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	6
	鉄製品	釘		3	28
	自然遺物	獣骨		1	
Ⅰ区1面下②遺構					
235	ロクロかわらけ	大		21	198
	白磁	碗	Ⅸ	1	5
	常滑	甕		6	241
	鉄製品	釘		1	20
	自然遺物	獣骨		6	
237	ロクロかわらけ	大		6	53
	瀬戸	壺瓶		1	23
	常滑	甕		3	189
	瓦質土器	火鉢		1	55
	石製品	中砥	伊予	1	22
	鉄製品	釘		1	5
	自然遺物	獣骨		1	
238	ロクロかわらけ	大		3	21
	龍泉窯系青磁	碗皿		1	1
239	ロクロかわらけ	小		5	72
		大		16	135
	常滑	甕		4	86
	瓦	平瓦		1	31
	鉄製品	釘		5	32
	自然遺物	獣骨		3	
240	ロクロかわらけ	小		1	11
		大		15	232
	かわらけ	小片		2	7
	片口鉢	Ⅰ		1	7
	獣骨			1	
	鉄製品	釘		8	44
241 (321)	ロクロかわらけ	大		43	835
		小		15	152
	かわらけ	小片		24	66
	瀬戸	入子		1	8
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	4
		碗皿		1	1
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	5
	常滑	甕		8	301
	常滑	壺		1	30
	渥美	甕		1	39
	瓦質土器	火鉢		1	179
	石製品	中砥	伊予	1	15
	鉄製品	釘		2	12
	自然遺物	獣骨		4	
		アカニシ		1	
245	ロクロかわらけ	小		7	118
		大		34	360
	かわらけ	小片		2	10
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	10
		皿		1	2
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	30
			Ⅱ	3	985
	常滑	甕		8	277
	鉄製品	釘		6	58
	自然遺物	獣骨		2	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
248	手づくねかわらけ	小		1	7
	ロクロかわらけ	大		1	14
	かわらけ	小片		2	8
250ア	ロクロかわらけ	小		1	12
250ア		大		5	64
250エ	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	11
251	ロクロかわらけ	大		2	31
	土師器	壺		1	13
252	ロクロかわらけ	大		6	43
	常滑	甕		4	183
253	手づくねかわらけ	大		1	8
	ロクロかわらけ	小		104	1477
		大		332	8192
	かわらけ	転用円盤		1	3
		小片		104	315
	白磁	碗		1	6
		皿	Ⅸ	2	5
	青白磁	梅瓶		1	3
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	7
			ⅡorⅢ	2	38
			Ⅲ	1	6
		碗皿		2	2
		坏	Ⅲ	1	21
	瀬戸	入子		2	4
		卸皿		2	19
		折縁皿		2	159
		袴腰形香炉		1	29
		花瓶		1	86
		壺瓶		4	86
	常滑	片口鉢	Ⅰ	9	266
			Ⅱ	6	610
		甕		152	7740
		壺		9	403
	渥美	甕		3	166
	亀山	甕		1	22
	瓦質土器	火鉢		11	715
	瓦	平瓦	A	2	293
	土師器	坏		4	54
		甕		5	53
		壺		1	16
	須恵器	坏		6	94
		甕		1	32
	石製品	中砥	天草	2	261
		仕上げ砥	鳴滝	1	16
	銅製品	銭		1	3
	鉄製品	釘		35	354
	自然遺物	獣骨		14	
254	ロクロかわらけ	小		4	16
		大		11	102
	かわらけ	小片		16	53
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	33
		甕		10	575
	瓦質土器	火鉢		1	22
	鉄製品	釘		1	10
	自然遺物	獣骨		1	
255	ロクロかわらけ	小片		2	9
	青白磁	合子蓋		1	1
256	手づくねかわらけ	大		1	10
	ロクロかわらけ	大		2	26
	青白磁	皿		1	2
	常滑	甕		2	46
	渥美	甕		1	51
	土師器	甕		1	5
	鉄製品	釘		1	6
	自然遺物	獣骨		1	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
257	かわらけ	小片		1	3
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	17
		甕		1	85
	渥美	甕		1	33
	土師器	壺		1	9
258	ロクロかわらけ	小		3	62
		大		21	246
	かわらけ	小片		17	70
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	11
	瀬戸	壺瓶		1	6
	常滑	甕		3	146
259	ロクロかわらけ	小		7	75
		大		25	397
	かわらけ	小片		9	26
	瀬戸	蓋？		1	11
	常滑	甕		2	74
	石製品	硯		1	41
		硯材	赤間	1	41
	鉄製品	釘		1	13
	自然遺物	獣骨		1	
261	ロクロかわらけ	小片		1	4
	常滑	甕		3	
263	ロクロかわらけ	小		1	7
		大		7	56
	かわらけ	小片		8	34
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	5
	常滑	甕		7	309
264	手づくねかわらけ	大		1	7
	ロクロかわらけ	大		9	186
		小		2	18
		小片		3	16
	龍泉窯系青磁	皿	Ⅰ	1	3
	常滑	甕		1	24
265	手づくねかわらけ	大		1	13
	ロクロかわらけ	小		3	78
		大		22	323
	かわらけ	小片		4	18
	常滑	甕		1	35
	瓦	平瓦		1	97
266	手づくねかわらけ	小		1	3
	ロクロかわらけ	小		1	5
		大		8	64
	鉄製品	釘		2	16
267	手づくねかわらけ	大		1	9
	ロクロかわらけ	大		4	73
	かわらけ	小片		2	10
	常滑	甕		1	30
	鉄製品	釘		2	8
268	ロクロかわらけ	大		1	8
	鉄製品	釘		1	6
269	ロクロかわらけ	大		1	11
	鉄製品	釘		2	16
270	ロクロかわらけ	大		1	9
	かわらけ	小片		4	11
	土器	南伊勢系鍋		1	3
	鉄製品	釘		1	4
271	ロクロかわらけ	大		1	8
	常滑	甕		1	21
	土師器	坏		1	9
	鉄製品	釘		1	13
272	手づくねかわらけ	大		1	7
	ロクロかわらけ	小		1	51
		大		1	11
	かわらけ	小片		7	32
	常滑	甕		1	6

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
272	銅製品	分銅		1	18.5
	鉄製品	釘		1	6
273	ロクロかわらけ	小		3	34
		大		15	276
	かわらけ	小片		5	19
	常滑	甕		2	63
	瓦質土器	火鉢		1	70
	石製品	滑石片		1	11
	鉄製品	釘		2	17
274	ロクロかわらけ	小		2	12
		大		4	32
	鉄製品	釘		2	10
275	ロクロかわらけ	小		1	6
		大		11	98
	かわらけ	小片		7	14
276	手づくねかわらけ	大		1	8
	ロクロかわらけ	大		2	28
	かわらけ	小片		3	17
277	ロクロかわらけ	大		2	24
		小片		1	4
	自然遺物	獣骨		1	
278	ロクロかわらけ	大		1	8
	不明土器			1	3
279	ロクロかわらけ	大		1	3
	舶載施釉陶器	黄釉鉄絵盤		1	8
280	手づくねかわらけ	大		1	8
283	手づくねかわらけ	大		1	10
	ロクロかわらけ	大		1	3
284	ロクロかわらけ	大		2	12
	鉄製品	釘		1	3
285	ロクロかわらけ	大		1	4
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	39
286	ロクロかわらけ	小		5	28
		大		3	18
	常滑	甕		1	37
	土師器	甕		1	14
	鉄製品	釘		1	6
287	常滑	甕		2	106
		片口鉢	Ⅱ	1	36
	瓦質土器	火鉢		1	176
	鉄製品	釘		2	5
288	ロクロかわらけ	小		5	114
		大		12	195
	自然遺物	獣骨		1	
289	ロクロかわらけ	大		1	4
291	ロクロかわらけ	小		41	471
		大		74	1159
	かわらけ	小片		10	40
	白磁	皿	Ⅸ	1	2
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	6
	瀬戸	入子		1	18
	尾張型	山皿		1	5
	常滑	甕		10	660
	瓦質土器	火鉢		1	845
	石製品	滑石片		3	72
		中砥	上野	1	74
		仕上げ砥	鳴滝	1	15
	銅製品	銭		2	9
	鉄製品	釘		9	53
	自然遺物	獣骨		7	
295	常滑	甕		1	10
	鉄製品	釘		1	7
297	ロクロかわらけ	大		3	15
		小		1	6
	鉄製品	釘		1	8

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
315	鉄製品	釘		1	*10*
Ⅰ区2面遺構					
292	かわらけ	小片		3	*13*
	須恵器	甕		1	*8*
	自然遺物	獣骨		3	
294	ロクロかわらけ	大		1	*8*
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	*4*
298	ロクロかわらけ	小		5	*104*
		大		43	*522*
	かわらけ	小片		3	*6*
	白磁	皿	Ⅸ	1	*4*
	龍泉窯系青磁	折縁皿		1	*19*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*9*
			Ⅱ	1	*78*
		甕		6	*391*
	土師器	坏		4	*83*
		甕		3	*16*
299	常滑	甕		2	*77*
300	ロクロかわらけ	小		1	*11*
		大		2	*27*
	かわらけ	小片		2	*7*
301	手づくねかわらけ	小		1	*6*
	ロクロかわらけ	小		2	*56*
		大		3	*14*
	常滑	甕		1	*17*
	自然遺物	獣骨		2	
302	ロクロかわらけ	大		1	*6*
303	ロクロかわらけ	小		1	*22*
		大		1	*5*
304	手づくねかわらけ	小		1	*4*
	瓦質土器	火鉢		1	*45*
	土師器	甕		1	*9*
305	ロクロかわらけ	小		3	*176*
		大		23	*469*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	*62*
		甕		2	*75*
	土師器	壺		1	*165*
309	ロクロかわらけ	大		1	*11*
310	ロクロかわらけ	大		7	*59*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*7*
		甕		1	*18*
311	土師器	甕		1	*14*
317	ロクロかわらけ	大		1	*6*
	土師器	甕		1	*15*
318	ロクロかわらけ	小		1	*10*
		大		1	*7*
320		甕		1	*9*
321 (241)	手づくねかわらけ	大		1	*7*
	ロクロかわらけ	大		6	*79*
		小		2	*52*
	かわらけ	小片		6	*25*
	常滑	甕		8	*417*
	土師器	甕		1	*10*
	自然遺物	獣骨		1	
324	手づくねかわらけ	大		3	*26*
	ロクロかわらけ	小		5	*99*
		大		23	*660*
	かわらけ	小片		5	*16*
	瀬戸	壺瓶		1	*26*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	5	*123*
		甕		24	*1815*
	土師器	甕		1	*26*
	須恵器	坏		1	*3*
		甕		1	*41*
	鉄製品	刀子		1	*15*

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
324	鉄製品	釘		5	*51*
	骨製品	笄		1	
	自然遺物	獣骨	猫	1体分	
325	手づくねかわらけ	小		1	*20*
	ロクロかわらけ	小		4	*27*
		大		17	*228*
	かわらけ	小片		28	*139*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	3	*76*
		甕		16	*790*
		壺		1	*23*
	鉄製品	釘		5	*39*
	土師器	甕		2	*14*
	須恵器	壺		1	*12*
	石材	軽石		2	*5*
	自然遺物	獣骨		3	
327	ロクロかわらけ	大		4	*152*
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	*3*
	土師器	甕		1	*6*
	銅製品	銭		1	*4*
329	手づくねかわらけ	大		1	*6*
	ロクロかわらけ	小		1	*7*
	自然遺物	獣骨		1	
330	ロクロかわらけ	大		3	*59*
	常滑	甕		1	*11*
332	ロクロかわらけ	大		3	*38*
	土師器	壺		1	*4*
333	かわらけ	小片		1	*5*
334	かわらけ	小片		5	*24*
	土師器	甕		1	*12*
	鉄製品	釘		1	*8*
335	ロクロかわらけ	小		6	*118*
		大		19	*162*
	かわらけ	小片		16	*49*
	白磁	皿	Ⅸ	1	*5*
	土師器	坏		3	*15*
		甕		6	*67*
	自然遺物	ツメタガイ		1	
336	ロクロかわらけ	大		2	*8*
	かわらけ	小片		6	*13*
337	ロクロかわらけ	大		1	*9*
338	かわらけ	小片		2	*4*
	白磁	小片		1	*1*
339	ロクロかわらけ	大		1	*4*
	かわらけ	小片		4	*6*
	土器	南伊勢系鍋		1	*4*
	鉄製品	釘		3	*24*
340	手づくねかわらけ	小		1	*10*
	ロクロかわらけ	大		4	*42*
	常滑	甕		3	*128*
343	ロクロかわらけ	大		1	*5*
345	かわらけ	小片		5	*17*
346	ロクロかわらけ	大		3	*29*
	かわらけ	小片		4	*10*
	土師器	甕		1	*9*
347	手づくねかわらけ	大		1	*79*
348	ロクロかわらけ	小		1	*2*
	ロクロかわらけ	大		2	*17*
350	手づくねかわらけ	大		1	*5*
	かわらけ	小片		1	*3*
351	ロクロかわらけ	大		1	*5*
352	ロクロかわらけ	小		1	*5*
		大		1	*9*
	土師器	甕		1	*4*
353	自然遺物	獣骨		2	
354	ロクロかわらけ	大		2	*9*

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
355	かわらけ	小片		1	3
	土師器	甕		1	4
	自然遺物	獣骨		1	
357	手づくねかわらけ	大		1	6
	ロクロかわらけ	大		1	7
358	ロクロかわらけ	大		1	8
359	手づくねかわらけ	大		3	45
	ロクロかわらけ	大		5	131
	かわらけ	小片		6	23
	常滑	甕		10	433
	土師器	甕		2	9
	鉄製品	釘		1	2
		刀子		1	49
360	ロクロかわらけ	大		1	5
361	須恵器	坏		1	10
364	ロクロかわらけ	大		2	29
	常滑	甕		1	127
365	ロクロかわらけ	大		1	7
	銅製品	銭		1	3
366	ロクロかわらけ	大		1	154
367	手づくねかわらけ	小		1	11
		大		1	9
	かわらけ	小片		4	15
	土器	南伊勢系鍋		1	23
	土師器	甕		2	14
	鉄製品	釘		1	8
368	ロクロかわらけ	大		1	31
	常滑	片口鉢	I	1	5
369	土師器	甕		1	5
371	手づくねかわらけ	大		1	8
	土師器	甕		1	7
372	土師器	甕		1	8
373	手づくねかわらけ	大		1	9
	土師器	甕		2	16
	鉄製品	釘		1	7
374	ロクロかわらけ	小		1	3
		大		1	7
375	ロクロかわらけ	小		2	14
		大		1	7
	土師器	甕		1	5
377	ロクロかわらけ	大		2	19
	かわらけ	小片		1	2
	須恵器	壺		1	5
378	ロクロかわらけ	大		7	86
	かわらけ	小片		11	41
	常滑	甕		2	65
	土師器？	坏？		1	3
	鉄製品	釘		1	14
	自然遺物	獣骨		1体	
379	ロクロかわらけ	小		1	17
		大		10	74
	常滑	甕		2	52
	瓦質土器	火鉢		1	7
	土師器	台付甕		1	76
380	白磁	小片		1	1
	土師器	甕		5	24
381	ロクロかわらけ	大		1	11
	土師器	坏		1	5
383	ロクロかわらけ	大		2	10
	かわらけ	小片		1	2
	土師器	甕		2	11
384	かわらけ	小片		2	5
386	ロクロかわらけ	小		2	13
		大		18	246
	かわらけ	小片		10	46

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
386	常滑	甕		6	172
	渥美	甕		1	30
	土師器	甕		1	9
	須恵器	甕		1	47
	自然遺物	獣骨		6	
		サザエ蓋		1	
387	手づくねかわらけ	大		1	10
	ロクロかわらけ	大		10	203
		小		5	75
	かわらけ	小片		16	57
	常滑	片口鉢	I	2	86
		甕		1	23
	自然遺物	獣骨		3	
389	鉄製品	釘		1	7
390	ロクロかわらけ	大		1	19
392	ロクロかわらけ	大		1	9
I区2面下遺構					
376	手づくねかわらけ	大		3	36
	ロクロかわらけ	小		1	7
		大		11	216
	常滑	甕		12	850
	かわらけ	小片		4	13
	土師器	甕		1	9
	銅製品	銭		1	4
	鉄製品	釘		3	12
396	ロクロかわらけ	小		1	7
	土師器	甕		3	12
398	常滑	壺		1	25
403	土師器	甕		1	4
405	土師器	坏		1	10
		甕		1	6
407	渥美	壺		1	40
409	かわらけ	小片		3	13
411	土師器	甕		1	116
413	土師器	甕		1	9
416	手づくねかわらけ	小		1	7
417	かわらけ	小片		1	6
	土師器	坏		1	6
		高坏		1	19
418	土師器	甕		3	10
422	かわらけ	小片		2	9
	土師器	坏		1	2
		甕		3	12
429	土師器	甕		2	15
430	かわらけ	小片		1	3
	土師器	坏		1	4
		甕		1	14
	須恵器	甕		1	5
431	手づくねかわらけ	大		1	11
	ロクロかわらけ	大		1	7
	かわらけ	小片		1	7
	土師器	壺		1	6
432	土師器	坏		2	7
		甕		2	5
433	土師器	甕		5	18
434	土師器	坏		2	9
		甕		1	2
435	手づくねかわらけ	大		1	19
	かわらけ	小片		2	8
436	ロクロかわらけ	大		1	12
437	ロクロかわらけ	小片		1	3
438	ロクロかわらけ	小		1	34
440	ロクロかわらけ	大		1	28
441	土師器	甕		1	10
442	土師器	高坏		1	21

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
443	手づくねかわらけ	大		1	15
	かわらけ	小片		1	2
	土師器	甕		1	12
445	土師器	坏		1	2
		甕		1	9
	軽石			1	24
446	土師器	甕		2	8
Ⅱ区1面下遺構					
447	ロクロかわらけ	小		18	301
		大		129	2008
	かわらけ	小片		24	73
	白かわらけ	ロクロ		1	2
	白磁	皿	Ⅸ	1	3
	青白磁	梅瓶		1	6
	同安窯系青磁	皿		1	2
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	29
			ⅡorⅢ	1	13
	瀬戸	平碗？		1	17
		折縁皿		1	23
	常滑	片口鉢	Ⅰ	3	50
			Ⅱ	6	366
		甕		48	6573
		壺		1	63
	渥美	甕		1	52
	備前	すり鉢		1	54
	東播	鉢		1	38
	瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	50
				2	80
	自然遺物	獣骨		2	
447 西側	ロクロかわらけ	小		5	32
		大		22	420
	かわらけ	小片		6	20
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	17
	常滑	甕		9	188
	備前	すり鉢		1	80
	建築材	漆喰		1	31
	鉄製品	釘		1	11
	自然遺物	獣骨		1	
448	瀬戸	碗		1	6
		壺瓶		1	22
	常滑	片口鉢	Ⅱ	5	473
		甕		85	10060
		転用砥磨具		1	54
	瓦器	坏		1	5
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	2	190
			Ⅳ	1	39
				5	169
	備前	すり鉢		3	180
	東播	鉢		1	365
	鉄製品	釘		1	3
	自然遺物	獣骨		4	
449	ロクロかわらけ	大		27	359
		小		3	56
	かわらけ	小片		1	3
	龍泉窯系青磁	天目茶碗?		1	59
		碗	ⅡorⅢ	1	5
	瀬戸	卸皿		1	29
		折縁皿		1	29
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	87
			Ⅱ	5	479
		甕		212	37790
	渥美	甕		2	82
	備前	すり鉢		1	109
	瓦質土器	火鉢	Ⅲ	4	233
	瓦	平瓦	D	1	96

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
449	鉄製品	釘		2	11
	自然遺物	獣骨		3	
450	常滑	甕		1	28
451	ロクロかわらけ	小		3	6
		大		8	104
	かわらけ	小片		3	6
	尾張型	山茶碗		1	3
	常滑	甕		1	97
452	ロクロかわらけ	小		1	2
		大		2	25
	鉄製品	釘		1	2
453	ロクロかわらけ	小		5	22
		大		14	178
	かわらけ	小片		5	19
	常滑	甕		3	109
	瓦質土器	火鉢		1	11
	鉄製品	釘		2	8
	自然遺物	アカニシ		1	
454	ロクロかわらけ	小		5	17
		大		12	218
	かわらけ	小片		10	33
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	9
		甕		6	164
	瓦質土器	火鉢		1	14
	自然遺物	獣骨		2	
455	ロクロかわらけ	小		2	16
		大		18	334
	常滑	甕		4	78
	鉄製品	釘		11	80
	自然遺物	獣骨		2	
456	ロクロかわらけ	大		7	84
	かわらけ	小片		2	5
	鉄製品	釘		1	5
	自然遺物	獣骨		1	
457	ロクロかわらけ	小		2	3
		大		6	36
	かわらけ	小片		2	4
458	ロクロかわらけ	小		7	63
		大		24	169
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	19
	常滑	甕		2	33
	渥美	甕		1	21
	瓦質土器	火鉢		2	9
	自然遺物	獣骨		3	
459	ロクロかわらけ	小		2	64
		大		11	122
	かわらけ	小片		5	14
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	7
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	20
			Ⅱ	1	44
		甕		3	255
	土製品	鞴羽口		1	42
	土師器	甕		1	12
	鉄製品	釘		2	24
	自然遺物	獣骨		5	
460	ロクロかわらけ	小		12	83
		大		35	303
	かわらけ	小片		16	55
	龍泉窯系青磁	碗皿		1	12
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	41
			Ⅱ	1	59
		甕		9	506
	瓦質土器	火鉢		3	68
	磁器	不明		1	12
	鉄製品	釘		3	30

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
460	鉄製品	鉄滓		1	*34*
	自然遺物	獣骨		2	
461	ロクロかわらけ	小		2	*15*
		大		1	*9*
	常滑	甕		1	*30*
462	ロクロかわらけ	小		2	*19*
		大		1	*9*
463	ロクロかわらけ	小		1	*2*
		大		9	*74*
	鉄製品	釘		1	*9*
	自然遺物	獣骨		1	
464	ロクロかわらけ	大		1	*7*
	土師器	甕		1	*4*
465 470	ロクロかわらけ	小		4	*45*
		大		36	*327*
	白かわらけ	ロクロ		1	*3*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*351*
		甕		5	*174*
	石材	軽石		1	*13*
	石製品	滑石片		1	*16*
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	*113*
				1	*61*
	鉄製品	釘		5	*32*
	自然遺物	獣骨		1	
466	ロクロかわらけ	小		17	*136*
		大		116	*934*
	かわらけ	小片		17	*49*
	白かわらけ			1	*4*
	白磁（新）	皿		1	*5*
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	*4*
		坏	Ⅲ	1	*5*
	瀬戸	卸皿		1	*7*
		折縁皿		2	*82*
	尾張型	山茶碗		1	*30*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*15*
			Ⅱ	2	*144*
		甕		25	*1016*
		壺		3	*116*
	土師器	坏		1	*9*
	瓦質土器	火鉢		4	*142*
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	*1*
				1	*9*
		砥材 16c後半	鳴滝	1	*51*
	鉄製品	釘		3	*22*
	自然遺物	獣骨		8	
467	ロクロかわらけ	小		4	*69*
		大		18	*183*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*11*
		甕		5	*101*
	銅製品	銭		1	*3*
	鉄製品	釘		1	*9*
	石製品	滑石片		1	*6*
468	ロクロかわらけ	小		4	*17*
		大		12	*71*
	常滑	甕		2	*382*
	鉄製品	釘		1	*6*
	自然遺物	獣骨		1	
469	ロクロかわらけ	小		2	*8*
		大		10	*64*
	常滑	甕		1	*96*
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	*102*
470？	ロクロかわらけ	小		2	*12*
		大		19	*221*

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
470？	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*32*
		片口鉢	Ⅱ	3	*192*
	常滑	甕		10	*267*
	瓦質土器	火鉢		1	*67*
	鉄製品	釘		2	*10*
	自然遺物	獣骨		1	
Ⅱ区1面下②遺構					
471	ロクロかわらけ	大		4	*33*
	鉄製品	釘		1	*7*
472	ロクロかわらけ	大		2	*9*
	かわらけ	小片		2	*2*
474 上層	ロクロかわらけ	小		22	*212*
		大		46	*456*
	かわらけ	小片		34	*152*
	白磁	皿	Ⅸ	1	*8*
	瀬戸	入子		1	*10*
		卸皿		1	*4*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	3	*48*
			Ⅱ	2	*80*
		甕		19	*675*
	瓦質土器	火鉢		2	*145*
	鉄製品	釘		6	*87*
	自然遺物	獣骨		1	
474 下層	ロクロかわらけ	小		22	*214*
		大		80	*1015*
	かわらけ	小片		60	*310*
	白磁	皿	Ⅸ	1	*29*
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	2	*5*
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	*12*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	5	*206*
			Ⅱ	6	*352*
		甕		29	*1220*
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	*297*
				12	*650*
	土師器	甕		6	*59*
	鉄製品	釘		14	*89*
	自然遺物	獣骨		1	
		サザエ蓋		1	
		ハマグリ		1	
475	ロクロかわらけ	小		5	*39*
		大		19	*172*
	龍泉窯系青磁	折縁皿		1	*10*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*6*
		甕		2	*93*
	瓦質土器	火鉢		1	*21*
	鉄製品	釘		3	*15*
476	ロクロかわらけ	小		2	*9*
		大		2	*8*
	常滑	甕		2	*129*
	鉄製品	釘		1	*6*
477	ロクロかわらけ	小		16	*269*
		大		44	*544*
	かわらけ	小片		11	*31*
	白磁	碗皿		1	*1*
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	*3*
	瀬戸	卸皿		1	*8*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*25*
		甕		11	*481*
	瓦質土器	火鉢		2	*213*
	土師器	甕		1	*7*
	須恵器	甕		1	*4*
	鉄製品	釘		9	*49*
	自然遺物	獣骨		3	
		アカニシ		2	
		カキ		1	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量(g)*
477	自然遺物	ハマグリ		1	
		ツメタガイ		1	
484	ロクロかわらけ	大		1	*8*
	鉄製品	釘		2	*13*
485	手づくねかわらけ	小		1	*5*
	常滑	甕		2	*41*
488	ロクロかわらけ	小		1	*2*
		大		3	*15*
	瓦質土器	火鉢		1	*157*
	鉄製品	釘		2	*22*
489	ロクロかわらけ	小		5	*25*
		大		30	*283*
	須恵器	甕		1	*36*
	土師器	坏		1	*2*
	自然遺物	獣骨		4	
492	ロクロかわらけ	大		7	*159*
	常滑	甕		1	*42*
	鉄製品	釘		3	*17*
493	ロクロかわらけ	小		10	*105*
		大		96	*1380*
	かわらけ	小片		9	*28*
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	*3*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*14*
		甕		11	*825*
	渥美	甕		1	*10*
	土師器	坏		1	*10*
	瀬戸	卸皿		1	*17*
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	*18*
	鉄製品	釘		2	*7*
		板状製品		1	*20*
	自然遺物	獣骨		3	
498 537	ロクロかわらけ	大		6	*64*
	かわらけ	小片		4	*25*
	白磁	碗	Ⅸ	1	*6*
	瀬戸	折縁皿		1	*43*
	尾張型	山茶碗		1	*6*
	常滑	甕		2	*69*
	土師器	甕		2	*10*
	自然遺物	アカニシ		1	
		アワビ		1	
499	ロクロかわらけ	小		1	*4*
		大		14	*106*
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	*2*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	*21*
		甕		3	*63*
		壺		1	*14*
	尾張系	山茶碗		1	*5*
	土師器	甕		3	*34*
	自然遺物	獣骨		1	
500	ロクロかわらけ	大		1	*10*
501	ロクロかわらけ	小		1	*2*
		大		4	*55*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	*36*
	土師器	甕			*16*
502	ロクロかわらけ	小		1	*4*
		大		1	*24*
	常滑	甕		2	*57*
503	ロクロかわらけ	小		1	*9*
		大		8	*113*
	かわらけ	小片		6	*13*
504	ロクロかわらけ	大		2	*11*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*10*
		甕		1	*49*
	鉄製品	釘		1	*4*
505	ロクロかわらけ	小		3	*17*

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量(g)*
505	ロクロかわらけ	大		11	*68*
	かわらけ	小片		1	*5*
	常滑	甕		2	*44*
506	手づくねかわらけ	大		1	*8*
	ロクロかわらけ	小		3	*19*
	白磁	皿	Ⅸ	1	*14*
	鉄製品	釘		2	*5*
507	ロクロかわらけ	大		2	*15*
	かわらけ	小片		5	*15*
	土師器	甕		1	*14*
508	ロクロかわらけ	小		20	*215*
		大		159	*1935*
	かわらけ	小片		20	*168*
	青白磁	皿		1	*1*
	瀬戸	折縁中皿		2	*177*
		卸皿		1	*26*
		壺瓶		2	*88*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*43*
			Ⅱ	3	*278*
		甕		53	*3410*
	瓦質土器	火鉢	Ⅲ	11	*990*
		香炉		1	*8*
	土師器	甕		4	*144*
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	2	*7*
				1	*38*
		滑石片		1	*104*
	鉄製品	釘		8	*92*
	自然遺物	獣骨		1	
512	ロクロかわらけ	大		1	*14*
517	ロクロかわらけ	小		4	*79*
		大		7	*57*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	*27*
		甕		1	*39*
	瓦質土器	火鉢		1	*36*
	土師器	甕		1	*16*
519	常滑	甕		1	*113*
	土師器	壺		1	*7*
520	ロクロかわらけ	大		1	*9*
	土師器	甕		1	*12*
523	ロクロかわらけ	小		1	*6*
		大		2	*49*
524	ロクロかわらけ	小		—	*6*
		大		2	*28*
525	土師器	甕		2	*10*
526	ロクロかわらけ	大		1	*8*
527	ロクロかわらけ	大		1	*10*
528	ロクロかわらけ	大		2	*6*
529	ロクロかわらけ	小		1	*2*
		大		1	*4*
		—		3	*30*
	かわらけ	小片		3	*8*
	常滑	甕		2	*134*
	土師器	甕		4	*56*
		壺		1	*5*
	自然遺物	獣骨		1	
531	ロクロかわらけ	大		2	*15*
	常滑	甕		1	*73*
	鉄製品	釘		1	*5*
532	ロクロかわらけ	大		1	*8*
533	手づくねかわらけ	小		1	*5*
	ロクロかわらけ	小		4	*83*
		大		5	*44*
	かわらけ	小片		6	*25*
	白磁	碗皿		1	*1*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	*66*

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
533	常滑	甕		1	20
	鉄製品	釘		1	4
534	手づくねかわらけ	大		1	23
	ロクロかわらけ	小		12	77
		大		27	385
	かわらけ	小片		32	142
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	20
	尾張型	山茶碗		1	6
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	11
			Ⅱ	2	125
		甕		6	186
Ⅱ区2面遺構					
513	ロクロかわらけ	小		1	8
		大		4	59
	かわらけ	小片		8	23
	土師器	甕		1	6
514	手づくねかわらけ	小		1	7
	ロクロかわらけ	小		37	517
		大		111	1147
	かわらけ	小片		82	325
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	16
	瀬戸	洗		1	26
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	74
			Ⅱ	1	60
		甕		27	1102
	渥美	甕		1	50
	土師器	甕		7	202
		壺		3	25
	須恵器	甕		2	40
	石製品	紡錘車		1	63
	鉄製品	刀子		1	22
		釘		5	73
	自然遺物	獣骨		2	
		アカニシ		2	
		アワビ		1	
		バイガイ		1	
		ハマグリ		2	
		ツメタガイ		1	
514 床下	ロクロかわらけ	小		2	10
		大		2	66
	土師器	坏		2	37
		甕		3	69
515	手づくねかわらけ	小		1	5
		大		2	26
	ロクロかわらけ	小		5	72
		大		23	174
		小片		1	1
	常滑	甕		1	26
	渥美	甕		1	35
	鉄製品	釘		1	5
516 542	ロクロかわらけ	小		6	90
		大		31	368
	かわらけ	小片		5	22
	白磁	碗皿		1	2
	青白磁	水注？		1	5
	瀬戸	卸皿		1	25
	常滑	甕		13	451
	瓦質土器	火鉢		1	99
	土師器	坏		1	11
		甕		1	7
	須恵器	甕		1	7
	鉄製品	釘		1	9
	自然遺物	獣骨		2	
516-P1	ロクロかわらけ	小		1	26
		大		1	6

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
516-P1	常滑	甕		1	13
518	ロクロかわらけ	小		1	6
		大		8	56
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	21
		甕		2	30
		壺		1	29
	土師器	坏		1	2
		甕		1	14
535	ロクロかわらけ	大		6	47
	常滑	甕		1	57
	自然遺物	獣骨		1	
536	ロクロかわらけ	小		25	295
		大		82	855
	かわらけ	小片		24	66
	龍泉窯系青磁	碗	ⅠorⅡ	1	8
	常滑	片口鉢	Ⅰ	5	167
		甕		34	3437
		壺		2	650
	瓦質土器	火鉢		1	43
	土師器	甕		1	4
	石材	石英		1	11
		軽石		1	11
	鉄製品	釘		7	49
		板状製品		1	11
	自然遺物	獣骨		2	
		アカニシ		1	
538	ロクロかわらけ	大		6	100
	常滑	甕		1	20
	鉄製品	釘		2	9
539	ロクロかわらけ	小		1	4
540	ロクロかわらけ	内折れ		1	15
		小		2	25
		大		4	22
	常滑	甕		2	34
	鉄製品	釘		1	
541	手づくねかわらけ	小		3	38
		大		4	54
	ロクロかわらけ	小		92	1799
		大		424	4330
	かわらけ	小片		70	261
	白磁	碗		1	4
		皿	Ⅸ	2	12
	瀬戸	水滴？		1	4
	尾張型	山茶碗		1	4
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	28
			Ⅱ	2	93
		甕		50	2676
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	445
				3	112
	瓦	平瓦	A	2	291
	土師器	坏		1	14
		甕		8	84
	須恵器	坏		1	10
		蓋		1	4
	石製品	硯	赤間	1	62
		硯	鳴滝	1	23
		仕上げ砥	鳴滝	1	9
	石材	軽石		1	23
	銅製品	銭		1	4
	鉄製品	板状製品		1	120
		釘		29	162
	自然遺物	獣骨		24	
		アカニシ		4	
		キサゴ		7	
		サザエ		2	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
541	自然遺物	ハマグリ		1	
541 -P2	ロクロかわらけ	小		2	9
		大		2	22
	龍泉窯系青磁	皿		1	—
	不明土器	甕		2	14
541 543	ロクロかわらけ	小		5	49
		大		28	431
	かわらけ	小片		6	22
	白磁	皿	Ⅸ	1	5
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	13
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	6
	常滑	片口鉢	Ⅰ	4	406
			Ⅱ	2	81
		甕		5	188
	瓦質土器	火鉢		1	18
	土師器	甕		1	12
	鉄製品	釘		3	15
	自然遺物	獣骨		3	
		アカニシ		1	
543	ロクロかわらけ	小		8	77
		大		56	576
	かわらけ	小片		9	26
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	8
		甕		7	270
	瓦質土器	火鉢		2	33
	渥美	甕		1	26
	土師器	甕		2	16
	須恵器	甕		1	10
	自然遺物	獣骨		2	
544	ロクロかわらけ	大		3	146
	かわらけ	小片		5	21
	瓦	丸瓦	A	1	300
		平瓦	A	6	1020
	土師器	甕		2	19
		壺		1	49
	自然遺物	ツメタガイ		1	
545	ロクロかわらけ	大		2	6
546	石材	軽石		1	12
	自然遺物	獣骨		1	
547	ロクロかわらけ	大		4	20
549	ロクロかわらけ	大		1	12
550	ロクロかわらけ	小		5	16
		大		8	68
	白かわらけ			1	1
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	8
	土師器	甕		6	56
	石材	石英		1	2
	鉄製品	釘		1	5
	自然遺物	アワビ		1	
		キサゴ		6	
		ハマグリ		3	
551 553	手づくねかわらけ	大		1	9
	ロクロかわらけ	小		8	154
		大		33	495
	かわらけ	小片		23	62
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	3
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	61
		甕		4	93
	自然遺物	ハマグリ		2	
552	ロクロかわらけ	小		1	41
		大		6	384
	かわらけ	小片		9	18
556	ロクロかわらけ	大		2	19
	かわらけ	小片		3	6
557	手づくねかわらけ	大		1	4

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
560	ロクロかわらけ	小		3	33
		大		11	77
	土師器	甕		4	34
	常滑	甕		1	52
	鉄製品	釘		1	11
	自然遺物	獣骨		1	
		キサゴ		—	
		サザエ		1	
		ハマグリ		1	
561	ロクロかわらけ	小		1	2
		大		1	5
	白磁	碗		1	4
	鉄製品	釘		1	8
	自然遺物	獣骨		1	
564	ロクロかわらけ	大		1	4
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	31
	土師器	甕		3	27
	自然遺物	獣骨		1	
565	ロクロかわらけ	小		1	5
	土師器	甕		1	4
584	ロクロかわらけ	小		2	6
		大		11	131
	土師器	甕		3	79
		壺		1	18
	鉄製品	釘		1	4
	自然遺物	獣骨		1	
		サザエ		1	
		バイガイ		1	
585	手づくねかわらけ	小		1	3
	ロクロかわらけ	小		1	17
Ⅱ区2面下遺構					
555	ロクロかわらけ	小		2	7
		大		5	21
558	ロクロかわらけ	大		1	9
	かわらけ	小片		3	5
559	ロクロかわらけ	小		3	9
		大		22	154
	かわらけ	小片		7	21
563	ロクロかわらけ	大		4	39
	かわらけ	小片		4	9
	瀬戸	壺瓶		1	43
567	土師器	坏		4	36
	土器	不明		1	7
	瓦	平瓦？		1	3
	自然遺物	獣骨		1	
569	ロクロかわらけ	小		1	2
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	287
571	ロクロかわらけ	小		2	16
		小片		2	3
	常滑	甕		1	22
	土師器	壺		1	6
	自然遺物	ネズミ骨？		1	
572	手づくねかわらけ	小		1	8
	ロクロかわらけ	小		1	3
		大		10	81
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	2	3
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	61
	土師器	坏		1	5
	鉄製品	釘		1	14
	自然遺物	獣骨		1	
574	ロクロかわらけ	大		1	11
575	ロクロかわらけ	小		1	2
		大		3	27
	鉄製品	釘		2	11
	自然遺物	ハマグリ		2	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
577	手づくねかわらけ	小		1	5
	土師器	甕		8	34
	自然遺物	獣骨		3	
		アカニシ		2	
		キサゴ		7	
579	土師器	甕		2	57
580	土師器	坏		1	4
		甕		3	25
		壺		1	12
582	手づくねかわらけ	大		1	8
	ロクロかわらけ	大		1	14
	土師器	甕		2	23
	かわらけ	小片		1	3
588A	かわらけ	小片		2	6
	土師器	坏		4	15
		甕		6	60
588B	土師器	坏		1	2
	石材	軽石		1	3
588C	土師器	坏		1	3
		甕		10	96
		壺		4	17
	石材	軽石		2	15
	自然遺物	獣骨		1	
Ⅱ区3面遺構					
573	手づくねかわらけ	大		81	1171
	ロクロかわらけ	小		12	174
		大		34	356
	かわらけ	小片		76	270
	龍泉窯系青磁	碗	I	1	7
		皿	I	1	71
		碗皿		2	10
	舶載施釉陶器	黄釉盤		3	188
	常滑	片口鉢	I	2	45
		甕		3	91
		転用研磨具		1	32
	渥美	甕		8	1685
	瓦	丸瓦	A	7	2050
		平瓦	A	167	50413
				1	60
	土師器	坏		6	53
		高坏		1	15
		甕		82	987
		壺		7	198
		小片		35	109
	須恵器	坏		1	8
		甕		1	4
	石製品	硯	鳴滝	1	76
	石材	軽石		13	221
	鉄製品	刀子？		2	72
		釘		1	68
		不明		1	13
	鹿角	刀子柄？		1	47
	自然遺物	人骨		2	
		獣骨		47	
		アカニシ		4	
		イタヤガイ		1	
		イボキサゴ		1	
		キサゴ		1	
		サザエ蓋		2	
		ダンベイキサゴ		36	
		チョウセンハマグリ		3	
		ツメタガイ		1	
		ハマグリ		10	

遺構	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
		レイシガイ		1	
Ⅱ区3面下遺構					
578	手づくねかわらけ	大		1	15
	ロクロかわらけ	小		2	35
		大		4	50
	かわらけ	小片		5	20
	舶載施釉陶器	黄釉盤		1	5
	常滑	甕		1	36
	土師器	甕		5	36
		壺		3	28
	須恵器	甕		1	30
		壺		1	23
	石材	軽石		1	22
	自然遺物	人骨		2	
		キサゴ		1	
578 西側 上層	手づくねかわらけ	小		1	2
	ロクロかわらけ	小		1	2
		大		1	9
	かわらけ	小片		3	7
	同安窯系青磁	碗	I	1	13
	土師器	坏		15	157
		甕		145	1947
		壺		10	135
		小片		32	96
	須恵器	甕		5	119
	石製品？	磨石？		1	860
	石材	軽石		7	176
	自然遺物	獣骨		4	
		アカニシ		1	
		キサゴ		10	
		バイガイ		2	
578 東側 下層	土師器	甕		10	77
		壺		2	20
		小片		7	18
	須恵器	甕		1	24
	石製品？	磨石？		1	126
	石材	軽石		3	12
	自然遺物	獣骨		13	
		ハマグリ		1	
578 西側 個別	須恵器	坏身		4	89
578 北東 下層	ロクロかわらけ	大		1	12
	土師器	甕		1	5
	石材	軽石		1	1
	自然遺物	魚骨	エラ	1束	
		不明貝殻		1	
578 南東 下層	土師器	坏		1	4
		甕		14	94
	須恵器	蓋		1	3
	自然遺物	獣骨		8	
		キサゴ		1	
		ハマグリ		2	

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅰ区 掘り下げ時					
表土掘削（0層）	ロクロかわらけ	小		3	65
		大		30	470
	白磁	皿	Ⅸ	1	5
	瀬戸	卸皿		1	44
		壷瓶		1	52
	常滑	片口鉢	Ⅱ	4	275
		甕		31	1785
	瓦質土器	火鉢		1	47
	石製品	滑石片		1	80
	石材	片岩		1	23
1面まで（Ⅰ層）	ロクロかわらけ	小		39	425
		大		134	2085
	かわらけ	小片		110	422
	かわらけ質	鉢		1	16
	白磁	碗		1	15
		皿	Ⅸ	1	5
				1	1
	青白磁	梅瓶		1	4
	瀬戸	入子		1	4
	舶載施釉陶器	褐釉壷		1	5
	瀬戸	卸皿		3	163
		折縁皿		2	24
		壷瓶		1	8
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	89
			Ⅱ	5	448
		甕		133	12450
		壷		1	26
		不明		1	12
	備前	すり鉢		1	47
	東播	鉢		1	53
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	1	209
				9	518
	瓦	桟瓦		1	257
	土器	不明		1	1
	肥前系磁器	染付碗		1	7
	石製品	滑石片		1	15
		仕上げ砥	鳴滝	2	71
		碁石		1	2
	銅製品	銭		1	3
	鉄製品	釘		5	22
	自然遺物	獣骨		2	
1面下（Ⅱ層）	手づくねかわらけ	小		2	14
		大		6	96
	ロクロかわらけ	内折れ極小		1	8
		小		234	3286
		大		1352	18864
	かわらけ	小片		419	1801
	かわらけ質	大鉢		1	19
	白かわらけ	手づくね		1	2
				8	23
	土器	南伊勢系鍋		1	18
	青白磁	合子		3	12
		皿		3	4
		梅瓶		6	24
	白磁	碗		1	1
		皿	Ⅸ	10	30
				2	5
	青白磁	梅瓶		1	2
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	3	23
			ⅡorⅢ	7	44
			Ⅲ	1	14
				4	11
		皿		1	6
		坏	Ⅲ	3	17

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
1面下（Ⅱ層）	舶載施釉陶器	黄釉鉄絵盤		2	117
		褐釉壷		2	42
	瀬戸	入子		5	22
		卸皿		14	308
	瀬戸	折縁皿		10	186
		筒型香炉		2	97
		壷瓶		7	309
		不明		1	5
	常滑	片口鉢	Ⅰ	43	1941
			Ⅱ	24	2088
		甕		545	33437
		壷		14	600
	渥美	甕		2	42
	東濃型	山茶碗		1	4
		山皿		2	20
	備前	すり鉢		2	178
	東播	鉢		1	46
		甕		1	24
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	7	572
			Ⅲ	5	340
			Ⅳ	1	91
				44	1810
	瓦	平瓦	A	1	87
			D	1	72
	土師器	坏		6	66
		甕		8	78
		壷		1	11
	須恵器	坏		1	6
	土製品	円盤		2	28
	石製品	滑石鍋	西彼杵	2	336
			福岡	2	109
		硯	鳴滝	1	188
		荒砥	天草	1	705
		中砥	天草	6	606
			上野	1	132
		仕上げ砥	鳴滝	1	—
				16	123
		片岩温石		1	145
		石臼下石		1	8300
		—		1	46
	石材	軽石		1	21
	銅製品	銭		8	28
	鉄製品	鎌		2	32
		釘		88	677
		鉄滓		1	11
	自然遺物	獣骨		32	
		アカニシ		1	
1面下②（Ⅱ～Ⅲ層）	手づくねかわらけ	大		1	21
	ロクロかわらけ	小		63	742
		大		111	2980
	かわらけ	小片		60	320
	白磁	碗		1	6
		合子		1	19
	青白磁	梅瓶		1	3
	同安窯系青磁	碗		1	2
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	12
			Ⅱ	1	3
			Ⅲ	1	8
	尾張型	山茶碗		3	182
	瀬戸	入子		1	4
		卸皿		1	34
		折縁深皿		1	183
	常滑	片口鉢	Ⅱ	3	282
		甕		46	2082
		壷		2	63

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
1面下② （Ⅱ～Ⅲ層）	陶器	不明		1	6
	瓦質土器	火鉢	A	1	35
				1	29
	土師器	甕		1	7
	埴輪	円筒埴輪		1	86
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	20
	銅製品	銭		1	3
	鉄製品	刀子		1	53
	鉄製品	板状製品		1	4
		釘		7	52
		鉄片		22	154
	骨製品	鞍？		1	
	自然遺物	獣骨		8	
2面下（Ⅲ層）	手づくねかわらけ	小		1	4
		大		7	139
	ロクロかわらけ	小		78	952
		大		171	3741
	かわらけ	小片		212	1007
	かわらけ質	鉢		1	41
	白かわらけ			1	2
	土器	鍔付鍋		1	14
2面下（Ⅲ層）	白磁	皿	Ⅸ	4	59
		小片		2	2
	青白磁	皿		1	2
		梅瓶		2	18
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	3	30
			ⅠorⅡ	1	24
			ⅡorⅢ	4	31
		坏	Ⅲ	3	56
	舶載施釉陶器	黄釉盤		2	31
	瀬戸	卸皿		1	418
		折縁皿		1	25
		花瓶		1	65
		壺瓶		5	84
	尾張型	山茶碗		1	11
	常滑	片口鉢	Ⅰ	14	469
			Ⅱ	7	505
		甕		125	6345
		壺		1	24
	渥美湖西型	山茶碗		1	20
	渥美	甕		2	45
	瓦器	碗（坏）		1	3
	瓦質土器	火鉢		8	258
	瓦	平瓦	A	1	36
	陶器（新）	壺		1	6
	石製品	硯	赤間	1	34
			鳴滝	1	48
		中砥	天草	1	50
		仕上げ砥	鳴滝	2	30
				1	17
		石英火打石		1	61
	銅製品	銭		7	24
	鉄製品	鎌		1	151
		刀子		1	27
		釘		70	529
	土師器	坏		1	11
		器台		1	72
		甕		11	207
		壺		6	53
	自然遺物	獣骨		17	
		アカニシ		2	
		キサゴ		1	
		ハマグリ		1	

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2面下② （Ⅲ層下部）	手づくねかわらけ	小		1	7
		大		2	36
	ロクロかわらけ	小		16	202
		大		49	509
	かわらけ・土師器	小片		64	205
	常滑	甕		2	71
	渥美	甕		1	10
	須恵器	甕		2	15
	土製品	円盤		1	6
	鉄製品	釘		1	8
	自然遺物	獣骨		7	
		アカニシ		2	
2面下（側溝）（Ⅲ～Ⅳ層）	手づくねかわらけ	小		12	66
	ロクロかわらけ	小		3	14
		大		43	755
	かわらけ	小片		48	209
	白磁	碗	Ⅸ	1	11
			Ⅹ	1	3
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	7
	瀬戸	卸皿		1	33
	常滑	片口鉢	Ⅰ	2	98
		甕		19	920
	瓦質土器	火鉢		6	294
	堺	すり鉢		1	34
	石製品	硯石	赤間	1	33
	鉄製品	鉄滓		1	25
		釘		1	5
	自然遺物	獣骨		1	
3面～3面下（Ⅲ層下部～Ⅴ層）	手づくねかわらけ	大		19	261
	ロクロかわらけ	小		3	15
		大		22	264
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	4
	かわらけ・土師器	小片		76	317
	瀬戸	入子		1	1
	常滑	甕		2	40
	渥美	甕		3	354
	白磁	碗皿		1	1
	土師器	坏		28	245
		鉢		2	95
		甕		73	1060
		壺		10	84
	ロクロ土師器	坏		1	21
	須恵器	坏		4	33
		甕		9	205
	石製品	管玉		1	8
	鉄製品	釘		3	13
	自然遺物	獣骨		5	
3面下（Ⅳ～Ⅴ層）	手づくねかわらけ	大		2	56
	ロクロかわらけ	小		1	2
		大		8	69
	舶載施釉陶器	黄釉盤		1	3
	常滑	甕		2	101
	土師器	坏		32	234
		高坏		2	21
		甕		149	1963
		壺		35	494
		小片		149	553
	須恵器	坏		4	63
		甕		6	176
	瓦	古代平瓦		1	315
		丸瓦	Aor古代	1	30
	石製品	滑石製 模造品		1	10
	石材	軽石		11	96
	銅製品	銭		1	4

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 掘り下げ時					
表土～1面（0・Ⅰ層）	ロクロかわらけ	小		6	73
		大		36	580
	かわらけ	小片		20	100
	白磁	碗		1	4
		皿	Ⅸ	2	20
	青白磁	皿		1	1
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	6
		碗	ⅡorⅢ	1	3
	舶載施釉陶器	黄釉盤		1	20
		褐釉壺		1	14
表土～1面（0・Ⅰ層）	瀬戸	折縁皿		1	26
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	56
		甕		39	2130
	瓦質土器	火鉢		5	131
	瓦	平瓦	Aor古代	1	47
	石製品	滑石片		2	10
	鉄製品	釘		1	2
		鉄滓		1	118
	自然遺物	獣骨		1	
1面下（Ⅱ層）	手づくねかわらけ	大		2	22
	ロクロかわらけ	小		58	825
		大		496	6457
	かわらけ	小片		60	158
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	4	18
				1	6
		坏	Ⅲ	2	12
	青白磁	皿		1	2
		梅瓶		1	6
	舶載施釉陶器	褐釉壺		2	58
	瀬戸	入子		6	58
		碗		1	8
		卸皿		9	443
		折縁皿		3	71
		壺瓶		6	261
	尾張型	山茶碗		1	8
	常滑	片口鉢	Ⅰ	19	755
			Ⅱ	26	2270
		甕		344	17092
		壺		7	226
	渥美	甕		1	59
	備前	すり鉢		5	244
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	3	315
			Ⅱ	1	40
			Ⅲ	3	218
			Ⅳ	4	455
				23	1005
	瓦	平瓦		1	161
	土師器	甕		1	14
	須恵器	坏		2	33
	石製品	滑石鍋		1	137
		滑石製硯？		1	42
		滑石片		3	22
		硯	赤間	2	588
		中砥	天草	2	403
		仕上げ砥	鳴滝	4	86
		砥石	産地不明	1	9
	銅製品	銭		1	2
	鉄製品	釘		9	63
	スラグ			3	129
	骨製品	笄		1	
	自然遺物	獣骨		12	

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
1面下②（Ⅱ～Ⅲ層）	ロクロかわらけ	小		164	2290
		大		855	10990
	かわらけ	小片		219	690
	白かわらけ	手づくね		3	22
	白磁	皿	Ⅸ	3	13
		碗皿		1	2
	青白磁	合子		2	4
		皿		1	1
		水注		1	7
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	10	85
		碗	Ⅲ	2	23
		碗皿		3	4
		坏	Ⅲ	1	6
	舶載施釉陶器	褐釉壺		4	125
	瀬戸	入子		4	12
		卸皿		3	24
		折縁皿		2	85
		壺瓶		6	322
	常滑	片口鉢	Ⅰ	17	755
			Ⅱ	10	685
		甕		290	14675
		壺		1	100
		転用研磨具		1	35
	渥美	甕		3	78
	備前	すり鉢		1	502
	東播	鉢		1	28
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	2	185
			Ⅲ	2	230
			Ⅳ	2	297
				37	1721
	瓦	平瓦		2	361
	土師器	鉢？		1	22
		壺		1	37
	須恵器	甕		2	42
	不明陶器			1	13
	不明土器			1	5
	土製品	鞴羽口		3	100
	石製品	硯	鳴滝	1	19
		中砥	上野	1	16
		仕上げ砥	鳴滝	5	66
		砥材	鳴滝	1	28
		碁石		1	3
		石臼		1	765
	銅製品	銭		9	24
	鉄製品	鍋		1	123
		刀子		2	97
		釘		84	537
	自然遺物	獣骨		31	
2面下（Ⅲ層上部）	手づくねかわらけ	大		1	19
	ロクロかわらけ	小		142	2170
		大		770	9921
	かわらけ	小片		148	495
	白磁	皿	Ⅸ	3	50
				2	4
		壺瓶		1	4
	青白磁	合子身		1	7
		皿		2	3
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	4	23
		坏	Ⅲ	3	75
	磁器	不明		1	10
	舶載施釉陶器	褐釉壺		1	44

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2面下（Ⅲ層上部）	瀬戸	入子		1	2
		折縁皿		1	8
		卸皿		1	16
		鉢		1	19
		壺瓶		1	70
	常滑	片口鉢	Ⅰ	20	617
			Ⅱ	9	335
		甕		192	12079
		壺		2	90
		転用研磨具		1	61
	備前	すり鉢		1	152
	瓦質土器	火鉢	Ⅲ	3	225
			Ⅳ	1	100
				16	1018
	瓦	丸瓦	A	1	241
		平瓦	A	1	205
				1	48
	土師器	甕		1	14
	石製品	滑石スタンプ		1	25
		硯	赤間	1	14
			鳴滝	1	32
		中砥	伊予	1	123
			上野	2	93
		仕上げ砥	鳴滝	6	148
		凹石？		1	447
	銅製品	銭		4	14
	鉄製品	釘		70	453
	骨製品	笄		2	
	自然遺物	獣骨		27	
		不明貝殻		1	
2面下②（Ⅲ層下部）	手づくねかわらけ	小		3	22
		大		5	62
	ロクロかわらけ	小		143	1547
		大		954	11257
	かわらけ	小片		141	505
	白磁	碗		1	4
		皿	Ⅸ	2	8
		四耳壺		1	30
		壺		1	27
	青白磁	碗皿		2	8
	青白磁	梅瓶		1	5
	同安窯系青磁	皿		1	18
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	8
		碗	Ⅱ	2	134
		碗	ⅡorⅢ	7	33
	舶載施釉陶器	黄釉盤		3	22
		褐釉壺		3	29
	瀬戸	入子		1	4
		卸皿		2	17
		折縁深皿		1	95
		底卸目皿		1	22
		瓶子		1	7
		壺瓶		5	221
	常滑	片口鉢	Ⅰ	17	554
			Ⅱ	4	972
		甕		179	8516
		転用研磨具		1	54
	渥美	壺		1	24
	東播	鉢		1	27
	瓦質土器	火鉢	Ⅰ	2	191
			Ⅲ	1	33
				7	324
	瓦	平瓦	A	2	719

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2面下②（Ⅲ層下部）	土師器	坏		3	53
		高坏		3	79
		甕		22	239
		壺		1	20
	須恵器	坏蓋		1	8
		甕		1	29
	石製品	滑石片	西彼杵	1	13
		硯	赤間	1	13
			鳴滝	1	10
		中砥	天草	1	127
			伊予	1	37
		仕上げ砥	鳴滝	2	55
	銅製品	銭		1	4
	鉄製品	釘		69	501
	自然遺物	獣骨		31	
		アカニシ		8	
		カキ		1	
		キサゴ		1	
		サザエ蓋		1	
		バテイラ		1	
		ハマグリ		1	
1～3面（Ⅱ～Ⅳ層）	ロクロかわらけ	小		8	85
		大		93	1192
	かわらけ	小片		5	10
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	19
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	123
			Ⅱ	3	232
		甕		22	1065
	渥美	甕		1	32
	瓦	丸瓦	A	1	111
		平瓦	A	1	233
	土師器	甕		1	11
	石製品	中砥	天草	1	134
			上野	1	102
	鉄製品	釘		6	62
	自然遺物	獣骨		7	
3面上	手づくねかわらけ	大		1	129
	ロクロかわらけ	大		3	17
	土師器	甕		7	72
	自然遺物	獣骨		1	
3面下（Ⅳ～Ⅴ層）	手づくねかわらけ	小		5	34
	手づくねかわらけ	大		7	62
	ロクロかわらけ	大		13	178
	かわらけ・土師器	小片		71	221
	白磁	口兀皿		1	2
	龍泉窯系青磁	碗	ⅡorⅢ	1	3
	常滑	片口鉢	Ⅰ	1	66
		甕		1	21
	土師器	坏		9	155
		甕		79	1010
		壺		32	440
	須恵器	甕		1	13
	石材	軽石		8	178
	自然遺物	獣骨		12	

層位	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量(g)*
表採・試掘坑埋土・帰属不明	手づくねかわらけ	小		1	*12*
		大		5	*70*
	ロクロかわらけ	小		38	*512*
		大		169	*5870*
	かわらけ	小片		35	*149*
	土器	南伊勢系鍋		1	*9*
	白磁	碗		1	*11*
		一		5	*28*
	青白磁	合子		1	*1*
		梅瓶		2	*9*
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ or Ⅲ	1	*17*
			Ⅲ	1	*20*
				1	*2*
	瀬戸	入子		1	*12*
		壺瓶		1	*30*
	常滑	片口鉢	Ⅰ	3	*187*
			Ⅱ	7	*952*
		甕		42	*2550*
	渥美	片口鉢		1	*100*
	備前	すり鉢		1	*67*
	瀬戸美濃	蓋		1	*18*
	瓦器土器	火鉢	Ⅰ	1	*255*
			Ⅳ	2	*204*
				3	*123*
	瓦	平瓦		2	*298*
	土師器	甕		6	*95*
	石製品	滑石鍋	西彼杵	1	*37*
		硯石	鳴滝	3	*51*
	石材	軽石		1	*3*
	鉄製品	釘		8	*86*
	自然遺物	獣骨		1	
		ハマグリ		2	

撹乱	種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量(g)*
Ⅰ区撹乱					
撹乱1	ロクロかわらけ	小		9	*69*
		大		54	*801*
	かわらけ	小片		18	*54*
	白磁	碗		1	*5*
	龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	*7*
	舶載施釉陶器	褐釉壷		1	*36*
	瀬戸	入子		1	*11*
		卸皿		1	*27*
		香炉		1	*20*
		壺瓶		1	*14*
	常滑	片口鉢	Ⅱ	1	*87*
		甕		63	*5432*
		壺		2	*1220*
	渥美	甕		2	*135*
	東播	鉢		1	*10*
	瓦質土器	火鉢		6	*284*
	須恵器	甕		1	*19*
	青白磁	皿		1	*1*
	石製品	滑石鍋	福岡	1	*100*
		硯？	赤間	1	*242*
		中砥	天草	1	*273*
		仕上げ砥	鳴滝	1	*27*
	銅製品	銭		1	*3*
	鉄製品	釘		4	*29*
	自然遺物	獣骨		1	
撹乱2	ロクロかわらけ	大		2	*185*
	かわらけ	小片		11	*47*
	常滑	甕		1	*103*
	銅製品	銭		1	*4*
	鉄製品	釘		1	*4*
撹乱4	瓦質土器	火鉢	Ⅳ	1	*45*
撹乱6	ロクロかわらけ	小		6	*48*
		大		6	*225*
	かわらけ	小片		13	*52*
	常滑	甕		5	*230*
Ⅱ区撹乱					
撹乱7	ロクロかわらけ	小		1	*6*
		大		2	*38*
	常滑	甕		1	*37*
撹乱12	ロクロかわらけ	小		5	*87*
	常滑	甕		20	*1490*
	瓦	丸瓦		1	*90*
	須恵器	甕		1	*41*
	土製品	管状土錘		1	*33*
	石製品	滑石鍋	西彼杵	1	*117*
撹乱13	ロクロかわらけ	大		32	*363*
	瀬戸	香炉？		1	*7*
	瓦（新）	新しい瓦		5	*455*
	肥前系磁器	染付碗		1	*2*
	鉄製品	釘		5	*24*

Ⅱ区３面下　遺構出土遺物（図 31）

425 ～ 428 は、遺構 578（流路状遺構）の埋土より出土した。7 世紀後半前後の資料が主体となる。425・426 は須恵器坏 H の坏身で、湖西窯周辺の製品と見られる。ともに蓋受部の径が 10.0 ㎝と小さく、坏 H としては最末期に近い段階に位置付けられる。427 の土師器長胴甕は胴部にタテヘラケズリが入り、古墳時代の伝統を引き継いでいるものの、胎土は後出型式である相模型甕のものと同質である。428 の土師器坏は体部内面に放射状暗文を施している。総じて、7 世紀末～ 8 世紀初頭頃の様相を示している。本遺構からは中世遺物も出土しているが、殆どが小片であり、上位の中世層や中世遺構の掘り残し部分に包含されていたものと考えている。

Ⅱ区３面下　遺構外の出土遺物（図 31）

遺構外でも中世遺物は出土しているが、主体となるのは古墳時代後～終末期の資料であった。

Ⅱ区出土分として図化できたのは 429 の 1 点のみで、土師器の坏である。須恵器坏蓋の模倣形だが、外面口縁－体部間の稜がなく低平な器形を呈しており、この種の中では終末段階に位置付けられる。

表４　出土遺物観察表

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図17 1	陶器	瀬戸美濃か 蓋	2.3	天井径 (4.8)	1.2	完形				灰緑	表面採集 頂部に幾何学文か
図17 2	石製品	硯	長さ [8.5]	幅 [6.5]	厚さ 3.4	不明				赤褐	Ⅰ区1面 撹乱1 赤間・紫雲石 二次加工途中か
図17 3	銅製品	銭 慶元通寶 (真書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.2				Ⅰ区1面 撹乱1 背文:三(真書) 中国南宋代 1195年初鋳
図17 4	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.3	8.6	3.4	5/6		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面 撹乱2 白針・赤色粒
図17 5	銅製品	銭 熙寧元寶 (真書)	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.7				Ⅰ区1面 撹乱2 背文:三(真書) 中国北宋代 1068年初鋳
図17 6	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	7.5	3.5	5/6		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面 撹乱6 白針・赤色粒
図17 7	石製品	滑石鍋	—	—	[6.4]	口小片				橙灰	Ⅰ区1面 撹乱12 著しい摩耗
図17 8	土製品	管状土錘	直径 3.4	孔径 1.0	長さ 3.6	1/2				橙灰	Ⅰ区1面 撹乱12
図17 9	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.5)	4.0	1.8	1/2		ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区表土～1面 白針・赤色粒
図17 10	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	7.4	3.5	4/5		ナデ	板状	橙	Ⅰ区表土～1面 白針・赤色粒
図17 11	陶器	常滑 甕	—	—	—	口小片				明茶褐	Ⅰ区表土～1面 8型式 長石・石英
図17 12	石製品	砥石	長さ [8.8]	幅 3.3	厚さ 1.3	下端欠				黄灰白	Ⅰ区表土～1面 仕上げ砥(鳴滝)
図17 13	石製品	碁石（黒）	長さ 1.1	幅 1.5	厚さ 0.3	完形				黒	Ⅰ区表土～1面
図17 14	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.6	1.6	口5/6 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下～3面(犬走り) 白針
図17 15	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	6.5	3.5	口1/8 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下～3面(犬走り) 白針・白色粒
図17 16	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	9.7	3.4	口3/4 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下～3面(犬走り) 白針
図17 17	石製品	砥石	長さ [8.3]	幅 3.8	厚さ 3.3	片端欠					Ⅰ区1面下～3面(犬走り) 中砥(上野)
図17 18	石製品	砥石	長さ [7.8]	幅 3.8	厚さ 3.2	両端欠				灰褐	Ⅰ区1面下～3面(犬走り) 中砥(天草)
図17 19	鉄製品	釘	長さ 9.2	幅 0.7	厚さ 0.3	完形					Ⅰ区1面下～3面(犬走り)
図17 20	鉄製品	釘	長さ 6.2	幅 0.8	厚さ 0.7	完形					Ⅰ区1面下～3面(犬走り)
図18 21	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	5.5	2.1	略完形	[52.0]	ナデ		橙	Ⅰ区1面 遺構5　白針・赤色粒 外底面糸切り後ヘラ調整
図18 22	陶器	常滑片 転用研磨具	長さ [7.8]	幅 [5.7]	厚さ 1.3	甕胴片				茶褐	Ⅰ区1面 遺構5 側面3辺を研磨に使用
図18 23	銅製品	銭 景徳元寶 (真書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.1				Ⅰ区1面 遺構5 中国北宋代 1004年初鋳
図18 24	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.3	2.1	4/5		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面 遺構6 白針・赤色粒 口縁部煤付着
図18 25	在地土器	ロクロかわらけ 大	(12.7)	(7.4)	3.5	3/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面 遺構6 白針・赤色粒
図18 26	在地土器	ロクロかわらけ 大	(13.7)	(9.5)	3.6	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面 遺構6 白針・赤色粒
図18 27	瓦質土器	火鉢IVC類	10.4	6.0	2.9	口～胴 小片				灰～ 黄橙	Ⅰ区1面 遺構6 黒色・白色粒 鍔上面に菊花文押印と穿孔
図18 28	石製品	硯	長さ [7.9]	幅 13.0	厚さ 1.8	上端 1/3				黒	Ⅰ区1面 遺構6 鳴滝の懸子硯
図18 29	銅製品	銭 祥符通寶 (真書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.1				Ⅰ区1面 遺構6 中国北宋代 1008年初鋳
図18 30	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.0	4.2	2.3	4/5		ナデ	板状	淡橙	Ⅰ区1面 遺構9 白針
図18 31	陶器	瀬戸 折縁中皿	(21.0)	(10.4)	2.9	1/6				赤褐	Ⅰ区1面 遺構15 中期後半か 漬け掛け
図19 32	在地土器	ロクロかわらけ 極小	(4.6)	(3.6)	1.0	1/2		ナデ		黄橙	Ⅰ区1面下 白針 内折れ
図19 33	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.1	4.0	2.2	口2/3 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 34	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.3	4.2	2.0	口2/3 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 35	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.0	2.2	口3/4 底完存		ナデ		橙	Ⅰ区1面下 白針

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図19 36	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.1	5.7	2.0	完形	45.7	ナデ	板状	暗橙	Ⅰ区1面下 白針・白色粒
図19 37	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	5.7	1.9	口4/5 底完存		ナデ	板状	黄灰	Ⅰ区1面下 白針 内面一部に煤付着
図19 38	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	4.5	1.9	口2/3 底完存		ナデ		黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 39	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.9	1.7	略完形	[51.3]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針・白色粒
図19 40	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.2	1.8	略完形	[47.4]	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 41	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	5.3	1.6	略完形	50.1	ナデ		黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 42	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.7	1.9	略完形	55.6	ナデ	板状	黄灰	Ⅰ区1面下 白針・白色粒
図19 43	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	4.5	2.0	略完形	49.8	ナデ	板状	灰黄	Ⅰ区1面下
図19 44	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	5.0	1.8	口3/4 底完存		ナデ	板状	暗橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 45	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	4.9	2.3	口3/4 底完存		ナデ		橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 46	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.0	2.0	口2/3 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針 内外面に煤付着
図19 47	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	4.8	2.0	略完形	[58.1]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図19 48	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	4.6	1.8	完形	50.0	ナデ		黄橙	Ⅰ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図19 49	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.1	1.9	口2/3 底1/4		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図19 50	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	5.6	1.8	略完形	[58.2]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 51	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.3	4.9	1.5	略完形	[38.4]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針・白色粒
図19 52	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	6.2	1.5	口3/4 底完存		ナデ		橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 53	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.0	1.5	口2/3 底完存		ナデ		橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 54	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.8	5.8	2.3	略完形	[66.6]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図19 55	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.1	4.9	2.6	口1/2 底3/4		ナデ		橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 56	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.0	2.4	略完形	53.6		板状	橙	Ⅰ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図19 57	在地土器	ロクロかわらけ 中	10.6	6.0	3.0	口2/3 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 58	在地土器	ロクロかわらけ 大	11.8	7.6	3.1	略完形	[143.0]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 59	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.3	9.0	3.7	口2/3 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 60	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.3	9.0	3.7	口2/3 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 白針
図19 61	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.5	7.7	3.5	略完形	[160.9]	ナデ		橙	Ⅰ区1面下 白針・赤色粒
図19 62	在地土器	かわらけ 転用円盤	直径 4.3	—	厚さ 0.9	完形				橙	Ⅰ区1面下 赤色粒 粗い加工
図19 63	陶器	東濃型 山皿か	11.5	6.6	3.3	口1/4 底小				灰白	Ⅰ区1面下 精良胎土
図19 64	陶器	東濃型 山皿か	(9.4)	(6.6)	1.1	口小 底1/4				灰白	Ⅰ区1面下 7型式以降か 精良胎土 内面に自然釉
図19 65	舶載磁器	青白磁 蓋	(3.4)	最大径 (6.3)	1.2	1/5				白 透明	Ⅰ区1面下 頂部に連弁文
図19 66	舶載磁器	青白磁 合子蓋	(5.3)	天頂径 (3.7)	1.4	1/4				灰白 透明	Ⅰ区1面下 頂部に梅花・波・連弁文
図19 67	舶載磁器	白磁 型押文皿	—	(4.6)	[0.7]	底1/5				白 透明	Ⅰ区1面下 内面に梅花文・雷文
図19 68	舶載磁器	白磁 型押文皿	—	—	[2.3]	口小片				白 透明	Ⅰ区1面下 内面に牡丹草文・雷文
図19 69	舶載磁器	白磁 型押文皿	—	—	[1.1]	口小片				白 透明	Ⅰ区1面下 内面に花文
図19 70	舶載磁器	白磁 皿			[1.2]	底小片				水色 透明	Ⅰ区1面下 気泡

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図19 71	陶器	瀬戸 卸皿	(14.4)	(8.9)	3.7	1/3				淡灰緑	Ⅰ区1面下 前Ⅲ期か
図19 72	陶器	瀬戸 卸皿	(13.6)	(8.0)	4.2	口小 底1/2				淡橙灰	Ⅰ区1面下 前Ⅳ期か 口唇～内面に淡黄白色灰釉
図19 73	陶器	瀬戸 入子	(5.0)	(3.2)	1.7	2/5				黄灰	Ⅰ区1面下 外底部へラケズリ 口唇部に自然釉
図19 74	陶器	瀬戸 折縁深皿	(20.4)	—	[4.7]	口小 ～胴片				暗褐	Ⅰ区1面下 中Ⅱ期か 口縁～体部上位に施釉(褐色)
図19 75	陶器	瀬戸 筒形香炉	—	—	[6.8]	口小片				灰緑	Ⅰ区1面下 中期前半か 外面に画花文
図19 76	陶器	常滑 壺	(11.0)	—	[10.2]	口小 ～胴片				暗褐	Ⅰ区1面下 6a～6b型式か 長石・白色粒
図19 77	陶器	常滑 甕	(63.3)	—	[8.8]	口～頸 1/4				暗褐	Ⅰ区1面下 7～8型式 長石・石英 外面に自然釉
図20 78	瓦質土器	火鉢ⅣA類	—	—	[12.1]	口～底 小片				灰	Ⅰ区1面下 内外面ミガキ 連珠文貼付け・菊花文押印
図20 79	瓦質土器	火鉢Ⅲ類	—	—	[7.3]	口小片				灰	Ⅰ区1面下 車輪文押印
図20 80	在地土器	かわらけ 転用円盤	直径 4.7	—	厚さ 1.2	1/2				橙	Ⅰ区1面下 赤色粒
図20 81	石製品	滑石鍋片 転用温石	長さ [6.7]	幅 7.5	厚さ 2.0	1/2				灰～灰褐	Ⅰ区1面下 西彼杵産
図20 82	石製品	硯	長さ 13.0	幅 9.4	厚さ 1.5	4/5				暗灰	Ⅰ区1面下 鳴滝産
図20 83	石製品	砥石	長さ [7.7]	幅 3.6	厚さ 3.4	両端欠				黄灰	Ⅰ区1面下 中砥(上野)
図20 84	石製品	砥石	長さ [11.5]	幅 7.3	厚さ 5.3	片端欠				灰～橙 ﾏﾌﾞﾙ状	Ⅰ区1面下 荒砥(天草)
図20 85	石製品	石臼 下臼	縦 [25.9]	横 [19.8]	厚さ [12.9]	1/4					Ⅰ区1面下 安山岩
図20 86	鉄製品	釘	長さ [10.2]	幅 0.8	厚さ 0.4	下端欠					Ⅰ区1面下
図20 87	鉄製品	釘	長さ 8.1	幅 0.4	厚さ 0.5	完形					Ⅰ区1面下
図20 88	鉄製品	釘	長さ [7.5]	幅 0.75	厚さ 0.4	下端欠					Ⅰ区1面下 錆化顕著
図20 89	鉄製品	釘	長さ 6.3	幅 0.7	厚さ 0.6	完形					Ⅰ区1面下
図20 90	鉄製品	釘	長さ [6.0]	幅 0.6	厚さ 0.6	下端欠					Ⅰ区1面下 錆化顕著
図20 91	鉄製品	釘	長さ [5.7]	幅 0.6	厚さ 0.6	下端欠					Ⅰ区1面下 錆化顕著
図20 92	鉄製品	釘	長さ 6.9	幅 0.8	厚さ 0.8	完形					Ⅰ区1面下
図20 93	銅製品	銭 開元通寶 (行書)	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.2				Ⅰ区1面下 中国唐代 845年初鋳
図20 94	銅製品	銭 唐國通寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.7				Ⅰ区1面下 中国南唐代 959年初鋳
図20 95	銅製品	銭 開元通寶 (篆書)	直径 2.1	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	2.0				Ⅰ区1面下 中国北宋代 960年初鋳
図20 96	銅製品	銭 皇宋通寶 (篆書)	直径 2.2	孔径 0.6	厚さ 0.08	完形	2.4				Ⅰ区1面下　スリ銭 中国北宋代 1038年初鋳
図20 97	銅製品	銭 元豊通寶 (篆書)	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.8				Ⅰ区1面下 中国北宋代 1078年初鋳
図20 98	銅製品	銭 熙寧元寶 (行書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	2.7				Ⅰ区1面下 中国北宋代 1068年初鋳
図20 99	銅製品	銭 嘉祐元寶 (行書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.1				Ⅰ区1面下 中国北宋代 1056年初鋳
図20 100	銅製品	銭 熙寧元寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	2.8				Ⅰ区1面下 中国北宋代 1068年初鋳
図20 101	銅製品	銭 嘉定通寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.68	厚さ 0.1	完形	3.7				Ⅰ区1面下 背文:三(真書) 中国南宋代 1208年初鋳
図21 102	陶器	瀬戸 入子	(5.8)	(3.8)	1.8	3/4				灰白	Ⅰ区1面下 遺構211 黒色粒
図21 103	陶器	瀬戸 水滴？	(1.9)	—	[1.9]	口1/4				灰	Ⅰ区1面下 遺構211
図21 104	陶器	常滑 甕	(62.0)	(8.9)	3.7	口1/4				赤褐	Ⅰ区1面下 遺構211 7～8型式 白色粒・黒色粒 格子文押印
図21 105	骨製品	用途不明 環状製品	長さ [3.5]	幅 [0.9]	厚さ 0.3	不明					Ⅰ区1面下 遺構211 幾何学文の彫刻あり

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図21 106	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.2	1.7	4/5		ナデ	板状	明黄橙	Ⅰ区1面下 遺構214 白針・赤色粒
図21 107	在地土器	ロクロかわらけ 大	長さ 12.0	幅 6.7	厚さ 3.2	4/5		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下 遺構219 白針
図21 108	鉄製品	釘	長さ 5.2	幅 0.7	厚さ 0.7	完形	5.1				Ⅰ区1面下 遺構219 錆化顕著
図21 109	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.1	5.7	1.8	略完形	[51.1]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 遺構220 白針・赤色粒
図21 110	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.9	1.8	完形	51.6	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下 遺構220 口縁部に煤付着
図21 111	在地土器	ロクロかわらけ 大	(12.0)	(8.0)	3.3	2/3		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下 遺構221 (遺構外)黒色粒
図21 112	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.1	6.9	厚さ 0.1	完形		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 遺構221 (遺構外)内底面に墨痕か
図21 113	陶器	常滑 甕			[13.0]	口小片				褐色～暗赤褐	Ⅰ区1面下 遺構221 (遺構外)5～6a型式 長石
図21 114	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.1	1.6	略完形	[44.4]	ナデ	板状	明黄橙	Ⅰ区1面下 遺構222 口縁部に煤付着
図21 115	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.6	1.8	完形	45.3	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下② 遺構223 白針・赤色粒
図21 116	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	4.9	1.8	完形	51.0	ナデ	板状	暗橙灰	Ⅰ区1面下② 遺構223 白針・赤色粒
図21 117	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.7	1.8	口3/4 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下 遺構223 白針
図21 118	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.2	1.9	5/6		ナデ	板状	橙灰	Ⅰ区1面下② 遺構235 白針・赤色粒
図21 119	在地土器	ロクロかわらけ 中	11.3	6.5	3.0	略完形	[99.8]	ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構235 白針・赤色粒
図21 120	在地土器	ロクロかわらけ 大	14.1	7.6	4.0	略完形	[201.8]	ナデ	板状	暗橙灰	Ⅰ区1面下② 遺構235 白針・赤色粒
図21 121	陶器	常滑 鳶口壺	6.5	9.4	10.4	口2/3 底1/2				暗褐	Ⅰ区1面下② 遺構235 白色粒・石英　外面自然釉
図21 122	鉄製品	釘	長さ 11.0	幅 0.7	厚さ 1.0	完形					Ⅰ区1面下② 遺構235
図21 123	在地土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.1	2.1	口3/4 底完存		ナデ		赤橙	Ⅰ区1面下② 遺構239 白針・白色粒
図21 124	鉄製品	釘	長さ 6.9	幅 0.8	厚さ 0.8	完形					Ⅰ区1面下② 遺構239
図21 125	鉄製品	釘	長さ 6.9	幅 0.6	厚さ 0.6	完形					Ⅰ区1面下② 遺構239
図21 126	鉄製品	釘	長さ 6.1	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					Ⅰ区1面下② 遺構239
図21 127	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.0)	4.9	2.2	口1/4 底完存		ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構241(321) 白針・赤色粒
図21 128	在地土器	ロクロかわらけ 大	10.9	6.6	3.0	略完形	[107.6]	ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構241(321) 白針・白色粒・赤色粒
図21 129	在地土器	ロクロかわらけ 大	7.5	4.9	1.8	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構258 白針
図21 130	在地土器	ロクロかわらけ 大	(7.8)	(5.8)	1.5	3/4		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構265 白針
図21 131	在地土器	ロクロかわらけ 大	7.6	6.0	1.6	7/8		ナデ	板状	淡橙	Ⅰ区1面下② 遺構272 白針・赤色粒
図21 132	鉄製品	釘	長さ 5.6	幅 0.7	厚さ 0.6	完形	5.1	ナデ	板状		Ⅰ区1面下② 遺構272 白針・赤色粒
図21 133	銅製品	分銅	上端径 1.0	下端径 1.4	1.9	完形	18.5 ≒5匁				Ⅰ区1面下② 遺構272 鈕:高さ0.3×孔径0.1cm
図22 134	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.3	5.5	1.7	略完形	[48.6]	ナデ		黄灰	Ⅰ区2面 遺構253 白針
図22 135	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.2	5.4	1.5	3/4		ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針
図22 136	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.4	2.0	4/5		ナデ	板状	橙灰	Ⅰ区2面 遺構253 白針 体部内外面黒変
図22 137	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	6.3	1.7	略完形	[47.0]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒
図22 138	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.0	2.1	略完形	[52.0]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒
図22 139	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.2	5.1	2.0	4/5		ナデ	板状	橙灰	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒
図22 140	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.8	2.2	完形	44.1	ナデ	板状	黄灰	Ⅰ区2面 遺構253 白針

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図22 141	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.3	4.7	2.4	完形	39.9	ナデ	板状	橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒 口縁部に煤付着
図22 142	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	4.4	2.3	略完形	[64.5]	ナデ		橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒 底部焼成後穿孔2ヶ所と未貫通孔2ヶ所
図22 143	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.7	8.0	3.7	1/2		ナデ	板状	橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒
図22 144	在地土器	ロクロかわらけ 大	14.1	8.5	3.6	3/4		ナデ	板状	明黄橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針・赤色粒
図22 145	舶載磁器	龍泉窯系青磁 坏Ⅲ-3c類	—	(6.6)	[1.6]	底1/3				暗灰緑 不透明	Ⅰ区2面 遺構253 体外面蓮弁文なら坏Ⅲ-4b類
図22 146	陶器	須恵器 坏H身	内径 (7.4)	外径 (9.6)	[1.8]	口1/5		ナデ	板状	暗黄灰	Ⅰ区2面 遺構253 白色粒
図22 147	石製品	砥石	長さ [11.6]	幅 2.5	厚さ 2.5	下端欠				暗灰	Ⅰ区2面 遺構253 中砥(天草)
図22 148	在地土器	かわらけ 転用円盤	直径 2.4	—	厚さ 0.5	完形		ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区2面 遺構253 白針
図22 149	鉄製品	用途不明	長さ 7.5	幅 1.2	厚さ 0.4	完形					Ⅰ区2面 遺構253 錆化顕著
図22 150	鉄製品	釘	11.5	6.6	3.3	略完形	[154.0]	ナデ	板状	橙	Ⅰ区2面 遺構253
図22 151	鉄製品	鏃	長さ 13.4	幅 0.7	厚さ 0.4	完形					Ⅰ区2面 遺構253
図22 152	鉄製品	釘	7.0	0.6	0.6	完形	4.9				Ⅰ区1面下② 遺構273 錆化顕著
図22 153	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.2	5.4	1.9	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構245 白針
図22 154	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(27.7)	(12.8)	10.9	口1/4 底1/2				灰色	Ⅰ区1面下② 遺構245 7型式 長石
図22 155	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.1	2.1	略完形	[56.0]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構288 白針 口縁部に煤付着
図22 156	在地土器	ロクロかわらけ 大	—	7.3	[1.8]	底部		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下② 遺構288 穿孔かわらけ 白針・白色粒
図22 157	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.3	5.1	1.7	4/5		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 白針 体部外面にヘラナデ
図22 158	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	4.6	1.6	略完形	[48.3]	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 白針・赤色粒
図22 159	在地土器	ロクロかわらけ 小	6.9	6.4	1.9	略完形	[60.1]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 口縁部一部に煤付着
図22 160	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.3	1.7	略完形	[45.0]	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 白針・赤色粒
図22 161	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.0	4.8	1.7	完形	43.8	ナデ	板状	淡橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 口縁部一部に薄く煤付着
図22 162	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.2	5.3	1.5	略完形	[42.6]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 白針 口縁部に煤付着
図22 163	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.7	7.2	3.3	略完形	[177.8]	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下② 遺構291 白針・赤色粒
図22 164	銅製品	銭 元符通寶 か（行書）	直径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形	3.5				Ⅰ区1面下② 遺構291 中国北宋代 1098年初鋳
図22 165	銅製品	銭 紹聖元寶 （篆書）	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.3				Ⅰ区1面下② 遺構291 中国北宋代 1094年初鋳
図22 166	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.2	5.4	1.6	略完形	[49.0]	ナデ	板状	灰黄	Ⅰ区1面下② 遺構298 白針
図22 167	鉄製品	釘	長さ 7.0	幅 0.6	厚さ 0.6	完形	5.1				Ⅰ区1面下② 遺構298
図22 168	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.7	1.5	略完形	[50.5]	ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区2面 遺構301 白針
図22 169	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.9	1.6	完形	56.5	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構305 白針・赤色粒
図22 170	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.4	1.5	略完形	[52.6]	ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区2面 遺構305 白針・赤色粒
図22 171	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.2	6.0	1.7	完形	66.3	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構305 白針
図22 172	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.1	8.0	3.2	4/5		ナデ	板状	淡黄橙	Ⅰ区2面 遺構305 白針・赤色粒
図23 173	鉄製品	釘	長さ [6.8]	幅 0.5	厚さ 0.6	下端欠					Ⅰ区1面下② 遺構315
図23 174	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	4.8	2.0	略完形	[43.5]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下② 遺構321(241) 白針・赤色粒
図23 175	在地土器	ロクロかわらけ 小	(8.0)	(5.0)	1.6	1/3		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構324 白針・赤色粒

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図23 176	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.4	8.3	2.9	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構324 白針・赤色粒
図23 177	在地土器	ロクロかわらけ 大	11.9	8.2	2.9	完形	144.3	ナデ	板状	明橙	Ⅰ区2面 遺構324 白針・赤色粒 口縁部に煤付着
図23 178	鉄製品	刀子	長さ［18.6］	幅 2.4	厚さ 0.8	略完形					Ⅰ区2面 遺構324 錆化顕著
図23 179	鉄製品	釘	長さ［6.0］	幅 0.5	厚さ 0.7	下端欠					Ⅰ区2面 遺構324 錆化顕著
図23 180	鉄製品	釘	長さ［5.9］	幅 0.5	厚さ 0.3	下端欠					Ⅰ区2面 遺構324 錆化顕著
図23 181	骨製品	笄	長さ［0.7］	幅 0.9	厚さ 0.4	両端欠					Ⅰ区2面 遺構327
図23 182	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.7	7.4	3.3	5/8		ナデ	板状	橙	Ⅰ区2面 遺構335 白針 部分的に黒変
図23 183	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.3	1.7	略完形	［44.7］	ナデ	板状	橙	Ⅰ区2面 遺構335 白針・赤色粒
図23 184	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.8	1.6	完形	44.9	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構335 白針・赤色粒
図23 185	在地土器	手づくねかわらけ 大	(14.2)	—	3.4	1/3			板状	淡橙	Ⅰ区2面 遺構347 白針・赤色粒
図23 186	銅製品	銭 政和通寶 (真書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.1				Ⅰ区2面 遺構365 中国北宋代 1111年初鋳
図23 187	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.6	7.4	3.5	1/2		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面 遺構366 白針・赤色粒
図23 188	銅製品	銭 熙寧元寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.4				Ⅰ区2面 遺構376 中国北宋代 1068年初鋳
図23 189	在地土器	台付甕	—	—	［2.7］	体小片				暗橙	Ⅰ区2面 遺構379 石英 外面ハケ調整
図23 190	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	1.6	5.5	完形	45.4	ナデ	板状	淡橙	Ⅰ区2面 遺構387 白針・赤色粒
図23 191	石製品	管玉	長さ 3.1	径 1.2	孔径 0.2	完形	7.8			濃緑色	Ⅰ区3面上遺構外(Ⅳ層上) グリーンタフか
図23 192	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.6	7.0	3.8	略完形	［160.7］	ナデ	板状	橙	Ⅰ区2面 遺構外 白針・赤色粒
図23 193	石製品	硯	長さ［12.2］	幅 10.2	厚さ 1.9	頭部・縁欠				赤紫	Ⅱ区2面 遺構外 赤間・紫雲石 二次加工品か
図24 194	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.5	2.4	略完形	［56.7］	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構447 白針・赤色粒
図24 195	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.9	2.3	完形	51.7	ナデ	板状	明橙灰	Ⅱ区2面 遺構447 白針・赤色粒
図24 196	在地土器	ロクロかわらけ 中	(10.4)	5.9	3.2	口1/3 底完存		ナデ	板状	暗橙	Ⅱ区2面 遺構447 白針・赤色粒
図24 197	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.3	7.4	3.6	3/4		ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区1面下 遺構447 白針・赤色粒
図24 198	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.6	8.0	3.6	略完形	［198.4］	ナデ	板状	明橙	Ⅱ区2面 遺構447 白針・赤色粒
図24 199	陶器	瀬戸 器種不明	—	—	［4.5］	体小片				淡黄灰褐	Ⅱ区2面 遺構447 薄くハケ塗り
図24 200	陶器	常滑 甕	56.5	21.0	87.8	略完形				橙褐～灰	Ⅱ区2面 遺構447 7～8型式 黒色粒・白色粒
図24 201	陶器	常滑 甕	—	—	［10.2］	口小片				茶褐	Ⅱ区2面 遺構448 7～8型式 長石・石英
図24 202	陶器	常滑片 転用研磨具	長さ［5.0］	幅［7.0］	厚さ 1.7	胴部片				暗赤褐	Ⅱ区2面 遺構448 長石・石英
図24 203	陶器	東播系須恵器 片口鉢	(24.4)	(8.0)	8.0	1/4				灰	Ⅱ区2面 遺構448 白色粒
図25 204	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	4.8	1.5	完形	45.0	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 遺構449 白針 口縁部一部に煤付着
図25 205	在地土器	ロクロかわらけ 中	11.1	6.8	2.8	完形	132.0	ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下 遺構449 白針
図25 206	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.0	8.2	3.4	略完形	［191.0］	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 遺構449 白針 口縁部黒変
図25 207	舶載陶器	天目茶碗	(11.5)	3.5	5.1	口小 底2/5				黒褐	Ⅱ区1面下 遺構449 鉄釉
図25 208	陶器	常滑 甕	—	—	［10.6］	口小片				暗赤褐	Ⅱ区1面下 遺構449 6b～7型式 白色粒
図25 209	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	5.2	2.0	略完形	［61.0］	ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 210	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	5.8	1.5	略完形	［37.0］	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 白針

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図25 211	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.2	2.3	口3/5 底完存		ナデ		橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 212	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.2	5.4	2.5	略完形	[49.0]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 213	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.6	2.2	口1/2 底完存		ナデ		橙	Ⅱ区1面下 白針・赤色粒
図25 214	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	5.5	2.4	3/4		ナデ		橙	Ⅱ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図25 215	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.5	2.4	口1/2 底完存		ナデ		橙	Ⅱ区1面下 白針 口縁部に煤付着
図25 216	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.4	2.3	口1/4 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 217	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	4.6	2.5	略完形	[47.0]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 218	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.6	2.4	略完形	[50.0]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 219	在地土器	ロクロかわらけ 中	10.2	5.9	2.8	略完形	102.0	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 白針・赤色粒
図25 220	在地土器	ロクロかわらけ 中	11.0	5.9	3.1	3/4		ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 白針
図25 221	石製品	砥石	長さ [3.6]	幅 3.8	厚さ 0.6	両端欠損				淡黄灰	Ⅱ区1面下 仕上げ砥(鳴滝)
図25 222	鉄製品	釘	長さ 7.5	幅 0.8	厚さ 0.5	完形					Ⅱ区1面下
図25 223	鉄製品	釘	長さ 5.4	幅 0.6	厚さ 0.6	完形					Ⅱ区1面下
図25 224	鉄製品	釘	長さ 7.2	幅 1.0	厚さ 0.6	完形					Ⅱ区1面下
図25 225	鉄製品	釘	長さ 7.1	幅 1.0	厚さ 0.7	完形					Ⅱ区1面下
図25 226	鉄製品	釘	長さ 4.2	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					Ⅱ区1面下
図25 227	鉄製品	釘	長さ 5.6	幅 1.0	厚さ 0.5	完形					Ⅱ区1面下
図25 228	鉄製品	釘	長さ [8.0]	幅 1.1	厚さ 0.6	下端欠損					Ⅱ区1面下
図25 229	鉄製品	釘	長さ [7.8]	幅 0.9	厚さ 0.8	下端欠損					Ⅱ区1面下
図25 230	銅製品	銭 祥符元寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.2				Ⅱ区1面下 中国北宋代 1008年初鋳
図25 231	銅製品	銭 皇宋通寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	上部欠損	[2.3]				Ⅱ区1面下 中国北宋代 1038年初鋳
図25 232	銅製品	銭 元祐通寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.6				Ⅱ区1面下 中国北宋代 1086年初鋳
図25 233	銅製品	銭 聖宋元寶 (行書)	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	2.9				Ⅱ区1面下 中国北宋代 1101年初鋳
図25 234	銅製品	銭 紹聖元寶 (篆書)	直径 2.2	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形	2.3				Ⅱ区1面下 中国北宋代 1094年初鋳
図25 235	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.9)	(6.0)	1.8	3/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下(北東部) 白針 穿孔かわらけ
図25 236	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	5.3	1.7	略完形		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下(北東部) 白針 口縁部に煤付着
図25 237	在地土器	ロクロかわらけ 小	9.2	6.6	2.3	4/5		ナデ	板状	黄橙 ～灰黄	Ⅰ区1面下(北東部) 口縁一部に煤付着
図25 238	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.4	8.5	3.2	略完形	[209.2]	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下(北東部) 白針・赤色粒
図25 239	舶載磁器	青白磁 合子身	(7.1)	(5.3)	4.6	口～底 1/4				灰白	Ⅰ区1面下(北東部) 黒色粒 体部に珠文と連弁文
図25 240	陶器	尾張型 山茶碗	8.0		[3.3]	底4/5				明灰	Ⅰ区1面下(北東部) 黒色粒 内面の摩耗顕著
図25 241	銅製品	銭 政和通寶 (隷書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	2.7				Ⅰ区1面下(北東部) 中国北宋代 1111年初鋳
図25 242	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.9)	(5.5)	1.9	1/2				橙	Ⅰ区1面下(南西部) 白針・赤色粒
図25 243	在地土器	ロクロかわらけ 大	11.4	6.8	3.3	略完形	[109.2]	ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下(南西部) 白針
図25 244	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.3	7.1	3.5	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区1面下(南西部) 白針
図25 245	骨製品	紐通し	長さ [4.8]	幅 [1.5]	厚さ 0.7	1/2				灰白	Ⅰ区1面下(南西部) 中央部に径0.6cmの穿孔2ヶ所

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図25 246	土製品	円筒埴輪			[5.8]	胴小片				橙	Ⅰ区1面下(南西部)
図26 247	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.3	1.7	完形	44.8	ナデ		黄橙	Ⅰ区1面下(北部)
図26 248	石製品	砥石	長さ [4.4]	幅 [3.9]	厚さ 0.7	不明				黄灰	Ⅰ区1面下(北部) 仕上げ砥(鳴滝)
図26 249	石製品	火打石	長さ 4.6	幅 4.1	厚さ 2.4	完形	61.3				Ⅰ区1面下(北部) 石英　一部打撃痕あり
図26 250	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅0.6	厚さ 0.4	完形					Ⅰ区1面下(北部)
図26 251	鉄製品	釘	長さ 6.5	幅 0.7	厚さ 0.7	完形					Ⅰ区1面下(北部)
図26 252	鉄製品	釘	長さ 6.0	幅 0.6	厚さ 0.6	完形					Ⅰ区1面下(北部)
図26 253	鉄製品	刀子か	長さ [9.5]	幅 1.3	厚さ (0.6)	刃部					Ⅰ区1面下(北部)
図26 254	銅製品	銭 熙寧元寶 (真書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.8				Ⅰ区1面下(北部) 中国北宋代 1068年初鋳
図26 255	銅製品	銭 淳祐元寶 (真書)	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	2.4				Ⅰ区1面下(北部) 背文:二(真書) 中国南宋代 1241年初鋳
図26 256	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	6.3	1.4	3/4		ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下(南東部) 白針・赤色粒
図26 257	在地土器	ロクロかわらけ 小	6.8	5.0	1.5	完形	38.4	ナデ	板状	赤橙	Ⅰ区1面下(南東部) 白針・赤色粒
図26 258	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.3)	(4.8)	1.6	1/4		ナデ	板状	淡橙	Ⅰ区1面下(南東部) 白針・赤色粒 穿孔2ヶ所
図26 259	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.2	8.0	3.3	完形	150.2	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下(南東部) 白針・赤色粒
図26 260	舶載磁器	白磁 碗Ⅸ-2a類	—	—	4.7	体～底 1/2		ナデ	板状	灰白	Ⅰ区1面下(南東部) 黒色粒
図26 261	舶載磁器	白磁 型押文皿	—	—	[1.1]	口小片				暗緑灰	Ⅰ区1面下(南東部) 内面に菊花文
図26 262	石製品	砥石	長さ [4.8]	幅 2.6	厚さ 2.6	両端欠		ナデ	板状	赤味暗灰	Ⅰ区1面下(南東部) 中砥(天草)
図26 263	鉄製品	釘	長さ 10.8	幅 1.0	厚さ 1.1	完形	21.7	ナデ	板状	橙	Ⅰ区1面下(南東部)
図26 264	鉄製品	釘	長さ 6.8	幅 0.7	厚さ 0.7	略完形	[8.7]				Ⅰ区1面下(南東部)
図26 265	鉄製品	釘	長さ 7.2	幅 0.7	厚さ 0.6	略完形	[6.8]			橙	Ⅰ区1面下(南東部)
図26 266	銅製品	銭 天禧通寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.6				Ⅰ区1面下(南東部) 中国北宋代 1017年初鋳
図26 267	銅製品	銭 天聖元寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.1				Ⅰ区1面下(南東部) 中国北宋代 1023年初鋳
図26 268	銅製品	銭 皇宋通寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形	3.6				Ⅰ区1面下(南東部) 中国北宋代 1038年初鋳
図26 269	銅製品	銭 紹聖元寶 (行書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.5				Ⅰ区1面下(南東部) 中国北宋代 1094年初鋳
図26 270	銅製品	銭 政和通寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.6				Ⅰ区1面下(南東部) 中国北宋代 1111年初鋳
図26 271	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.9	1.6	完形	52.4	ナデ	板状	淡橙	Ⅰ区2面下
図26 272	在地土器	ロクロかわらけ 大	(13.1)	(7.4)	3.8	1/3		ナデ		淡橙	Ⅰ区2面下 白針・赤色粒
図26 273	在地土器	かわらけ 転用円盤	直径 3.3	—	厚さ 0.8	3/4				橙	Ⅰ区2面下 白針・赤色粒
図26 274	在地土器	土師器 台付甕	胴部径 (5.1)	—	[6.2]	脚片				橙灰	Ⅰ区2面下(Ⅳ層) 白針・角閃石 内外面ハケ調整
図26 275	在地土器	ロクロかわらけ 小	(8.3)	(6.6)	1.4	2/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅰ区2面下 遺構438 白針
図26 276	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.4	6.8	3.6	略完形	[186.0]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 遺構455 白針
図26 277	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.1)	4.0	2.3	口1/3 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下 遺構458 白針 口縁部一部に煤付着
図26 278	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.2	1.9	略完形	[58.5]	ナデ	板状	明黄灰	Ⅱ区1面下 遺構459 白針・赤色粒
図26 279	鉄製品	刀子	長さ [21.8]	幅 2.0	厚さ 0.5	先端欠損	[56.6]				Ⅱ区1面下 遺構460
図26 280	鉄製品	釘	長さ 7.0	幅 0.9	厚さ 0.7	完形					Ⅱ区1面下 遺構460

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図26 281	銅製品	銭 政和通寶 (隷書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	4.1				Ⅱ区1面下 遺構460 中国北宋代 1111年初鋳
図26 282	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.7	2.2	略完形	[49.0]	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下 遺構467 白針
図26 283	鉄製品	釘	長さ 7.0	幅 0.5	厚さ 0.7	完形					Ⅱ区1面下 遺構467
図26 284	鉄製品	釘	長さ [7.2]	幅 0.7	厚さ 0.5	上端欠損					Ⅱ区1面下 遺構467
図26 285	銅製品	銭 乾元重寶か (真書)	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	一部欠損	[1.9]				Ⅱ区1面下 遺構467 中国唐代 758年初鋳
図26 286	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	4.7	2.1	略完形	[44.0]	ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下 白針
図26 287	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	4.1	2.3	完形	45.0	ナデ		橙	Ⅱ区1面下 白針
図26 288	陶器	備前 すり鉢	—	(13.3)	[5.1]	底2/3				橙	Ⅱ区1面下 内面摩耗 条線7本
図27 289	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.3	1.6	3/4		ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針
図27 290	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.8	2.0	略完形	65.6	ナデ		橙	Ⅱ区1面下(北東部)
図27 291	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.9	2.2	略完形	[46.0]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針
図27 292	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.9	2.0	口2/3 底完存		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下(北東部) 口縁部歪み(片口か)
図27 293	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.3	1.8	略完形	[56.0]	ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針
図27 294	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.2	1.6	2/3		ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針
図27 295	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.1	4.3	2.5	略完形	[59.0]	ナデ		黄灰	Ⅱ区1面下(北東部) 白針
図27 296	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.1	4.9	1.6	完形	57.0	ナデ		橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針
図27 297	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.2	4.1	2.3	略完形	[44.9]	ナデ		橙	Ⅱ区1面下(北東部) 体部内外面に煤付着
図27 298	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.2	4.2	2.2	口2/3 底完存	[154.0]	ナデ	板状	黄灰	Ⅱ区1面下(北東部) 白針 口縁部に煤付着
図27 299	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.3	8.1	3.1	口2/3 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針・赤色粒
図27 300	在地土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	8.3	3.5	口1/3 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下(北東部) 白針・赤色粒
図27 301	舶載磁器	龍泉窯系青磁 坏Ⅲ-4b類	—	(5.8)	[1.8]	1/4				暗灰緑	Ⅱ区1面下②(北東部) 内面面に双魚文貼付
図27 302	舶載磁器	白磁 合子身	(5.6)	(4.1)	1.8	1/3				灰緑	Ⅱ区1面下②(北東部) 型作り 外面連弁文
図27 303	陶器	常滑片 転用研磨具	長さ 6.9	幅 4.8	厚さ 1.6	胴部片				灰褐	Ⅱ区1面下(北東部) 長石・石英
図27 304	石製品	滑石鍋片 転用スタンプ	長さ 6.2	幅 2.7	厚さ 1.6	完形					Ⅱ区1面下②(北東部) 花菱文押印 側辺い穿孔2ヶ所
図27 305	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅 0.9	厚さ 0.6	完形					Ⅱ区1面下(北東部)
図27 306	鉄製品	釘	長さ 4.2	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					Ⅱ区1面下(北東部)
図27 307	鉄製品	釘	長さ 4.2	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					Ⅱ区1面下(北東部)
図27 308	鉄製品	釘	長さ [7.8]	幅 0.9	厚さ 0.8	下端欠					Ⅱ区1面下(北東部)
図27 309	銅製品	銭 熙寧元寶 (篆書)	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.4				Ⅱ区1面下(北東部) 中国北宋代 1068年初鋳
図27 310	銅製品	銭 元符通寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	3.5				Ⅱ区1面下(北東部) 中国北宋代 1098年初鋳
図27 311	銅製品	銭 嘉定通寶 (真書)	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	一部欠	3.2				Ⅱ区1面下(北東部) 背文:八(真書) 中国南宋代 1208年初鋳
図27 312	石製品	砥石	長さ [7.1]	幅 3.6	厚さ 3.3	片端欠				灰	Ⅱ区1面下②(北東部) 仕上げ砥(鳴滝)
図27 313	鉄製品	釘	長さ 7.0	幅 0.7	厚さ 0.7	完形	8.4				Ⅱ区1面下②(北西部)
図27 314	鉄製品	釘	長さ 5.6	幅 0.7	厚さ 0.6	完形	4.6				Ⅱ区1面下②(北西部)
図27 315	銅製品	銭 聖宋元寶 (行書)	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.1				Ⅱ区1面下②(北西部) 中国北宋代 1101年初鋳

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図27 316	石製品	台石か	9.2	8.1	4.1	完形					Ⅱ区1面下②(南東部) 輝緑凝灰岩 中央凹み
図27 317	鉄製品	釘	長さ 8.3	幅 0.4	厚さ 0.3	完形					Ⅱ区1面下②(南東部) 錆化顕著
図27 318	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	4.8	1.6	4/5		ナデ	板状	明黄灰	Ⅱ区1面下②(南西部) 白針･赤色粒
図27 319	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	4.9	1.9	1/2		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下②(南西部) 白針 口縁部に煤付着
図27 320	舶載磁器	龍泉窯系青磁 坏Ⅲ-1a類	7.8	4.2	3.0	1/2				明灰緑 不透明	Ⅱ区1面下②(南西部)
図27 321	在地土器	ロクロかわらけ 小	(8.4)	(5.3)	1.8	1/2		ナデ	板状	淡橙灰	Ⅱ区1面下② 遺構474 白針･赤色粒
図27 322	舶載磁器	白磁 皿Ⅸ-1c類	(11.2)	(5.9)	3.6	1/3				灰白 不透明	Ⅱ区1面下② 遺構474
図27 323	陶器	瀬戸 入子	(4.2)	3.2	1.2	口1/3 底完存				暗灰	Ⅱ区1面下② 遺構474
図27 324	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.2	4.5	1.9	4/5		ナデ	板状	明橙灰	Ⅱ区1面下② 遺構477 白針･赤色粒
図27 325	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.3	5.4	1.8	略完形	[52.7]	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下② 遺構477 白針
図27 326	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.4	2.0	2/3		ナデ	板状	明橙灰	Ⅱ区1面下② 遺構477 糸切り離し失敗で上げ底状
図27 327	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.5	7.5	3.3	完形	189.5	ナデ	板状	橙灰	Ⅱ区1面下② 遺構493 白針
図27 328	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.7	8.0	3.7	略完形	[174.8]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下② 遺構493 白針･赤色粒
図27 329	石製品	砥石	長さ [5.1]	幅 3.4	厚さ 0.6	下端欠				淡黄桃	Ⅱ区1面下② 遺構493 仕上げ砥(鳴滝)
図27 330	鉄製品	用途不明	長さ [7.6]	幅 1.0	厚さ 0.1	不明					Ⅱ区1面下② 遺構493 錆化顕著
図27 331	陶器	瀬戸 無台碗	(13.2)	(7.1)	4.3	1/4				灰白	Ⅱ区1面下② 遺構508
図27 332	陶器	瀬戸 折縁深皿	(21.0)	—	[4.5]	1/5				灰	Ⅱ区1面下② 遺構508 中期前半か
図27 333	瓦質土器	香炉	—	—	3.6	口小片				暗灰	Ⅱ区1面下② 遺構508 連珠文貼付け･雷文押印
図27 334	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅 0.5	厚さ 0.3	完形					Ⅱ区1面下② 遺構508
図27 335	鉄製品	釘	長さ [5.2]	幅 0.7	厚さ 0.7	片端欠					Ⅱ区1面下② 遺構508
図27 336	鉄製品	釘	長さ [4.8]	幅 0.5	厚さ 0.5	片端欠					Ⅱ区1面下② 遺構508
図28 337	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	5.6	1.3	略完形	[51.0]	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下②～3面 白針
図28 338	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	5.0	1.6	完形	51.0	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下②～3面 白針
図28 339	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.9	1.7	3/4		ナデ		黄橙	Ⅱ区1面下②～3面 白針
図28 340	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	5.8	1.8	略完形		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区1面下②～3面 白針
図28 341	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	6.6	2.4	口1/2 底完存		ナデ		橙	Ⅱ区1面下②～3面 白針 口縁部に煤付着
図28 342	在地土器	ロクロかわらけ 大	13.8	8.0	3.8	口1/3 底完存		ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下②～3面 白針
図28 343	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗Ⅱ-c類	—	(4.7)	[3.1]	底部				灰緑	Ⅱ区1面下②～3面 内底面に陰刻草花文
図28 344	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗Ⅰ類	—	—	[3.4]	口小片				淡青灰	Ⅱ区1面下②～3面
図28 345	舶載陶器	褐釉壺	(5.75)	—	[2.3]	口小片				茶褐	Ⅱ区1面下②～3面 外面釉薬剥落
図28 346	陶器	折縁深皿	(25.8)	—	[7.1]	口1/8				淡灰緑	Ⅱ区1面下②～3面 前Ⅳ期か
図28 347	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(37.5)	(13.2)	9.7	1/4				橙	Ⅱ区1面下②～3面 7型式か 石英
図28 348	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(35.2)	(16.4)	10.8	口小 底1/3				赤～茶褐	Ⅱ区1面下②～3面 7～8型式か 白色粒
図28 349	陶器	常滑片 転用研磨具	長さ 5.6	幅 5.8	厚さ 1.2	胴部片				橙	Ⅱ区1面下②～3面

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		(g)				
図28 350	石製品	硯	長さ [4.10]	幅 [4.10]	厚さ 1.1	一部欠				赤褐	Ⅱ区1面下②～3面 赤間ヶ石製鎌倉手
図28 351	鉄製品	釘	長さ 8.4	幅 0.6	厚さ 0.7	完形					Ⅱ区1面下②～3面
図28 352	鉄製品	釘	長さ 8.7	幅 0.7	厚さ 0.7	完形					Ⅱ区1面下②～3面
図28 353	鉄製品	釘	長さ 5.4	幅 0.4	厚さ 0.5	完形					Ⅱ区1面下②～3面
図28 354	鉄製品	釘	長さ 6.6	幅 0.6	厚さ 0.6	完形					Ⅱ区1面下②～3面
図28 355	鉄製品	釘	長さ [7.5]	幅 0.8	厚さ 0.6	下端欠					Ⅱ区1面下②～3面
図28 356	鉄製品	釘	長さ [6.9]	幅 0.8	厚さ 0.6	下端欠					Ⅱ区1面下②～3面
図28 357	銅製品	銭 天禧通寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	3.7				Ⅱ区1面下②～3面 中国北宋代 1017年初鋳
図29 358	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.0	1.9	2/3		ナデ	板状	淡黄橙	Ⅱ区2面 遺構514 白針
図29 359	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.3	1.9	完形	52.2	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構514 白針・赤色粒
図29 360	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	4.6	2.4	1/2		ナデ		橙灰	Ⅱ区2面 遺構514 白針・赤色粒
図29 361	陶器	瀬戸 洗（盤）	—	—	3.1	口小片				淡灰緑	Ⅱ区2面 遺構514 Ⅰb期か
図29 362	石製品	滑石製 紡錘車	直径 4.5	孔径 0.8	厚さ 1.8	完形	63.3			暗茶	Ⅱ区2面 遺構514 丁寧なミガキ仕上げ
図29 363	鉄製品	釘	長さ 7.3	幅 0.6	厚さ 0.7	完形					Ⅱ区2面 遺構514
図29 364	鉄製品	釘	長さ 6.7	幅 0.7	厚さ 0.4	完形					Ⅱ区2面 遺構514
図29 365	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.6	4.9	1.9	4/5		ナデ	板状	明黄灰	Ⅱ区2面 遺構516(542) 白針
図29 366	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	5.0	2.0	完形	55.7	ナデ	板状	明黄灰	Ⅱ区1面下② 遺構517 白針・赤色粒
図29 367	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.4	5.5	1.8	4/5		ナデ	板状	橙	Ⅱ区1面下② 遺構533
図29 368	在地土器	ロクロかわらけ 極小	4.3	2.8	1.1	完形	14.4	ナデ	板状	明橙灰	Ⅱ区2面 遺構540
図29 369	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.3	1.7	4/5		ナデ	板状	淡橙灰	Ⅱ区2面 遺構541
図29 370	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.3	5.8	1.7	完形	56.0	ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 371	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.8	1.6	完形	51.0	ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541 白針
図29 372	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	5.2	1.8	2/3		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 373	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.7	5.0	1.9	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 374	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	5.2	1.8	完形	61.0	ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 375	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	5.2	1.7	4/5		ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 376	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.8	5.1	1.8	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 377	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.4	1.6	4/5		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 378	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.0	5.8	1.7	完形	60.0	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 379	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	5.0	1.9	完形	59.0	ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 380	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.4	4.9	1.6	完形	44.0	ナデ	板状	明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 381	在地土器	ロクロかわらけ 小	11.5	6.6	3.3	3/4		ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 382	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.1	5.6	1.7	3/4		ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒 内外面黒変
図29 383	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.9	4.9	2.1	略完形	[45.4]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 384	在地土器	ロクロかわらけ 小	8.1	5.5	1.6	略完形	[46.6]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図29 385	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.5	4.5	2.2	略完形	[45.9]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 386	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.9	7.9	3.3	2/3		ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構541 白針・赤色粒
図29 387	陶器	常滑 甕	—	—	[2.3]	口1/5				茶灰	Ⅱ区2面 遺構541 6a型式 赤色粒・白色粒
図29 388	瓦質土器	火鉢Ⅰc類	—	—	9.8	1/6				灰	Ⅱ区2面 遺構541
図29 389	鉄製品	釘	長さ 7.5	幅 0.6	厚さ 0.6	下端欠					Ⅱ区2面 遺構541 錆化顕著
図29 390	鉄製品	釘	長さ 7.1	幅 0.6	厚さ 0.6	完形					Ⅱ区2面 遺構541 錆化顕著
図29 391	鉄製品	釘	長さ [6.9]	幅 0.5	厚さ 0.6	下端欠					Ⅱ区2面 遺構541
図29 392	鉄製品	釘	長さ [7.4]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠					Ⅱ区2面 遺構541
図29 393	鉄製品	釘	長さ [6.4]	幅 0.4	厚さ 0.2	上端欠					Ⅱ区2面 遺構541
図29 394	銅製品	銭 宋通元寶 (真書)	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形	3.0				Ⅱ区2面 遺構541 中国北宋代 960年初鋳
図29 395	在地土器	ロクロかわらけ 小	(7.4)	(6.0)	1.3	1/4				明黄褐	Ⅱ区2面 遺構541掘方 白色粒 全体に黒変
図29 396	在地土器	手づくねかわらけ 大	—	—	3.3	口小片				橙	Ⅱ区2面 遺構541掘方 白針・赤色粒・白色粒
図29 397	陶器	瀬戸 卸皿	—	—	2.5	口～底 小片				淡灰白緑	Ⅱ区2面 遺構542(516) 中Ⅱ期か 薄くハケ塗り
図29 398	在地土器	ロクロかわらけ 小	7.0	4.4	2.2	4/5		ナデ		暗橙灰	Ⅱ区2面 遺構552 白針 口縁～体部内面に煤付着
図29 399	在地土器	ロクロかわらけ 中	11.3	6.9	3.4	完形	126.3	ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構552 白針
図29 400	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.0	8.0	3.2	完形	186.1	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構552 白針・赤色粒
図29 401	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	7.5	3.3	略完形	[179.6]	ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構552周辺 白針・赤色粒
図29 402	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.5	7.9	3.4	完形	168.8	ナデ	板状	橙	Ⅱ区2面 遺構552周辺 白針・赤色粒
図29 403	舶載磁器	同安窯系青磁 皿Ⅰ-1b類	—	(4.6)	1.2	底1/4				灰緑 透明	Ⅱ区2面 遺構552周辺
図29 404	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	8.1	3.7	2/3		ナデ		橙	Ⅱ区2面 遺構553(551) 白針・赤色粒
図29 405	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.5	7.5	3.3	略完形	[163.3]	ナデ	板状	黄橙	Ⅱ区2面 遺構外 遺構外 白針・赤色粒
図29 406	在地土器	ロクロかわらけ 大	12.8	8.6	3.2	略完形	[171.3]	ナデ	板状	橙灰	Ⅱ区2面 遺構外 白針・赤色粒
図30 407	在地土器	手づくねかわらけ 大	15.3	—	2.7	1/3		ナデ		黄橙	Ⅱ区3面 遺構573(上層) 白針・赤色粒
図30 408	舶載磁器	龍泉窯系青磁 皿Ⅰ-2a類	(9.4)	(3.3)	2.1	口1/3 底完存				灰 透明	Ⅱ区3面 遺構573(上層) 貫入・気泡
図30 409	陶器	渥美 甕	(56.0)	—	[6.7]	口1/6				ｵﾘｰﾌﾞ灰 ～暗灰	Ⅱ区3面 遺構573(上層) 2a型式か 白色粒
図30 410	瓦	平瓦	長さ [19.5]	幅 [12.2]	厚さ 2.1	広端面 片側辺				灰	Ⅱ区3面 遺構573(上層) 永福寺女瓦Ａ類 白・黒色粒 凸面:縄目叩き・タテナデ・離れ砂 凹面:縄目叩き・糸切り痕・離れ砂
図30 411	瓦	平瓦	長さ [17.9]	幅 [14.8]	厚さ 2.1	広端面 片側辺				灰	Ⅱ区3面 遺構573(上層) 永福寺女瓦A類 白色粒 凸面:縄目叩き・糸切り痕・タテナデ 凹面:ナデ・糸切り痕・離れ砂
図30 412	石製品	硯	長さ [5.9]	幅 6.9	厚さ 1.2	陸のみ				暗灰	Ⅱ区3面 遺構573(上層) 鳴滝産 表裏にキズ顕著
図30 413	在地土器	ロクロかわらけ 小	9.5	7.2	1.8	略完形	89.7	ナデ	板状	橙	Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 白針・赤色粒
図30 414	在地土器	手づくねかわらけ 小	10.0	7.7	2.1	1/3		ナデ		明黄褐	Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 白針・赤色粒
図30 415	在地土器	手づくねかわらけ 小	(9.7)	—	1.7	1/2		ナデ		黄橙	Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 白針・赤色粒
図30 416	在地土器	手づくねかわらけ 大	(13.4)	—	(3.5)	1/4		ナデ		橙灰	Ⅱ区3面 遺構573 (埋土上層下)白針・白色粒

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	法量（cm）			残存率	重量（g）	内底調整	外底圧痕	色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
図30 417	在地土器	手づくねかわらけ 大	(14.0)	—	3.1	1/3		ナデ		明黄褐	Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 白針・赤色粒・白色粒
図30 418	舶載陶器	泉州窯系 黄釉盤			[4.0]	口小片		ナデ	板状	ｵﾘｰﾌﾞ灰～茶褐	Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 白色粒・黒色粒
図30 419	舶載陶器	泉州窯系 黄釉鉄絵盤	—	(28.0)	[4.1]	底小片				灰～茶褐	Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 白色粒・黒色粒
図30 420	陶器	常滑片 転用研磨具	5.4	3.5	1.2	完形				褐	Ⅱ区3面 遺構573 (埋土上層下)長石・石英
図31 421	鹿角製品	刀子柄？	10.0	5.0	1.9	完形					Ⅱ区3面 遺構573(埋土上層下位) 加工途中品か
図31 422	鉄製品	錐か	長さ [11.0]	幅 0.5	厚さ 0.4	上部欠					Ⅱ区3面 遺構573(上層下) 木質が固着(柄か)
図31 423	鉄製品	釘	長さ 12.5	幅 0.45	厚さ 0.55	完形					Ⅱ区3面 遺構573(上層下)
図31 424	鉄製品	釘	長さ 6.5	幅 0.3	厚さ [0.6]	完形					Ⅱ区3面 遺構573(上層下)
図31 425	陶器	須恵器 坏H身	受部径 (10.0)	(7.5)	2.8	1/3				灰	Ⅱ区3面下 遺構578 白色粒
図31 426	陶器	須恵器 坏H身	受部径 (10.0)	(7.6)	2.8	1/3				灰	Ⅱ区3面下 遺構578
図31 427	在地土器	土師器 長胴甕	(20.6)	—	[25.0]	口小 胴1/4				暗橙	Ⅱ区3面下 遺構578 体部外面ヘラケズリ
図31 428	在地土器	土師器 坏	—	—	[3.3]	略完形				暗黄橙	Ⅱ区3面 遺構外 白針 外面:ヨコナデ＋ヘラケズリ 内面に放射状暗文
図31 429	在地土器	土師器 坏	11.5	6.6	3.3	口小 底1/2				暗灰橙	Ⅱ区3面下 白色粒 体部外面ヘラケズリ
図31 430	在地土器	土師器 甕	—	—	[5.8]	口小片				橙	Ⅰ区3面下(北西部) 白針 外面:ヨコヘラナデ＋ヘラミガキ 内面:ヨコナデ
図31 431	銅製品	銭 皇宋通寶 (篆書)	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形	3.3				Ⅰ区3面下(南東部) 中国北宋代 1039年初鋳
図31 432	在地土器	土師器 甕	—	—	[6.6]	口小片				暗橙灰	Ⅰ区3面下(北東部) 白針・角閃石 外面:ヘラケズリ 内面:ハケ調整＋ヨコナデ
図31 433	瓦	平瓦	長さ [12.4]	幅 [10.8]	厚さ 2.1	側端面				暗灰	Ⅰ区3面下(北東部) 精良土、白色粒 凸面:細かい斜格子叩き 凹面:布目痕 非貫通孔あり
図31 434	石製品	滑石製 勾玉模造品か	長さ [4.2]	幅 2.1	厚さ 0.5	下端欠損					Ⅰ区3面下(北東部) 孔径0.3cm

第五章　調査成果のまとめ

今回は約 217 ㎡という、比較的まとまった面積を発掘調査することができた。再三述べているように、本地点では明確な整地面の累層を見て取ることはできず、埋め立てと地ならしを繰り返して土地利用がなされてきたものと理解できた。よって、現地調査では掘り下げと遺構確認を複数回にわたって行ったものの、各遺構を「面」に帰属させることはできず、掘り下げの段階に従って「1 面下」や「1 面下②」などと分かりにくい表現方法を取ってしまった。こうして示した各段階（時期区分）は現地での検出順を反映しているに過ぎず、同じ全体図に掲載された遺構であっても、本来の掘り込み層が異なっている可能性は十分にある。

こうした遺跡の状況について、十分に整理しきれないまま本報告書の作成を進めてしまった。結果的に遺物図の配置等に統一性を持たせることができず、分かりにくい提示方法となってしまった点、反省している。その中でも、大まかにではあるが把握できた遺構の変遷と年代観について、以下でまとめることにしたい。

第 1 節　1 面～ 2 面下遺構群の年代

1 面は表土層の直下、Ⅱ層の上面で検出された。近代以降の撹乱の他、Ⅰ層を埋土とする土坑が検出された。土坑からはかわらけ他の中世遺物が少なからず出土しているが、埋土の様相から判断すると、近世以降の所産である可能性が高い。

1 面下～ 2 面下では竪穴建物をはじめ、土坑・ピットが重複して検出された。遺構の確認順からは、竪穴建物が主体となる時期が先行し（2 面）、次いで土坑群中心の土地利用（1 面下②→ 1 面下）に移行するものと推測される。ただ、遺構展開に対応するような遺物様相の変化は見出せず、一連の遺構形成は比較的短期間のうちに進み、その後、長くは継続しなかった状況を推察させる。

Ⅱ区の 1 面下で検出された据甕遺構（遺構 448）では、常滑 8 型式の大甕を土中に埋め込んでおり、生産地の年代観から 14 世紀後半に位置付けることができるが、伴出したロクロかわらけは 14 世紀前葉～中頃を大幅に下るものとは見なしにくい。近年、瀬戸窯製品との伴出関係から常滑 8 型式を 14 世紀前葉に置く見方が支持されており（藤澤・山本 2015）、遺構 447 については違和感なく受け止められる。耐久性の高い搬入品＝常滑甕に比べて、在地産かわらけは生産から消費・廃棄までのスパンが短かったと考えるべきで、本遺構の中では最も新しい製作年代を当てて良いだろう。8 型式の年代観が流動的であることは意識しつつ、取り敢えず 1 面下の下限年代を 14 世紀中頃までと考えておきたい。

2 面下の検出遺構は、基本的に 2 面調査時までに確認できなかった「掘り残し」と考えている。ここからの出土遺物は小破片が中心で全体量も少ないが、かわらけについてはロクロ成形品が殆どを占め、手づくねは散見される程度である。こうした傾向と、3 面井戸（遺構 573）では手づくねが主体となる状況を考え合わせると、2 面下の検出遺構は手づくねかわらけの消失後に形成されたもの、という解釈が導き出せる。手づくねの消失時期についても研究者によって異同はあるが、ここでは 13 世紀中葉と考え、ここを 2 面下の上限年代に置くことにしたい。

以上の検討から、2 面下～ 1 面下で検出された複数段階にわたる遺構群が 13 世紀中葉～ 14 世紀中葉の年代幅に収まることを指摘できる。この間の遺物様相も、従来の編年研究からは逸脱しない。ただ、

遺物の主体となるロクロかわらけは低平なものから深身器形へと変化する傾向は窺えるが、使用状況が良好に把握できる事例がなかったため、個々の遺構について正確な構築～廃絶の年代を絞り込むことは難しい。鎌倉時代後期に当たる13世紀後半～14世紀前葉が都市鎌倉の発展期であることは、これまでの発掘知見の蓄積によって明らかとされてきた。今回の調査成果からも、そうした都市としての発展や人口の稠密化を追認する情報を得ることができた。

第2節　3面遺構の年代と土地利用

今回、3面に帰属する遺構は、Ⅱ区で検出された井戸1基（遺構573）のみであった。大量の湧水にともなう砂の流入のため、井戸枠内部～掘方までを確認することができなかったが、井戸廃絶後の凹地に永福寺Ⅰ期所用瓦を一括廃棄しており、伴出した土器・陶磁器にも13世紀前葉を大幅に下る資料はなかった。この点、前節で述べた2面下以降の推定年代とは一定程度の時間的断絶があったことを推察させる。

13世紀前葉以前の井戸の存在は、この時期、周囲で何らかの営みがあったことを示してはいるが、本地点では井戸以外の形跡は全く捉えることができなかった。よって現時点では当地の空間構成は復元できないが、ひとつ手掛かりを挙げ得るとすれば、やはり50㎏超という量の出土瓦だろう。総瓦葺きには到底及ばない量だが、永福寺創建期の所用瓦を部分的にでも用いる建物が存在したのだとすれば、その所有者や性格をめぐっては興味深い情報を含んでいることがいえるだろう。井戸の埋没後、土地の使われ方が一変する点も、中世鎌倉の都市形成史を考える上で重要な知見となる。

第3節　3面下の様相について

3面下では、Ⅱ区の西半部で南北に延びる流路状の落ち込みを確認できた（遺構578）。ここから出土した遺物は7世紀後葉～末頃の土器類が中心で、8世紀前半とされる鎌倉郡衙Ⅰ期に若干先行する資料といえる。郡衙遺構が発見された御成小学校地点の北約300ｍでは、7世紀後葉～末頃の所産とされる総柱式2棟を含む掘立柱建物が検出されており（斉藤建設2008）、遺構578の出土土器が使用されていた頃、律令国家の建設にも関わるような施設の造営が当地点周辺で始まっていたことを物語っている。本地点では郡衙に直接かかわるような知見はなかったが、今後、郡衙を核とした古代の空間構成が明らかとされる一助になればと思う。

また、中世層への混入資料も含め、古墳時代の所産遺物も散見された。土器類の他、グリーンタフ製管玉や滑石製紡錘車・円筒埴輪などがあるが、埴輪片については近隣の調査地でも時折出土しており、この周辺での高塚古墳の存在を示唆している。今のところ、その裏付けとなる遺構の発見例はないが、中世層の下位には、さらに古い時代の営みの跡が埋もれていることを念頭に置きながら、今後の調査に当たる必要があるだろう。

参考文献

斉藤建設2008『今小路西遺跡（No.201）発掘調査報告書―御成町17番1外地点―」

藤澤良祐・山本智子2015「中世常滑窯編年の再検討―5型式以降を中心に―」『上県2号窯跡　第9次発掘調査報告書』愛知学院大学文学部歴史学科

１．現地調査前（北東から）

２．Ⅰ区　表土掘削状況（東から）

３．Ⅰ区１面 全景（南から）

４．Ⅰ区２面 泥岩塊列（北から）

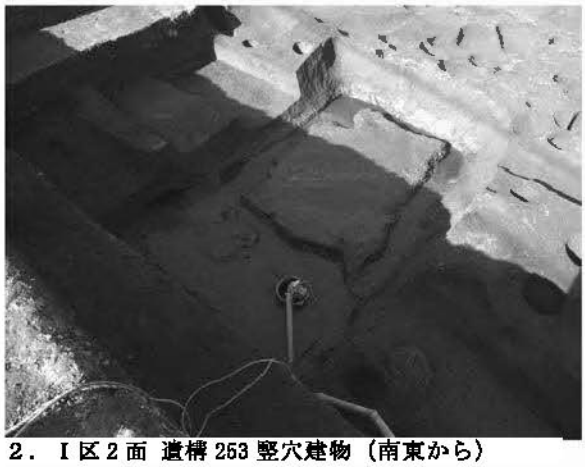
５．Ⅰ区２面 遺構 203 柱穴列（北から）

６．Ⅰ区２面 遺構 223 かわらけ検出状況（北から）

７．Ⅰ区２面 遺構 223b かわらけ出土状況（西から）

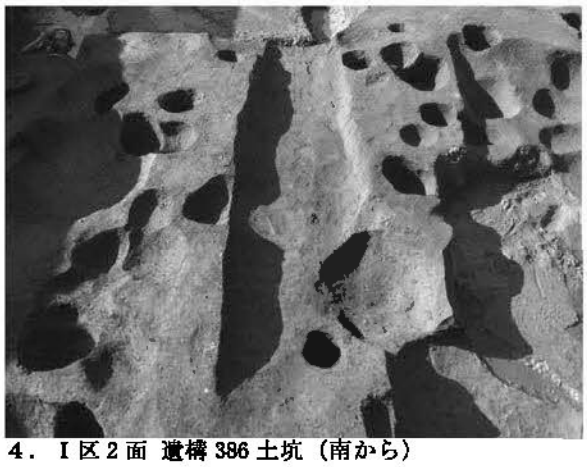
図版２

１．Ⅰ区２面 全景（西から）

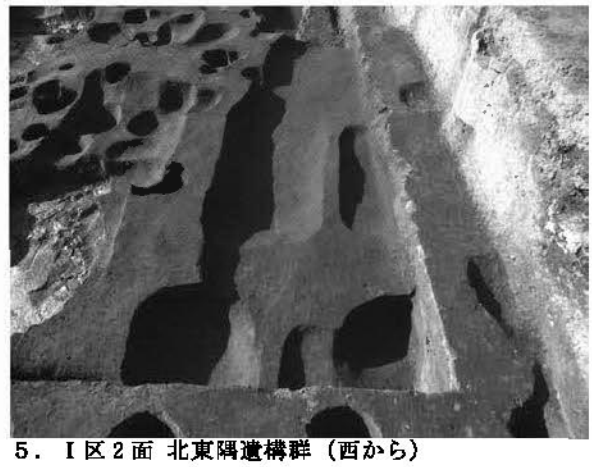


２．Ⅰ区２面 遺構 253 竪穴建物（南東から）

３．Ⅰ区２面 遺構 245 土坑（西から）



４．Ⅰ区２面 遺構 386 土坑（南から）



５．Ⅰ区２面 北東隅遺構群（西から）

１．Ⅰ区２面 遺構 324 土坑（南から）

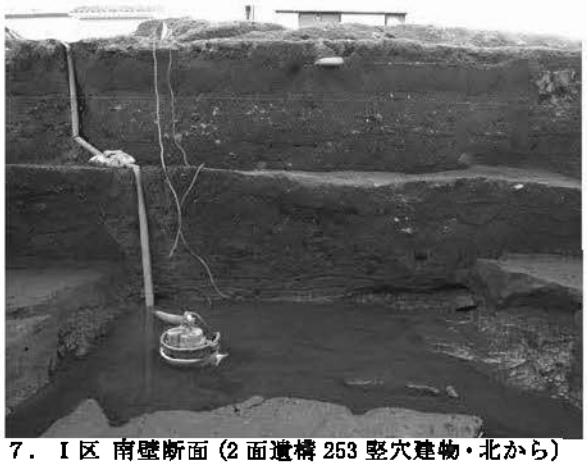
２．Ⅰ区２面 遺構 324 土坑 猫骨検出状況（南から）

３．Ⅰ区３面 全景（西から）

４．Ⅰ区３面上 管玉検出状況

５．Ⅰ区３面下トレンチ掘削後 全景（南から）

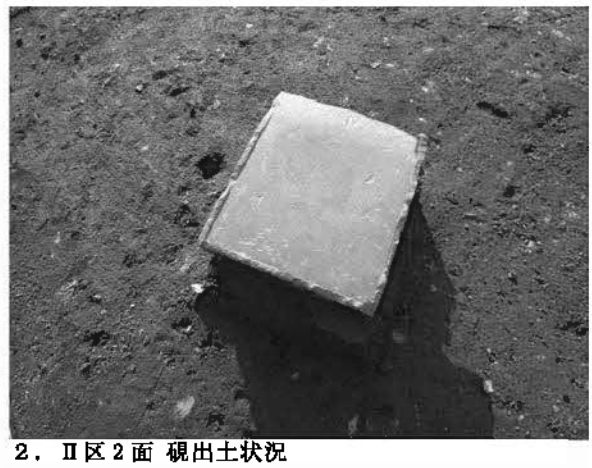
６．Ⅰ区３面下トレンチ（南から）


７．Ⅰ区 南壁断面（２面遺構 253 竪穴建物・北から）

８．Ⅰ区 埋め戻し作業状況（東から）

図版４

１．Ⅱ区１面 全景（西から）



２．Ⅱ区２面 硯出土状況

３．Ⅱ区２面 遺構 447 ～ 449（南から）

４．Ⅱ区２面 遺構 447 ～ 449（南東から）

５．Ⅱ区２面 遺構 447（南東から）

６．Ⅱ区２面 遺構 474 竪穴建物（北東から）

７．Ⅱ区２面 遺構 474 竪穴建物（西から）

８．Ⅱ区２面 遺構 516 竪穴建物（東から）

１．Ⅱ区２面 全景（北から）

２．Ⅱ区２面 遺構 541 竪穴建物（南西から）

３．Ⅱ区２面 遺構 514 竪穴建物（北西から）

４．Ⅱ区２面 遺構 516・542 竪穴建物（南東から）

５．Ⅱ区２面 遺構 552 土坑 遺物出土状況（西から）

図版６

１．Ⅱ区２面 全景（北から）

２．Ⅱ区２面下 遺構573井戸 粘土埋没状況(北西から)

３．Ⅱ区２面下 遺構573井戸 青磁皿出土状況

４．Ⅱ区２面下 遺構573井戸 遺物出土状況(南から)

５．Ⅱ区２面下 遺構573井戸 遺物出土状況(南東から)

1．Ⅱ区 3 面下 全景（北から）

2．Ⅱ区 3 面下 遺構 578 溝状遺構（北から）

3．Ⅱ区 3 面下 遺構 578 溝状遺構断面（北から）

4．Ⅱ区 3 面下 遺構 578 遺物出土状況（北から）

5．Ⅱ区埋め戻し後（北西から）

図版８

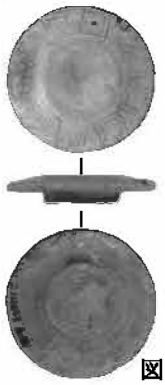
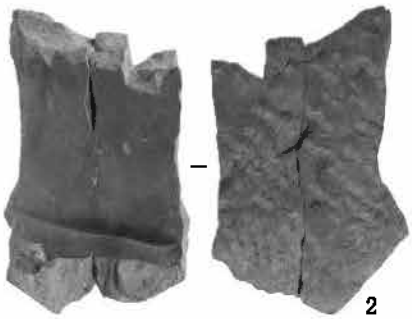


図 17-1

表面採集



2

Ⅰ区 1面 撹乱 1

4

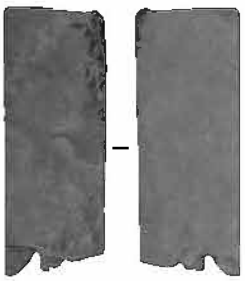
Ⅰ区 1面 撹乱 2

6

Ⅰ区 1面 撹乱 6

10

11



12

Ⅰ区 1面下

14

15

16

Ⅰ区 1面下～3面

17

18

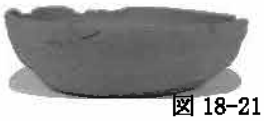
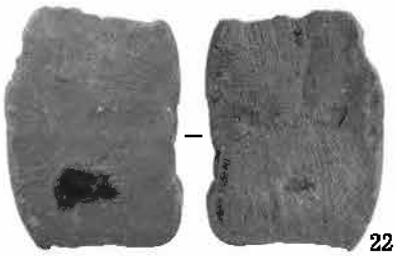


図 18-21

Ⅰ区 1面 遺構 5



22

27

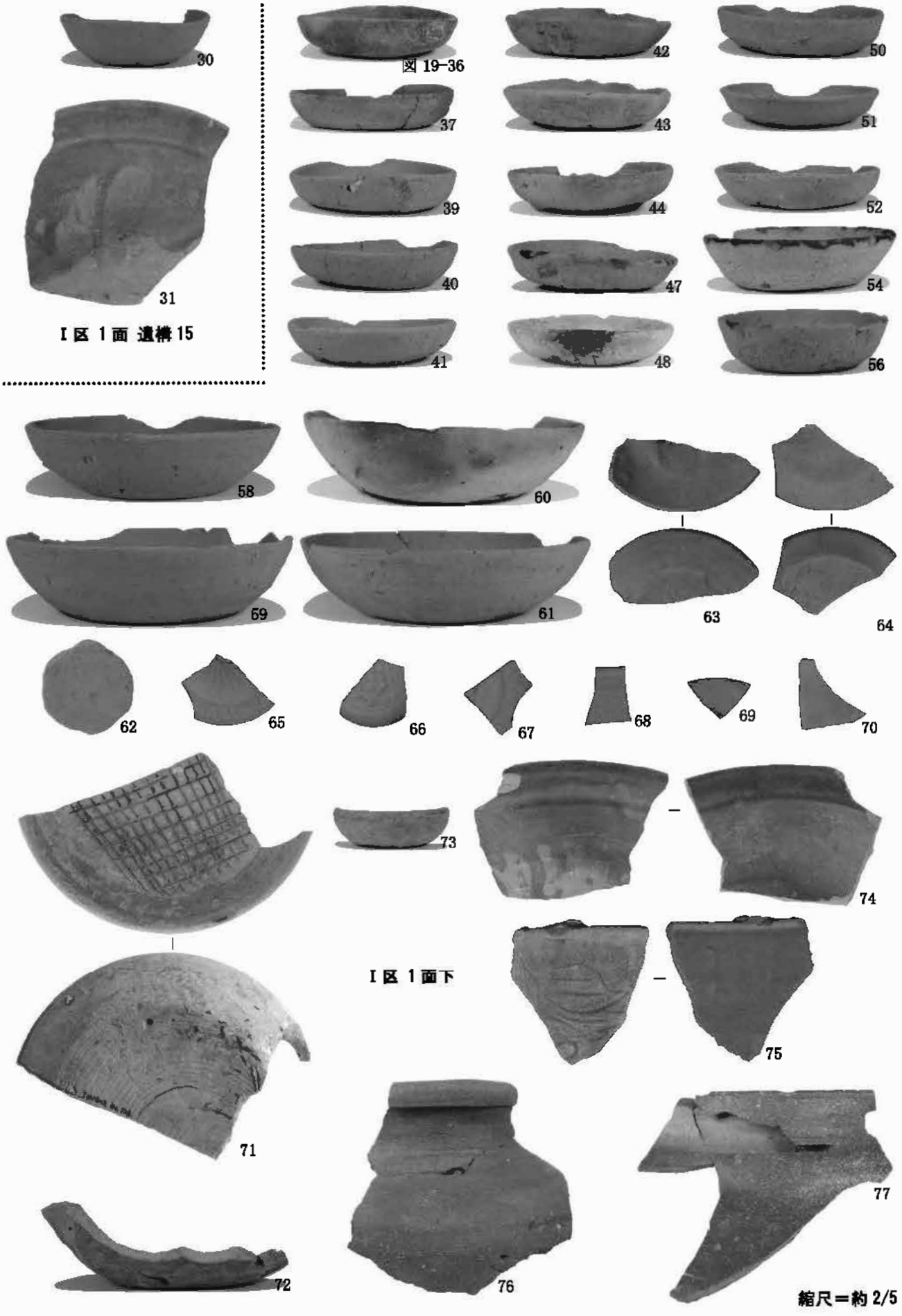
24

26

28

Ⅰ区 1面 遺構 6

縮尺＝約 2/5

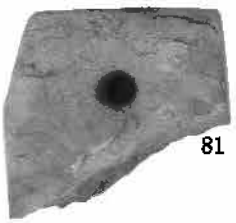

30
31
Ⅰ区 1面 遺構15
図 19-36
37
39
40
41
42
43
44
47
48
50
51
52
54
56
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
73
74
75
71
72
76
77
Ⅰ区 1面下
縮尺＝約 2/5

図版 10

図 20-78

79

80



81

83

85

82

84

I 区 1 面下

図 21-103　105

I 区 1 面下 遺構 211（遺構外）

107

I 区 1 面下 遺構 219

112

I 区 1 面下 遺構 221（遺構外）

109

110

I 区 1 面下 遺構

114

I 区 1 面下
遺構 222

115

116

117

I 区 1 面下
遺構 223

118

119

220

120

121

I 区 1 面下② 遺構 235

縮尺＝約 2/5

123

Ⅰ区 1面下② 遺構 239

128

Ⅰ区 1面下② 遺構 241 (321)

Ⅰ区 1面下② 遺構 272

133

図 22-134

136

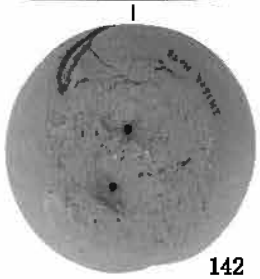
137

138

140

141

Ⅰ区 2面 遺構 253


142

144

147

148

149

151

153

Ⅰ区 1面下② 遺構 245

154

155

156

Ⅰ区 1面下② 遺構 288

157

158

159

160

161

162

163

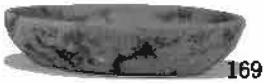
Ⅰ区 1面下② 遺構 291

166

Ⅰ区 2面 遺構 298

168

Ⅰ区 2面 遺構 301


169

170

171

172

Ⅰ区 2面 遺構 305

図 23-174

Ⅰ区 1面下② 遺構 321 (241)

縮尺＝約 2/5 (133 のみ実寸大)

図版 12

176

177

178

I 区 2 面 遺構 324

183

184

I 区 2 面 遺構 335

189

I 区 2 面 遺構 379

190

I 区 2 面 遺構 387

191

I 区 2 面下
Ⅳ層上

192

I 区 2 面 遺構外

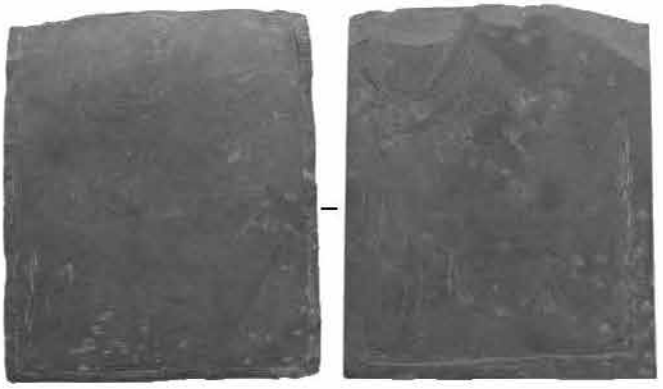
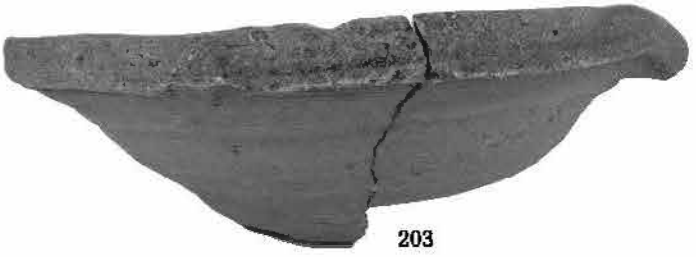

193

図 8-201

202


203

Ⅱ区 1 面下 遺構 448

縮尺＝約 2/5（191 のみ実寸大）

図 24-194

195

196

197

198

200

Ⅱ区 1 面下 遺構 447

縮 尺 ＝ 約 2/5
（200 は任意）

図版 14

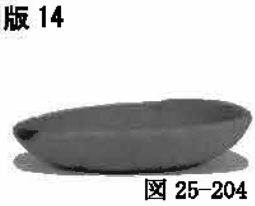


図 25-204

205

206

207

Ⅱ区 1面下 遺構 449

209

213

217

219

221

210

214

218

220

Ⅱ区 1面下

237

238

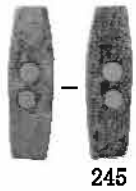
239

240

Ⅰ区 北東部 1面下

243

244

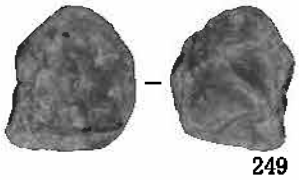

245

246

Ⅰ区 南西部 1面下

図 26-247

248


249

Ⅰ区 北部 1面下

257

258

259

262

Ⅰ区 南東部 1面下

271

Ⅰ区 2面下

274

Ⅰ区 2面下（Ⅳ層）

縮尺＝約 2/5

276

Ⅰ区 1面下 遺構 455

279

Ⅰ区 1面下 遺構 460

278

Ⅰ区 1面下 遺構 459

282

Ⅰ区 1面下 遺構 467

286

287

288

Ⅱ区 1面下

図 27-290

293

296

301

291

295

297

302

304

Ⅱ区 北東部 1面下

312

Ⅱ区 北西部 1面下②

316

317

Ⅱ区 南東部 1面下②

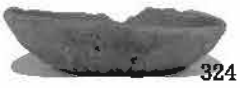
320

Ⅱ区 南西部 1面下②

322

323

Ⅱ区 1面下② 遺構 474


324

325

Ⅱ区 1面下② 遺構 477

327

328

Ⅱ区 1面下② 遺構 493

331

332

333

Ⅱ区 1面下② 遺構 508

縮尺＝約 2/5

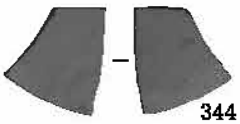
図版 16

図 28-337

338

340

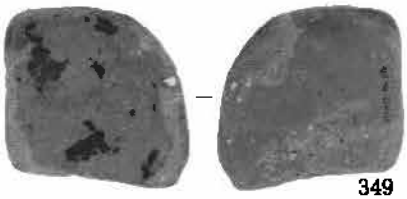
343


344

345

346

347


349

350

Ⅱ区 1面下②～3面

図 29-359

362

Ⅱ区 2面
遺構 514

365

Ⅱ区 2面 遺構 516 (542)

366

Ⅱ区 2面 遺構 517

368

Ⅱ区 2面 遺構 540

374

383

385

386

369

370

371

373

380

382

375

376

378

379

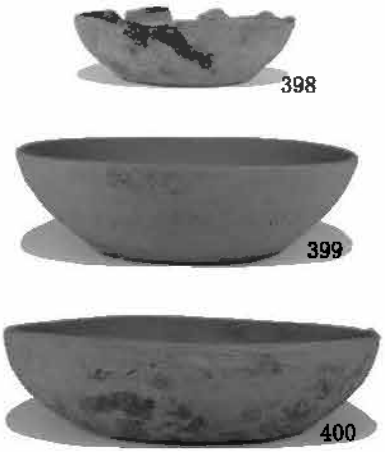
381

384

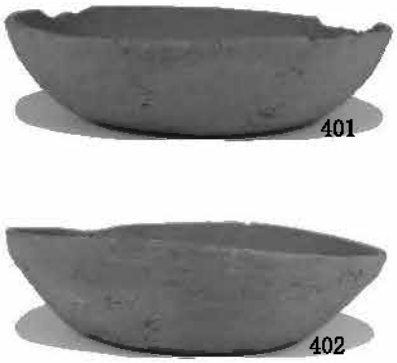
387

Ⅱ区 2面 遺構 541

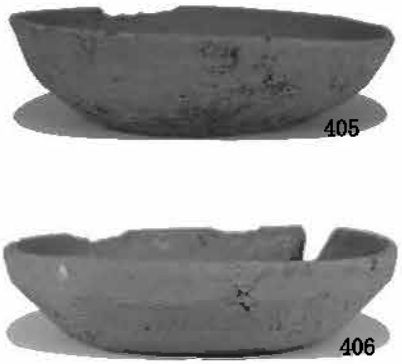
縮尺＝約 2/5



Ⅱ区 2面 遺構 552

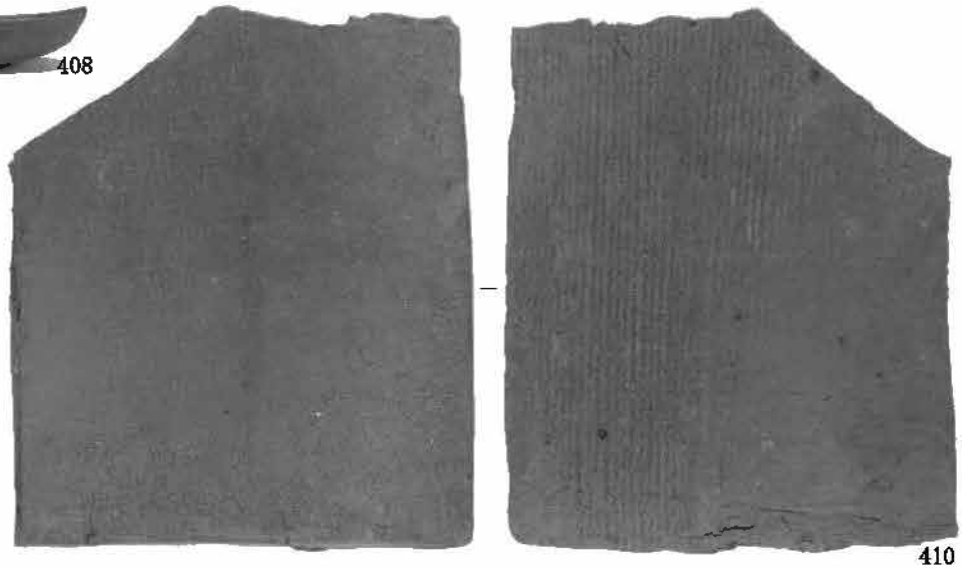


Ⅱ区 2面 遺構 552 周辺



Ⅱ区 2面 遺構外

409



Ⅱ区 3面 遺構 573 埋土上層

Ⅱ区 3面 遺構 573 上層下位

縮尺＝約 2/5

図版 18

図 31-425

426

427

Ⅱ区 3面下 遺構 578

428

Ⅱ区 3面下

図 32-429

Ⅱ区 3面 遺構外

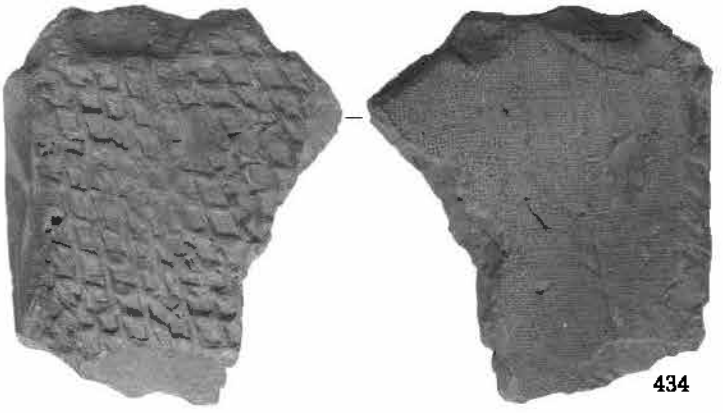
430

Ⅰ区 南東部 3面下

432

Ⅰ区 北東部 3面下

433



434

縮尺＝約 2/5

調査地上空より北東方向を望む

横小路周辺遺跡（No.259）

二階堂81番1地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市二階堂81番1において実施した、横小路周辺遺跡（鎌倉市No.259）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は平成29年9月4日から同年12月1日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、約68.25㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調　査　員　　伊丹まどか、岡田慶子、岡本夏菜、神田倫子、佐藤千尋、菅野知子、栂岡ケイト、松吉里永子、渡邊美佐子（以上、鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作　業　員　　遠藤雅廣、関塚　通、髙柳雅一、南齋敬資、新倉恒勝、松澤和通、三嶋義人、山口芳治（以上、公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）
整理作業参加者　伊丹まどか、岩崎卓治、岡田慶子、押木弘己、神田倫子、佐藤千尋、清水由加里、菅野知子、須佐直子、田畑衣里、栂岡ケイト、松吉里永子、吉田桂子（以上、鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

4．本報告の作成は、以下の分担で行った。

執筆・編集　　押木
遺構挿図作成　　押木
遺物挿図作成　　神田、菅野
写真図版作成　　押木、神田、清水
遺物観察表・カウント表作成　神田、松吉

5．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＹＫ１７０３」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。

2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正後）に基づいている。

3．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより0°　09′　25″ほど東に振れている。

4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

5．出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、 筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明　2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年―東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要　第56号　第4部　人文・社会・自然科学編』鶴見大学

◆瓦質土器：河野眞知郎　1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河　第2集』神奈川県考古学会

◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会　2000

◆瀬戸窯製品：藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史　別編窯業3　中世・近世常滑系』愛知県　2012

本文目次

第一章　遺跡の位置と周辺の発掘調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205
第二章　調査の方法と経過
　第１節　調査の経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
　第２節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第四章　検出遺構と出土遺物
　第１節　検出遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
　第２節　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
第五章　調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・275

挿図目次

図１　調査地点の位置・・・・・・・・・・・・206
図２　調査区配置図・・・・・・・・・・・・・208
図３　調査区壁土層断面図（上段）・・・・・210
図４　調査区壁土層断面図（中段）・・・・・211
図５　調査区壁土層断面図（下段）・・・・・212
図６　１面全体図・・・・・・・・・・・・・・213
図７　２面全体図・・・・・・・・・・・・・・213
図８　３面全体図・・・・・・・・・・・・・・215
図９　４面全体図・・・・・・・・・・・・・・215
図10　5a 面全体図・・・・・・・・・・・・・216
図11　5b 面全体図・・・・・・・・・・・・・216
図12　5c 面全体図・・・・・・・・・・・・・218
図13　5d 面全体図・・・・・・・・・・・・・218
図14　６面全体図・・・・・・・・・・・・・・219
図15　７面全体図・・・・・・・・・・・・・・219
図16　８面全体図・・・・・・・・・・・・・・220
図17　８面下全体図・・・・・・・・・・・・・220
図18　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・222
図19　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・223
図20　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・224
図21　出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・225
図22　出土遺物（5）・・・・・・・・・・・・226
図23　出土遺物（6）・・・・・・・・・・・・227
図24　出土遺物（7）・・・・・・・・・・・・228
図25　出土遺物（8）・・・・・・・・・・・・229
図26　出土遺物（9）・・・・・・・・・・・・230
図27　出土遺物（10）・・・・・・・・・・・231
図28　出土遺物（11）・・・・・・・・・・・232
図29　出土遺物（12）・・・・・・・・・・・233
図30　出土遺物（13）・・・・・・・・・・・234
図31　出土遺物（14）・・・・・・・・・・・235
図32　出土遺物（15）・・・・・・・・・・・236
図33　出土遺物（16）・・・・・・・・・・・237
図34　出土遺物（17）・・・・・・・・・・・238
図35　出土遺物（18）・・・・・・・・・・・239
図36　出土遺物（19）・・・・・・・・・・・240
図37　出土遺物（20）・・・・・・・・・・・241
図38　出土遺物（21）・・・・・・・・・・・242
図39　出土遺物（22）・・・・・・・・・・・243
図40　出土遺物（23）・・・・・・・・・・・244
図41　出土遺物（24）・・・・・・・・・・・245
図42　出土遺物（25）・・・・・・・・・・・246
図43　出土遺物（26）・・・・・・・・・・・247
図44　出土遺物（27）・・・・・・・・・・・248
図45　出土遺物（28）・・・・・・・・・・・249
図46　出土遺物（29）・・・・・・・・・・・250
図47　大型木製遺物・・・・・・・・・・・・251

表目次

表１　周辺の主な調査地点・・・・・・・・・207
表２　土坑・ピット一覧・・・・・・・・・・214
表３　出土遺物観察表・・・・・・・・・・・252
表４　出土遺物数量表・・・・・・・・・・・267

写真図版目次

図版１
1. 表土掘削状況（西から）
2. １面全景（南から）
3. ２面全景（南から）
4. ３面全景（南から）
5. ３面　礎石建物（南から）
6. ３面　礎石周辺遺物出土状況（南から）
7. ３面上　硯出土状況

図版２
1. ４面全景（西から）
2. ４面　南北道路（南から）
3. 5a 面　検出途中（南から）
4. 5b 面全景（南から）
5. 5b 面全景（西から）
6. 5b 面　全景（北東から）
7. 5b 面東部（北から）
8. 5a･b 面　南北道路と木組み溝 1･2（北から）

図版３
1. 5b 面　調査区北東角（北から）
2. 5a･b 面　木組み溝 1･2 構築状況（東から）
3. ６面全景（西から）
4. ６面全景（北から）
5. ６面上　遺物出土状況（北から）
6. ７面全景（北から）
7. ７面全景（北から）

図版４
1. ８面下全景（北から）
2. ８面下全景（西から）
3. ８面下　埋没谷（南西から）
4. ８面下　埋没谷遺物出土状況（北東から）
5. ８面下　埋没谷西部断面（北から）
6. ８面下　埋没谷東部断面（北から）
7. 調査区南壁断面（北西から）
8. 調査区西壁断面（南東から）

図版５～30　出土遺物（1）～（27）

第一章　遺跡の位置と周辺の発掘調査成果

本調査地は鎌倉市二階堂81番1に所在する。横小路周辺遺跡は鎌倉中心市街地の北東部に位置し、岐れ道から鎌倉宮方面に通じる東西道を挟んだ両エリアが遺跡範囲となる。

本地点は荏柄天神社と鎌倉宮の中間に位置し、荏柄天神社が鎮座する尾根の南東裾部に立地している。現況の標高は17.9ｍで、鎌倉宮の鳥居前や参道（バス通り）よりも1.5ｍほど高い。本地点から北に延びる薬師堂ヶ谷は建保六年（1218）に北条義時が建立した大倉薬師堂に因む名称とされ、これを前身として永仁四年（1296)、北条貞時が智海心慧を迎えて覚園寺を開いた。同寺は北条氏滅亡後も後醍醐天皇や足利氏など権力者の保護を受けて寺勢を保ち、現在まで法灯を伝えている。鎌倉宮は明治二年（1869）の創建で、境内域は東光寺の旧跡地であったとされる。同寺については不明な点が多いなか、鎌倉幕府の政所執事を世襲した二階堂氏などにより、鎌倉時代でも比較的早い時期に創建されていたとする説がある。鶴岡八幡宮～源氏三代の将軍御所（大倉御所）～永福寺という、鎌倉初期の枢要施設が並ぶエリアであることから、これらを核とする土地利用が、鎌倉の他エリアより先んじて進んだ状況が推察でき、このことは既存の発掘成果からも指摘可能となっている。

令和2年9月現在、横小路周辺遺跡では16地点で発掘調査が実施されている（図1-❼・❽・❾・❿地点は、現在は他遺跡の範囲に位置している)。各地点が散在しているため、中世における空間構成の把握も断片的にならざるを得ないが、全体としては掘立柱建物（柱穴群）を主体とする、屋敷地としての傾向が強いようである。市立第2小学校の増改築にともなう発掘調査（「向荏柄遺跡」、図1-❶・❷）では2回の発掘調査が実施され、中世2枚の遺構面上、掘立柱建物を主体としたⅠ～Ⅴ期にわたる遺構変遷が把握されている。また、中世基盤層下では奈良･平安時代の竪穴住居が重複して検出されている。地点❸は「六浦道」に面し、やはり夥しい数の柱穴が検出されたが、報告書では建物の復元には至っていない。中世Ⅰ～Ⅳ期の遺構変遷が把握され、13世紀中頃～16世紀初頭という年代が与えられている。Ⅱ期（13世紀末～14世紀前半）以降、大倉地域では珍しく方形竪穴（竪穴建物）が建てられるようになり、続くⅢ期（14世紀中頃～15世紀前半）に盛行期を迎える。竪穴建物が若宮大路二ノ鳥居以南で多く検出されている例と同様、倉庫を主たる機能としているのであれば、鎌倉後期～南北朝・室町期にかかるこの時期、「六浦道」の経済的重要性が増したことを示していると言えようか。❹では覚園寺川と二階堂川の合流点かとも推測された中世の旧流路が検出され、この一部埋め立て跡について、報告書では永福寺創建に伴う周辺一帯の造成との関連が指摘されている。永福寺に向かう二階堂大路そのものは見つかっていないが、❻および大倉幕府周辺遺跡の①・③では、大路側溝、またはそれに向かうなだらかな傾斜が確認されている。鎌倉宮の参道に面した⓮では、中世遺構の他、平安時代の住居跡も発見されている。鎌倉宮参道と荏柄天神社参道に面した⓰では、中世基盤層下で南に向けた古代の落ち込みが発見され、墨書資料を含む完形の土器が複数点出土している。この南東一帯となる大倉幕府周辺遺跡の①・②では古墳時代および奈良・平安時代の建物跡や井戸・流路が検出されており、中世を遡る時代から集落を営むのに適した、安定した土地であったことを窺わせてくれる。②では11世紀頃の所産と目される大規模な堀が検出されているというが、正式報告が未刊行であるため詳細は不明である。上記の年代観が確定的なものとなれば、平直方や源頼義といった日本史上の人物が鎌倉に縁を持つ時期とも重なることになり、“頼朝以前”の鎌倉を考える上で非常に重要な発見といえるだろう。

（一部、地点⓰文献の第一章と共用）

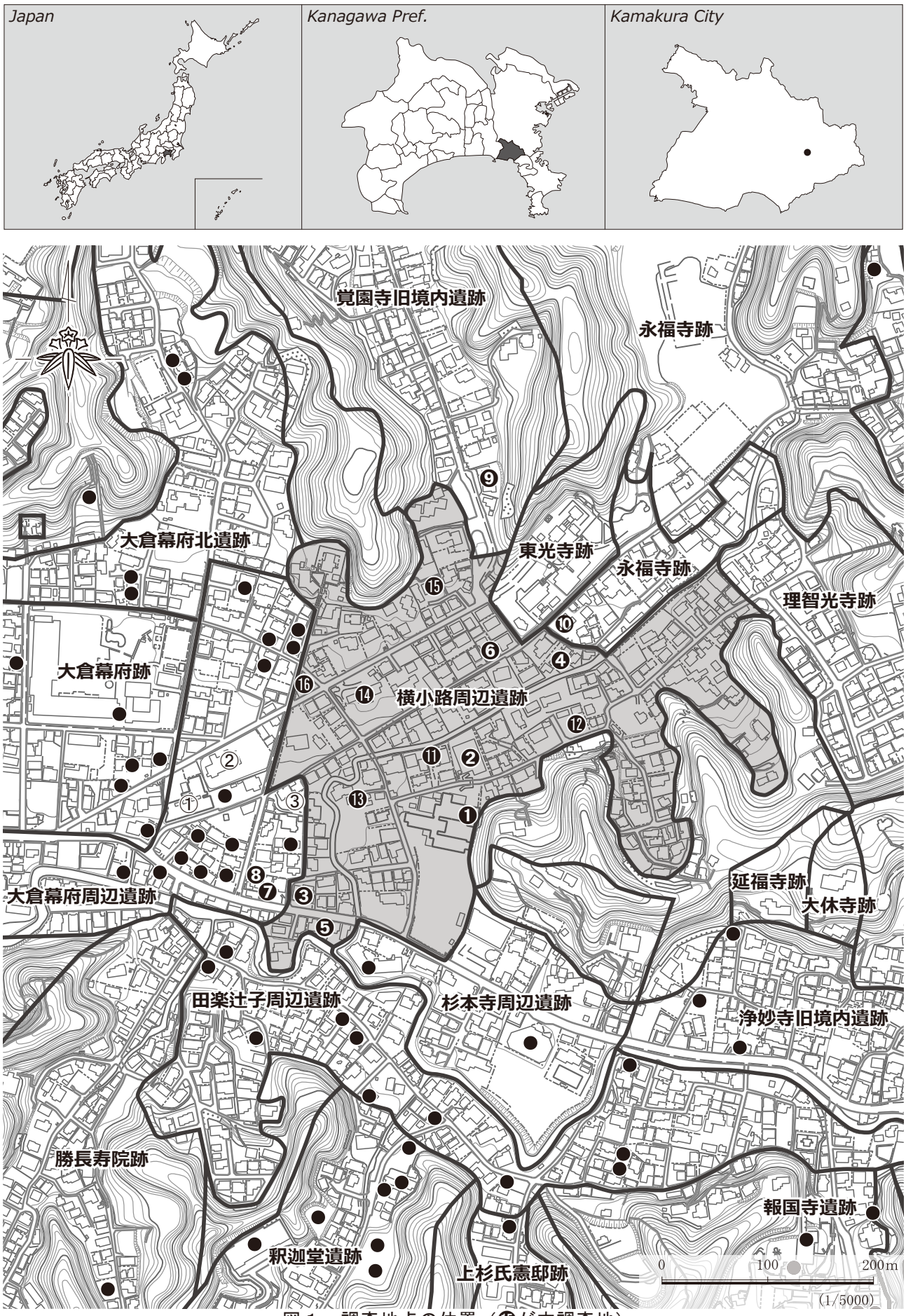


図１　調査地点の位置（⓯が本調査地）

表１　周辺の主な調査地点（番号は図１に対応）

No.	地番	調査年度（開始年度）	面積（㎡）	所収文献
横小路周辺遺跡（No.259）				
❶	二階堂字荏柄 880 番	1982 年度	72	『向荏柄遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄・原　廣志・福田　誠ほか 1985
❷	二階堂字荏柄 874 番	1982 年度	572	『向荏柄遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄・原　廣志・福田　誠ほか 1985
❸	二階堂字荏柄 9 番 1	1987 年度	500	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 6』鎌倉市教育委員会　菊川英政 1990 『横小路周辺遺跡発掘調査報告書』横小路周辺遺跡発掘調査団　菊川英政 1991
❹	二階堂字横小路 110 番 3	1994 年度	260	『横小路周辺遺跡―永福寺関連遺跡の調査―』横小路周辺遺跡発掘調査団　宗臺秀明ほか 1996
❺	雪ノ下五丁目 557 番 1	1996 年度	18	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　野本賢二 1998
❻	二階堂字横小路 93 番 11	1997 年度	142	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　野本賢二 1999
❼	二階堂字荏柄 10 番 6 外	1998 年度	96	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　福田　誠ほか 2002
❽	二階堂字荏柄 10 番 1	2000 年度	67	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 19』鎌倉市教育委員会　原　廣志ほか 2003
❾	二階堂字会下 323 番外	2001 年度	15	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20』鎌倉市教育委員会　福田　誠 2004
❿	二階堂字四ツ石 115 番 3 の一部	2003 年度	80	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 23（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　福田　誠 2007
⓫	二階堂字荏柄 875 番 4	2008 年度	42	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 3 分冊）』鎌倉市教育委員会　永田史子・斉藤修祐 2018
⓬	二階堂字稲葉越 856 番 5	2009 年度	41	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35（第 3 分冊）』鎌倉市教育委員会　永田史子・米澤雅美 2019
⓭	二階堂字荏柄 939 番 10	2011 年度	40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　熊谷　満 2015
⓮	二階堂字横小路 98 番外	2017 年度	652	『神奈川県埋蔵文化財調査報告 64』神奈川県教育委員会 2019
⓯	**二階堂字荏柄 818 番 1**	**2017 年度**	**68**	**本報告**
⓰	二階堂字荏柄 26 番 イの一部	2018 年度	35	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 37（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　押木弘己 2021
大倉幕府周辺遺跡（No.49）				
①	二階堂字荏柄 38 番 1	1991 年度	1000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄 1993
②	二階堂字荏柄 38 番 2	2011 年度	1552	『第 22 回　鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』NPO 法人鎌倉考古学研究所　齋木秀雄 2012
③	二階堂字荏柄 12 番 8	2016 年度	64	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 1 分冊）』 鎌倉市教育委員会　押木弘己 2018

❼・❽は大倉幕府周辺遺跡、❾は覚園寺旧境内遺跡、❿は永福寺跡の範囲に所在

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設工事に先立つ埋蔵文化財の記録保存調査として、鎌倉市教育委員会文化財課（市教委）が実施した。建設に当たっては地盤の柱状改良工事を行う計画であったことから、市教委では平成 29 年 2 月 1・2 日に確認調査を実施し、その結果を基に、建設計画のうち埋蔵文化財に抵触する懸念がある部分については、工事着手前に本格的な発掘調査を行う必要があるという判断に至った。

発掘調査には、平成 29 年 9 月 4 日～ 12 月 1 日の約 3 ヶ月間を要した。

第２節　調査の方法

今回の発掘調査は地盤改良の施工範囲を対象とし、最終的な調査面積は 68.25 ㎡となった。敷地内で掘削排土の置き場が確保できる見込みであったことから、調査区の分割は行わなかった。

表土の除去は重機で行い、遺物包含層以下の掘削は全て人力作業によった。今回は大きく 8 枚の中世遺構面が検出され、それぞれの面で遺構の確認と掘削作業を行い、写真撮影・測量図作成等の記録作業を進めた。測量には世界測地系（JGD2011）の国家座標軸に沿った基準軸を設け、光波測距儀で測点の座標値を得て、それを方眼紙上に落とす方法によって平面図を作成した。

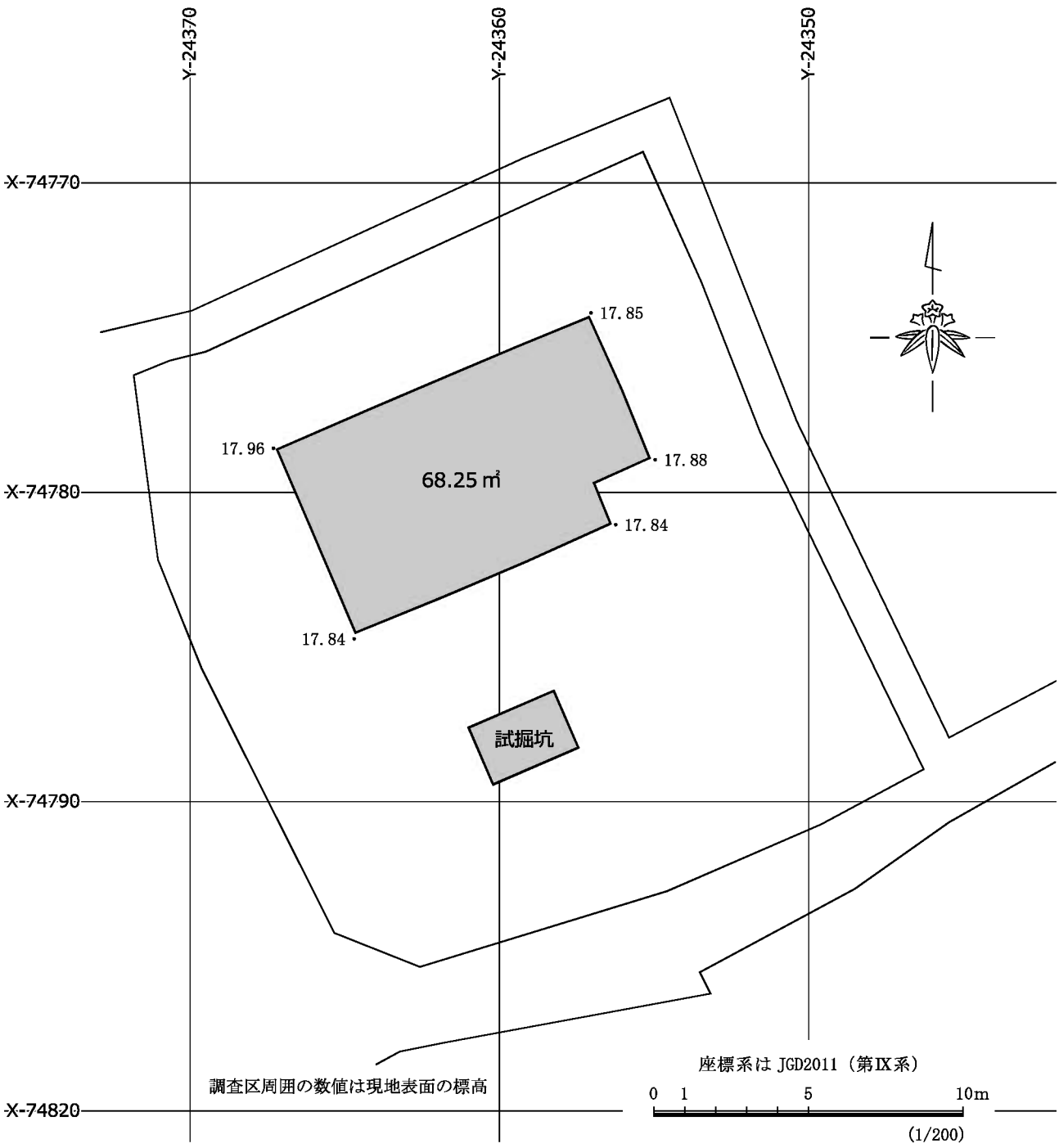


図２　調査区配置図

国家座標系の測量には都市再生街区多角点の補助点「3A008」および・「3A027」の二点間関係を基に開放トラバース測量を行い、調査敷地内の基準点に座標値を移した。

標高は、都市再生街区多角点の節点「2A012」（14.925 m）から光波による水準測量を行って敷地内の基準点に移した。

第三章　基本土層

本地点では大別して9枚の中世遺構面を確認したが、上層から数えて5枚目の面では細かな整地面の形成と遺構の構築が繰り返されていた状況が確認できたことから、本報告では5a～5d面の4枚に細分して提示することとした。従って、次章では都合12枚の遺構全体図を掲載することとなった。

図3～5には調査区壁の土層断面図を掲げ、これに各遺構面の位置を示したが、5a～5d面については全てを正確に反映することはできなかった。各整地面は概ね泥岩粒・ブロックを用いた盛土によって形成されていたが、最下層の8面下だけは中世基盤層上に特段の盛土を行わずに利用されていた。ここで検出されたのは南東に向けた大規模な落ち込みだけなので、中世以前の自然地形を把握できたものと考えている。各整地面の形成には疎密の違いがあり、5～8面までは泥岩を細かく砕いて敷いた薄くて丁寧な整地面として確認できた。これに対して1～4面は泥岩ブロックが大きく、盛土自体も厚いものであった。検出遺構の内容も、5面以下と4～3面とでは大きく異なるように見えるので、この辺りで当地における中世の土地利用に変化が生じたことが推測できる。

各層序の特徴は、図3の土層説明を参照されたい。

第四章　検出遺構と出土遺物

第1節　検出遺構

（1）1面の検出遺構（図6）

重機で表土と近世耕作土を除去した後、標高17.2～17.6ｍ前後で検出された。検出レベルは、西側の方が高い。泥岩を多用した盛土によって形成され、西側ほど泥岩粒の密度が増すように見受けられた。面上では中世の遺構は確認できず、近代以降の撹乱5ヶ所を検出したに過ぎない。

1面の築成土、および面上の堆積土では、厚手で外反器形のロクロかわらけが出土している。

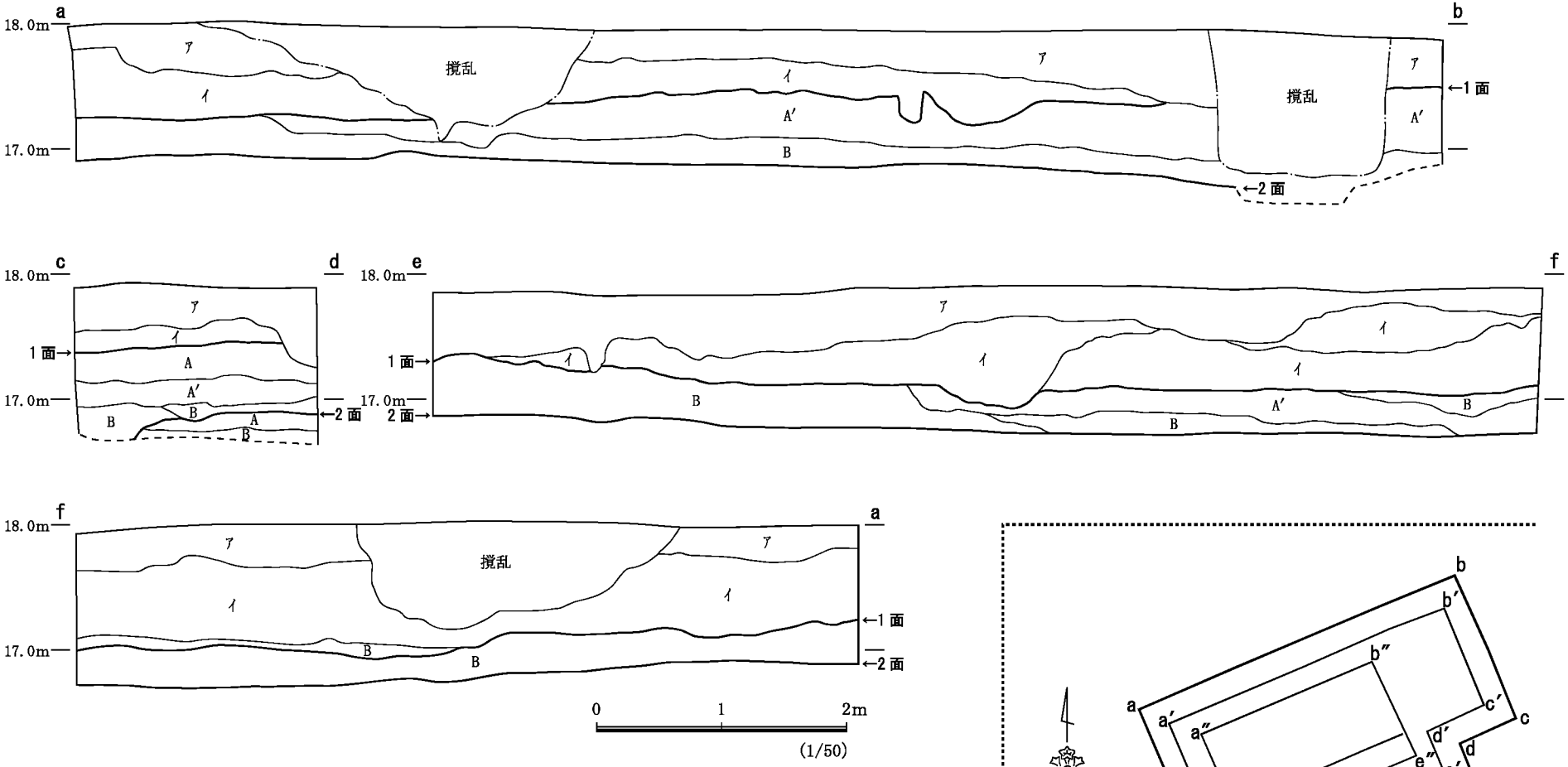
（2）2面の検出遺構（図7）

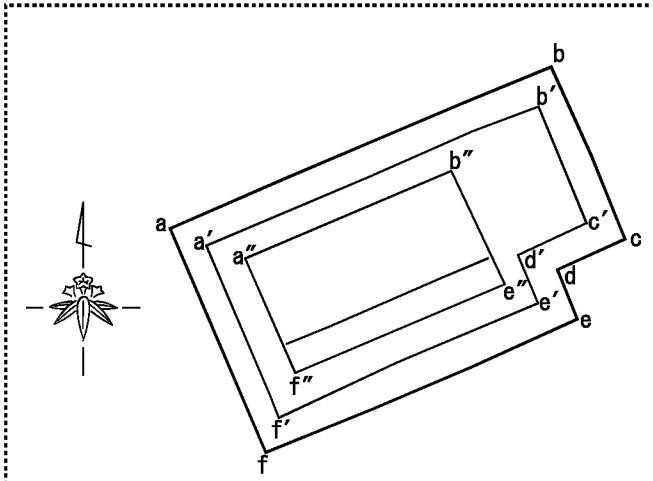
1面の30～40㎝ほど下、標高16.9～17.2ｍで検出された。検出レベルは、西側ほど高い。調査区のほぼ中央を人頭大程度の泥岩ブロックが北西～南東方向に並び、この以西の整地は東側のものと比べ緻密であった。調査区南東角付近では泥岩ブロックを集中的に埋め立てたような範囲が確認され、この部分については面上の凹凸が目立ち、整地面と呼ぶには躊躇する状況であった。

2面の築成土からは、厚手・外反器形のロクロかわらけが出土している。

（3）3面の出土遺物（図8）

標高16.6～17.0ｍ前後で検出された。調査区の北西角付近が、検出レベルが最も高い。調査区西端付近の面上では安山岩石が6ヶ所で確認され、約200㎝間隔で並ぶような箇所も見受けられたため礎石A～Fの名称を付した。ただし、全体的に並びが不規則であるため、礎石建物と断定するには躊躇する。礎石E・F周囲の整地面上では完形に近いロクロかわらけがややまとまって出土しているが、ここでは内湾器形の個体が数量的に卓越している。この他、不整形の溝状遺構や、小規模なピットが検出されている。





ア	灰褐色土	表土。締まり弱い。	
イ	灰褐色土	砂質。近世以降の畑作土。	
A	黄褐色土	泥岩粒主体。密で締まり強い。	
A′	暗黄褐色土	泥岩塊・粒多い。	
B	暗褐色土	泥岩塊・粒含む。	
C	暗褐色土	炭粒多い。	
D	炭層		
D′	黒褐色土	炭粒主体。	
E	暗灰色土	粘質土。	
F	灰色土	有機質腐植土（まぐそ）。	
G	黒褐色土	泥岩塊・粒含む。	
H	暗青灰色土		
I	黒灰色土	粘質土。泥岩粒含む（ネチャ）。	
J	黒褐色土	粘質土。中世以前の基盤層。	
K	青黒色土	シルト質土。	
L	青青色土	水磨した泥岩粒多い。	

図３　調査区壁　土層断面図（上段）

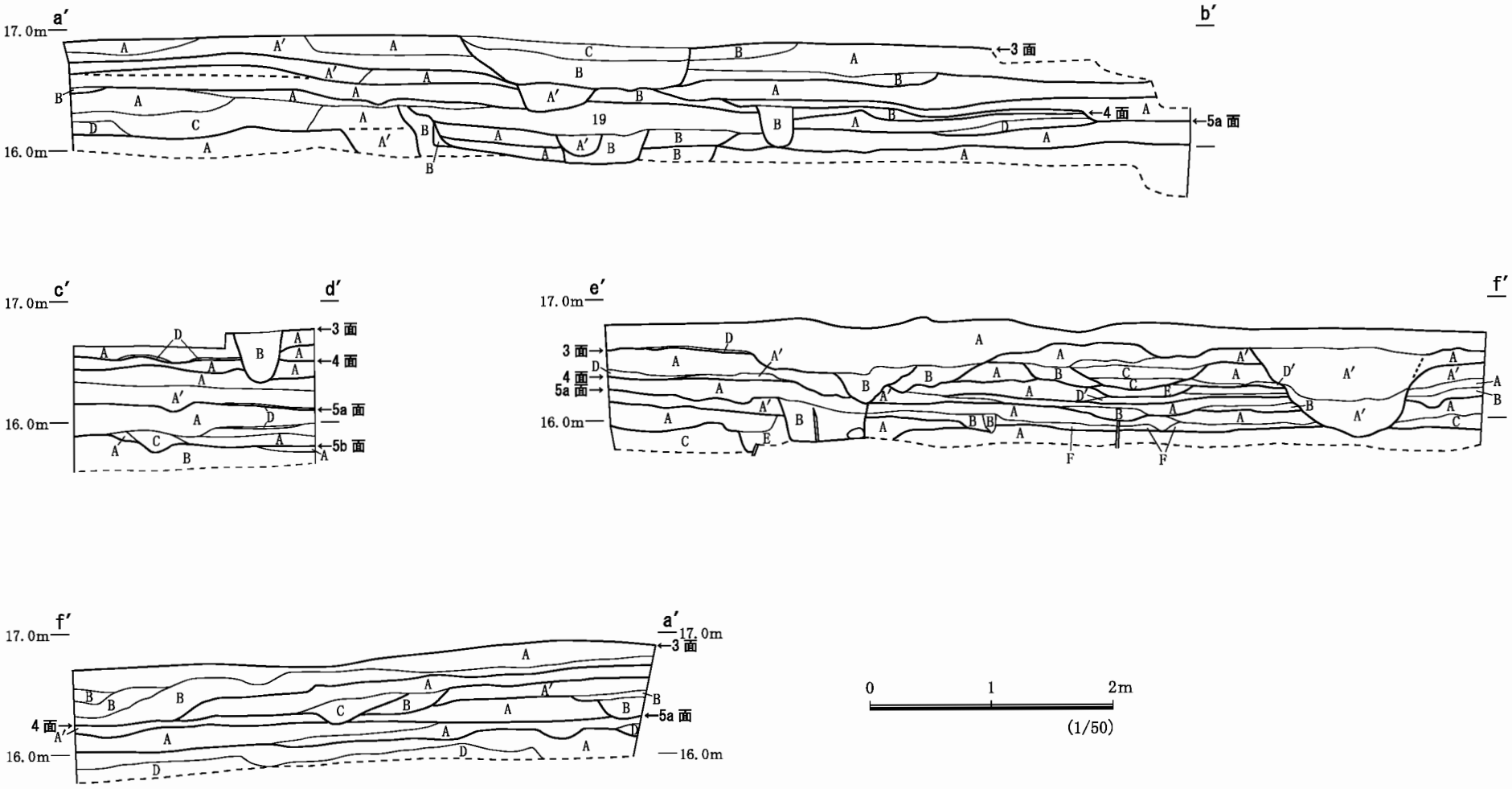


図４　調査区壁　土層断面図（中段）

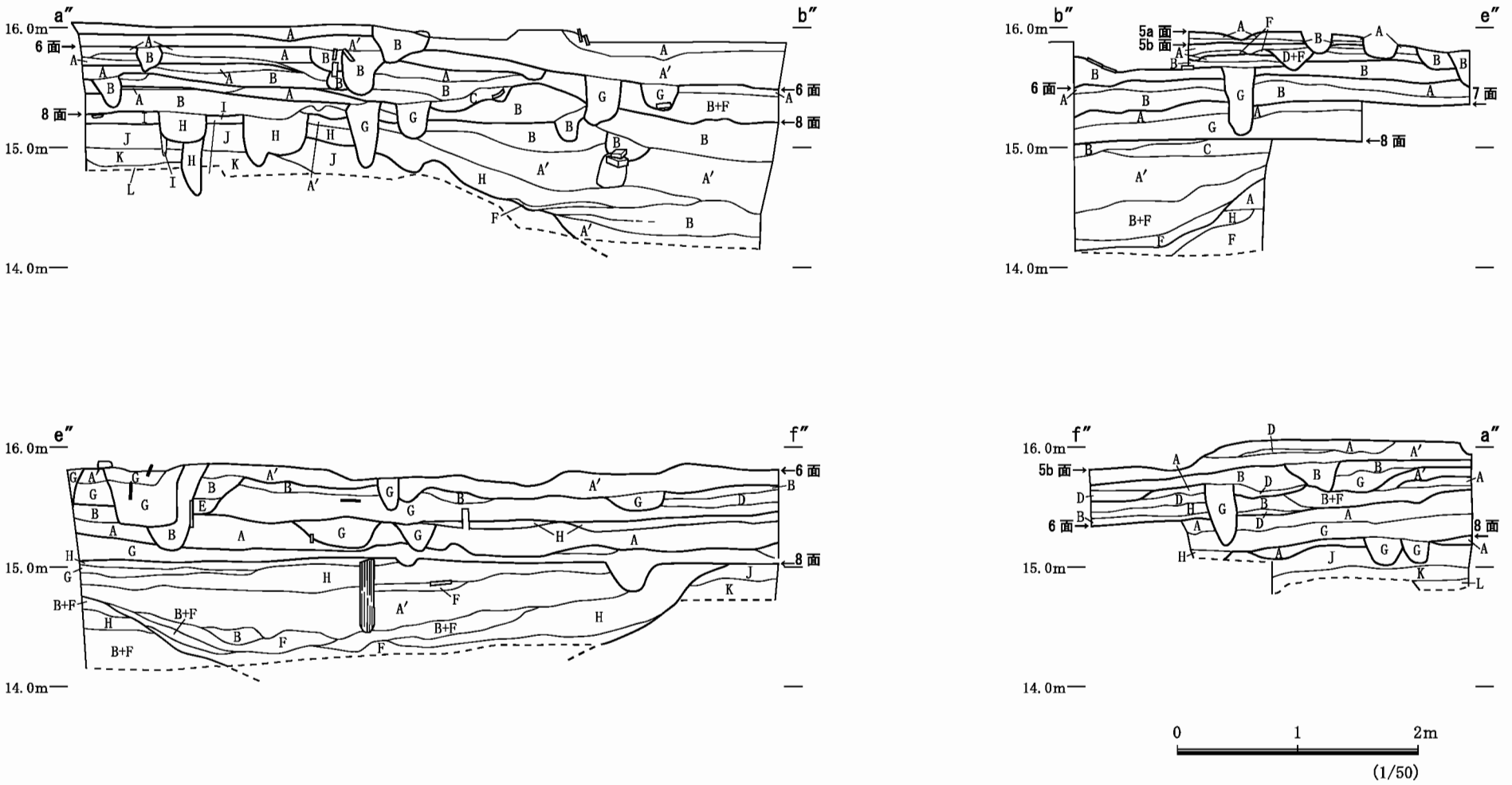


図５　調査区壁　土層断面図（下段）

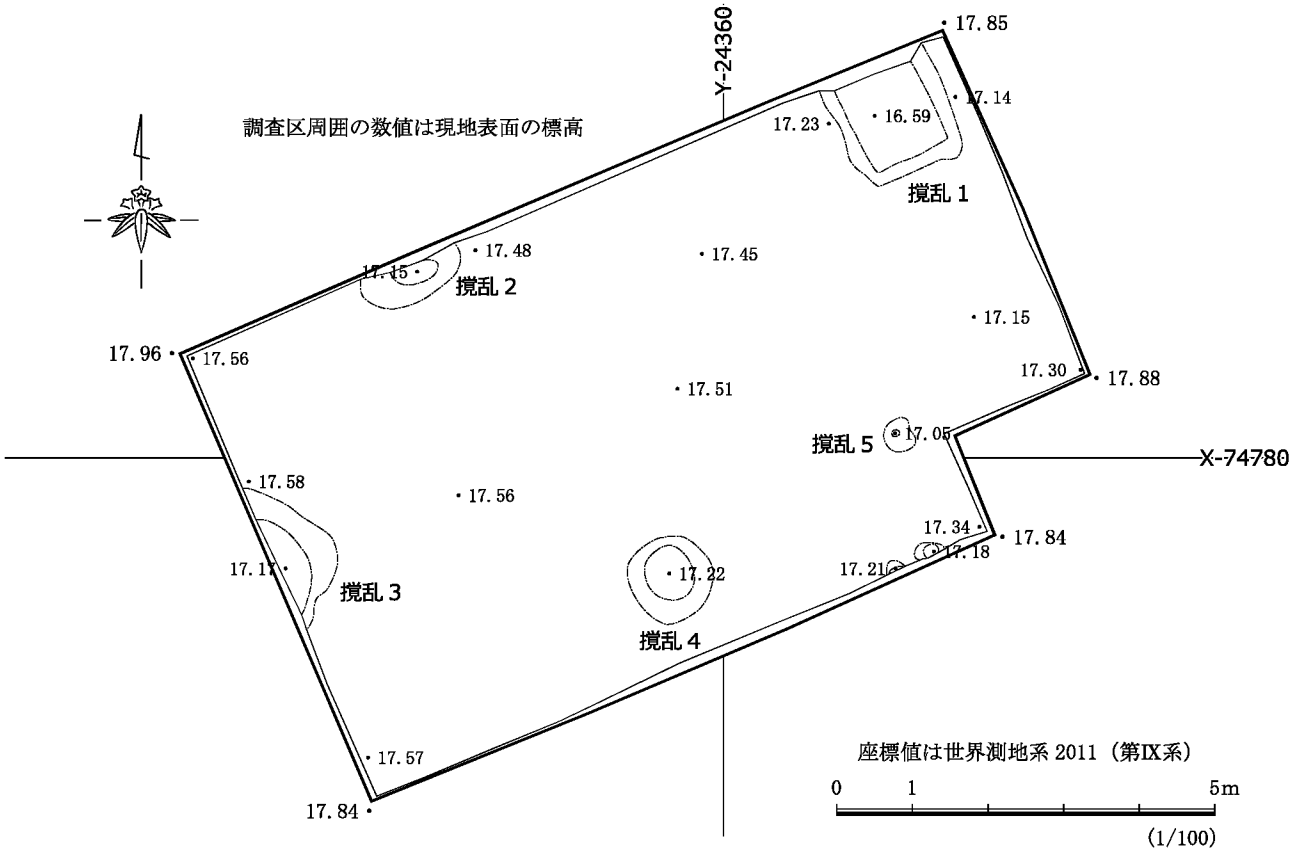


図６　１面全体図

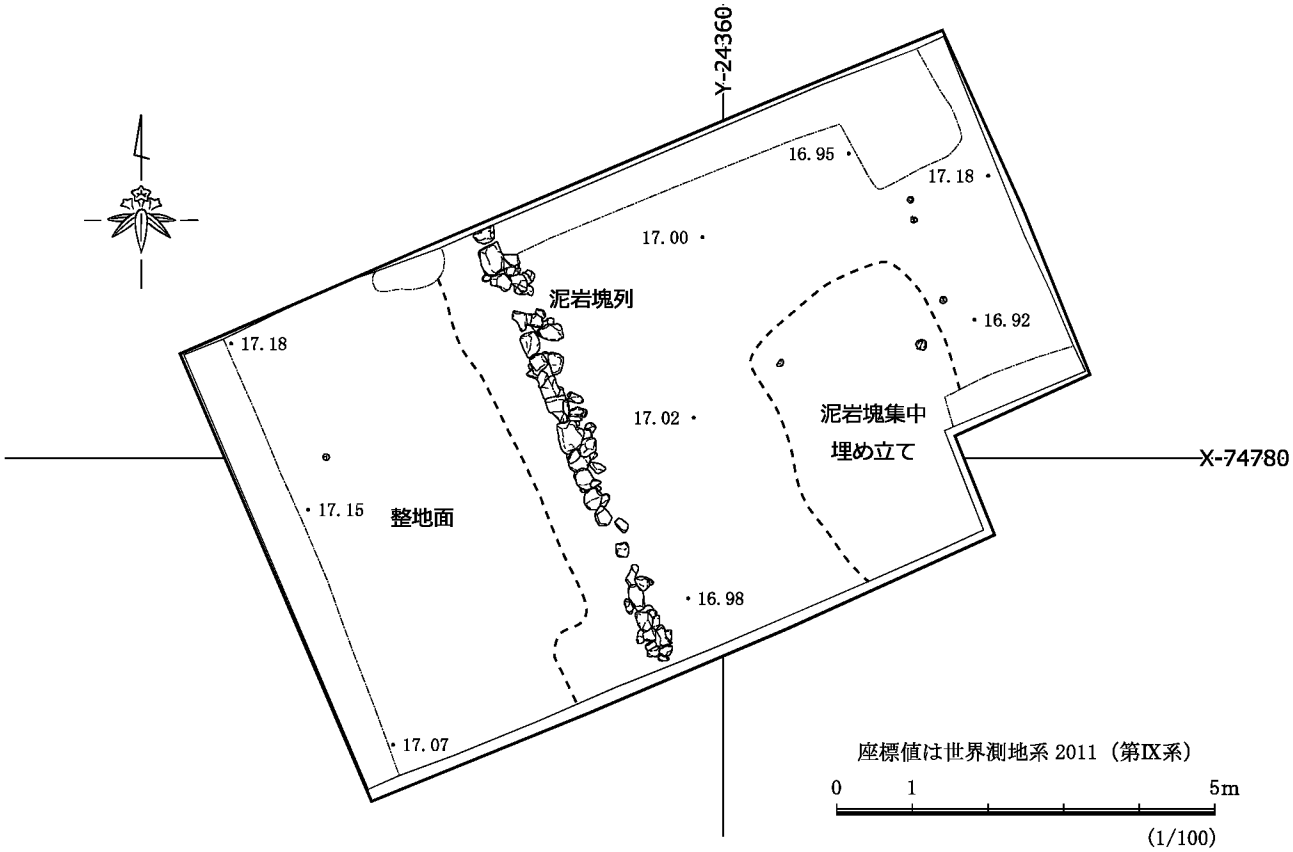


図７　２面全体図

表２　土坑・ピット一覧

面	遺構 No.	底面標高（m）
3	ピット 1	16.70
3	ピット 2	16.71
3	ピット 3	16.71
3	ピット 4	16.81
3	ピット 5	16.74
3	ピット 6	16.76
5a	ピット 501	15.79
5a	ピット 502	15.81
5a	ピット 503	15.52
5a	ピット 504	15.72
5a	ピット 505	15.67
5a	ピット 506	15.78
5a	ピット 507	15.37
5a	ピット 508	15.81
5a	ピット 509	15.80
5a	ピット 510	15.51
5a	ピット 511	未計測
5a	ピット 512	15.84
5a	ピット 513	15.75
5a	ピット 514	15.59
5a	ピット 515	15.62
5b	土坑 501	15.52
5b	土坑 502	15.95
5b	ピット 516	15.71

面	遺構 No.	底面標高（m）
5b	ピット 517	15.83
5b	ピット 518	15.87
5b	ピット 519	15.66
5b	ピット 520	15.61
5b	ピット 521	15.60
5c	ピット 519	15.41
5c	ピット 522	15.59
6	土坑 601	15.20
6	土坑 602	15.24
6	ピット 601	15.35
6	ピット 601	15.35
6	ピット 602	15.20
6	ピット 603	15.26
6	ピット 604	15.26
6	ピット 605	未計測
6	ピット 606	15.20
6	ピット 607	15.25
6	ピット 608	15.10
6	ピット 609	15.32
6	ピット 610	15.14
6	ピット 611	15.28
6	ピット 612	15.14
6	ピット 613	15.31
6	ピット 614	15.18

面	遺構 No.	底面標高（m）
6	ピット 615	15.09
6	ピット 616	15.28
6	ピット 617	15.41
6	ピット 618	15.25
6	ピット 619	15.32
6	ピット 620	15.25
6	ピット 621	15.02
6	ピット 622	15.11
7	ピット 701	15.06
7	ピット 702	14.95
7	ピット 703	14.99
7	ピット 704	15.04
7	ピット 705	14.82
7	ピット 706	14.57
8	ピット 801	14.73
8	ピット 802	14.72
8	ピット 803	14.19
8	ピット 804	14.90
8	ピット 805	14.80
8	ピット 806	14.84
8	ピット 807	14.90
8	ピット 808	15.03
8	ピット 809	14.82
8 下	ピット 811	14.81

平面規模は、各平面図を参照のこと

（４）４面の検出遺構（図 9）

標高 16.2 ～ 16.5 m前後で検出された。検出レベルは、南西側がやや低い。ここでは調査区を北西～南東方向に縦貫する道路状遺構が検出された。全体の整地面よりも泥岩ブロックを多用して堅固に築成されており、現地調査の時点では「土塁状遺構」とも呼称した。下層の５面道路状遺構と概ね同じ位置・軸線であることから、両者が造り替えなどにより、時間的に連続する遺構であった可能性も考えられる。４面上では、他に安山岩石が散在する以外に遺構らしい痕跡を確認できず、整地状況にも強弱があって不安定さを感じた。

（５）５面の検出遺構（図 10 ～ 13）

前述のように、５面はａ～ｄの４枚（４時期）に細別できたが、整地面の部分的な貼り足しや木組み護岸溝の造り替えなどを基にした判断であり、各平面図に示した遺構群が正しく同一時期のものであるかは、確証を持てない。

5a 面では調査区のほぼ中央を北西～南東に縦貫する道路状遺構と、この東側溝と見なせる木組み溝、小規模なピット群などを検出した。道路状遺構は他の整地面より破砕泥岩を多用して堅固に築成されており、路面幅は約 160 ㎝を測る。木組み溝は道路面上から 10 ～ 15 ㎝の深さを持ち、上幅は約 40cm を測る。護岸材は検出範囲の北半部にのみ遺存しており、10cm 幅の横板を板杭で固定しただけの簡便な構造を取るものであった。ピット群は木組み溝の東側のみに提示しているが、検出レベル上では 5b 面西半部の小穴群に伴う遺構と考えることも可能である。ピットには礎板や柱杭と思しき木材が遺存している例

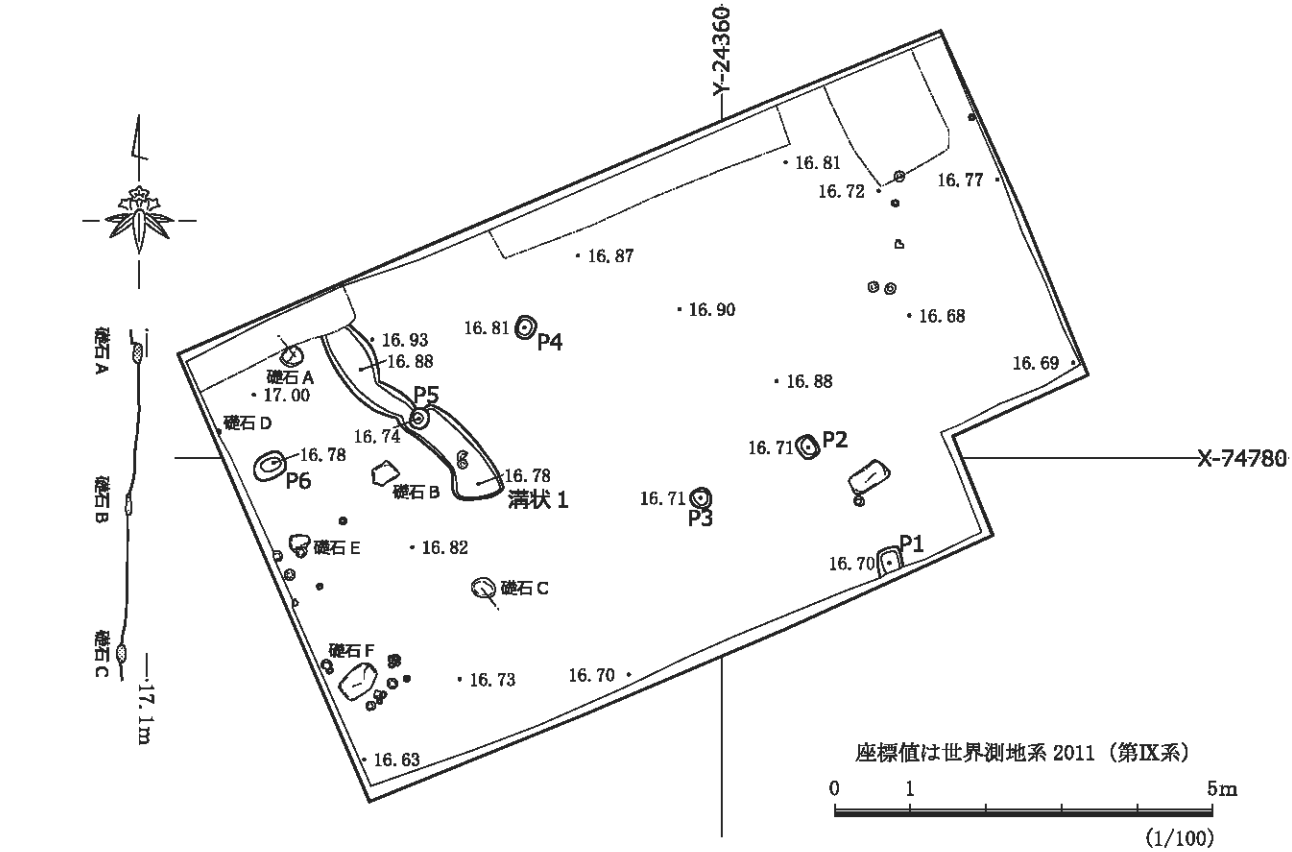


図８　３面全体図

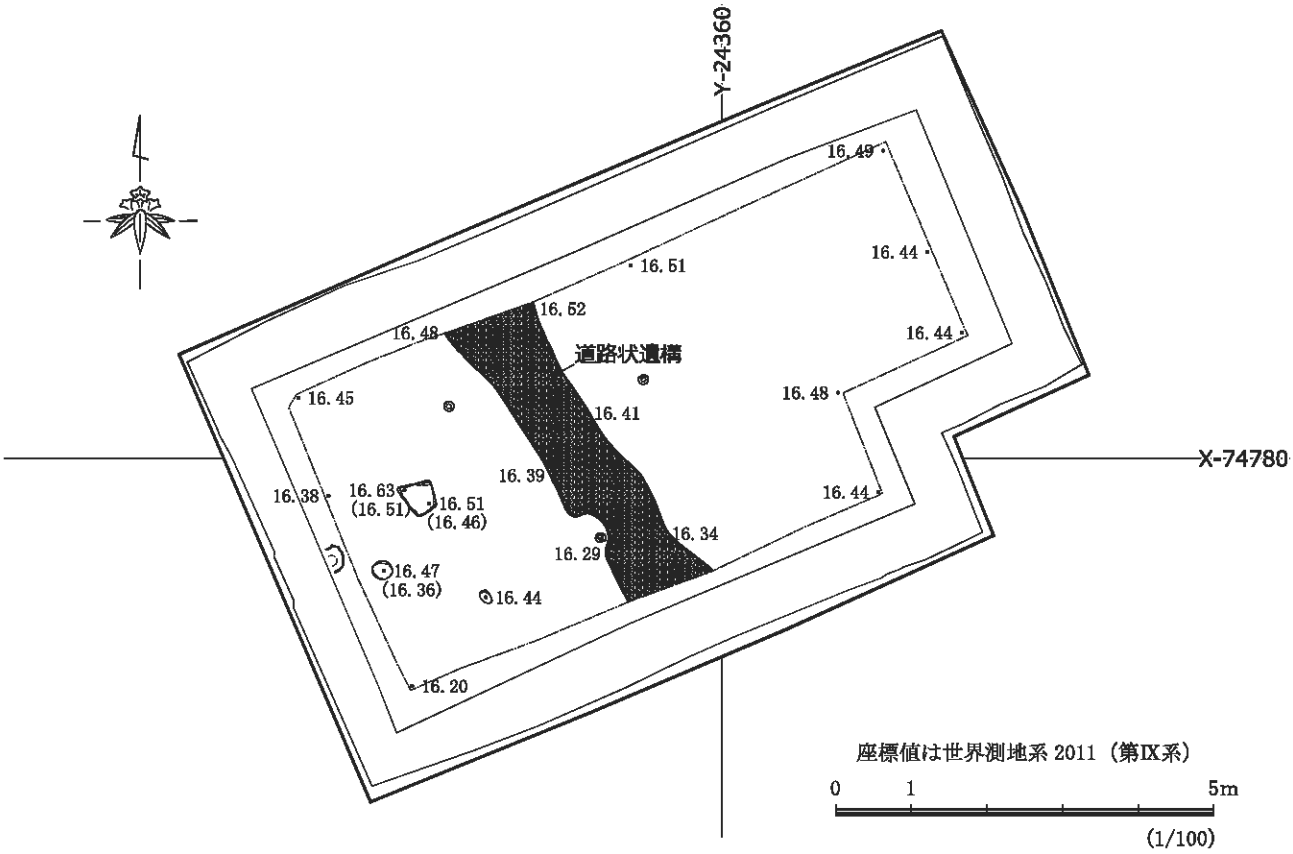


図９　４面全体図

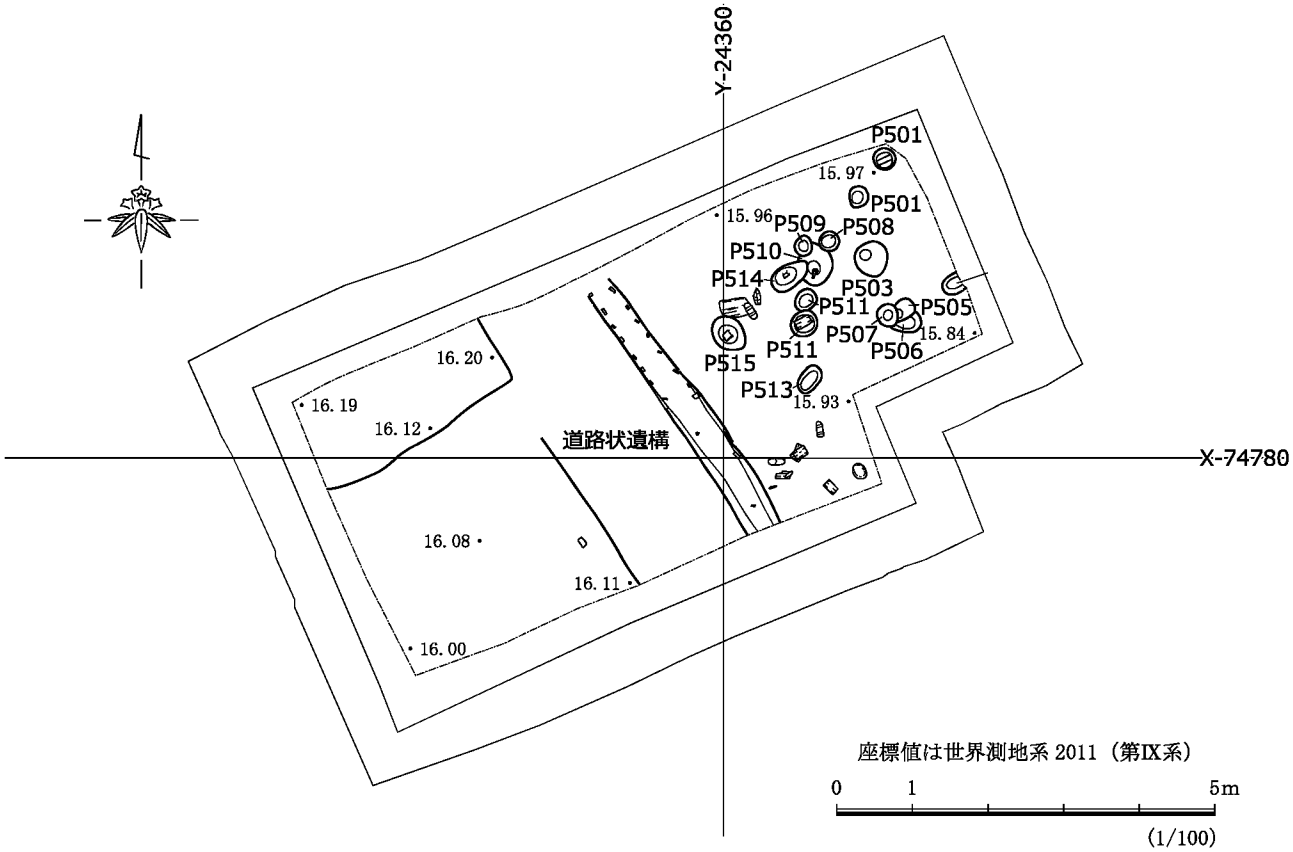


図 10　５ａ面全体図

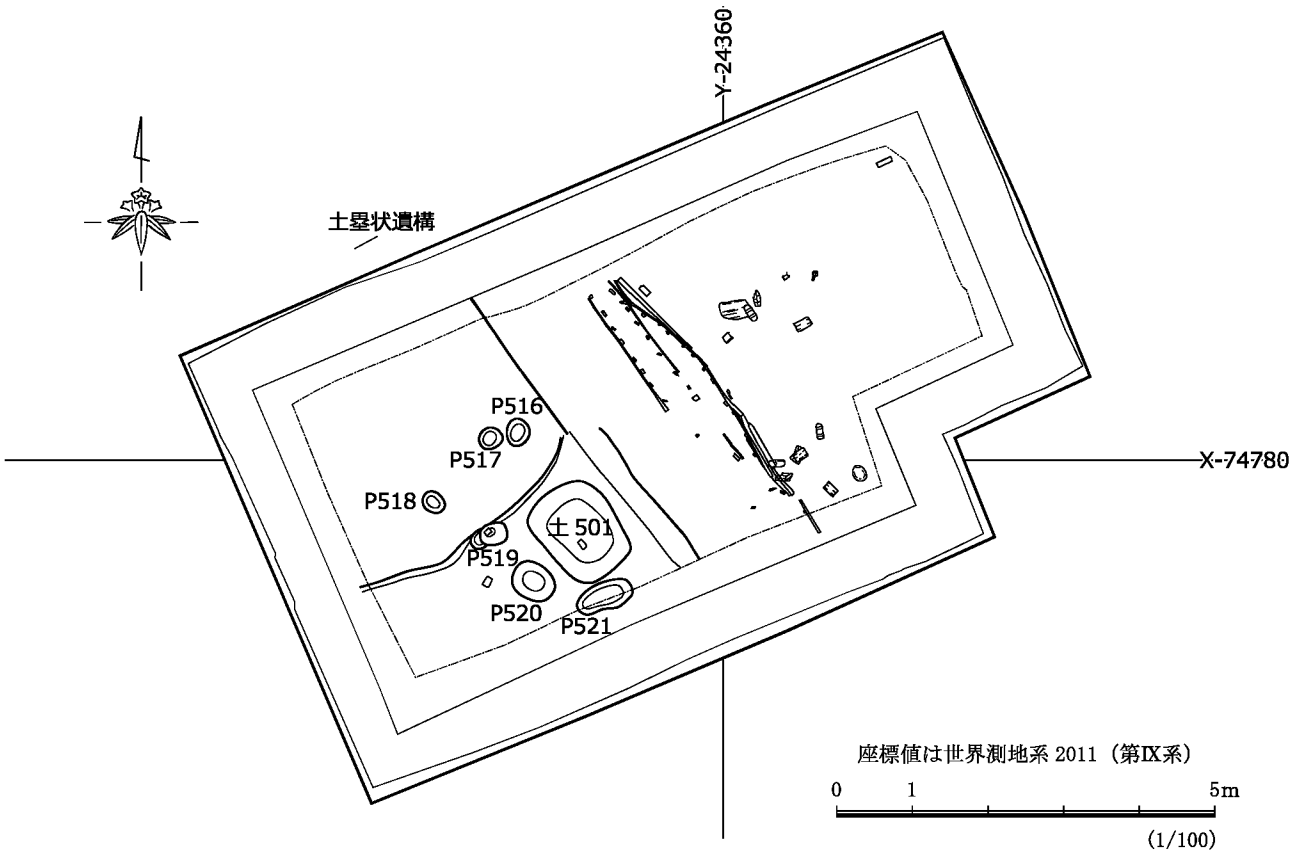


図 11　５ｂ面全体図

も見られたが、建物など明確な構造物を復元・提示することは叶わなかった。調査区北西角付近の整地は灰白色シルト質土を用いた丁寧なもので、「三和土」や「土間状」と表現できる様相を呈していた。

5b 面でも、5a 面と同じ位置に同方向の道路状遺構と木組み溝が検出された。木組み溝は東岸にのみ護岸材が遺存しており、土圧により変形したためか、やや西に向けてひしゃげた状態であった。護岸材の天端は 5a 面のものより 10 ～ 15 ㎝低い位置にあることから、道路面の嵩上げ施工とともに溝も改修されたことが考えられる。その際、西岸側の破損の少ない木材のみを再利用したために南半部分の護岸改修が省略されたのかも知れない。道路状遺構の以西では北半部の整地が丁寧で、5a 面同様「三和土」と表現して差し支えないものであった。南半部はやや軟弱であり、北半・南半の双方で土坑・小ピットといった遺構群が検出された。

5c 面では、上層道路状遺構の南側西辺で杭で横板を抑えた木組み遺構が認められた。道路状遺構の基底部を補強する意図で造られたものだろう。調査区の北西隅付近と北東部では、それぞれ道路状遺構と直交方向に延びる木組み遺構が検出されている。ともに杭で横板を抑える構造を取り、方向軸は同じだが道路状の部分を挟んで互い違いの位置関係に設置されていた。近接する時期の 5b・5d 面には組み合う遺構がある可能性を考えてよいだろう。調査区の北東隅では、部分的な確認であるが木材・木製品や緑泥片岩がまとめられた痕跡を検出している。

5d 面では、上層道路状遺構の南側東辺で木組み遺構が確認された。横板を杭で抑える簡素な構造で、5a 面の木組み溝と連続する位置にはあるものの、木組み天端の高さが 5a 面のものより 20 ～ 30 ㎝低いことから、5b → 5a 面へと続く木組み溝の前身と考えられる。5d 面より古い木組み溝は確認していないので、道路東側の木組み溝としては最古段階の遺構と考えて良いだろう。

（6）6 面の検出遺構（図 14）

標高 14.3 ～ 14.4 m前後で破砕泥岩を用いた整地面が検出され、確認範囲の限りでは明確な高低差は見出せなかった。5 面道路状遺構の下部では目立った整地がなされておらず、この東西両サイドで丁寧な整地面が遺存していた。6 面上では土坑と多数のピットが検出されたが、どちらかといえば整地面が良好な部分に集中している状況が認められた。底面上に礎板状の厚板を据え置いたピットも複数見られたことから何らかの建造物があったと考えて間違いないだろうが、調査範囲が狭いこともあって復元案は示せなかった。

（7）7 面の検出遺構（図 15）

標高 15.1 ～ 15.2 m前後で検出された。調査区内では、特段の高低差は見出せなかった。西側約 2/3 は細かな破砕泥岩を用いた丁寧な整地面で、東側約 1/3 は大型の泥岩ブロックも用いられており、面上の整形も雑であった。面上ではピットが散在し、底面に礎板状の板材が置かれた例も見られたが、調査範囲が狭いこともあって建物などの復元案を示すことはできなかった。また、面の直上に礎板状板材が置かれた事例もあり、これらは上面が掘り込み面であった可能性が高い。

（8）8 面の検出遺構（図 16）

標高 15.1 m弱で検出された。明確な盛土整地は行わず、中世基盤層上の黒～灰色系粘質土（ネチャ）上面を確認面とした。ただ、調査範囲の大部分が谷戸地形の落ち込みで占められていたことが後に判明し、厳密な意味でのネチャの遺存範囲は調査区北西隅付近のごく一部に限られていた。従って、谷戸の落ち込み部分については、その埋没土が 8 面の築成土ということになり、ネチャの検出レベルに高さを合わせて精査・遺構確認を試みた。その結果、面上ではピットが散在し、礎板状の板材を据え置いた例も見られたが、調査範囲の限界もあって建物などの復元案を示すには至らなかった。

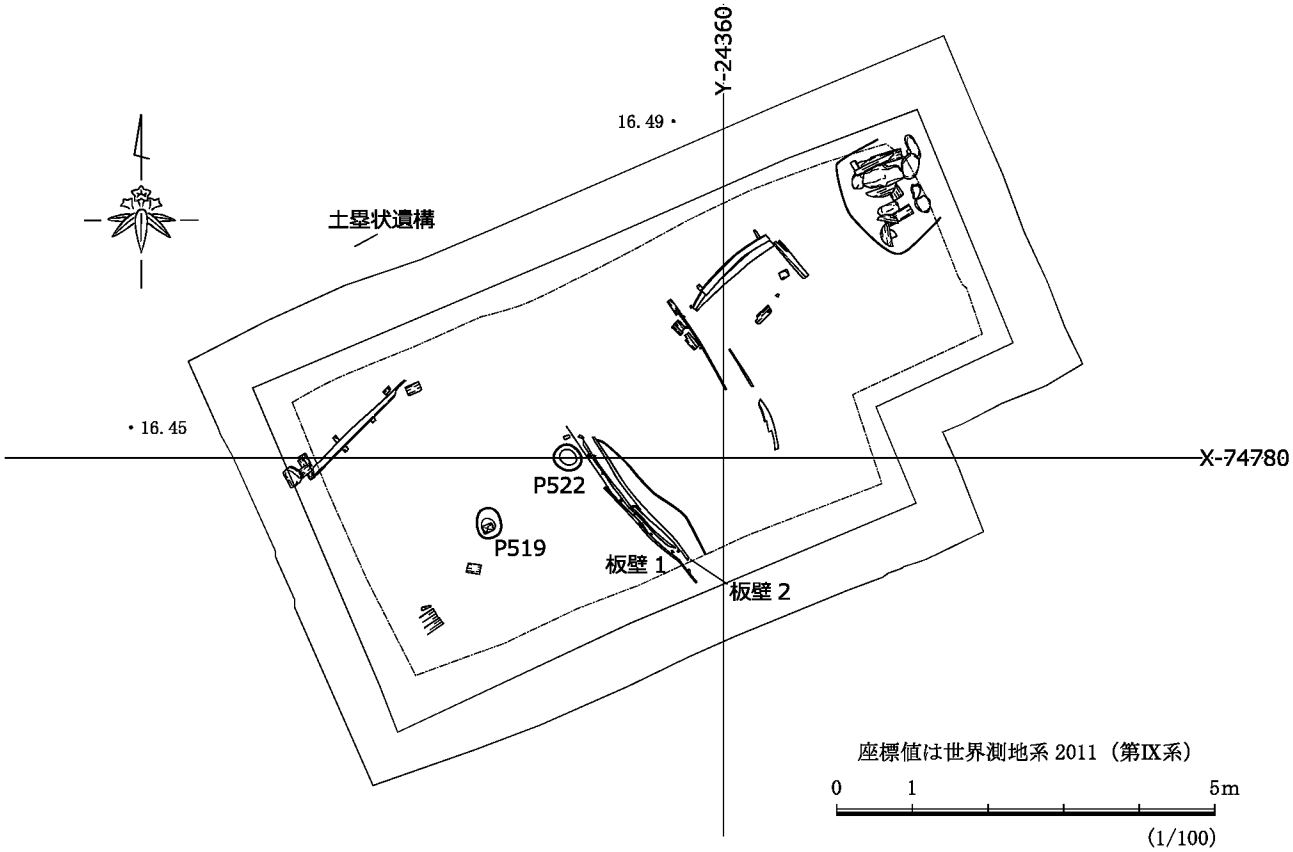


図 12　５ｃ面全体図

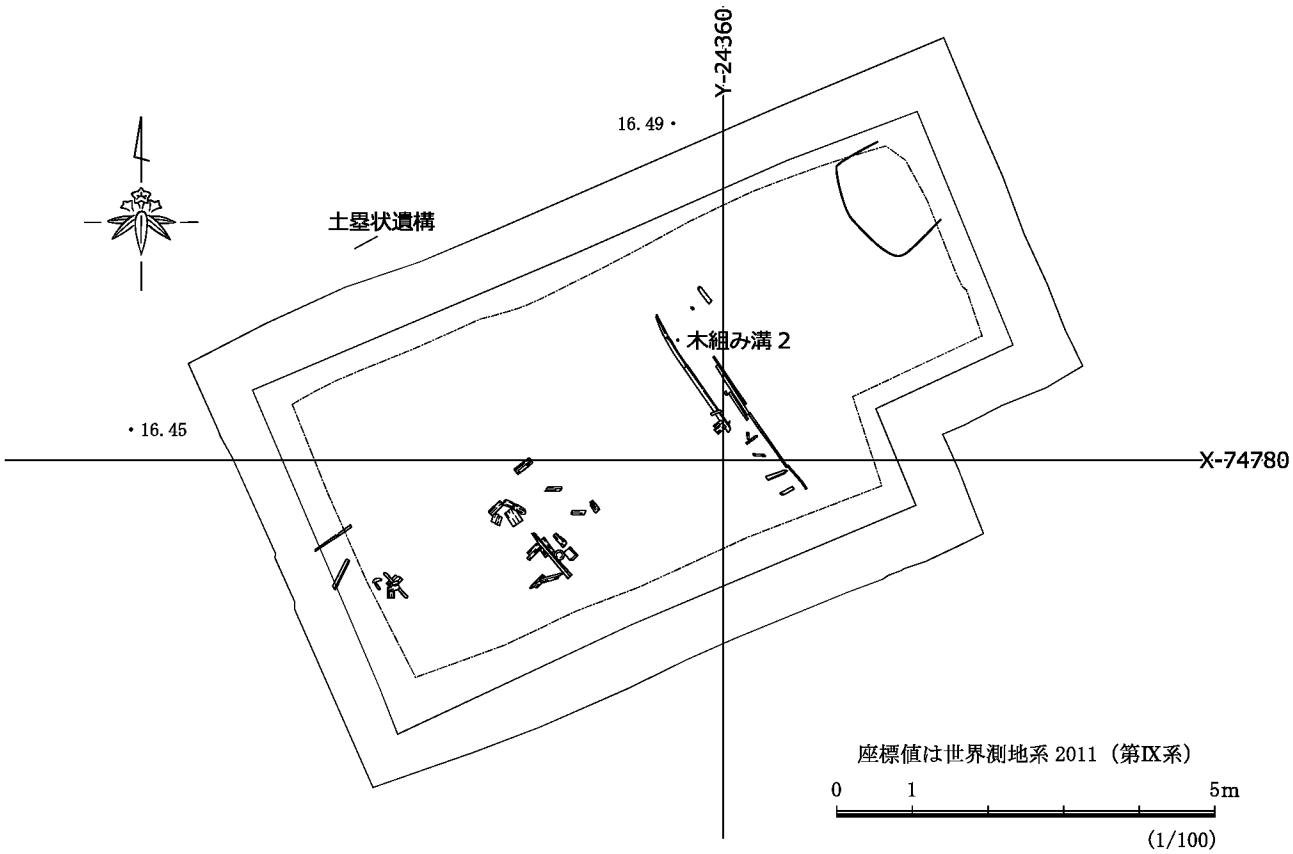


図 13　５ｄ面全体図

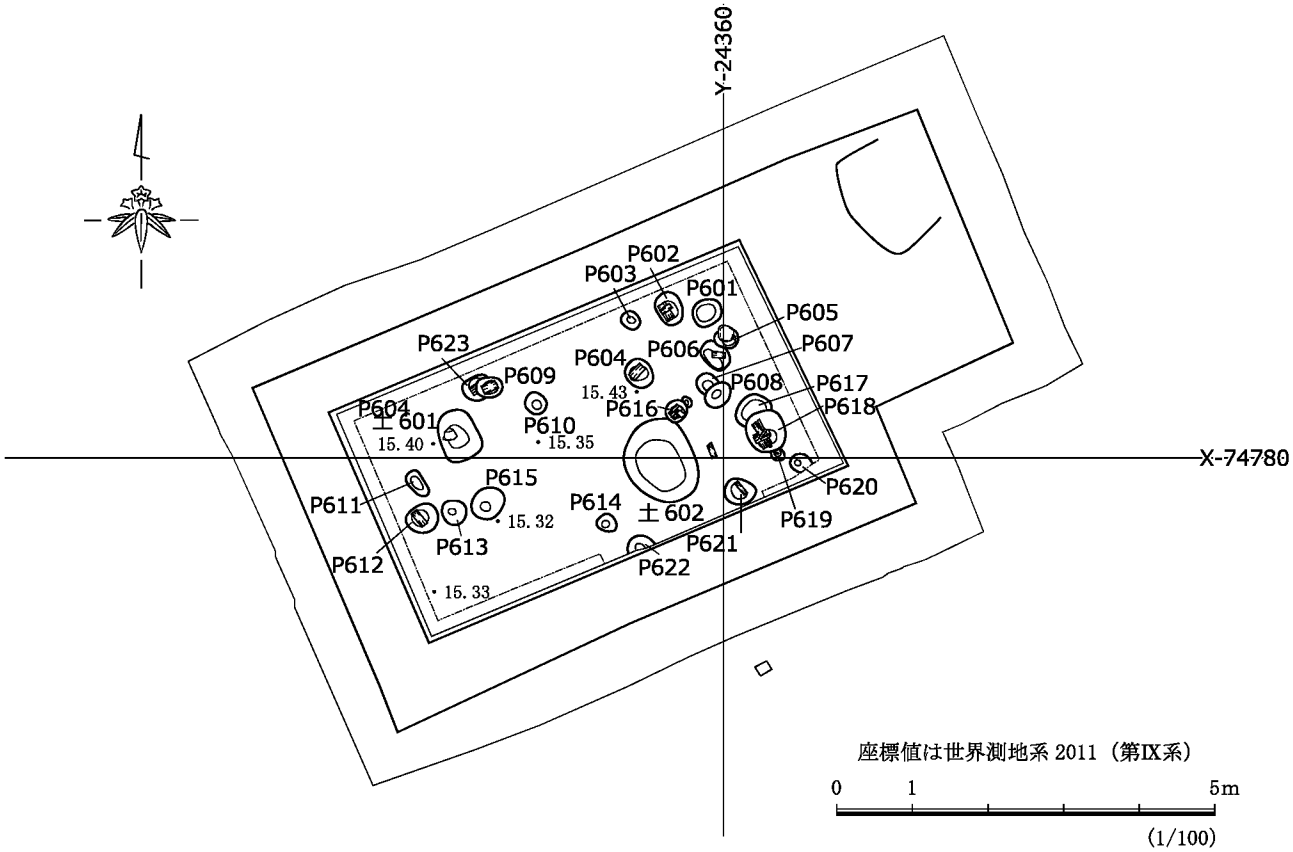


図 14　6 面全体図

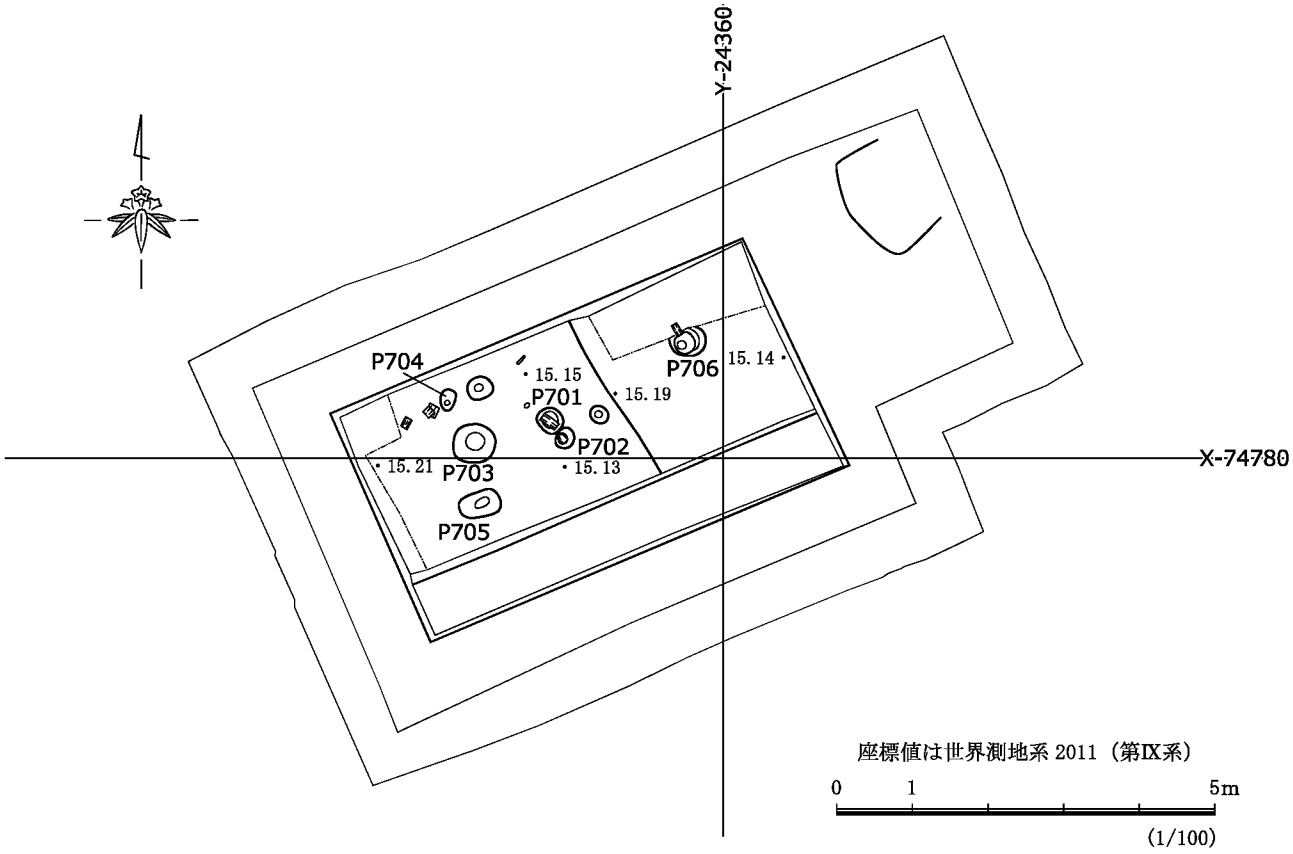


図 15　7 面全体図

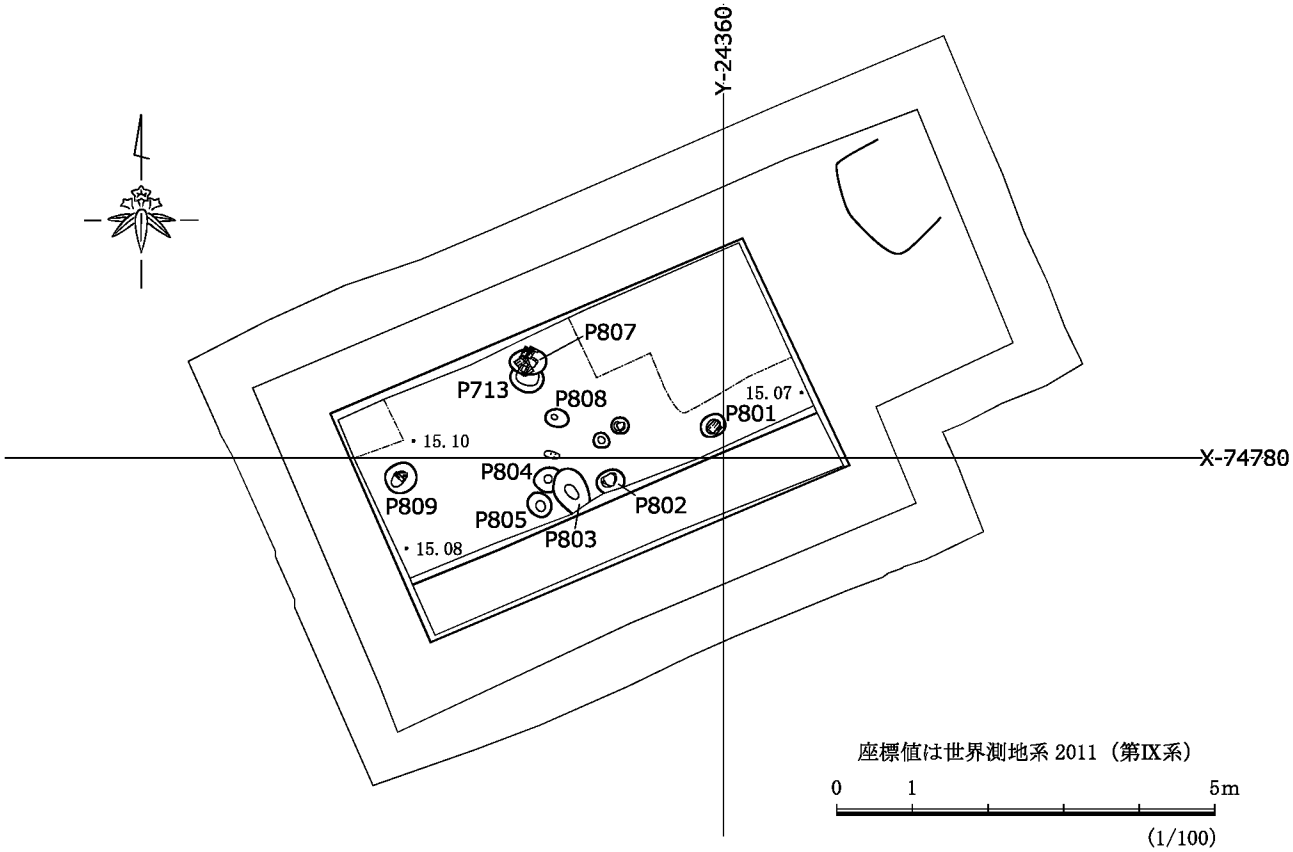


図 16　８面全体図

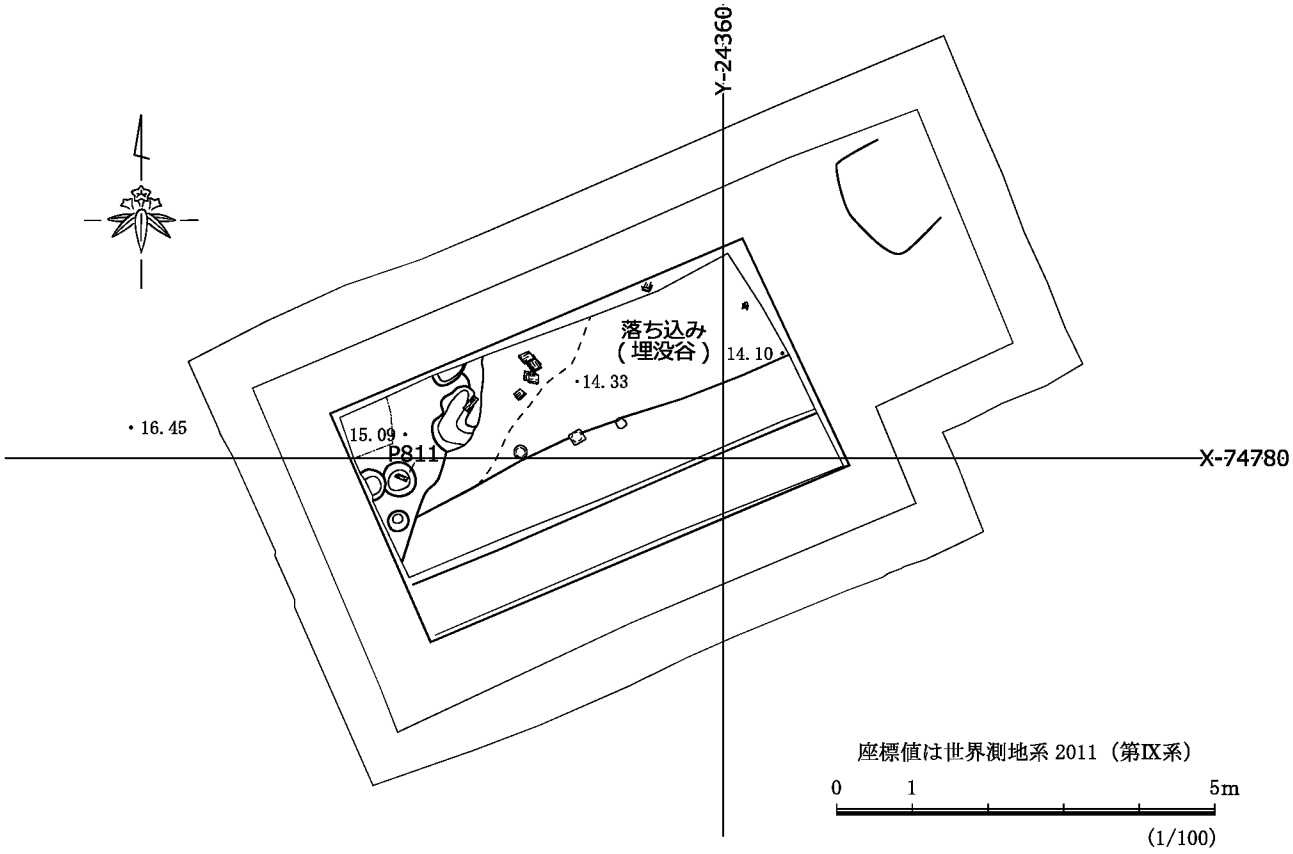


図 17　８面下全体図

（9）8面下の検出遺構（図17）

標高15.1ｍ前後で、上述した8面のうち、谷戸地形の落ち込み（埋没谷）を古い段階の遺構として8面下に帰属させることとした。調査範囲内では落ち込みの北岸のみを検出したにとどまり、南東側に向けた中世基盤層の急激な傾斜面を確認した。安全性を考慮した結果、埋土の掘削は調査範囲の北半部にとどめ、標高14.1ｍほどまで掘り下げたものの底面を確認することはできなかった。埋土中からは手づくねかわらけや木製品が出土しており、北岸斜面上では建物礎板が投棄されたものか、厚手の板材がまとまって出土している。調査区北西隅の中世基盤層上ではピット3基を確認し、これを記録した後、試みに中世基盤層を標高14.8ｍ前後まで掘り下げてみた。その結果、同一レベルで広げると埋没谷側では黒色粘質土が確認でき、その北西側では泥岩粒を多く含む青灰色土が検出された。自然地形の斜面堆積を平らに削ったことによる土相の違いであり、前者が上位の堆積層と考えられる。

第2節　出土遺物

（1）表土等の出土遺物

出土位置は図18に表示した。表土～1面上では6～11が出土した。かわらけ（6～10）はロクロ製小皿のみの提示となったが、器壁が厚く外反器形を呈し、大よそ15世紀前半頃の土器様相と見なせる。12～15は1面上の撹乱1から出土した。近現代の陶磁器が主体で、遺物として取り上げなかったが、ガラス瓶の破片なども含まれていた。14・15は今も若宮大路西側に店を構える「三河屋」銘がある徳利で（図版5）、14は一升入り、15は四合入りである。

（2）1面下～2面の出土遺物

図18-16～図20-59は1面下～2面のかわらけ検出までに出土した遺物で、54～59は2面の面上で出土した。ロクロかわらけには厚手･外反タイプと内湾タイプがあり、新旧の土器様相が混在している。他の陶磁器類も含め、大よそ15世紀前後を下限年代に置くことができる。2面面上のロクロかわらけは内湾タイプで、大皿（58・59）は身深で坏形に近い。

（3）2面下～3面の出土遺物

図20-60～図22-132に示した。60～73は調査区西部の丁寧な整地層から出土し、ロクロかわらけは厚手・外反タイプ（72・73）を含む。調査区東部のロクロかわらけ（76～103）は内湾タイプで占められており、西側とは土器様相が異なっている。他のロクロかわらけ（111～130）も概ね内湾タイプで占められており、西側整地層の資料だけがやや新しい土器様相を含んでいるといえる。瀬戸卸皿（106）は古瀬戸前Ⅳ期、ないしそれ以降の製品と見られることから、13世紀後葉を大よその上限年代として位置付けることができよう。

（4）3面下～4面の出土遺物

図22-134～図23-177bが該当する。ロクロかわらけ(134～157･170～174)は内湾タイプが主体となる。6b型式の常滑甕（158・159）を根拠とすれば、13世紀後葉を大よその上限年代に置くことができる。

（5）4面下～5面の出土遺物

図24-178～図25-212を掲げた。ロクロかわらけ（178～201）は、上層の資料に比べて底径が広く身浅な印象となり、特に小皿において顕著である。ただし常滑の甕には6b型式の資料（206・208）が含まれるので、ここでも13世紀後葉が上限年代として示し得る。

4面より上位では図示すべき木製品がなく、地下水位より高い位置にあったことから腐朽した可能性

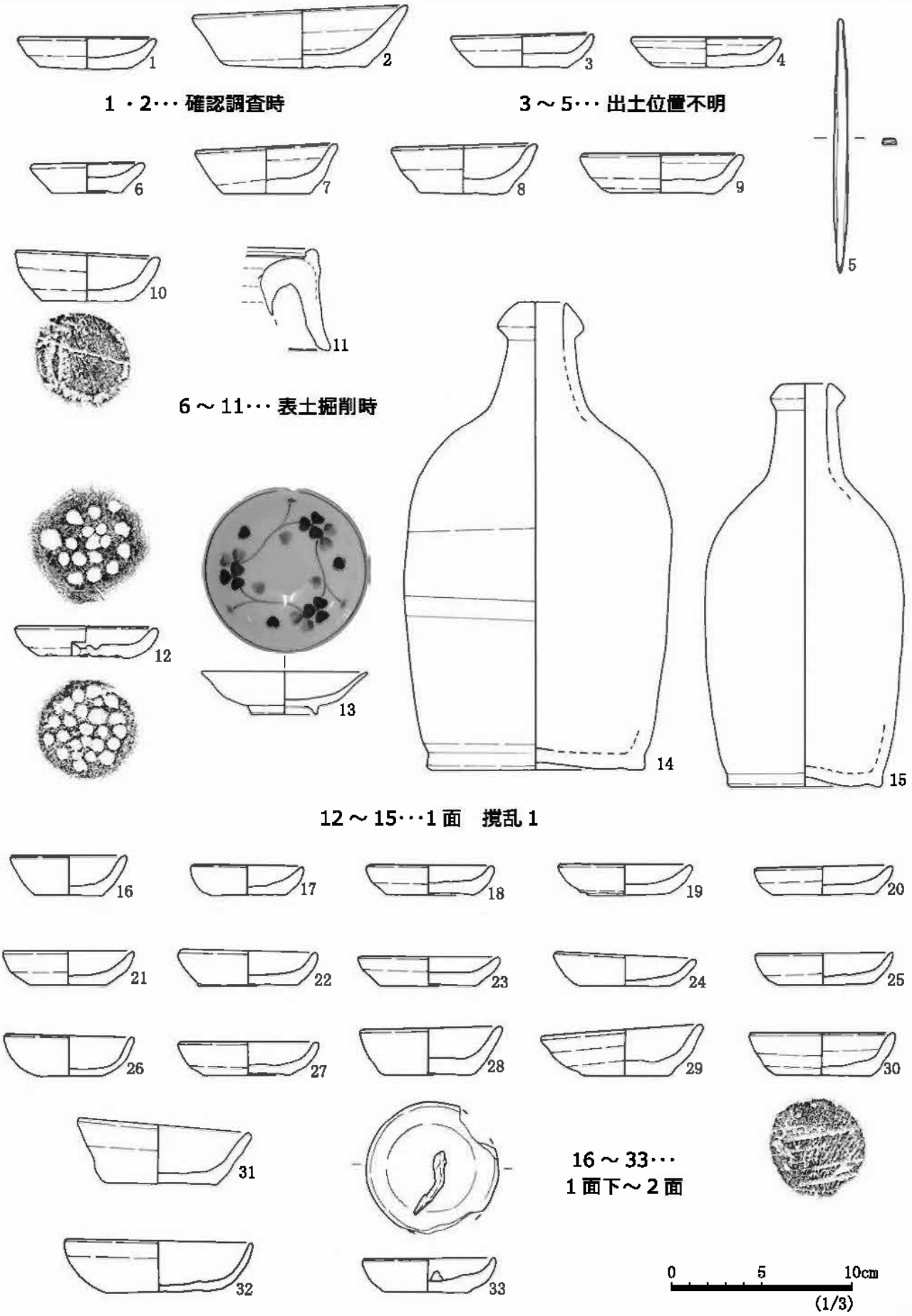

1
2
3
4
1・2… 確認調査時
3～5… 出土位置不明
5
6
7
8
9
10
11
6～11… 表土掘削時
12
13
14
15
12～15…1面　撹乱1
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
16～33…
1面下～2面
0
5
10cm
(1/3)

図18　出土遺物（1）

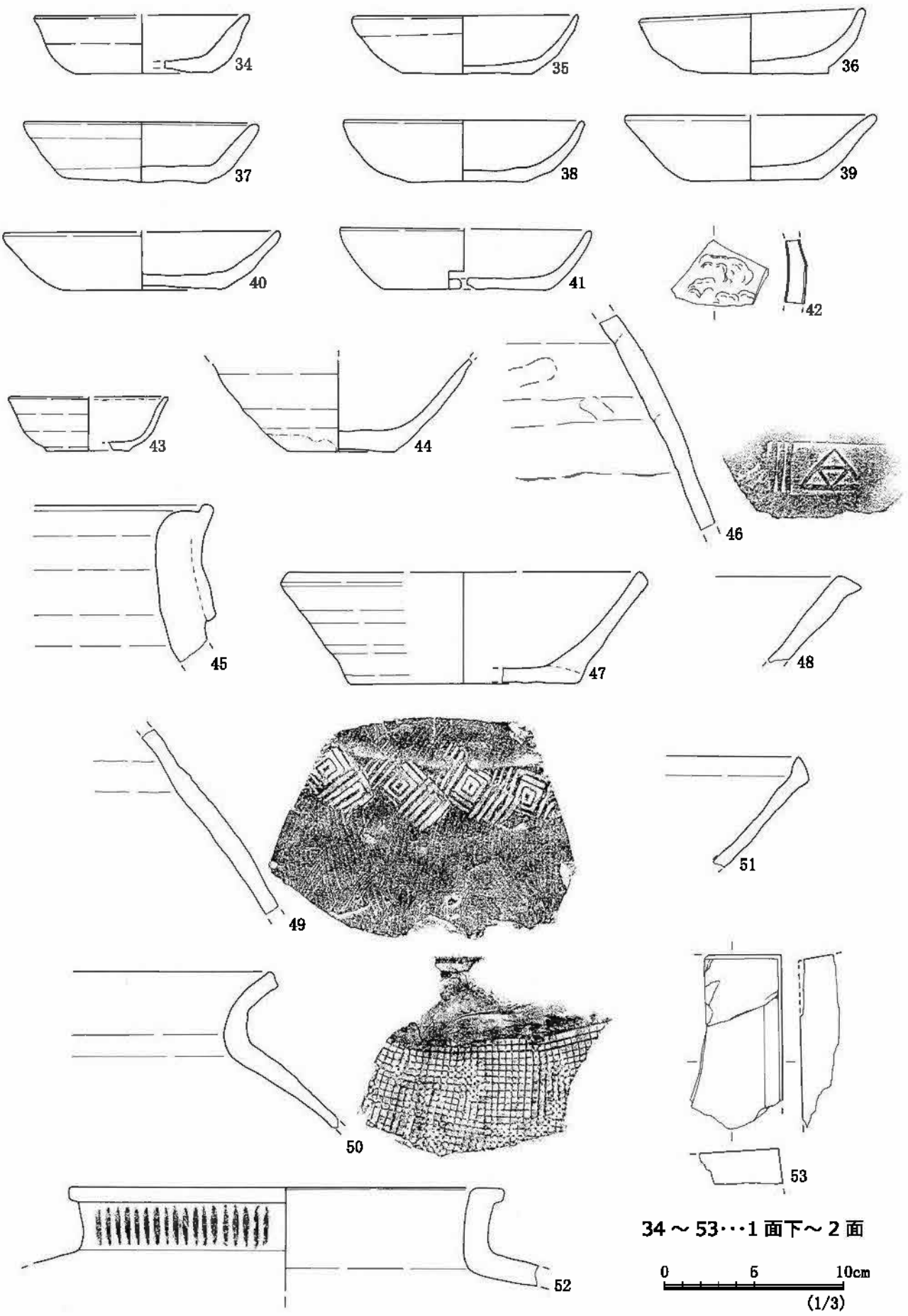

34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
34～53…1面下～2面
0
5
10cm
(1/3)

図19　出土遺物（2）

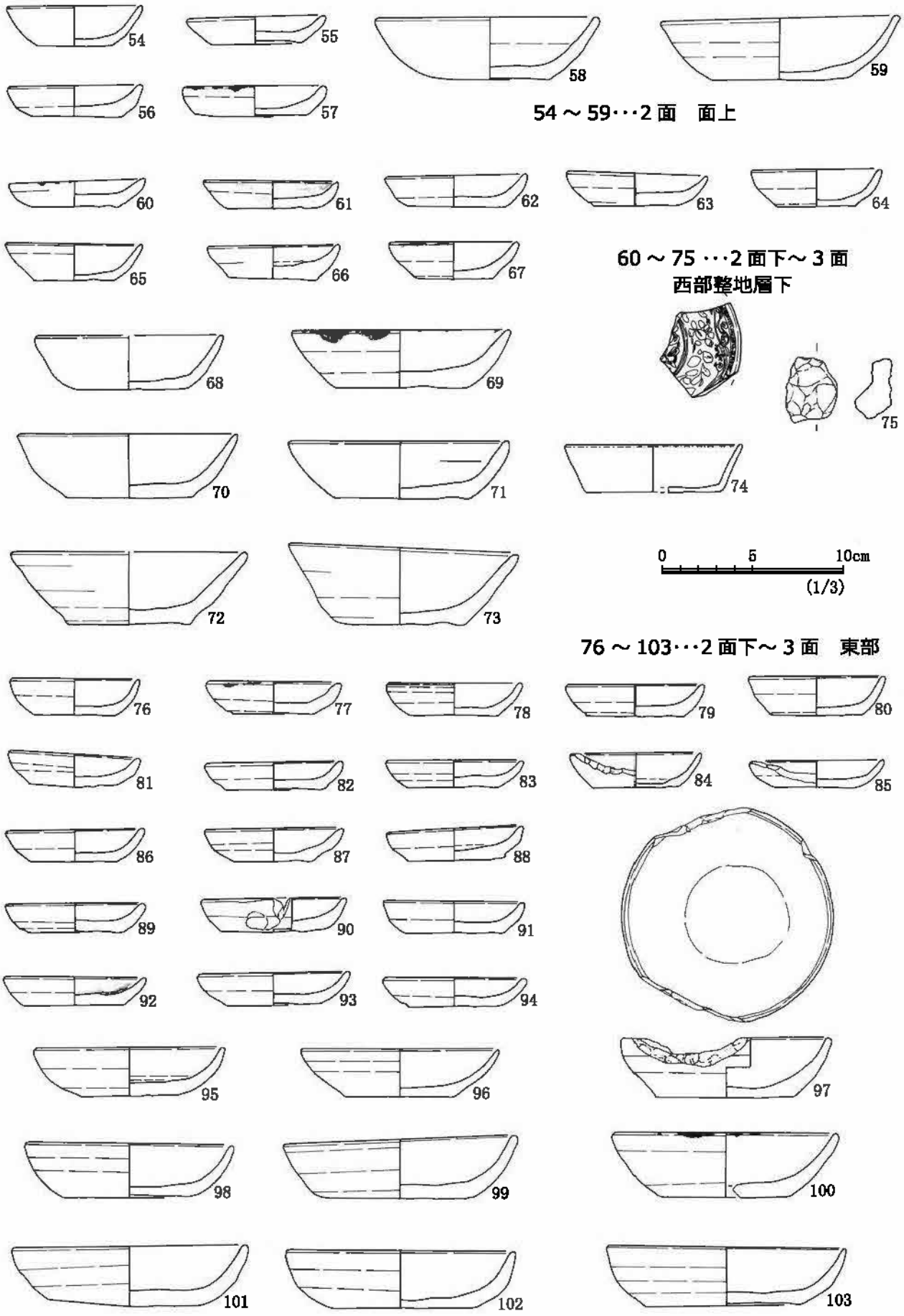
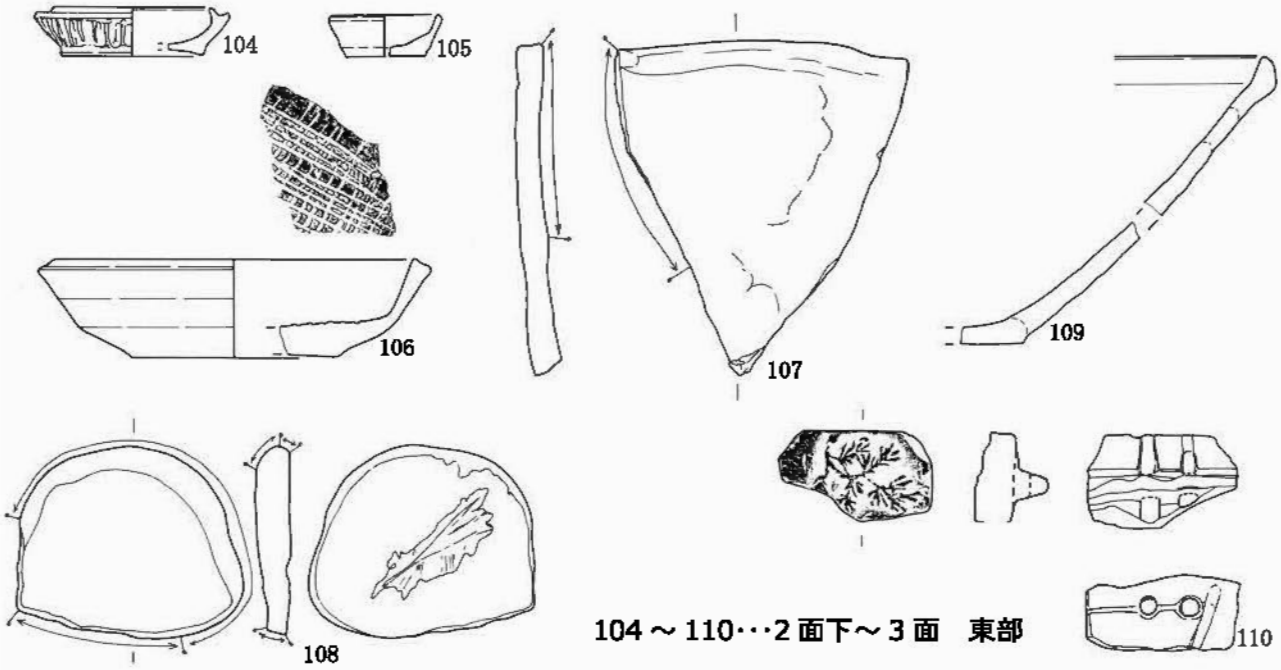

54
55
58
59
56
57
54 ～ 59･･･2 面　面上
60
61
62
63
64
65
66
67
60 ～ 75 ･･･2 面下～ 3 面
西部整地層下
68
69
75
70
71
74
0
5
10cm
(1/3)
72
73
76 ～ 103･･･2 面下～ 3 面　東部
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103

図 20　出土遺物（３）


104
105
106
107
109
108
110
104～110…2面下～3面　東部

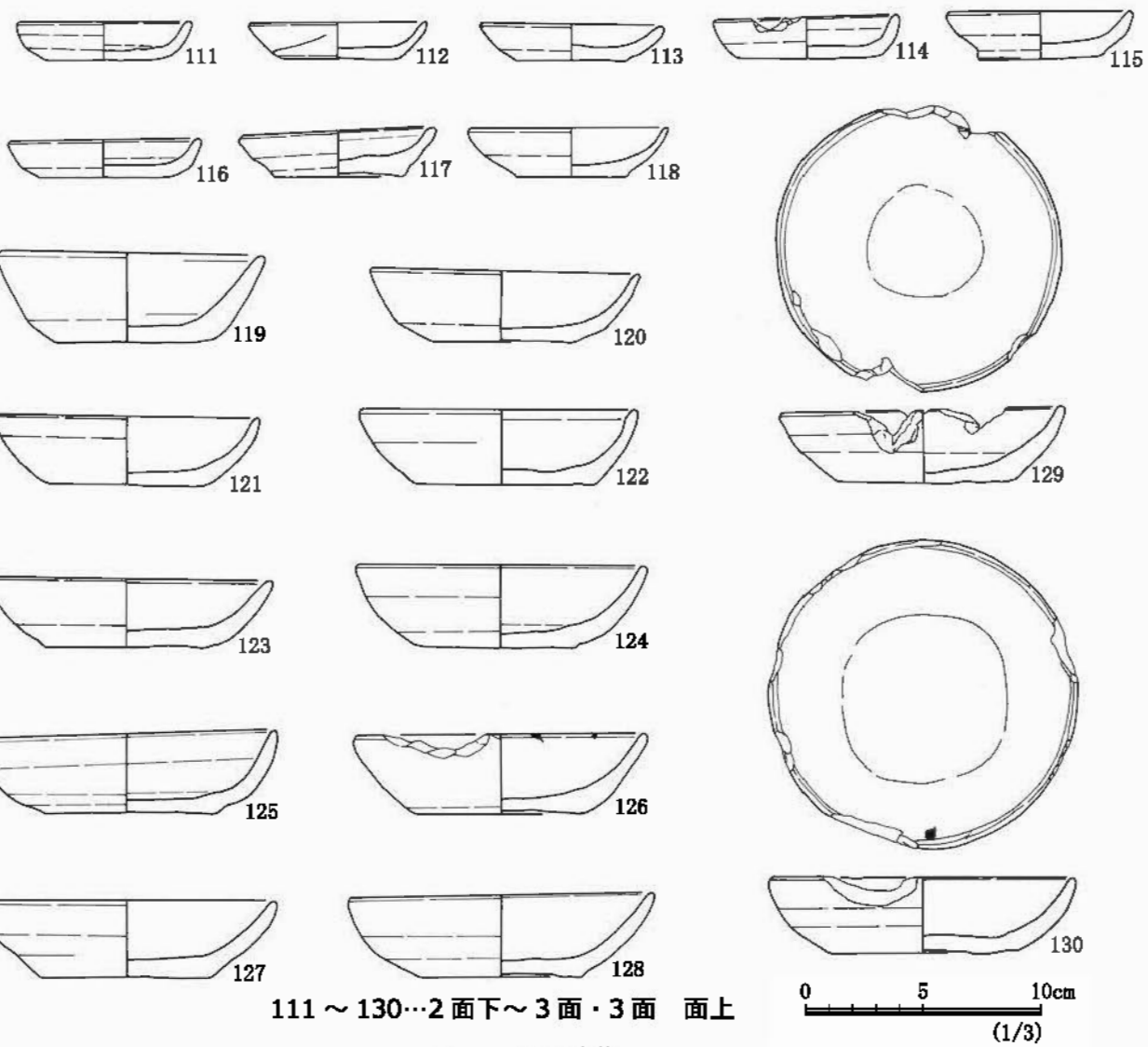
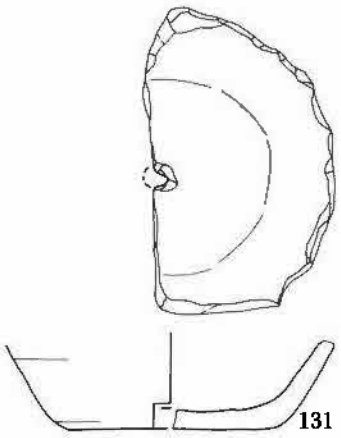
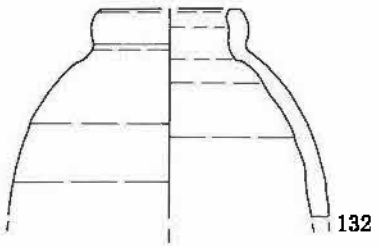
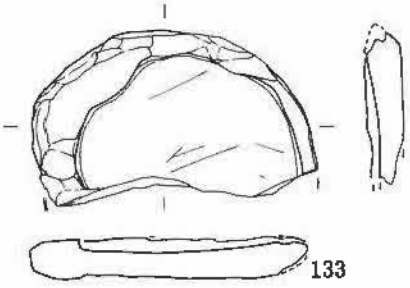

111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
129
123
124
125
126
127
128
130
111～130…2面下～3面・3面　面上
0
5
10cm
(1/3)

図21　出土遺物（4）

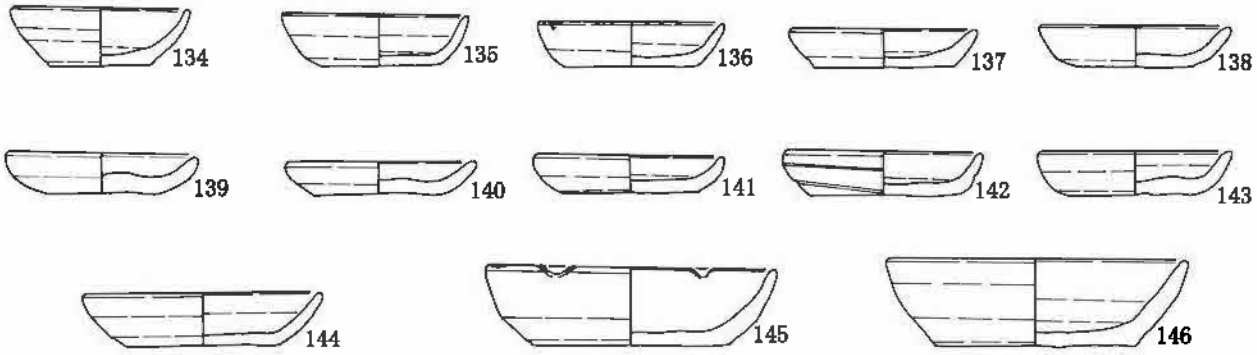


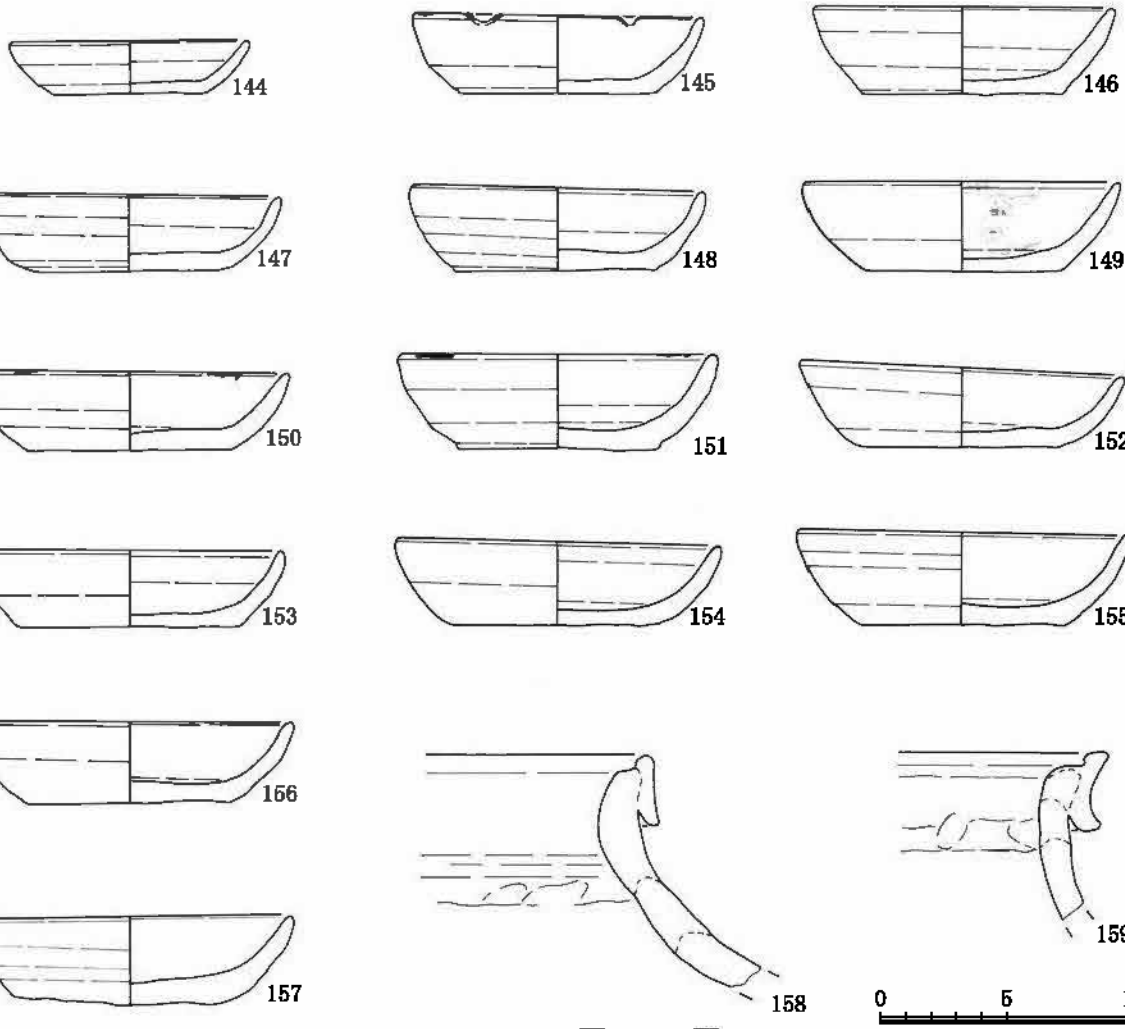
131・132…2面下～3面





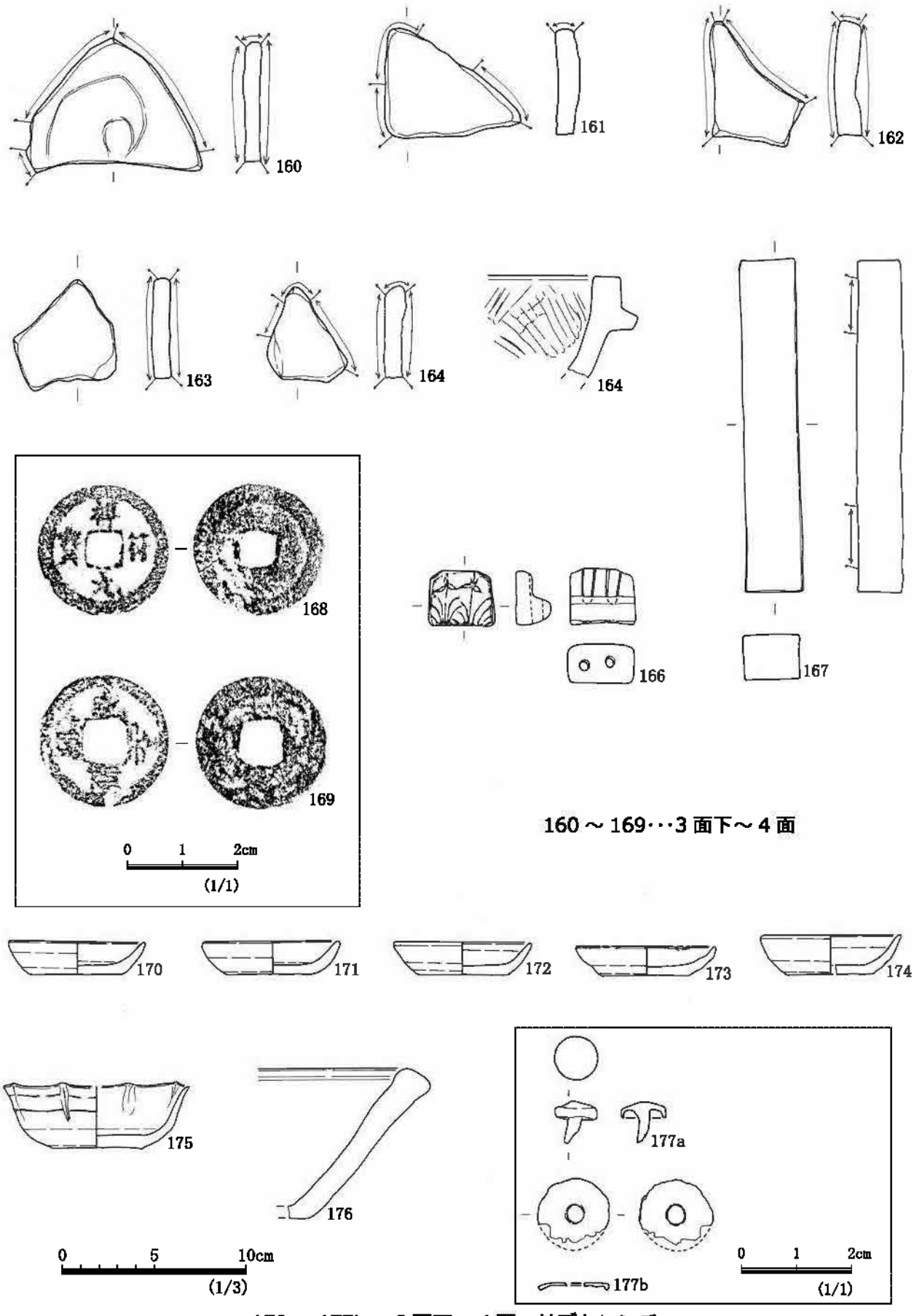
133…3面　ピット2





134～159…3面下～4面

図22　出土遺物（5）



170～177b･･･3面下～4面　サブトレンチ

図23　出土遺物（6）

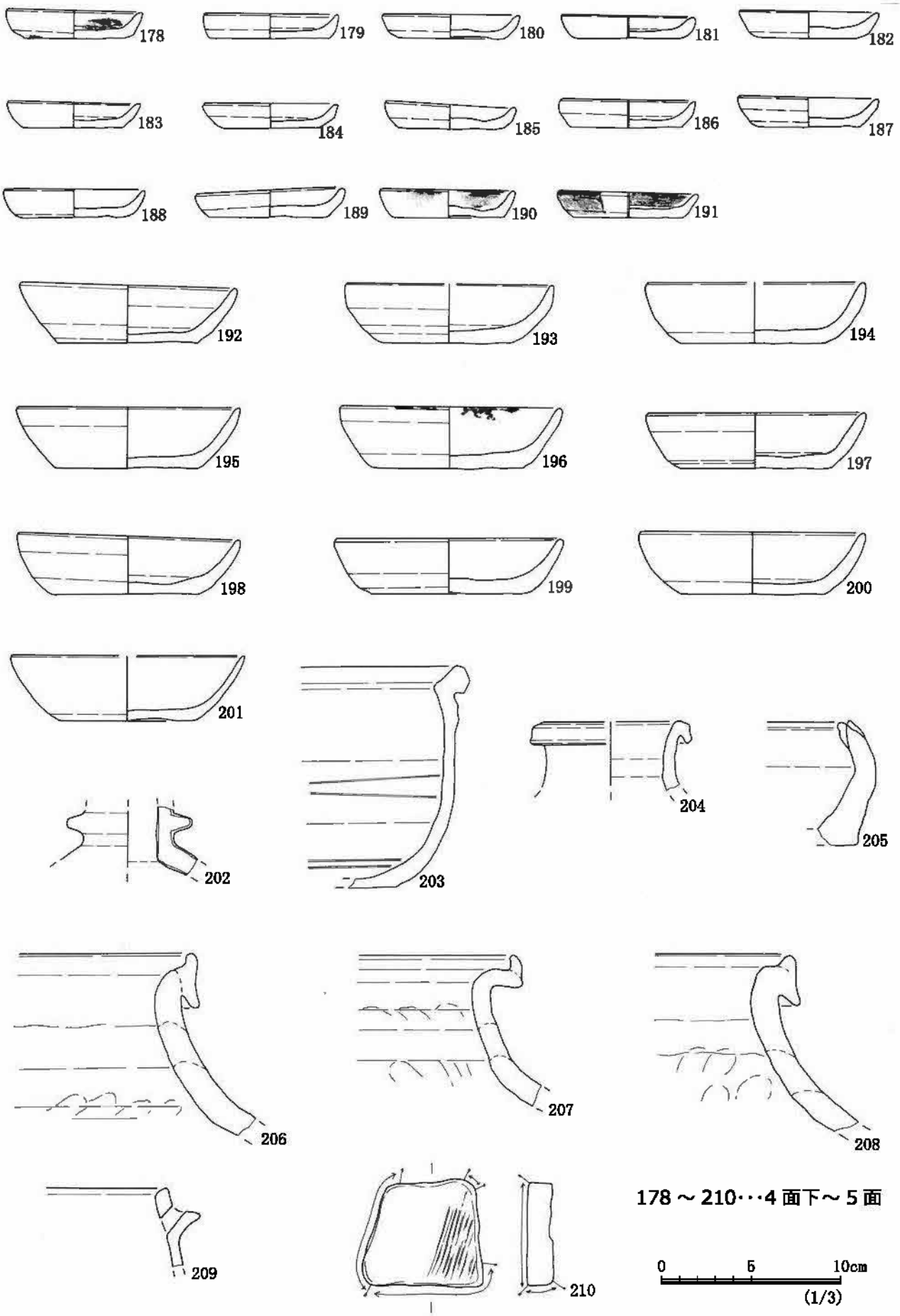
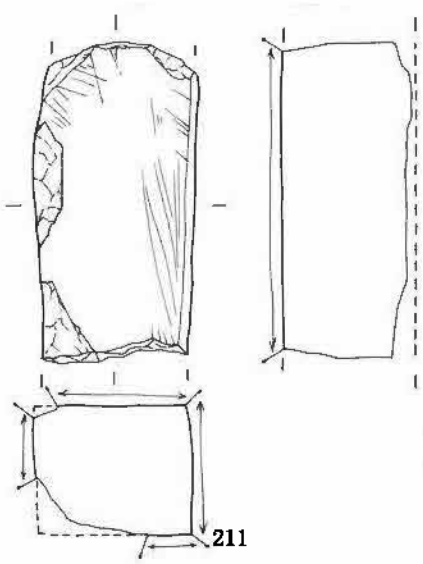
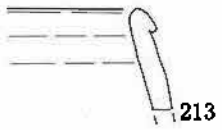
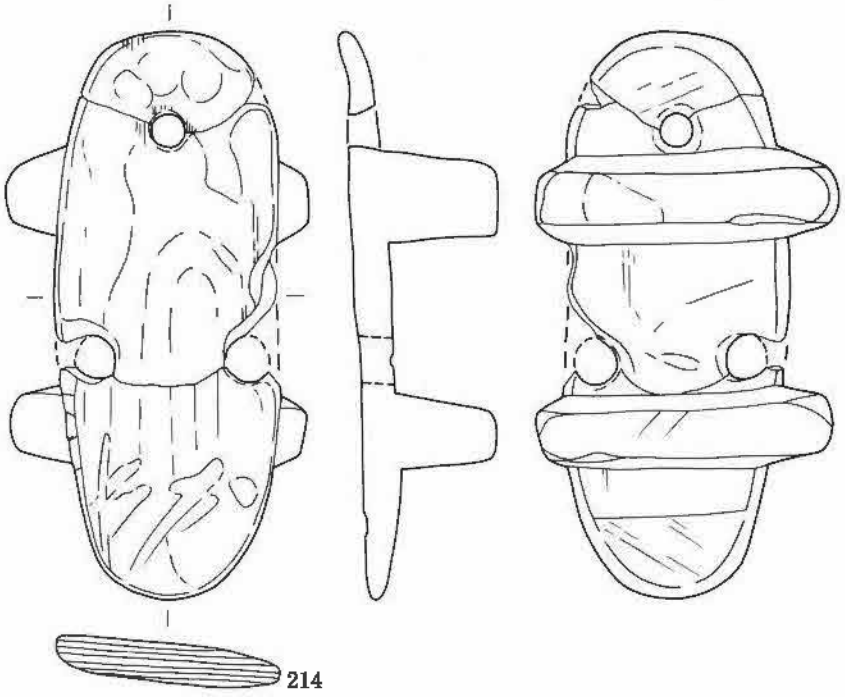

178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
178～210…4面下～5面
0
5
10cm
(1/3)

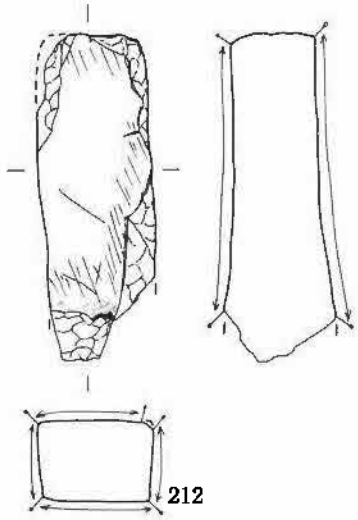
図24　出土遺物（7）



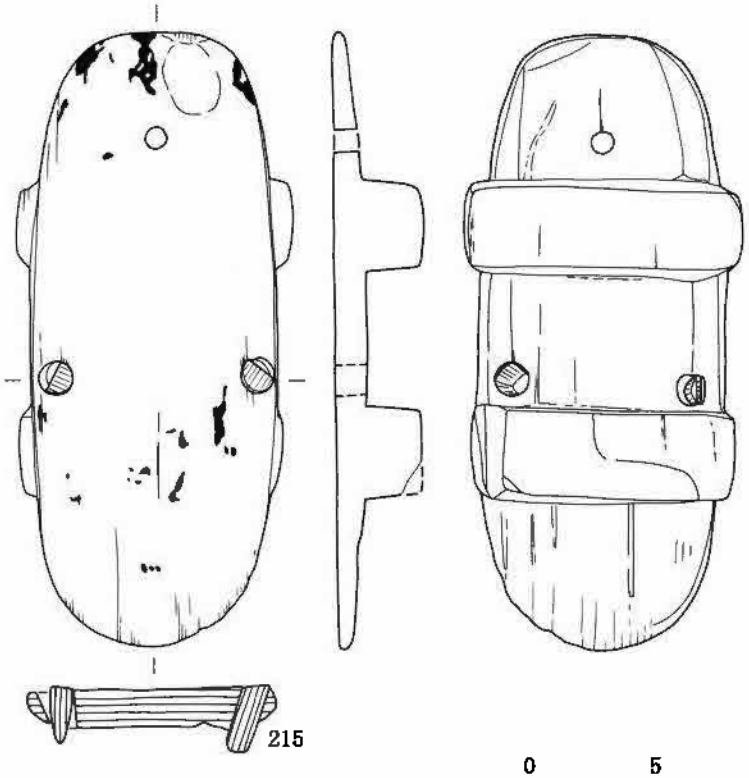


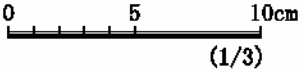
213…5a 面　ピット 511





211・212…4 面下～ 5 面





214・215…5a 面　面上

図 25　出土遺物（8）

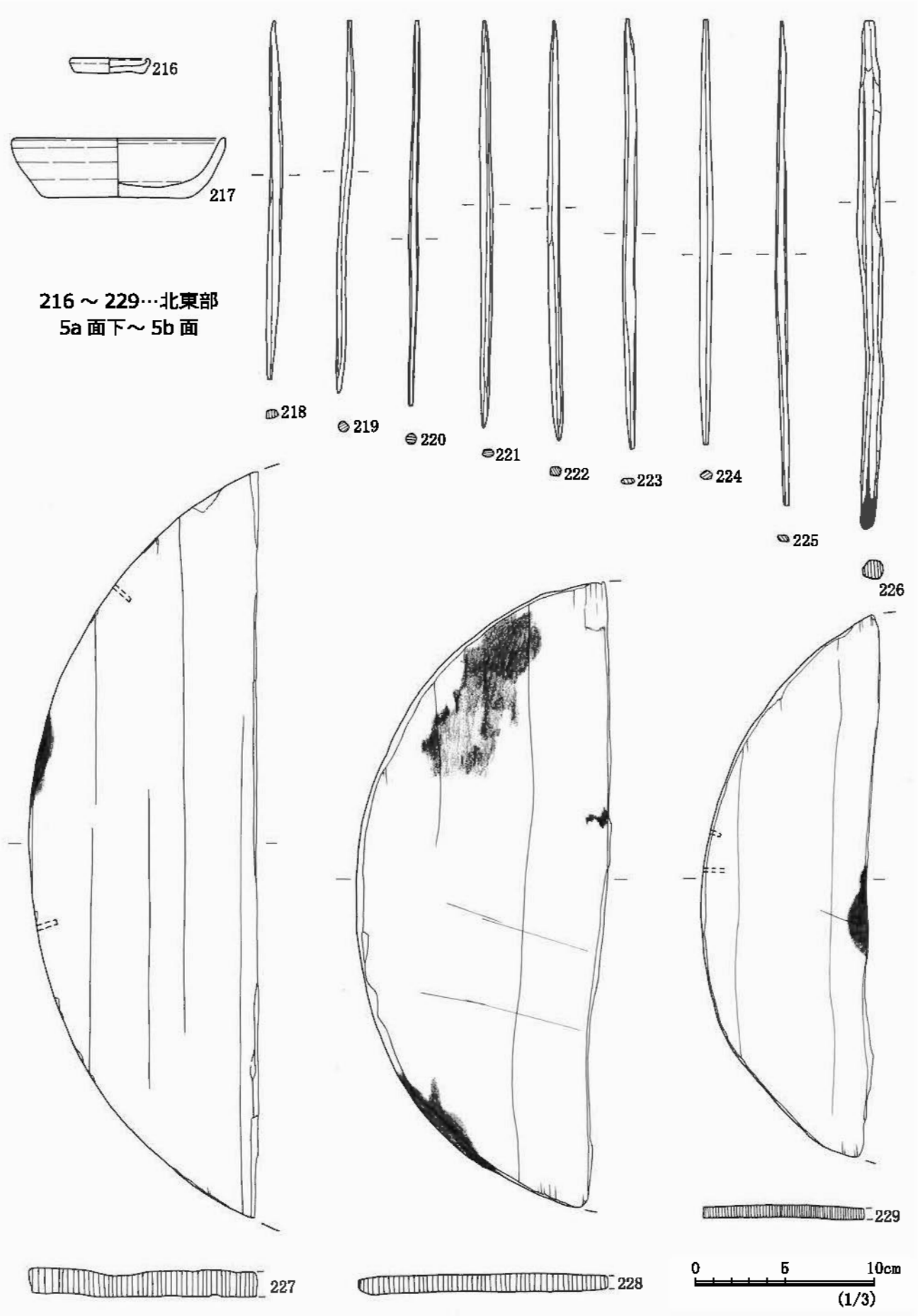

216
217
216 ～ 229…北東部
5a 面下～ 5b 面
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
0
5
10cm
(1/3)

図 26　出土遺物（９）

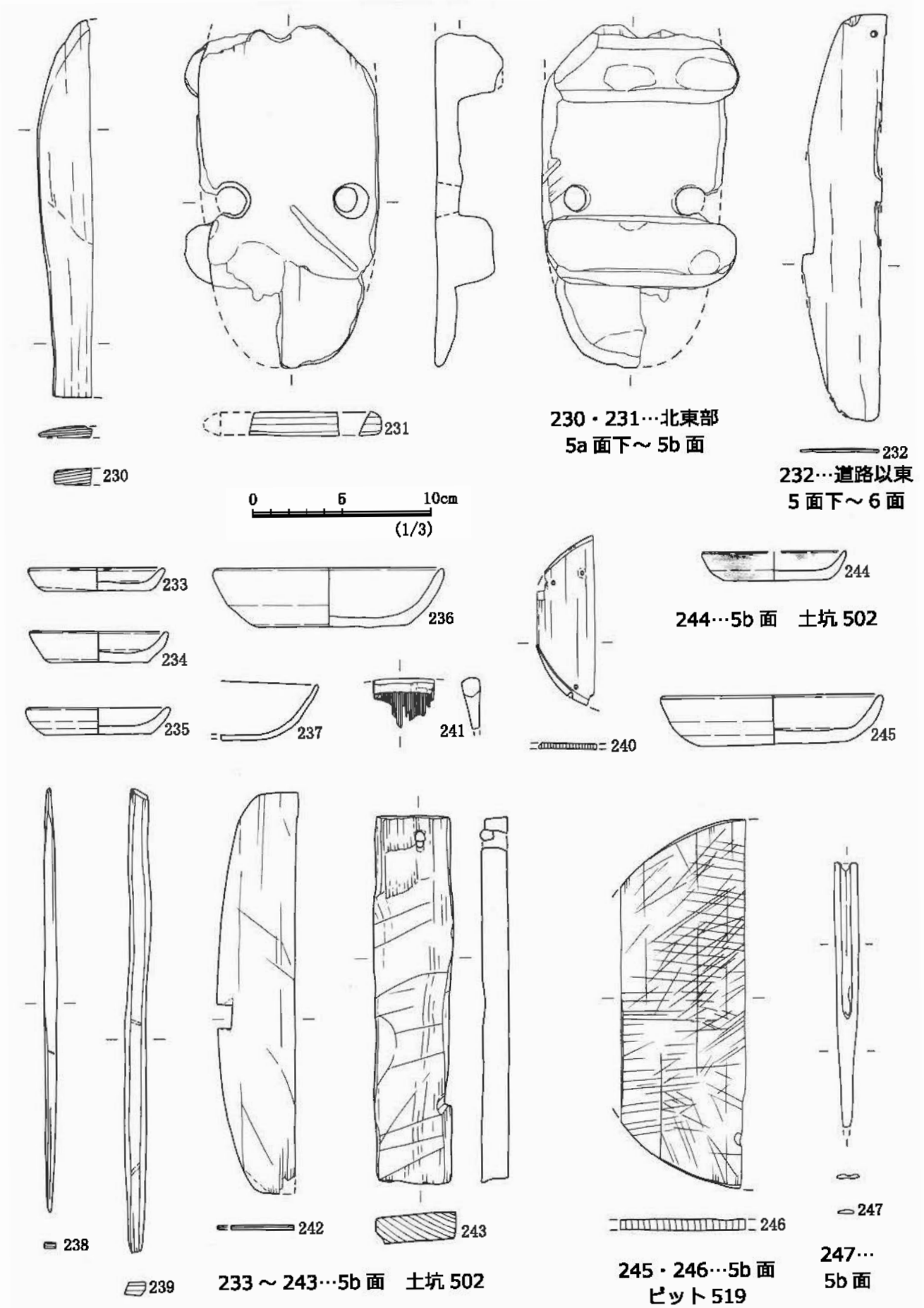
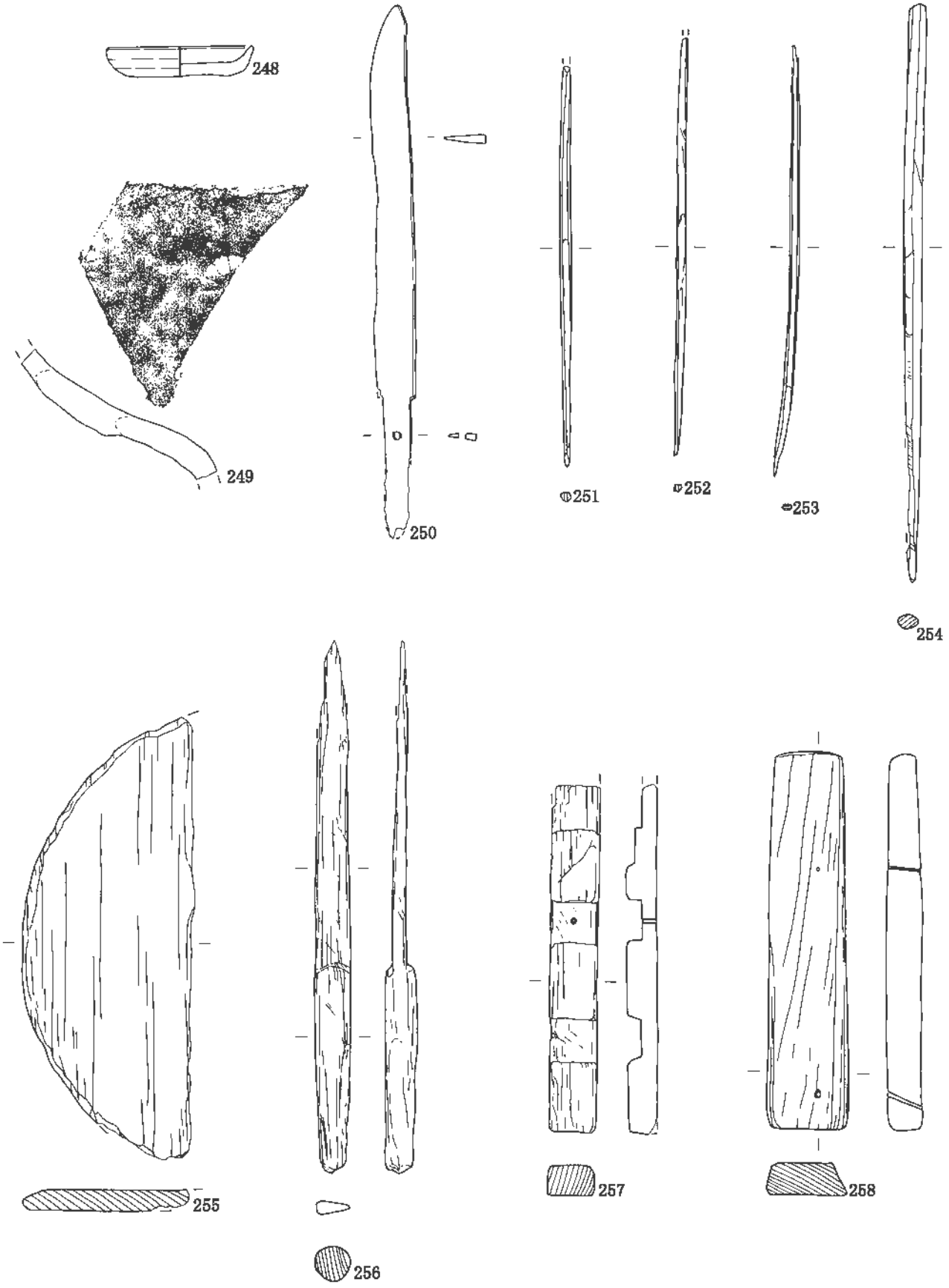
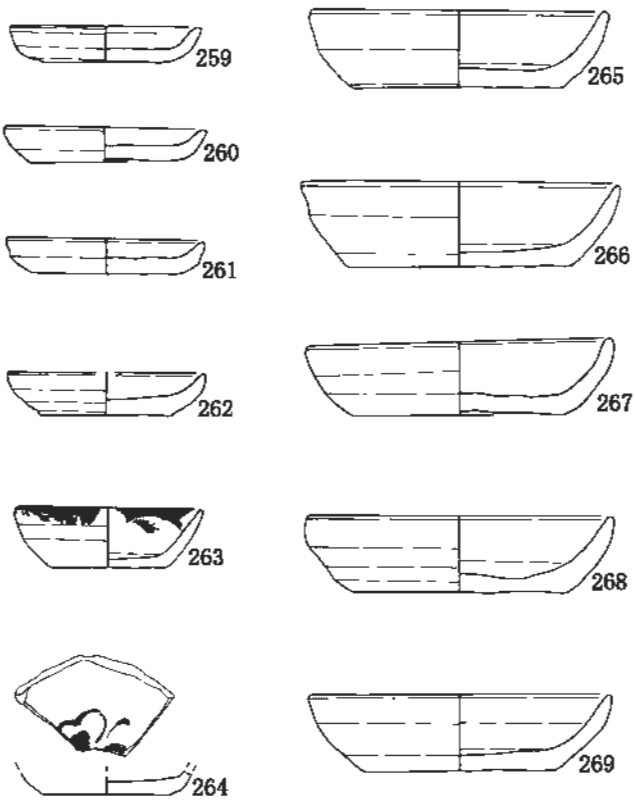

230
231
230・231…北東部
5a 面下～ 5b 面
232
232…道路以東
5 面下～ 6 面
0 5 10cm
(1/3)
233
234
235
236
237
241
240
244
244…5b 面　土坑 502
245
238
239
242
243
233 ～ 243…5b 面　土坑 502
246
245・246…5b 面
ピット 519
247
247…
5b 面

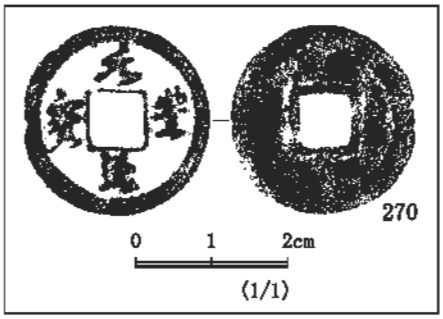
図 27　出土遺物（10）

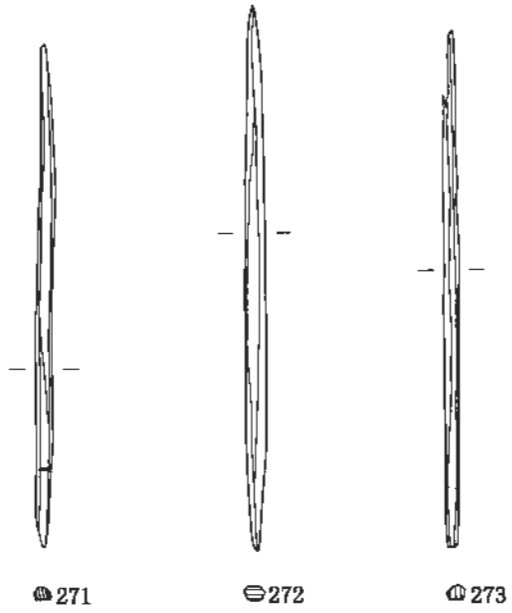


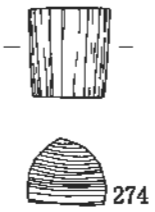
248～258…5面下～6面　道路以西

図28　出土遺物（11）

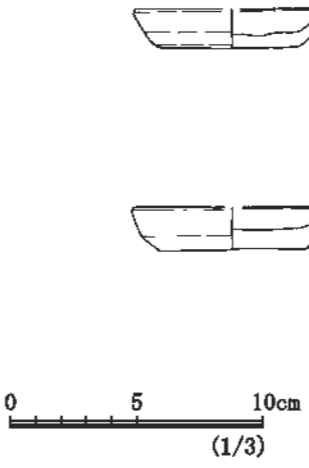


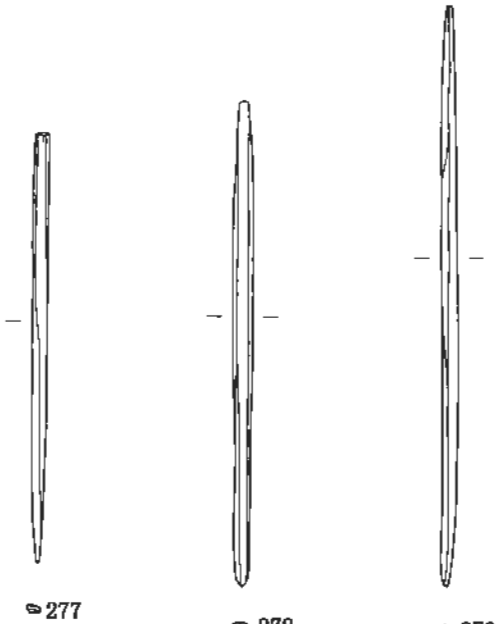






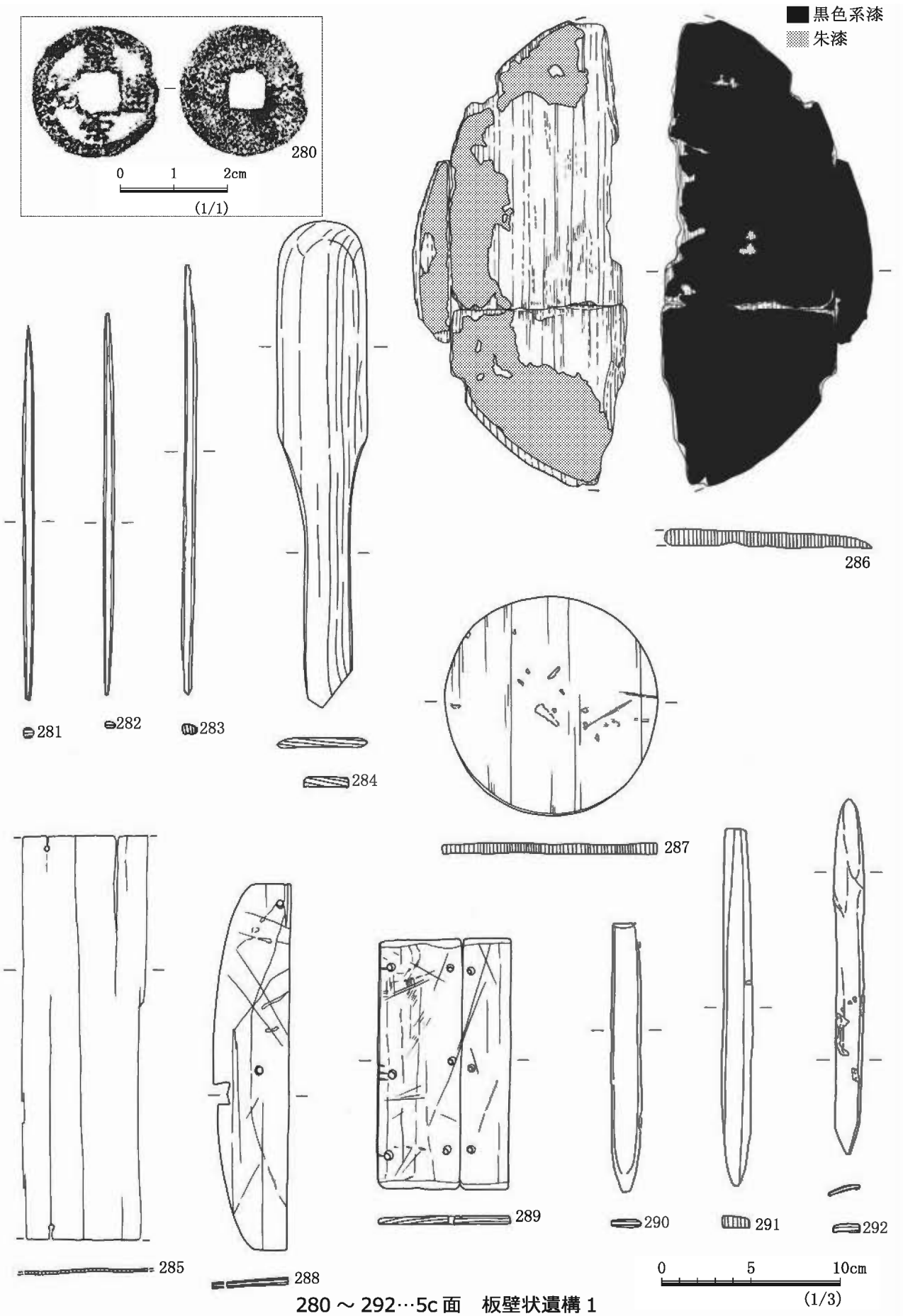
259 ～ 274…5a 面下～ 6 面　木組み溝 1 以東





275 ～ 279…5a 面下　サブトレンチ

図 29　出土遺物（12）



280 ～ 292…5c 面　板壁状遺構 1

図 30　出土遺物（13）

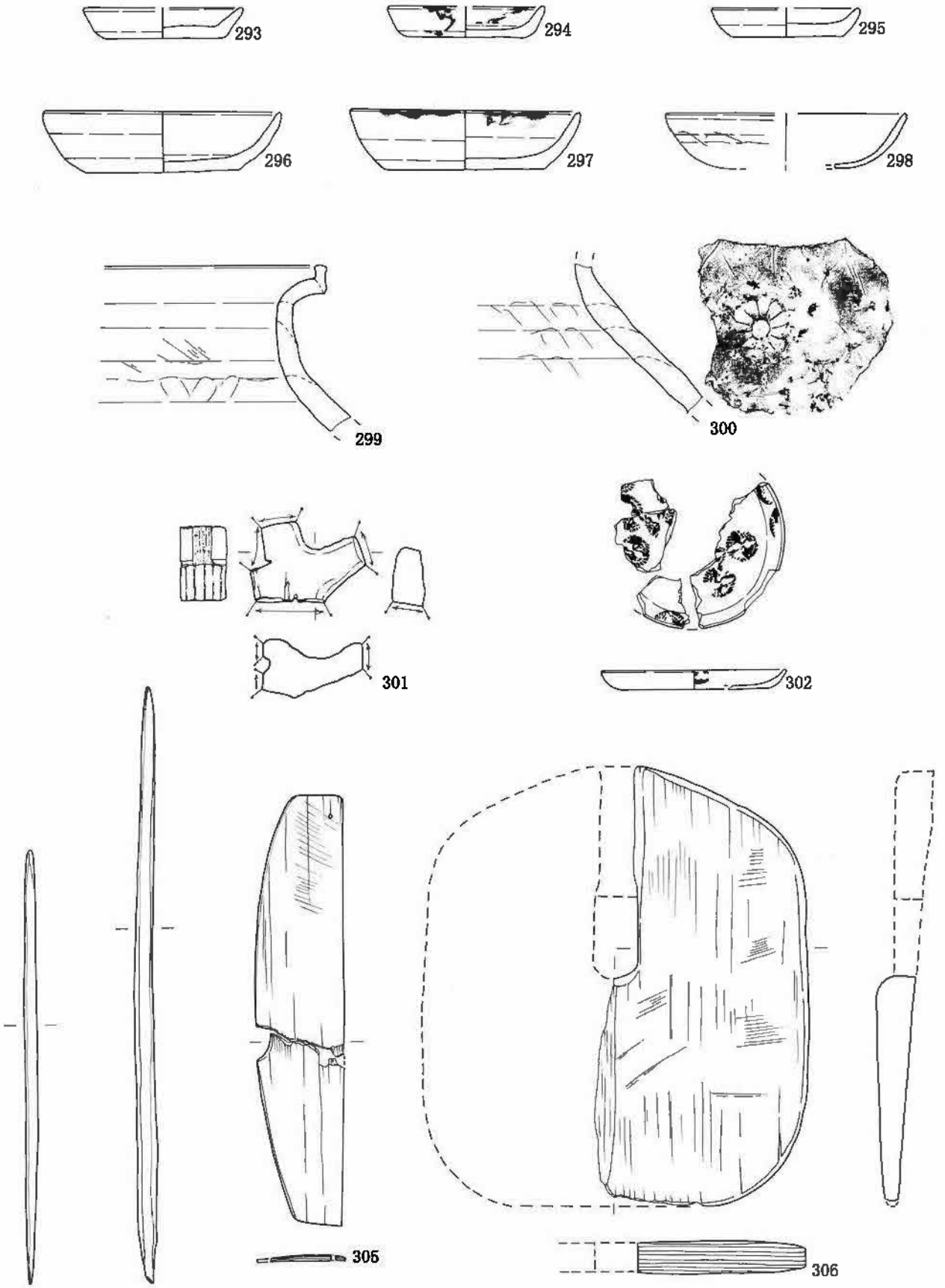
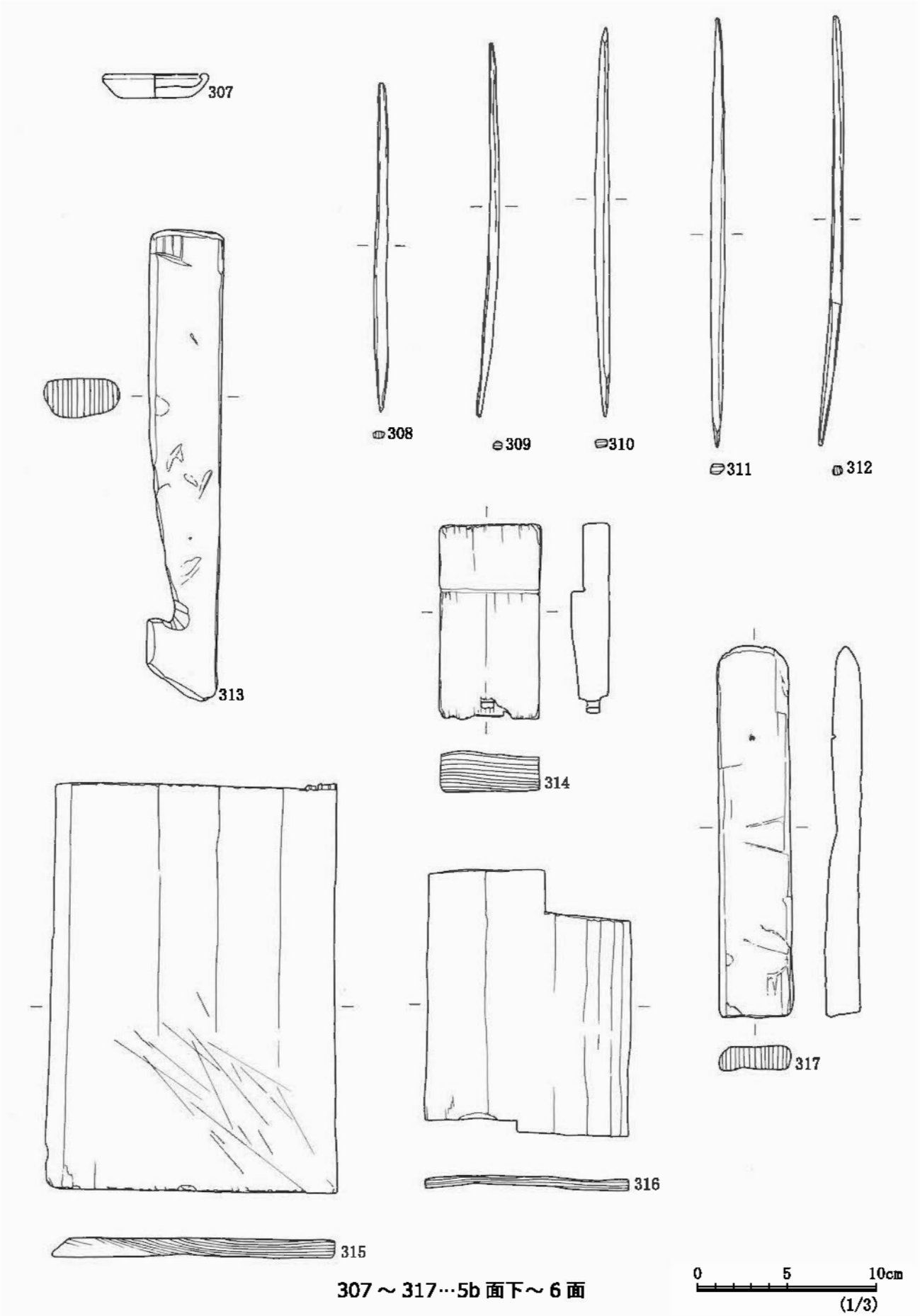
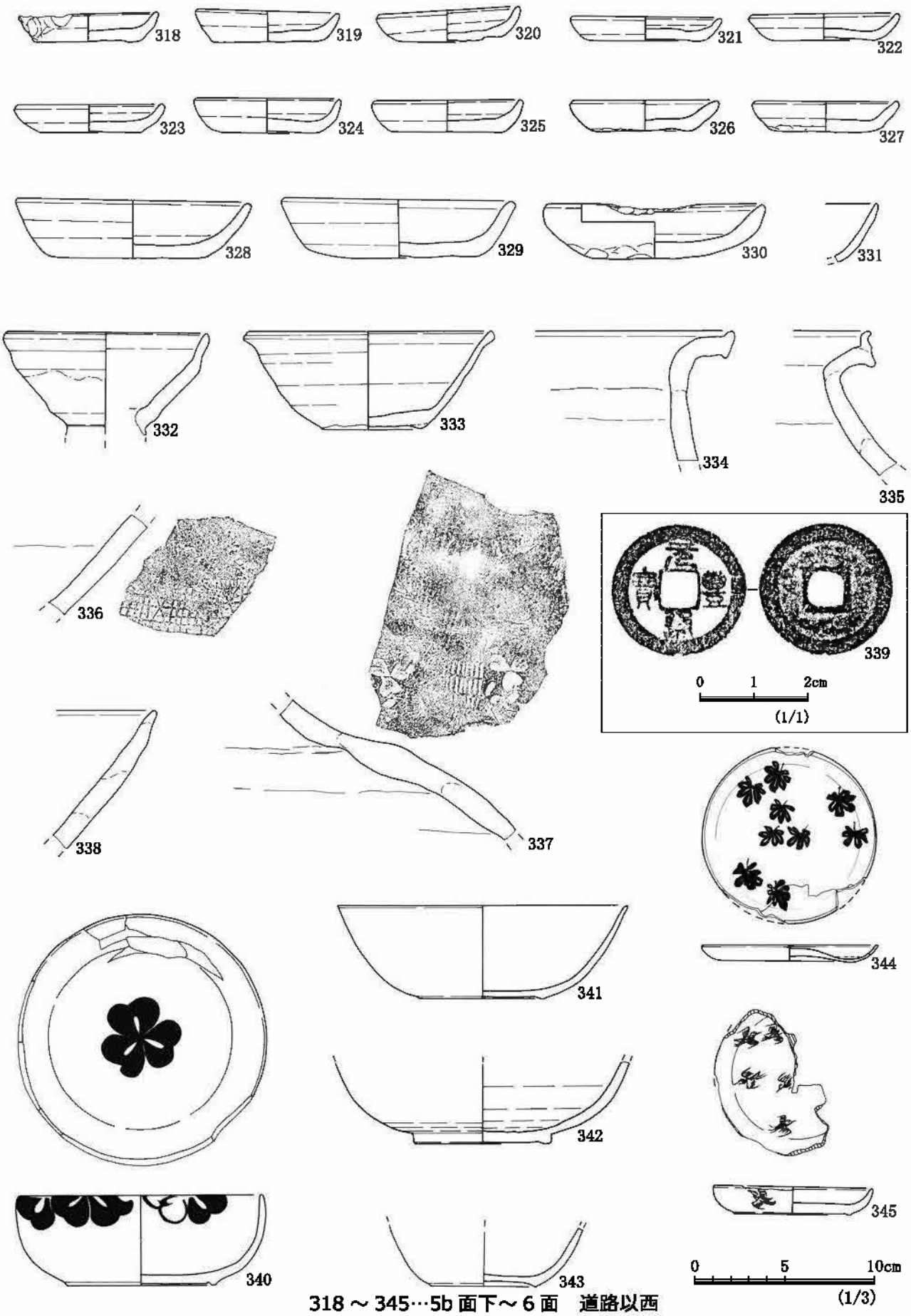

293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
293 ～ 306…5c 面　板壁状遺構 2
0
5
10cm
(1/3)

図 31　出土遺物（14）



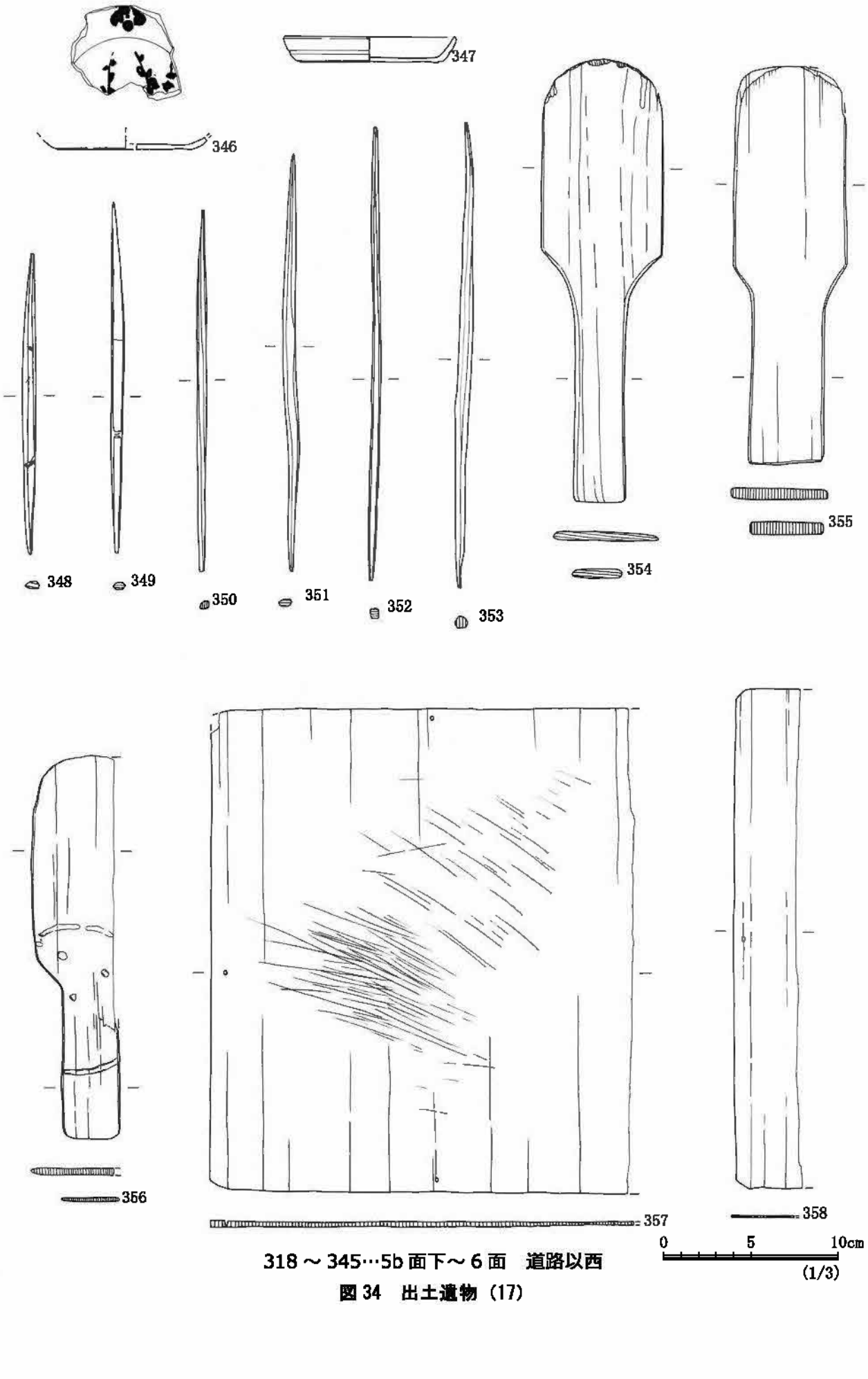
307～317…5b 面下～6 面

図 32　出土遺物（15）



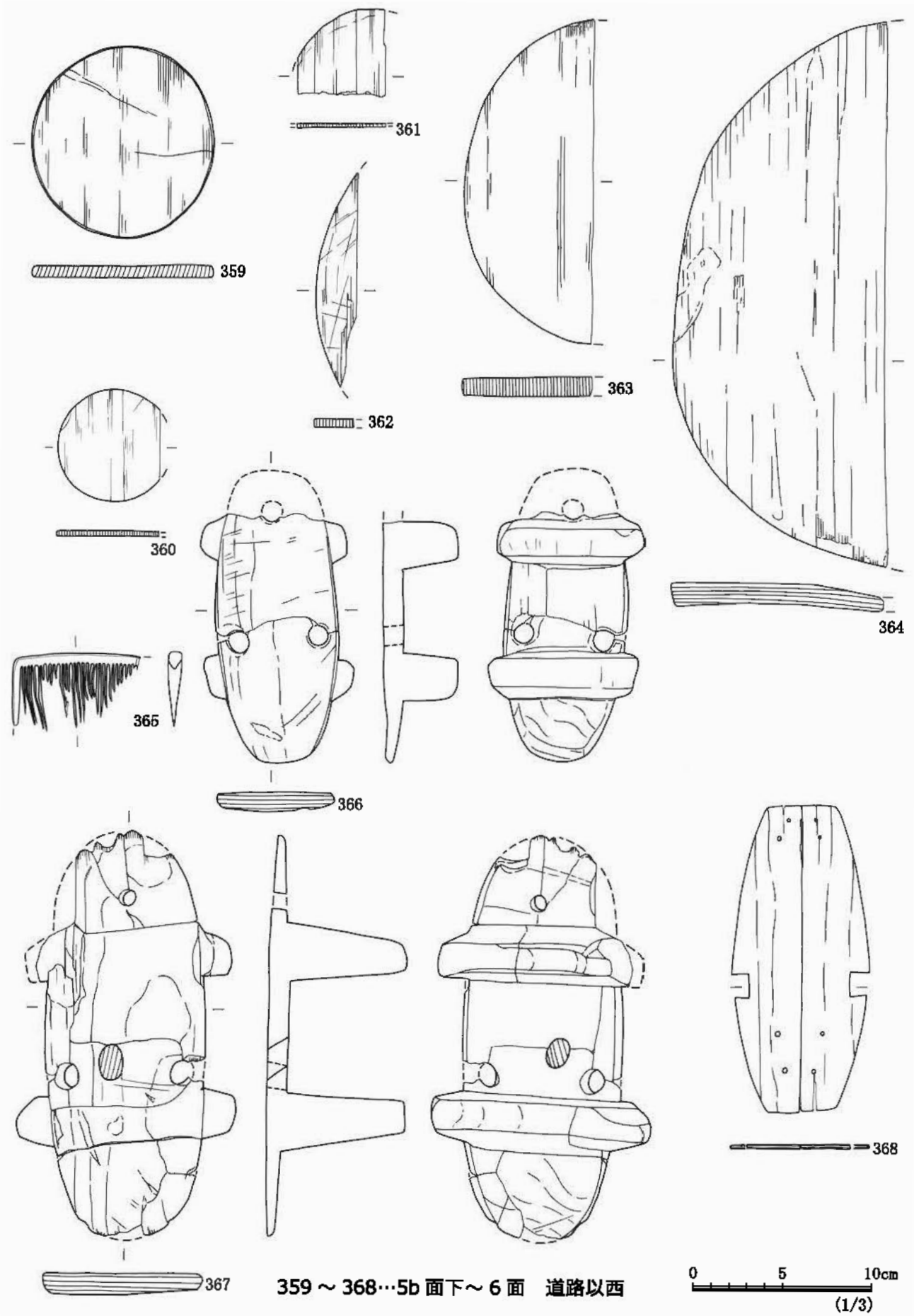
318 ～ 345…5b 面下～ 6 面　道路以西

図 33　出土遺物（16）



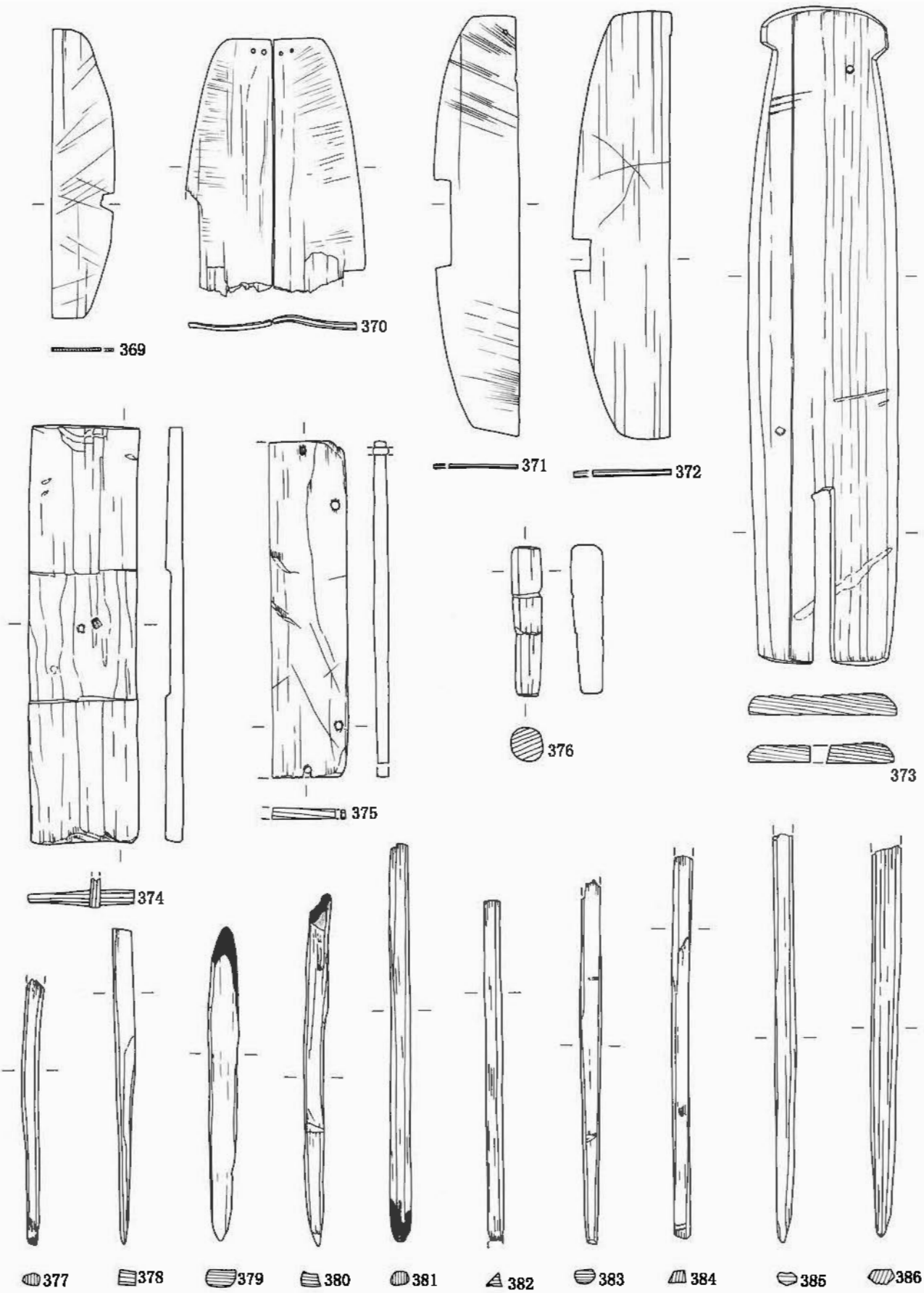
318～345…5b面下～6面　道路以西

図34　出土遺物（17）



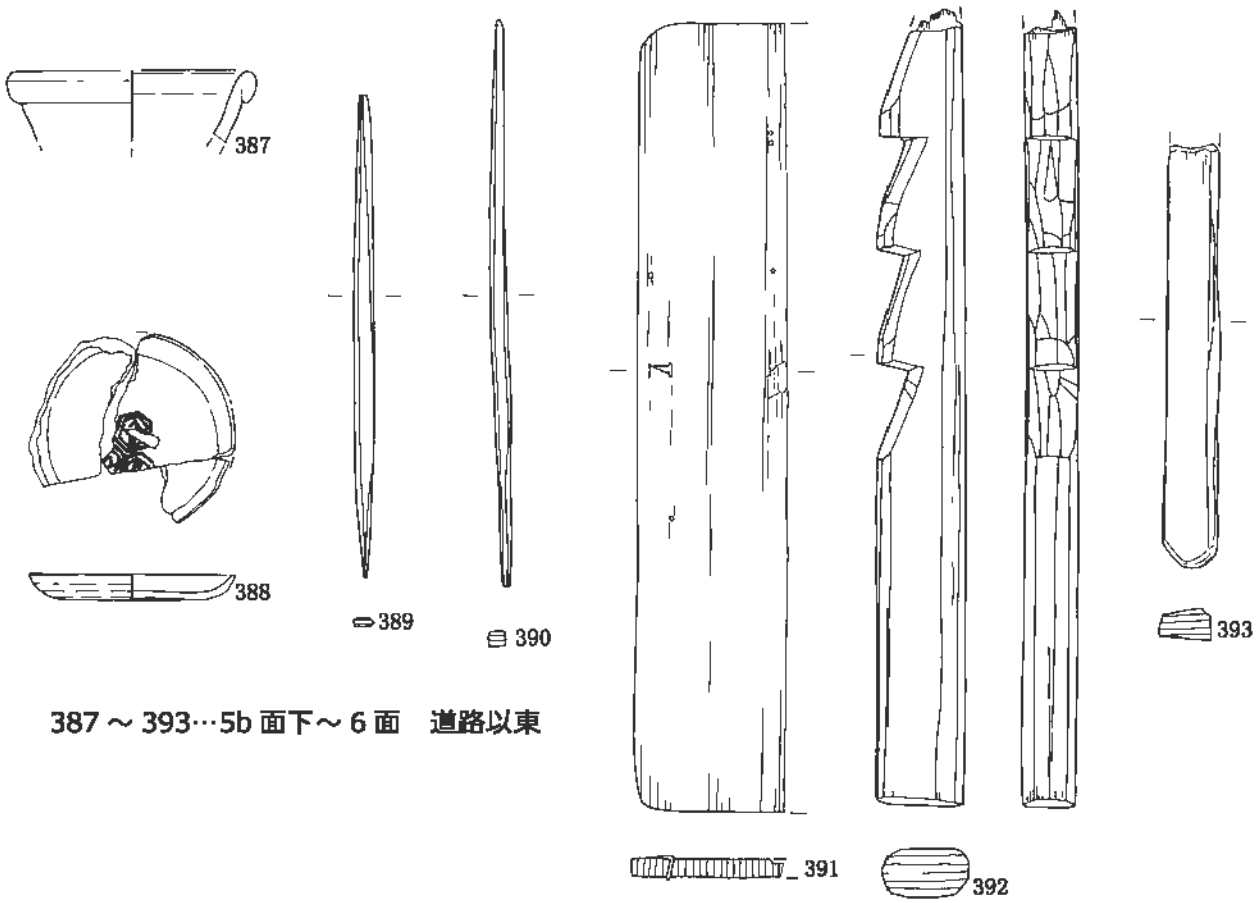
359 ～ 368…5b 面下～ 6 面　道路以西

図 35　出土遺物（18）

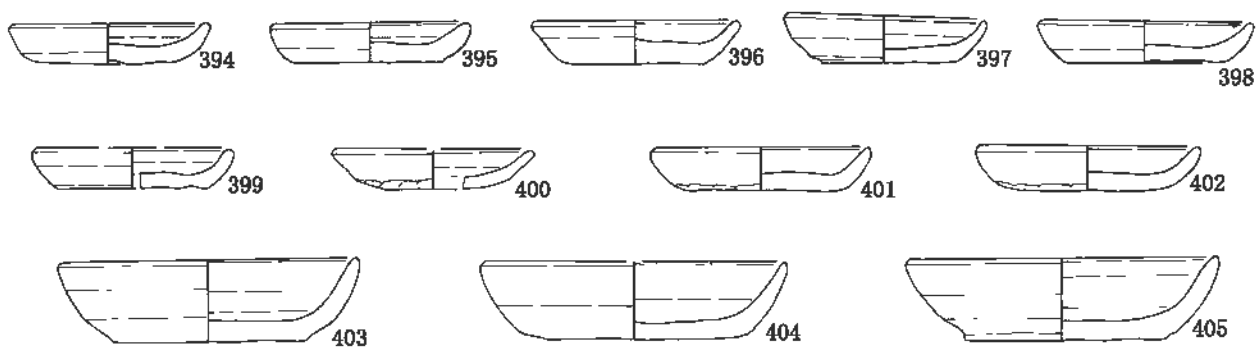


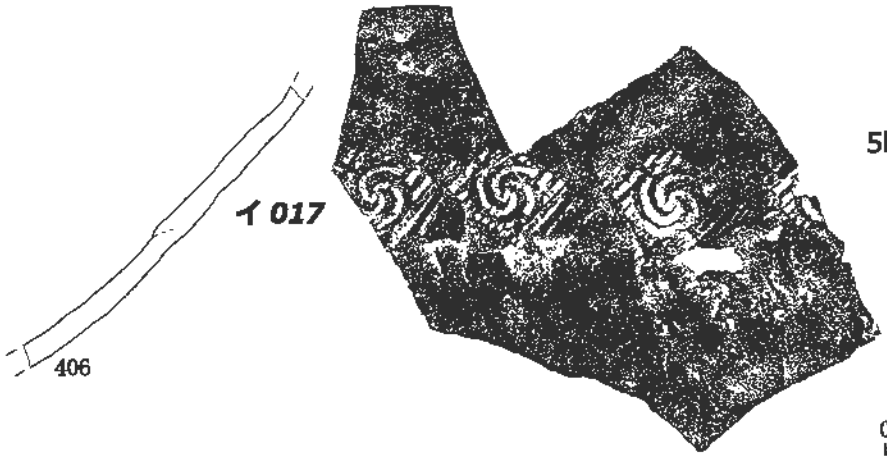
369～386…5b 面下～6面　道路以西

図 36　出土遺物（19）



387～393…5b 面下～6 面　道路以東

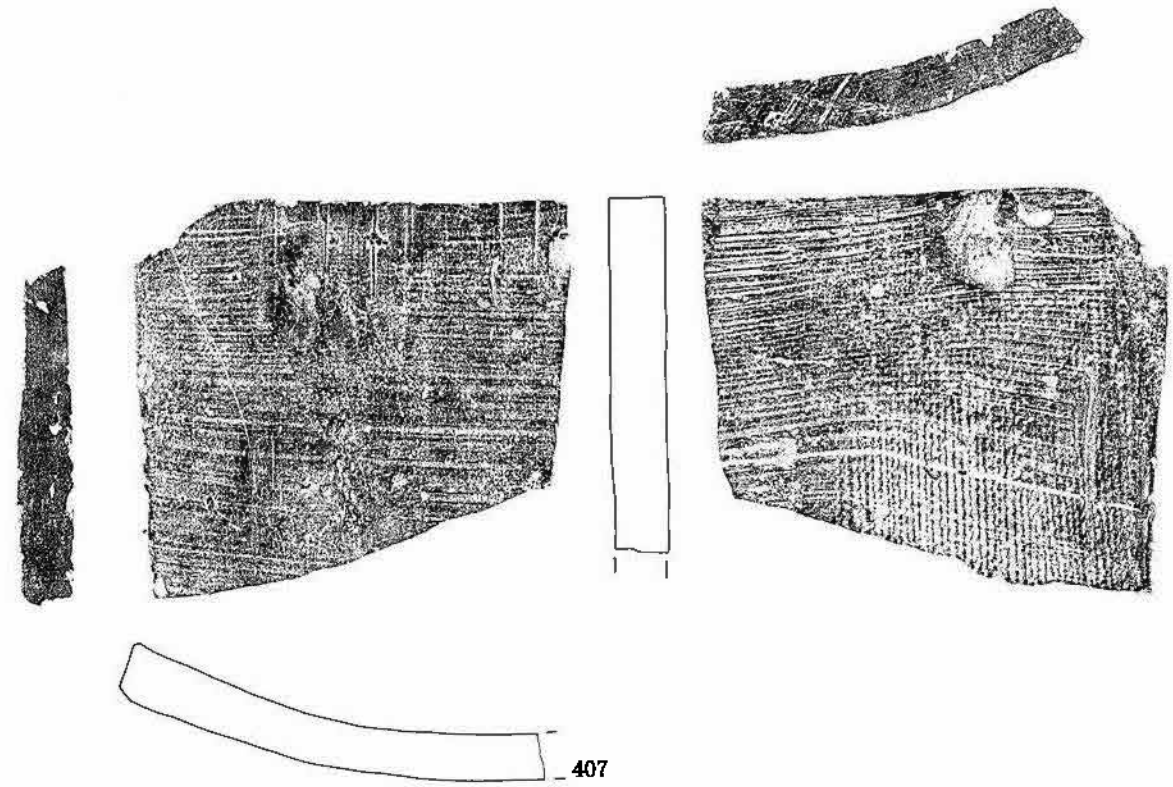




394～406…
5b 面下～6 面　道路下

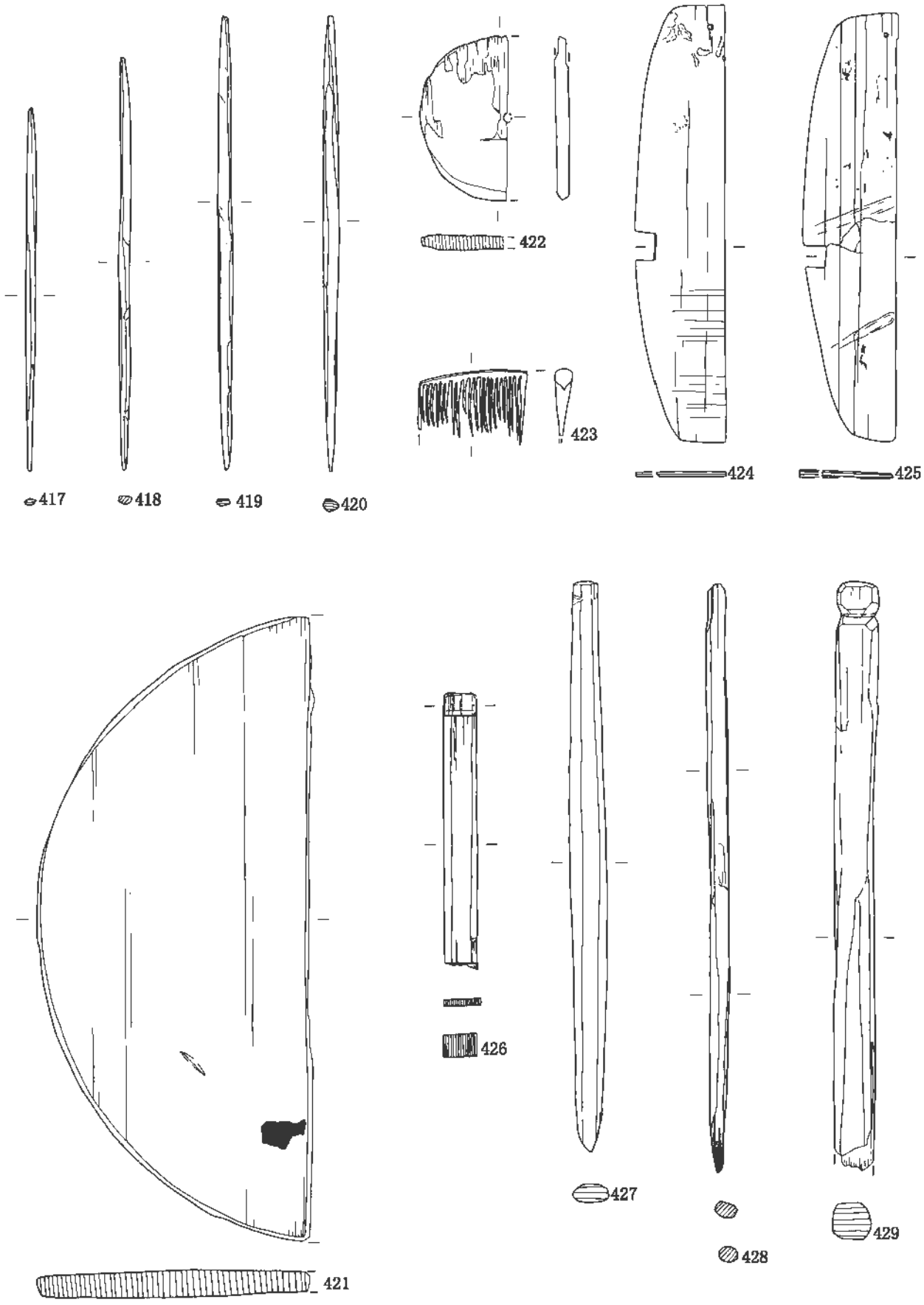
0　5　10cm
(1/3)

図 37　出土遺物（20）



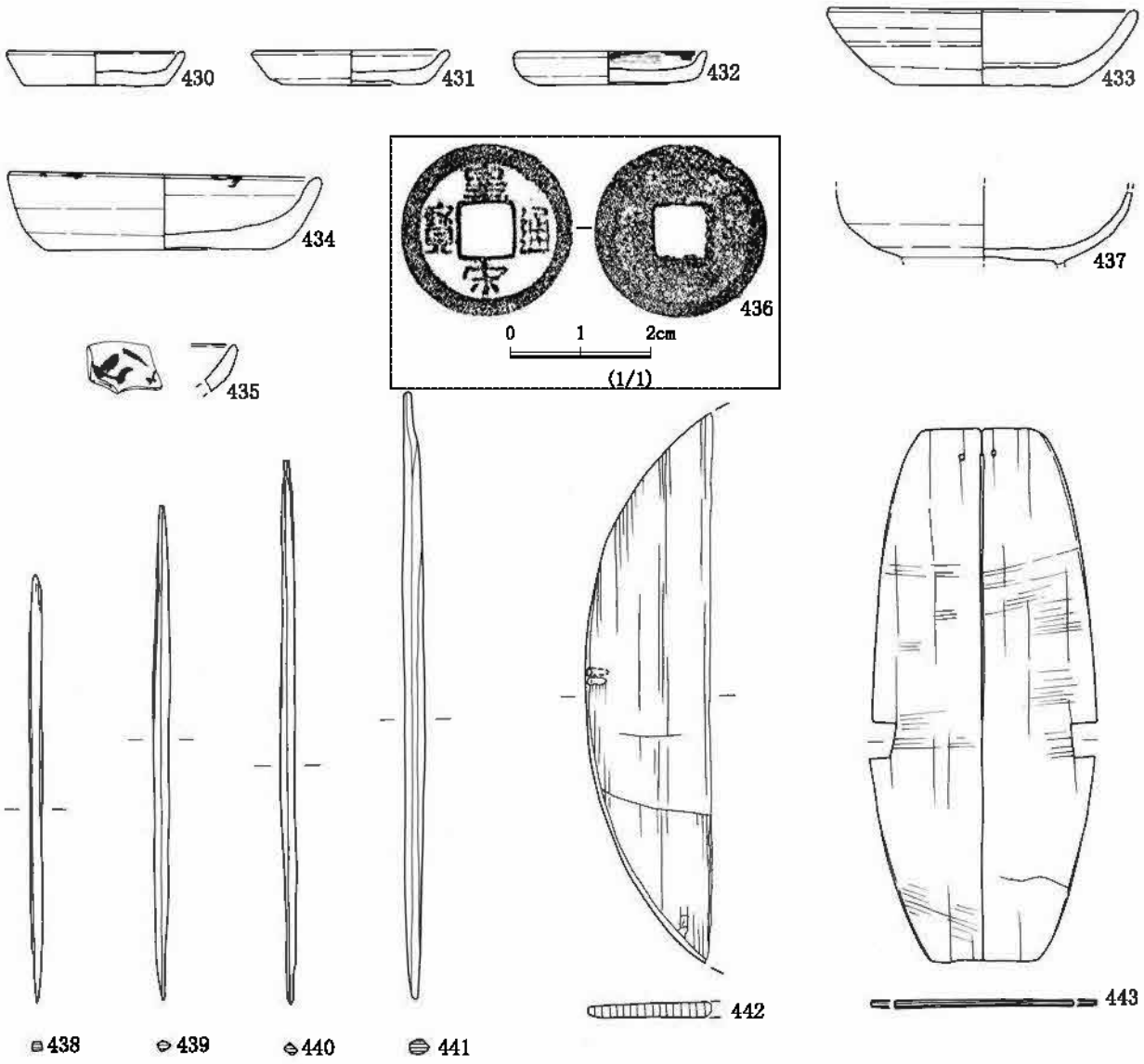
407～416…5b 面下～6 面　道路下

図 38　出土遺物（21）

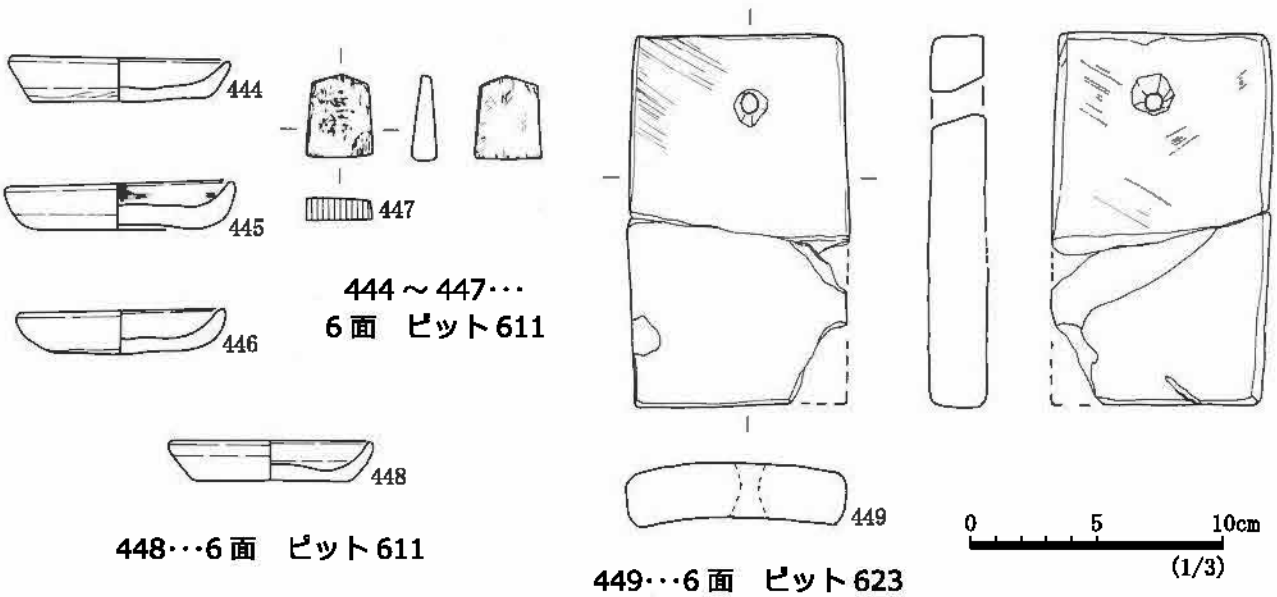


417～429…5b 面下～6 面　道路下

図 39　出土遺物（22）



430～443　6面下　サブトレンチ

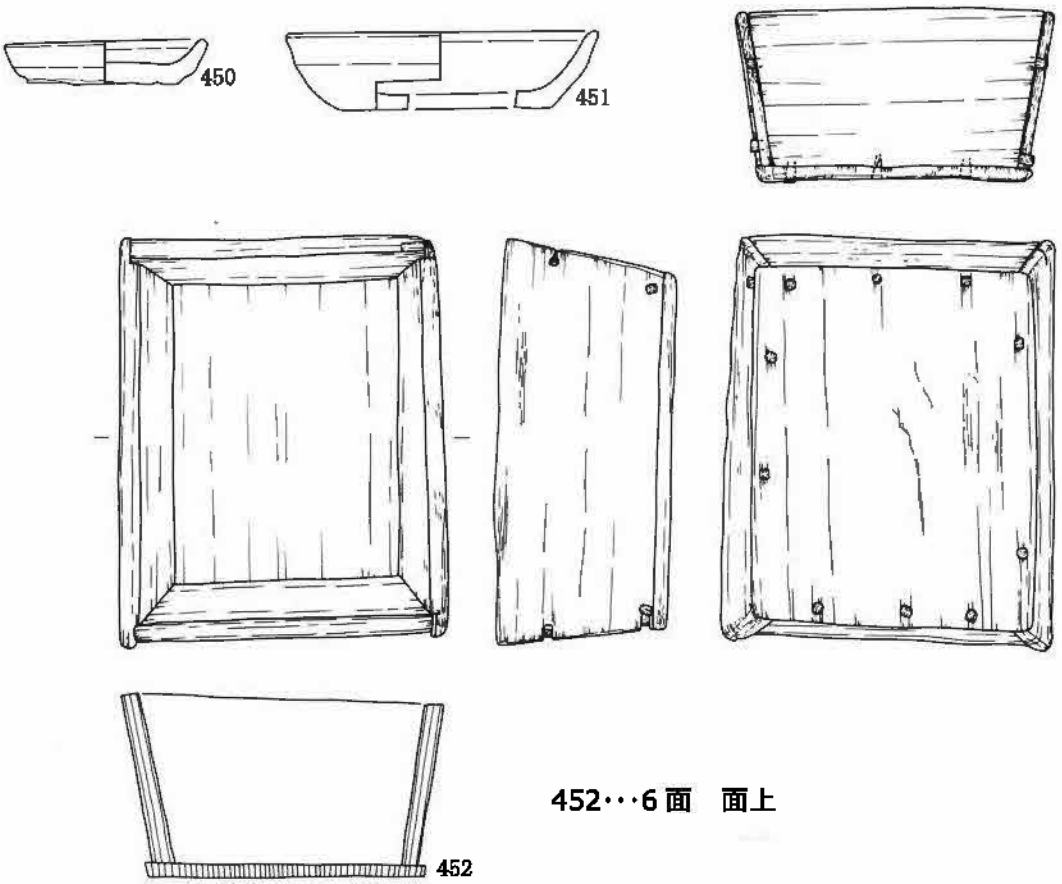


444～447･･･
6面　ピット611

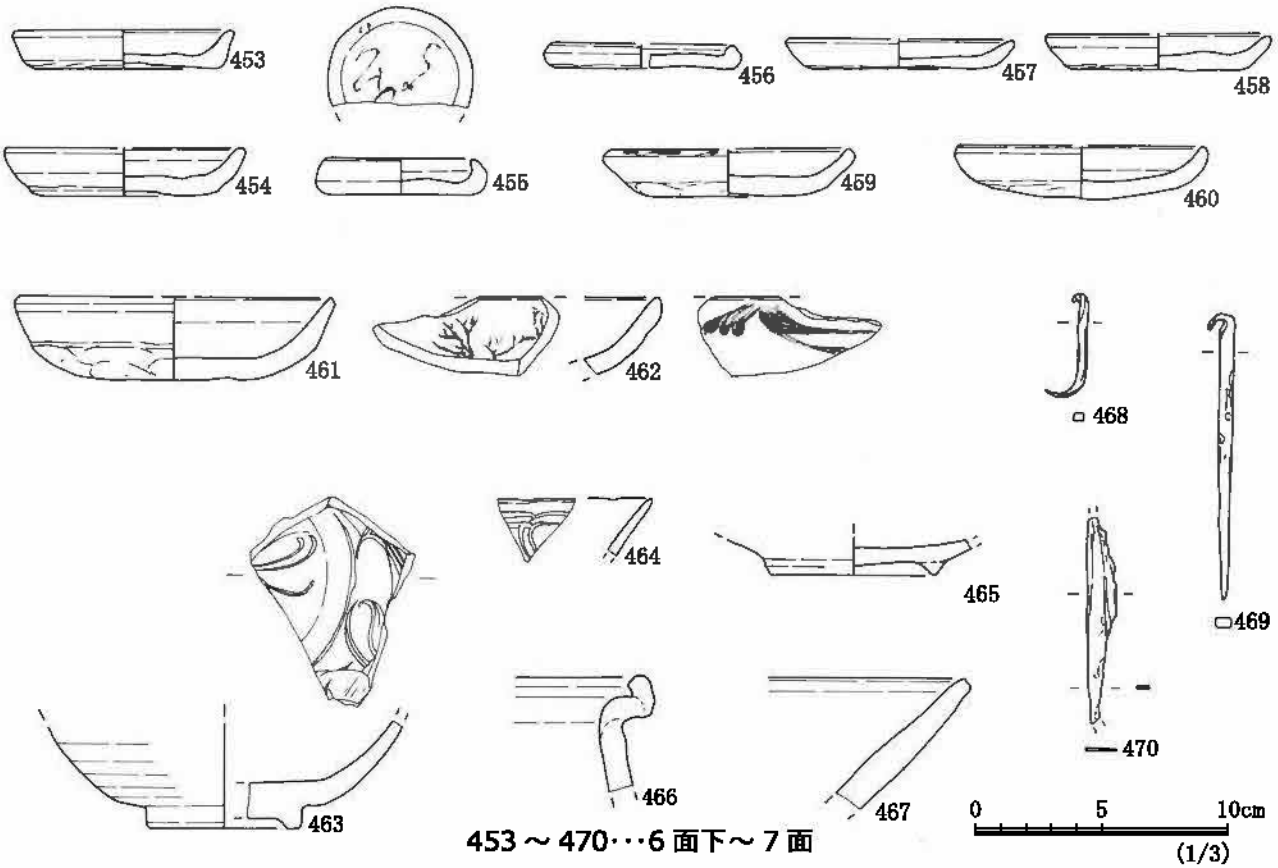
448･･･6面　ピット611

449･･･6面　ピット623

図40　出土遺物（23）



452…6面　面上



453～470…6面下～7面

図41　出土遺物（24）

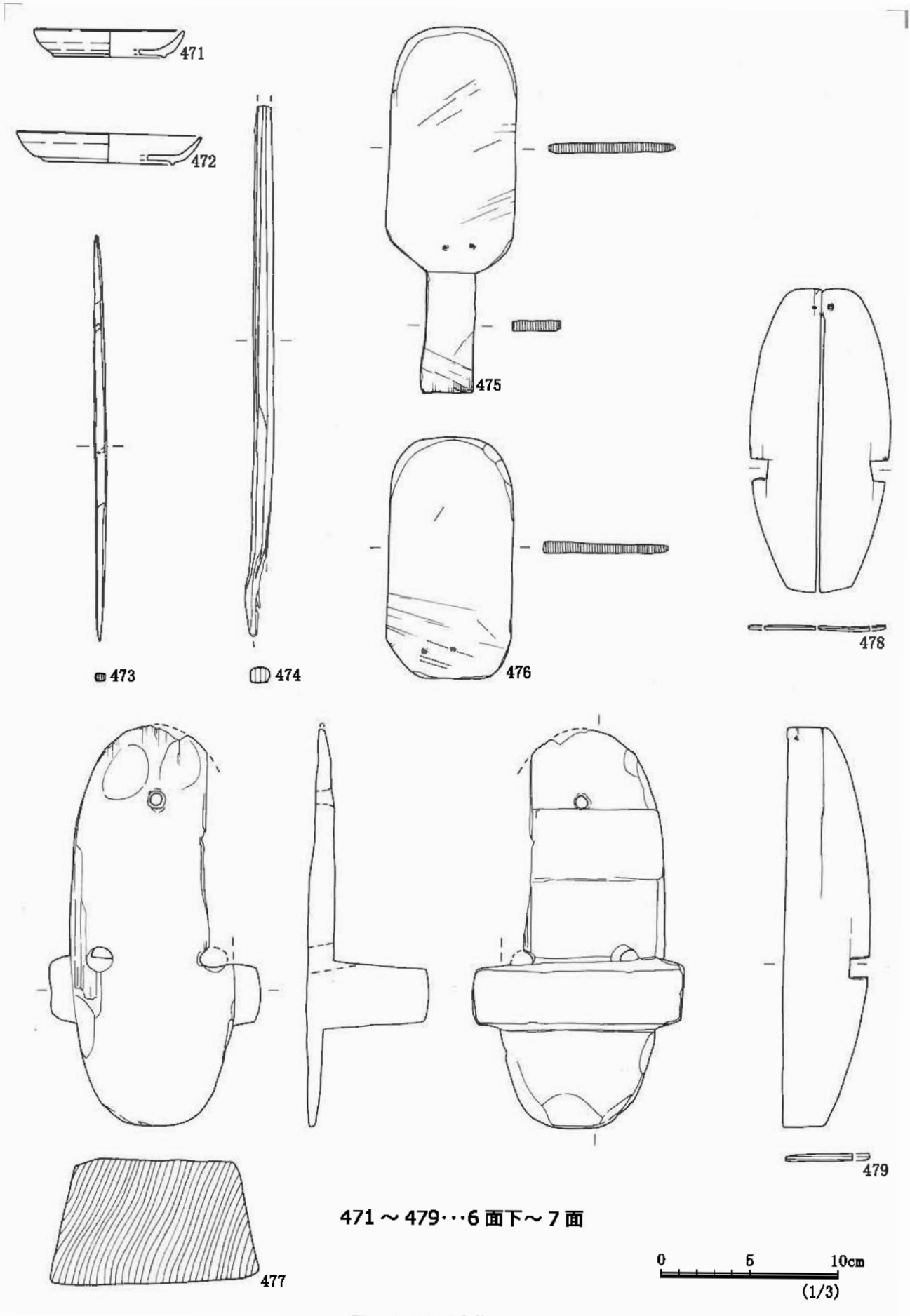
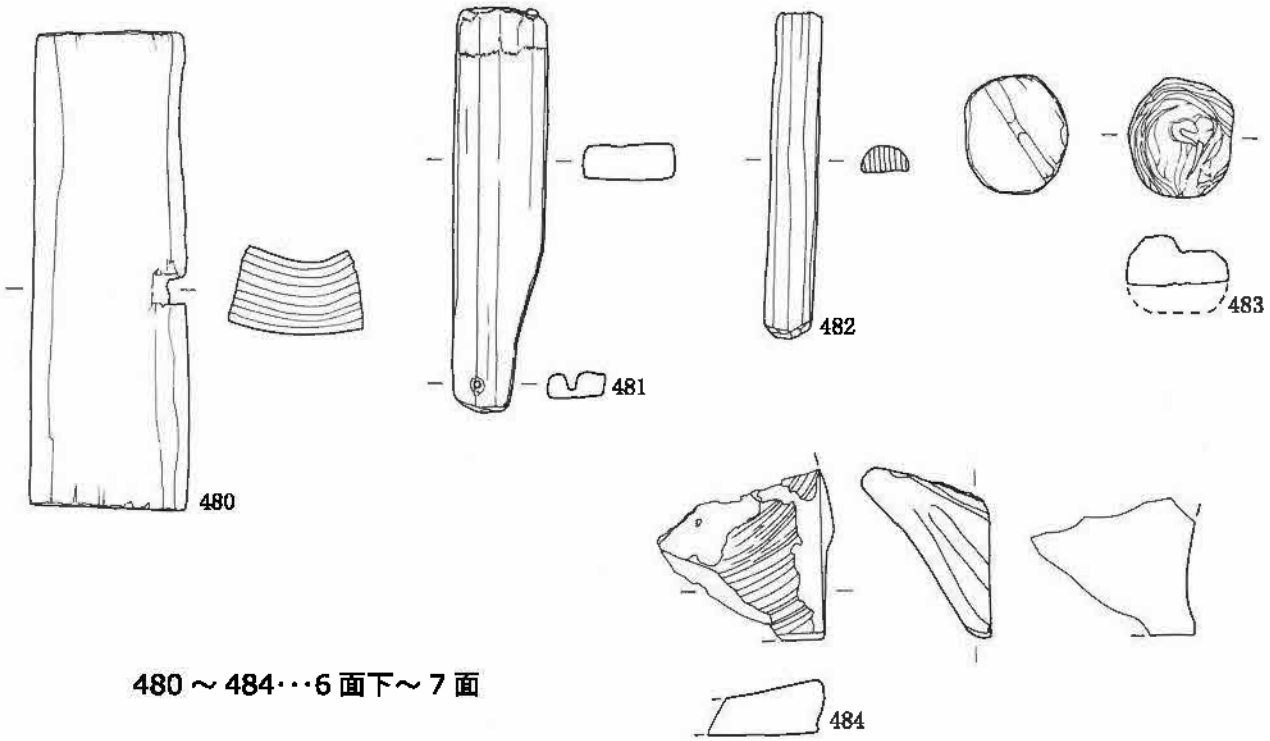
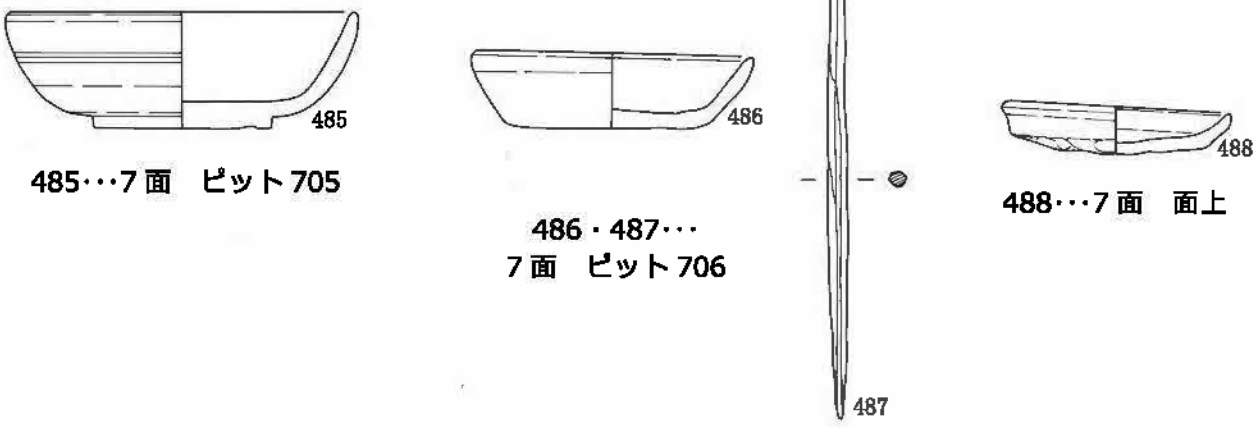


図42　出土遺物（25）



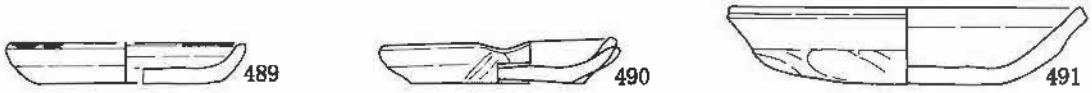
480～484･･･6面下～7面



485･･･7面　ピット705

486・487･･･
7面　ピット706

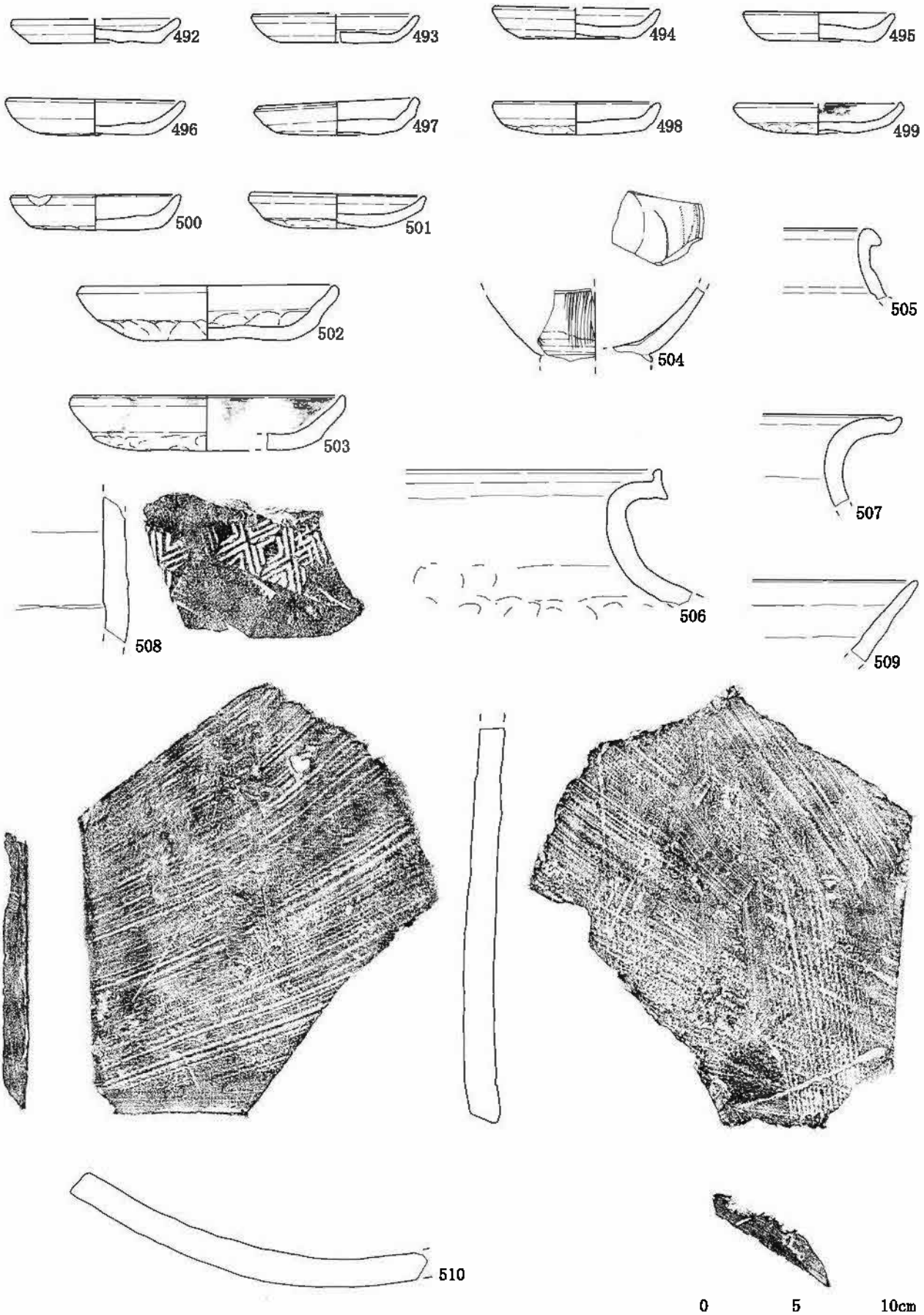
488･･･7面　面上



489～491･･･7面下～8面

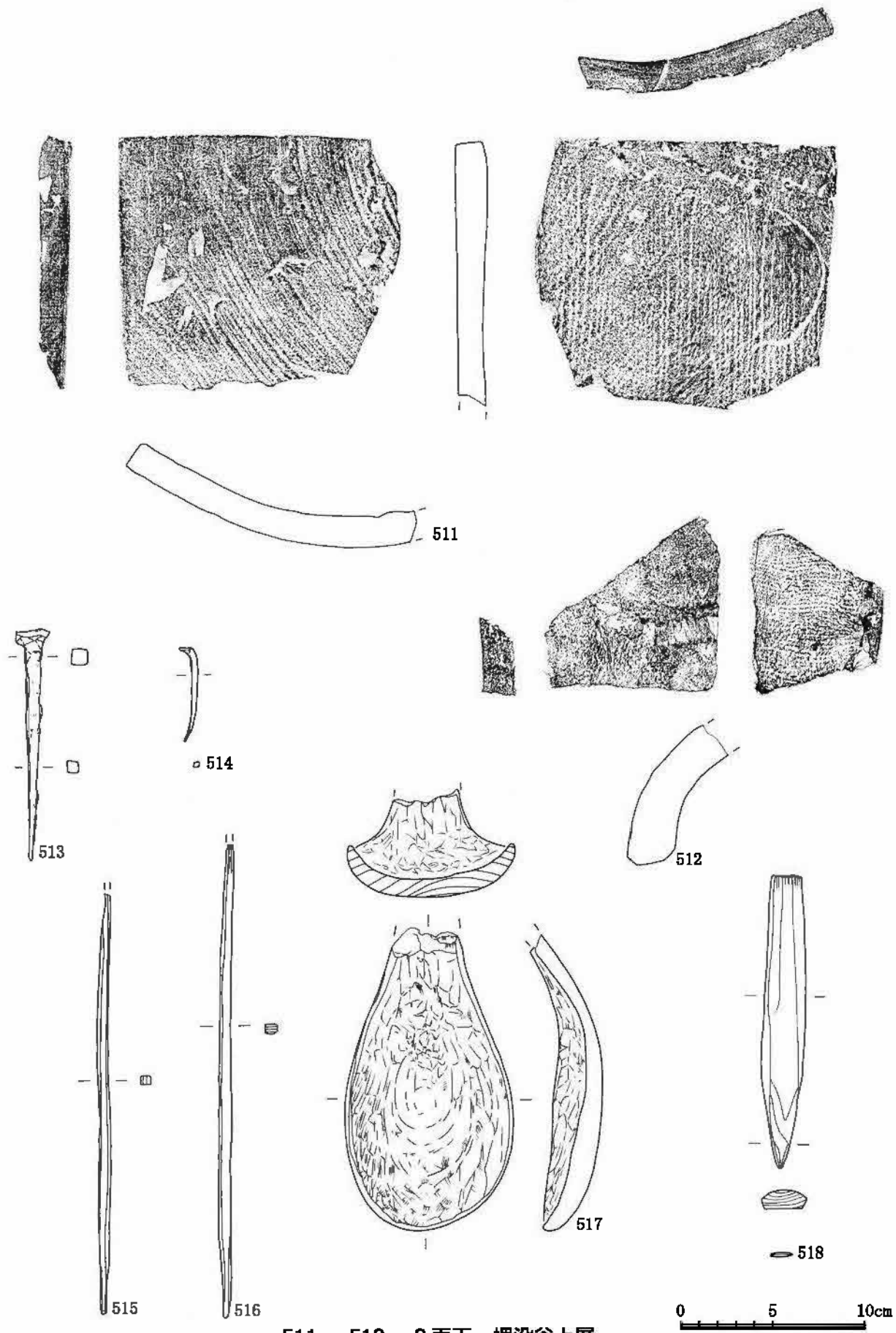
0　5　10cm
(1/3)

図43　出土遺物（26）



492～510･･･8面下　埋没谷上層

図44　出土遺物（27）



511～518…8面下　埋没谷上層

図45　出土遺物（28）

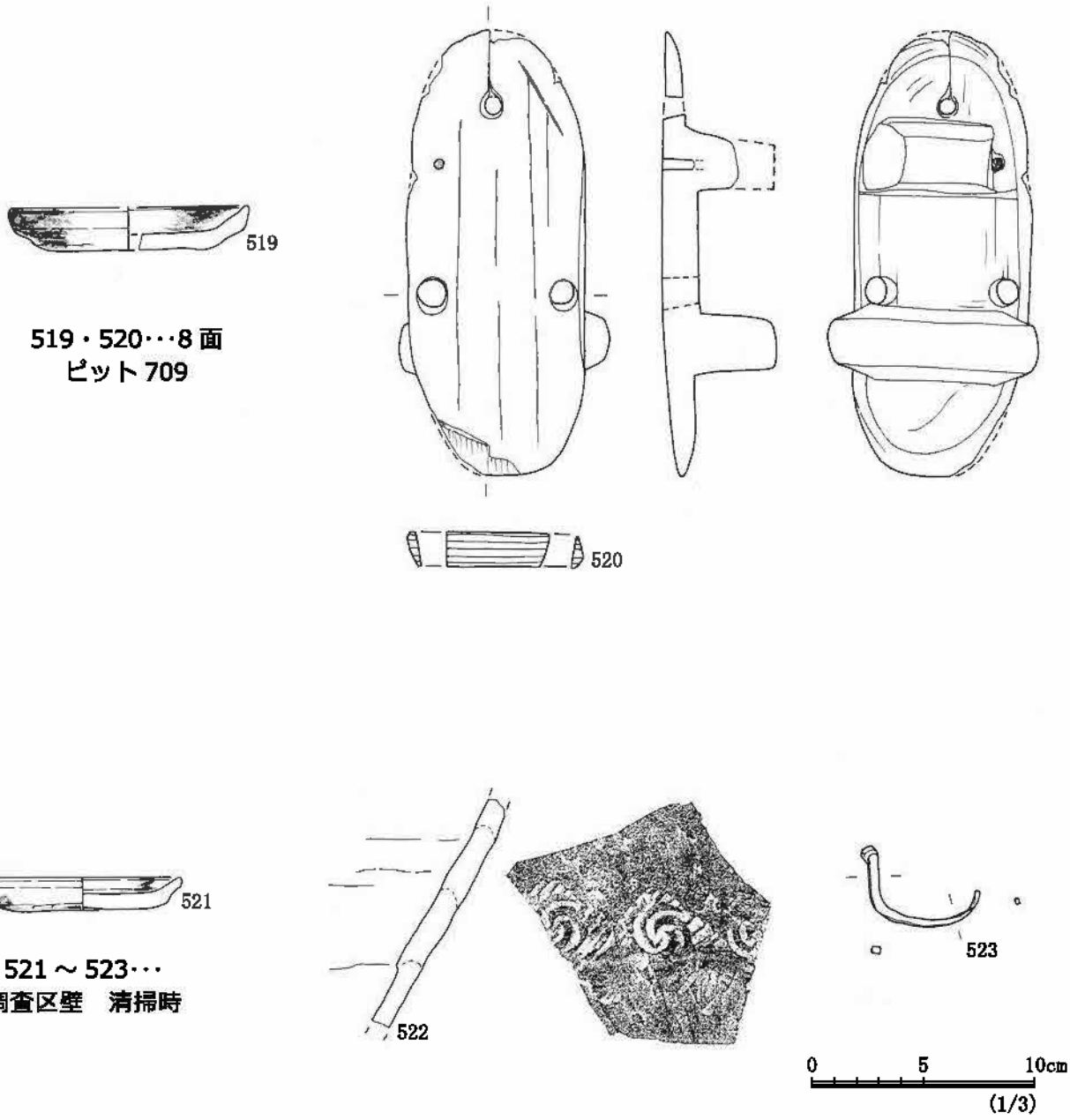


図 46　　出土遺物（29）

が高い。

（6）5面下～6面の出土遺物

図 25-214 ～図 41-452　に掲げ、個々の出土位置と層位は図中に示した。5面以下、漆器を含む多様な木製品が認められた。ロクロかわらけは底広で低平な資料が中心で、若干量の手づくねかわらけも含む。常滑甕（299・334・334 など）は 5 ～ 6a 型式の幅で収まり、尾張型山茶碗（333）は第 7 型式か。以上を根拠に置けば、13 世紀中葉頃を上限年代として考えることができる。

452 は板材を組み合わせ木釘で止めた箱（枡）で、容量は約 900ml（五合）を測る。

5面下～6面は、図化遺物だけでなく破片点数の上でも手づくねかわらけの消失時期を内包している可能性があることを指摘しておく（表 4）。

（7）6面下～7面の出土遺物

図 40-430 ～ 443 と図 41-453 ～図 43-487 を掲げ、出土位置は図中に示した。手づくねかわらけを含み、

ロクロかわらけは低平な資料が主体となる(453 ～ 462)。龍泉窯系青磁碗(463･464)は大宰府分類のⅠ類、常滑甕（466）は 5 型式である。全体として、13 世紀第 2 四半期を大きくは下らない遺物様相と考えることができよう。

破片点数・重量では手づくねかわらけがロクロかわらけを上回り、6 面～ 5 面にかけて、手づくねの減少～消失の動きが進んだことを物語っている（表 4)。

（8）7 面下～ 8 面・8 面下の出土遺物

図 43-489 ～図 46-520 に掲げ、個々の出土位置は図中に示した。かわらけは手づくねが主体となる。破片数･重量を見ても手づくねがロクロを大きく上回っている(表 4)。常滑甕は 5 型式が最も新しく(506)ここでも 13 世紀第 2 四半期が上限年代であることを指摘し得る。6 面下～ 7 面への連続性を持ちつつも、僅かに古い遺物様相であると考えて良いだろう。

（9）その他の遺物

図 46-521 ～ 523 には調査区壁を清掃中に出土した遺物で、どの面に属するかは把握できなかった。

(10) 大型木製遺物

図 47 には大型の木製遺物を提示した。524 ～ 528 は 5b 面下～ 6 面で出土し、図 41-452 の木箱（枡）と近い位置にあったので、ほぼ 6 面上として良いだろう。片側の一端を尖らせた細角材で、用途は不明である。

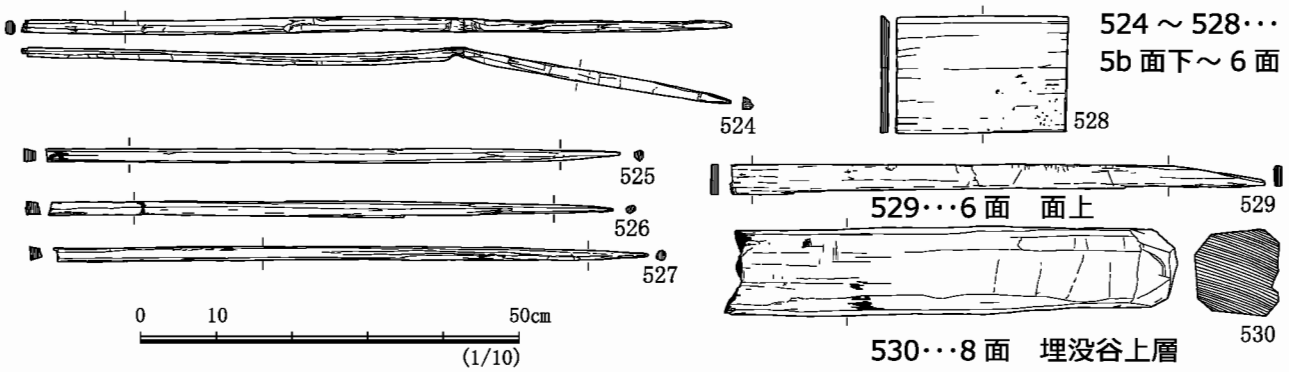


図 47　　大型木製遺物

表３　出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)		素材/表面			
図18 1	在地土器	ロクロかわらけ	3/4	7.5	5.1	1.7	[50.3]	B E	黄橙	ナデ	板状	
図18 2	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	11.7	7.6	3.2	[136.5]	A	黄橙	ナデ	板状	
図18 3	在地土器	ロクロかわらけ	完形	7.8	5.2	1.8	59.5	B E	灰白	ナデ	板状	
図18 4	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	8.1	5.9	1.7	[37.6]	B E	明黄灰	ナデ	ナデ	
図18 5	木製品	箸	完形	14.2	0.8	0.4						
図18 6	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	(6.0)	(4.0)	1.6	[19.2]	B	橙	ナデ	板状	
図18 7	在地土器	ロクロかわらけ	2/3	7.7	4.7	2.6	[56.8]	A	橙	ナデ	板状	
図18 8	在地土器	ロクロかわらけ	完形	7.4	4.8	2.7	[73.2]	A	橙	ナデ	板状	
図18 9	在地土器	ロクロかわらけ	1/3	8.7	5.5	2.2	[45.7]	A	橙	ナデ	ナデ	
図18 10	在地土器	ロクロかわらけ	2/3	7.8	5.0	2.7	55.6	A	橙	ナデ		外底面糸切り後、再調整か
図18 11	国産陶器	常滑甕	縁帯小片	—	—	[4.6]			褐			
図18 12	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	7.7	5.0	1.7	[53.7]	B E	明黄褐	ナデ	ナデ	底部内外面に焼成後の穿み多数、1穴のみ貫通孔
図18 13	国産磁器	瀬戸美濃系染付け小皿	完形	9.2	3.6	2.4						
図18 14	国産陶器	徳利	完形	2.6	12.0	26.1			灰白 透明釉			胴外面に鉄絵銘「八幡前三河屋」
図18 15	国産陶器	徳利	完形	2.6	8.5	22.4			灰白 透明釉			胴外面に鉄絵銘「八幡前三河屋」
図18 16	在地土器	ロクロかわらけ	口一部欠損	6.1	4.2	1.7	[34.0]	B	黄橙	ナデ		
図18 17	在地土器	ロクロかわらけ	口2/5～底	6.3	3.8	2.2	[28.5]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 18	在地土器	ロクロかわらけ	口一部欠損	6.9	4.9	1.6	[45.7]	B	橙	ナデ	板状	
図18 19	在地土器	ロクロかわらけ	3/4	7.3	4.6	1.6	[48.8]	B	黄橙	ナデ		
図18 20	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	7.5	5.7	1.8	[34.1]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 21	在地土器	ロクロかわらけ	口1/3～底	7.1	4.0	1.8	[38.5]	B	黄灰	ナデ		
図18 22	在地土器	ロクロかわらけ	ほぼ完形	7.4	5.5	2.0	[57.9]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 23	在地土器	ロクロかわらけ	3/4	7.8	5.3	1.6	[51.3]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 24	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	7.8	5.0	1.9	[32.0]	B	黄橙	ナデ		
図18 25	在地土器	ロクロかわらけ	口一部欠損	7.5	5.2	1.8	[43.4]	B	黄橙	ナデ	板状	
図18 26	在地土器	ロクロかわらけ	ほぼ完形	7.1	3.5	2.3	[34.4]	B E	橙	ナデ	板状	
図18 27	在地土器	ロクロかわらけ	ほぼ完形	7.5	4.8	1.9	[47.6]	B	橙	ナデ		
図18 28	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	7.7	5.1	2.7	[50.3]	A	橙	ナデ		
図18 29	在地土器	ロクロかわらけ	3/4	8.8	5.0	2.9	[70.3]	A	黄橙	ナデ		
図18 30	在地土器	ロクロかわらけ	ほぼ完形	7.9	5.3	2.4	63.3	A	黄橙	ナデ	板状	外底部糸切り後、再調整か
図18 31	在地土器	ロクロかわらけ	ほぼ完形	9.5	6.1	3.6	[104.7]	A	黄橙	ナデ	板状	
図18 32	在地土器	ロクロかわらけ	1/2	10.3	5.6	3.0	[60.4]	B C	橙	ナデ	板状	
図18 33	在地土器	ロクロかわらけ	口3/4～底	7.2	4.8	2.0	[54.0]	B	黄橙	ナデ	板状	底部内面に鉄釘付着
図19 34	在地土器	ロクロかわらけ	1/4	(11.9)	7.5	3.2	[82.9]	A	橙	ナデ	板状	
図19 35	在地土器	ロクロかわらけ	3/4	12.4	7.0	3.3	[112.8]	B C	橙	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図19 36	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.2	7.8	3.6	[168.3]	B	黄橙	ナデ	板状	
図19 37	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	12.8	8.0	3.4	169.7	A	黄橙	ナデ	板状	
図19 38	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	13.3	6.4	3.5	[149.7]	B E	橙	ナデ	板状	
図19 39	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	(13.9)	(7.8)	3.6	[101.8]	A	橙	ナデ	板状	
図19 40	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	(15.3)	(8.9)	3.2	[94.7]	B	橙	ナデ	板状	
図19 41	在地土器	ロクロ かわらけ	1/4	(13.8)	9.2	3.4	[83.6]	B C	橙	ナデ	板状	底部中央に貫通孔
図19 42	舶載磁器	龍泉窯系青磁 壺	小片	—	—	[3.5]			灰緑			
図19 43	国産陶器	瀬戸 入子	—	(8.8)	(4.6)	3.0			灰白			口唇部に自然釉付着
図19 44	国産陶器	瀬戸 鉢	底片	—	—	[5.2]			緑			
図19 45	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[8.8]			内面灰 外面褐			
図19 46	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	—			橙褐			外面三つ鱗文の叩き目
図19 47	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	小片	(19.6)	(12.7)	6.2			灰			
図19 48	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[4.8]			茶褐			
図19 49	国産陶器	渥美 甕	胴小片	—	—	[10.2]			灰			外面スタンプ
図19 50	国産陶器	東播系須恵器 甕	口小片	—	—	[8.7]			灰			
図19 51	国産陶器	東播系須恵器 鉢	口小片	—	—	[6.2]			灰			口縁部外面暗灰色
図19 52	瓦質土器	土風炉	口小片	外口径 (24.0)	内口径 (21.0)	(5.3)			外面灰白 内面淡橙			外面口頸部に縦連子文
図19 53	石製品	硯	不明	[9.8]	[4.6]	2.0						石材産地不明　加工途中
図20 54	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	4.1	2.3	[38.5]	B C	橙	ナデ	板状	
図20 55	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.5	4.9	1.6	52.3	B E	黄橙	ナデ	板状	
図20 56	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	3.7	4.8	1.8	[53.7]	B	黄灰	ナデ	板状	
図20 57	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.7	6.2	1.7	49.4	B	黄灰	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図20 58	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	12.1	6.5	3.5	154.2	B C	黄橙	ナデ	板状	
図20 59	在地土器	ロクロ かわらけ	口一部 欠損	12.9	7.5	3.6	[146.2]	B C	橙	ナデ	板状	
図20 60	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.4	5.0	1.4	[47.2]	B	黄橙	不明 瞭	板状	口縁に油煤付着
図20 61	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	5.0	1.5	[44.0]	A	橙黄	不明 瞭	不明 瞭	内外面黒変
図20 62	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.7	5.2	1.8	62.0	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 63	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.6	4.6	1.8	[54.4]	B C	黄橙	ナデ	不明 瞭	
図20 64	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.1	4.4	2.1	[42.9]	B C	黄橙	ナデ	板状	
図20 65	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.5	4.4	2.0	[36.1]	B	黄橙	ナデ	板状	
図20 66	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.2	4.8	1.9	56.7	B	黄橙	ナデ	板状	
図20 67	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.0	4.4	2.1	[41.1]	B	黄橙	ナデ	不明 瞭	
図20 68	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	(10.2)	6.2	3.0	[89.0]	B C	灰黄	—	板状	
図20 69	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	11.8	7.2	3.2	186.2	A	淡橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図20 70	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	12.0	6.95	3.6	[145.9]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 71	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.0	7.4	3.2	[180.3]	B	灰黄	不明 瞭	不明 瞭	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図20 72	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	(12.8)	(6.6)	4.0	[138.4]	A	橙	ナデ	板状	
図20 73	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	12.6	7.0	4.7	[176.4]	A	橙	ナデ	板状	
図20 74	舶載磁器	白磁 皿	1/4	(9.7)	(7.4)	2.6						大宰府X-b類
図20 75	石製品	火打ち石	完形	3.1	2.3	2.0	198.0		白			石英
図20 76	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	7.0	4.4	1.5	[37.3]	B C	橙	ナデ	板状	
図20 77	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.2	4.4	1.8	[46.6]	B	黄橙	ナデ	不明	口縁部内面に煤付着
図20 78	在地土器	ロクロ かわらけ	5/6	7.2	4.8	1.7	[34.0]	B E	橙	ナデ	板状	
図20 79	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.5	5.4	1.7	[47.6]	B	黄橙	ナデ	不明	
図20 80	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	4.9	1.5	[45.3]	B C	黄橙	ナデ	板状	
図20 81	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.0	4.7	1.8	[44.4]	B E	橙	ナデ	板状	
図20 82	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.3	5.4	1.5	[33.8]	B	橙	ナデ	板状	
図20 83	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.3	4.9	1.5	[41.2]	B E	黄橙	ナデ	板状	
図20 84	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.0	4.6	1.9	[27.68]	B C	橙	ナデ	板状	口縁部打ち欠きか
図20 85	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.4	4.8	1.5	[38.2]	B C	明黄褐	ナデ	板状	口縁部～胴部摩耗
図20 86	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	4.8	1.7	[40.8]	B	橙	ナデ	板状	
図20 87	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.5	4.4	1.8	[51.3]	B C	明黄褐	ナデ	不明	
図20 88	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.3	5.4	1.7	[39.9]	B	明黄褐	ナデ	板状	
図20 89	在地土器	ロクロ かわらけ	5/6	7.5	5.3	1.6	[49.3]	B	黄橙	ナデ	板状	
図20 90	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.8	5.8	1.9	[56.8]	B E	明黄褐	ナデ	板状	口縁～体部に指頭押圧による歪みあり　打ち欠きか
図20 91	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.6	5.5	1.8	52.7	B C	灰黄	ナデ	板状	
図20 92	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.7	5.5	1.5	[41.0]	B	明黄褐	ナデ	板状	底部内外面黒変
図20 93	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.2	5.1	1.8	[47.2]	B	橙	ナデ	板状	体外面部にも回転糸切り痕
図20 94	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.6	4.9	1.5	[40.3]	B	明黄褐	ナデ	板状	
図20 95	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	10.3	5.3	2.6	[79.8]	B E	黄橙	ナデ	板状	
図20 96	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	10.8	5.9	2.6	[70.6]	B C	明黄褐	ナデ	板状	口縁部黒変
図20 97	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	11.3	7.6	3.3	153.8	B E	明黄褐	ナデ	板状	打ち欠き
図20 98	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	11.3	6.7	3.0	[119.2]	B C	橙	ナデ	板状	
図20 99	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	12.6	8.2	3.2	[153.6]	B E	橙	ナデ	板状	
図20 100	在地土器	ロクロ かわらけ	5/6	12.1	7.0	3.5	[164.9]	B	橙	ナデ	不明	口唇部黒変　器面荒れる
図20 101	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.8	8.3	3.3	[208.4]	B E	橙	ナデ	板状	
図20 102	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	12.4	7.9	3.2	[135.8]	B E	橙	ナデ	板状	
図20 103	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	13.0	8.6	3.2	174.4	B C	黄橙	ナデ	板状	
図21 104	舶載磁器	青白磁 合子身	1/3	(6.1) (7.6)	(5.5)	1.9		密	青灰			
図21 105	国産陶器	瀬戸 入子	1/4	(4.3)	(3.2)	1.6			灰			
図21 106	国産陶器	瀬戸 卸皿	1/2	(14.2)	(8.2)	3.9			灰			
図21 107	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	13.0	11.0	1.1			褐			甕胴部片

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図21 108	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	7.0	8.2	1.3			赤褐			
図21 109	国産陶器	東播系 鉢	口・底 小片	—	—	—			灰			
図21 110	石製品	滑石製 スタンプ	-	長さ [3.6]	幅 [6.0]	厚さ 2.8	[71.3]					鍋片転用　植物文を陽刻
図21 111	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.3	4.7	1.6	39.5	B	黄橙	ナデ	板状	
図21 112	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.5	5.2	1.6	[38.3]	B C	灰橙	ナデ	板状	
図21 113	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.7	5.2	1.6	[46.2]	B	灰橙	ナデ	板状	
図21 114	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.7	6.0	1.7	55.1	B	明黄褐	ナデ	板状	打ち欠き
図21 115	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.8	5.4	2.1	[52.5]	B	灰橙	—	板状	
図21 116	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	8.2	5.4	2.1	[53.4]	B E	灰橙	ナデ	不明 瞭	
図21 117	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	8.1	5.5	2.0	56.1	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 118	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.4	4.7	2.1	[52.4]	B	橙	ナデ	板状	
図21 119	在地土器	ロクロ かわらけ	3/5	11.2	6.4	3.8	[141.8]	A	橙	ナデ	板状	
図21 120	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	11.4	6.2	3.0	[116.8]	B C	橙	ナデ	板状	
図21 121	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.2	6.4	3.0	[11.87]	B	橙	ナデ	板状	
図21 122	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.7	8.0	3.2	[168.5]	B	灰橙	ナデ	板状	
図21 123	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	12.2	7.0	2.9	[166.8]	B E	灰橙	ナデ	板状	
図21 124	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	12.1	6.6	3.5	164.2	B	橙	ナデ	板状	
図21 125	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	12.6	7.3	3.4	138.5	B C	黄橙	ナデ	板状	
図21 126	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.3	7.2	3.4	[169.6]	B E	橙	ナデ	板状	口縁打ち欠き、油煤付着
図21 127	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.4	7.5	3.3	[160.5]	B	灰橙	ナデ	板状	
図21 128	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	12.7	6.7	3.5	174.5	C	黄橙	ナデ	板状	
図21 129	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.7	7.8	3.2	150.0	B	明黄褐	ナデ	板状	打ち欠き
図21 130	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	12.7	8.1	3.2	199.1	B	明黄褐	ナデ	板状	口縁打ち欠き、油煤付着
図22 131	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	—	(8.0)	[3.4]	[106.5]	A	橙	ナデ	板状	口唇打ち欠きか 底部中央に貫通孔あり
図22 132	舶載陶器	褐釉壺	口～ 胴1/4	(4.2)	—	[8.2]			暗茶褐 不透明釉			大宰府Ⅳ-1類か
図22 133	石製品	硯	—	[6.1]	11.9	1.3			暗灰			産地不明　自然硯　頁岩
図22 134	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.0	4.0	2.3	34.7	C	明橙	ナデ	板状	
図22 135	在地土器	ロクロ かわらけ	口2/3～ 底完存	7.3	4.5	2.0	[38.9]	B C	橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図22 136	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.3	5.2	1.8	46.7	B	橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図22 137	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.3	5.3	1.5	[45.3]	B	明黄	ナデ	板状	
図22 138	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	4.4	1.6	[40.2]	B	明黄灰	ナデ	板状	
図22 139	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	4.7	1.6	50.0	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 140	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.4	5.0	1.3	[42.5]	B	明橙	ナデ	板状	
図22 141	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	5.4	1.5	[33.7]	B E	赤橙	ナデ	板状	器表が荒れる
図22 142	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.7	5.8	1.8	54.2	B E	黄灰	ナデ	板状	
図22 143	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.7	[55.4]	B	黄灰	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図22 144	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/2～ 底完存	(9.4)	5.5	2.1	[49.1]	B C	明橙	ナデ	板状	
図22 145	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.4	7.8	3.1	[125.4]	B	橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図22 146	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.8	7.9	3.5	[155.6]	B	橙	ナデ	板状	
図22 147	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.8	7.0	3.0	[146.1]	B C	明黄橙	ナデ	板状	
図22 148	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.5	7.9	3.2	[141.1]	B	橙	ナデ	板状	
図22 149	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.5	7.6	3.5	[177.1]	B	明黄橙	ナデ	板状	
図22 150	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.6	8.0	3.1	[188.0]	B	明黄橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図22 151	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/3～ 底完存	(12.5)	7.9	3.7	[173.9]	B	明黄橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図22 152	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.8	7.6	3.1	[179.2]	B	橙	ナデ	板状	
図22 153	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	11.9	8.5	3.0	[112.6]	B	黄橙	ナデ	板状	
図22 154	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	12.8	7.9	3.3	[133.5]	B	橙	ナデ	板状	
図22 155	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	12.9	8.0	3.6	[191.8]	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 156	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.7	7.8	3.3	[200.1]	B	淡橙	ナデ	板状	
図22 157	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.7	8.2	3.5	225.0	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図22 158	国産陶器	常滑 甕	口縁部 小片	—	—	[9.2]			暗褐			縁帯幅[3.2]　6b型式 降灰部暗灰緑色
図22 159	国産陶器	常滑 甕	口縁部 小片	—	—	[6.6]			暗褐			縁帯幅3.0　6b型式 降灰部灰緑色
図23 160	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	6.5	9.2	0.9	72.3		灰緑			甕or片口鉢Ⅱ類を転用
図23 161	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	5.9	7.3	1.2	57.2		暗灰褐色			甕or片口鉢Ⅱ類を転用
図23 162	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	6.2	4.8	1.3	36.7		暗褐			甕or片口鉢Ⅱ類を転用
図23 163	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	5.4	5.5	1.0	42.7		暗灰			甕or片口鉢Ⅱ類を転用
図23 164	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	4.9	4.3	1.1	26.4		暗灰			甕or片口鉢Ⅱ類を転用
図23 165	石製品	滑石製 鍋	口小片	—	—	[5.5]	[169.9]					内外面にノミ痕
図23 166	石製品	滑石製 スタンプ	—	[2.9]	3.6	1.8	[29.5]					孔径0.6　鍋転用 印面に菖蒲文？の陽刻
図23 167	石製品	砥石	完形	18.1	3.0	2.4	319.3		灰緑			鳴滝　奥殿石
図23 168	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔 0.5	0.1	3.1					祥符元寶 北宋1008年　楷書
図23 169	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔 0.7	0.1	2.2					至和元宝 北宋1054年　篆書
図23 170	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	4.9	1.8	[42.6]	B	黄灰	ナデ	板状	
図23 171	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.3	4.6	1.8	46.4	B	橙	ナデ	板状	
図23 172	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	7.4	4.9	1.7	[36.7]	B	橙灰	ナデ	板状	
図23 173	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.5	4.7	1.6	[30.6]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図23 174	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	(7.6)	(4.7)	2.1	[20.9]	B	黄橙	ナデ	板状	
図23 175	国産陶器	瀬戸 入子	1/2	(9.9)	(4.8)	3.3			黄灰			内面摩擦により滑らか
図23 176	瓦質土器	火鉢	1/8	—	—	[8.1]			暗灰			Ⅰc類
図24 178	在地土器	ロクロ かわらけ	口2/3～ 底4/5	7.4	5.6	1.5	[41.5]	B	淡橙	ナデ	板状	器面黒変
図24 179	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.4	6.5	1.4	34.8	B E	橙	ナデ	板状	
図24 180	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.6	5.8	1.3	[42.1]	B	黄灰	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図24 181	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.3	5.5	1.2	[32.5]	B	淡灰黄	ナデ	板状	
図24 182	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	(7.7)	(5.0)	5.0	[31.1]	B	淡橙	ナデ	板状	
図24 183	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/2～ 底完存	7.3	5.4	1.4	[36.7]	B	赤橙	ナデ	板状	
図24 184	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.4	5.0	1.4	42.7	B	灰黄	ナデ	板状	
図24 185	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.2	5.0	1.4	[32.9]	B	橙	ナデ	板状	
図24 186	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.4	6.0	1.5	[28.3]	B	橙	ナデ	板状	
図24 187	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.7	5.5	1.6	[43.9]	B	灰黄	ナデ	板状	
図24 188	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.7	5.6	1.6	[48.9]	B	灰黄	ナデ	板状	
図24 189	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	8.1	6.5	1.5	40.6	B	橙	ナデ	板状	
図24 190	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.4	6.1	1.5	[33.3]	B	黄灰	ナデ	板状	内外面とも黒変
図24 191	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.5	6.0	1.4	[43.6]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面とも黒変
図24 192	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.9	7.8	3.2	[135.0]	B	赤橙	ナデ	板状	胎芯は黒灰色
図24 193	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/4～ 底3/4	(11.4)	7.2	3.3	[97.8]	B	橙	ナデ	板状	
図24 194	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/4～ 底2/3	(12.0)	7.8	3.4	[82.2]	B	灰黄	ナデ	板状	
図24 195	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	12.4	8.0	3.4	[135.9]	B	淡橙	ナデ	板状	
図24 196	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	7.5	3.9	1.7	[161.6]	B	淡橙	ナデ	板状	口縁に煤付着
図24 197	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	12.2	8.4	3.1	[129.2]	B	淡橙	ナデ	板状	
図24 198	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	12.3	8.0	3.2	[134.5]	B	橙色	ナデ	板状	
図24 199	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	12.5	8.4	3.1	135.4	B	橙	ナデ	板状	
図24 200	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	12.4	8.0	3.4	[146.9]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁に煤付着
図24 201	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	(12.9)	7.6	3.6	[97.4]	B C	橙/灰黄	ナデ	板状	
図24 202	舶載磁器	龍泉窯系青磁 壺？	頸小片	—	—	[3.5]	[45.1]		灰緑 不透明			釉層厚く貫入目立つ
図24 203	舶載陶器	泉州窯系 緑釉盤	小片	—	—	12.3			緑 不透明			大宰府Ⅰ-2類 底部内面に曲線の陰刻
図24 204	国産陶器	常滑 壺	口小片	(7.2)	—	[4.0]			暗灰褐			
図24 205	国産陶器	常滑 無頸壺	口～底 小片	—	—	6.9			暗茶褐			片口
図24 206	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[10.1]			暗茶褐			縁帯幅3.0　6b型式（C類）
図24 207	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[8.4]			暗茶褐			縁帯幅1.8　5型式（A類）
図24 208	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[9.7]			暗茶褐			縁帯幅2.9　6b型式（C類）
図24 209	搬入土器	鍔釜	口小片	—	—	[4.4]			淡灰			推定口径(19.6)　孔径0.7 内面小口ナデ
図24 210	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	5.7	6.5	1.5	[84.7]		黄灰褐			甕の転用
図25 211	石製品	砥石	—	[12.5]	6.6	5.2	[558.0]		灰～暗灰			天草中砥　4面使用か
図25 212	石製品	砥石	—	[12.9]	4.5	3.2	[299.4]		暗灰			天草中砥　4面使用か 黒変
図25 213	国産陶器	瀬戸 洗	口小片	—	—	[4.0]	[31.5]		淡灰緑			内外面に灰釉刷毛塗り
図25 214	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	22.5	(8.7)	5.8						
図25 215	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	24.3	9.8	3.6						
図26 216	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	4.2	3.7	0.8	[10.4]	B C	黄灰	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図26 217	在地土器	ロクロ かわらけ	口2/3～ 底完存	11.0	8.0	3.3	[152.7]	B	橙	ナデ	板状	
図26 218	木製品	箸	完形	20.9	0.6	0.6						
図26 219	木製品	箸	完形	20.0	0.7	0.5						
図26 220	木製品	箸	完形	21.7	0.7	0.5						
図26 221	木製品	箸	完形	23.5	0.6	0.5						
図26 222	木製品	箸	完形	21.6	0.5	0.6						
図26 223	木製品	箸	完形	24.0	0.8	0.4						
図26 224	木製品	箸	完形	23.7	0.7	0.5						
図26 225	木製品	箸	完形	27.0	0.6	0.4						
図26 226	木製品	棒状製品	完形	28.4	1.2	1.1						端部炭化
図26 227	木製品	曲物 底板	1/3	41.4	—	1.4						一部黒変
図26 228	木製品	曲物 底板	1/2	34.7	—	1.0						一部黒変
図26 229	木製品	曲物 底板	1/3	32.0	—	0.7						一部黒変
図27 230	木製品	板杓子	1/2	21.1	(2.9)	0.9						
図27 231	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	[18.7]	10.6	3.4						
図27 232	木製品	草履芯	1/2	22.9	[4.4]	0.3						
図27 233	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.6	6.0	1.3	[28.5]	B	暗黄灰	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図27 234	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	7.7	5.6	1.7	[28.4]	B E	橙	ナデ	板状	
図27 235	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	8.0	6.0	1.5	[30.6]	B	橙	ナデ	板状	
図27 236	在地土器	ロクロ かわらけ	1/4	(12.7)	(8.1)	3.3	[57.4]	B	黄灰	ナデ	板状	
図27 237	土器	手づくね 白かわらけ	小片	(12.0)	—	[3.2]	[17.6]	密	白			口縁外面2段ナデ 水簸された精良胎土
図27 238	木製品	箸	完形	23.8	0.7	0.4						
図27 239	木製品	棒状製品	完形	25.9	1.2	0.8						
図27 240	木製品	曲物	1/3	[9.4]	—	0.3						貫通孔4ヶ所
図27 241	木製品	横櫛	小片	[3.4]	[2.8]	1.0						黒色漆塗り
図27 242	木製品	草履芯	1/2	22.5	[4.4]	0.3						
図27 243	木製品	用途不明	完形	20.6	4.5	1.5						部分的に切削痕 鉄釘付着
図27 244	在地土器	ロクロ かわらけ	1/3	(8.0)	(5.8)	1.6	[22.3]	B	黄灰	ナデ	板状	
図27 245	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	12.2	7.8	2.7	[86.0]	B	暗黄灰	ナデ	板状	
図27 246	木製品	曲物 底板	1/3	[20.6]	—	0.7						
図27 247	骨製品	笄	ほぼ 完形	[14.8]	1.3	0.3	[7.2]					
図28 248	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	7.7	5.6	1.6	[34.4]	B	橙	ナデ	板状	
図28 249	国産陶器	常滑 壺	同小片	—	—	—			暗褐			
図28 250	鉄製品	刀子	ほぼ 完形	全長 28.5	刃長 20.5	厚さ 0.5	108.8	—	—	—	—	目釘穴径0.3
図28 251	木製品	箸	ほぼ 完形	[21.3]	0.6	0.5						
図28 252	木製品	箸	ほぼ 完形	[22.2]	0.5	0.4						

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図28 253	木製品	箸	完形	23.0	0.5	0.3						
図28 254	木製品	棒状製品	完形	30.8	1.0	0.8						
図28 255	木製品	曲物 底板	1/3	[23.5]	—	1.1						
図28 256	木製品	刀子形	ほぼ 完形	28.2	1.9	1.8						
図28 257	木製品	建具 格子子	一部	[18.4]	2.5	1.6						貫通孔1ヵ所
図28 258	木製品	用途不明	完形	20.0	4.3	1.9						貫通孔2ヶ所
図29 259	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.4	5.0	1.4	[49.8]	B C	黄灰	ナデ	板状	
図29 260	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.8	5.8	1.4	52.2	B C	黄灰	ナデ	板状	
図29 261	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.7	5.6	1.4	[47.1]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 262	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/2～ 底2/3	(7.7)	5.2	1.7	[35.1]	B	橙灰	ナデ	板状	
図29 263	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.3	4.4	2.3	[37.2]	B C	橙	ナデ	板状	薄手丸深タイプ 口縁に油煤付着
図29 264	在地土器	ロクロ かわらけ	底部 1/3	—	(5.0)	(0.8)	[12.4]	B	橙	—	板状	底部内面に墨書　花弁か
図29 265	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	11.6	8.4	3.0	[119.6]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 266	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	12.5	8.8	3.3	[174.5]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 267	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	11.8	8.4	2.9	154.9	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 268	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	11.9	8.3	3.0	[143.7]	B	淡橙	ナデ	板状	
図29 269	在地土器	ロクロ かわらけ	5/6	11.8	7.4	3.0	[139.5]	B C	淡橙	ナデ	板状	
図29 270	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔 0.7	0.1	3.6	—	—	—	—	元豊通宝 北宋1078年　行書
図29 271	木製品	箸	完形	19.9	0.7	0.5						
図29 272	木製品	箸	完形	21.6	0.8	0.5						
図29 273	木製品	箸	ほぼ 完形	20.4	0.7	0.5						
図29 274	木製品	栓？	完形	4.1	3.2	2.5						
図29 276	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/4～ 底完存	(7.8)	5.8	1.7	[52.1]	B	淡橙	ナデ	板状	
図29 277	木製品	箸	完形	17.0	0.6	0.4						
図29 278	木製品	箸	完形	19.2	0.8	0.4						
図29 279	木製品	箸	完形	22.9	0.6	0.5						
図30 280	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔 0.7	0.1	3.8	—	—	—	—	皇宋通宝　北宋1038年　真書
図30 281	木製品	箸	完形	20.9	0.6	0.5						
図30 282	木製品	箸	完形	21.2	0.6	0.4						
図30 283	木製品	箸	完形	23.9	0.7	0.5						
図30 284	木製品	板杓子	完形	27.1	5.0	0.6						
図30 285	木製品	折敷	1/3	22.5	(6.9)	0.2						貫通孔2ヶ所あり
図30 286	木製品	蓋？	1/3	(26.0)	—	0.9						片面黒色漆様漆 片面朱色漆塗り
図30 287	木製品	曲物 底板	完形	12.2	11.9	0.6						
図30 288	木製品	草履芯	1/2	20.4	(4.2)	0.4						貫通孔2ヶ所あり
図30 289	木製品	用途不明	完形	14.0	7.4	0.5						貫通孔9ヶ所あり

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図30 290	木製品	篦状製品	完形	15.0	1.7	0.4						
図30 291	木製品	篦状製品	完形	20.0	1.7	0.7						
図30 292	木製品	篦状製品	完形	19.8	1.7	0.5						先端部を篦状に整形 黒い付着物あり
図31 293	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/3～ 底2/3	(8.4)	6.0	1.6	[34.4]	B	淡黄橙	ナデ	板状	
図31 294	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/3～ 底1/2	(8.2)	6.0	1.6	[25.4]	B	暗灰黄	ナデ	板状	内外面に油煤付着
図31 295	在地土器	ロクロ かわらけ	1/4	(7.8)	(5.8)	1.5	[28.2]	B	暗灰黄	ナデ	板状	
図31 296	在地土器	ロクロ かわらけ	口3/4～ 底完存	12.6	8.2	3.2	[166.2]	B	黄灰	ナデ	板状	
図31 297	在地土器	ロクロ かわらけ	口4/5～ 底完存	12.1	8.4	3.1	[157.8]	B	暗黄灰	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図31 298	土器	手づくね 白かわらけ	1/5	(12.6)	—	[2,9]	[17.4]	密	灰白	ナデ	—	
図31 299	国産陶器	常滑 甕	口小片	(40.8)	—	[8.6]	—	—	暗茶褐	—	—	縁帯幅1.5　5型式
図31 300	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	[7.5]	—	—	茶褐	—	—	器表が荒れる
図31 301	骨角製品	用途不明	—	[4.0]	[6.0]	[2.4]	[45.1]	—	—	—	—	鹿角か　加工途中
図31 302	木製品	漆器 皿	1/2	9.8	7.5	1.0						内外面黒色漆塗り＋双鶴文 の朱漆スタンプ
図31 303	木製品	箸	完形	23.0	0.6	0.5						
図31 304	木製品	箸	完形	31.5	0.9	0.7						
図31 305	木製品	草履芯	1/2	22.5	[4.7]	0.3						
図31 306	木製品	鍬	1/2	23.0	[20.4]	2.0						
図32 307	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	(5.5)	4.2	1.3		B	淡橙	ナデ	板状	
図32 308	木製品	箸	完形	18.3	0.6	0.4						
図32 309	木製品	箸	完形	20.7	0.5	0.5						
図32 310	木製品	箸	完形	21.6	0.7	0.4						
図32 311	木製品	箸	完形	23.8	0.7	0.6						
図32 312	木製品	箸	完形	24.0	0.6	0.5						
図32 313	木製品	鉤状製品	完形	26.2	4.0	2.2						
図32 314	木製品	用途不明	完形	10.7	5.5	2.3						貫通孔1ヶ所
図32 315	木製品	用途不明	完形	22.6	15.8	1.0						俎板に転用か
図32 316	木製品	用途不明	完形	13.9	11.4	0.6						
図32 317	木製品	用途不明	完形	26.0	4.0	1.3						浅い小孔1ヶ所
図33 318	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	6.7	5.7	1.6	51.9	B	黄灰	ナデ	板状	
図33 319	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.8	6.2	1.7	[57.5]	B E	黄灰	ナデ	板状	
図33 320	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	7.6	6.1	1.7	[50.7]	B	黄灰	ナデ	板状	
図33 321	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.1	6.5	1.3	[58.4]	B	黄灰	ナデ	板状	
図33 322	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.1	6.2	1.4	[52.3]	B	黄灰	ナデ	板状	
図33 323	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	8.0	5.9	1.6	67.2	B	黄灰	ナデ	板状	
図33 324	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.0	6.4	1.9	[56.7]	B E	黄灰	ナデ	板状	
図33 325	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.0	6.4	1.7	[62.1]	B	黄灰	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図33 326	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	7.8	—	1.7	62.2	B E	黄灰	ナデ		
図33 327	在地土器	手づくね かわらけ	4/5	7.8	—	1.7	[49.1]	B	黄灰	ナデ		
図33 328	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.8	8.9	3.2	[192.2]	B	黄橙	ナデ	板状	
図33 329	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	12.7	8.9	3.3	193.5	B	黄灰	ナデ	板状	
図33 330	在地土器	かわらけ 手づくね　大	ほぼ 完形	11.8	—	3.0	[175.4]	B E	黄灰	ナデ		
図33 331	土器	白かわらけ 手づくね　大	口～ 体片	—	—	[3.3]		密	灰白	ナデ		
図33 332	舶載陶器	天目茶碗	口　3/4	11.0	—	[5.7]	—	密	黒褐	—	—	内面に擦痕
図33 333	国産陶器	尾張型 山茶碗	3/4	13.5	5.4	5.4			灰	ナデ		6型式か
図33 334	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[7.2]			赤灰			縁帯幅1.5　5型式
図33 335	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[8.0]			褐灰～灰			縁帯幅2.0　6a型式
図33 336	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	—			褐灰～赤 灰			
図33 337	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	—			褐灰			
図33 338	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[7.7]			赤灰～ 褐灰			
図33 339	鉄製品	銭	完形	径 2.4	方孔 0.6	0.1	2.7					元豊通寶　北宋1078年　篆書
図33 340	木製品	漆器 椀	ほぼ 完形	13.5	8.2	5.0						内外面黒色漆塗り＋朱漆で手描きのカタバミ文
図33 341	木製品	漆器 椀	1/3	16.0	7.0	5.2						内外面黒色漆塗り無文
図33 342	木製品	漆器 椀	底2/3	—	7.4	—						内外面黒色漆塗り、無文
図33 343	木製品	漆器 椀	底完存 ～体部	—	(5.8)	—						内外面黒色漆塗り、無文
図33 344	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	9.7	7.2	0.9						内外面黒色漆塗り＋朱漆で花文スタンプ
図33 345	木製品	漆器 皿	1/2	8.7	6.5	1.5						内外面黒色漆塗り＋朱漆で手描きの千鳥文
図34 346	木製品	漆器 皿	1/4	—	(7.6)	—						内外面黒色漆繋漆　朱漆で手描きの梅花文？
図34 347	木製品	漆器 皿	1/3	9.7	7.7	1.5						内外面黒色漆塗り、無文
図34 348	木製品	箸	完形	17.0	0.8	0.4						
図34 349	木製品	箸	完形	19.9	0.7	0.4						
図34 350	木製品	箸	完形	23.9	0.5	0.5						
図34 351	木製品	箸	完形	23.9	0.7	0.5						
図34 352	木製品	箸	完形	25.9	0.6	0.5						
図34 353	木製品	箸	完形	26.6	0.8	0.6						
図34 354	木製品	板杓子	完形	25.2	7.0	0.5						
図34 355	木製品	板杓子	完形	22.8	6.5	7.5						
図34 356	木製品	板杓子	2/3	21.8	(4.5)	0.4						一部円形に黒変
図34 357	木製品	折敷	ほぼ 完形	27.5	(10.3)	0.4						表裏刃物痕
図34 358	木製品	折敷	小片	28.6	(3.6)	0.1						
図35 359	木製品	曲物 底板	完形	[10.8]	—	0.7						
図35 360	木製品	曲物 底板	ほぼ 完形	6.4	(5.7)	0.3						
図35 361	木製品	曲物 底板	1/4	(4.9)	(4.9)	0.2						

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図35 362	木製品	曲物 底板	小片	(12.0)	(2.3)	0.5						
図35 363	木製品	曲物 底板	1/2	[18.1]		1.1						
図35 364	木製品	曲物 底板	1/3	30.5	[11.9]	1.4						
図35 365	木製品	横櫛	小片	[7.0]	[4.2]	0.8						黒色漆塗り
図35 366	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	[13.9]	6.8	4.1						
図35 367	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	[22.5]	9.0	7.7						
図35 368	木製品	草履芯	完形	17.2	7.8	2.5						
図36 369	木製品	草履芯	1/2	15.8	(3.4)	1.5						
図36 370	木製品	草履芯	2/3	[14.1]	[9.5]	0.4						
図36 371	木製品	草履芯	1/2	22.9	(4.6)	0.3						
図36 372	木製品	草履芯	1/2	23.3	[5.3]	0.3						
図36 373	木製品	用途不明	完形	36.0	8.2	1.2						上端部に貫通孔
図36 374	木製品	用途不明	完形	22.9	6.0	0.9						中心部に木釘残る
図36 375	木製品	用途不明	1/3	18.3	[4.1]	0.7						貫通孔4ヶ所 1穴に木釘残る
図36 376	木製品	栓？	完形	8.1	1.7	1.8						
図36 377	木製品	棒状製品	一部欠	[14.5]	0.9	0.6						端部炭化
図36 378	木製品	棒状製品	完形	17.3	1.0	0.9						
図36 379	木製品	棒状製品	完形	17.1	1.6	0.9						端部炭化
図36 380	木製品	棒状製品	完形	19.3	1.2	0.8						端部炭化
図36 381	木製品	棒状製品	完形	21.8	1.1	0.7						端部炭化
図36 382	木製品	棒状製品	一部欠	[18.5]	0.9	0.7						
図36 383	木製品	棒状製品	一部欠	[19.8]	1.2	0.8						
図36 384	木製品	棒状製品	一部欠	[20.9]	1.0	0.8						
図36 385	木製品	棒状製品	一部欠	[22.3]	1.1	0.7						
図36 386	木製品	棒状製品	一部欠	[21.4]	1.6	0.8						
図37 387	国産陶器	瀬戸 四耳壺	口1/4	(9.4)	—	[2.6]			灰緑			刷毛塗りの灰釉
図37 388	木製品	漆器 皿	3/4	8.2	5.3	1.0						内外面黒色漆塗り＋朱漆で 亀甲文のスタンプ
図37 389	木製品	箸	完形	19.2	0.8	0.4						
図37 390	木製品	箸	完形	22.6	0.7	0.6						
図37 391	木製品	折敷？	1/5	31.4	[6.0]	0.7						綴じ紐が残る
図37 392	木製品	自在鉤？	一部欠	[31.6]	2.1	3.5						未完成品か
図37 393	木製品	用途不明	一部欠	[16.8]	2.1	1.2						
図37 394	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	7.6	6.2	1.6	[31.2]	B	橙	ナデ	板状	
図37 395	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	7.6	6.0	1.6	[37.3]	B	橙	ナデ	板状	
図37 396	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.0	5.8	1.7	[68.5]	B E	灰	ナデ	板状	
図37 397	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.6	5.9	1.8	[54.2]	B	灰	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図37 398	在地土器	ロクロ かわらけ	7/8	8.3	6.4	1.7	[63.4]	B E	灰	ナデ	板状	
図37 399	在地土器	ロクロ かわらけ	1/4	(7.6)	(6.0)	1.6	[13.0]	B	橙	ナデ	板状	
図37 400	土器	手づくね 白かわらけ	1/3	(7.7)	—	1.6	[17.1]	密	灰白	ナデ		
図37 401	在地土器	手づくね かわらけ	ほぼ 完形	8.4	—	1.7	[71.5]	B E	黄灰	ナデ		
図37 402	在地土器	手づくね かわらけ	7/8	8.6	—	1.8	[66.2]	B	黄灰	ナデ		
図37 403	在地土器	ロクロ かわらけ	7/8	11.7	7.7	3.3	[150.3]	B	明橙	不明 瞭	板状	
図37 404	在地土器	ロクロ かわらけ	5/8	(12.0)	(8.7)	3.1	[108.1]	B	明橙	ナデ	板状	
図37 405	在地土器	ロクロ かわらけ	7/8	12.1	7.9	3.3	[139.0]	B E	明橙	ナデ	板状	
図37 406	国産陶器	渥美？ 甕	胴小片	—	—	—	—		暗灰			内面黒変（内容物か）
図38 407	瓦	平瓦	—	[15.3]	[17.4]	2.1	[940.0]		灰			永福寺女瓦A類
図38 408	石製品	砥石	—	[6.3]	5.2	3.0	[161.3]		灰			大村産荒砥 3面使用
図38 409	鉄製品	釘	—	5.7	3.5	3.5	2.6					
図38 410	鉄製品	釘	—	7.3	0.5	0.3	3.2					
図38 411	鉄製品	釘	完形	11.8	4.0	5.5	8.2					
図38 412	銅製品	銭	完形	径 2.4	方孔 0.6	0.1	3.8					景徳減俸 北宋1004年　真書
図38 413	木製品	漆器 椀	1/3	—	(7.0)	(2.3)						内外面黒漆塗り＋朱漆で手描きのカタバミ文
図38 414	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	8.8	6.0	1.4						内外面黒漆塗り＋朱漆で巴文スタンプ
図38 415	木製品	漆器 皿	1/3	(9.4)	(8.0)	0.9						内外面黒漆塗り、無文
図38 416	木製品	漆器 椀	小片	—	—	—						内外面黒色漆塗り、朱漆で菊花文スタンプ
図39 417	木製品	箸	完形	19.3	0.5	0.4						
図39 418	木製品	箸	完形	22.1	0.6	0.4						
図39 419	木製品	箸	完形	24.3	0.7	0.4						
図39 420	木製品	箸	完形	24.4	0.8	0.6						
図39 421	木製品	曲物 底板	1/2	33.5	—	1.4						一部炭化
図39 422	木製品	円盤	1/2	8.7	0.7	0.4						一面のみ黒漆梨漆 中央に貫通孔
図39 423	木製品	横櫛	小片	[4.0]	[5.8]	0.9						黒色漆塗り
図39 424	木製品	草履芯	1/2	23.4	(4.8)	0.3						
図39 425	木製品	草履芯	1/2	22.9	(5.0)	0.4						
図39 426	木製品	棒状製品	完形	14.9	1.8	1.2						
図39 427	木製品	棒状製品	完形	30.5	2.0	1.0						
図39 428	木製品	棒状製品	完形	31.4	1.1	0.9						
図39 429	木製品	棒状製品	一部欠	[31.5]	2.3	2.0						
図40 430	在地土器	ロクロ かわらけ	6/7	7.4	5.9	1.5	[40.3]	B C	橙	ナデ	板状	
図40 431	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	8.2	5.8	1.5	[56.3]	B E	明黄褐 ～橙	ナデ	板状	
図40 432	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	8.0	6.7	1.4	[64.2]	B～E	暗黄灰	ナデ	板状	歪み大きい
図40 433	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	13.0	7.5	3.3	177.8	B C	橙	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図40 434	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	13.1	9.9	3.2	207.0	B	橙	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図40 435	在地土器	手づくね かわらけ	口小片	—	—	[2.0]	[5.0]	B	黄橙			内面に墨書
図40 436	銅製品	銭	完形	径 2.4	方孔 0.7	0.1	4.6					皇宋通寶 北宋1038年初鋳　真書
図40 437	木製品	漆器 椀	底部片	—	(6.8)	—						内外面黒色塗り、無文
図40 438	木製品	箸	完形	18.3	0.5	0.4						
図40 439	木製品	箸	完形	21.0	0.6	0.5						
図40 440	木製品	箸	完形	23.2	0.6	0.5						
図40 441	木製品	箸	完形	26.0	0.9	0.7						
図40 442	木製品	曲物	1/4	[23.3]	—	0.7						
図40 443	木製品	草履芯	完形	22.7	0.9	0.4						
図40 444	在地土器	ロクロ かわらけ	4/5	8.5	7.0	1.2	[70.1]	B	黄灰	ナデ	板状	
図40 445	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	8.8	6.7	1.8	96.1	B～E	黄灰	ナデ	板状	
図40 446	在地土器	手づくね かわらけ	3/4	8.0	—	1.8	[51.3]	B	黄灰	ナデ		
図40 447	木製品	将棋駒	完形	3.2	2.6	1.0						片面に墨書（判読不可）
図40 448	在地土器	ロクロ かわらけ	3/4	7.8	6.2	1.6	[43.2]	B～E	暗黄灰	ナデ	板状	
図40 449	瓦質製品	温石？	—	14.6	8.6	2.3	[353.3]	—	灰褐	—	—	孔径0.8　永福寺女瓦D類か
図41 450	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	7.7	6.0	1.7	44.3	B	黄橙	ナデ	板状	打ち欠きか
図41 451	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	12.1	8.3	3.1	128.7	B E	灰黄	—	板状	底部中央を4.4×2.7cmほど 打ち欠く
図41 452	木製品	枡	完形	16.0	13.0	6.8						約0.9ℓ
図41 453	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	8.5	7.4	1.5	[55.6]	B E	橙	ナデ	板状	
図41 454	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	9.2	7.4	1.9	[58.7]	B	淡橙	ナデ	板状	
図41 455	在地土器	ロクロ かわらけ	2/3	5.6	5.6	1.4	[23.3]	B	橙	ナデ	板状	内折れ　底部内面に墨書
図41 456	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(7.1)	—	1.0	[17.0]	B	黄灰	ナデ		内折れ
図41 457	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(8.8)	—	1.2	[23.9]	B	黄灰	ナデ		
図41 458	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(8.8)	—	1.4	[32.2]	B	黄橙	ナデ		
図41 459	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(9.4)	—	1.9	[54.3]	D	黄灰	ナデ		歪み大きい
図41 460	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(9.6)	—	2.1	[51.8]	D	黄灰	ナデ		
図41 461	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(12.4)	—	3.3	[74.9]	D	淡橙	ナデ		
図41 462	在地土器	手づくね かわらけ	口小片	—	—	(3.0)	[20.1]	B	淡橙	—	—	内外面に墨書　風景画か
図41 463	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	底～ 体片	—	(6.0)	[4.0]		密	暗緑 不透明			大宰府Ⅰ-2a類
図41 464	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	口小片	—	—	[2.3]		密	暗緑 不透明			大宰府Ⅰ-4b類 口縁部に輪花状の切り込み
図41 465	国産陶器	東遠型 山茶碗	底片	—	(6.4)	[1.4]			褐～灰褐			付け高台　歪みあり
図41 466	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[4.5]			褐			縁帯幅1.8　5型式
図41 467	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[5.2]			灰褐			5～6a型式
図41 468	鉄製品	釘	完形	4.5	0.4	0.3	2.5					
図41 469	鉄製品	釘	完形	11.3	0.6	0.4	10.8					

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図41 470	鉄製品	用途不明	1/2	[8.2]	[9.7]	[0.2]	[5.3]					ハサミ？
図42 471	木製品	漆器 皿	2/3	(8.4)	(6.3)	1.6						内外面黒色漆塗り、無文
図42 472	木製品	漆器 皿	1/3	(10.4)	(7.4)	1.7						内外面黒色漆塗り、無文
図42 473	木製品	箸	完形	23.0	0.6	0.4						
図42 474	木製品	棒状製品	一部欠	[30.1]	11.0	0.9						
図42 475	木製品	板杓子？	完形	20.6	7.1	0.6						貫通孔2ヶ所 476とセットか
図42 476	木製品	板杓子？	柄欠？	[13.7]	7.0	0.7						貫通孔2ヶ所 475とセットか
図42 477	木製品	連歯下駄	片歯欠	[22.4]	11.8	6.9						
図42 478	木製品	草履芯	完形	17.1	7.9	0.2						
図42 479	木製品	草履芯	1/2	22.6	(4.8)	0.4						
図43 480	木製品	用途不明	完形	18.9	5.4	2.9						
図43 481	木製品	用途不明	完形	16.0	3.7	1.5						
図43 482	木製品	用途不明	完形	12.8	1.9	1.0						
図43 483	木製品	用途不明	不明	4.7	4.0	[1.9]						加工品ではない?
図43 484	木製品	漆芸品 用途不明		(6.7)	(7.0)	2.1						黒色漆塗り塗 膠状の付着物
図47 524	大型 木製遺物	棒状 用途不明	一端欠	[94.4]	2.0	1.7						一端を尖らせる
図47 525	大型 木製遺物	棒状 用途不明	完形？	75.7	1.8	1.5						一端を尖らせる
図47 526	大型 木製遺物	棒状 用途不明	完形？	74.5	2.1	1.6						一端を尖らせる
図47 527	大型 木製遺物	棒状 用途不明	完形？	78.2	1.8	1.6						一端を尖らせる
図47 529	大型 木製遺物	板杭状 用途不明	完形	70.4	3.9	1.1						径1㎜の小孔2ヶ所
図47 528	大型 木製遺物	板 用途不明	完形	22.7	15.2	0.9						長辺側一辺を斜めにカット
図47 530	大型 木製遺物	柱材	上部欠	[57.0]	11.5	11.0						八角形に面取り　上端炭化
図43 485	木製品	漆器 椀	3/4	13.6	7.0	4.6						内外面黒色漆塗り、無文
図43 486	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	10.8	7.7	3.0	[101.0]	B	橙	ナデ	板状	
図43 487	木製品	箸	完形	21.5	0.5	0.6						
図43 488	在地土器	手づくね かわらけ	4/5	8.9	—	1.9	[60.7]	B	橙	ナデ		
図43 489	在地土器	ロクロ かわらけ	1/3	(9.3)	(7.2)	1.6	[30.0]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁に油煤付着
図43 490	在地土器	ロクロ かわらけ	完形	9.0	6.8	1.6	67.5	E	橙	ナデ	板状	片口状の突出部あり
図43 491	在地土器	ロクロ かわらけ	ほぼ 完形	13.8	—	3.0	18.3	E	黄灰	ナデ	—	
図44 492	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	(8.9)	(7.1)	1.3	[38.0]	B E	橙	ナデ	板状	
図44 493	在地土器	ロクロ かわらけ	1/3	(8.8)	(6.4)	1.5	[17.6]	D	橙	ナデ	板状	
図44 494	在地土器	ロクロ かわらけ	1/2	(8.7)	6.5	0.6	[38.4]	B E	橙	ナデ	板状	
図44 495	在地土器	手づくね かわらけ	完形	8.0	5.9	1.5	53.6	B	灰黄	ナデ	—	
図44 496	在地土器	手づくね かわらけ	4/5	9.4	—	1.9	[72.3]	B E	灰黄	ナデ		
図44 497	在地土器	手づくね かわらけ	完形	8.5	—	1.8	68.5	B C	橙	ナデ	—	埋没谷下層
図44 498	在地土器	手づくね かわらけ	1/2	8.8	—	1.8	[45.8]	B E	橙	ナデ		底部広く黒変

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	(g)					
図44 499	在地土器	手づくね かわらけ	1/2	(8.9)	—	1.6	[28.9]	D	橙～ 黄灰	ナデ		口唇部面取り状ナデ
図44 500	在地土器	手づくね かわらけ	ほぼ 完形	8.9	—	1.9	80.7	B D	黄灰	ナデ	—	打ち欠きか
図44 501	在地土器	手づくね かわらけ	3/5	9.2	—	1.9	[51.7]	B E	黄橙～ 灰黄	ナデ		口唇部面取り状ナデ
図44 502	在地土器	手づくね かわらけ	完形	13.7	—	2.9	201.1	B E	黄灰	ナデ	—	埋没谷下層
図44 503	在地土器	手づくね かわらけ	1/3	(14.6)	—	3.0	[57.9]	B E	橙～ 灰黄	ナデ		口唇部面取り状ナデ
図44 504	舶載磁器	同安窯系青磁 碗	底片	—	(6.0)	[3.8]		密	緑灰			大宰府Ⅰ-1b類
図44 505	舶載磁器	白磁 壺	口小片	—	—	[3.9]		密	灰白			浸け掛け
図44 506	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[7.0]			渇			縁帯幅1.6　5～6a型式
図44 507	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[4.5]			灰褐			4型式か
図44 508	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	—			黒褐～褐			
図44 509	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[4.4]			褐			
図44 510	瓦	平瓦	—	[23.5]	[19.5]	1.7	[780.0]	密	灰緑			永福寺女瓦A類
図45 511	瓦	平瓦	—	[14.5]	[16.0]	1.8	[590.0]	密	暗灰			永福寺女瓦A類
図45 512	瓦	丸瓦	—	—	—	2.5	—	—	明茶褐	—	—	永福寺男瓦C類（東海系）
図29 275	在地土器	ロクロ かわらけ	口1/3～ 底3/4	(7.8)	5.0	1.5	[28.7]	B	黄灰	ナデ	板状	
図45 513	鉄製品	釘	完形	12.5	0.9	0.9	34.0					
図45 514	鉄製品	釘	—	[5.0]	0.3	0.3	[2.4]					
図45 515	木製品	箸	ほぼ 完形	22.6	0.5	0.4						
図45 516	木製品	箸	ほぼ 完形	25.5	0.7	0.5						
図45 517	木製品	壺杓子	柄欠損	[16.4]	[9.1]	[3.5]						黒色漆塗り
図45 518	木製品	棒状製品	完形	15.8	2.3	0.9						先端部を剣先状に整形
図46 519	在地土器	手づくね かわらけ	1/4	(10.5)	—	(1.9)	[24.0]	B	橙～黒褐	ナデ		器表全体に黒変
図46 520	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	20.0	8.0	5.0						木釘残る
図46 521	在地土器	手づくね かわらけ	4/5	8.8	—	1.5	[56.2]	D	黄灰～灰	ナデ		器表全体に黒変
図46 522	国産陶器	湯美？ 甕	胴小片	—	—	—			暗灰			図37-406と同一個体か
図46 523	鉄製品	釘	完形	7.9	0.4	0.3	4.1					
図23 177a	銅製品	釘	完形	2.2	頂部径 2.3	0.4	3.9					177bとセット
図23 177b	銅製品	釘隠し	完形	径 3.9	孔径 0.9	厚さ 0.2	5.0					177aとセット

凡例：在地産かわらけの胎土分類

Ａ：粉質　Ｂ：泥質　Ｃ：精良・硬質　Ｄ：泥質・精良　Ｅ：砂質・硬質

いずれの胎土も白針（骨針化石）や雲母粒・泥岩粒を含む例が主体となる（多寡や欠落もあり）。

大よそＥ・Ｄ→Ｂ・Ｃ→Ａという順で新しくなり、Ｃは「薄手丸深」タイプに、Ａは「戦国タイプ」に使用。

表４　出土遺物数量表

面	かわらけ						白かわらけ		龍泉窯系青磁						舶載陶器		尾張・常滑				瓦質土器		瓦			
	ロクロ						手づくね		手づくね		碗		蓮弁文碗		輪花碗		緑釉		甕		片口鉢		火鉢Ⅰ		丸瓦		平瓦	
	大		小		小片		大	小	大		Ⅰor Ⅱ類		Ⅱ類				盤				Ⅰ類				A類?		D類	
表土	12	*194*	15	*403*	24	*133*													5	*699*					1	*40*		
排土山・出土地不明	272	*5254*	37	*678*	70	*246*	3	*52*	2	*16*	2	*44*							1	*1*	114	*7851*	5	*423*	1	*238*				
確認調査時	4	*270*	1	*50*									1	*5*	1	*3*	1	*5*			7	*544*	1	*78*						
調査区壁	36	*479*	3	*53*			3	*35*	2	*16*									3	*230*									1	*196*

面	鉄製品		肥前系磁器		現代陶器		骨・骨製品		貝			果核	木製品			
	釘		染付		壺？		笄	鹿角	ハマグリ	サザエ	アカニシ	胡桃	箸	曲物	棒状	木片
			碗													
表土					1	*25*										
排土山・出土地不明							1	1	2	2	7	1	1	1	1	2
確認調査時			1	*6*									3			7
調査区壁	1	*4*														1

↑←表土・確認調査時ほか

面	かわらけ								白かわらけ		土器				白磁				青白磁		龍泉窯系青磁			
	ロクロ								手づくね		鍔釜		搬入系 坏		不明		口禿皿 (IX類)		皿		合子蓋		蓮弁文碗 Ⅱ類		蓮弁文碗 ⅡorⅢ類	
	大		中		小		小片		大																	
1～2面	576	*8856*	4	*260*	178	*2718*	666	*3107*	1	*10*	1	*8*	1	*7*	1	*31*	1	*2*	1	*4*					4	*44*
1～3面サブトレンチ	229	*3320*	2	*80*	32	*511*	67	*247*													1	*2*	2	*16*		
2面　面上	3	*318*	4	*195*																						

1面下～3面
←↓掘り下げ時

面	舶載陶器				瀬戸										渥美・湖西		尾張・常滑									
	黒釉 天目碗		褐釉 壺		卸皿		折縁深皿		直縁大皿？		平底末広碗		輪花 入子		入子		瓶類		甕		甕		壺		片口鉢 Ⅰ類		Ⅰ類?		Ⅱ類	
1～2面	1	*13*	2	*34*	1	*77*	1	*27*	1	*11*	1	*160*	1	*5*	2	*40*	4	*184*	1	*337*	82	*9061*	1	*45*	2	*251*	1	*21*	13	*585*
1～3面サブトレンチ													1	*1*							14	*1290*			2	*194*			2	*205*
2面　面上																														

面	東濃		東播				瓦質土器								瓦				鉄製品				石製品				近世陶器		
	山茶碗		甕		鉢		火鉢 Ⅰ類		Ⅳ類		不明		風炉		平瓦 くすべ		丸瓦 DorB類		釘		スラグ		硯		鳴滝 仕上砥		三島手			
1～2面			2	*231*	2	*116*	10	*738*	1	*25*	3	*76*	1	*188*	1	*82*	1	*146*	9	*51*	1	*211*	1	*172*	2	*51*				
1～3面サブトレンチ	1	*23*					1	*54*			6	*120*							1	*20*							1	*8*		
2面　面上																														

凡例

かわらけ							
ロクロ							
大		中		小		小片	
576	*8856*	4	*260*	178	*2718*	666	*3107*
229	*3320*	2	*80*	32	*511*	67	*247*
3	*318*	4	*195*				

破片数　重量（g）

面	かわらけ								青白磁		白磁				龍泉窯系青磁						舶載陶器		瀬戸					
	ロクロ								梅瓶		印花文皿 X類		合子身		蓋？		蓮弁文碗 Ⅱor Ⅲ類		折縁鉢・皿 坏Ⅲ類		輪花碗		褐釉 壺		卸皿		入子		瓶類	
	大		中		小		小片																					
2～3面	1802	*31030*	6	*530*	325	*5177*	871	*3914*	1	*7*	1	*21*	1	*15*	1	*1*	3	*30*	3	*21*	1	*4*	2	*108*	4	*110*	1	*8*	1	*12*
2～3面サブトレンチ	1	*176*																										

面	渥美？		尾張・常滑						東播系須恵器				瓦質土器				瓦						鉄製品	
	甕		甕		片口鉢			転用研磨具	甕		鉢		火鉢				平瓦				丸瓦		釘	
					Ⅰ類		Ⅱ類						Ⅰ類		Ⅲ類		A類		D類		Ⅰ期			
2～3面	1	*112*	46	*3890*	20	*1004*	10	*765*	2	*308*	2	*25*	4	*153*	1	*309*	1	*388*	5	*1276*	1	*86*	1	*207*	39	*231*
2～3面サブトレンチ																								

面	石製品									
	鳴滝 硯		鳴滝 仕上砥		石英 (打撃痕有)		滑石			
							スタンプ		破片	
2～3面	2	*52*	1	*33*	1	*19*	1	*71*	1	*8*
2～3面サブトレンチ										

↑←2面下～3面
掘り下げ時

面	かわらけ										白かわらけ		土器		白磁								青白磁					
	ロクロ								手づくね		手づくね		南伊勢系 鍋		口禿碗 IX類		口禿皿 IX類		瓶類		小片		合子身		梅瓶		梅瓶蓋	
	大		中		小		特大		小片		大		大															
3～4面	2151	*32737*	1	*49*	302	*3366*	1	*66*	869	*3506*	2	*24*	1	*2*	3	*23*	3	*7*	1	*9*	3	*122*	1	*2*	1	*16*	5	*49*	1	*4*

面	龍泉窯系青磁										舶載陶器				瀬戸・美濃				渥美・湖西		東播系？		瓦質土器					
	劃花文碗 Ⅰ類		蓮弁文碗 Ⅱor Ⅲ類		蓮弁文碗 Ⅲ類		碗		折縁皿 坏Ⅲ類		緑釉 盤		褐釉				輪花 入子		瓶類		甕		鉢		火鉢			
													壺		茶入？										Ⅰ類		Ⅲ類		不明	
3～4面	3	*35*	11	*99*	1	*22*	3	*10*	2	*12*	1	*42*	12	*111*	1	*8*	1	*48*	3	*109*	1	*47*	2	*189*	9	*768*	3	*197*	1	*16*

面	尾張・常滑												瓦										須恵器？		銅製品？			
	甕		鳶口壺		壺		山茶碗		片口鉢			転用研磨具	平瓦				丸瓦		軒平瓦				甕？		銭		鋲＋ ワッシャー	
									Ⅰ類		Ⅱ類		D類		E類(くすべ)		D類(くすべ)		A類？		Ⅱor Ⅲ期							
3～4面	270	*16451*	2	*60*	6	*440*	2	*28*	49	*1840*	5	*365*	5	*235*	5	*1350*	3	*221*	1	*209*	1	*124*	1	*93*	1	*12*	2	*6*	1	*10*

面	鉄製品		石製品																	
	釘		鳴滝 硯		天草か伊予 荒砥		鳴滝 仕上砥		仕上砥？		多孔質 安山岩		石英 (未使用)		石？ 白色石		滑石			
																	鍋		スタンプ	
3～4面	12	*125*	1	*143*	2	*473*	2	*372*	1	*4*	1	*402*	1	*8*	2	*10*	2	*205*	1	*30*

↑←3面下～4面
掘り下げ時

面	かわらけ										土器				青白磁				白磁											
	ロクロ								手づくね		鍔釜		南伊勢系鍋		合子身		梅瓶		口禿碗 IX類		口禿皿 IX類		印花文皿 X類		碗・皿		四耳壺		瓶類	
	大		小		内折		小片		大																					
4～5面	1432	*17845*	241	*2633*	3	*13*	767	*2880*	1	*16*	1	*84*	3	*29*	2	*9*	15	*158*	2	*13*	6	*59*	1	*2*	2	*7*	1	*115*	4	*144*

面	青磁														舶載陶器				瀬戸					
	劃花文碗 I類		劃花文碗? I類?		蓮弁文碗 II類		蓮弁文碗 III類		蓮弁文碗 IIorIII類		輪花碗		碗		折縁皿 坏III類		托？		緑釉 盤		黄釉 盤		洗or 折縁皿		瓶類		小片	
4～5面	6	*65*	1	*10*	1	*115*	2	*46*	29	*236*	1	*6*	1	*7*	9	*146*	1	*45*	2	*256*	3	*52*	1	*154*	8	*208*	1	*2*

面	尾張・常滑								瓦質土器								鉄製品		石・石製品									
	甕		蔵口壺		壺		片口鉢		火鉢								釘		天草 中砥		上野？ 中砥		鳴滝 仕上砥		滑石		軽石	
							I類		I類		IIorIII類		不明		角火鉢										破片			
4～5面	123	*9619*	3	*124*	5	*187*	50	*1950*	2	*353*	9	*612*	2	*243*	7	*349*	1	*290*	1	*10*	1	*695*	1	*305*	1	*20*	3	*79*	1	*42*

面	木製品		
	草履芯	箸	折敷
4～5面	1	10	1

←↑ 4 面下～ 5 面
掘り下げ時

面	かわらけ												白かわらけ				青白磁				白磁							
	ロクロ								手づくね				手づくね				合子蓋		梅瓶		口禿碗 IX類		口禿皿 IX類		四耳壺			
	大		小		内折		小片		大		小		大		小													
5面下サブトレンチ	170	*2365*	19	*238*			35	*122*											10	*57*			1	*20*	1	*18*		
5～6面	1062	*18706*	228	*3184*	2	*24*	209	*865*	13	*242*	12	*246*	6	*40*	1	*3*	1	*3*	3	*22*	3	*22*	1	*5*	1	*15*		
6面 面上	1	*129*	1	*45*																								

面	青磁												舶載陶器						瀬戸						渥美・湖西			
	劃花文碗 I類		連弁文碗 II類		連弁文碗 III類		連弁文碗 IIorIII類		碗		折縁鉢・皿 坏III類		黒釉 天目碗		緑釉 盤		黄釉 盤		入子?		四耳壺		瓶類		甕		片口鉢	
5面下サブトレンチ							2	*12*			3	*50*					2	*32*					1	*58*				
5～6面	1	*38*	1	*34*	1	*24*	7	*63*	1	*9*	1	*8*	3	*158*	1	*26*	2	*11*	1	*2*	1	*23*	1	*50*	2	*631*	1	*27*
6面 面上																												

面	猿投系？		尾張・常滑												瓦器		瓦質土器											
	壺？		甕		鳶口壺		壺?		山茶碗		山茶碗 小皿		片口鉢				坏		火鉢								温石形	
													I類		II類				I類		II類		VI類		不明			
5面下サブトレンチ			10	*1140*	1	*153*							2	*388*	2	*87*			1	*116*								
5～6面	1	*13*	374	*24969*			1	*4*	1	*174*	1	*8*	25	*1504*	1	*119*	1	*5*	2	*87*	2	*327*	1	*54*	1	*100*	1	*371*
6面 面上																												

面	瓦												銅製品		鉄製品				石・石製品								建築材	
	平瓦						丸瓦						銭		刀子		釘		滑石				緑泥片岩		軽石		漆喰	
	A類		D類		くすべ		D類(くすべ)		くすべ		くすべ(新?)								鍋		破片							
5面下サブトレンチ											1	*56*							2	*63*								
5～6面	2	*464*	7	*3807*	1	*56*	2	*861*	1	*34*			2	*6*	2	*220*	1	*7*			1	*61*	2	*17600*	1	*12*	2	*102*
6面 面上																												

面	骨		貝						果核	
	獣骨	魚鰓	ハマグリ	サザエ	アカニシ	キサゴ	ツメタ	アワビ	胡桃	不明
5面下サブトレンチ										
5～6面	3	2	41	1	5	2	1	1	2	1
6面 面上										

面	木製品																						漆塗り木製品		
	草履芯	下駄	箸	栓	火付棒	杓子	曲物	折敷	自在鉤状	ヘラ状	箒木	形代？	枡	枡？	櫛	円板	礎板	杭	棒状	板状	炭	木片	皿	椀	不明
5面下サブトレンチ	1	1	7				1	1			4							3	3	11			1	1	
5～6面	28	6	445	1	5	4	19	38	1	3	24	1		1	2	1	11	8	82	52	8	274	9	4	1
6面 面上													1					4		1					

↑ 5a 面下～6 面
掘り下げ時

面	かわらけ												白かわらけ				白磁				龍泉窯系青磁				渥美・湖西			
	ロクロ						手づくね						手づくね				碗・皿		瓶類		劃花文碗 Ⅰ類		碗 ⅠorⅡ類		甕		片口鉢	
	大		小		内折		大		小		内折		小片		大		小片											
6～7面	143	*2100*	64	*799*	1	*23*	414	*5893*	113	*1314*	2	*21*	186	*822*	1	*4*	1	*2*	1	*2*	2	*19*	2	*68*	1	*11*	5	*206*	1	*26*
7面 面上									1	*61*																		

面	尾張・常滑						東遠		瓦										銅製品		鉄製品				土師器		石	
	甕		片口鉢				山茶碗		平瓦				丸瓦				軒丸瓦		銭		刀子		釘		甕		軽石	
			Ⅰ類		Ⅱ類				A類		D類		くすべ		A類		D類(くすべ)		Ⅰ期									
6～7面	47	*2493*	10	*489*	1	*104*	1	*124*	5	*1117*	2	*261*	1	*123*	2	*375*	1	*205*	1	*166*	1	*5*	1	*6*	2	*16*	1	*12*	1	*55*
7面 面上																												

↑ 6面下～7面
掘り下げ時

面	骨	貝				果核
	獣骨	ハマグリ	サルボウ	アカニシ	アワビ	胡桃
6～7面	2	7	2	7	1	2
7面 面上						

← 6面下～7面
掘り下げ時

面	木製品														漆塗り木製品	
	草履芯	下駄	箸	杓子	曲物	折敷	ヘラ	毬杖	毬杖球	礎板	杭状	部材	板状	木片	皿	不明
6～7面	13	1	68	2	5	11	3	4	1	5	11	2	13	36	3	2

← 6面下～7面
掘り下げ時

面	かわらけ										常滑か渥美		常滑		土師器				骨	貝	果核	木製品		
	ロクロ				手づくね						甕		壺		相模型甕？		甕		獣骨	チョウセンハマグリ	胡桃	草履芯	下駄	木片
	大		小		大		小		小片															
7～8面	5	*83*	8	*90*	58	*1005*	23	*179*	16	*63*	7	*282*	1	*47*	1	*4*								
8面 面上																			2	1	1			
8面下					2	*23*											1	*11*	1	*19*		3	1	
																								1

← 7面下～8面下
掘り下げ掘時

遺構	かわらけ						尾張・常滑				瀬戸・美濃		近世・現代陶器			
	ロクロ						甕		片口鉢 Ⅰ類		染付 皿		一升徳利		五合徳利	
	大		小		小片											
撹乱1	5	*88*	1	*54*			1	*36*	1	*61*	1	*68*	1	*1550*	1	*875*
撹乱2	5	*48*	2	*17*	9	*19*										
撹乱3	1	*23*			1	*8*										
撹乱4	2	*35*														

↑ 1面 撹乱

遺構	かわらけ						常滑		石製品	
	ロクロ						甕		高島硯	
	大		小		小片					
ピット1	1	*19*			4	*20*				
ピット2	1	*6*	1	*6*	4	*11*			1	*184*
ピット4	2	*22*			1	*4*				
ピット5					3	*8*				
溝状1	5	*50*	1	*3*	6	*16*	2	*33*		

← 3面
遺構

遺構	かわらけ						青白磁		白磁		青磁		舶載陶器		瀬戸		尾張・常滑						瓦質土器		石		木製品
	ロクロ						合子蓋		口禿皿 Ⅸ類		蓮弁文碗 ⅡorⅢ類		緑釉盤		卸皿		甕		壺		片口鉢 Ⅰ類		転用研磨具		火鉢 ⅡorⅢ類		白色石		箸
	大		小		小片																							
土墨下ｻﾌﾞﾄﾚ	12	*177*	3	*33*	67	*226*			1	*4*			1	*117*	1	*29*	5	*213*							1	*61*	1	*4*	
土墨下	83	*790*	9	*103*	56	*218*	1	*2*			1	*19*					29	*1745*	1	*72*	1	*137*	1	*85*					2

← 3面下
土墨下

遺構	かわらけ												白かわらけ				青白磁		龍泉窯系青磁				渥美		猿投系		尾張・常滑			
	ロクロ						手づくね						手づくね				梅瓶		蓮弁文碗Ⅱ類		蓮弁文碗ⅡorⅢ類		甕		甕・壺		甕		片口鉢Ⅰ類	
	大		小		小片		大		小		小片		大		小															
道路下	302	*4510*	66	*924*	15	*53*	16	*240*	6	*226*	64	*287*	9	*40*	2	*21*	1	*2*	1	*6*	1	*7*	1	*121*	1	*26*	46	*3176*	4	*165*
木組み溝2	30	*347*	4	*32*			13	*115*	2	*25*																	7	*328*	1	*34*
木組み溝1	77	*832*	7	*63*	27	*95*																					5	*212*	1	*25*
板壁状1																														
土坑501	24	*366*	5	*97*									1	*31*													14	*568*	1	*441*
土坑502	36	*433*	3	*30*	11	*32*																					4	*421*		
ピット502	1	*23*																												
ピット503	2	*23*																												
ピット504			1	*24*																										
ピット510	2	*26*																									1	*18*		
ピット514	4	*77*	1	*6*	3	*18*																					4	*155*		
ピット515	7	*91*																									1	*90*	2	*137*
ピット516																											1	*90*		
ピット519	2	*170*	1	*7*																										
ピット522	29	*317*																									2	*222*		

遺構	瓦質土器		瓦								銅製品		鉄製品		石製品						骨	貝	果核		←↑ 5a ～ 5d 面　遺構
	火鉢		平瓦				丸瓦				銭		釘		鳴滝仕上砥		出羽？中砥		滑石破片		獣骨	アカニシ	胡桃	梅か桃	
			A類		A類(くすべ)		A類		D類(くすべ)																
道路下	4	*186*	3	*2275*	1	*453*	1	*174*	1	*370*	1	*4*	3	*19*			1	*161*	1	*235*	9	2	1		
木組み溝2																									
木組み溝1																								2	
板壁状1											1	*4*													
土坑501															1	*24*									
土坑502																									
ピット502																									
ピット503																									
ピット504											1	*3*													
ピット510																									
ピット514																									
ピット515																									
ピット516																									
ピット519																									
ピット522																									

遺構	木製品																		漆塗り木製品				
	草履芯	箸	火付棒	杓子	曲物	折敷	籌木	櫛	ヘラ状	毬杖	組木	穿孔板	礎板	杭	枘加工	棒状	板状	木片	椀	皿	蓋？	盆	櫛
木組み溝1																	1						
ピット511																							
ピット512													1										
ピット503																1	1						
ピット505		1																					
ピット508													2										
ピット510		2																					
ピット514		2																2					
ピット515																	1						
板壁状1	2	15	1	1	2	4			3			3				11	8		1			1	
板壁状2	6	13				3							1	1				95					
ピット516																							
ピット519		4			1	2			1		1					2	4	1					
ピット522																							
土坑501	9	6			1	1			2	3				3		7	6	5					1
道路下	31	95	2		2	4	11	1	1				3	7	1	28	14	78	2	3	1		
木組み溝2	1	27				3	1									2		1					

← 5a ～ 5d 面　遺構

遺構	かわらけ								尾張・常滑				瓦	
	ロクロ						手づくね		甕		片口鉢		平瓦	
	大		小		小片		大				I類		A類	
ピット601	2	*23*												
ピット602	2	*25*							2	*154*				
ピット604	6	*78*	1	*4*			1	*9*	1	*199*			1	*141*
ピット606	8	*127*	1	*18*										
ピット607	1	*13*					1	*20*	1	*45*				
ピット608	3	*30*												
ピット609							1	*18*						
ピット610	1	*14*			1	*2*	4	*21*						
ピット611	7	*100*	5	*258*					1	*33*				
ピット612			1	*44*	3	*16*					1	*14*		
ピット613							1	*15*						
ピット614	1	*12*	1	*5*										
ピット623							1	*11*						

遺構	木製品				
	草履芯	将棋駒	棒状	板状	木片
ピット601	3				
ピット602					1
ピット604					
ピット606					
ピット607					1
ピット608					
ピット609					
ピット610					
ピット611		1	2		
ピット612					
ピット613				1	
ピット614				2	

↑← 6 面　遺構

遺構	かわらけ												青白磁		同安窯系青磁		渥美か常滑		尾張・常滑		果核	木製品			漆塗り木製品	
	ロクロ						手づくね						小片		皿		甕		壺		胡桃	箸	板状	木片	椀	皿?
	大		小		小片		大		小		小片															
ピット701			2	15																			1	1		
ピット702							1	7																		
ピット703							2	30															3			
ピット704							1	9	1	5																
ピット705							6	82					1	1											1	
ピット706	1	101					4	189	1	12												3	2	1		
ピット707	1	13	1	7			2	14			1	3					2	141								
ピット708	2	20	2	34			7	91																		1
ピット709							3	36	4	34	3	14									1					
ピット710									2	5																
ピット711							1	9	2	19	3	10														
ピット712	1	10					3	50	1	9																
ピット713					1	4	8	106	2	14	4	21			1	4										
ピット714							3	21																		
ピット715(809)							1	6	2	27													1			
ピット810									2	33	5	31							1	41						
ピット811																								2		

←7面・8面・8面下遺構

遺構	かわらけ												白かわらけ				土器		土師器		白磁		同安窯系青磁		舶載陶器		常滑か渥美		瓦器	
	ロクロ						手づくね				小片		手づくね				南伊勢系鍋		相模型甕		四耳壺?		櫛掻文碗Ⅰ類		褐釉壺		甕		坏	
	大		小		小片		大		小				大		小															
落ち込み	35	439	51	526			265	4143	98	2155	177	745	1	6	1	3	1	14	1	7	1	26	1	26	1	42	2	531	1	4
落ち込み深掘り	1	10			1	7	1	38	2	73																				

遺構	尾張・常滑						瓦				鉄製品・鉄滓				石		骨	貝					果核
	甕		鳶口壺		片口鉢Ⅰ類		平瓦A類		丸瓦C類		釘		スラグ		雲母片		獣骨	ハマグリ	サザエ	アカニシ	キサゴ	ツメタ	胡桃
落ち込み	21	1920	1	60	1	52	5	1995	1	256	2	38	2	109	1	21	3	12	2	1	1	1	5
落ち込み深掘り																							

遺構	木製品							漆塗り木製品	
	下駄	箸	折敷	ヘラ状	棒状	板状	木片	壺杓子	破片
落ち込み	1	29	1	1	24	12	12	1	2

↑←8面　落ち込み（埋没谷）

第五章　調査成果のまとめ

（1）遺跡の変遷と年代

前章までに、9枚の中世遺構面で検出した遺構と出土遺物について概述してきた。ごく大雑把な説明に終始したが、詳細については図や表も参照されたい。本報告では8枚の盛土整地面と中世基盤層上の8面下という、大きく9枚の遺構面に集約したが、5面がａ～ｄの四段階に細分できたように、さらに細かな整地面も随所で見受けられた。時間的制約によりその全てを的確に把握できたとは言い難いが、中世における土地利用の変遷と遺物様相の変化について、一定の流れを掴むことはできたかと思う。

以下、層位の古い順に概況を整理したい。

8面下は中世基盤層上で、同層の上下で手づくねかわらけと古代以前の土師器小片が出土している。中世基盤層上には擬似基盤層といえる黒褐色粘質土（ネチャ）が堆積し、経験上、ここには中世の遺物が包含されることが多い。今回､中世基盤層と確定できる層中での中世遺物の出土は認められなかった。古代以前の遺物は原形を知り得ない資料のみで、ここからどのような土地利用を行っていたのか、語ることは難しい。

7面下～8面の出土遺物のうち、かわらけは手づくね成形品が主体となっている。6面下～7面でも手づくねがロクロを上回り、5面下～6面になると状況は一変してロクロが圧倒的多数を占めるようになり、手づくねは消失寸前ともいえる数量まで急減する。量的にはかわらけに劣るものの、伴出陶磁器の類型から推定し得る上限年代は、7面下～8面が13世紀第2四半期の前半、6面下～7面が同後半、5面下～6面が13世紀中葉頃となり、この最後の段階において手づくねかわらけが消失した可能性が指摘できる。また、白磁の碗・皿Ⅸ類や龍泉窯系青磁碗Ⅲ類が当段階で確認できるようになることも、一つの変化といえる。土地利用の上では5面（5a～5d面）で南北に延びる道路状遺構と木組み護岸を持つ東側溝が構築されるようになり、土坑・ピットが主体の6面からは大きな変化として認めることができよう。

4面下～5面と3面下～4面では、かわらけはロクロ成形品のみとなる。これ以降はロクロかわらけの器形変化と伴出陶磁器から年代を探ることになり、どちらも13世紀後葉を上限とする中で変遷していることが捉えられた。

2面下～3面も瀬戸卸皿（106）の様相から13世紀後葉を上限年代とすることができるが、層位順に新しくなることを考慮すれば、これより下る時期に当てるべきだろう。ロクロかわらけは内湾化と身深傾向が進むが、小皿は低いものが主体となる。具体的に年代を絞り込むのは難しいが、大よそ14世紀前半までの遺物様相と見ておきたい。4面～3面と3面～2面では、それぞれに土地利用の上で変化が見出せた。

1面下～2面では9型式以降の常滑甕（45）や瓦質土風炉（52）が含まれ、1400年を前後する生産地年代が与えられよう。ロクロかわらけは厚手・外反タイプが一定量入り、2面下の資料とは時間的懸隔を感じる。陶磁器からの裏付けは不十分であるが、14世紀中葉～15世紀前半頃の遺物と考えられる。2面から1面にかけての堆積土は50cmの厚さがあり、それ以前と比べて盛土造成が大掛かりで、かつ雑になった印象を受ける。遺物様相を見ても、土地利用に一定の断絶期間があった可能性は考えて良いだろう。

本報告ではロクロかわらけの器形変化―特に13世紀後葉～14世紀前葉とした資料―について、詳細な分析を加えることができなかった。ただし大まかな流れは層位的裏付けをともなって把握することが

できたので、今後、機会を改めて検討してみたい。

（2）土地利用の画期

今回、中世基盤層は地表下 2.8 mで確認されたものの、調査区の大部分が南東方向に落ち込む谷地形であり、平坦面として確認できたのは調査区北西隅付近のごく一部分に限られていた。このことは今回の調査区より北西側に安定した地盤が広がっていたことを示しており、こうした場所から建物用地などとして土地利用が始まり、その後、ほどなくして可住地の拡張を企図した谷の埋め立て→平坦地の造成という変化を捉えることができた。こうした動きは逐次、本地点の東方へと向けて展開したものと推察できる。

5 面では東辺に木組み側溝をともなう南北道路状遺構が調査区を縦断するように変化し、この段階を土地利用上の一画期と見なすことができる。上述の遺物様相から、13 世紀中葉頃に起きた変化と考えられる。

次の画期は 3 面の段階で、道路状遺構は調査区の中では姿を消し、小規模ながら礎石建物が建つようになる。14 世紀前半における動きと見ている。

これ以降、2 面から 1 面にかけての造成・整地状況は大型の泥岩ブロックを用いた粗雑なものとなり、3 面までの状況とは印象を異にする。ここも、土地利用の上では大きな画期といえるだろう。遺物様相から 14 世紀中葉～ 15 世紀前半という、南北朝から室町時代に構築・形成された整地面と考えている。当該期の鎌倉における土地造成は概して大掛かりで雑なものであることが知られ、造成の規模に比して建物などの展開が疎らであることが指摘できる（押木 2019）。「鎌倉府統治下の鎌倉」という、時代性を踏まえた考察が必要であるかもしれない。

（一部、押木 2018 から引用、再掲載した）

引用・参考文献

押木弘己 2018「横小路周辺遺跡の調査―中世土地造成の変遷―」『第 28 回　鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所

押木弘己 2019「南北朝・室町期における“都市鎌倉”の変容―大倉地域の土地利用変化を中心に―」『シンポジウム　南北朝・室町時代の鎌倉―発表資料集―』特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所

1.　表土掘削状況（西から）

2.　1 面全景（南から）

3.　2 面全景（南から）

4.　3 面全景（南から）

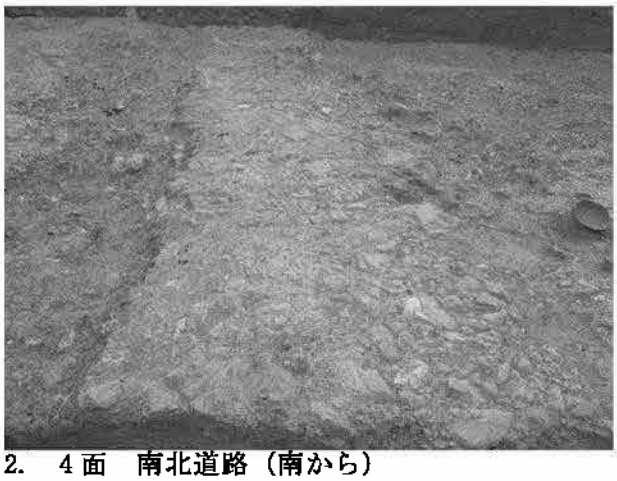
5.　3 面　礎石建物（南から）

6.　3 面　礎石周辺遺物出土状況（南から）

7.　3 面上　硯出土状況

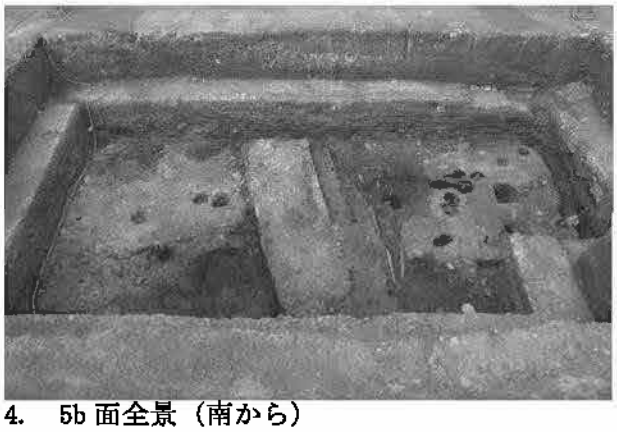
図版２

1.　4 面全景（西から）



2.　4 面　南北道路（南から）

3.　5a 面　検出途中（南から）



4.　5b 面全景（南から）

5.　5b 面全景（西から）

6.　5b 面　全景（北東から）

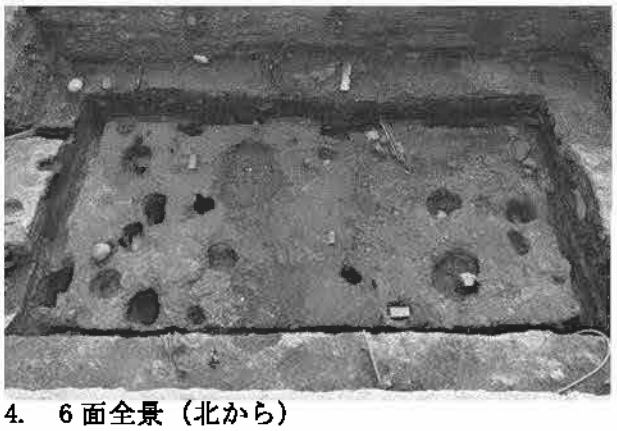
7.　5b 面東部（北から）

8.　5a･b 面　南北道路と木組み溝 1･2（北から）

1.　5b 面　調査区北東角（北から）

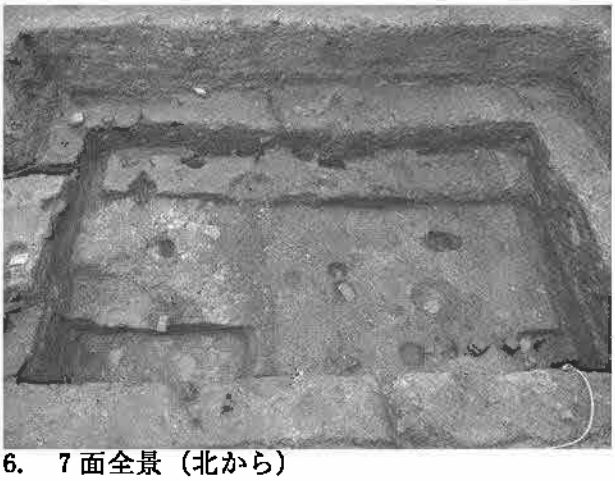
2.　5a･b 面　木組み溝 1･2 構築状況（東から）

3.　6 面全景（西から）



4.　6 面全景（北から）

5.　6 面上　遺物出土状況（北から）



6.　7 面全景（北から）

7.　7 面全景（北から）

図版４

1.　８面下全景（北から）

2.　８面下全景（西から）

3．　８面下　埋没谷（南西から）

4．　８面下　埋没谷遺物出土状況（北東から）

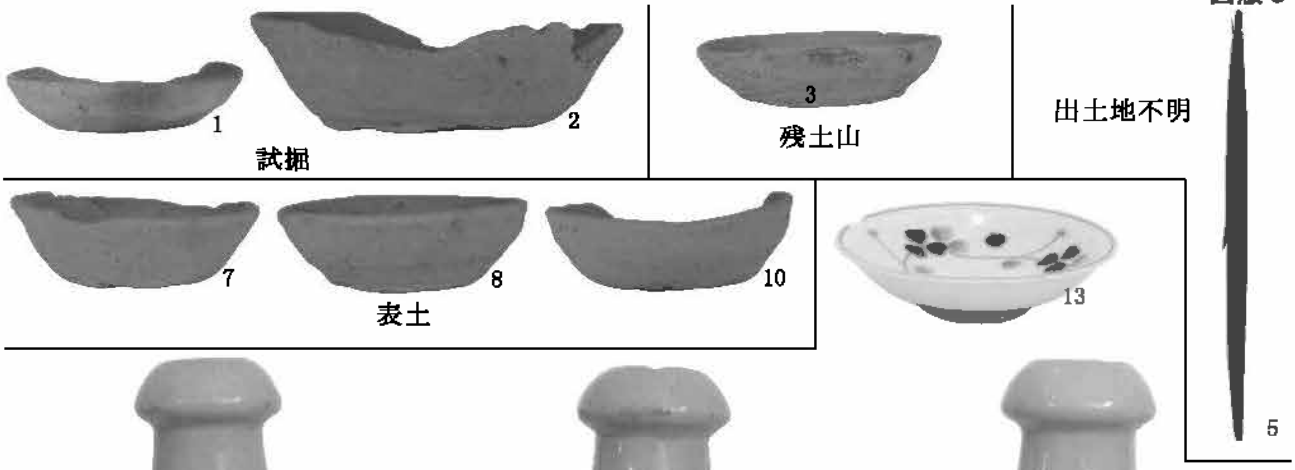
5.　８面下　埋没谷西部断面（北から）

6.　８面下　埋没谷東部断面（北から）

7.　調査区南壁断面（北西から）

8.　調査区東壁断面（南東から）

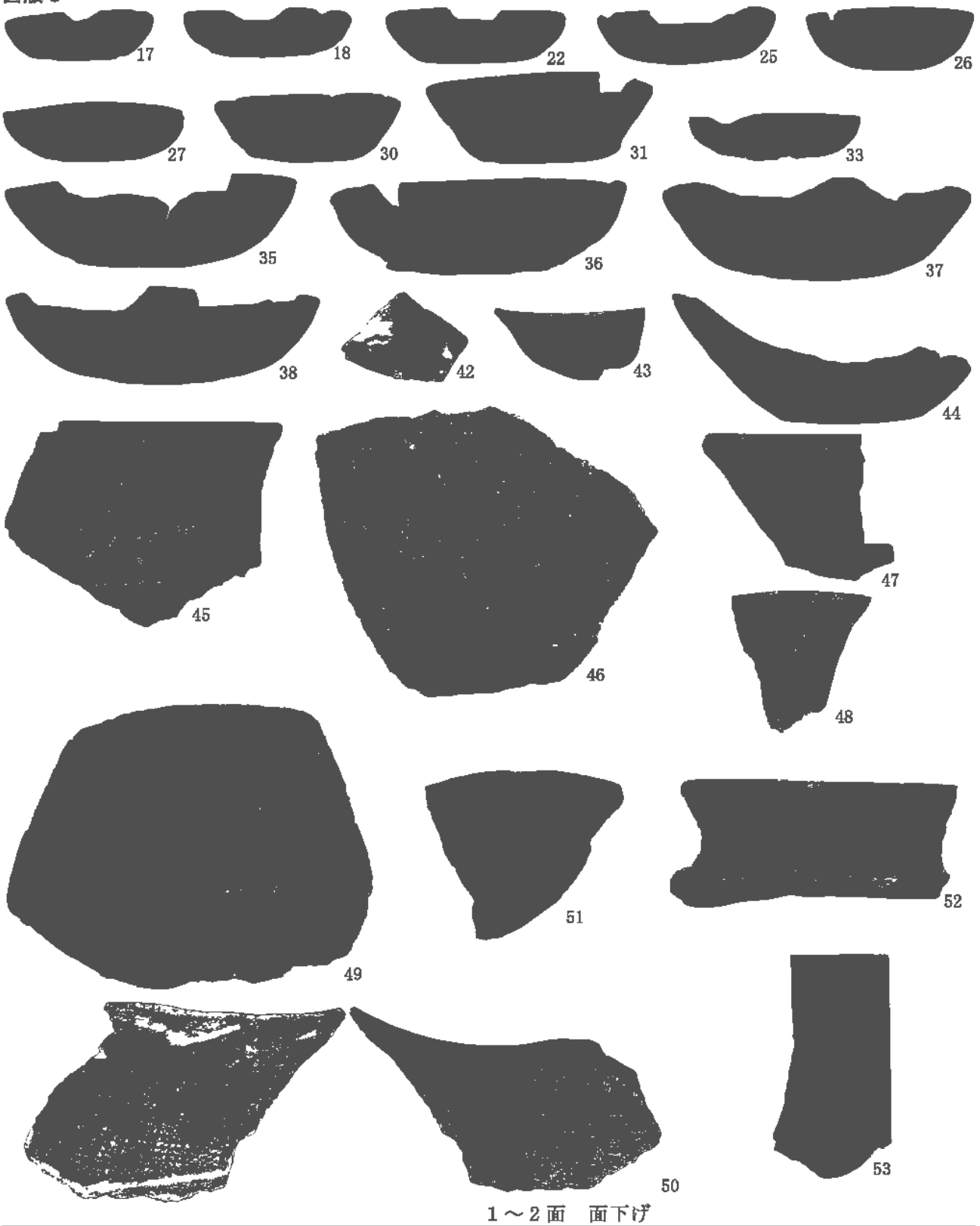
図版５



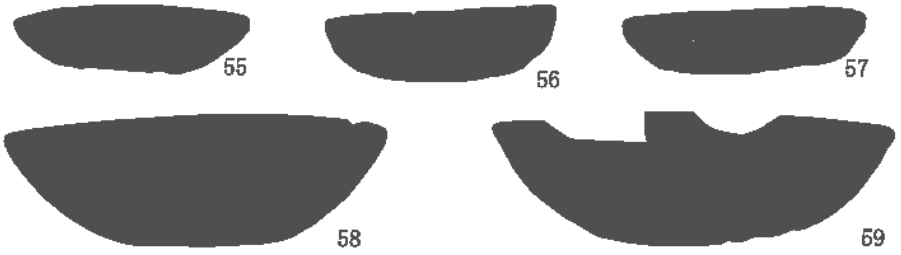
1面　撹乱1

出土遺物（1）　縮尺＝約 2/5

図版６

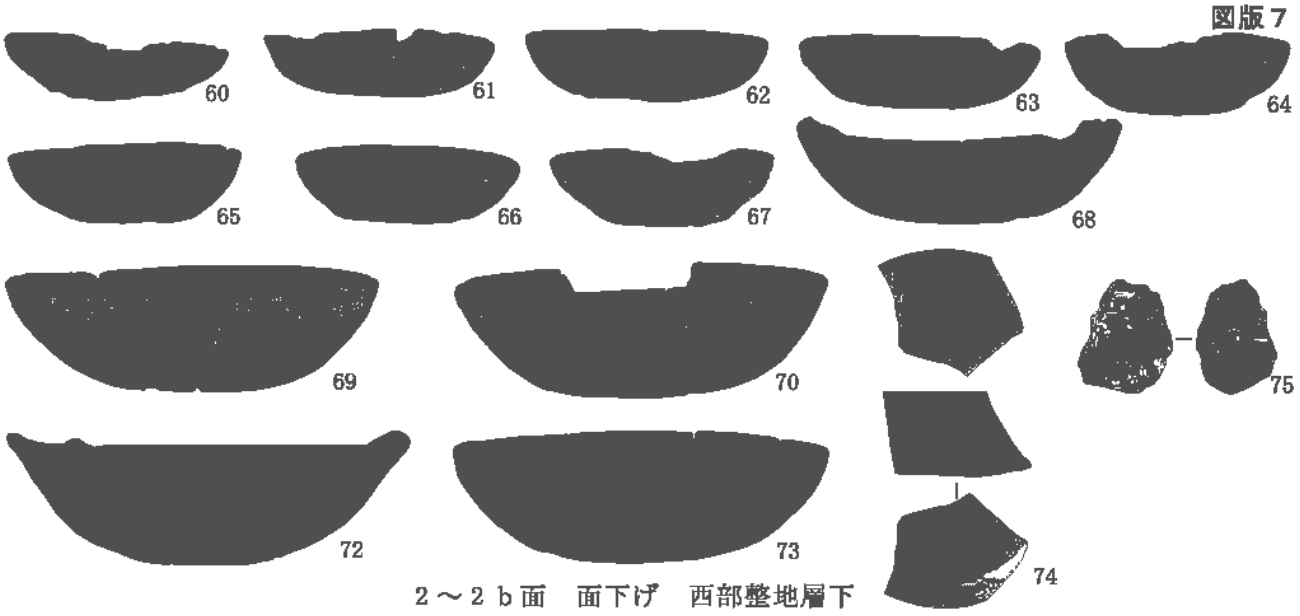


１～２面　面下げ

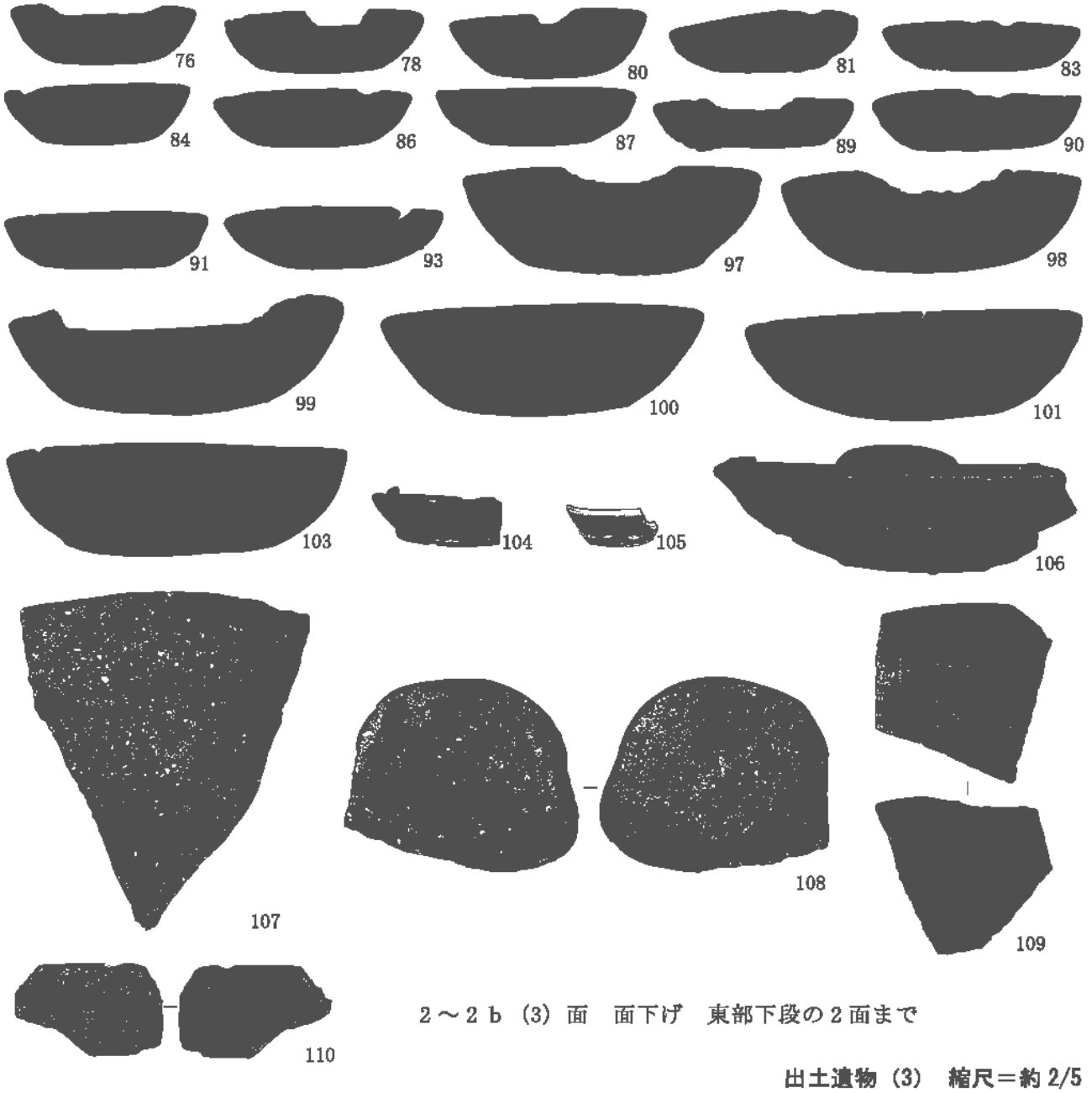


２面　面上

59 出土遺物（2）　縮尺＝約 2/5



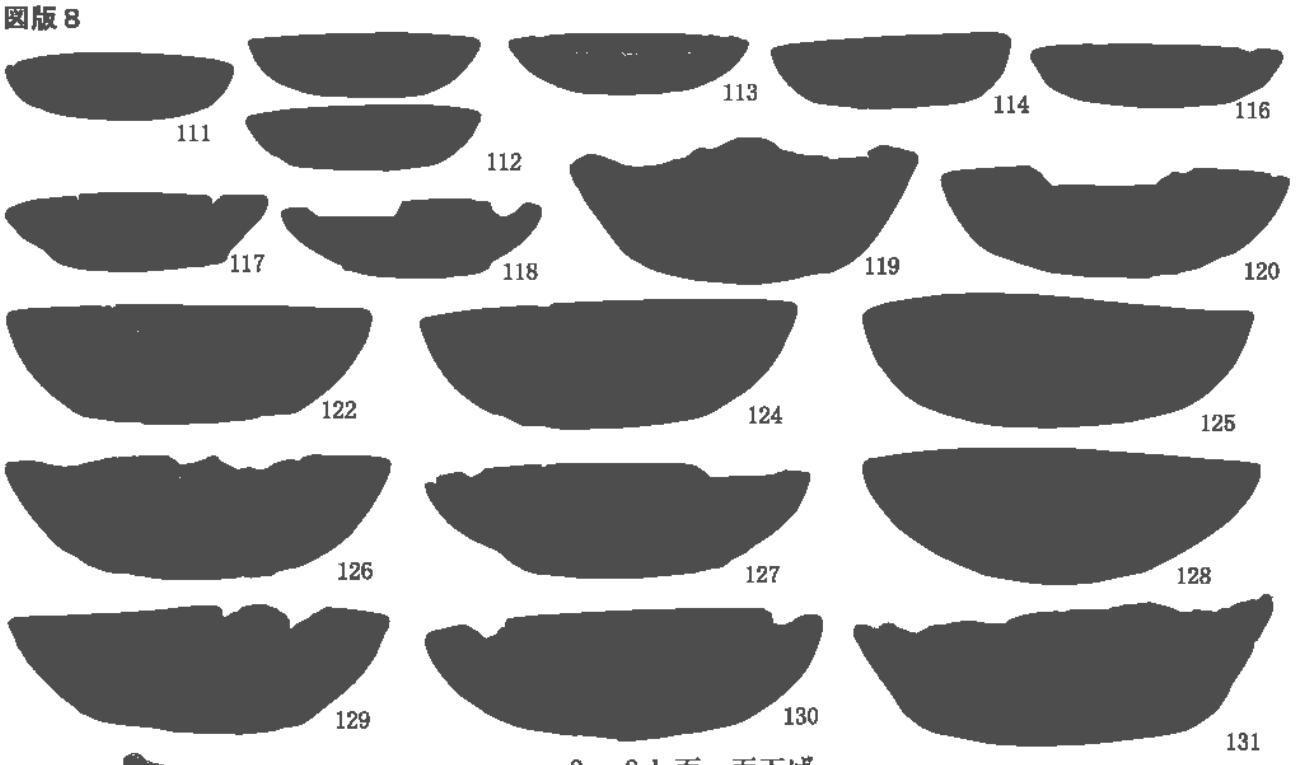
２～２ｂ面　面下げ　西部整地層下



２～２ｂ（３）面　面下げ　東部下段の２面まで

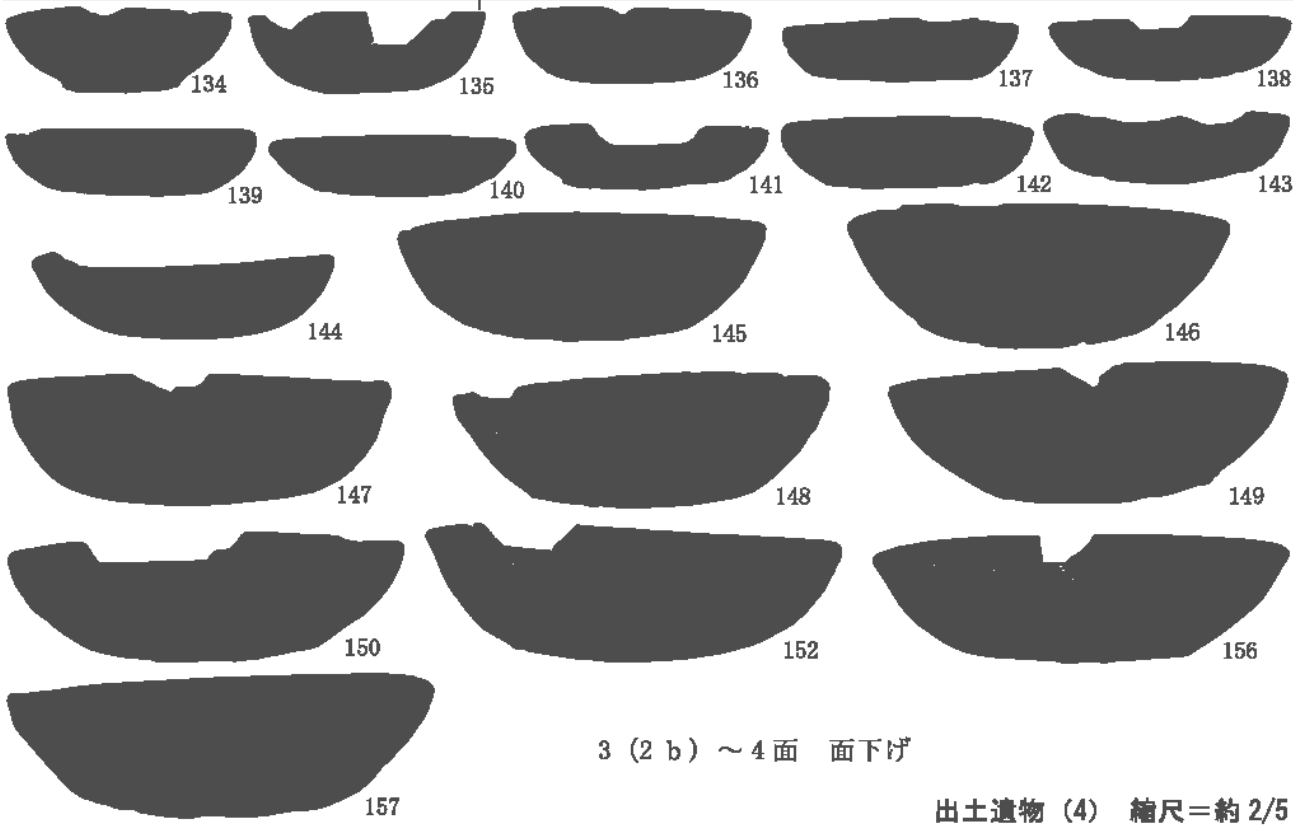
出土遺物（３）　縮尺＝約 2/5

図版８



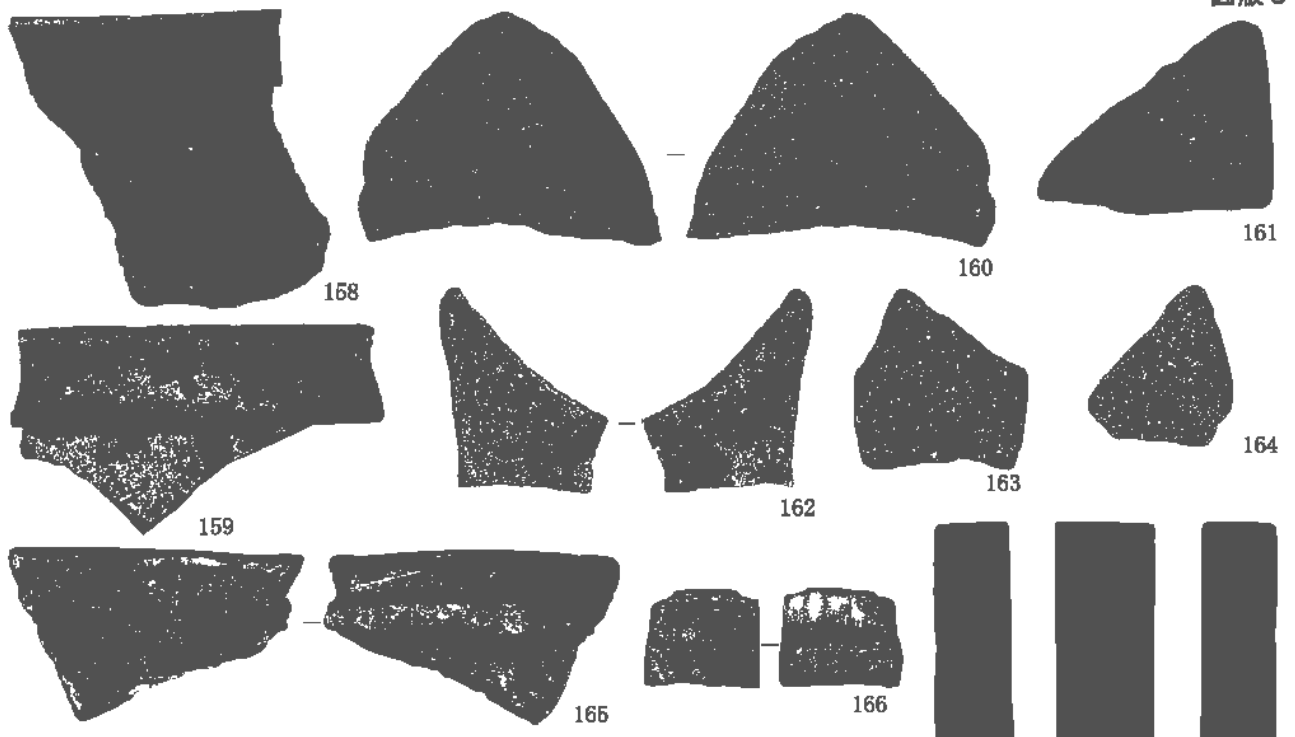
２～２ｂ面　面下げ

２～２ｂ面　ピット２

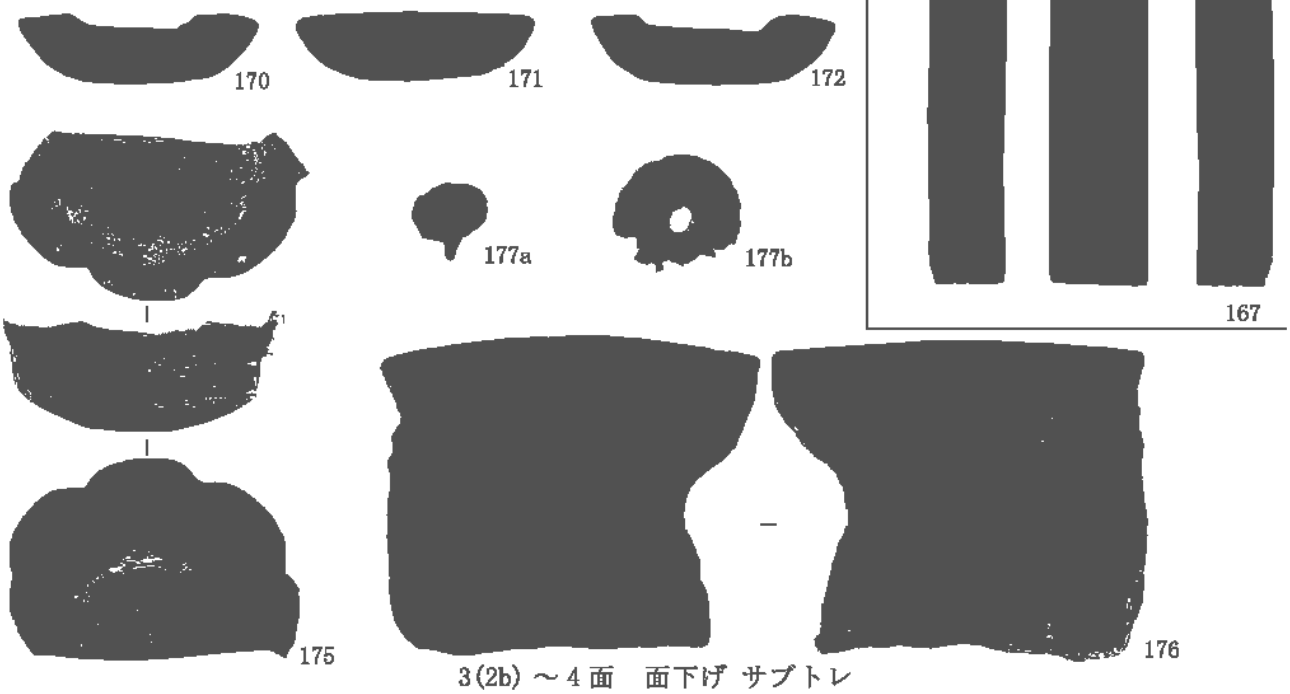


３（２ｂ）～４面　面下げ

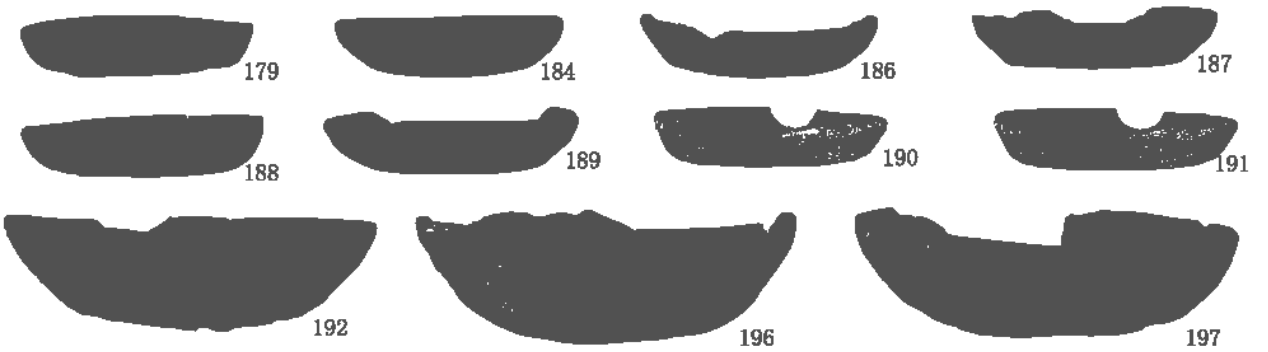
出土遺物（4）　縮尺＝約 2/5



3(2b) ～４面　面下げ

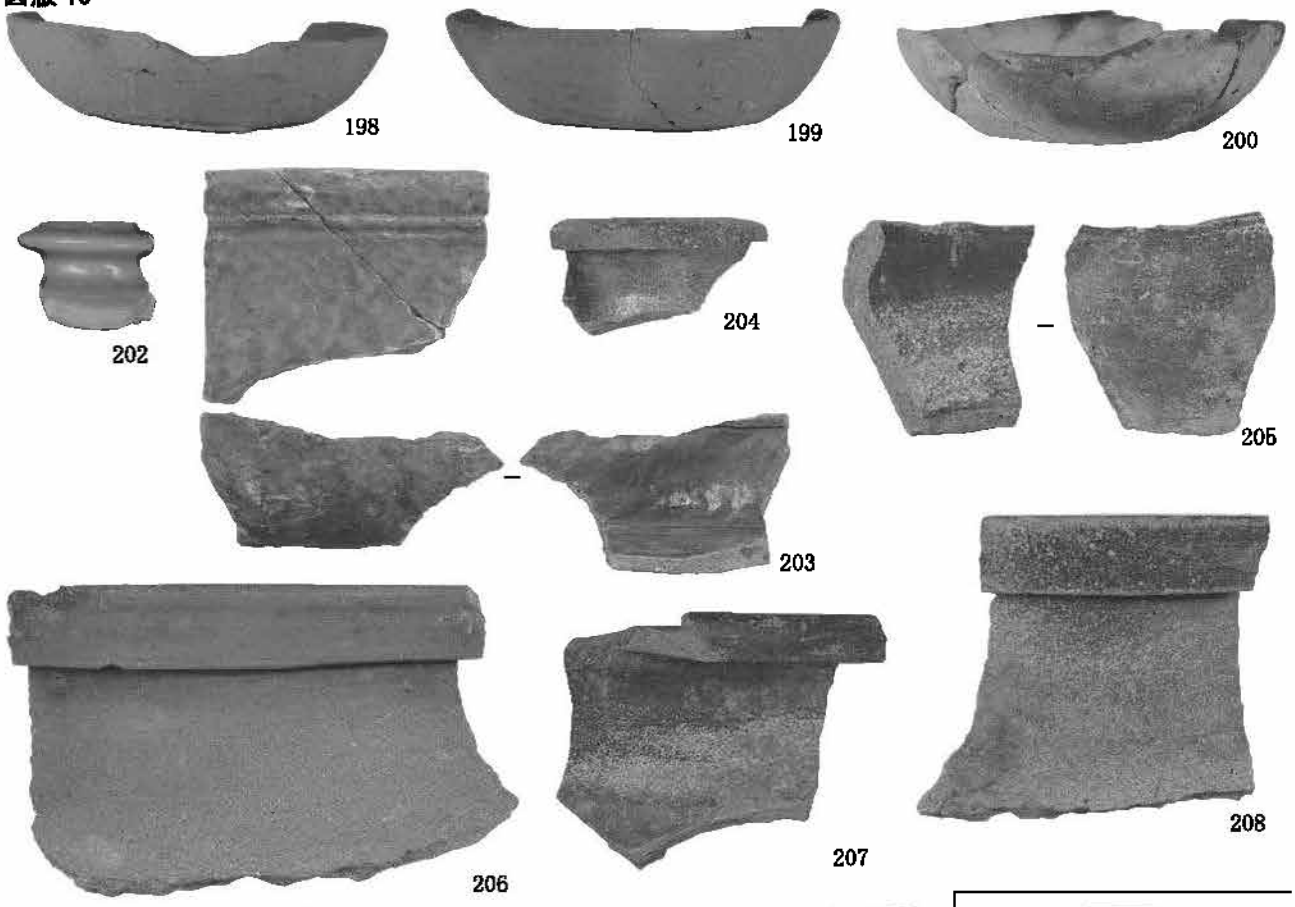


3(2b) ～４面　面下げ サブトレ



出土遺物（5）　縮尺＝約 2/5

図版 10



4～5面　ピット 511

4～5面　面下げ

5面　面上

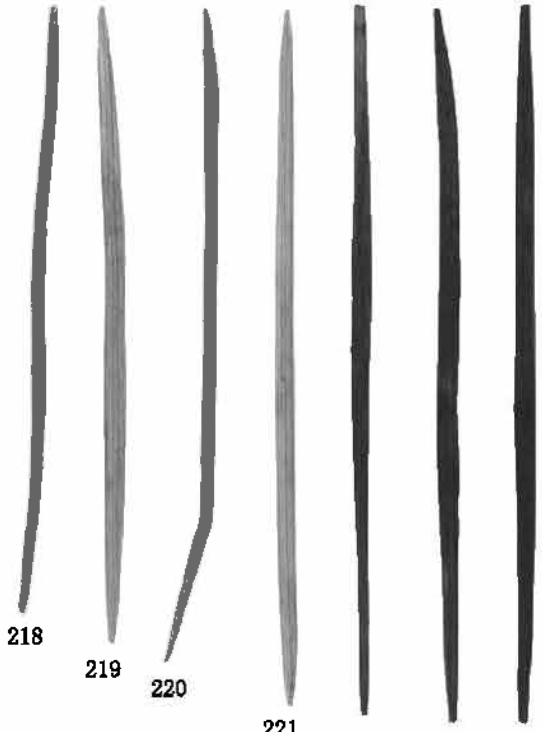
出土遺物（6）　縮尺＝約 2/5

215

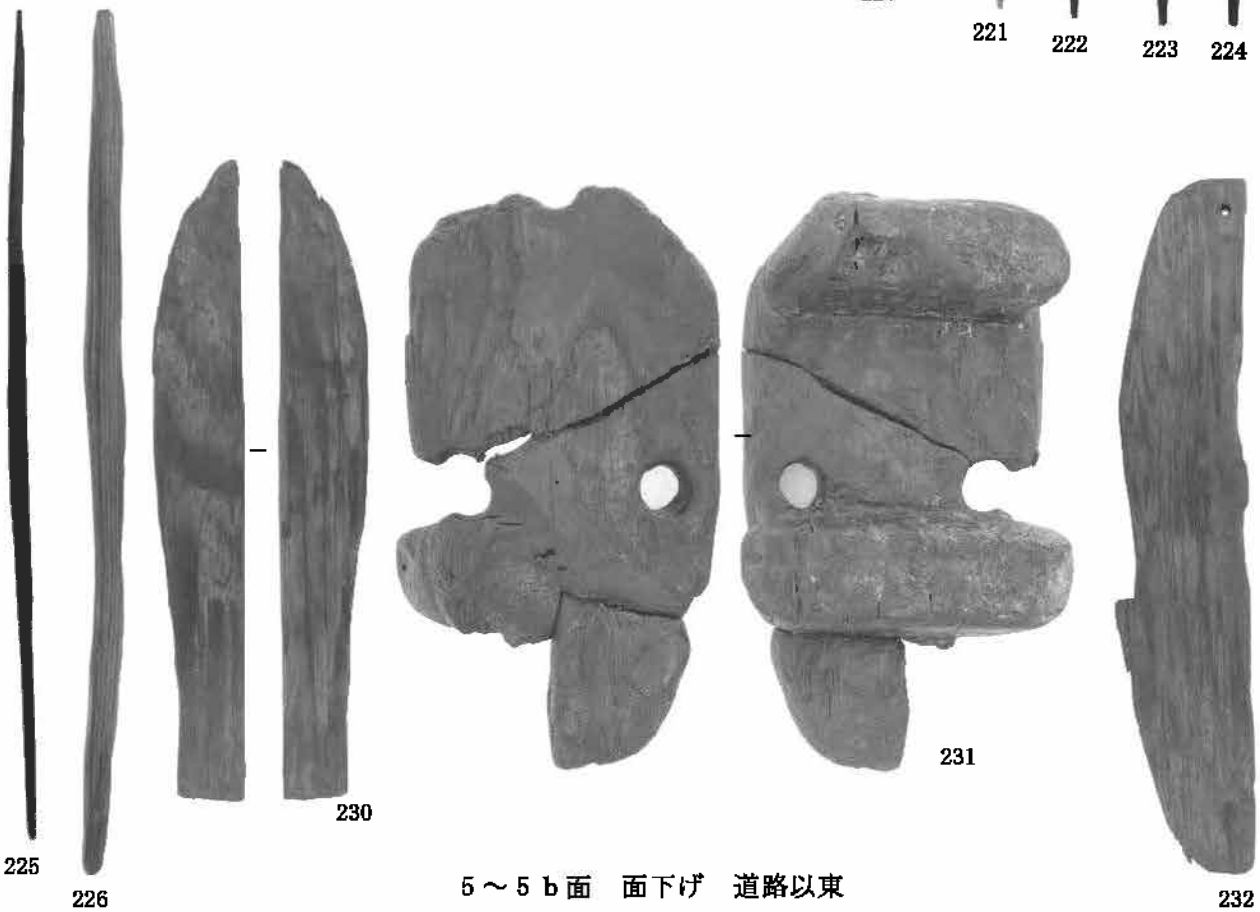
5 面　面上

216

217



218　219　220　221　222　223　224

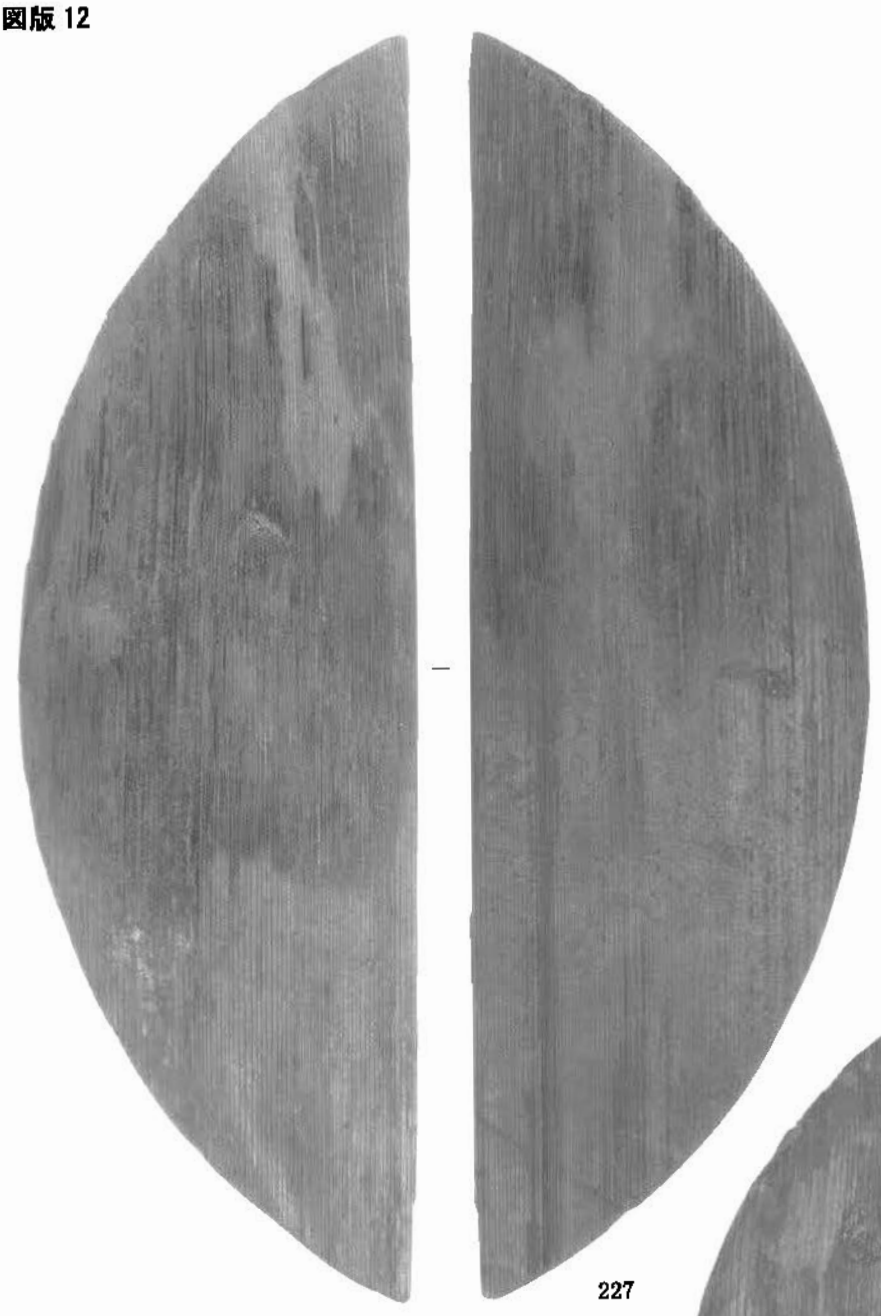


225　226　230　231　232

5 ～ 5 b 面　面下げ　道路以東

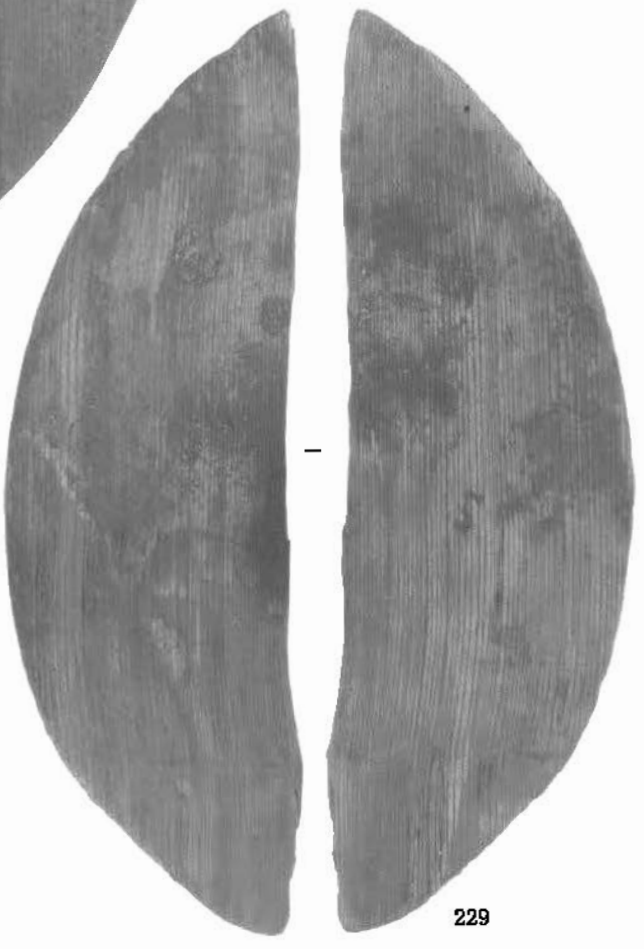
出土遺物（7）　縮尺＝約 2/5

図版 12



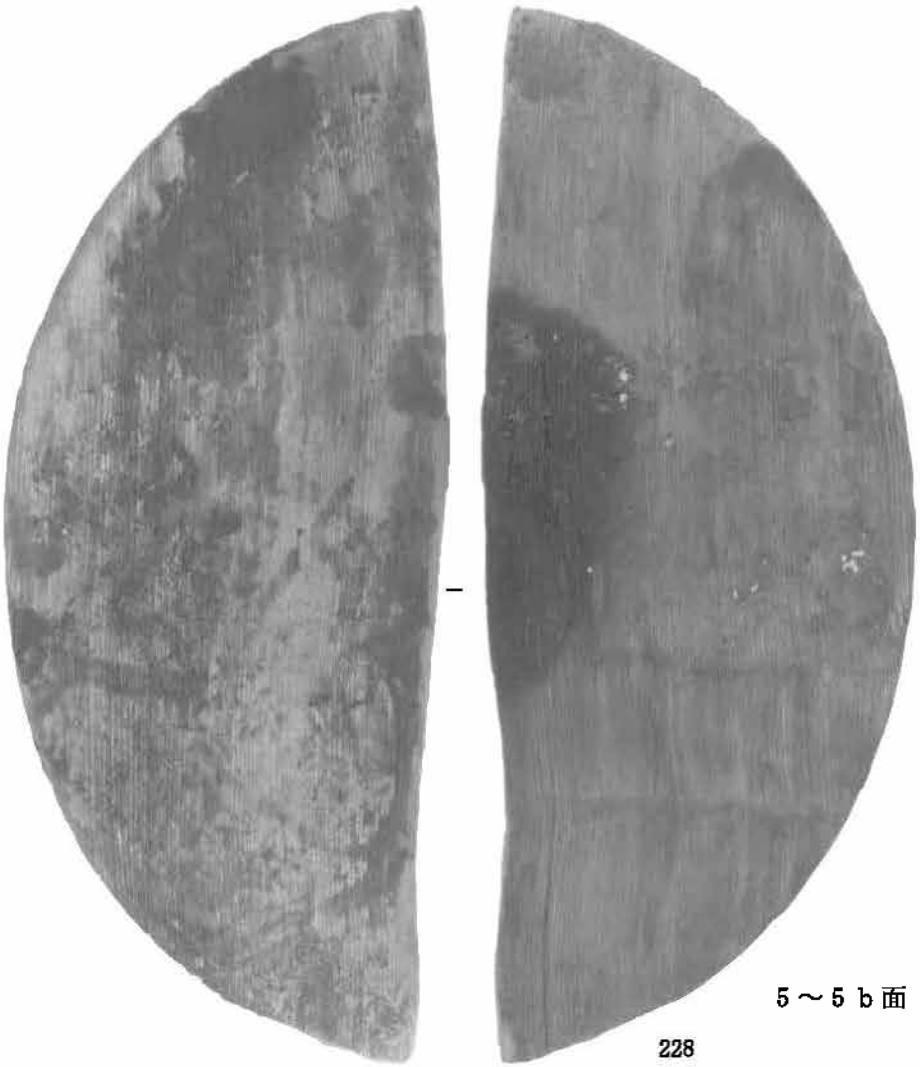
227

5～5ｂ面　面下げ　道路以東



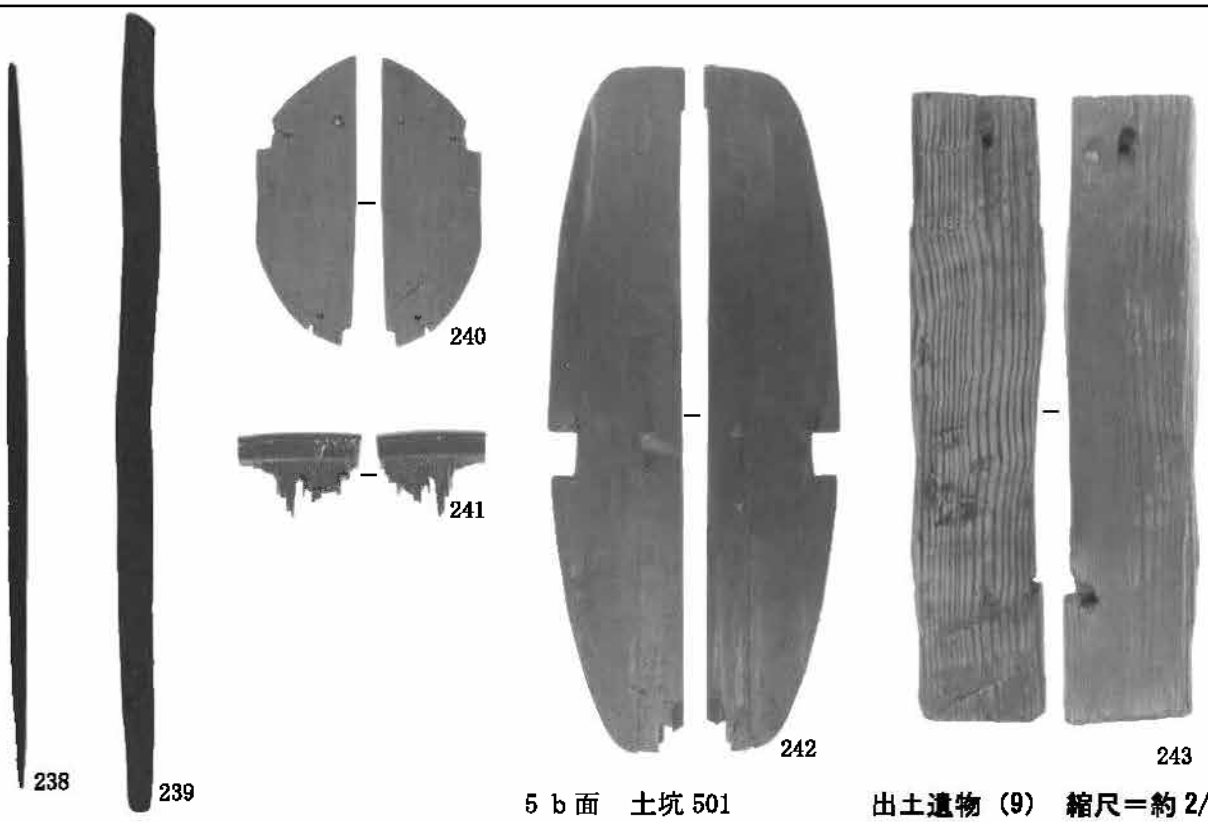
229

出土遺物（8）　縮尺＝約 2/5



228

5～5ｂ面　面下げ　道路以東

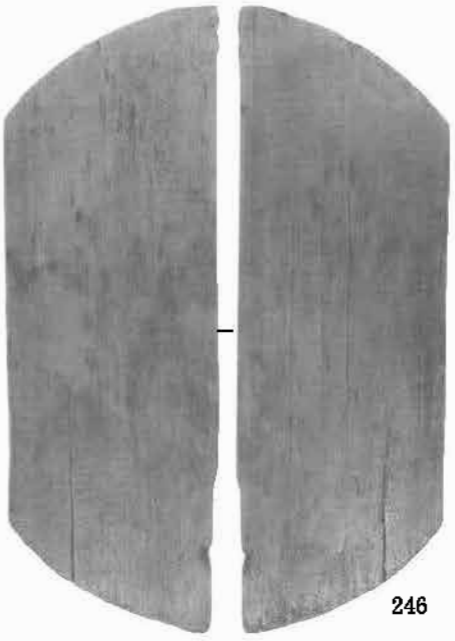


238　239　240　241　242　243

5ｂ面　土坑 501

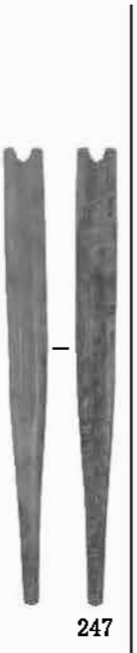
出土遺物（9）　縮尺＝約 2/5

図版 14



246

2 b面　ピット 519

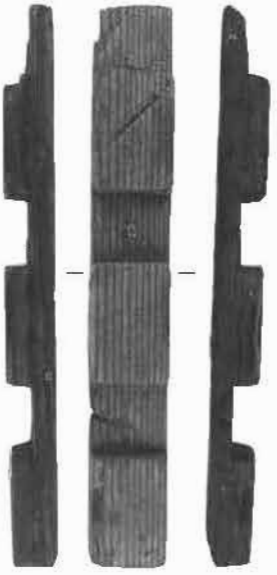


247

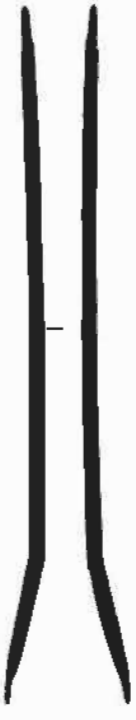
5 b面

250

251

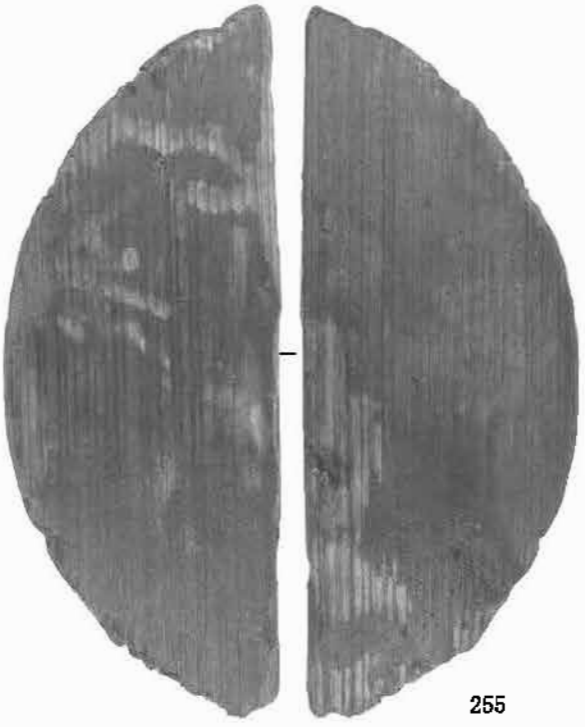


257



253

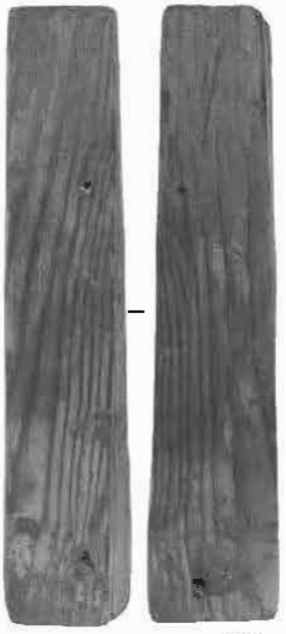
254



255

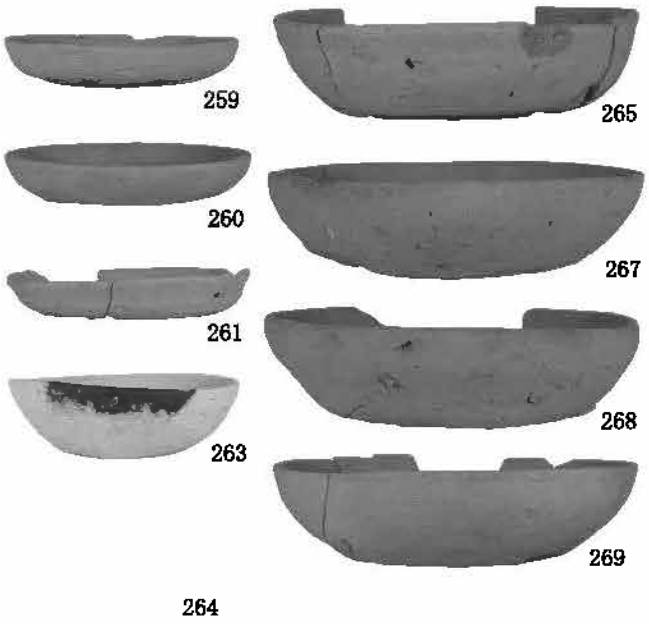
5 ～ 6 面 面下げ　道路以西

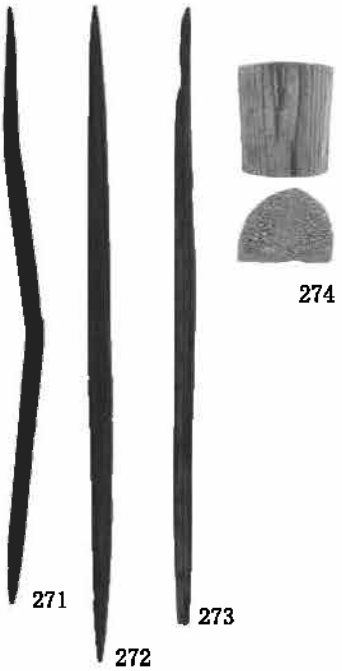
256



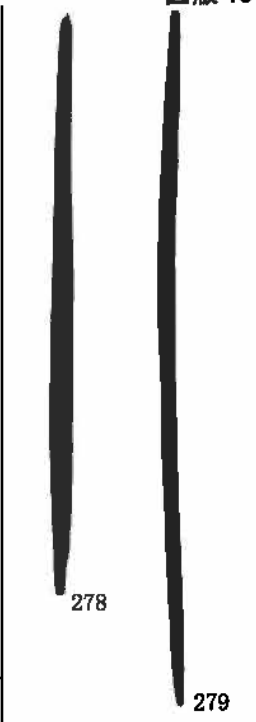
258

出土遺物（10）　縮尺＝約 2/5

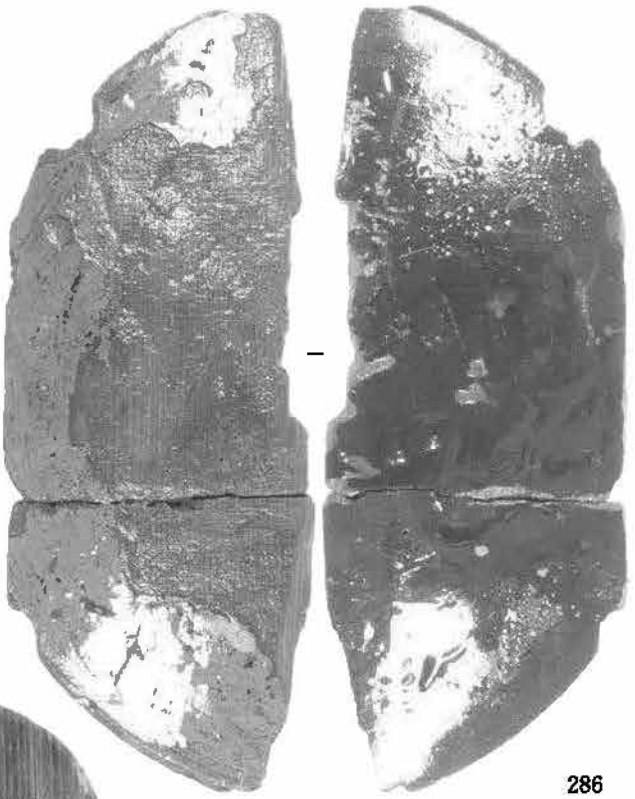




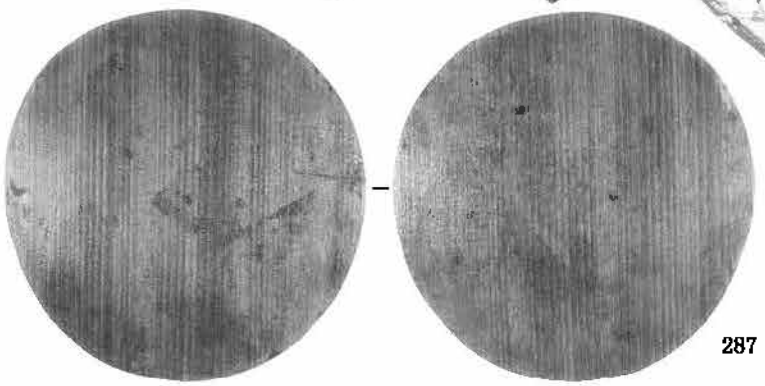
5～6面　面下げ　木組み溝1の東



5～6面　サブトレ

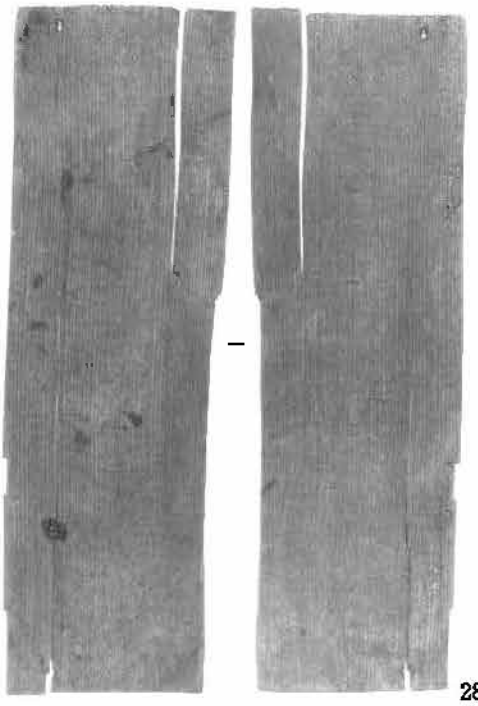


5～6面　板壁状1



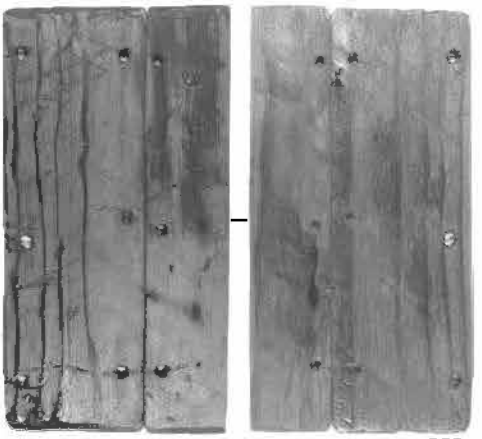
出土遺物（11）　縮尺＝約2/5

図版 16



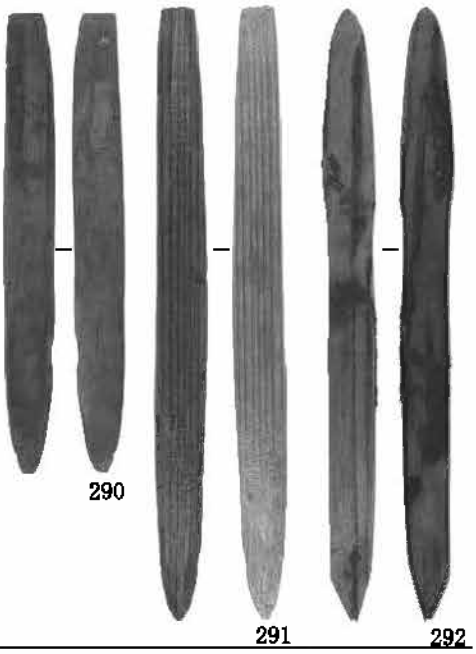
285

288



289

5 ～ 6 面　板壁状 1

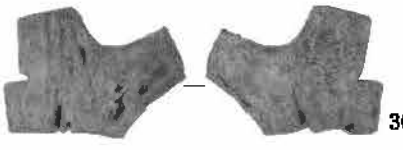


290　291　292

296

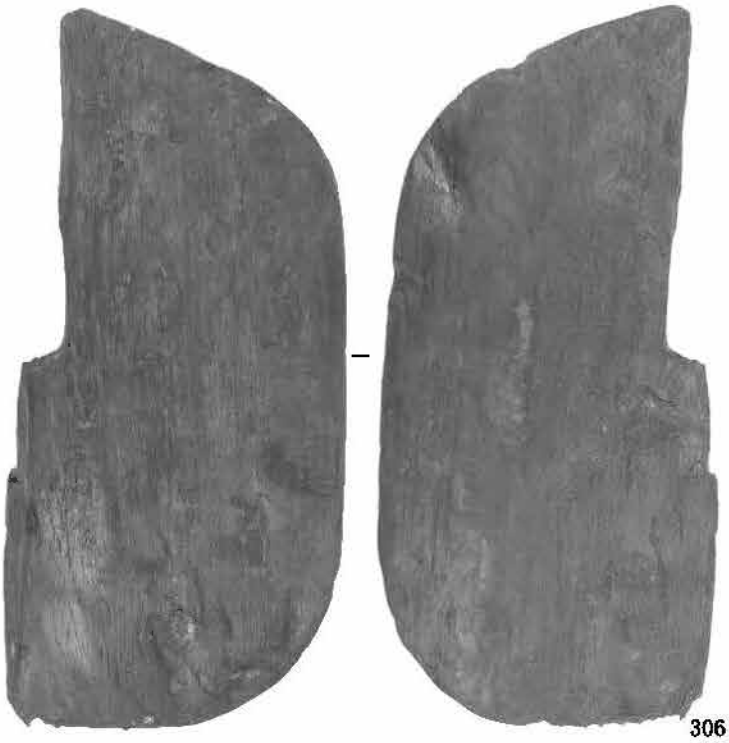
297

299



301

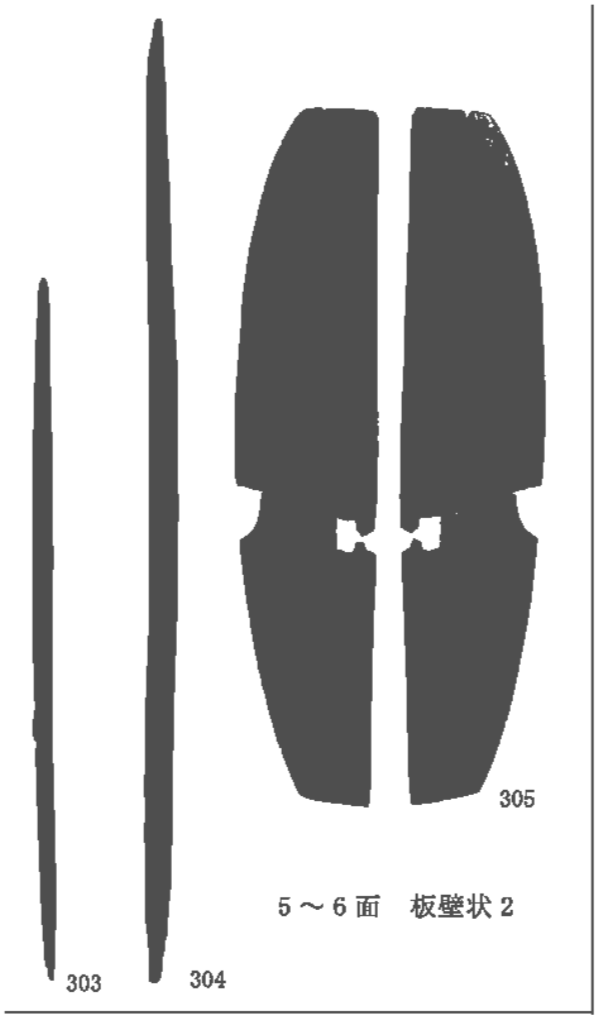
302



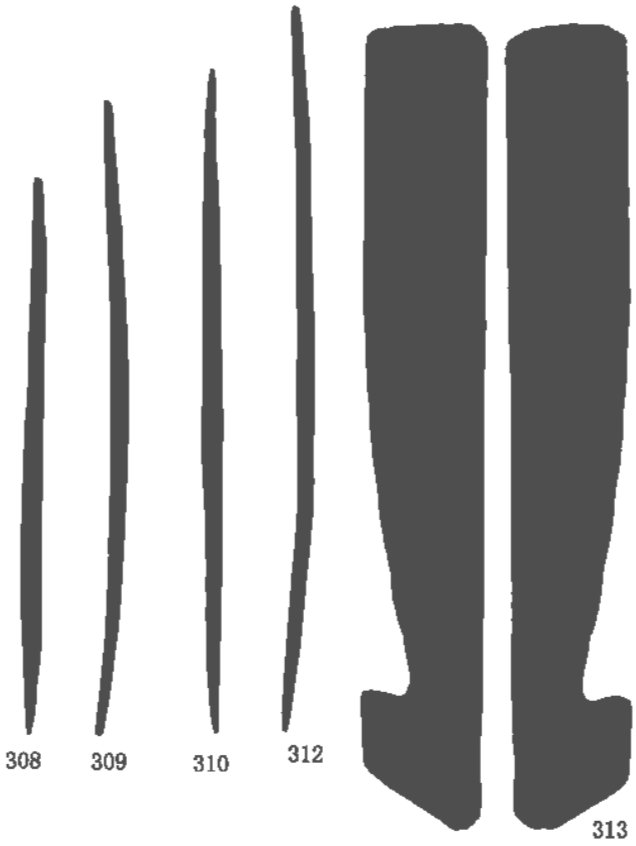
306

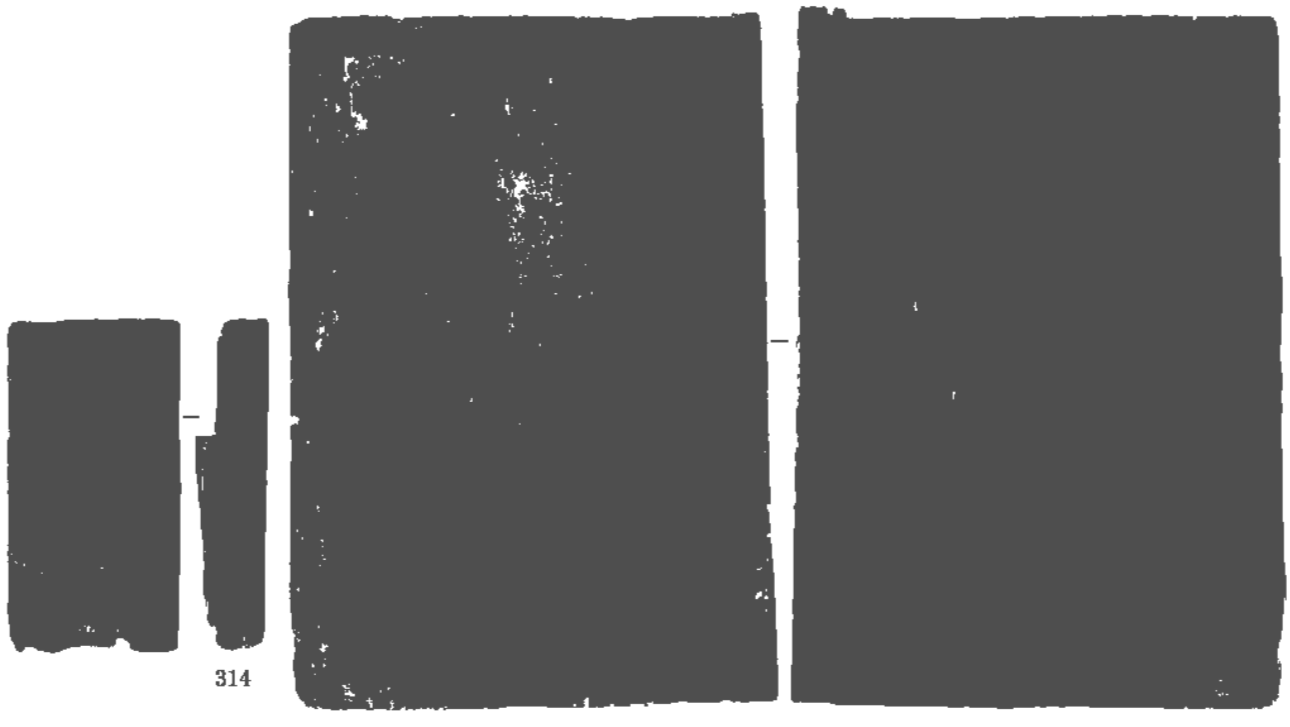
5 ～ 6 面　板壁状 2

出土遺物（12）　縮尺＝約 2/5



5～6面　板壁状 2

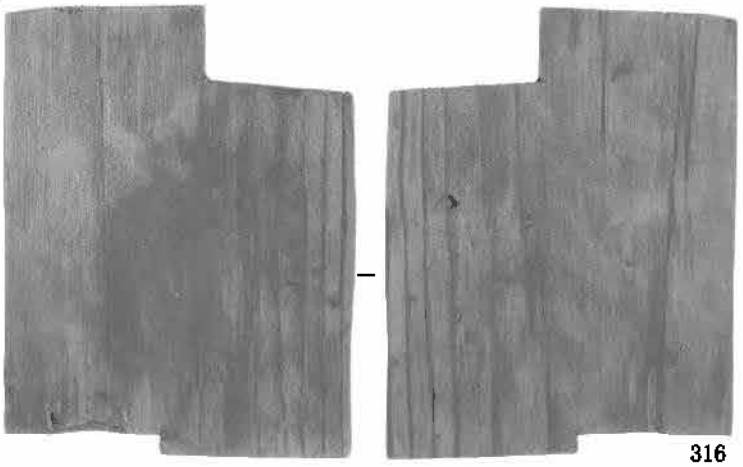




5b～6面　面下げ　全体

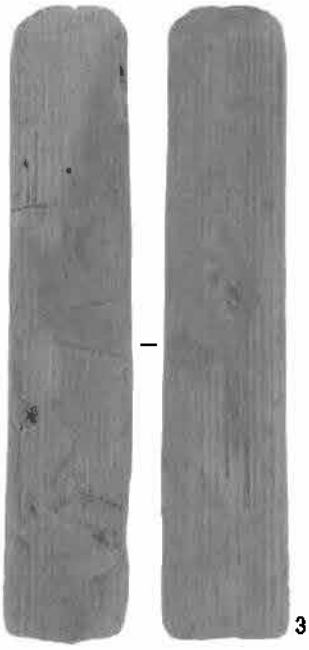
出土遺物（13）　縮尺＝約 2/5

図版 18



316

5～6面　面下げ　全体



317

318

319

322

323

324

326

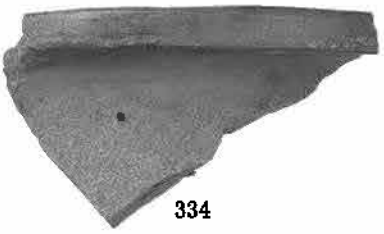
330

328

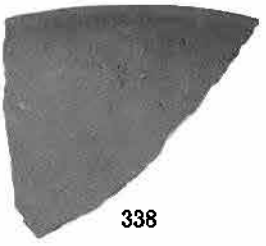
329

332

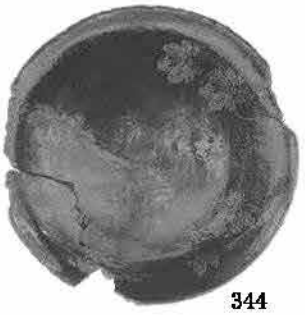
333



334



338



344

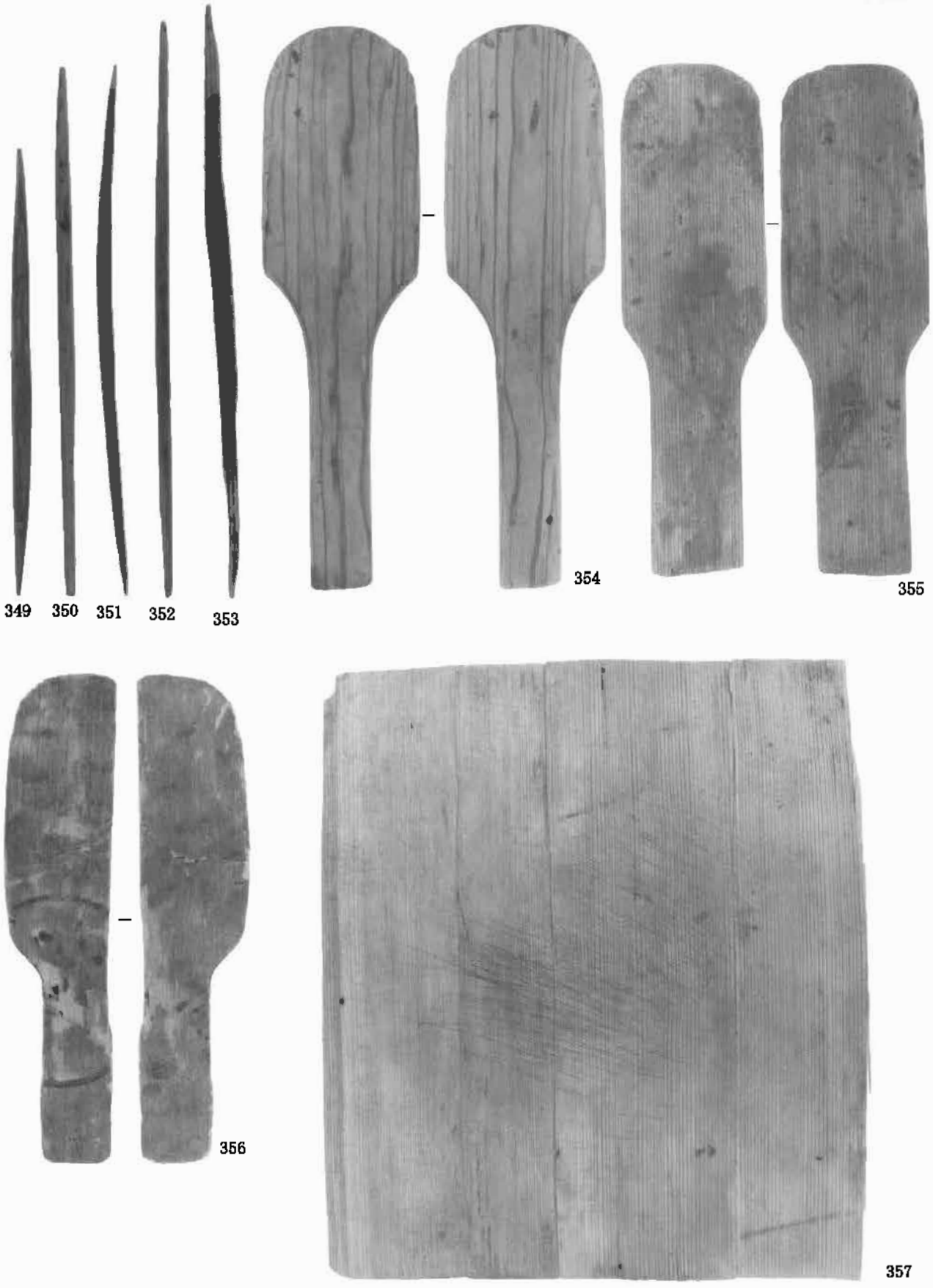
345

343

346

出土遺物（14）　縮尺＝約 2/5

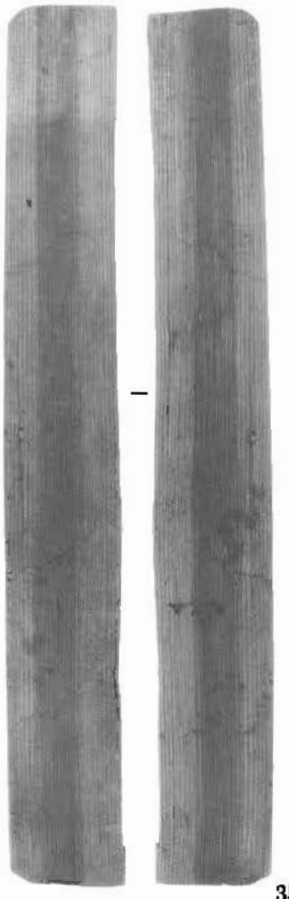
340

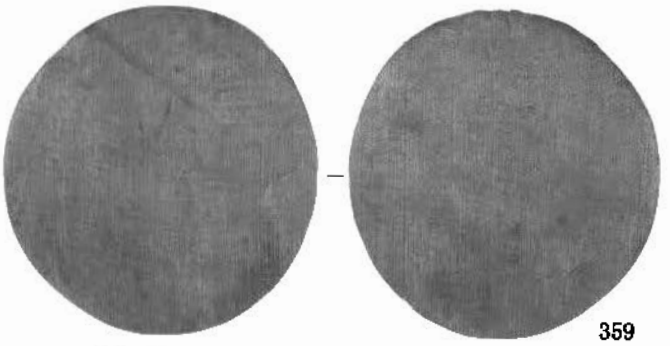


5b ～ 6 面　面下げ　道路以西

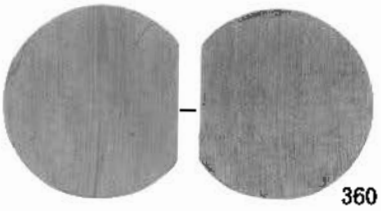
出土遺物（15）　縮尺＝約 2/5

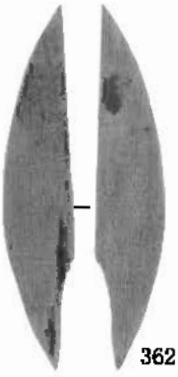
図版 20

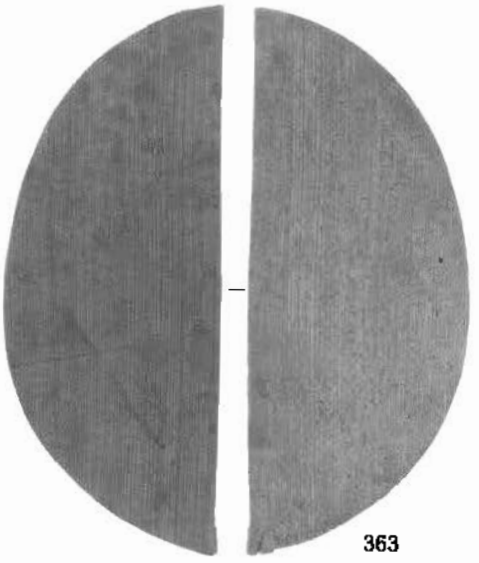

358

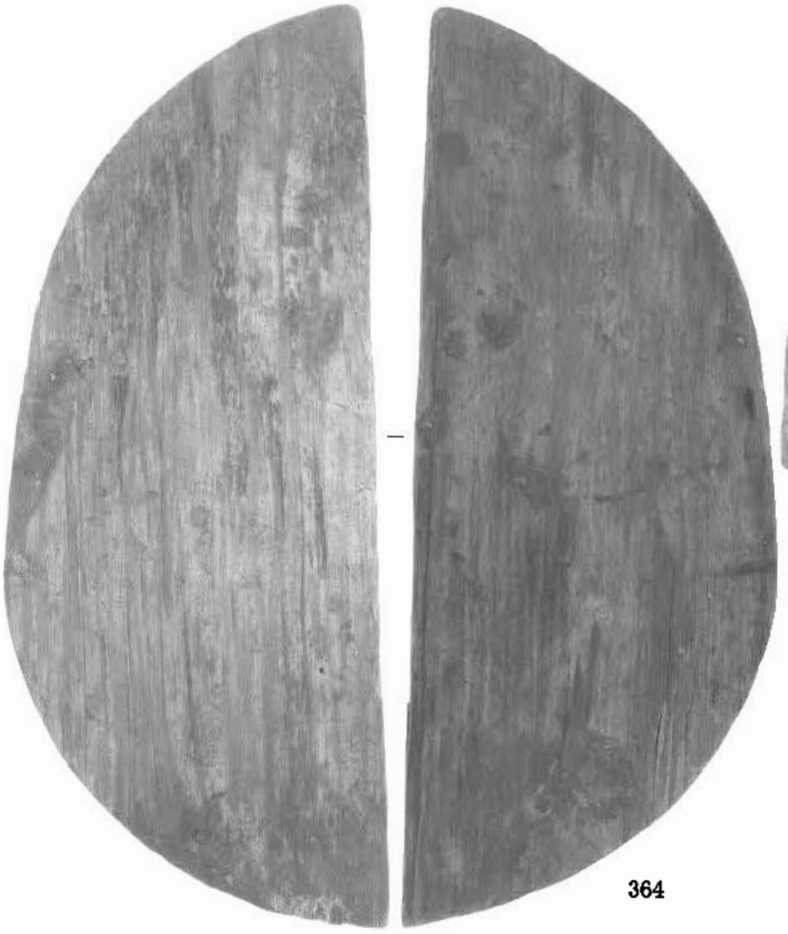

359

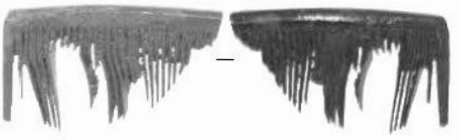
361


360


362


363

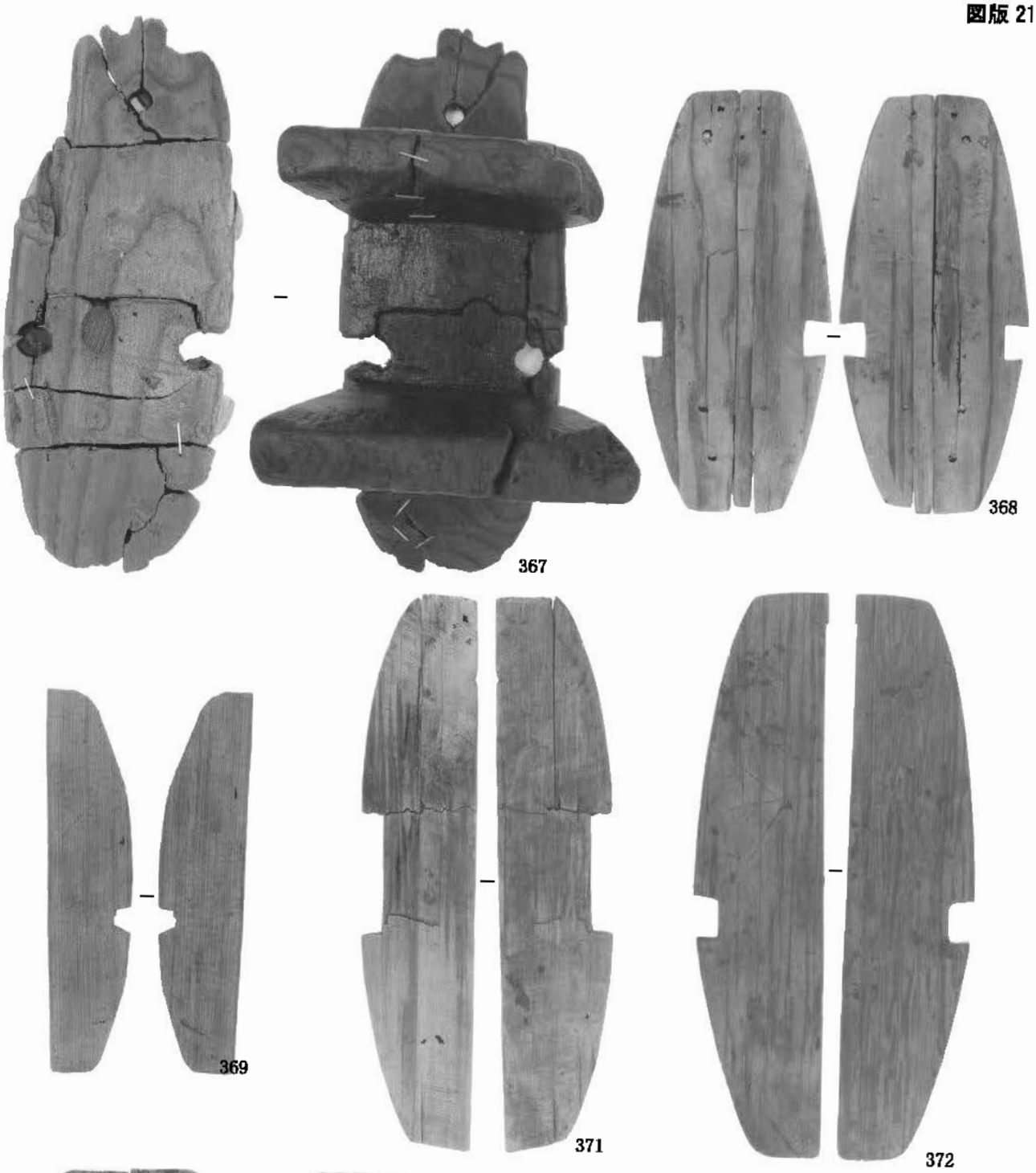

364

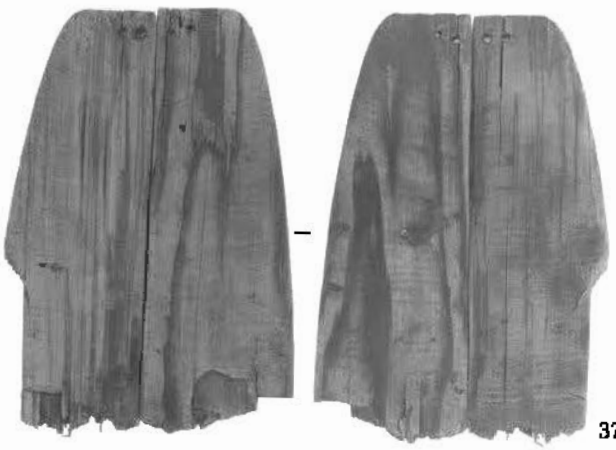

365

366

5b ～ 6 面　面下げ　道路以西

出土遺物（16）　縮尺＝約 2/5





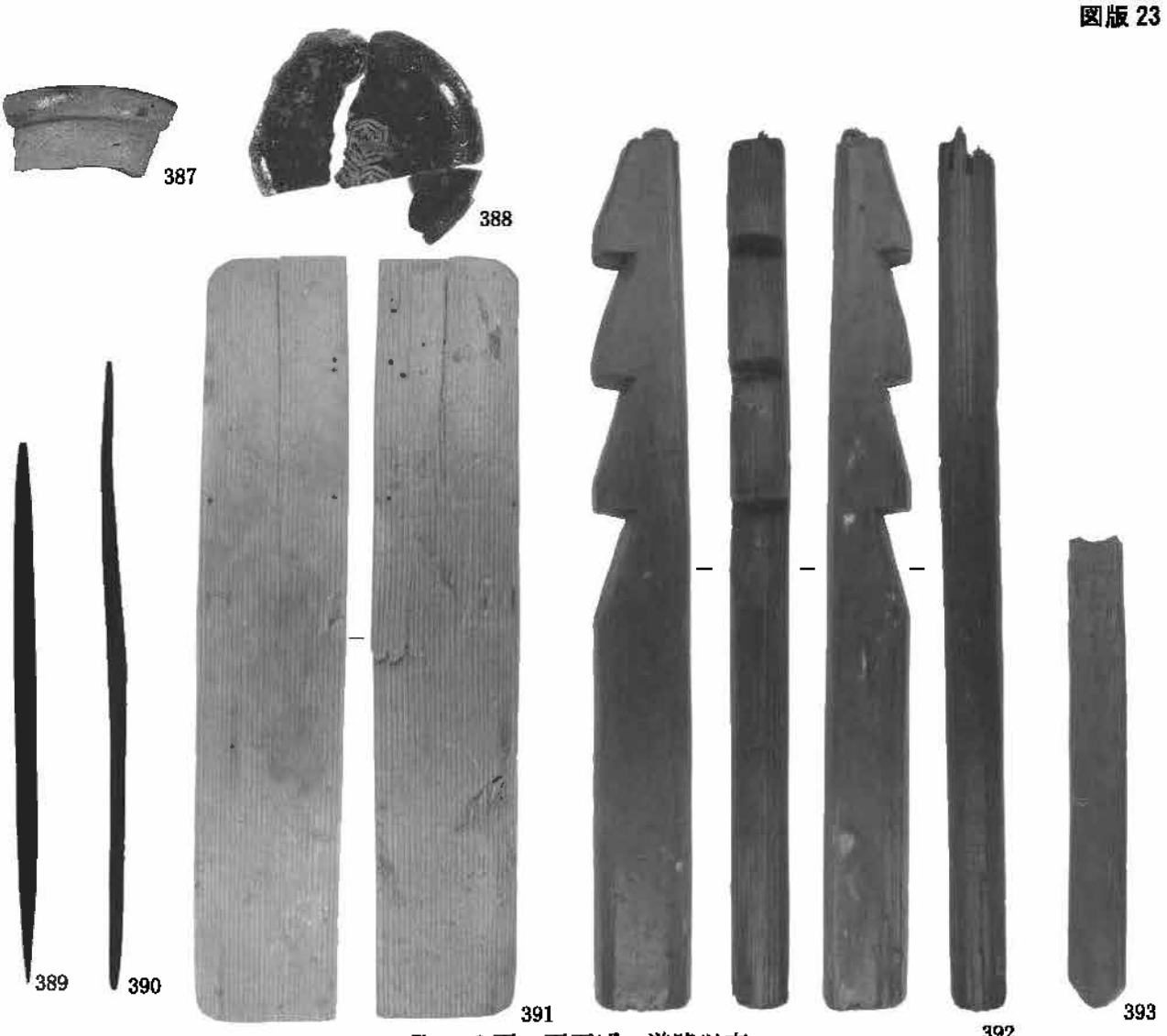
5b ～ 6 面　面下げ　道路以西

出土遺物（17）　縮尺＝約 2/5

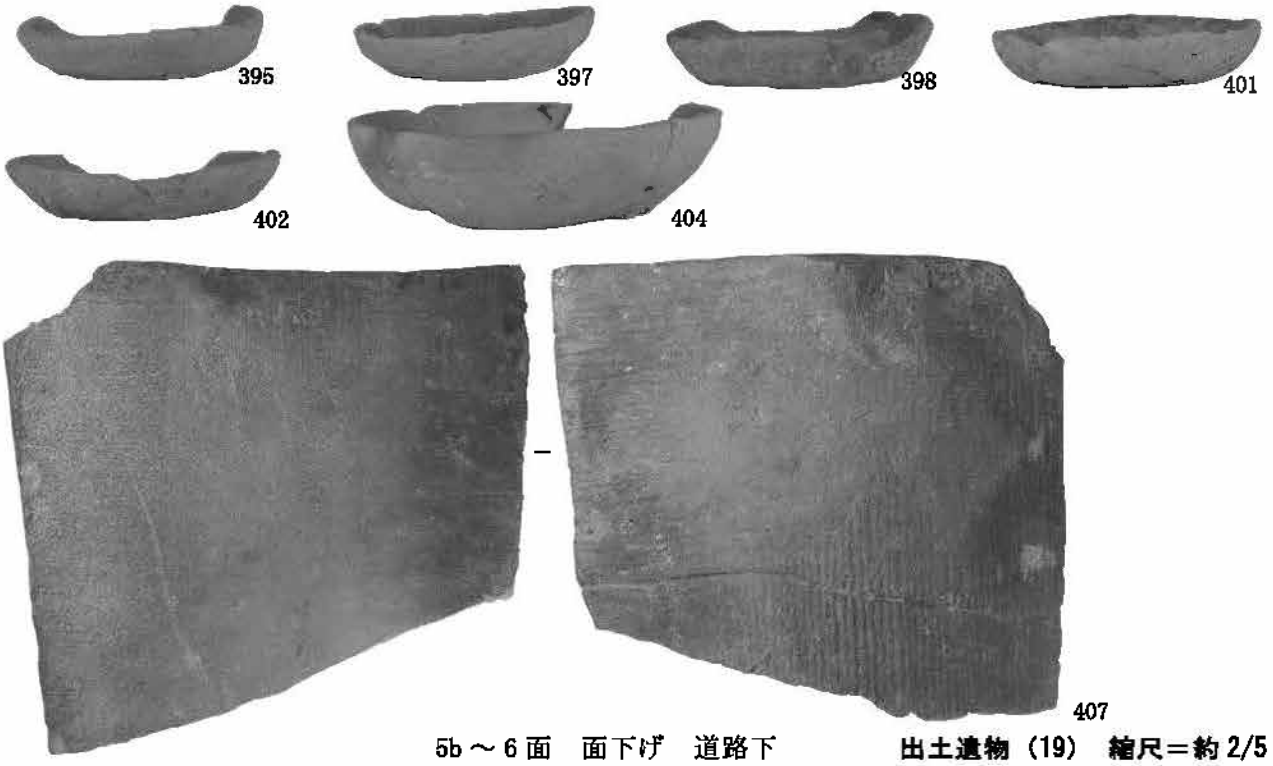
図版 22

5b ～ 6 面　面下げ　道路以西

出土遺物（18）　縮尺＝約 2/5



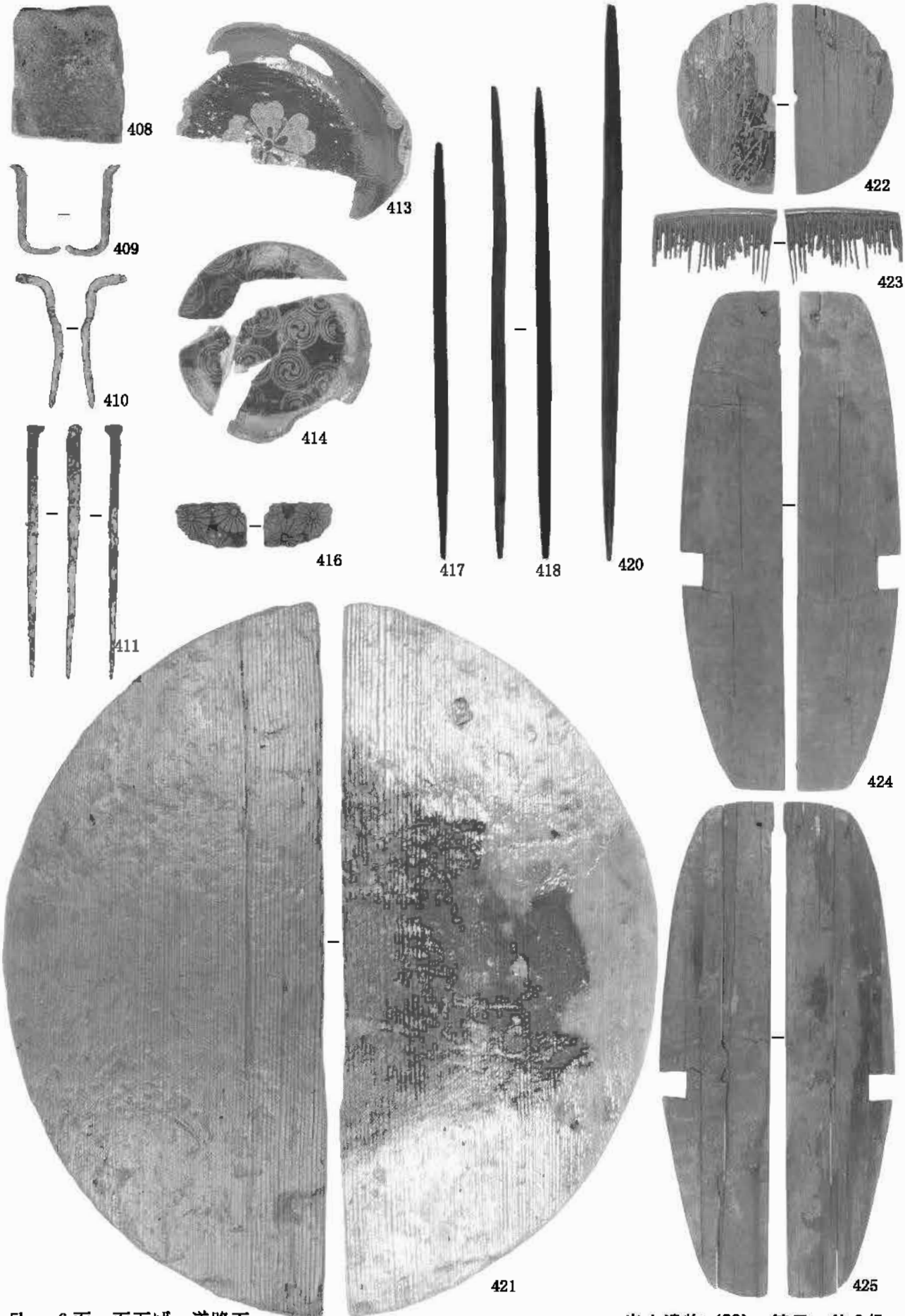
5b ～ 6 面　面下げ　道路以東



5b ～ 6 面　面下げ　道路下

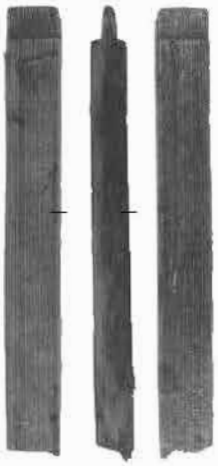
出土遺物（19）　縮尺＝約 2/5

図版 24

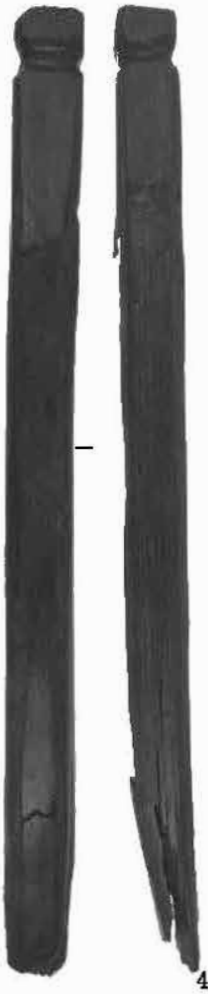


5b ～ 6 面　面下げ　道路下

出土遺物（20）　縮尺＝約 2/5


426

427


429

5b ～ 6 面　面下げ　道路下

430

431

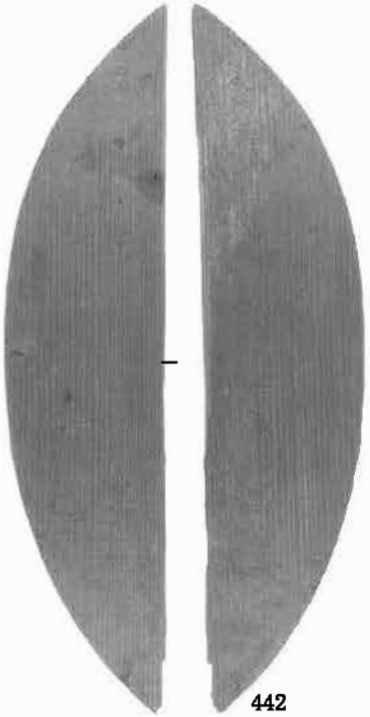
432

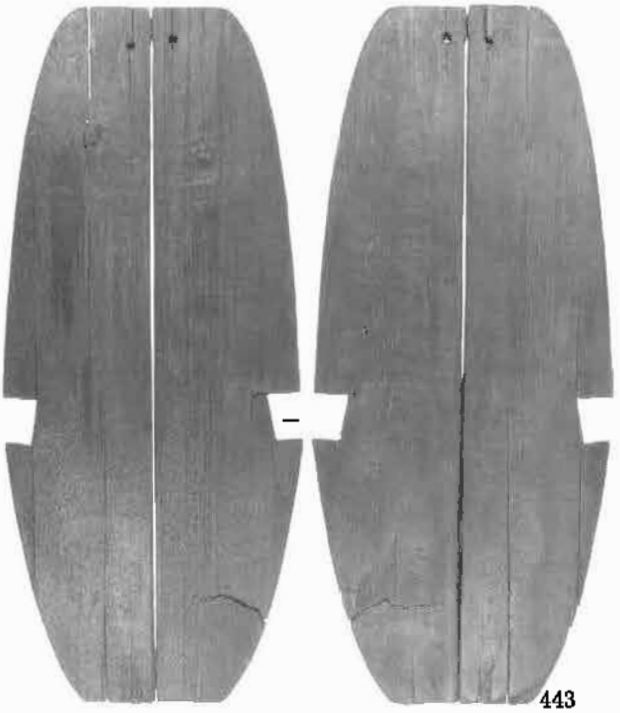
433

434

437

438 439 440 441


442


443

6 ～ 7 面　面下げ　サブトレ

出土遺物（21）　縮尺＝約 2/5

図版 26

444

445

446

447

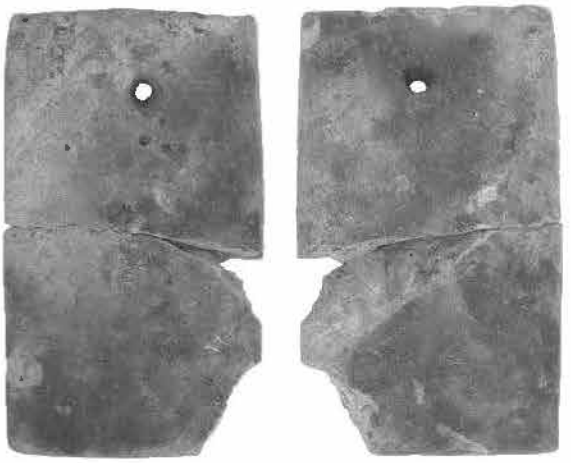
6 面　ピット 611

448

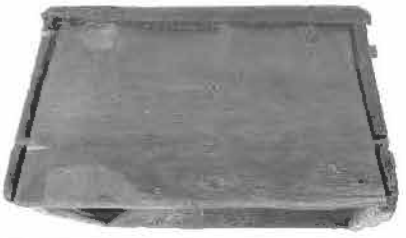
6 面　ピット 612

450

451


449

6 面　ピット 623



6 面　面上

452

453

455

462

463

464

465

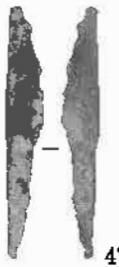
6 ～ 7 面　面下げ

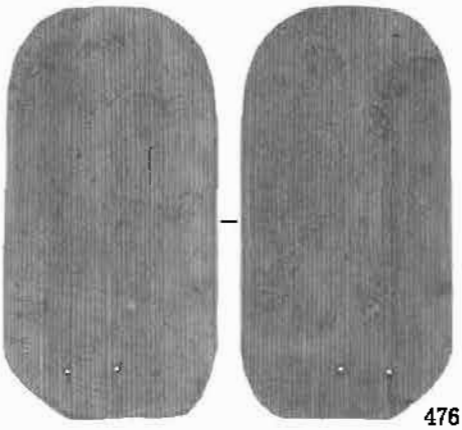
出土遺物（22）　縮尺＝約 2/5

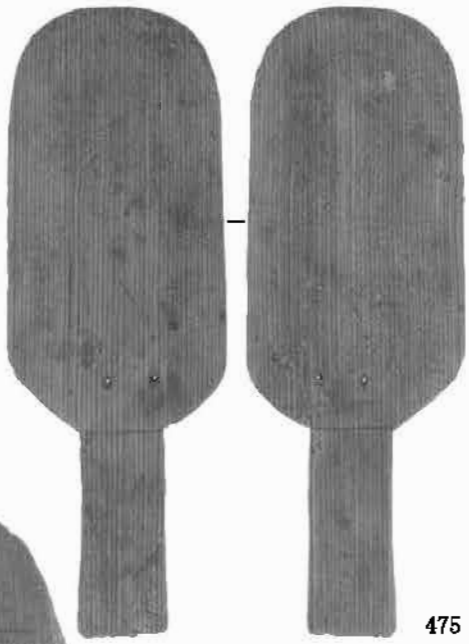
467

468

469


470

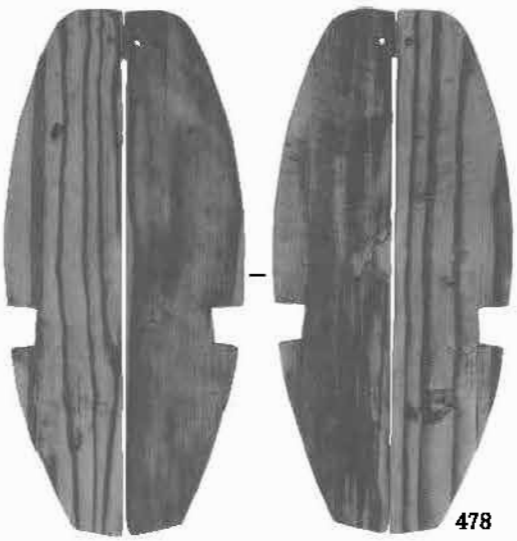

476


475

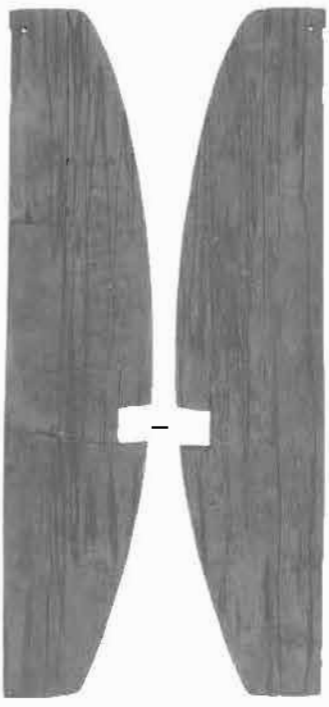
477

473

474

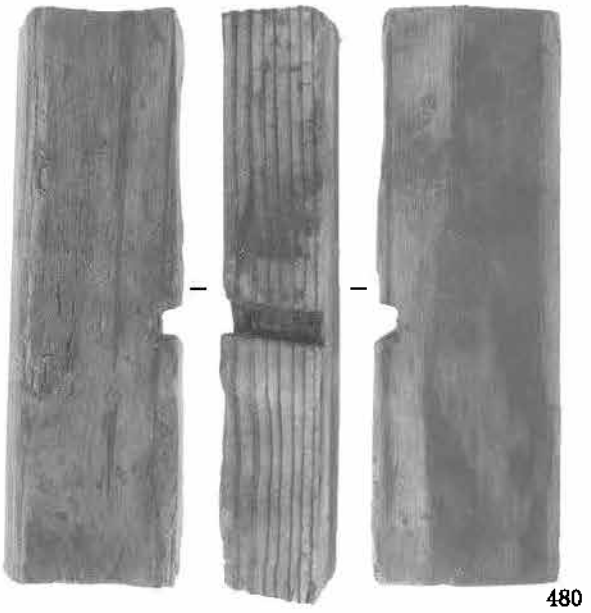

478

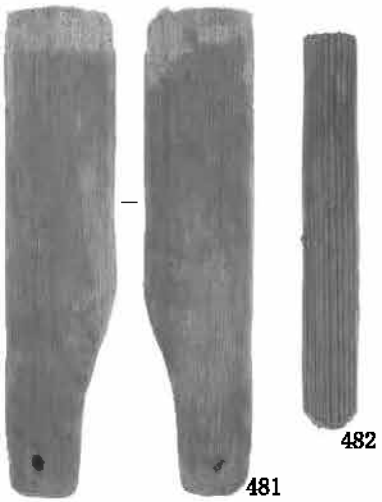
6～7面　面下げ


479

出土遺物（23）　縮尺＝約 2/5

図版 28


480


481

482

483

6～7面　面下げ

485

7面　ピット 705

487

486

7面　ピット 706

488

7面　面上

490

491

7～8面　面下げ

495

496

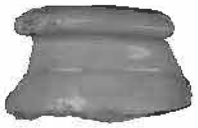
497

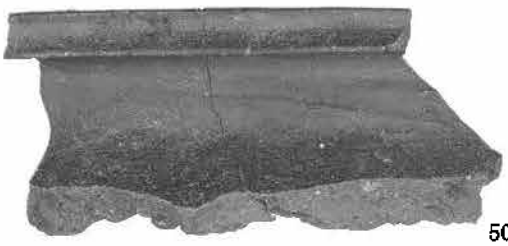
500

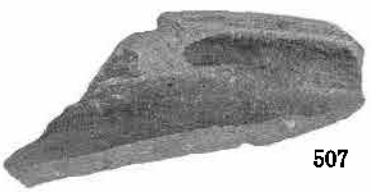
501

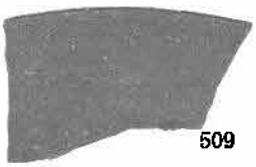
502

504


505

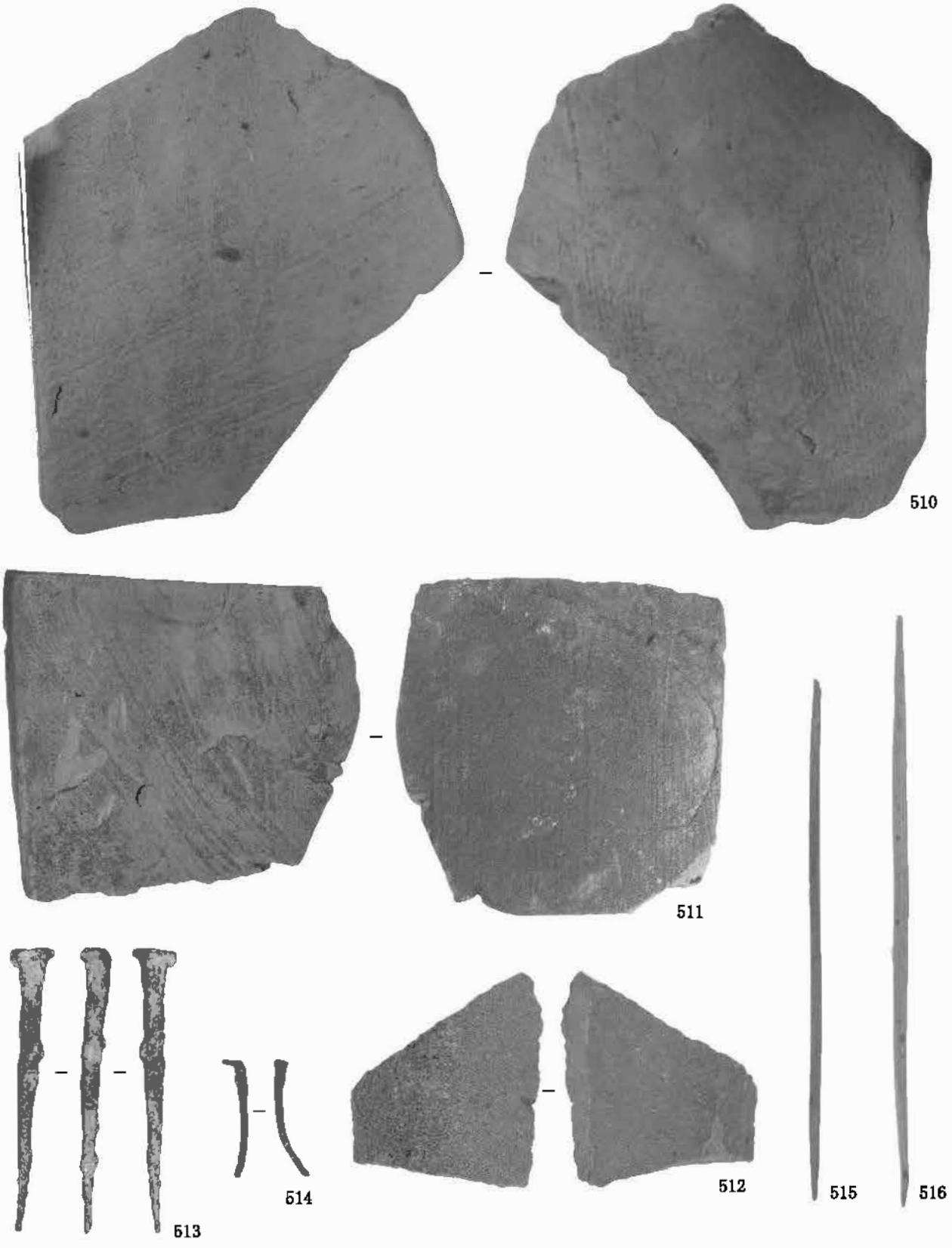

506


507


509

6(8) 面　南北大溝

出土遺物（24）　縮尺＝約 2/5

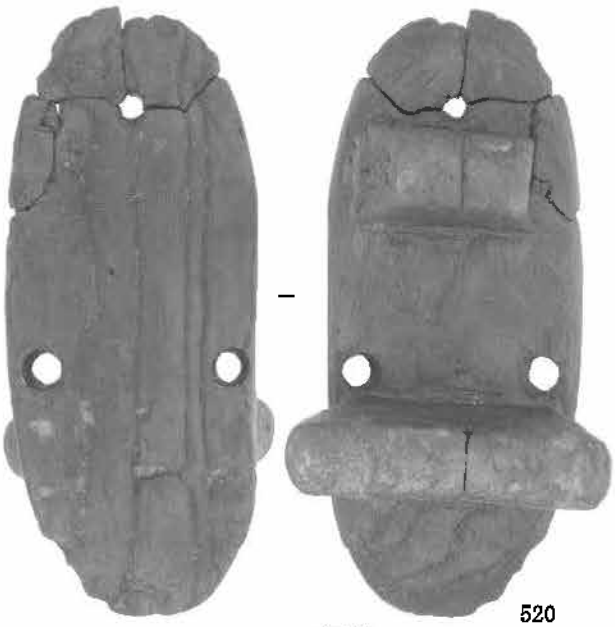


6(8) 面　南北大溝

出土遺物（25）　縮尺＝約 2/5

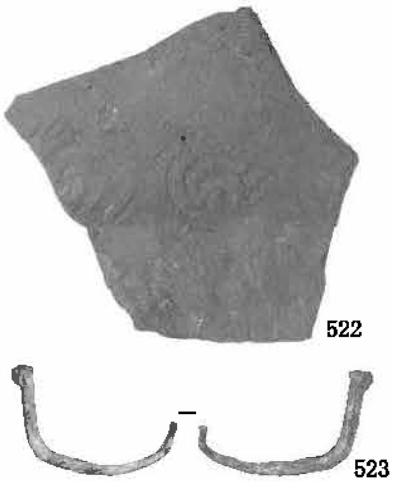
図版 30

6(8) 面　南北大溝



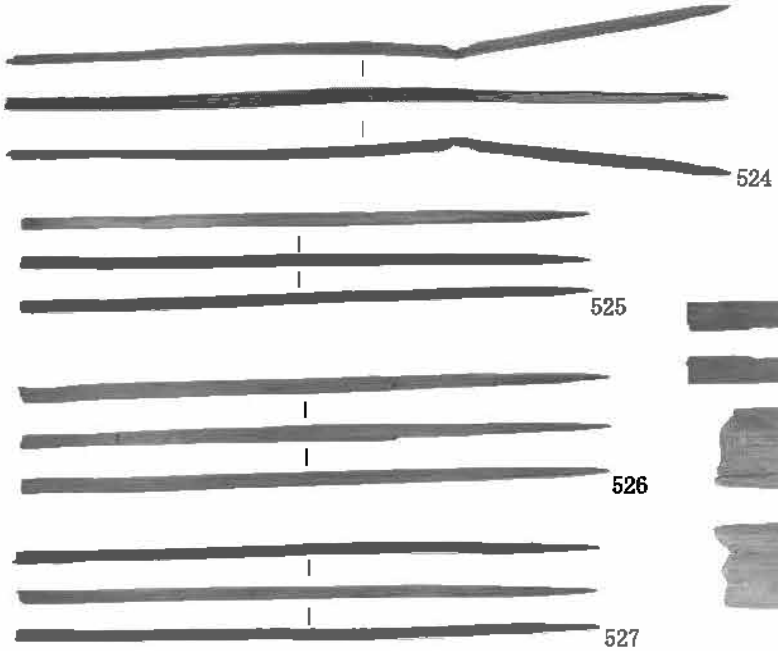
8 面　個別

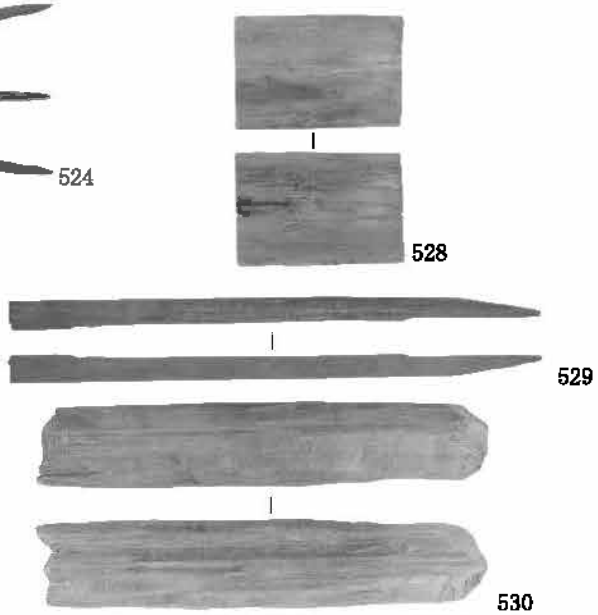
セクション 3 段目北壁



セクション掃除中

出土遺物（26）　縮尺＝約 2/5





出土遺物（27）　縮尺＝約 1/10

山ノ内上杉邸跡(No.170)

鎌倉市山ノ内字西管領屋敷 344 番 5

例　言

１．本報は鎌倉市山ノ内字西管領屋敷 344 番 5 地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。

２．発掘調査は個人住宅建築にかかる建築範囲約 65 ㎡を対象とし、平成 29 年 10 月 30 日から平成 30 年２月７日にかけて実施した。

３．現地における調査体制は以下の通りである。

調査担当者：後藤　健

調　査　員：岡田慶子・松吉里永子・渡辺美佐子・伊丹まどか・菊川　泉

作　業　員：遠藤雅廣・鯉沼　稔・小松原一郎・寺尾征夫・星　栄人・松澤和通・吉澤　功

４．本報告作成は以下の分担により行った。

遺物実測：鍋島昌代・岡本夏菜・岩崎卓也・須佐直子・吉田桂子

遺物図版作成：後藤　健・岡田慶子・岡本夏菜・清水由香里・吉田桂子

遺構図版作成：後藤　健

観　察　表：岡本夏菜・清水由香里・田畑衣理

遺構写真：後藤　健

遺物写真：須佐仁和

写真図版作成：後藤　健・岡田慶子・岡本夏菜・清水由香里

執　　筆：後藤　健

５．発掘に関わる出土品などの資料は鎌倉市教育委員会が管理・保管している。

６．本報告の遺物図版の縮尺は以下の通りである。

遺物実測図 1/3（一部 1/4）　銭 1/1　各挿図にはスケールを表示してある。

７．遺物は可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。遺物に関する詳細は観察表にまとめて記載。

・復原実測の遺物に関しては、計測値に () を付して表記している。

・木製品のうち器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。

・文章中の「かわらけ」はロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。

・ロクロ成形かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で、手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所で計測している。

・陶磁器に関しては、常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏、磁器は山本信夫氏の編年に基づいて分類した。破片のため不明なものについては割愛した。

８．発掘調査及び報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。（敬称略・五十音順）

伊丹まどか、押木弘巳、汐見一夫

目次

第一章　調査地点の位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・311
　第１節　歴史的環境　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・311
　第２節　調査の方法と経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・313
　第３節　堆積土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・316

第二章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
　第１節　第1面の遺構遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
　第２節　第２面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
　第３節　第2a面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・323
　第４節　第3面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・326
　第５節　第４面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・330
　第６節　第4a面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・331
　第７節　第５面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・334
　第８節　第６面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・335
　第９節　第７面の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・337
　第10節　第７面以下・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・338
　第11節　その他の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・341

第三章　考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・342

挿図目次

図１　調査地点と周辺の遺跡・・・・・・311
図２　調査位置とグリッド配置図・・・・313
図３　調査区堆積土層図１・・・・・・・315
図４　調査区堆積土層図２・・・・・・・316
図５　第１面構成土出土遺物・・・・・・317
図６　第２面全体図（S=1/65）・・・・・・318
図７　第２面遺構（S=1/40）・・・・・・・319
図８　第２面遺構および構成土出土遺物・320
図９　第２面遺構34（S=1/40）・・・・・321
図10　第２面遺構34出土遺物１・・・・322
図11　第２面遺構34出土遺物２・・・・323
図12　第2a面全体図（S=1/65）・・・・・324
図13　第2a面遺構102・・・・・・・・・325
図14　第2a面遺構土出土遺物・・・・・326
図15　第3面全体図（S=1/60）・・・・・328
図16　第3面遺構147・・・・・・・・・329
図17　第3面出土遺物・・・・・・・・・329
図18　第４面全体図（S=1/65）・・・・・330
図19　第4面構成土出土遺物25・・・・・331
図20　第4b面全体図（S=1/60）・・・・・332
図21　第4a面遺構および出土遺物・・・333
図22　第５面全測図（S=1/65）・・・・・334
図23　第5面出土遺物・・・・・・・・・335
図24　第6面全体図（S=1/65）・・・・・336
図25　6面以下出土遺物・・・・・・・・337
図26　第７面全体図（S=1/65）・・・・・337

図 27　第 7 面構成土出土遺物・・・・・・338
図 28　第 8 面全体図（S=1/65）・・・・・339
図 29　第 7 ～ 9 面セクション図（S=1/40）
・・・・・・・・・・・340
図 30　第 8 面以下出土遺物・・・・・・・340
図 31　表土および廃土山検出遺物・・・・341

表目次

表 1　中世出土遺物観察表・・・・・・・・346
表 2　出土遺物集計表・・・・・・・・・・352

図版目次

写真図版 1・・・・・・・・・・・・・・・354
写真図版 2・・・・・・・・・・・・・・・355
写真図版 3・・・・・・・・・・・・・・・356
写真図版 4・・・・・・・・・・・・・・・357
写真図版 5・・・・・・・・・・・・・・・358
写真図版 6・・・・・・・・・・・・・・・359
写真図版 7・・・・・・・・・・・・・・・360
写真図版 8・・・・・・・・・・・・・・・361
写真図版 9・・・・・・・・・・・・・・・362
写真図版 10 ・・・・・・・・・・・・・・363
写真図版 11 ・・・・・・・・・・・・・・364
写真図版 12 ・・・・・・・・・・・・・・365
写真図版 13 ・・・・・・・・・・・・・・366
写真図版 14 ・・・・・・・・・・・・・・367

第一章　調査地点の位置と歴史的環境

第１節　歴史的環境（図１）

本調査地点はJR北鎌倉駅の南東約340m、鎌倉市鎌倉市山ノ内字西管領屋敷344番5に位置する。当該地域は鎌倉中心部から北西方向にあたる。

調査地点の属する山内上杉邸は東西約230m、南北約300mにわたり遺跡範囲として指定されており、

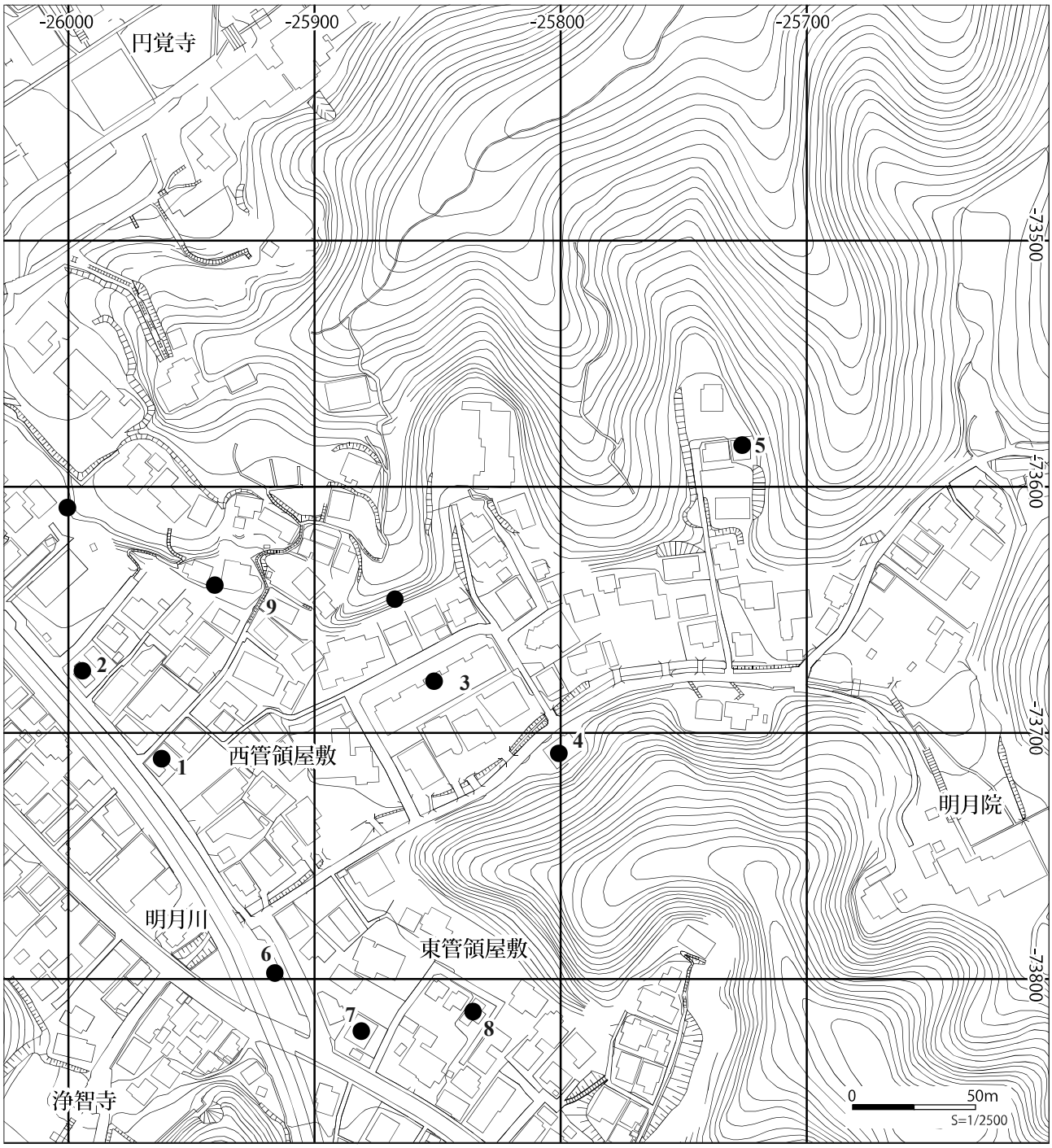


図１　調査地点と周辺の遺跡

No.	名称	住所	調査者	調査	刊行	文献
1	山ノ内上杉邸跡	山ノ内字西管領屋敷 344 番 5	後藤	2017	2020	本報告
2	円覚寺旧境内遺跡	山ノ内字西管領屋敷 377 番 1	宮田	2004	2010	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 26- 第 2 分冊 -7
3	山ノ内上杉邸跡	山ノ内字西管領屋敷 318 番 2	原・汐見	1990	1991	神奈川県埋蔵文化財調査報告 33
4	明月院旧境内遺跡	山ノ内字東管領屋敷 187 番 6	田代	1988	1989	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 5-6
5	最明寺北邸跡	山ノ内字明月谷 295 番 4 外	斉木・熊谷	2005	2009	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25- 第 2 分冊 -14
6	山ノ内道周辺遺跡	山ノ内字東管領屋敷 180 番 10	宮田	1995	1997	山ノ内道周辺遺跡発掘調査報告書
7	山ノ内上杉邸跡	山ノ内 180 番 1、11 の各一部	シン技術コンサル	2011	2012	山ノ内上杉邸跡発掘調査報告書　山ノ内東管領屋敷 180 番 1 外
8	山ノ内上杉邸跡	山ノ内字東管領屋敷 179 番 39	馬淵	2008	2019	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35- 第 4 分冊 -21
9	西管領屋敷南やぐら	山ノ内字瑞鹿山 392	滝沢亮	1986	1986	相武古代研究Ⅱ
9	西管領屋敷南やぐら群	山ノ内字西管領屋敷 370	滝沢亮	1986	1986	相武古代研究Ⅱ
9	西管領屋敷やぐら群	山ノ内字瑞鹿山 355 他	宍戸	1984	1984	神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 6　西管領屋敷やぐら群
9	西管領屋敷やぐら群	山ノ内字西管領屋敷 315	宍戸	1984	1984	神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 6　西管領屋敷やぐら群
9	西管領屋敷南やぐら群	山ノ内字西管領屋敷 356	大三輪・福田	1983	1984	西管領屋敷やぐら群発掘調査報告書

標高 25 ～ 26 ｍを測る。調査地点は遺跡範囲内でも西北に位置している。

調査地点の周囲は標高 80 ～ 120 ｍの丘陵に囲まれており、建長寺の門前の辺りから大船南部に向かって北西方向へ細長く伸びる谷戸底の平野部が形成され、JR 横須賀線および県道 21 号線が通る。

調査地点は六国見山から南西へ延びる丘陵の端部に位置し、丘陵際からは約 70 ｍ程である。丘陵は複雑に入り組んだ大小の谷戸が複数存在し、北東の谷戸奥からは明月川が流れ出る。明月川は調査地点からは東南に約 70 ｍ程の地点を流れ、ＪＲ横須賀線の線路を越えて暗渠となり小袋谷川に合流する。

周囲の山際には、建長寺、円覚寺、明月院、浄智寺、東慶寺など、鎌倉時代創建の著名な寺院が立ち並んでおり、北条時頼や北条時宗などの別荘地としても利用されていた。

建武年間に描かれたとされる円覚寺境内絵図には、この一帯が描かれ、鎌倉時代末には円覚寺の境内であったことが知られる。この一帯は「蔵六庵当庵敷地」と書かれており円覚寺の塔頭の敷地内であったと想定される。絵図では丘陵の隅から南西にむけ尾根が延びているように見受けられ、そこが円覚寺境内の境界となっているようであるが、現在ではそのような構造は見られない。

またほど近い位置には最明寺の文字が見える。最明寺は北条時頼が山内の別邸の傍に創建した寺であり、時頼の没後ほどなく廃されたようであり、のちに北条時宗が禅興寺として復興したとされる。調査地点は最明寺の前面に位置するとも言える。

室町期以降には鎌倉府長官である鎌倉公方の補佐として実権を握った関東管領山内上杉氏の屋敷があった地とされる。しかし屋敷の所在地は明確にはなっていない。

周囲での発掘調査の件数はさほど多くなく、あまり実態が明らかにはなっていない。丘陵際の斜面には西管領屋敷やぐら群が広がっているが、現在では擁壁によってほとんど消滅している。

西北約 50 ｍの 2 地点では 13 世紀第 4 四半期から 15 世紀代にわたり 4 期の生活面が確認されている。南北方向に延びる溝や道路遺構が確認され、掘立柱建物も検出されている。溝などの軸線は変化せず、山ノ内道との関連が検討されている。川を挟んだ 6 地点では鎌倉時代後期～室町時代にかけて 2 期の生活面が確認されており、山ノ内道に平行する溝と明月谷の奥からの溝が検出されている。また古墳時代の土器が出土しており、中世を遡る時期から当該地域の開発が行われていたことが示唆される。

参考文献

貫達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂

鎌倉市教育委員会 1993『鎌倉の古絵図』

第２節　調査の方法と経緯

調査の経緯

本発掘調査は個人住宅の建築築に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画では基礎工事として鋼管杭工事を施すため、平成 29 年４月 12 日～ 13 日に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財の確認調査を実施した。地表下 1.5 ｍまで掘削した結果、地表下 46cm で遺物包含層が検出され、地表下 69cm、117cm、132、150cm で中世遺構面と推定される堆積層の確認がなされた。さらに下層にも中世遺構の存在が予測される結果を得たこと。遺構が比較的地表下の浅い地点に存在することが推測され、遺構への影響が確実と予測されたため、建築計画実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要ありとの判断がなされた。

以上の手続きより、平成 29 年 10 月 30 日～平成 30 年２月７日の約３ヶ月をかけて現地での調査を実施した。

重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から、65 ㎡の調査範囲を二分割して調査を進めた（図 2)。地表下約 1.7m にて黒褐色粘質土となり、約 2.5m で青色砂質土が検出され、遺物・遺構などが確認できなくなったため、これを基盤層と判断し、そこまでの掘削で留めた。

今回の調査では大きく７面の遺構面を確認することができた。

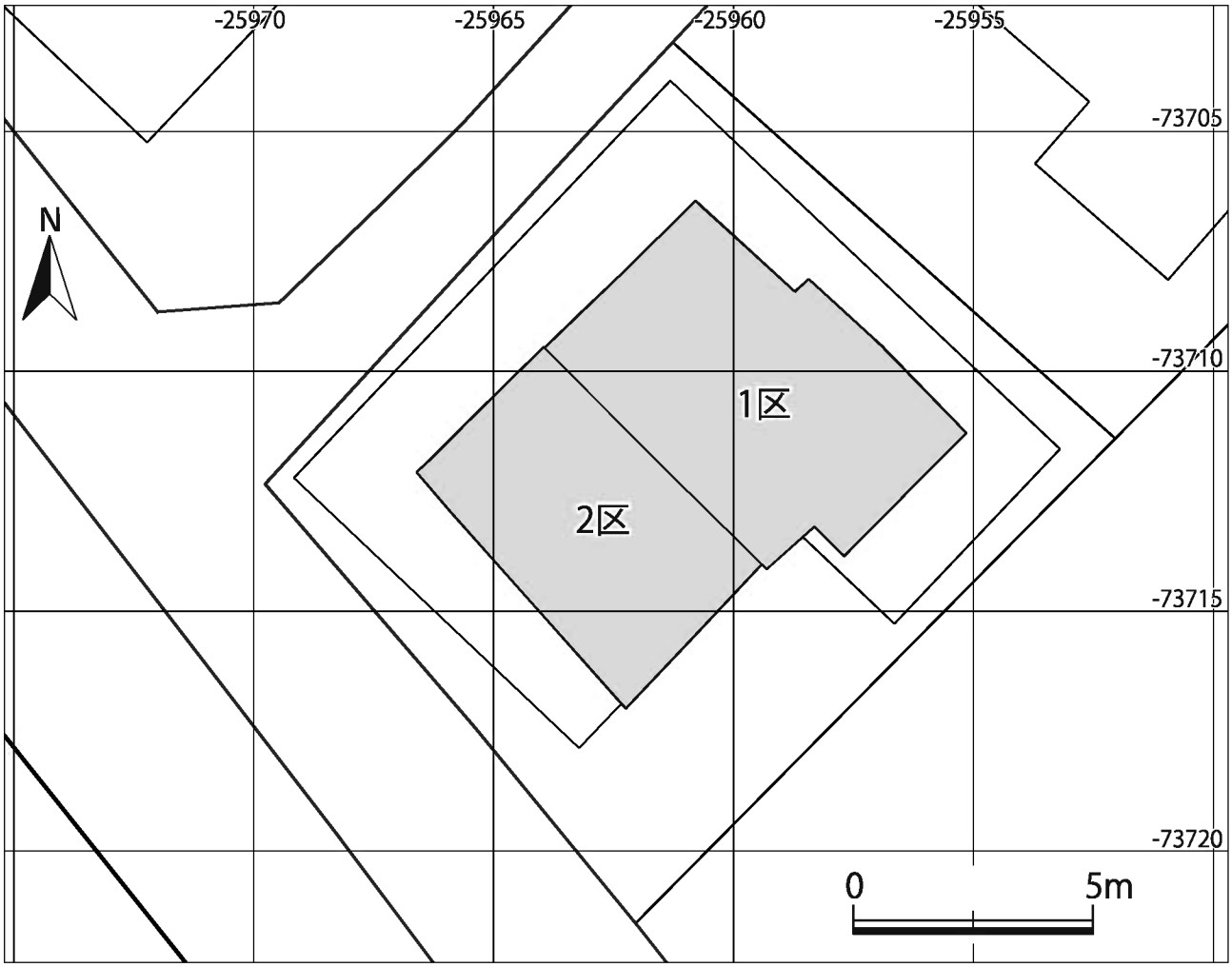


図２　調査位置とグリッド配置図

第３節　堆積土層（図３）

本調査地点では上述の通り大きく７面におよぶ中世の遺構面を確認した。基本となる土層の堆積状況を述べておく。現地表面はおよそ海抜 24.75 ～ 24.87 ｍを測る表土は 80cm ほどの厚さである。

第１面は表土層を取り払った状態から第２面までの掘り下げで中世遺物が確認され、これを第１面構成土とした。暗褐色土層を基本とする

第２面は黒褐色土層に破砕した砂岩を少量混入した整地層である。検出面の標高はおよそ 23.85 ～ 24.00 ｍとなる。

第２ａ面は黄褐色の砂岩片を多く含む暗褐色土による整地層である。上部の遺構による削平部が多い。検出面の標高はおよそ 23.7 ～ 23.87 ｍである。

第３面は黄褐色の破砕された砂岩粒を主体に暗褐色粘質土が混入した整地層である。検出面の標高は 23.64 ～ 23.78 ｍである。

第４面は砂岩粒を多く含んだ黄褐色土による整地層である。検出面の標高は 23.35 ～ 23.57m である。

第 4a 面は砂岩粒主体の明黄褐色土により比較的丁寧に整地された層である。４面との比高差があまりないが、構成する堆積土の様子が大きく変化するため、4a 面としている。検出面の標高は 23.49 ～ 23.60m である。

第５面は第４ａ面に類似した砂岩粒を多く含む黄褐色粘質土で構成されている。薄く茶褐色粘質土を挟んで１層ほど貼り直しのような状況が見られる。検出面の標高は 23.35 ～ 23.57m である。

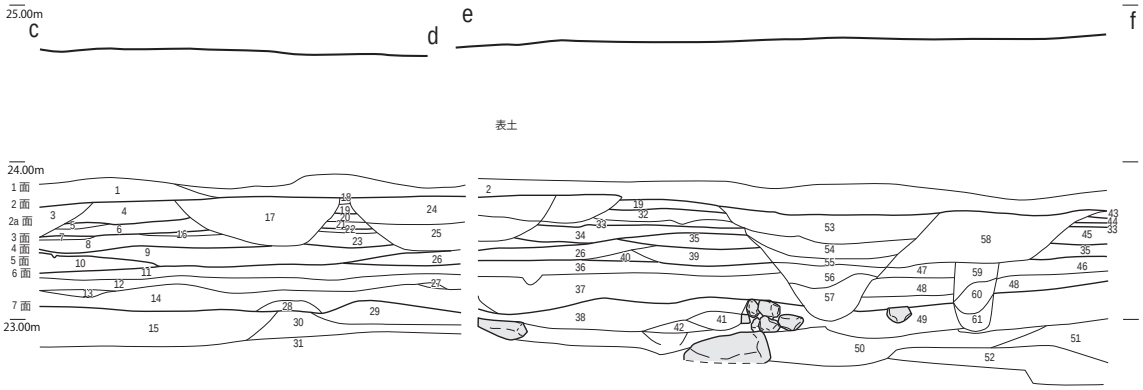
第６面は青緑色を呈する細かい砂岩片を密に敷き詰めて整地を行った層であり、強固な地業をなしている。10 ～ 15cm ほど堆積し、場所によってやや差があるものの５～ 6cm ほどの厚さで２度整地を行っており、間には薄く茶褐色粘質土が堆積している箇所もあり、上下二層に分かれる。

第７面は大型の砂岩片を主体として基本的には平坦に整地をおこなった層である。確認面の標高は約 23.10 ～ 23.30m である。西側（Ⅰ区）はほぼ全域が砂岩片を利用して地業を行っているが東側（Ⅱ区）ではほとんど見られず、中央部は黄色土を充填し、非常に硬化しているため、なんらかの処置を行ったのではないかと推定される。東側には不成形に加工した凝灰質砂岩を列状に並べた石列遺構が平行して２条検出された。この石列の間には黄色土も確認されず、硬くしまった黒色土が見られるのみである。

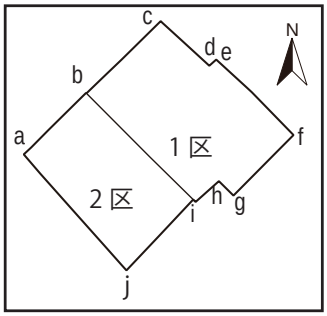
第７面以下は部分的にトレンチでの掘り下げによる確認にとどまった。砂岩片などを利用した地業は確認できなくなり、基本的に黒褐色の粘質土によって構成される。下部に行くと砂が混入しはじめ、第７面より約 30cm ほど下、標高 22.6 ｍ程度で砂のみの層が検出された。それ以下は湧水により壁面が崩落しはじめる可能性があり、掘り下げを断念した。

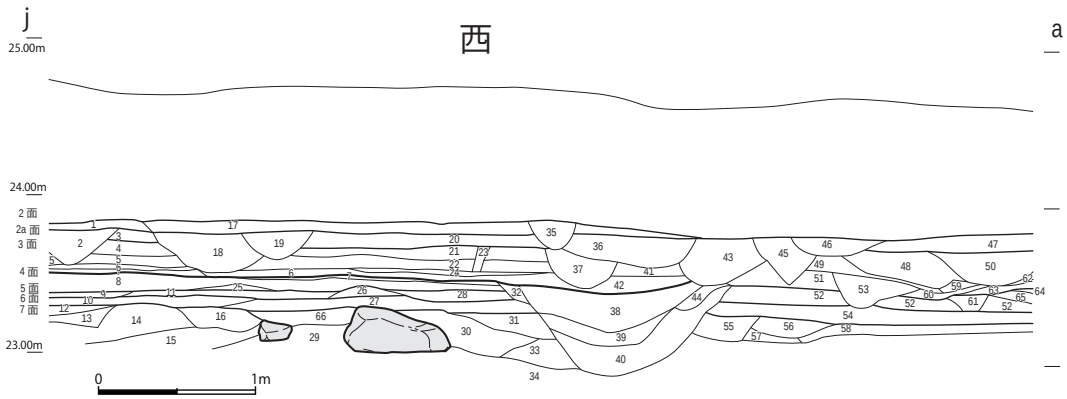
第７面以下の黒色土を中世基盤層と推定しておく。

それぞれの細かな堆積状況については図 3、図 4 に示す。



1	暗茶褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
2	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊、炭化物、かわらけ片少
3	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少。
4	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多い。茶色土少量混入
5	茶褐色粘質土	締りややあり
6	赤黄色粘質土	締りややあり。砂岩小塊少。
7	暗青色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂硬化層
8	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩多。砂層
9	茶褐色粘質土	締りややあり。砂岩小塊少。黒茶土混入
10	赤黄色粘質土	締りあり。砂岩粒多。褐鉄含むか。硬化
11	青色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
12	黒色粘質土	締りあり。砂岩多い。砂礫層。硬化
13	黄褐色粘質土	締り硬い。硬化
14	暗茶灰粘質土	粘性、締りあり
15	黒色粘質土	締りややあり。硬いがもろい
16	暗青色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂硬化層
17	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩粒、かわらけ片少。石多い
18	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
19	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少。石混入
20	黄褐色粘質土	締りあり。砂層
21	赤褐色粘質土	締りあり。褐鉄。砂層
22	青灰色粘質土	締りあり。砂岩粒多め。砂層
23	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩多い
24	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少　大土坑
25	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少　大土坑
26	赤褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。褐鉄
27	黄褐色粘質土	締りややあり
28	黄褐色粘質土	締りややあり
29	暗黒色粘質土	締りあり
30	黒色粘質土	締りややあり
31	青白色粘質土	締りややあり。砂岩粒少
32	赤青色砂質土	締りあり。砂岩塊、かわらけ片少。褐鉄
33	青灰色粘質土	締りあり。砂岩粒多め。砂層
34	赤黄色粘質土	締りあり。砂岩塊多い粒多。砂層
35	黒色粘質土	締りややあり。腐植土、黄色土混入
36	黄褐色粘質土	締りあり。礫層
37	茶褐色粘質土	締りあり
38	黒色粘質土	締りあり
39	茶褐色粘質土	締りやや弱い。砂岩塊少。赤色土混入。硬化
40	青白色粘質土	締り弱い。岩粒少
41	黒色粘質土	茶色土混入
42	暗茶褐色粘質土	
43	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多
44	青色色粘質土	締りあり。砂岩粒多
45	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多
46	黄白色粘質土	締りやや弱い。砂岩粒多め
47	黄褐色粘質土	締りあり。礫層
48	茶褐色粘質土	締りあり
49	黒色粘質土	締り弱い。
50	黒色粘質土	締りあり。砂岩塊稀
51	黒色粘質土	締りあり。砂岩塊密
52	黒色粘質土	締まりやや弱い。砂岩塊多。
53	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
54	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
55	暗褐色粘質土	締りやや弱い。砂岩塊、かわらけ片少
56	暗褐色粘質土	締り弱い。黒色土混入
57	暗茶褐色粘質土	締りあり。茶色土混入
58	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
59	青白色粘砂質	締りやや弱い。砂岩粒多め。黒色土少量混入
60	茶黒色粘質土	締りややあり。茶、黒色土多い
61	青色粘質土	締りややあり。砂岩粒少

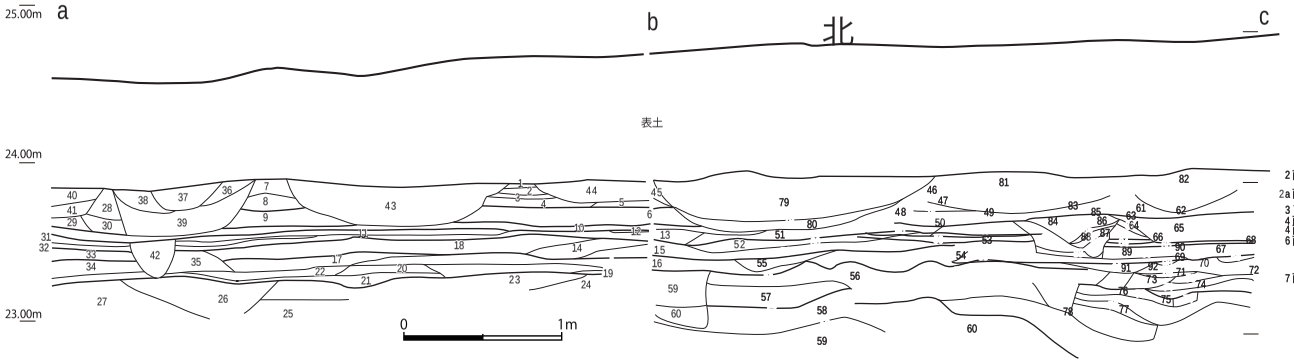




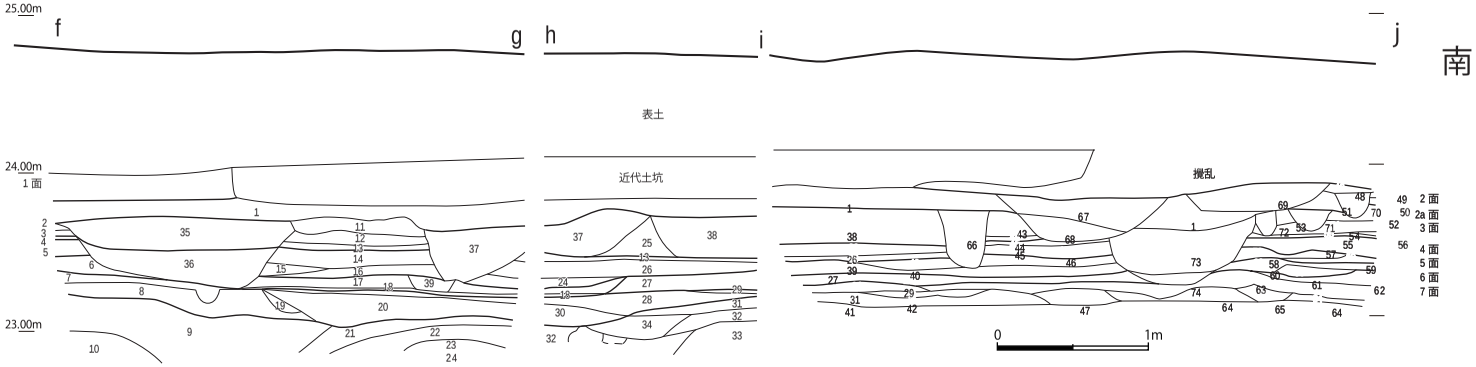
1	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
2	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
3	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
4	暗黄褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊、炭化物、かわらけ片少
5	暗黄褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。炭化物少
6	暗青色粘質土	締りあり。破砕砂岩粒層
7	暗茶褐色粘質土	締りあり。腐植土
8	黄赤褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。腐植土混入
9	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒
10	青灰色砂質土	粘性弱い、締りあり。破砕砂岩粒層
11	明黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒
12	暗茶褐色粘質土	締りやや弱い。上に褐鉄か
13	黒黄色粘質土	締りあり
14	茶黄色粘質土	締りあり
15	黒褐色粘質土	締りあり
16	暗赤褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊詰まる
17	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
18	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物やや多い、かわらけ片少。遺構。
19	暗褐色粘質土	締ややあり。炭化物やや少、かわらけ片少。遺構。
20	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊、炭化物少、かわらけ片多い
21	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒
22	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。黒土混入
23	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物少
24	暗褐色粘質土	締りやや 弱い。炭化物少
25	黒褐色粘質土	締りややあり。腐植土
26	暗灰色粘質土	締り弱い。砂岩細粒
27	暗青色砂質土	粘性弱い、締りやや弱い。破砕砂岩粒層
28	黄褐色粘質土	粘性弱い、締りやや弱い。砂岩細粒
29	黒褐色粘質土	締りややあり。砂岩拳大混入。覆土?
30	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩拳大混入多い。地ならしの土
31	赤褐色粘質土	締りあり。褐鉄含む。褐鉄硬化
32	暗褐色粘質土	締りやや弱い
33	黒黄褐色粘質土	締りあり。硬い、地ならし?
34	黒褐色粘質土	締りやや弱い
35	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
36	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
37	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。黒土混入
38	暗赤褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。黒茶土混入 。溝覆土
39	暗青褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。黒茶土混入 。溝覆土
40	青灰色粘質土	締りあり。砂岩小塊多い。土坑覆土
41	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒
42	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩細粒
43	暗褐色粘質土	締りややあり。遺構。炭化物、かわらけ片少
44	暗赤褐色粘質土	締りあり。褐鉄。硬化
45	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少 。ピット
46	暗褐色粘質土	締りあり。遺構。炭化物やや少
47	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物やや少、かわらけ片少
48	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
49	暗灰色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。褐鉄。上面硬化
50	暗茶褐色粘質土	締りやや弱い。炭化物、かわらけ片少
51	青灰色粘質土	締りあり。粘着性高い
52	暗灰色粘質土	締りややあり。砂岩小塊多い
53	暗灰色粘質土	締りややあり。砂岩小塊多い。遺構か。
54	暗青色粘質土	締りあり。砂岩上に小塊少
55	黒褐色粘質土	締りややあり。砂岩貝多い。上に少し大きめの石混入。
56	暗黄褐色粘質土	締りあり。地ならし
57	黄褐色砂質土	粘性なし、締りあり。砂岩大石多い
58	暗青粘質土	粘性、締りあり
59	黄褐色粘質土	締り弱い。破砕砂岩粒層
60	暗茶褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。褐鉄。腐植土
61	赤青色粘質土	締りややあり。砂岩小塊少。褐鉄。黄混じり
62	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。褐鉄
63	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。黒混入
64	暗灰色粘質土	締りあり。砂岩細粒
65	黒褐色粘質土	締りあり。腐植土
66	黒茶褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。黄混じり

図３　調査区堆積土層図１

図4　調査区堆積土層図2



1	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少 2面。
2	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少 2a面
3	暗黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒少 3面。
4	暗褐色粘質土	締りややあり。砂岩粒、炭化物、かわらけ片少
5	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩細粒多い
6	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩細粒多い 3a面。
7	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物やや少、かわらけ片少
8	暗褐色粘質土	締りややあり。砂岩小塊、炭化物、かわらけ片少
9	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩細粒多い
10	暗青粘質土	締りあり。破砕砂岩粒層
11	黄褐色粘質土	締りややあり
12	暗青 色砂質土	粘性なし、締りあり。破砕砂岩粒層
13	暗茶褐色砂質土	粘性なし、締りあり。
14	青灰 色粘質土	締りあり。砂岩粒多い。5a的層
15	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多い
16	青灰 色砂質土	締りややあり。破砕砂岩粒層
17	赤褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。褐鉄硬化?
18	黄赤褐色粘質土	締りややあり。砂岩小塊少
19	黄赤褐色粘質土	締りあり。
20	黒褐色粘質土	締りやや弱い
21	暗青 色砂質土	締りやや弱い。破砕砂岩粒層
22	黒黄褐色粘質土	締りあり。腐植土
23	黄青褐色粘質土	締り硬い。砂岩大塊多量。
24	黒褐色粘質土	締り硬い
25	黒褐色粘質土	締りやや弱い
26	黄青褐色粘質土	締り硬い。砂岩多い 。遺構か
27	黒黄 色粘質土	締りやや弱い。黄褐色土混入
28	黄褐色粘質土	締りややあり。炭化物少、かわらけ片やや少
29	赤褐色粘質土	締りあり。砂岩少。褐鉄含む。硬化
30	暗黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒多い
31	青白 色砂質土	締りあり。砂岩きめ細かい砂層
32	黒赤 色粘質土	締りあり。
33	暗青 色砂質土	締りややあり。砂岩多い
34	青白 色砂質土	締りややあり。砂岩少
35	暗灰 色粘質土	締りあり。砂岩細粒多い
36	黄褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
37	黄褐色粘質土	締りややあり。炭化物やや多い、かわらけ片少
38	黄褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
39	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
40	黄褐色粘質土	締りややあり。炭化物少
41	黄褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
42	暗褐色粘質土	締りややあり。砂岩大石やや多い
43	暗褐色粘質土	締りややあり。土坑。炭化物、かわらけ片少
44	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
45	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩塊少粒多。砂層。暗褐色土混入
46	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少
47	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊、かわらけ片少。茶色土混入
48	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少
49	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
50	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多。硬化砂層面
51	赤褐色粘質土	締りあり。砂岩塊多粒。礫層
52	黄褐色粘質土	締りあり。礫層
53	暗灰色粘質土	締りややあり。かわらけ片少
54	青 色粘質土	締りあり。砂岩多い。砂礫層
55	黄褐色粘質土	締りあり。
56	黒 色粘質土	締りあり。腐食土
57	黄褐色粘質土	締りあり。溝埋め、黒色土混入
58	黒 色粘質土	締りややあり
59	黒 色粘質土	締りややあり。もろい。
60	黒 色粘質土	締りあり。もろい
61	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒少
62	暗褐色粘土	締りあり。炭化物稀、かわらけ片少
63	赤褐色粘質土	締りあり。硬い
64	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩粒少
65	暗青粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂硬化層
66	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩粒多。砂層
67	赤黄色粘質土	締りあり。砂岩粒多。褐鉄含む。硬化
68	茶褐色粘質土	締りややあり
69	青色砂質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
70	黄褐色粘質土	締りあり。硬化層
72	淡青色粘質土	締りあり。砂岩多い。砂礫層
71	青色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
74	青色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
73	黒黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
75	黄褐色粘質土	締りあり。上部硬化。
76	黒色粘質土	締りやや弱い
77	黄褐色粘質土	締り弱い。落ち込みの覆土
78	黒色粘質土	締りあり。硬いがもろい
79	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
80	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
81	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少
82	黒褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。炭化物少、かわらけ片少
83	暗赤 色粘質土	締りあり。炭化物多。硬化
84	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少。硬化
85	灰色粘質土	締りあり。硬化
86	灰色粘質土	締りあり。硬化
87	青灰 色粘質土	締りややあり。炭化物多。硬化
88	赤褐色粘質土	締りあり。硬化
89	青灰色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂礫層
91	黄褐色粘質土	締りあり
90	茶褐色粘質土	締り弱い
92	青黄色粘質土	締りややあり。硬化層



1	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊、炭化物少、かわらけ片やや少
2	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多
3	青 色粘質土	締りあり。砂岩粒多
4	黄褐色粘砂土	締りあり。砂岩粒多
5	黒 色粘質土	締り弱い、茶色t土混入
6	暗赤褐色粘質土	締りややあり。砂岩塊、炭化物、かわらけ片少
7	青 色粘質土	締りあり。砂岩粒多い。砂層
8	赤褐色粘質土	締り硬い
9	黒 色粘質土	締りあり
10	黒 色粘質土	締りやや弱い、砂岩塊多め
11	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物少、かわらけ片多い
12	黄 色粘質土	締りあり。砂岩粒多い
13	青白 色粘質土	締り弱い。砂岩粒多い。砂層
14	黄白 色粘質土	締りあり。砂岩粒多い
15	暗褐色粘質土	締りややあり。砂岩塊少。炭化物、かわらけ片少
16	青 色粘質土	締りあり。砂岩粒多い
17	赤黒色粘質土	締りややあり。黄色土混入
18	赤黄色粘質土	締りあり。砂岩塊少粒多め。
19	青色粘質土	締りあり。砂岩粒多い
20	黒色粘質土	締りあり。上は硬化
21	赤黒粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片。腐植土
22	黒 色粘質土	締りあり。黄褐色土混入
23	緑青 色粘質土	締りややあり。砂少量混入
24	黒 色粘質土	締りややあり。脆い
25	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩粒、かわらけ片少
26	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩粒多。黒色土混入
27	黄赤粘質土	締り硬い、砂岩粒少。上に薄く黒色土
28	青 色粘質土	締りややあり。砂岩粒多。砂層
29	緑青 色粘質土	締りあり。砂岩粒多。砂層
30	黒 色粘質土	締まりややあり。白色土少量混入
31	暗青 色粘質土	締りあり。砂岩粒多。破砕砂岩層
32	黄褐色粘質土	締りややあり。黒色土混入。土塁
33	黒 色粘質土	締りあり
34	黄褐色粘質土	締りやや弱い。砂岩細粒少
35	暗褐色粘質土	締りややあり。砂岩塊、炭化物、かわらけ片少
36	暗褐色粘質土	締まりやや弱い。炭化物、かわらけ片少。土坑
37	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。炭化物、かわらけ片少
38	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊少。炭化物、かわらけ片少
39	青黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩細粒
40	赤黄褐色粘質土	締りややあり。腐植土混入
41	黒褐色粘質土	締りあり
42	黄褐色粘質土	締りややあり
43	黄褐色粘質土	締りややあり。砂岩細粒
44	黒褐色粘質土	締り弱い、腐植土混入
45	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。硬化
46	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩塊少
47	暗黄褐色粘質土	締りややあり
48	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
49	暗褐色粘質土	締りあり。かわらけ片少
50	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
51	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
52	暗黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。炭化物、かわらけ片少
53	暗黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。炭化物少
54	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒。かわらけ片少。暗褐色土混入
55	暗灰 色砂質土	粘性弱い、締りあり。破砕砂岩粒層
56	暗黄茶褐色粘質土	締りあり
57	黄褐色粘質土	締りあり。砂岩細粒
58	暗茶褐色粘質土	締りやや弱い
59	黄褐色粘質土	締りやや弱い。細粒
60	暗青 色砂質土	粘性弱い。締りあり。破砕砂岩層
61	赤褐色砂質土	粘性弱い。締りあり。破砕砂岩層。褐鉄含む
62	黒褐色粘質土	締りあり
63	黄黒褐色粘質土	締りあり
64	黒褐色粘質土	締りあり
65	暗黄褐色粘質土	締りあり
66	暗褐色粘質土	締りあり。砂岩小塊、炭化物、かわらけ片少
68	暗褐色粘質土	締りややあり。炭化物、かわらけ片少
67	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
69	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物、かわらけ片少
70	暗褐色粘質土	締りややあり。砂岩小塊少。炭化物、かわらけ片少
71	暗黄褐色粘質土	締りあり。ピット。砂岩細粒。炭化物、かわらけ片少
72	暗褐色粘質土	締りあり。炭化物少
73	暗褐色粘質土	締りやや弱い。炭化物、かわらけ片少
74	暗黄褐色粘質土	締りややあり。大石混入層

第二章　発見された遺構と遺物

第１節　第１面の遺構遺物

第１面（図５）は近代造成に伴うと考えられる大規模な土坑があり、内部には凝灰質砂岩が詰め込まれていた（写真図版参照）。中世に属すると思われるような遺構は確認できていない。この面から第２面までの掘り下げで中世遺物が確認され、これを第１面構成土とした。出土した遺物は以下の通りである。

１面構成土出土遺物

出土遺物（図５）：１はかわらけ。２～６は小型かわらけ。７は磨り常滑。

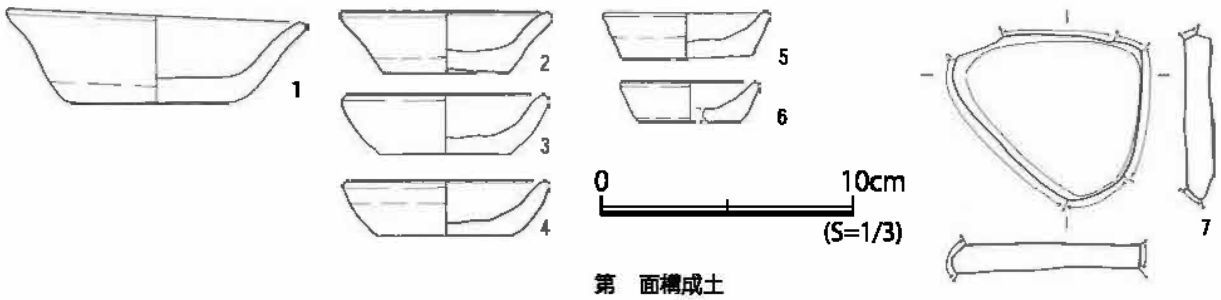


図５　第１面構成土出土遺物

第２節　第２面の遺構・遺物

第２面は黒褐色土層に破砕した砂岩を少量混入した整地層である。検出面の標高はおよそ 23.85～24.00ｍで、層を掘り込んだ遺構としてピット 17 穴、土坑 16 基、溝状遺構２状を検出した。溝はほぼ平行して北西－東南方向に延び、いずれも調査区外へさらに継続している。方向としては、現在のＪＲ横須賀線の路線にほぼ平行する。調査区北側にはやや大型の土坑が複数見られ、南側にはかわらけを大量に敷き詰めたような大型の土坑が検出された。本稿ではいずれも２面の遺構として一括に述べているが、溝はこの土坑を切っており、遺物の状況から見ても、第２面は大きく時期の違う遺構が混在しており、上方は近代の造成などによって削平を受けていることが想定され、それぞれの構築面は異なる可能性がある。

ピットは少数検出されているが、散在しており、建物の構造などは明確にはし得ない。また切り合いからは少なくとも３時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、青白磁、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘、滑石製品などが出土している。

ピット

西側に比較的多いが散乱している。覆土は暗褐色粘着土で締まりありが基本である。

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
1	23.91	0.27	23.82
2	23.94	0.52	23.75
3	23.93	0.35	23.78
4	23.97	0.43	23.91
5	23.86	0.62	23.82
6	23.85	0.45	23.78
7	23.97	0.36	23.89

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
8	23.97	0.28	23.91
9	23.96	0.33	23.9
10	23.98	0.32	23.9
11	23.96	0.51	23.63
12	24.01	0.47	23.71
13	24.02	0.48	23.96
14	24.03	0.31	23.89

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
15	23.99	0.29	23.76
16	23.83	0.25	23.72
17	23.73	0.44	23.5
18	23.92	0.68	23.87
19	23.91	0.79	23.83
20	23.92	1.66	23.83
21	23.94	0.39	23.9

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
22	23.98	0.66	23.89
23	23.82	0.82	23.66
24	23.81	0.78	23.76
25	23.89	1.24	23.73
26	23.96	1.14	23.71
27	23.72	0.93	23.62
28	23.98	1.08	23.93

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
29	24.02	0.75	23.93
30	23.77	0.9	23.62
31	23.75	1.34	23.55
32	23.84	–	23.51
33	24	–	23.75
34	23.89	–	23.73

遺構 16（図 6）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質土。締まりあり。砂岩片、炭化物多い。かわらけ片やや多い。

出土遺物（図 8）：1 はかわらけ

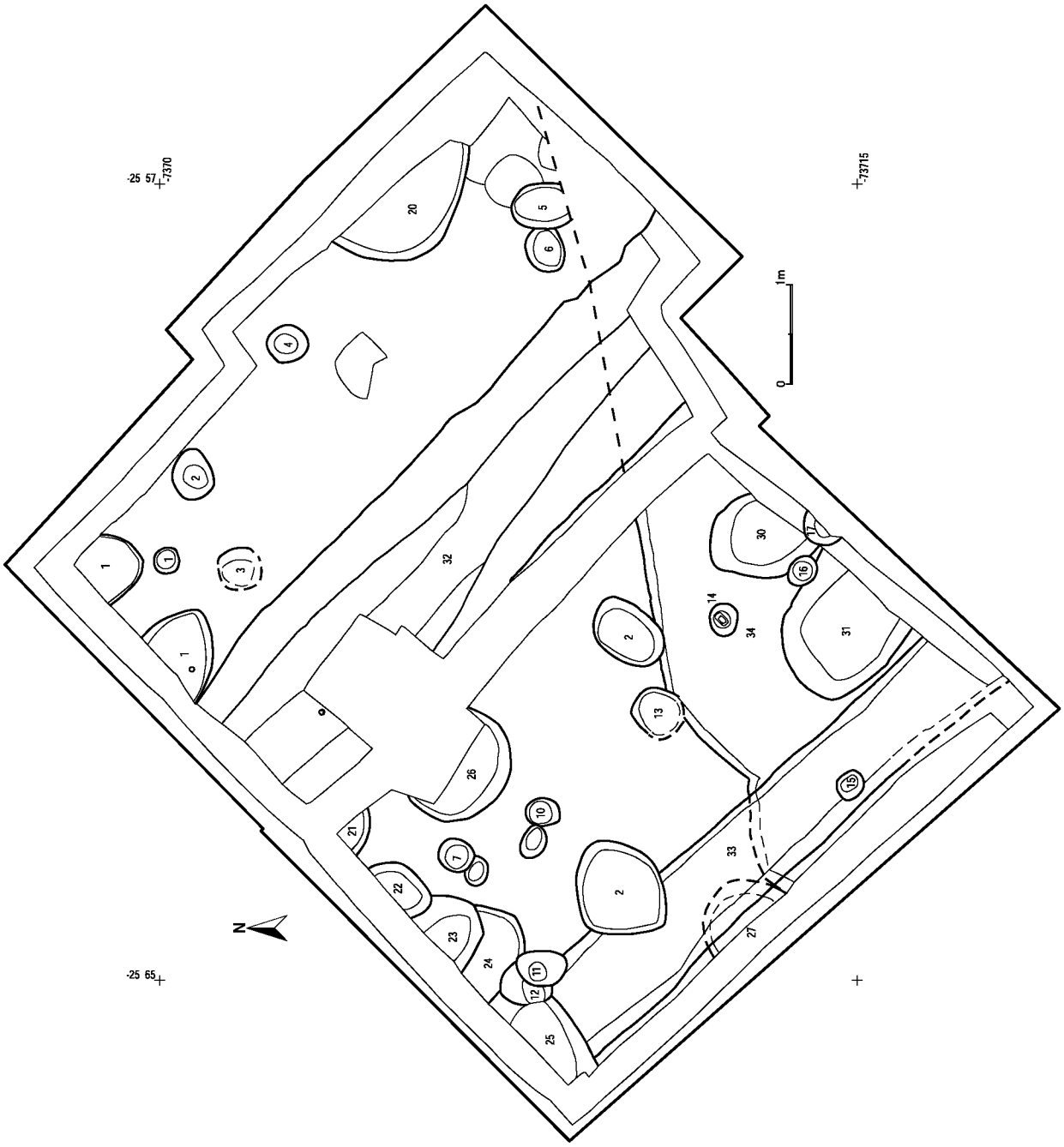


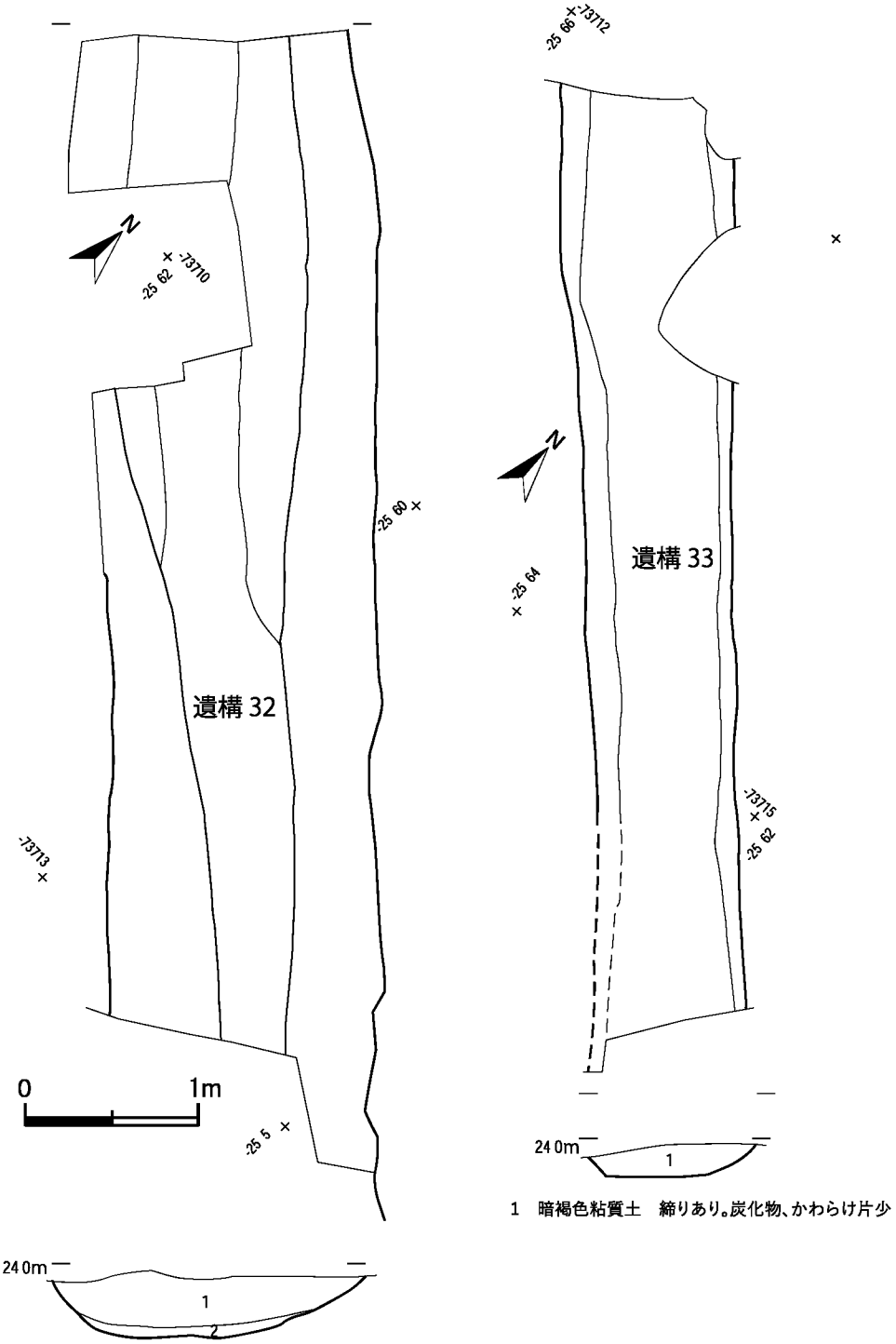
図 6　第 2 面全体図（S=1/65）

土坑

遺構 18（図 6）

楕円形を呈する土坑。北側は調査区外に延びる。覆土は暗茶褐色粘着土で締まりあり。砂岩粒少。炭化物やや多い。かわらけ片やや少。出土遺物（図 8）：2 ～ 3 は小型かわらけ。

遺構 19（図 6）



1　暗褐色粘質土　締りややあり。炭化物、かわらけ片少
2　暗褐色粘質土　締りややあり。炭化物、かわらけ片少

1　暗褐色粘質土　締りあり。炭化物、かわらけ片少

図 7　第 2 面遺構（S=1/40）

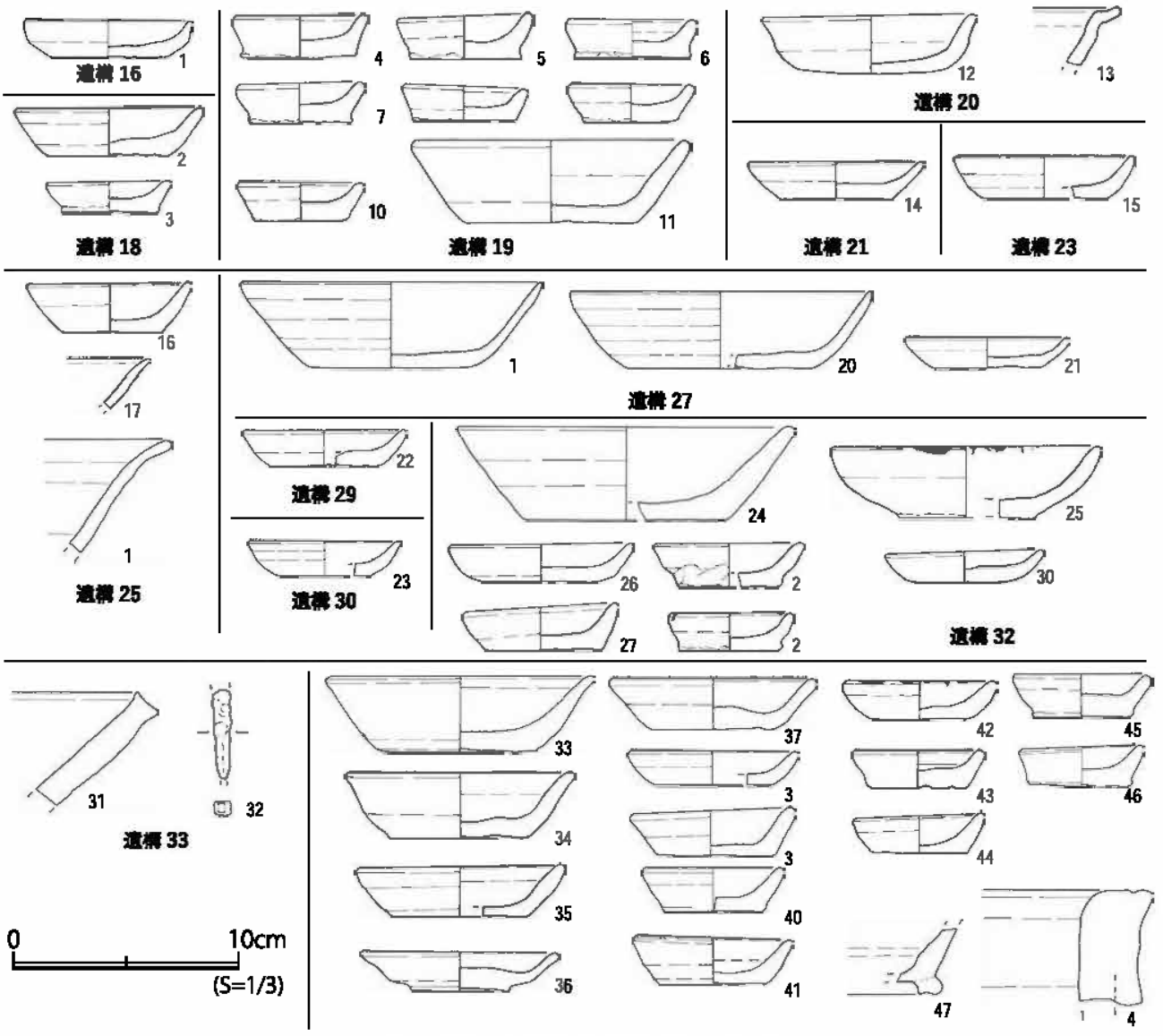


図 8　第 2 面遺構および構成土出土遺物

楕円形を呈する土坑。北側は調査区外に延びる。覆土は暗褐色粘着土で締まりやや弱い。砂岩粒少。炭化物多い。かわらけ片やや多い。出土遺物（図 8）：7 ～ 13 は小型かわらけ、14 は底部出土でかわらけ。

遺構 20（図 6）

円形を呈する土坑。東側は調査区外に延びる。覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。砂岩辺、炭化物少。かわらけ片やや多い。出土遺物（図 8）：12 はかわらけ、13 は瀬戸折縁皿。

遺構 21（図 6）

円形を呈する土坑。一部が残るのみ。覆土は褐色粘着土で締まりややあり。砂岩塊、炭化物、かわらけ片少。出土遺物（図 8）：14 はかわらけ。

遺構 23（図 6）

楕円形を呈する土坑。北側は調査区外に延びる。覆土は暗褐色粘質土で締まりややあり。泥岩小塊、かわらけ片少。出土遺物（図 8）：15 はかわらけ。

遺構 25（図 6）

隅丸方形を呈する土坑。北、西側は調査区外に延びる。覆土は暗褐色粘質土で締まりややあり。炭化物多い。かわらけ片少。出土遺物（図 8）：16 はかわらけ。17 は白磁口冗皿。18 は瀬戸の花瓶か。

遺構 27（図 6）

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。炭化物やや少。かわらけ片やや多い。出土遺物（図 8）：19 ～ 20 はかわらけ。21 は小型かわらけ。

遺構 29（図 6）

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。砂岩片、炭化物多い。かわらけ片少。出土遺物（図 8）：22 は小型かわらけ。

遺構 30（図 6）

楕円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締りややあり。炭化物、かわらけ片少。出土遺物（図 8）：23 は小型かわらけ。

溝

東西に 2 条の溝が確認された。上部は一部削平されていると考えられる。遺構 32 は遺構 33 に比べて広く深い。逆台形に近い断面形態である。方向はいずれも JR 横須賀線の路線にほぼ平行する。

遺構 32（図 6、 7）

覆土は図 7 参照。出土遺物（図 8）:24 ～ 25 はかわらけ。26 ～ 30 は小型かわらけ。

遺構 33（図 6、 7）

覆土は図 7 参照。出土遺物（図 8）:31 は常滑片口鉢Ⅱ類、32 は鉄釘。

遺構 34（図 6、 9）

調査区東側において、東北－西南方向に広がる大型のかわらけ廃棄土坑を検出した。かわらけは完全な形を保っているものは多くなく、いずれもかなり細かく破片となっていた。また遺構 32、33 の溝によってその流路部は削平を受けている。

かわらけは便宜上東から 1 ～ 7 群まである程度のまとまりによって分けた。実際は削平などにも影響されるので、本来は全面に敷き詰められたような状態になっていた可能性がある。単純に廃棄したとも考えにくいが、どのような行為の結果であるかは不明瞭である。

出土遺物（図 10 ～ 11）：

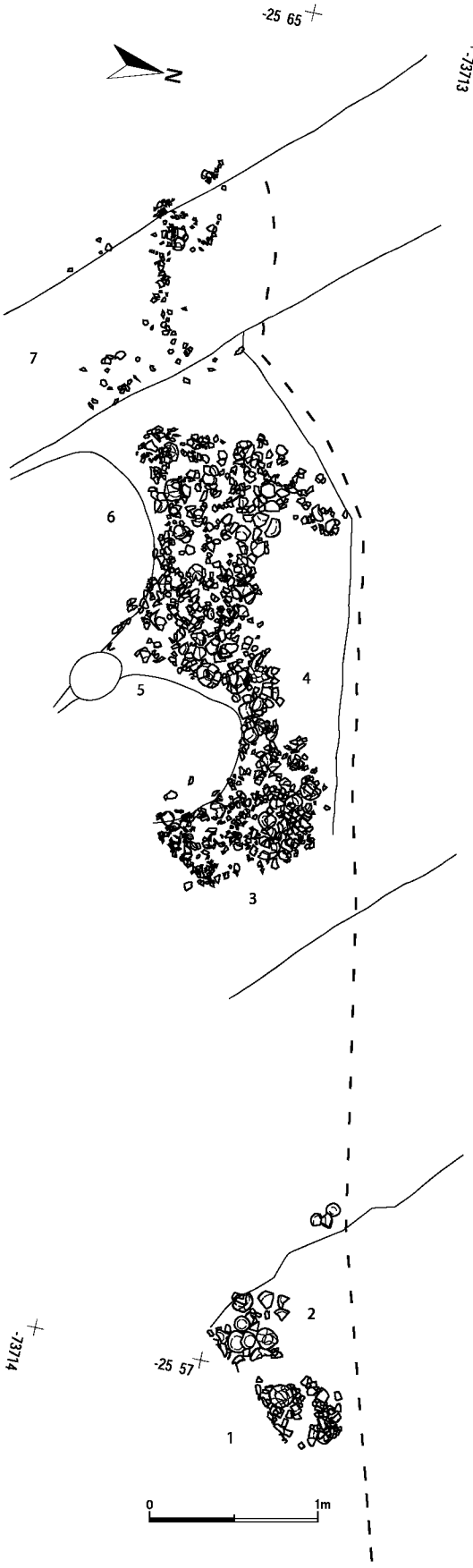


図 9　第 2 面遺構 34（S=1/40）

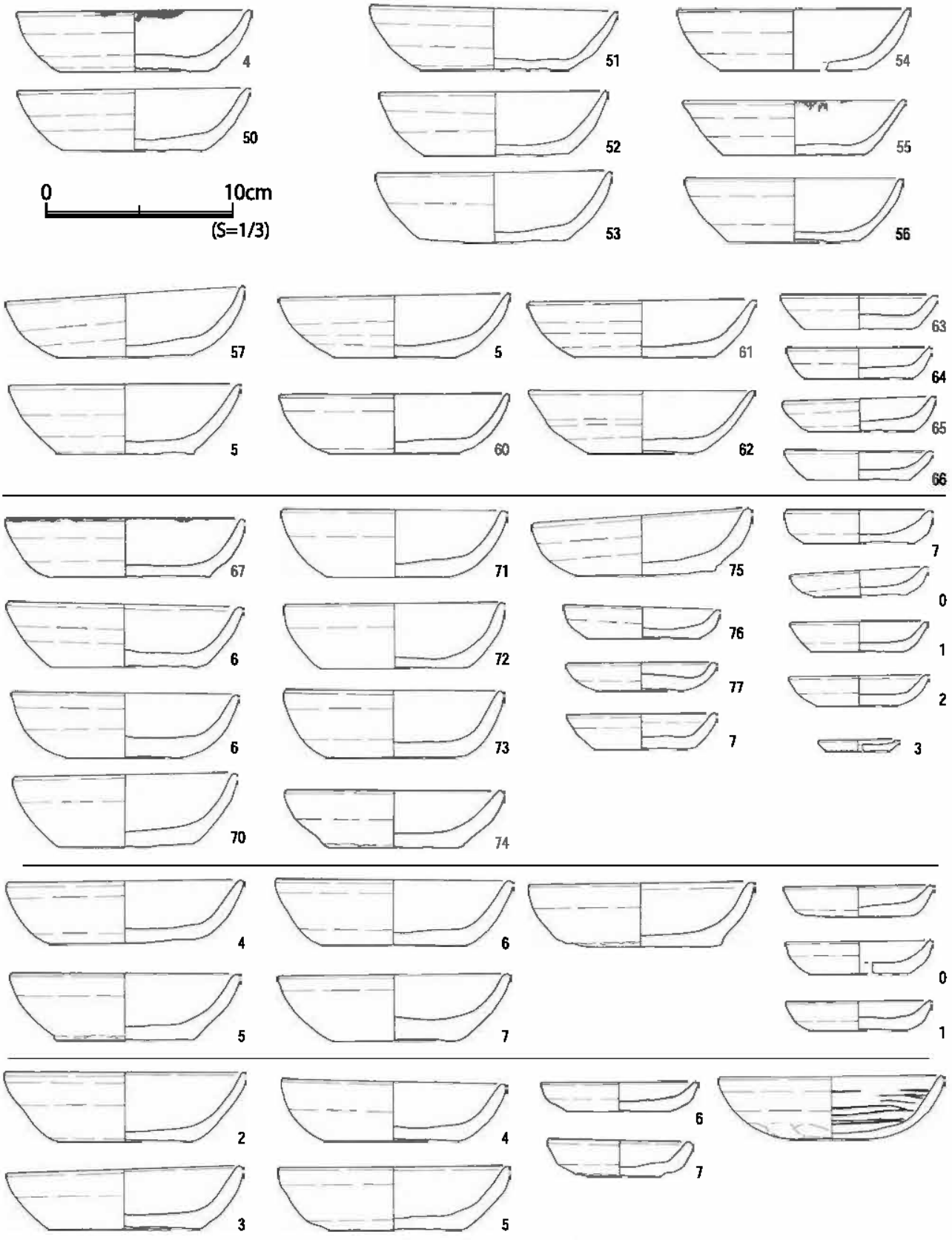


図 10　第 2 面遺構 34 出土遺物 1

1 ～ 2 群出土。49 ～ 66。調査区の東側出土で比較的本来の姿を復元しやすい個体が多い。調査区壁面にも多数埋まっている状態であり、さらに東に向かって延びていることは確実である。57 ～ 58 は 1 群、59 ～ 66 は 2 群出土で 63 ～ 66 は小型かわらけ。その他のかわらけは区別して取りあげていない。

3 群出土。67 ～ 83。76 ～ 82 は小型かわらけ、83 は極小かわらけ。

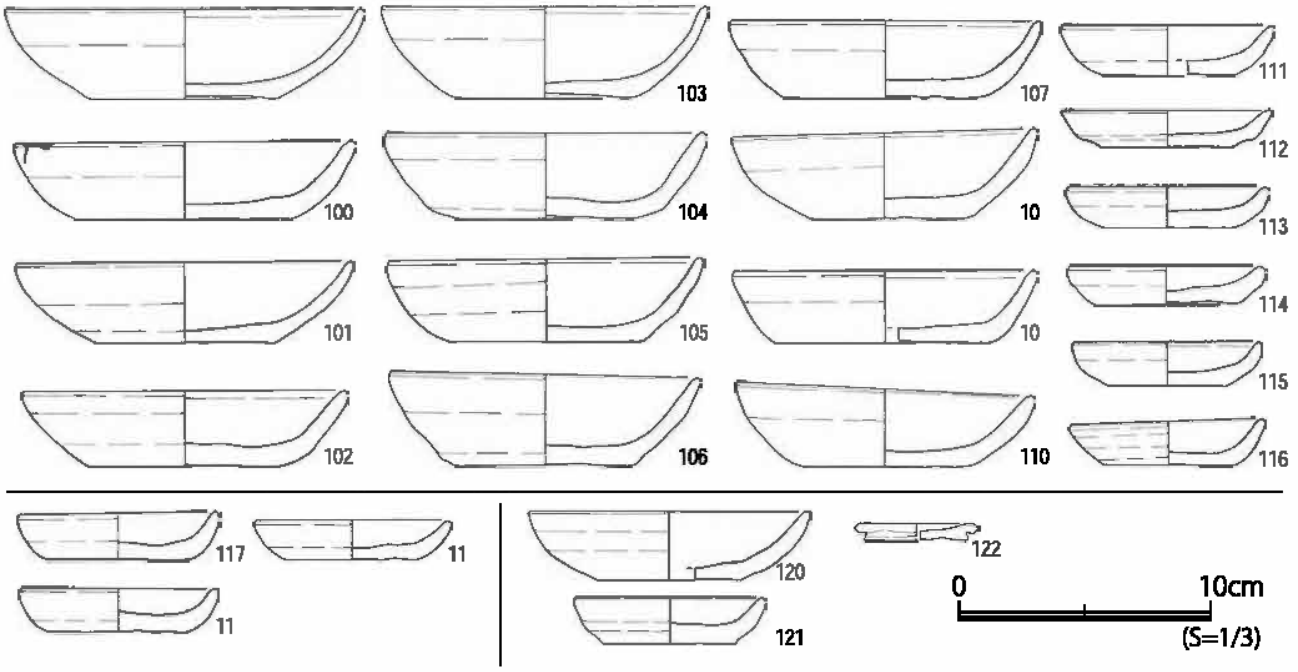


図 11　第 2 面遺構 34 出土遺物 2

4 群出土。84 ～ 91 で、89 ～ 91 は小型かわらけ。

5 群出土。92 ～ 95 で、96 ～ 97 は小型かわらけ。98 は瓦器碗で、やはり破損していた。

6 群出土。99 ～ 116 で、111 ～ 116 は小型かわらけ。

7 群出土。117 ～ 119 でいずれも小型かわらけ。

120 ～ 122 は特に分別せずとりあげたものである。122 は極小かわらけ。

2 群、4 群、6 群は完形のまま潰れたような状態のかわらけが比較的多めである。比率的には正位より逆位の方が多そうであるが、削平されている箇所も多いため、断定は難しい。

全体的に出土遺物が少ないなかで、この遺構のかわらけの集中具合は調査区の中でも非常に特異な遺構であると言える。

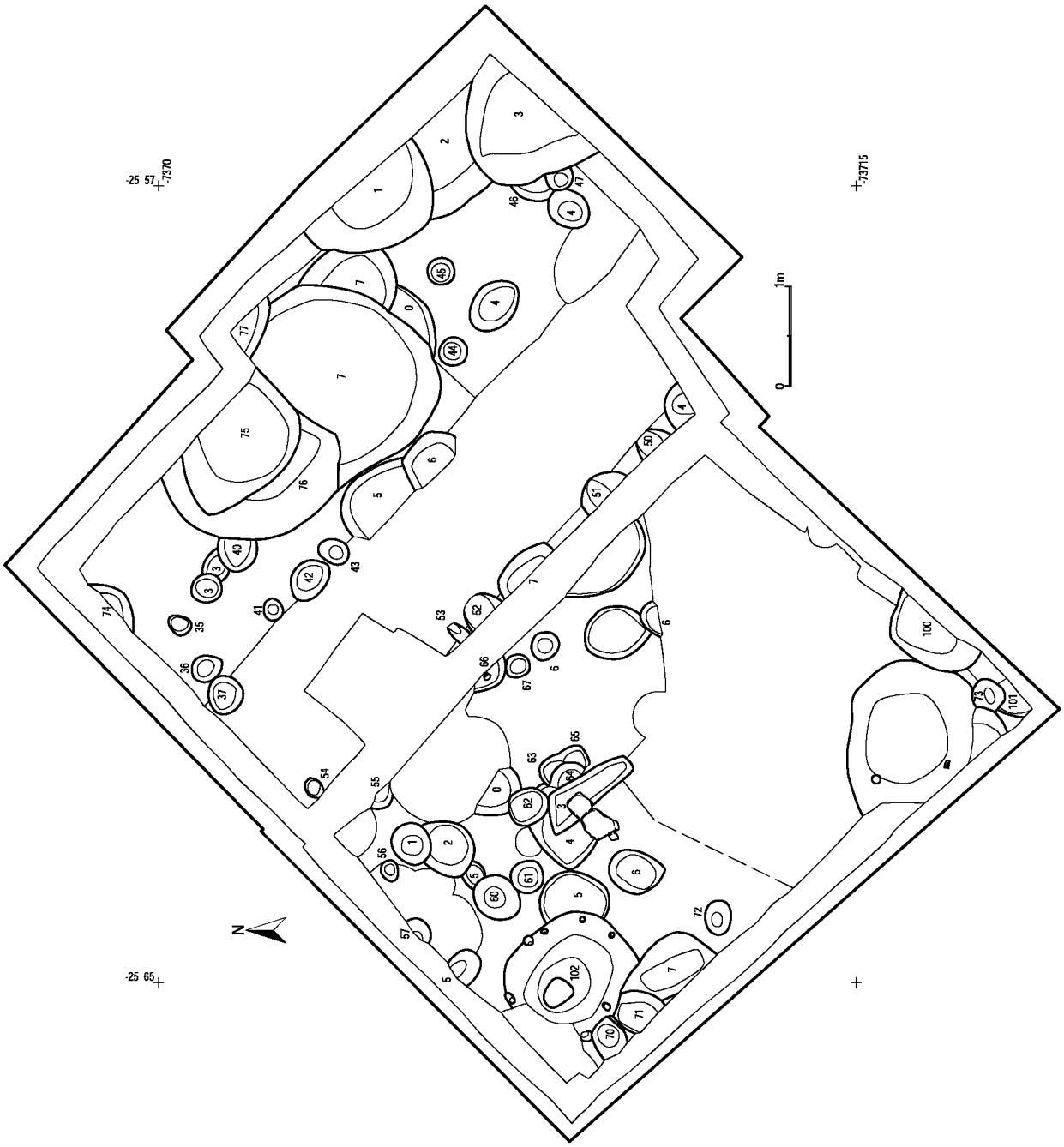
2 面構成土出土遺物

2 面より 2a 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 8）：33 ～ 37 はかわらけ。38 ～ 46 は小型かわらけ。47 は瀬戸で四耳壺か。48 は常滑甕。

第 3 節　第 2a 面の遺構・遺物

第 2 a 面（図 12）は黄褐色の砂岩片を多く含む暗褐色土による整地層である。上部の遺構による削平部が多い。検出面の標高はおよそ 23.7 ～ 23.87 m である。遺構としてピット 39 穴、土坑 30 基、特殊な形態の土坑 1 基を検出した。東側（1 区）では大型の土坑が多く切り合い、西側（2 区）でも土坑が多く切り合って構築されている。ピットはやや多いが、上面遺構の破壊が多いこともあり、建物のプランなどは明らかにし得ない。切り合いから少なくとも 4 時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、白かわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、瓦、鉄釘などが出土している。



遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
35	23.78	0.24	23.75
36	23.78	0.31	23.76
37	23.75	0.39	23.62
38	23.79	0.29	23.74
39	23.79	0.32	23.75
40	23.82	0.4	23.78
41	23.76	0.21	23.66
42	23.81	0.45	23.75
43	23.81	0.3	23.74
44	23.85	0.29	23.71
45	23.85	0.28	23.76
46	23.81	0.33	23.75
47	23.8	0.27	23.72
48	23.8	0.43	23.71

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
49	23.76	0.45	23.59
50	23.79	0.36	23.72
51	23.77	0.54	23.63
52	23.7	0.41	23.59
53	23.63	0.21	23.58
54	23.71	0.2	23.62
55	23.81	0.29	23.71
56	23.81	0.21	23.61
57	23.72	0.31	23.4
58	23.76	0.3	23.6
59	23.82	0.2	23.78
60	23.82	0.49	23.64
61	23.84	0.33	23.76
62	23.77	0.41	23.71

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
63	23.83	0.3	23.71
64	23.73	0.41	23.65
65	23.83	0.29	23.71
66	23.81	0.46	23.69
67	23.83	0.25	23.74
68	23.84	0.29	23.75
69	23.85	0.37	23.79
70	23.74	0.35	23.54
71	23.68	0.38	23.55
72	23.7	0.35	23.51
73	23.79	0.31	23.51
74	23.79	0.65	23.74
75	23.71	1.41	23.48
76	23.82	1.75	23.49

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
77	23.88	0.58	23.72
78	23.82	1.96	23.64
79	23.87	0.92	23.71
80	23.86	0.64	23.79
81	23.87	1.42	23.39
82	23.86	1.75	23.43
83	23.81	0.93	23.4
84	23.86	0.58	23.8
85	23.79	0.97	23.7
86	23.75	0.65	23.63
87	23.72	0.68	23.51
88	23.82	1.02	23.74
89	23.84	0.63	23.78
90	23.81	0.54	23.61

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
91	23.8	0.41	23.63
92	23.82	0.65	23.72
93	23.82	0.96	23.62
94	23.82	0.6	23.73
95	23.78	0.39	23.76
96	23.78	0.531	23.72
97	23.71	1	23.53
97	–	–	–
98	23.73	1.62	23.37
98	–	–	–
99	23.87	0.59	23.69
100	23.77	0.99	23.36
101	23.88	0.43	23.77
102	23.78	1.328	23.42

図 12　第 2a 面全体図（S=1/65）

ピット

ピットは比較的多く、調査区全体でまんべんなく見られる。建物のプランについては不明商である。

遺構 44（図 12）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。砂岩片少。炭化物やや少。かわらけ片やや多い。褐鉄を含む。出土遺物（図 14）：1 は銅銭。

遺構 48（図 12）

円形を呈するピット。覆土は暗赤褐色粘着土で締まりあり。炭化物、かわらけ片少。褐鉄含む。出土遺物（図 14）：2 は小型かわらけ

遺構 50（図 12）

円形を呈するピットか。覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。砂岩片、かわらけ片少。褐鉄含む。出土遺物（図 14）：3 はかわらけ。

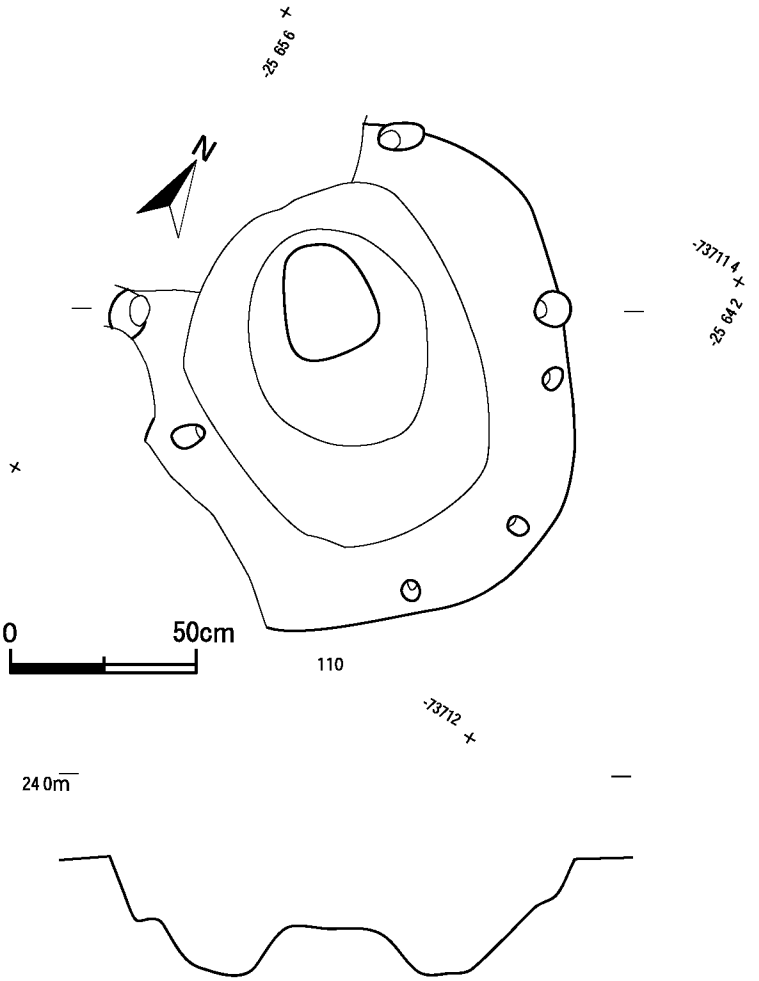


図 13　第 2a 面遺構 102

土坑

やや大型で浅めの土坑が多い。特に東側に多く構築されている。

遺構 80（図 12）

円形を呈する土坑。遺構 78 や 79 に切られあまり残存状態が良くない。覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。出土遺物（図 14）：4 は青磁で香炉か。

遺構 81（図 12）

円形を呈する土坑。調査区東側に延びる。覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。砂岩粒、炭化物、かわらけ片少。褐鉄含む。出土遺物（図 14）：5 は小型かわらけ。

遺構 93（図 12）

長方形を呈する土坑。覆土は覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。出土遺物（図 14）：6 は青磁蓮弁文碗。

遺構 95（図 12）

円形を呈する土坑。南側は上面の遺構によって破壊されている。覆土は暗褐色粘質土　締まりややあり。泥岩粒やや多い。炭化物少。かわらけ片やや少。

出土遺物（図 14）：7 は中型かわらけ。

遺構 98（図 12）

隅丸方形を呈する土坑。遺構 102 に切られる。覆土は黒褐色粘質土で締まりあり。炭化物多くかわらけ片少。褐鉄含む。出土遺物（図 14）：8 ～ 9 はかわらけ、10 ～ 11 は小型かわらけ。12 は白磁口冗皿。

遺構 102（図 12、13）

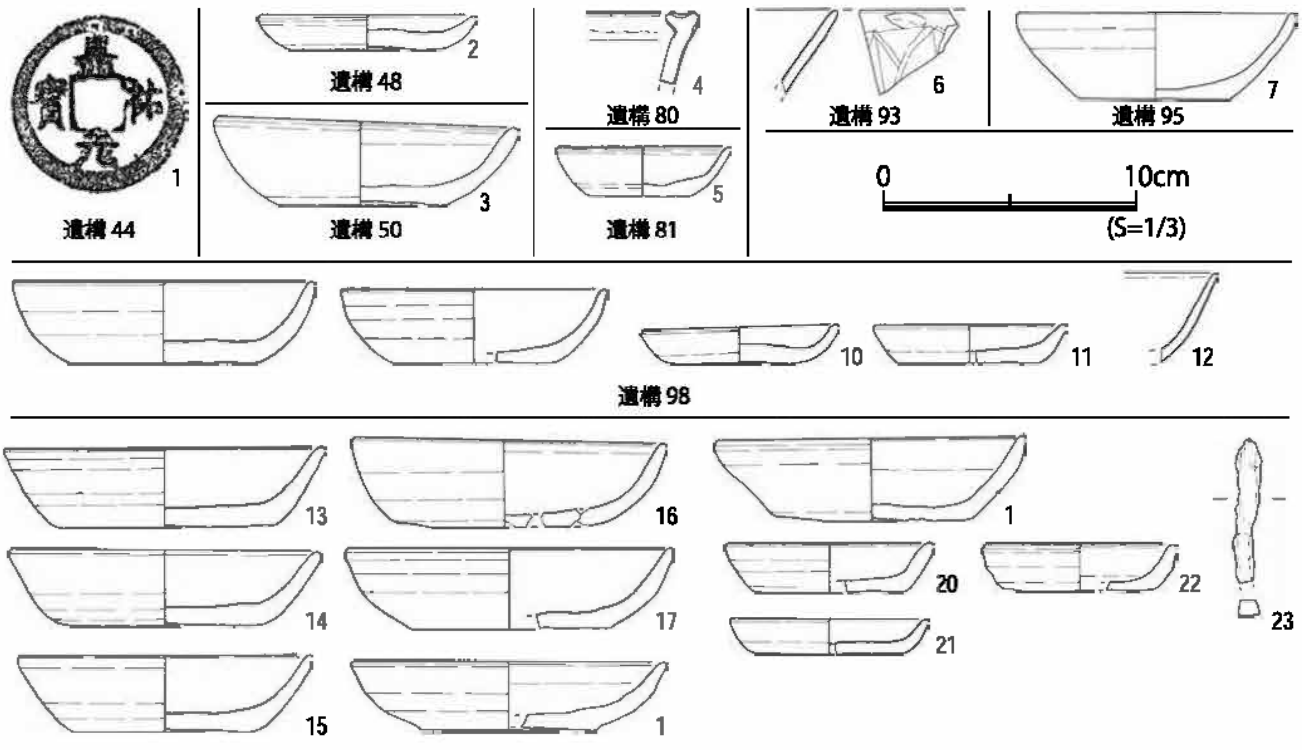


図 14　第 2a 面遺構土出土遺物

やや特異な形態の土坑。覆土は暗褐色粘着土で締まりあり。底部中央が円錐状に高くなっており硬化している。土坑内の開口部付近をめぐるように小坑が幾つか検出され、何らかの上屋構造が設けられていた可能性がある。図示できるような遺物は出土していない。

2a 面構成土出土遺物

2a 面より 3 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 14）：13 ～ 19 はかわらけ、20 ～ 22 は小型かわらけ。23 は鉄釘。

第 4 節　第 3 面の遺構・遺物

第 3 面（図 15）は黄褐色の破砕された砂岩粒を主体に暗褐色粘質土が混入した整地層である。検出面の標高は 23.64 ～ 23.78 m である。遺構としてピット 43 穴、土坑 20 基、溝状の土坑 3 条が検出された。東側（1 区）では上面遺構による破壊が激しく、第 3 面はごく一部しか残存していない。東北部では直角に曲がる溝があり、西南部にも東西方向でそれに平行する溝が見られる。溝の周囲には植栽痕かと思われる小型の穴が複数検出されたが、その性格は不明瞭である。西側（2 区）では東の溝に続く痕跡が確認されず、大型の土坑で遮断されるような状態であった。西側は土坑が多く、中央部にはやや特殊な形の土坑がみられる。ピットも複数検出したが、建物のプランなどを復元するには至っていない。遺構は多数の切り合いが見られ、少なくも 3 時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、常滑、青白磁、瓦、銅銭、鉄釘などが出土している。

ピット

西側に比較的多いが、土坑も混在している。西側、東側とも植栽痕のような小坑が検出されたが、その性格は不明である。

遺構 109（図 15）

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締まりやや弱い。砂岩粒少。炭化物やや少。かわらけ片やや多い。出土遺物（図 17）：1 は小型かわらけ。

遺構 112（図 15）

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締まりややあり。砂岩粒多い。炭化物少。かわらけ片やや多い。褐鉄少。出土遺物（図 17）：2 は小型かわらけ。

遺構 114（図 15）

隅丸方形を呈するピットか。上面の遺構により削平が激しい。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。炭化物やや多い。かわらけ片多い。出土遺物（図 17）：3 はかわらけ。

遺構 121（図 15）

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。炭化物やや多い。かわらけ片少。出土遺物（図 17）：4 はかわらけ。

遺構 123（図 15）

隅丸方形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。かわらけ片少。褐鉄含む。出土遺物（図 17）：5 は白磁口兀輪花皿。

土坑

やや大型の土坑が調査区全体に見られる。

遺構 147（図 15、16）

円形を呈する土坑。上面の遺構により半分ほど削平されている。土坑内から約 5 個体ほぼ関係のかわらけが検出された。覆土は暗赤褐色粘着土で締まりやや弱い。砂岩粒多く、炭化物やや多い。かわらけ片、褐鉄少量含む。出土遺物（図 17）：6 ～ 11 はかわらけ、12 ～ 13 は小型かわらけ。

遺構 149（図 15）

楕円形を呈する土坑。覆土は暗黄褐色粘質土で締まりあり。砂岩粒多い。炭化物少。かわらけ片やや多い。褐鉄少。出土遺物（図 17）：14 は小型かわらけ。

遺構 155（図 15）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質土で締まりややあり。砂岩粒少。炭化物、かわらけ片やや少。

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
103	23.72	0.44	23.61
104	23.74	0.59	23.66
105	23.7	0.33	23.61
106	23.64	0.19	23.49
107	23.68	0.59	23.51
108	23.78	0.33	23.55
109	23.75	0.29	23.72
110	23.68	0.46	23.63
111	23.63	0.34	23.61
112	23.69	0.59	23.52
113	23.67	0.32	23.6
114	23.72	0.46	23.64
115	23.76	0.36	23.69
116	23.71	0.43	23.63

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
117	23.73	0.43	23.51
118	23.71	0.48	23.61
119	23.71	0.46	23.64
120	23.72	0.35	23.6
121	23.73	0.4	23.61
122	23.72	0.23	23.64
123	23.72	0.31	23.32
124	23.72	0.37	23.66
125	23.78	0.2	23.66
126	23.75	0.17	23.67
127	23.71	0.16	23.62
128	23.7	0.19	23.58
129	23.7	0.28	23.63
130	23.71	0.37	23.65

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
131	23.72	0.26	23.65
132	23.72	0.29	23.61
133	23.72	0.24	23.63
134	23.69	0.28	23.61
135	23.72	0.34	23.51
136	23.72	0.29	23.56
137	23.73	0.23	23.69
138	23.74	0.43	23.56
139	23.71	0.44	23.49
140	23.72	0.4	23.62
141	23.71	0.23	23.65
142	23.7	0.29	23.61
143	23.69	0.29	23.64
144	23.68	0.41	23.5

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
145	23.68	0.32	23.44
146	23.73	0.46	23.61
147	23.76	0.56	23.53
148	23.78	0.59	23.67
149	23.71	0.87	23.6
150	23.72	0.54	23.53
151	23.51	0.72	23.49
152	23.58	0.63	23.49
153	23.73	0.64	23.63
154	23.69	0.9	23.62
155	23.71	1.11	23.56
156	23.74	1.48	23.61
157	23.76	0.65	23.63
158	23.54	0.52	23.48

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
159	23.6	0.68	23.55
160	23.71	0.57	23.5
161	23.63	0.64	23.53
162	23.72	0.79	23.61
163	23.72	1.23	23.61
164	23.74	1.68	23.6
165	23.76	–	23.51
166	23.75	0.46	23.5
166	–	–	–
167	23.71	0.1	23.65

出土遺物（図 17）：15 は小型かわらけ。

遺構 163、164（図 15）

やや深度の浅い土坑。形態から別個体と思われるが、いずれも土坑壁面に小坑がめぐるように検出されている。一連のものである可能性もあるが、検出状況からは判然としなかった。上屋構造を持っていた可能性もある。覆土は暗褐色土で締りややあり。砂岩粒、炭化物を少量含む。図示可能な遺物は出土していない。

溝

北部ではＬ字型に屈曲する溝が検出。東南部ではそれに平行する方向で、溝状の遺構が検出された。区画などのために構築されたものか。

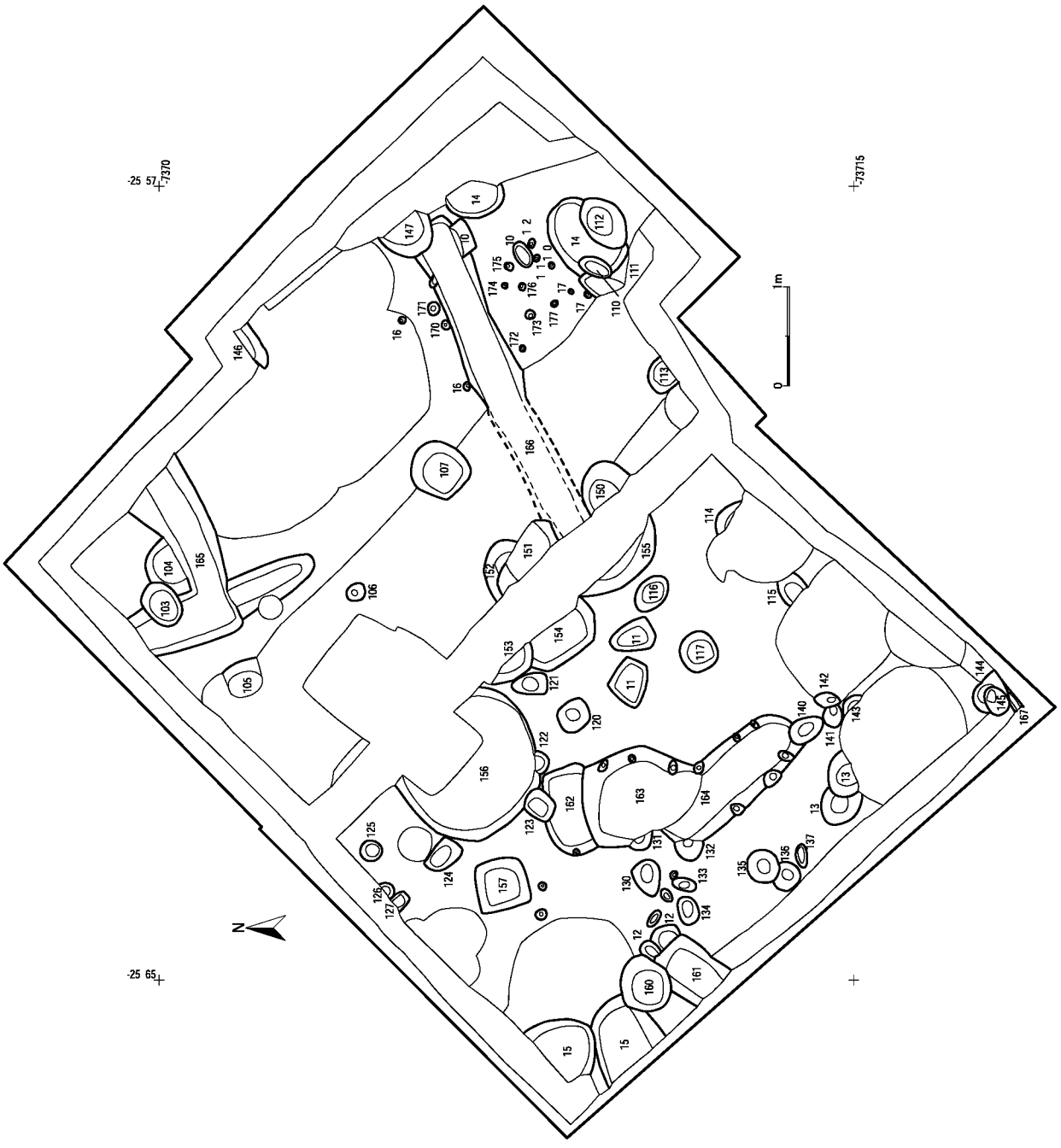


図 15　第 3 面全体図（S=1/65）

遺構 165（図 15）

L 字型に屈曲する溝。さらに南方に延びる部分があるが、次第に底が高くなり消滅してしまう。覆土は暗茶褐色粘着土で締まりあり。砂岩粒少。

遺構 166（図 15）

東西方向に延びる溝状遺構。東へは調査区外に延びていると思われるが、西側は 2 区では継続して検出されなかった。1 区と 2 区の中間点で南北いずれかに彎曲するか、あるいは上面の遺構に削られてしまっている可能性がある。覆土は暗茶褐色粘着土で締まりあり。砂岩粒少。炭化物、かわらけ片やや多い。褐鉄少。出土遺物（図 17）：16 は小型かわらけ。

3 面構成土出土遺物

図示可能な状態の遺物は出土せず。

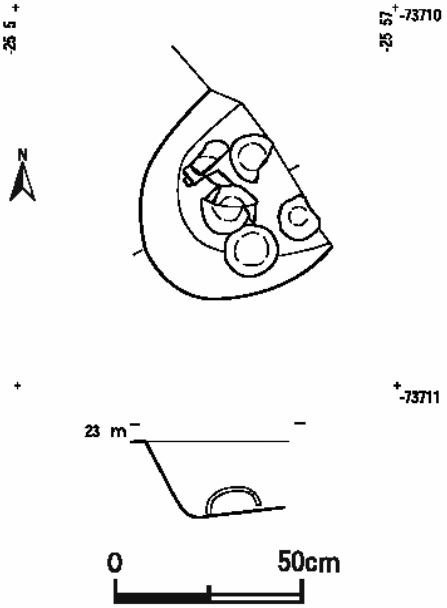


図 16　第 3 面遺構 147

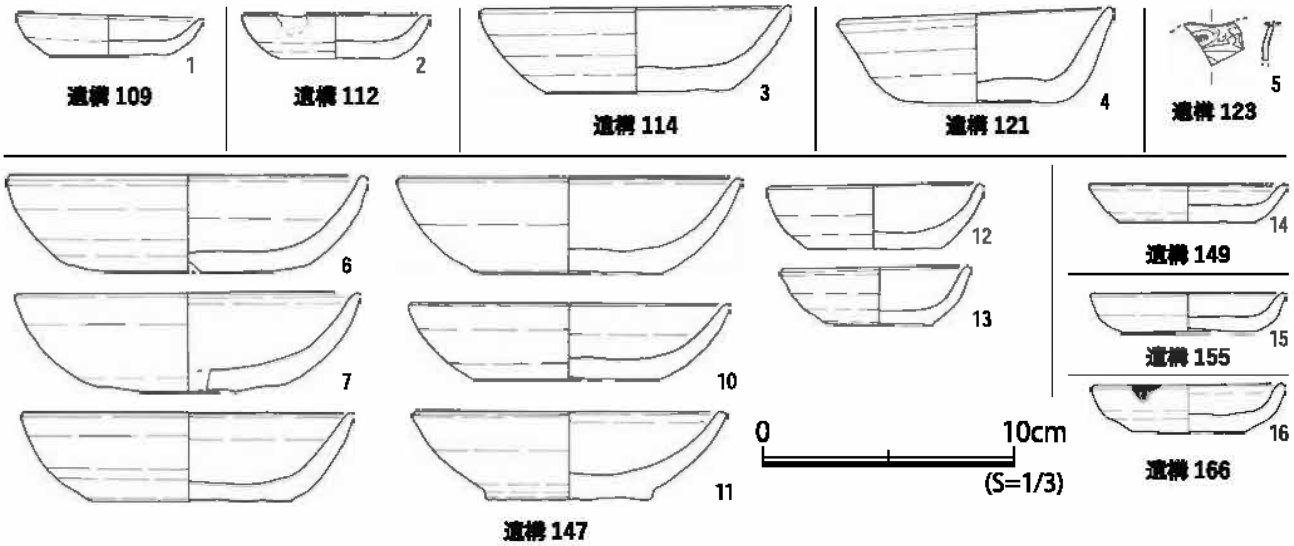


図 17　第 3 面出土遺物

第５節　第４面の遺構・遺物

第４面（図 18）は砂岩粒を多く含んだ黄褐色土による整地層である。検出面の標高は 23.5 ～ 23.67 ｍである。遺構としてピット 25 穴、土坑 9 基を検出した。全体的に検出される遺構数が少ない。北東部では植栽痕のような小坑が確認されたが、まばらで規則性は見出せない。土坑も小型で少数であり、空閑地が広がっているような印象となる。掘立柱建物のようなプランも不明瞭である。遺構の切り合いが見られ、少なくとも４時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、白磁、瓦などが出土しているのみである。

遺構から図示可能な遺物は出土していない。

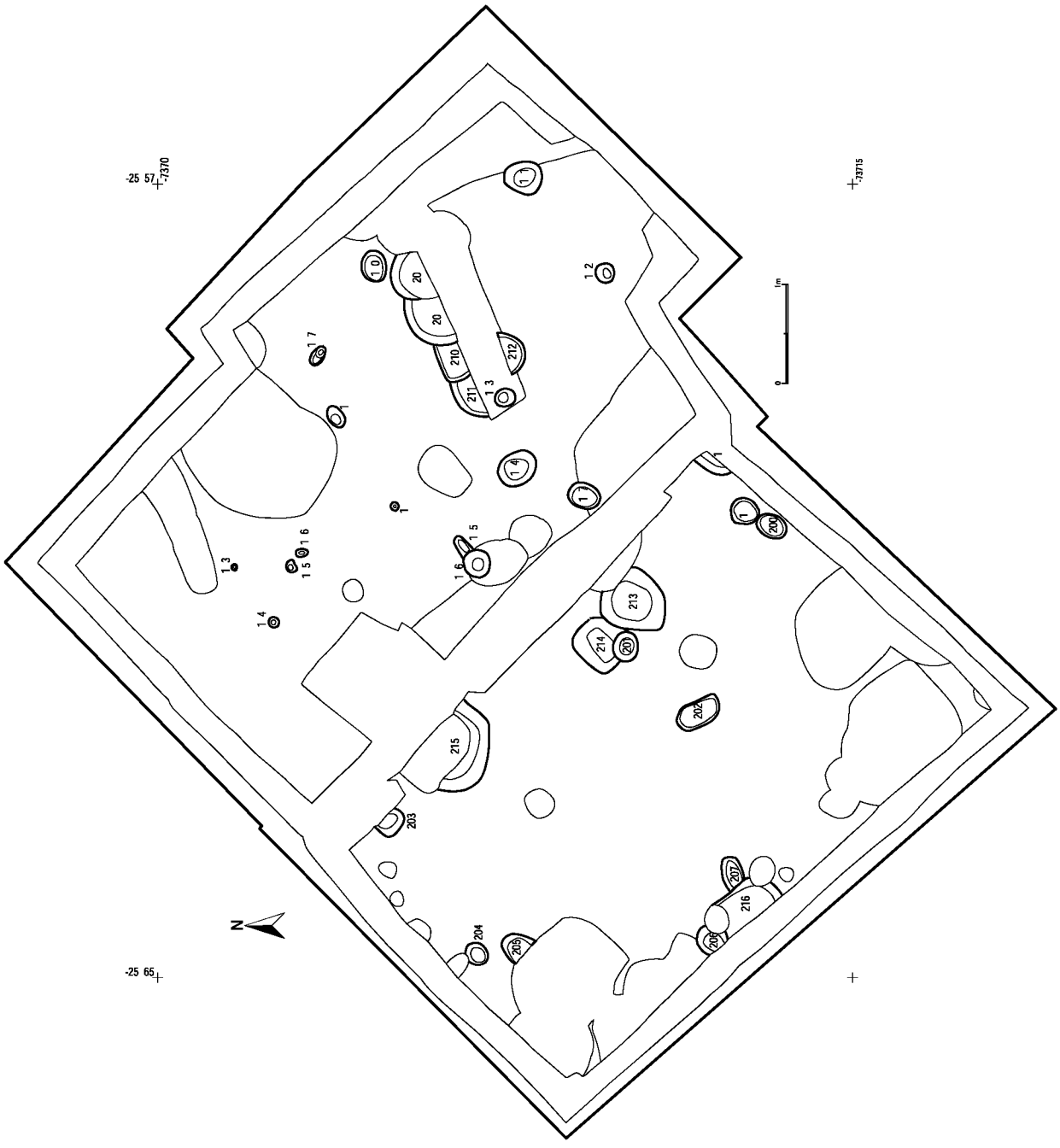


図 18　第４面全体図（S=1/65）

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
183	23.6	0.06	23.57
184	23.6	0.1	23.54
185	23.61	0.12	23.58
186	23.61	0.12	23.59
187	23.66	0.2	23.65
188	23.62	0.23	23.59
189	23.6	0.08	23.55

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
190	23.66	0.32	23.65
191	23.68	0.36	23.54
192	23.58	0.19	23.52
193	23.49	0.21	23.4
194	23.46	0.4	23.38
195	23.47	0.2	23.4
196	23.51	0.28	23.4

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
197	23.54	0.32	23.44
198	23.63	0.34	23.57
199	23.62	0.27	23.56
200	23.59	0.3	23.56
201	23.56	0.28	23.48
202	23.59	0.47	23.55
203	23.62	0.3	23.47

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
204	23.64	0.23	23.6
205	23.65	0.26	23.62
206	23.6	0.27	23.52
207	23.6	0.28	23.54
208	23.68	0.5	23.8
209	23.66	0.53	23.57
210	23.6	0.36	23.57

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
211	23.6	0.43	23.55
212	23.58	0.44	23.56
213	23.57	0.67	23.48
214	23.69	0.52	23.52
215	23.6	0.93	23.34
216	23.58	0.82	23.48

第 4 面構成土出土遺物

第 4 面より第 4a 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 19）：1 ～ 7 はかわらけ。8 ～ 15 は小型かわらけ。

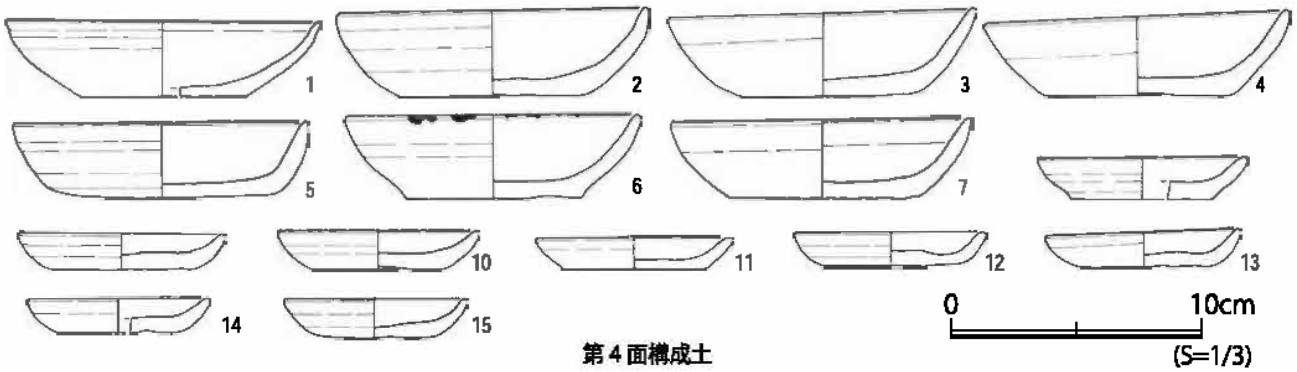


図 19　第 4 面構成土出土遺物

第 6 節　第 4a 面の遺構・遺物

第 4a 面（図 20）は砂岩粒主体の明黄褐色土により比較的丁寧に整地された層である。4 面との比高差があまりないが、構成する堆積土の様子が大きく変化するため、4a 面とした。南側は近代の遺構の掘り込みより消失している。検出面の標高は 23.49 ～ 23.60 m である。遺構としてピット 21 穴、土坑 7 基、溝状遺構 3 条を検出した。東側（1 区）では 3 面の南側の溝とほぼ同じ位置にやや逆台形の溝が検出され、掘り直しをしていることが確認された。ピットは少数で建物を構築しているようには見えない。北側にはやはり植栽痕のような小坑が検出されているが、まばらで不規則でありその性格は不明である。西側は土坑などが数基ある他はほとんど遺構が見られず、空閑地であったのだろうか。

遺構は切り合いが見られ、少なくとも 3 時期の時間差があると考えられる。

遺物はかわらけの他は古代に属すると思われる小片がみられるのみである。

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
217	23.56	0.27	23.37
218	23.56	0.2	23.45
219	23.59	0.34	23.52
220	23.58	0.26	23.51
221	23.58	0.36	23.52
222	23.58	0.17	23.51

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
223	23.58	0.08	23.52
224	23.6	0.15	23.49
225	23.58	0.14	23.47
226	23.58	0.31	23.53
227	23.59	0.36	23.54
228	23.57	0.1	23.54

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
229	23.59	0.19	23.5
230	23.64	0.39	23.57
231	23.59	0.35	23.38
232	23.66	0.47	23.31
233	23.61	0.41	23.51
234	23.55	0.23	23.45

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
235	23.51	0.32	23.41
236	23.58	0.35	23.47
237	23.56	0.38	23.33
238	23.6	0.6	23.5
239	23.62	0.69	23.44
240	23.49	0.71	23.44

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
241	23.51	0.47	23.41
242	23.27	0.98	22.82
243	23.57	1.41	23.26
244	23.65	0.94	23.01
245	23.67	0.66	23.32
247	23.53	0.59	23.39

ピット

数が少なく、建物のプランなどは不明。基本的には円形を呈し、暗褐色、暗黄褐色の締りのやや弱い覆土が基本となる。

遺構 232（図 20、21）

円形を呈するピット。覆土は暗赤褐色粘着土で締まりあり。砂塊少。褐鉄を含み硬化、溝を切る。構内から完形に近いかわらけがまとまって出土した（図 21）。出土遺物（図 21）：1 ～ 7 は小型かわらけ。

土坑

遺構 242、243 は隅丸方形でやや規模が大きいが、掘はやや小さく浅いものがほとんどである。

遺構 242（図 21）

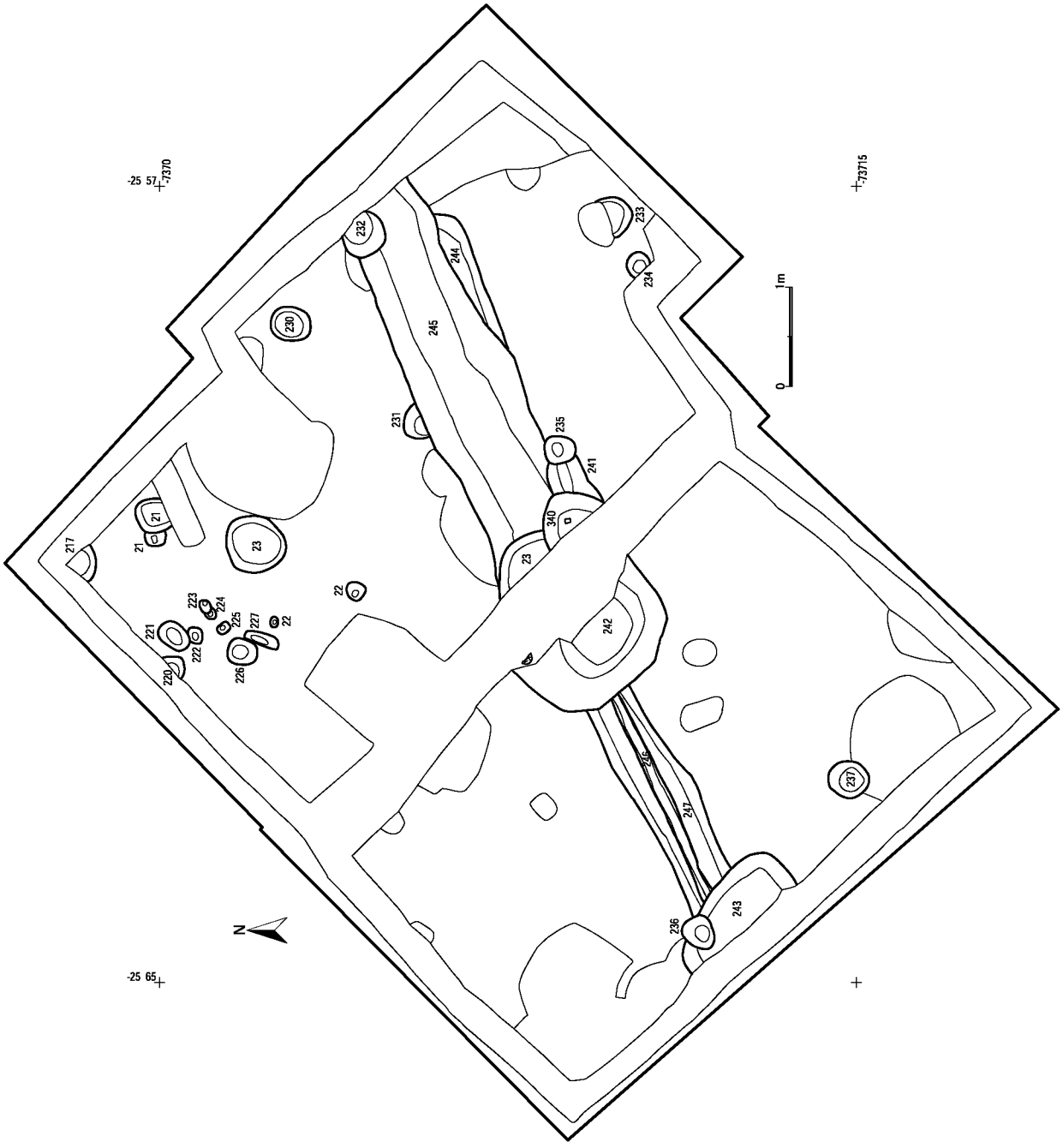


図 20　第 4b 面全体図（S=1/65）

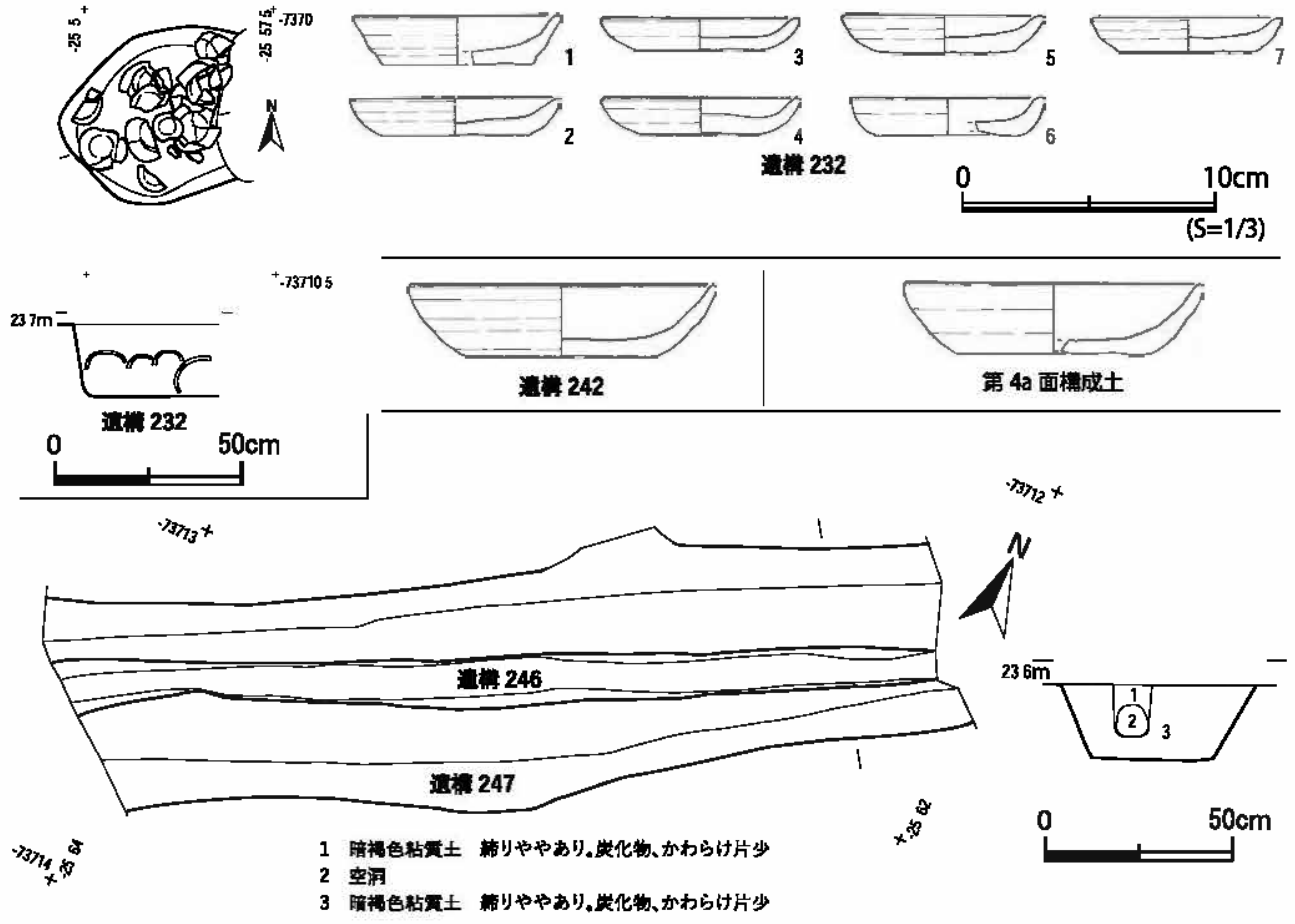


図 21　第 4a 面遺構および出土遺物

円形を呈する土坑。覆土は黒褐色土で締りやや弱い。出土遺物（図 21）：8 はかわらけ。

溝

遺構 245 は第 3 面の遺構 166 とほぼ同じく東西方向に走り、遺構 166 は 245 を掘りなおしたものと考えられる。比較的深く、断面はやや逆台形を呈する。西側へは 2 区ではその延長線上に溝が検出された（遺構 247）。この溝は東側よりも幅が狭く浅い。土坑に切られていることもあり、軸的には同一のものとも考えられるが、構造としてはやや差がある。また遺構 247 の内部では管状の構造物を中に設置してたかのように空洞の状態が確認された（遺構 246：図 21）。内部には何も埋まっておらず、周囲がやや硬化していた。有機質の筒状の構造物を埋めていたのかもしれないが、痕跡は確認できていない。東側の遺構 245 ではそのような痕跡は確認されず、位置的には一連のものである可能性も皆無ではないが、構造の差が大きく、単純に一条の溝とはみなしえない。いずれも図示可能な遺物は出土していない。遺物自体もほとんど伴っていないため、その性格などを判断する材料に欠けている。

第 4a 面構成土出土遺物

第 4a 面より第 5 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 21）：9 はかわらけ。

第７節　第５面の遺構・遺物

第５面（図 22）は第４a 面に類似した砂岩粒を多く含む黄褐色粘質土で構成されている。薄く茶褐色粘質土を挟んで１層ほど貼り直しのような状況が見られるが、面としては一括して取り扱う。検出面の

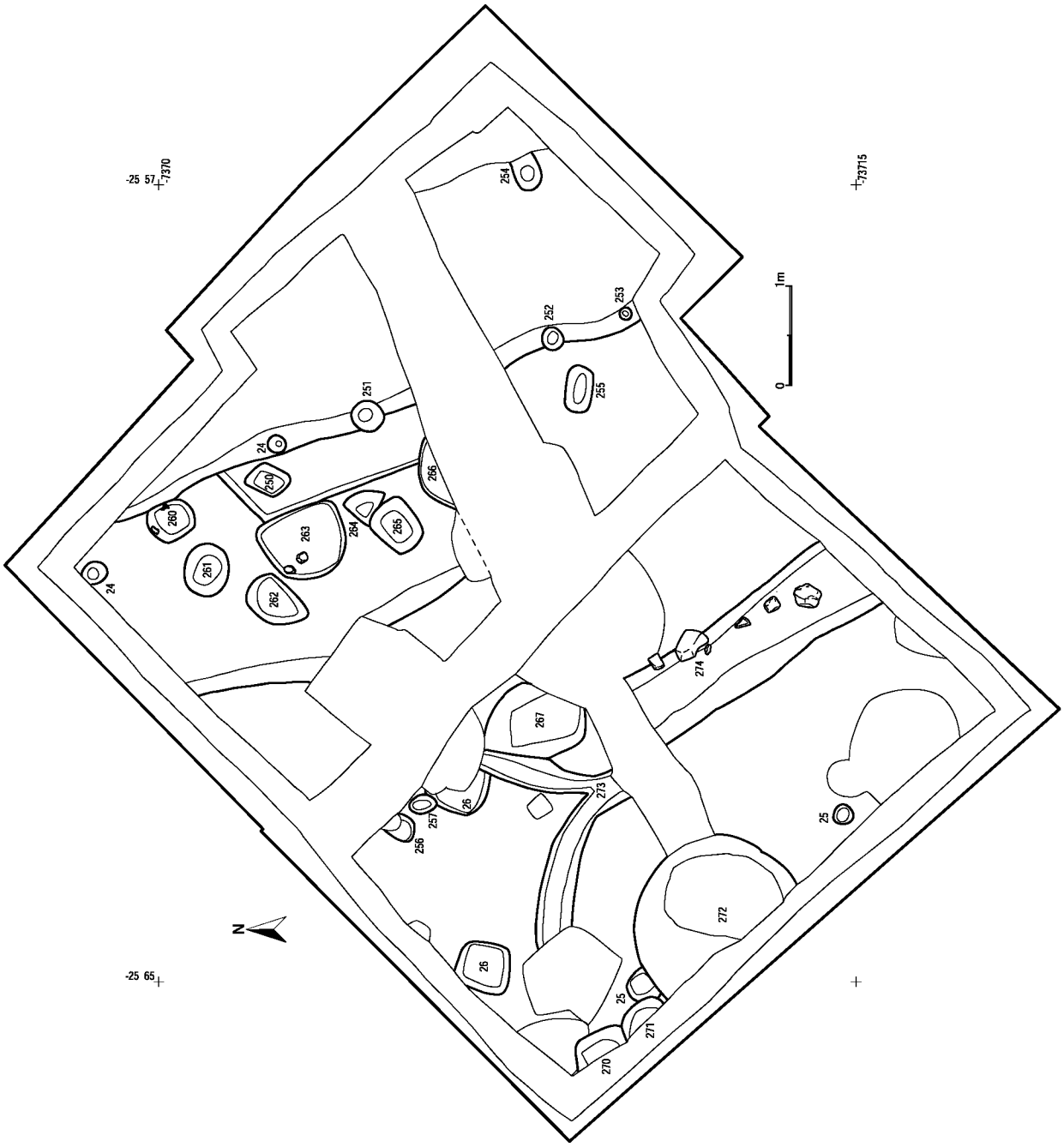


図 22　第５面全測図（S=1/65）

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
248	23.46	0.26	23.34
249	23.42	0.16	23.33
250	23.49	0.37	23.36
251	23.43	0.33	23.36
252	23.4	0.23	23.33
253	23.35	0.13	23.34

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
254	23.46	0.34	23.29
255	23.4	0.47	23.3
256	23.57	0.28	23.53
257	23.57	0.26	23.44
258	23.44	0.34	23.27
259	23.55	0.2	23.53

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
260	23.48	0.47	23.43
261	23.52	0.5	23.42
262	23.52	0.62	23.45
263	23.48	0.89	23.43
264	23.47	0.43	23.41
265	23.47	0.55	23.4

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
266	23.46	0.76	23.43
267	23.51	0.98	23.33
268	23.49	0.76	23.38
269	23.54	0.61	23.51
270	23.45	0.55	23.36
271	23.45	0.49	23.36

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
272	23.53	1.7	23.18
273	23.56	0.31	23.52
274	23.53	0.75	23.42

標高は 23.35 ～ 23.57m である。遺構としてピット 12 穴、土坑 13 基、溝状遺構 3 条を検出した。東側では馬糞のような茶褐色土の堆積が見られ、それを除去するとやや段差状の落ち込みとなった。西側には溝が数条見られる。ピットは少数で、掘立柱建物のプランを推定することはできない。

遺構間では切り合いが見られ、少なくとも 3 時期の時間差があると考えられる。

遺物はかわらけが少数検出されているのみである。

ピット

少数であり、建物の構造なども見出し難い。図示可能な遺物も出土せず。

土坑

遺構 272 はやや円形を呈するやや大型の土坑であるが、その他は深度も浅く、規模も小さい。

遺構 260（図 22）

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締まりややあり。砂粒を多く含む。出土遺物（図 23）：1 はかわらけ。

溝状遺構（図 22）

西側（2 区）で南北方向に走る溝状の落ち込み（遺構 274）とその北側で Y 字状に分かれるやや細い溝状の落ち込みが見られた（遺構 273）。いずれも末端が上面遺構のからの削平を受けていることもあり、明確ではない。273 と 274 の関係も幅の違いや軸のずれもあり、異なる遺構と考えられるが機能については不明瞭である。

第 5 面では遺構外や構成土で図示可能な遺物は出していない。

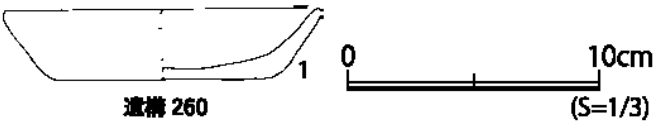


図 23　第 5 面出土遺物

第 8 節　第 6 面の遺構・遺物

第 6 面（図 24）は青緑色をなす細かい砂岩片を密に敷き詰めて整地を行った層であり、強固な地業をなしている。検出面の標高は 23.35 ～ 23.57m である。10 ～ 15cm ほど堆積し、場所によってやや差があるものの 5 ～ 6cm ほどの厚さで 2 度整地を行っており、間には薄く茶褐色粘質土が堆積している箇所もあり、上下二層に分かれる。1 区の東側では腐植土のような暗茶褐色土が厚く堆積し、その上に砂岩片を敷き詰めて平らに整地を行っていた。この箇所は次節で述べる第 7 面の石列に挟まれた部分の直上にあたり、この部分を埋めるために入れた土ではないかと考えられる。上層と下層ではやや砂岩片の色調が異なり、下層はやや暗い青色を呈していた。

遺構としてはピット 3 穴、土坑 2 基、溝状遺構 2 条を検出したが、土坑以外はあまり明瞭ではない。

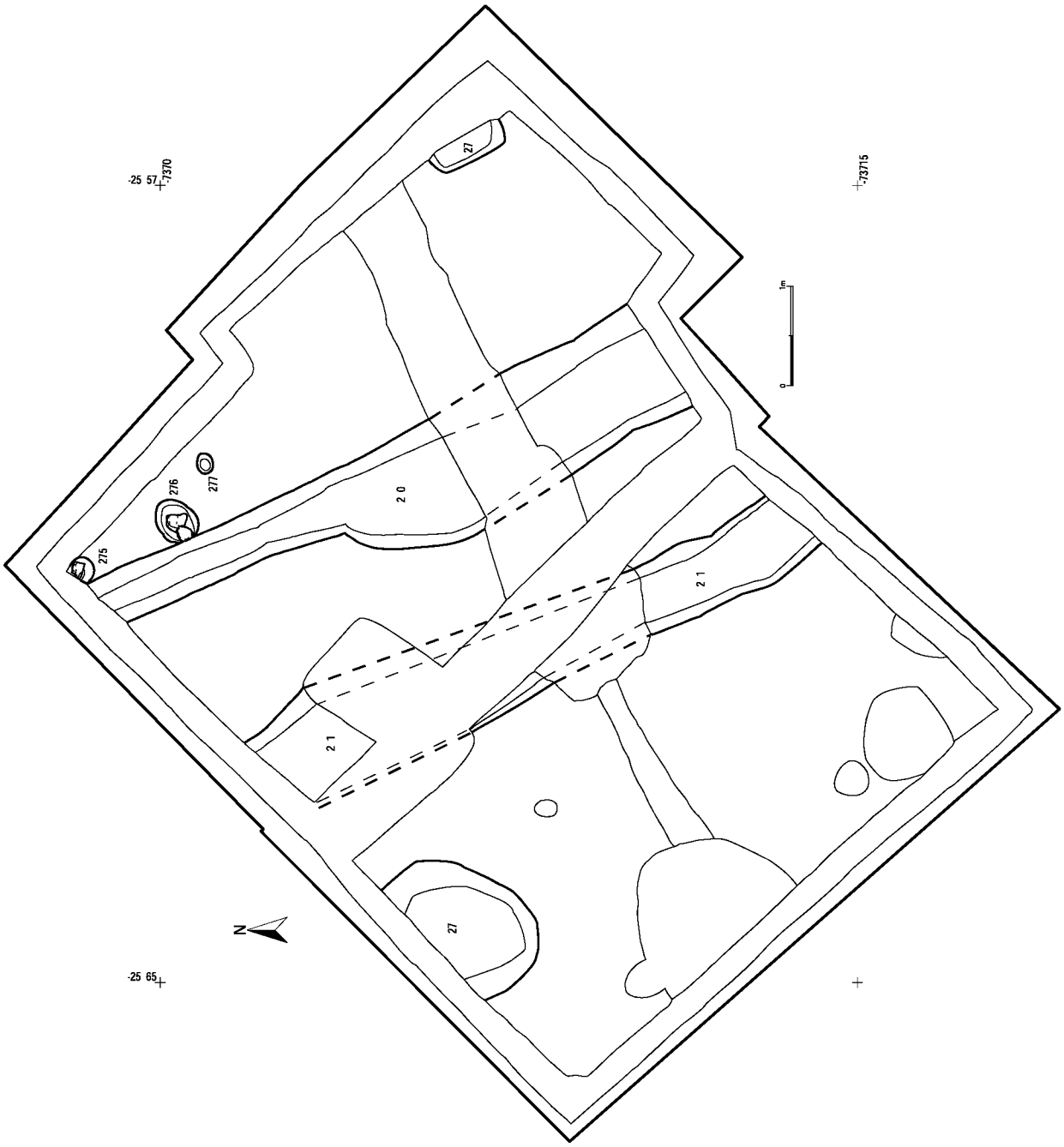


図 24　第 6 面全体図（S=1/65）

それぞれ切り合いも見られない。基本的には空閑地が大きく広がる空間であったと考えられる。

遺物は土坑 279 からかわらけが出土しているほかは遺構からの出土は見られない。

溝状遺構

遺構 280、281（図 24）

調査区ほぼ中央に南北方向に平行して走る溝が 2 条検出された。非常に浅く、溝と呼べるほど明確なものではなく、単純に砂岩片の地業が弱い箇所であるというだけのものである可能性もある。

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
275	23.34	0.26	23.23
276	23.36	0.45	23.32

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
277	23.38	0.2	23.35
279	23.41	0.8	23.05

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
280	23.4	0.53	23.28
280	23.33	–	23.23

遺構	上端レベル	上端最大径	底面レベル
281	23.42	1.02	23.33
282	23.33	0.31	23.27

図 25　6 面以下出土遺物

第 6 面構成土出土遺物（図 25）

第 6 面より第 7 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 25）：1 ～ 2 は土師器甕。

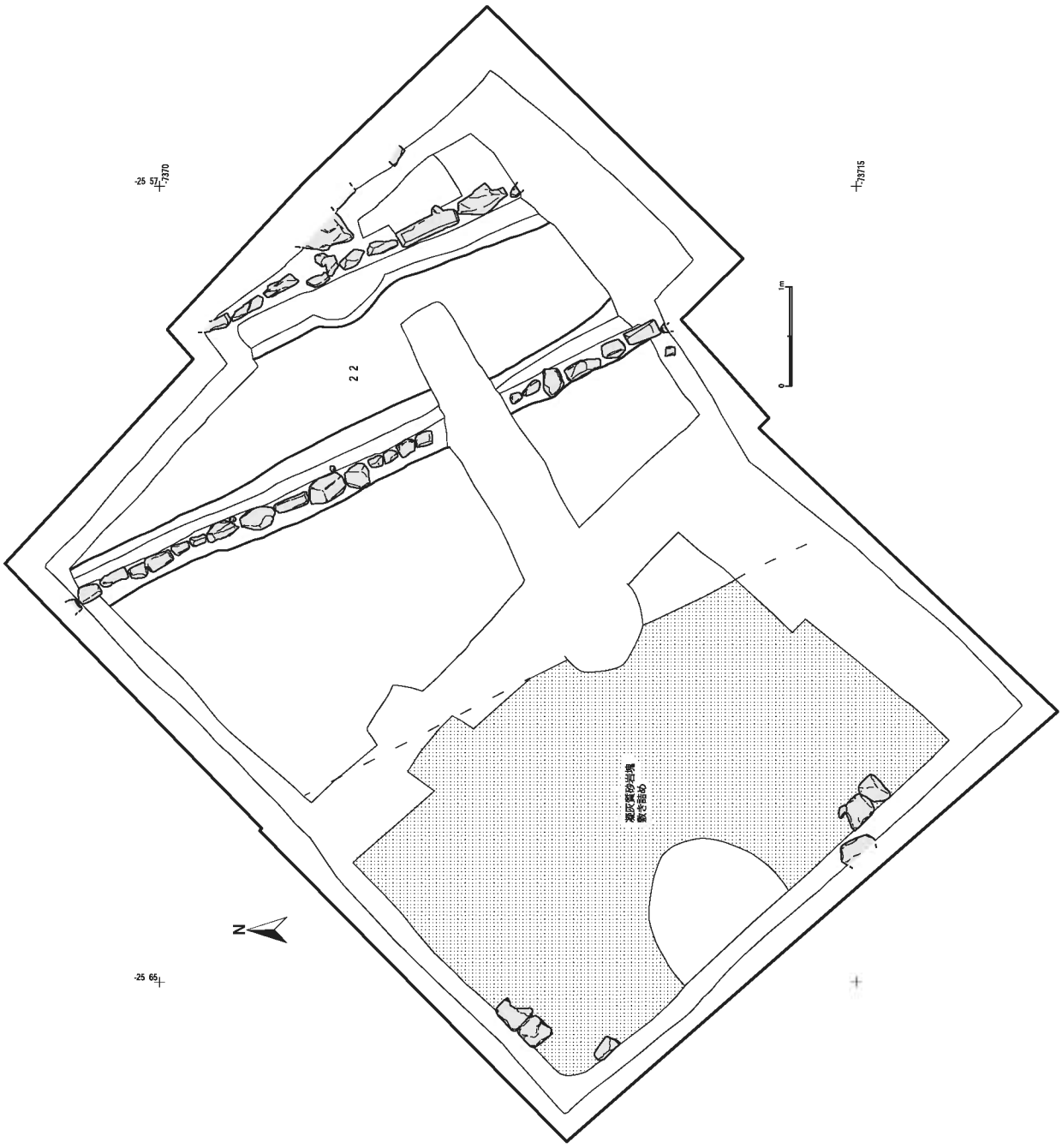


図 26　第 7 面全体図（S=1/65）

第９節　第７面の遺構・遺物

第７面(図 26)は大型の砂岩片を主体として基本的には平坦に整地をおこなった層である。西側(1 区)はほぼ全域が砂岩片を利用して地業を行っているが、東側（2 区）ではほとんど見られず、中央部は黄色土を充填し、非常に硬化しているため、なんらかの処置を行ったのではないかと推定される。東側には不整形に加工した凝灰質砂岩を列状に並べた石列遺構が平行して 2 条検出された。この石列の間には黄色土も確認されず、硬くしまった黒色土が見られるのみである。

検出面の標高は約 23.1 ～ 23.3m である。砂岩が場所によって異なるが概ね 10 ～ 20cm ほどの厚さで堆積しており、西側では人頭大の砂岩塊を大量に敷き詰めたあとに、やや細かな砂岩片をさらに上に堆積させており、平らに整地するために相当の労力をつぎ込んでいることが想定される。

遺構は石列状遺構が唯一のもので、その他は空閑地となっていた可能性が高い。また遺構に伴うような遺物は出土していない。第 7 面の構成土からもわずかな遺物しか確認されず、中世に属するかどうか判断が難しい。

石列上遺構

遺構 282（図 26）

遺構調査区東部に不整形に加工した凝灰質砂岩を列状に配した遺構が確認された。軸としては現在の JR 横須賀線にほぼ平行している。南北とも調査区外に続いていることは明らかであり、全長は判然としない。石のほぼ中心の距離は約 2m、石列 2 条の幅は約 2.1 ～ 2.2 m となる。東側は調査区外のため状況が不明であるが、石列を境に地面の状況が異なり、何らかの境界を示すものであることは明らかである。側溝のような構造物は不明である。

石列検出時の平面精査では不明であったが、断ち割った断面からみると（図 29)、石列の間が溝状に落ち込んでいた可能性が考えられる。その場合は溝の護岸的な機能が想定されるが、断定することは難しい。

第 7 面構成土出土遺物

７面より８面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 27）：1 は瀬美甕、2 は土師器坏。

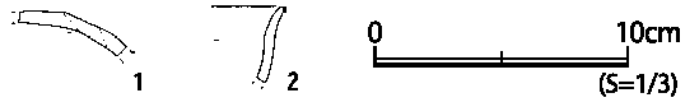


図 27　第 7 面構成土出土遺物

第 10 節　第 7 面以下

第 7 面で掘削深度がかなり深くなったこともあり、以下は部分的にトレンチでの掘り下げによる確認にとどまった（第 8 面：図 28)。掘り下げた状態についてはその断面のセクションを示す（図 29)。一部のみの掘り下げで全体の状況は詳細には分からないが、西側が高く、一度溝状に落ちこみ（遺構 283)、調査区中央部が再び高くなり、そこから東へ向かってややなだらかに溝状に落ち込む（遺構

284)。調査区東壁付近で再びやや高くなるが、それ以降は不明である。

第7面以下では砂岩片などを利用した地業は確認できなくなり、以下は基本的に黒褐色の粘質土によって構成される。下部に行くと砂が混入しはじめ、第7面より約30cmほど下、標高22.6ｍ程度で砂のみの層が検出された。しかし箇所によって堆積の状況が異なり、この砂層は途中から西に向かって急激に落ち込むようであり、西側（2区）ではそうした層が検出されず、黒色土層が続いている。

落ち込みは平行する溝状を呈するようにも見え仮に溝状の遺構として取り扱っているが、自然地形である可能性も否定できない。掘り下げるなかでわずかに遺物が検出されているが、基本的には中世以前の遺物であり、遺構として他に明確なものが検出されたわけでもなく、他箇所からの紛れ込みである可能性が高いと考えられる。

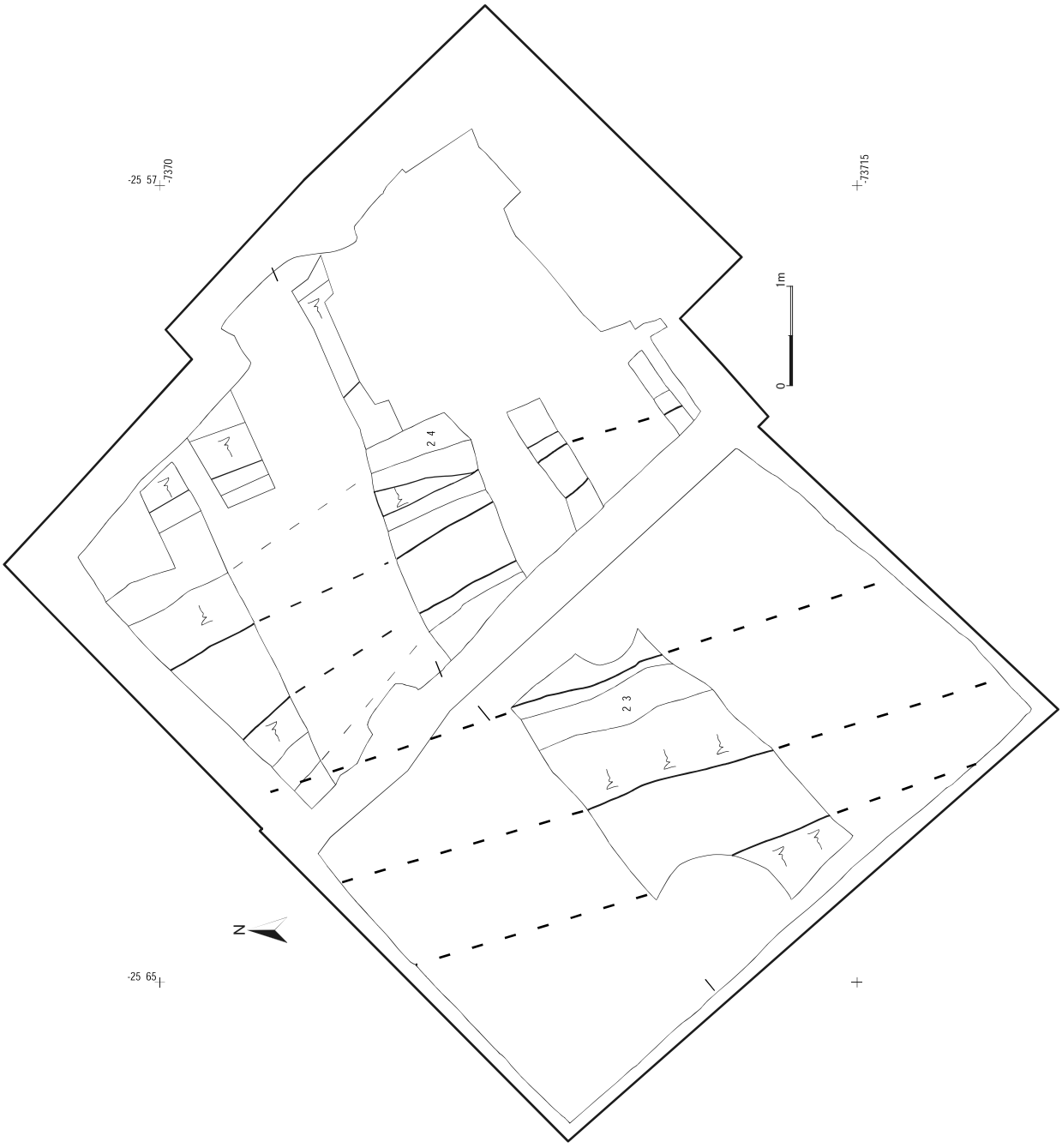
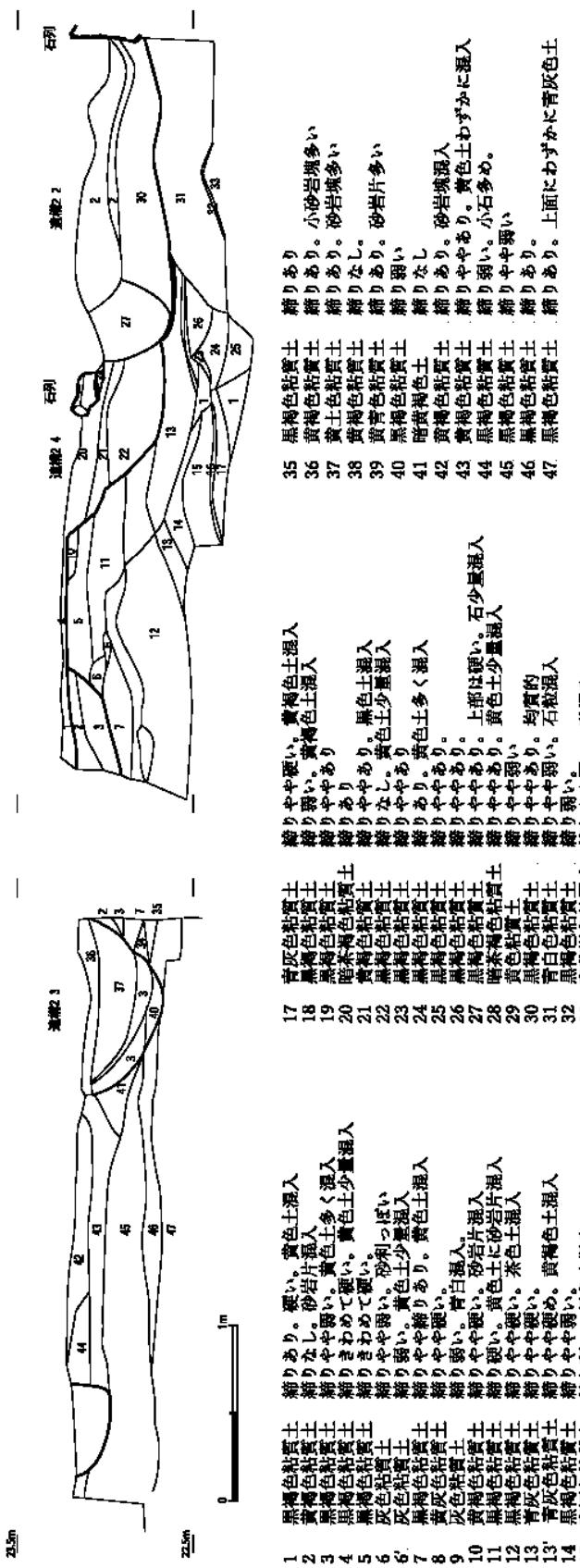


図28　第8面全体図（S=1/65）



1 黒褐色粘質土 締りあり。硬い。黄色土混入
2 黄褐色粘質土 締りなし。砂岩片混入
3 黒褐色粘質土 締りやや弱い。黄色土多く混入
4 黒褐色粘質土 締りきわめて硬い。黄色土少量混入
5 黒褐色粘質土 締りやや弱い。砂利っぽい
6 灰色粘質土 締り弱い。黄色土少量混入
6' 灰色粘質土 締りやや強い。
7 黒褐色粘質土 締りやや弱い。黄色土混入
8 黄灰色粘質土 締りやや硬い。
9 灰色粘質土 締り弱い。青白混入。
10 黄褐色粘質土 締りやや硬い。砂岩片混入
11 黒褐色粘質土 締りやや硬い。黄色土に砂岩片混入
12 黒褐色粘質土 締りやや硬い。茶色土混入
13 青灰色粘質土 締りやや硬い。
13' 青灰色粘質土 締りやや硬め。黄褐色土混入
14 黒褐色粘質土 締りやや弱い。
15 青灰色粘質土 締り強い。黒色土混入
16 黒褐色粘質土 締り弱い。
17 青灰色粘質土 締りやや硬い。黄褐色土混入
18 黒褐色粘質土 締り弱い。黄褐色土混入
19 黒褐色粘質土 締りやや弱い
20 暗茶褐色粘質土 締りあり
21 黄褐色粘質土 締りやや弱い。暗色土混入
22 黒褐色粘質土 締りなし。黄色土少量混入
23 黒褐色粘質土 締りやや弱い
24 黒褐色粘質土 締りあり。黄色土多く混入
25 黒褐色粘質土 締りやや弱い。
26 黒褐色粘質土 締りやや弱い。
27 黒褐色粘質土 締りやや弱い。上部は硬い。石少量混入
28 暗茶褐色粘質土 締りやや弱い。黄色土少量混入
29 黄色粘質土 締りやや弱い
30 黒褐色粘質土 締りやや弱い。均質的
31 青白色粘質土 締りやや弱い。石粒混入
32 黒褐色粘質土 締りやや弱い。
33 青茶褐色粘質土 締りやや弱い。砂混入
34 黄褐色粘質土 締り強い
35 黒褐色粘質土 締りあり
36 黄褐色粘質土 締りあり。小砂岩塊多い
37 黄土色粘質土 締りあり。砂岩塊多い
38 黄褐色粘質土 締りなし。
39 黄青色粘質土 締りあり。砂岩片多い
40 黒褐色粘質土 締り弱い
41 暗黄褐色土 締りなし
42 黄褐色粘質土 締りあり。砂岩塊混入
43 黄褐色粘質土 締りややあり。黄色土わずかに混入
44 黒褐色粘質土 締り弱い。小石多め。
45 黒褐色粘質土 締りやや弱い
46 黒褐色粘質土 締りあり。
47 黒褐色粘質土 締りあり。上面にわずかに青灰色土

図 29　第 7 ～ 9 面セクション図（S=1/40）

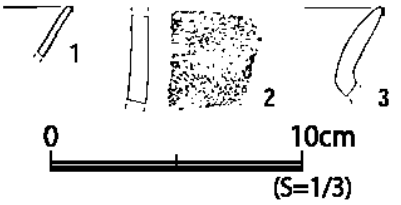


図 30　第 8 面以下出土遺物

第 8 面以下出土遺物

第 8 面以下の掘り下げで出土した遺物（図 30）：1 は白磁碗、2 ～ 3 は土師器甕。

第 11 節　その他の遺物

遺構以外の出土品で残存状態の良好な遺物を掲示しておく（図 31）。1 ～ 14 は表土出土。10-1 は近現代に属する。磁器の碗である。2 は大型かわらけ、3 ～ 10 は小型かわらけ。11 は軒平瓦、12 ～ 13 は丸瓦。14 は木製品で板状加工品。15 ～ 16 は廃土より検出。15 は大型かわらけ、16 は小型かわらけ。

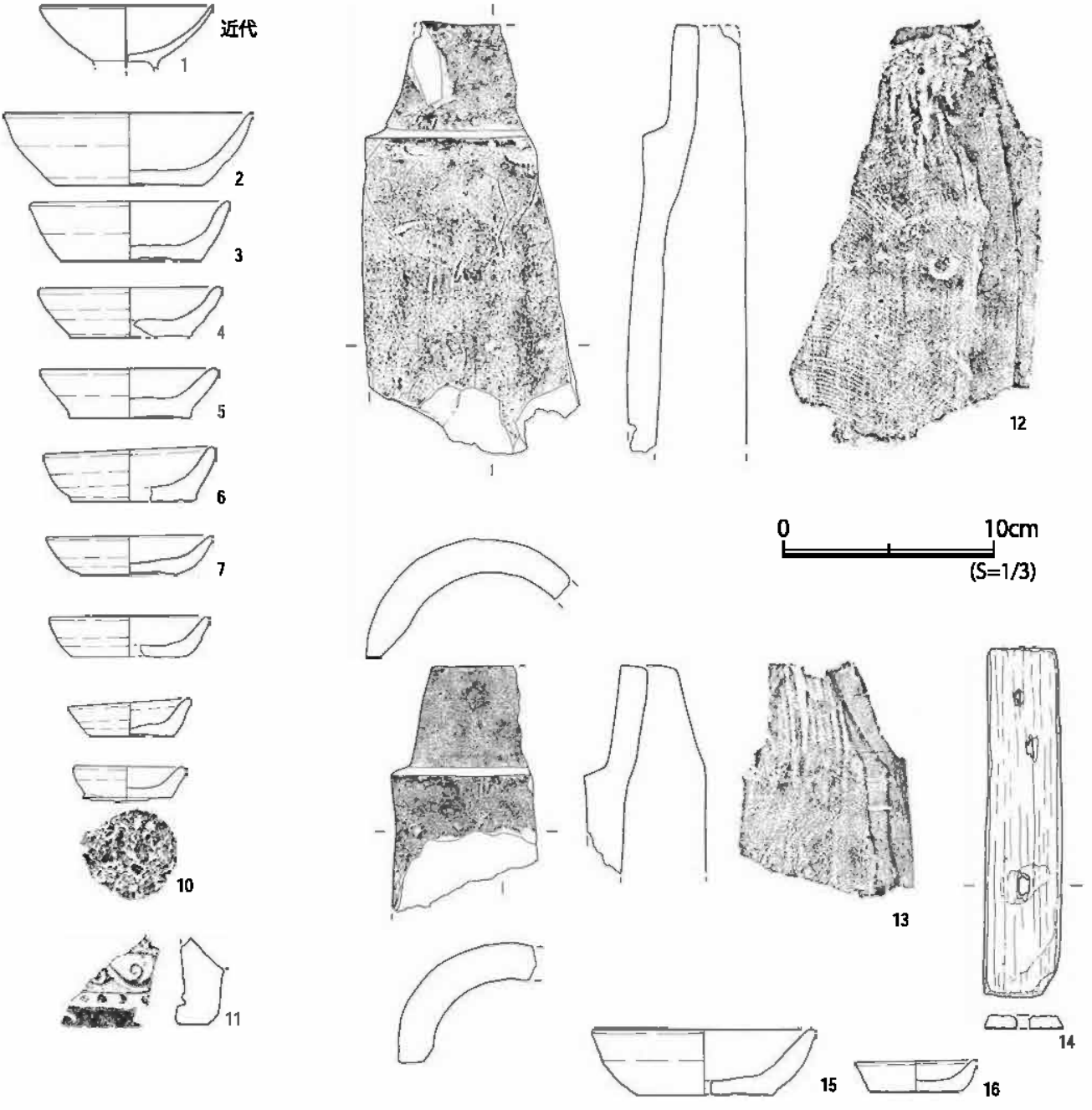


図 31　表土および廃土検出遺物

第三章　考察とまとめ

中世の遺構面が3面検出され、それぞれに建造物が確認された。第1面は泥岩粒を混入した整地層で、第2面、3面はほぼ泥岩粒を含まなくなる。第3面以下は基本的に自然堆積であると思われ、この面を中世基盤層と判断した。

第1面は近代造成に伴うと考えられる大規模な土坑があり、内部には凝灰質砂岩が詰め込まれていた。中世に属すると思われるような遺構は確認できていないが、表土層を取り払った状態から第2面までの掘り下げで中世遺物が確認され、これを第1面構成土とした。遺物量が少ないが、おおむね出土遺物から所属時期は15世紀に属すると考えられる。

第2面は黒褐色土層に破砕した砂岩を少量混入した整地層である。検出面の標高はおよそ23.85～24.00ｍで、層を掘り込んだ遺構としてピット17穴、土坑16基、溝状遺構2状を検出した。溝はほぼ平行して北西－東南方向に延び、いずれも調査区外へさらに継続している。調査区北側にはやや大型の土坑が複数見られ、南側にはかわらけを大量に敷き詰めたような大型の土坑が検出された。溝はこの土坑を切っており、遺物の状況から見ても、第2面は大きく時期の違う遺構が混在しており、上方は近代の造成などによって削平を受けていることが想定され、それぞれの構築面は異なる可能性がある。

ピットは少数検出されているが、散在しており、建物の構造などは明確にはし得ない。また切り合いからは少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、青白磁、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘、滑石製品などが出土している。

出土遺物から所属時期は14世紀後半～15世紀に属すると考えられる。

第2ａ面は黄褐色の砂岩片を多く含む暗褐色土による整地層である。上部の遺構による削平部が多い。検出面の標高はおよそ23.7～23.87ｍである。遺構としてピット39穴、土坑30基、特殊な形態の土坑1基を検出した。東側では大型の土坑が多く切り合い、西側でも土坑が多く切り合って構築されている。ピットはやや多いが、上面遺構の破壊が多いこともあり、建物のプランなどは明らかにし得ない。切り合いから少なくとも4時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、白かわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、瓦、鉄釘などが出土している。

出土遺物から所属時期は14世紀前半に属すると考えられる

第3面は黄褐色の破砕された砂岩粒を主体に暗褐色粘質土が混入した整地層である。検出面の標高は23.64～23.78ｍである。遺構としてピット43穴、土坑20基、溝状の土坑3条が検出された。

東側（1区）では上面遺構による破壊が激しく、第3面はごく一部しか残存していない。東北部では直角に曲がる溝があり、西南部にも東西方向でそれに平行する溝が見られる。溝の周囲には植栽痕かと思われる小型の穴が複数検出されたが、その性格は不明瞭である。西側（2区）では東の溝に続く痕跡が確認されず、大型の土坑で遮断されるような状態であった。西側は土坑が多く、中央部にはやや特殊な形の土坑がみられる。ピットも複数検出したが、建物のプランなどを復元するには至っていない。遺

構は多数の切り合いが見られ、少なくも3時期の時間差があると考えられる。
遺物は主にかわらけ、常滑、青白磁、瓦、銅銭、鉄釘などが出土している。
出土遺物から所属時期は14世紀前半に属すると考えられる

第4面は砂岩粒を多く含んだ黄褐色土による整地層である。検出面の標高は23.5～23.67ｍである。遺構としてピット25穴、土坑9基を検出した。全体的に検出される遺構数が少ない。北東部では植栽痕のような小坑が確認されたが、まばらで規則性は見出せない。土坑も小型で少数であり、空閑地が広がっているような印象となる。掘立柱建物のようなプランも不明瞭である。遺構の切り合いが見られ、少なくとも4時期の時間差があると考えられる。
遺物は主にかわらけ、白磁、瓦などが出土しているのみである。
遺構から図示可能な遺物は出土していない。
出土遺物から所属時期は14世紀前半に属すると考えられる

第4a面は砂岩粒主体の明黄褐色土により比較的丁寧に整地された層である。4面との比高差があまりないが、構成する堆積土の様子が大きく変化するため、4a面とした。南側は近代の遺構の掘り込みより消失している。検出面の標高は23.49～23.60ｍである。遺構としてピット21穴、土坑7基、溝状遺構3条を検出した。東側（1区）では3面の南側の溝とほぼ同じ位置にやや逆台形の溝が検出され、掘り直しをしていることが確認された。ピットは少数で建物を構築しているようには見えない。北側にはやはり植栽痕のような小坑が検出されているが、まばらで不規則でありその性格は不明である。西側は土坑などが数基ある他はほとんど遺構が見られず、空閑地であったのだろうか。
遺構は切り合いが見られ、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。
遺物はかわらけの他は古代に属すると思われる小片がみられるのみである。
出土遺物から所属時期は13世紀後半に属すると考えられる

第5面は第4a面に類似した砂岩粒を多く含む黄褐色粘質土で構成されている。薄く茶褐色粘質土を挟んで1層ほど貼り直しのような状況が見られるが、面としては一括して取り扱う。検出面の標高は23.35～23.57mである。遺構としてピット12穴、土坑13基、溝状遺構3条を検出した。東側では馬糞のような茶褐色土の堆積が見られ、それを除去するとやや段差状の落ち込みとなった。西側には溝が数条見られる。ピットは少数で、掘立柱建物のプランを推定することはできない。
遺構間では切り合いが見られ、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。
遺物はかわらけが少数検出されているのみである。
出土遺物から所属時期は13世紀後半に属すると考えられる

第6面は青緑色をなす細かい砂岩片を密に敷き詰めて整地を行った層であり、強固な地業をなしている。検出面の標高は23.35～23.57mである。10～15cmほど堆積し、場所によってやや差があるものの5～6cmほどの厚さで2度整地を行っており、間には薄く茶褐色粘質土が堆積している箇所もあり、上下二層に分かれる。1区の東側では腐植土のような暗茶褐色土が厚く堆積し、その上に砂岩片を敷き詰めて平らに整地を行っていた。この箇所は次節で述べる第7面の石列に挟まれた部分の直上にあたり、この部分を埋めるために入れた土ではないかと考えられる。上層と下層ではやや砂岩片の色調が異な

り、下層はやや暗い青色を呈していた。
遺構としてはピット3穴、土坑2基、溝状遺構2条を検出したが、土坑以外はあまり明瞭ではない。それぞれ切り合いも見られない。基本的には空閑地が大きく広がる空間であったと考えられる。
遺物は土坑279からかわらけが出土しているほかは遺構からの出土は見られず、図示できるような状態の遺物は存在しない。構成土からは中世以前の遺物のみが検出されている。

第7面は大型の砂岩片を主体として基本的には平坦に整地をおこなった層である。西側（1区）はほぼ全域が砂岩片を利用して地業を行っているが、東側（2区）ではほとんど見られず、中央部は黄色土を充填し、非常に硬化しているため、なんらかの処置を行ったのではないかと推定される。東側には不整形に加工した凝灰質砂岩を列状に並べた石列遺構が平行して2条検出された。この石列の間には黄色土も確認されず、硬くしまった黒色土が見られるのみである。
検出面の標高は約23.1～23.3mである。砂岩が場所によって異なるが概ね10～20cmほどの厚さで堆積しており、西側では人頭大の砂岩塊を大量に敷き詰めたあとに、やや細かな砂岩片をさらに上に堆積させており、平らに整地するために相当の労力をつぎ込んでいることが想定される。
遺構は石列状遺構が唯一のもので、遺物は出土していない。また第7面の構成土からもわずかな遺物しか確認されず、中世に属するかどうか判断が難しい

第7面以下は部分的にトレンチでの掘り下げによる確認にとどまった。一部のみの掘り下げで全体の状況は詳細には分からないが、西側が高く、一度溝状に落ちこみ、調査区中央部が再び高くなり、そこから東へ向かってややなだらかに溝状に落ち込む。調査区東壁付近で再びやや高くなるが、それ以降は不明である。
第7面以下では砂岩片などを利用した地業は確認できなくなり、基本的に黒褐色の粘質土によって構成される。下部に行くと砂が混入しはじめ、第7面より約30cmほど下、標高22.6m程度で砂のみの層が検出された。しかし箇所によって堆積の状況が異なり、この砂層は途中から西に向かって急激に落ち込むようであり、西側（2区）ではそうした層が検出されず、黒色土層が続いている。
落ち込みは平行する溝状を呈するようにも見え仮に溝状の遺構として取り扱っているが、自然地形である可能性も否定できない。掘り下げるなかでわずかに遺物が検出されているが、基本的には中世以前の遺物であり、遺構として他に明確なものが検出されたわけでもなく、他箇所からの紛れ込みである可能性が高いと考えられる。

第7面以下の黒色土の落ち込みは遺構である可能性もあるが、断定できない。黒色土中出土遺物は基本的に古代以前のものであるが、それらに関わる遺構は本調査地点では確認できず、周囲から紛れ込んだものと推定される。この黒色土を中世基盤層と考えておきたい。

第7面の遺構も遺物に乏しく判断基準に欠けるが、中世に属するものと推定する。第7面の構築は、落ち込み（あるいは溝）を埋め立て、砂岩塊や砂岩片を利用して強固に精緻し、平坦な地面を作りだしている。こうした砂岩片を利用した地業は近隣の調査地点でも確認されており、山ノ内地域が開発されるにともない大がかりな整地が行われたのではないかと想定される。
市内の調査で一般的な泥岩を利用した地業ではなく凝灰砂岩を利用したものであり、周囲の丘陵からの

土石を利用したためと考えられる。

第5面にいたるまでは遺構、遺物ともに少なく、建物などが密集する状態ではなかったことがうかがわれる。第4面以降は比較的検出される遺構や遺物が増加するが、全体として遺物の出土量は少なく、第2面でのかわらけの大量廃棄がやや本調査地点ではやや特異な状況を示していると言える。

周囲は円覚寺やそれを取り巻く塔頭、また最明寺など多数の寺院が存在し、また東側の尾根には多数のやぐらが造営されていることなどからも、本調査地点は本来寺院に関わる性格の強い場であったことが想定される。円覚寺境内絵図からは鎌倉時代末には蔵六庵の敷地お一画であった可能性が高い。しかしそうであったとしても、中心部であったとは言えない。寺院との関わりを伺えるような遺構、遺物ともに乏しい。

第7面の石列遺構はＪＲ横須賀線に平行するような軸で、その後の溝はそれに直交する軸となり、第2面では再び平行する軸となる。ややズレはあるが、第7面石列と共通する軸で構築され、東側の尾根や西側の山之内道の影響を受けていると考えられる。こうした状況は周囲の調査地点の成果とも類似し、時期が変化しても区画の基本的な意識は大きく変わっていないことが伺える。

第2面になって地業の内容や遺構の構築にそれまでと比較的差があるように見受けられ、土地利用の形が大きく変化したことが想定される。

周囲の調査事例も十分でない状況では細かく土地利用の性格を検証するまでには至らなかった。今後のさらなる検討が必要である。

表１　中世出土遺物観察表

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
5-1	1	構成土	土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	12.2	7.0	3.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　海綿骨針　良土　黄橙色　e: 良好
5-2			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2 弱	(8.6)	5.2	2.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　海綿骨針　橙色　e: 良好
5-3			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(8.0)	(5.3)	2.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　良土　黄橙色　e: 良好
5-4			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(8.2)	(10.5)	2.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　黄橙色　e: 良好
5-5			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	6.7	5.4	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土灰黄色　e: 良好
5-6			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(5.5)	(4.1)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　海綿骨針　小石粒　良土　橙色　e: 良好
5-7			陶器	磨り常滑	-	6.7	7.7	1.2		b: 灰色　微砂　長石　小石粒　c: 茶褐色　e: 良好
8-1	2	16	土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.4)	(5.2)	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
8-2		18	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2 弱	(8.2)	5.4	2.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（ 右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
8-3		18	土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.4	4.4	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　海綿骨針　良土　橙色　e: 良好
8-4		19	土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.8	5.3	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
8-5			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.7	5.0	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（ 右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
8-6			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.6	5.3	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好　f: ナデの順番が内底→器壁
8-7			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.4	4.7	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
8-8			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.3	4.6	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
8-9			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.3	4.3	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
8-10			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.4	4.3	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（ 右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
8-11			土製品	ロクロかわらけ（大）	5/6	(12.2)	(7.8)	3.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
8-12		20	土製品	ロクロかわらけ（中）	1/2	9.4	6.5	2.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　黄橙色　e: 良好
8-13			陶器	瀬戸折縁皿	口縁部片			[2.6]		a: ロクロ成形 b: 灰白色　赤色粒少　c: 灰緑色　d: 灰釉ハケ塗り　e: 良好　f: 藤澤編年中期後半～後期前半
8-14		21	土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.8)	5.2	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-15		23	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(8.0)	(5.9)	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-16		25	土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	7.2	4.6	2.25		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好　f: 口唇部付近まで内底横ナデ痕
8-17			磁器	白磁口兀皿	口縁部小片	-	-	[2.4]		b: 白色　精良堅緻　c:　d: 灰白色透明釉　釉層薄い　f: 大宰府 - 白磁Ⅲ区Ⅸ類
8-18			陶器	瀬戸花瓶Ⅲ類か	口縁部片	-	-	[5.1]		a: ロクロ成形　b: 灰白色　砂粒　白色粒　良土　c: 灰緑色　d: 灰釉　e: 良好　f: 藤澤編年後期か
8-19		27	土製品	ロクロかわらけ（大）	5/6	13.4	7.6	3.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
8-20			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(13.4)	(8.6)	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
8-21			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(7.2)	(4.8)	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-22		29	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(7.1)	(5.0)	1.65		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-23		30	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(6.8)	(4.2)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-24		32	土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(14.8)	(9.1)	4.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　黄橙色　e: 良好
8-25			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/6	(11.9)	(6.2)	3.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや粗土　黄橙色　e: 良好　f: 口唇部に油煤痕付着
8-26			土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	8.1	5.1	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　灰黄色　e: 良好
8-27			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	6.7	5.2	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　小石粒　やや粗土　灰黄色　e: 良好
8-28			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(6.6)	(4.6)	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
8-29	2	32	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	5.3	4.7	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　橙色　e: 良好　f:: 口唇部に油煤痕付着
8-30			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	6.9	4.7	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　黄橙色　e: 良好
8-31		33	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[5.1]		a: 粘土紐輪積技法　b: 暗灰色　砂粒　長石　石英　白色粒　やや粗土　c: 黒褐色　e: 良好　f: 中野編年 8 型式か
8-32			鉄製品	釘	-	長 [4.1]	幅 [0.3]	厚 [0.4]		f: 四角状鍛造
8-33		構成土	土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	11.6	6.9	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-34			土製品	ロクロかわらけ（中）	3/4	10.0	6.3	3.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
8-35			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	9.1	6.2	2.25		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 鉄分付着
8-36			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	8.6	4.4	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ無調整　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　精良土　赤橙色　e: 良好　f:12c 末頃の内底ナデ無調整タイプに似ている←要チェック
8-37			土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	(9.0)	5.6	2.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 鉄分付着
8-38			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(7.6)	(5.4)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
8-39			土製品	ロクロかわらけ（小）	ほぼ完形	7.3	5.4	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
8-40			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(6.2)	(4.4)	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
8-41			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	6.8	4.8	2.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　良土　c: 黄橙色　e: 良好
8-42			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(6.6)	(4.8)	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好　f: 口唇部に油煤付着
8-43			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.6	4.4	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
8-44			土製品	ロクロかわらけ（小）	4/5	5.8	4.3	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
8-45			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	6.0	4.4	2.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　黄橙色　e: 良好
8-46			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.3	4.5	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　良土　c: 橙色　e: 良好
8-47			陶器	瀬戸四耳壺？	底部片			[3.0]		a: ロクロ成形　b: 灰白色　砂粒　白色粒　c: 灰白色　d: 釉調　e: 焼成　f: 藤澤編年後期前半か
8-48			陶器	常滑甕	縁帯部小片	-	-	[5.1]		a: 粘土紐輪積技法　b: 灰色　長石　石英　小石粒　c: 内面 : 褐色　外面 : 茶褐色　d: 灰黄色　口縁部一部自然降灰　e: 良好　f: 中野編年 10 型式
10-49		34	土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	12.5	7.9	3.5 3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c 黄 : 橙色　e: 良好
10-50			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	12.6	8.0	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c 黄 : 橙色　e: 良好　f: 口唇部に油煤付着
10-51			土製品	ロクロかわらけ（大）	7/8	13.4	8.1	3.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　良土　c 橙色　e: 良好
10-52			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	12.3	8.0	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c 橙色　e: 良好
10-53			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	12.6	8.1	3.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　良土　黄橙色　e: 良好
10-54			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	12.5	(8.0)	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　良土　c 黄橙色　e: 良好
10-55			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	12.0	7.7	3.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c 橙色　e: 良好　f: 口唇部油煤付着
10-56			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(11.7)	(7.2)	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c 黄橙色　e: 良好
10-57			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	12.8	7.3	3.7 3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
10-58			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(12.4)	7.6	3.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c 橙色　e: 良好
10-59			土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	12.4	6.8	3.6 3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 橙色　e: 良好
10-60			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(12.4)	(7.0)	3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c: 灰黄色　e: 良好
10-61			土製品	ロクロかわらけ（大）	完形	12.2	7.6	3.2 3.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c: 黄橙色　e: 良好
10-62			土製品	ロクロかわらけ（大）	9/10	12.2	6.0	3.4		a: ロクロ成形　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　良土　c: 黄灰色　e: 良好

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
10-63			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(8.5)	(5.8)	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c 黄：橙色　e: 良好
10-64			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.8)	6.0	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
10-65			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	8.1	5.7	1.9 1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
10-66			土製品	ロクロかわらけ（小）	5/6	7.9	5.6	1.65		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
10-67			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	12.8	8.7	3.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや粗土　橙色　e: 良好　f: 口唇部に油煤痕付着
10-68			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	12.5	8.4	3.65 3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
10-69			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	12.2	7.5	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　灰黄色　e: 良好
10-70			土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	11.9	7.3	4.1 3.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
10-71			土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	11.9	7.3	3.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　灰黄色　e: 良好
10-72			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(11.7)	(8.0)	3.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　灰黄色　e: 良好
10-73			土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	(11.7)	(8.0)	3.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
10-74			土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	(11.7)	(6.8)	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　橙色　e: 良好
10-75			土製品	ロクロかわらけ（大）	完形	11.6	7.5	3.6 2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　やや粗土　灰黄色　e: 良好
10-76			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	8.3	6.2	1.9 1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや粗土　橙色　e: 良好
10-77			土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	(8.0)	(4.9)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや良土　灰黄色　e: 良好
10-78			土製品	ロクロかわらけ（小）	4/5	8.0	5.5	1.95		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや良土　灰黄色　e: 良好
10-79			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2 弱	(7.8)	(6.0)	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや良土　橙色　e: 良好
10-80			土製品	ロクロかわらけ（小）	ほぼ完形	7.3	5.0	1.6 1.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　やや粗土　灰黄色　e: 良好
10-81	2	34	土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.3)	(5.2)	1.65		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや良土　橙色　e: 良好
10-82			土製品	ロクロかわらけ（小）	ほぼ完形	7.4	4.5	1.65		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや粗土　黄橙色　e: 良好
10-83			土製品	ロクロかわらけ（極小）	1/2	(4.2)	(3.4)	0.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや良土　橙色　e: 良好
10-84			土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	12.6	8.0	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
10-85			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	12.3	7.6	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
10-86			土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	(12.7)	(7.9)	3.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
10-87			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	12.4	7.1	3.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
10-88			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	12.2	8.5	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
10-89			土製品	ロクロかわらけ（小）	5/6	8.0	6.3	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針 やや粗土　黄橙色　e: 良好
10-90			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.8)	(5.2)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　灰黄色　e: 良好
10-91			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(7.8)	(5.4)	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
10-92			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(12.9)	(7.2)	3.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　橙色　e: 良好
10-93			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	12.6	8.2	3.4 3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
10-94			土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	12.1	7.4	3.25		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
10-95			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	12.3	7.2	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　橙色　e: 良好
10-96			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(8.3)	(5.5)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　灰黄色　e: 良好
10-97			土製品	ロクロかわらけ（小）	4/5	7.6	4.8	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
10-98			土製品	瓦器 碗	1/3	(12.0)	(6.0)	3.4		a: ロクロ成形　内外面ヘラミガキ　指頭圧痕　b: 灰白色　白色粒　やや粗土　c; 黒色　f: 黒色処理

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
11-99	2	34	土製品	ロクロ かわらけ（大）	2/3	(14.2)	(7.6)	3.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
11-100			土製品	ロクロ かわらけ（大）	1/4	(13.5)	(8.6)	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　灰黄色　e: 良好　f: 口唇部に油煤痕付着
11-101			土製品	ロクロ かわらけ（大）	1/3	(13.4)	(7.1)	3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　黄橙色　e: 良好　f:
11-102			土製品	ロクロ かわらけ（大）	2/3	12.8	7.7	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
11-103			土製品	ロクロ かわらけ（大）	2/3	(13.0)	(7.2)	3.7		a: ロクロ成形　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　橙色　e: 良好
11-104			土製品	ロクロ かわらけ（大）	3/4	(12.7)	(7.2)	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
11-105			土製品	ロクロ かわらけ（大）	3/4	12.5	7.8	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
11-106			土製品	ロクロ かわらけ（大）	ほぼ完形	12.3	7.2	3.9 3.55		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　灰黄色　e: 良好
11-107			土製品	ロクロ かわらけ（大）	4/5	12.3	8.0	3.15		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
11-108			土製品	ロクロ かわらけ（大）	7/8	12.1	6.7	3.65 3.35		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　黄橙色　e: 良好
11-109			土製品	ロクロ かわらけ（大）	1/3	(12.1)	(8.5)	2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
11-110			土製品	ロクロ かわらけ（大）	1/2	11.8	7.2	3.45 2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
11-111			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/3	(8.4)	(5.8)	2.05		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　灰黄色　e: 良好
11-112			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/2	(8.3)	(5.4)	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
11-113			土製品	ロクロ かわらけ（小）	2/3	(7.9)	(5.0)	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄灰色　e: 良好
11-114			土製品	ロクロ かわらけ（小）	3/4	(7.7)	(5.9)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄灰色　e: 良好
11-115			土製品	ロクロ かわらけ（小）	3/4	(7.5)	(5.0)	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　黄橙色　e: 良好
11-116			土製品	ロクロ かわらけ（小）	2/3	7.7	5.2	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　灰黄色　e: 良好
11-117			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/3	7.9	5.7	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
11-118			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/2	(7.8)	(5.6)	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　灰黄色　e: 良好
11-119			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/2 弱	(7.7)	(5.2)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　赤色粒　海綿骨針　やや良土　灰黄色　e: 良好
11-120			土製品	ロクロ かわらけ（大）	1/4	(11.2)	(5.8)	2.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
11-121			土製品	ロクロ かわらけ（小）	2/3	(7.4)	(5.4)	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
11-122			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/4	(4.6)	(4.2)	0.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
14-1	2a	44	銅製品	銭		直径 2.35	内孔 0.65	厚 0.14	重 2.7	f: 嘉祐元寶　北宋 1056 年　真書
14-2		48	土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/4	(8.6)	(5.4)	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切・板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 黄橙色　e: 良好
14-3		50	土製品	ロクロ かわらけ（大）	ほぼ完形	11.9	6.9	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 内外面部分的に黒色に変色
14-4		80	磁器	青磁 香炉か？	口縁部小片	-	-	[2.9]		b: 灰白色　精良堅緻　d: 水青色不透明釉　釉層厚い気泡有り　e: 堅緻　f: 内面、口縁部下から鱗胎
14-5		81	土製品	ロクロ かわらけ（小）	完形	6.9	4.2	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
14-6		93	磁器	青磁 蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[3.4]		b: 灰白色　精良堅緻　d: 灰緑色半透明釉　釉層薄い　f: 大宰府 - 龍泉窯系青磁Ⅱ～Ⅲ類
14-7		95	土製品	ロクロ かわらけ（大）	3/4	(11.0)	(6.2)	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
14-8		98	土製品	ロクロ かわらけ（大）	3/4	(12.0)	(7.6)	3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
14-9			土製品	ロクロ かわらけ（中）	1/3	(10.6)	(6.8)	3.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄灰色　e: 良好
14-10			土製品	ロクロ かわらけ（小）	4/5	7.8	5.5	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　やや粗土　c: 黄灰色　e: 良好
14-11			土製品	ロクロ かわらけ（小）	1/4	(7.6)	(5.8)	1.55		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針 泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
14-12			磁器	白磁 口兀皿	口縁部小片	-	-	[3.6]		b: 白色　精良堅緻　d: 乳白色透明釉　釉層薄い　f: 大宰府 - 白磁ⅢIX類

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
14-13	2a	構成土	土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(12.8)	(9.0)	3.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
14-14			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	12.2	8.2	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 口唇部煤付着
14-15			土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	(11.6)	7.4	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 黄橙色　e: 良好
14-16			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2 弱	12.4	8.0	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
14-17			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(13.0)	(8.0)	3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
14-18			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/4	(12.4)	(7.0)	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　良土　c: 橙色　e: 良好
14-19			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完形	12.5	7.0	3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 黄橙色　e: 良好
14-20			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(8.2)	(6.0)	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 口唇部に油煤付着
14-21			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(7.8)	(5.8)	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
14-22			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(7.5)	(6.0)	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　良土　c: 橙色　e: 良好
14-23			鉄製品	釘	-	長 [5.8]	幅 0.9	厚 0.6		f: 四角状鍛造
17-1	3	109	土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	(7.4)	(5.0)	1.65		a: ロクロ成形　内底ナデ　板状圧痕　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
17-2		112	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(7.3)	(4.7)	1.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 灰黄色　e: 良好　f: 焼成前口縁部押し込む（打ち欠きの様になっている）
17-3		114	土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(12.4)	(7.8)	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
17-4		121	土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	10.9	6.9	3.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 歪み大
17-5		123	磁器	白磁 口冗輪花皿	口縁部小片	-	-	[1.4]		b: 白色　精良堅緻　d: 乳白色透明釉　釉層薄い　f: 大宰府 - 白磁皿XI類か？小片の為傾き不明
17-6		147	土製品	ロクロかわらけ（大）	1/4	(14.3)	(9.3)	3.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 灰黄色　e: 良好
17-7			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(13.8)	(7.8)	4.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c 黄 : 橙色　e: 良好
17-8			土製品	ロクロかわらけ（大）	完形	13.2	8.2	3.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 黄 : 橙色　e: 良好
17-9			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	13.7	7.4	3.8		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　やや粗土　c 黄 : 橙色　e: 良好
17-10			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(12.7)	(7.4)	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
17-11			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(12.4)	(6.8)	3.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c 黄 : 橙色　e: 良好
17-12			土製品	ロクロかわらけ（小）	ほぼ完形	8.5	5.2	2.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 外底に粘土のかたまり付着
17-13			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	7.4	4.3	2.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 橙色　e: 良好
17-14		149	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(7.8)	(5.6)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　粗土　c: 黄橙色　e: 良好
17-15		155	土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.8)	(5.2)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
17-16		166	土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	7.5	4.6	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや粗土　c 黄 : 橙色　e: 良好　f: 口縁部一部油煤痕
19-1	4	構成土	土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	(12.7)	6.9	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
19-2			土製品	ロクロかわらけ（大）	ほぼ完	12.5	7.7	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-3			土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	12.3	7.3	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-4			土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	12.2	7.6	3.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-5			土製品	ロクロかわらけ（大）	4/5	11.8	8.8	3.1		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-6			土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	(11.8)	(7.2)	3.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好　f: 口唇部に油煤付着

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目 a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
						口径	底径	器高	重	
19-7	4	構成土	土製品	ロクロかわらけ（大）	3/4	12.0	7.8	3.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-8			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(8.4)	(5.8)	1.7		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-9			土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	(8.2)	(6.2)	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 歪み大
19-10			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(8.0)	(5.2)	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-11			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/4	(7.8)	(7.2)	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切・板状圧痕不明瞭　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-12			土製品	ロクロかわらけ（小）	3/4	(7.6)	(5.6)	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 歪み大
19-13			土製品	ロクロかわらけ（小）	4/5	7.8	5.6	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-14			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(7.2)	(5.0)	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
19-15			土製品	ロクロかわらけ（小）	4/5	7.3	4.6	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
21-1	4a	226	土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(8.2)	(6.0)	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-2			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(8.4)	(5.4)	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-3			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	(7.6)	(5.6)	1.3		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-4			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(7.8)	(5.0)	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-5			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	8.0	5.7	1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-6			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(8.4)	(5.8)	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-7			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	7.5	5.6	1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
21-8		237	土製品	ロクロかわらけ（大）	2/3	(12.2)	(8.0)	2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
21-9		構成土	土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(11.8)	(8.0)	2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
23-1	5	260	土製品	ロクロかわらけ（大）	1/4	(11.8)	(8.4)	2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　板状圧痕　外底回転糸切　b: 微砂　雲母　赤色粒　白色粒　海綿骨針　小石粒　泥岩粒　やや粗土　c: 黄橙色　e: 良好
25-1	6		土製品	土師器甕	胴部片	-	-	[5.6]		a: 内面：ナデ　外面：ハケメ　b: 微砂　雲母　白色粒　黒色粒　海綿骨針　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
25-2			土製品	土師器甕	胴部片	-	-	[2.5]		a: 内面：ナデ　外面：ハケメ　b: 微砂　雲母　赤色粒　黒色粒　海綿骨針　良土　c: 橙色　e: 良好
28-1	7		土製品	渥美甕	肩部片	-	-	[1.8]		a: 粘土紐輪積技法　内外面：ヨコナデ　b: 灰色　白色粒　黒色粒　良土　c: 暗灰色　e: 良好
28-2			土製品	土師器坏	口縁部片	-	-	[3.1]		a: 内外面：ヨコナデ　外面下位：ヘラケズリ　b: 微砂　雲母　海綿骨針　良土　c: 黄橙色　e: 良好　f: 赤彩か？
30-1	8		土製品	白磁端反碗	胴部片			[2.2]		b: 灰白色　黒色粒　精良堅緻　d: 乳白色　透明釉　釉層薄い
30-2			土製品	土師器甕	胴部片			[3.6]		a: 内面：ナデ　外面：ハケメ　b: 微砂　雲母　黒色粒　白色粒　粗土　c: 灰橙色　e: 甘い
30-3			土製品	土師器甕	口縁部片	-	-	[3.6]		a: 口縁部内外面：ヨコナデ　b: 微砂　雲母　黒色粒　白色粒　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　c: 橙色　e: 良好
31-1	その他		磁器	碗	1/4	(8.3)	-	(2.5)		b: 白色粘質土　d: 透明釉　f: 絵付け手描き　内面見込み：文様（文字）あり
31-2			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/2	(11.9)	7.2	3.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　良土　橙色　e: 良好
31-3			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(9.9)	(6.7)	2.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　良土　橙色　e: 良好
31-4			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(8.7)	(5.8)	2.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　やや粗土　橙色　e: 良好
31-5			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(8.5)	5.9	2.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　やや粗土　黄橙色　e: 良好
31-6			土製品	ロクロかわらけ（小）	2/3	8.1	6.0	2.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　やや粗土　橙色　e: 良好
31-7			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/3	(7.9)	(4.6)	1.9		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針 泥岩粒　良土　灰黄色　e: 良好
31-8			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/5	(7.5)	(5.6)	2.0		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　泥岩粒　やや良土　c: 橙色　e: 良好
31-9			土製品	ロクロかわらけ（小）	1/2	(5.8)	4.1	1.6 1.4		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　やや良土　c: 橙色　e: 良好
31-10			土製品	ロクロかわらけ（小）	9/10	(5.1)	4.3	1.7 1.6		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切（右回転）　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　やや良土　橙色　e: 良好
31-11			土製品	軒平瓦	-	-	-	[4.3]		b: 灰黄色　白色粒　赤色粒　f: 唐草文

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量（cm）				観察項目
						口径	底径	器高	重	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考
31-12	その他		土製品	丸瓦	-	[20.7]	[10.0]	1.3～2.3		a: 凸面：縄目叩き目→ほぼナデ消し　凹面：布目痕　b: 灰色　微砂　小石粒　c: 暗灰色　e: 良好　f: 男瓦Ａ類
31-13			土製品	丸瓦	-	[11.7]	[6.9]	1.3～2.0		a: 凸面：縄目叩き目→ほぼナデ消し　離れ砂　凹面：布目痕　糸切り痕　b: 灰色　微砂　小石粒　c: 暗灰色　e: 良好　f: 男瓦Ａ類
31-14			木製品	板状加工品	-	16.8	3.7	0.7		f: 釘穴３ヶ所有り　柾目材使用
31-15			土製品	ロクロかわらけ（大）	1/3	(10.6)	(6.4)	3.2		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　海綿骨針　小石粒　泥岩粒やや粗土　橙色　e: 良好
31-16			土製品	ロクロかわらけ（小）	完形	5.7	4.5	1.5		a: ロクロ成形　内底ナデ　外底回転糸切　板状圧痕　b: 微砂　雲母　赤色粒　海綿骨針　小石粒　やや粗土　橙色　e: 良好

表２　出土遺物集計表

出土面			1面	第２面																																		
種別				ピット													土坑																						
遺構名			構成土	1	4	5	6	7	8	10	11	13	14	15	16	18	19	19底部	20	21	22	23	24	25	26	27	28	30	31	33	34	遺構外	構成土	35	37	38
かわらけ	ロクロ	大	105	5	1	4	5	1	2	1	7		2	5	12	4	8	5	26	1	5	8	3	4	9	92	5	81	11	53	2662	25	832	19	3	2
		中																	1																		
		小	48	2							5	3	2	2	3	6	10	1	1	2	2	3	2	1	3	4	2	18	4	4	346	5	120	1		
		小片	3									2	1								4							19	6	16	1560		116			
	不明																											1									
国産陶磁器	常滑	甕	8											1			1											1		2			21			
		Ⅰ類																															1			
		Ⅱ類																												1						
		不明																															1			
	瀬戸																		1					1			1			2	2		7			
	北部系山茶碗																															1				
	不明																															1				
舶載	青磁		1																													3				
	白磁		1																					1								2				
	青白磁		1																											3						
瓦質	瓦器		2																											1						
	火鉢																							1							1	5				
	瓦		5															1													1	10			1	
	釘																												1		1	2				
	不明																										1									
	不明																							1													
	不明		1																											3		3				
近世近代																																7				
合計			177	7	1	4	5	1	2	1	12	5	5	8	15	10	19	7	29	3	11	11	5	9	12	96	9	120	21	79	4578	33	1132	20	3	3

出土面			第2a面																																		
種別			ピット																										土坑									
遺構名			40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	55	59	61	63	65	66	67	68	69	70	71	72	73	75	78	79	81	83	83	84	86	87
かわらけ	ロクロ	大	6	7	4	2	4	4	5	11	16	11	45	6		2		1	2	1	5	2	2		7	6	5	2	12	77	8	11	41	1	7	10	6
		小		3						3	2	2	3			1	1				2	1	2			3			3	8		6	3		2	6	2
		小片																1		1				1			4										
	白かわらけ																													1							
国産	常滑甕											1														1			1								
	瀬戸																		1													1					
舶載	青磁																													2							
	白磁																																1				
瓦															1																	1					
銭							1																														
合計			6	10	4	2	5	4	5	14	18	14	48	6	1	3	1	2	3	2	7	3	4	1	7	10	9	2	16	88	8	19	45	1	9	16	8

出土面			第2a面															第3面															
種別			土坑														構成土	ピット															
遺構名			88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	98	99	101	102		106	107	109	110	112	113	114	115	116	117	119	121	122	123	128	129
かわらけ	ロクロ	大	3	2		1		1	7	8	4	3	35	15	5	7	42	463	1	8	9	11	28	35	8	19	3		2	2	2	1	5	5
		小	3	3	5				4	7		2	8	7	1	4	13	38			2		5	5	1	11		2	1				2	1
		小片	11	12	5	3	3					5	12			1	6	47								4								3
国産	常滑甕		1																														
	瀬戸												1				1																
舶載	青磁							1					1																				
	白磁												1																				
	青白磁																														1		
かわらけ質火鉢																	1																
瓦質火鉢																	1																
瓦								1					4			1		3									1						
鉄釘																	1																
果核																	1																
合計			18	17	10	4	3	3	11	15	4	10	62	22	6	13	62	555	1	8	11	11	33	40	9	34	3	3	3	2	2	2	7	9

出土面			第3面																												第4面			
種別			ピット									ピット														溝		構成土	ピット			
遺構名			132	133	134	136	138	139	140	141	143	147	148	149	150	151	152	155	156	157	158	162	163	164	165	166		190	191	199	200
かわらけ	ロクロ	大	1		2	1	12	17	3	7	4	16	3	13	21	15	5	1	7	4			7		61	32	21		1	5	2
		小		1	2		1	1		3	5	8	2	1	1	4		5		2	1	1		1	8	3	2				
		小片					6	17		2										1								27			
国産	常滑	甕																							1							
		Ⅰ類																							1							
		Ⅱ類																									1					
瓦							1																		3					1		
鉄釘																									1							
合計			1	1	4	1	20	35	3	12	9	24	5	14	22	19	5	6	7	7	1	1	7	1	75	35	24	27	1	6	2

出土面			4面				第4a面								第5面						6		7	8	9					
種別							ピット			土坑			溝		ピット		土坑		溝											
遺構名			206	215	遺構外	構成土	218	219	232	242	243	244	247	構成土	249	258	260	272	273	構成土	279	構成土	構成土	構成土	構成土	近代遺構	試掘坑	廃土	表土	合計
かわらけ	ロクロ	大	1	4	44	15	1	1	7	6	1	4	1	23	2	1	5		9		23				1	14	3	4	7	5405
		中																												1
		小			24	9			24			4		21					1	2	12					10		1		890
		小片			8	5		1		4								2						1		3				1920
	白かわらけ																													1
	不明																													1
国産陶磁器	常滑	甕																								1			2	34
		壺																												0
		Ⅰ類																												2
		Ⅱ類																												2
		不明																												1
	瀬戸																													18
	渥美																						1							1
	北部系山茶碗																													1
	不明																													1
舶載	青磁																												2	9
	白磁																							1						6
	青白磁																													4
かわらけ質火鉢																														1
瓦質	瓦器																													1
	火鉢																													8
	瓦																							1		1				32
金属	銭																													1
	釘																													6
	不明																													1
石製品	砥石																									1				1
	硯																									1				1
	不明																													1
	不明																													7
	果核																							1		1				3
近世近代																										2				9
古代												1										9	1	8						19
合計			1	4	76	30	1	2	31	10	1	9	1	44	2	1	5	2	10	2	35	9	3	10	3	33	3	5	11	8389

1. １区近代遺構全景（東から）

2. １区２面全景（北から）

3. ２区２面全景（北から）

4. ２面遺構 32（北から）

7. 遺構 34（２区：南から）

8. 遺構 34（1：区南から）

1. １区 2a 面全景（北から）

2. ２区 2a 面全景（北から）

3．2a 面遺構 75-78（北から）

4．１区３面全景（北から）

5．２区３面全景（北から）

6．１区３面南部の遺構（南から）

7．３面遺構 147（西から）

1.　１区４面全景（北から）

2.　２区４面全景（北から）

3.　１区 4a 面全景（北から）

4.　１区 4a 面全景（北から）

5．　4a 面遺構 232 全景（東から）

6.　4a 面遺構 242（西から）

7．　4a 面遺構 244 全景（西から）

１．１区５面全景（北から）

２．２区５面全景（北から）

３．５面遺構 272（南から）

４．５面遺構 272 完掘状況（南から）

6．５面遺構 273（南東から）

1. １区６面検出状況（北から）

2. ２区６面検出状況（北から）

3. １区６面完掘状況（北から）

4. ２区６面完掘状況（北から）

5. １区７面全景（北から）

6. ２区７面全景（北から）

7. ７面遺構 282（東から）

8. ７面遺構 282（西から）

１．７面遺構 282（北から）

２．１区８面全景（北から）

３．２区８面全景（西から）

４．２区８面全景（東から）

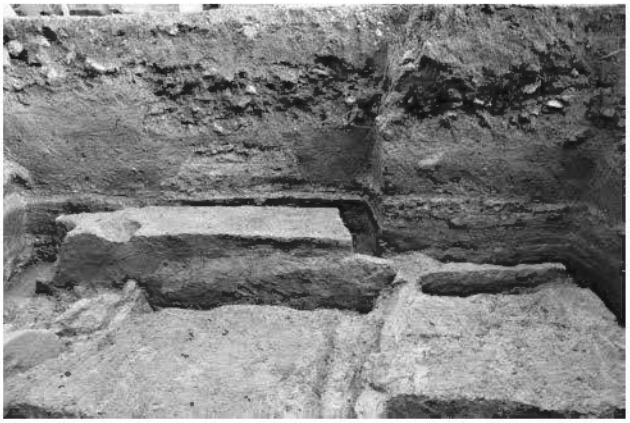
５．１区９面全景（東から）

６．２区９面全景（西から）

写真図版７

1.　２区北壁セクション（南から）

2.　１区北壁セクション（南から）



3.　１区南壁セクション（北から）

4.　２区南壁セクション（北から）

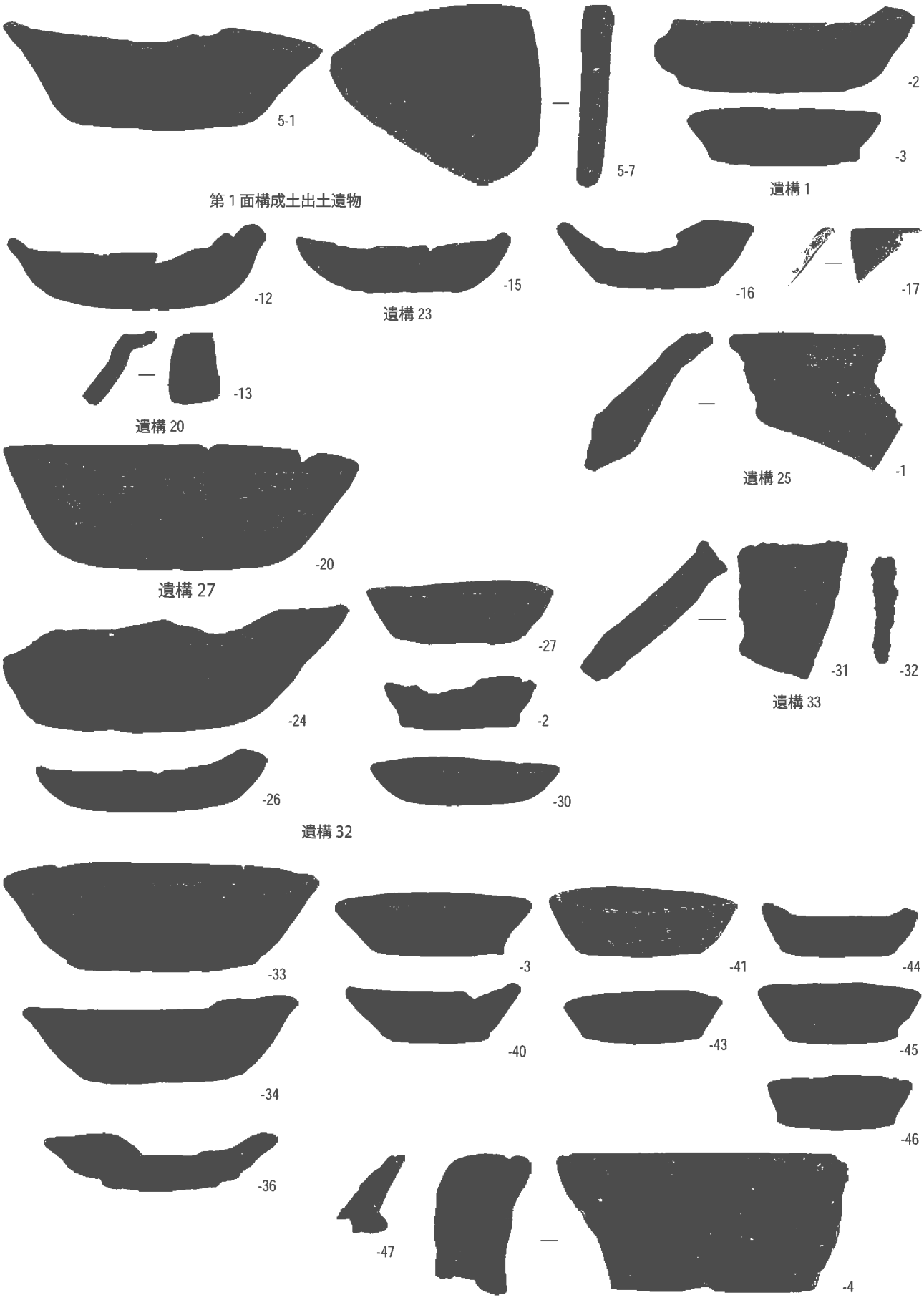
5.　１区東壁セクション（西から）

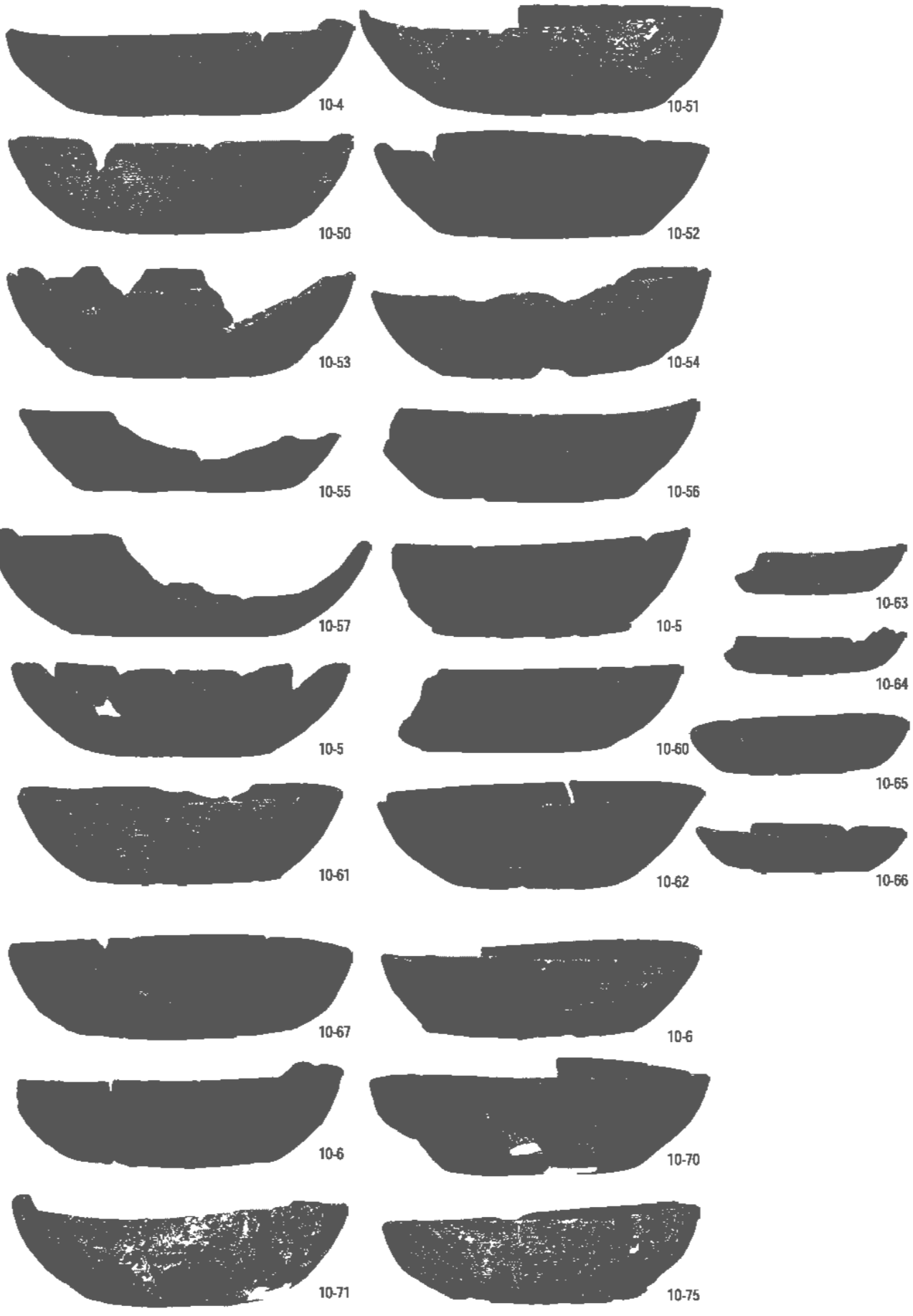
１．２区西壁セクション（東から）

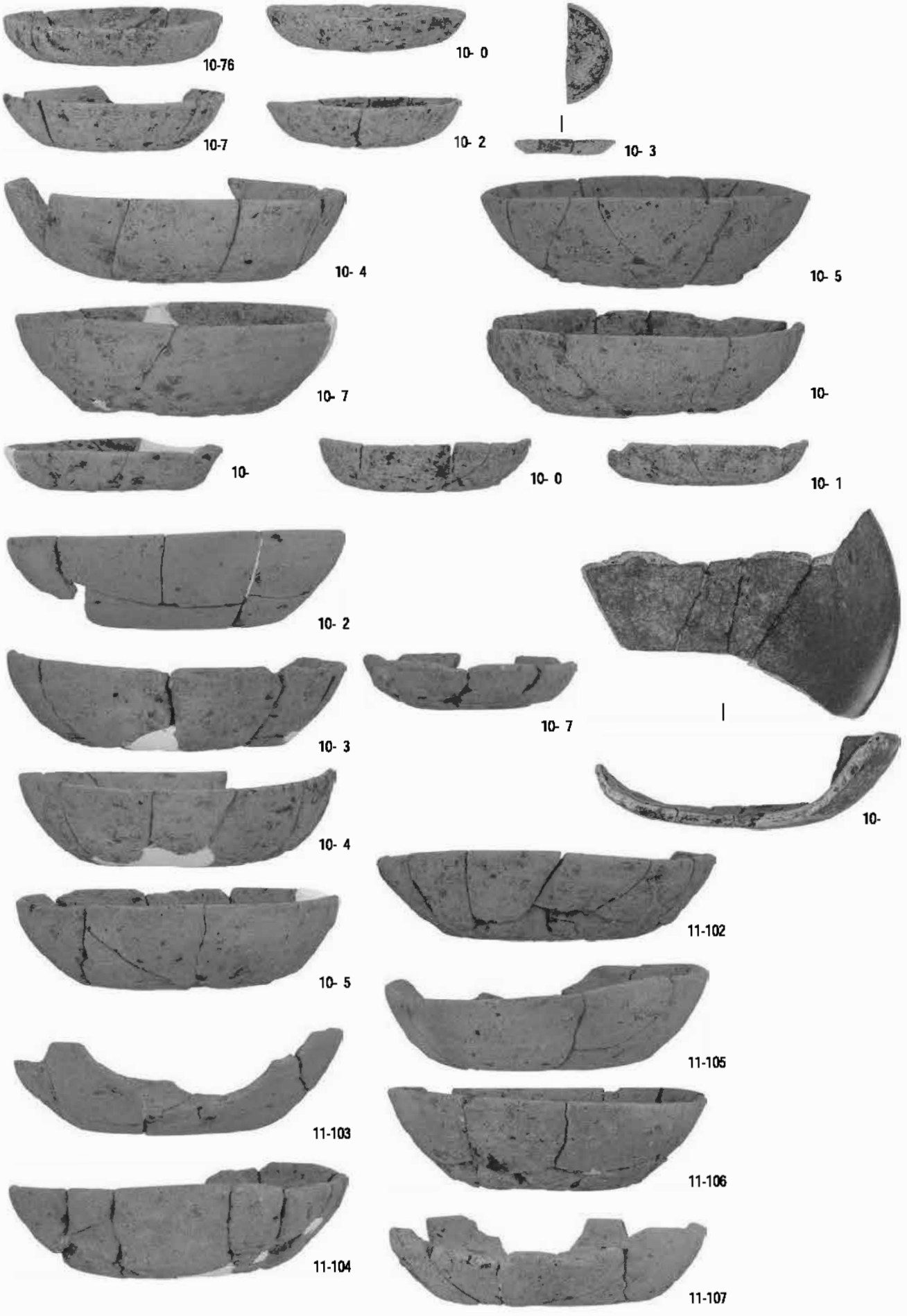
２．２区深堀セクション（北から）

３．２区深堀セクション（南から）

４．１区深堀セクション（南から）


5-1
5-7
-2
-3
遺構 1
第 1 面構成土出土遺物
-12
-15
遺構 23
-16
-17
-13
遺構 20
-1
遺構 25
-20
遺構 27
-27
-24
-2
-26
-30
遺構 32
-31
-32
遺構 33
-33
-3
-41
-44
-40
-43
-45
-34
-46
-36
-47
-4
第 2 面構成土出土遺物

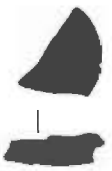

10-4
10-51
10-50
10-52
10-53
10-54
10-55
10-56
10-57
10-5
10-63
10-64
10-5
10-60
10-65
10-61
10-62
10-66
10-67
10-6
10-6
10-70
10-71
10-75


10-76
10- 0
10-7
10- 2
10- 3
10- 4
10- 5
10- 7
10-
10-
10- 0
10- 1
10- 2
10- 3
10- 7
10-
10- 4
10- 5
11-102
11-105
11-103
11-106
11-104
11-107

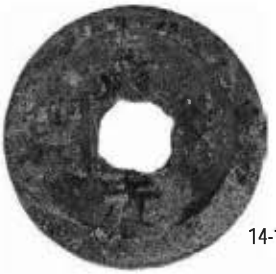
11-10

11-116

11-117


11-122

遺構 34


14-1

遺構 44

14-3

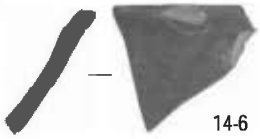
遺構 50

14-4

遺構 80

14-5

遺構 81

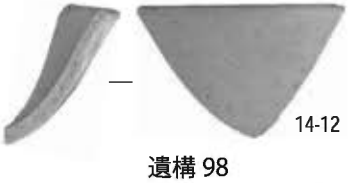

14-6

遺構 93

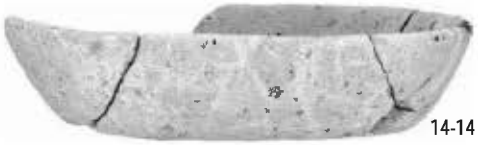
14-7

遺構 95

14-10


14-12

遺構 98


14-14

14-16

14-1

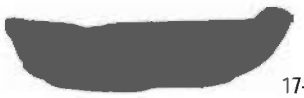
14-21

14-23

第 2a 面構成土出土遺物

17-1

遺構 58


17-2

遺構 56

17-4

遺構 121

17-5

遺構 123

17-7

17-

17-

17-11

遺構 147

17-12

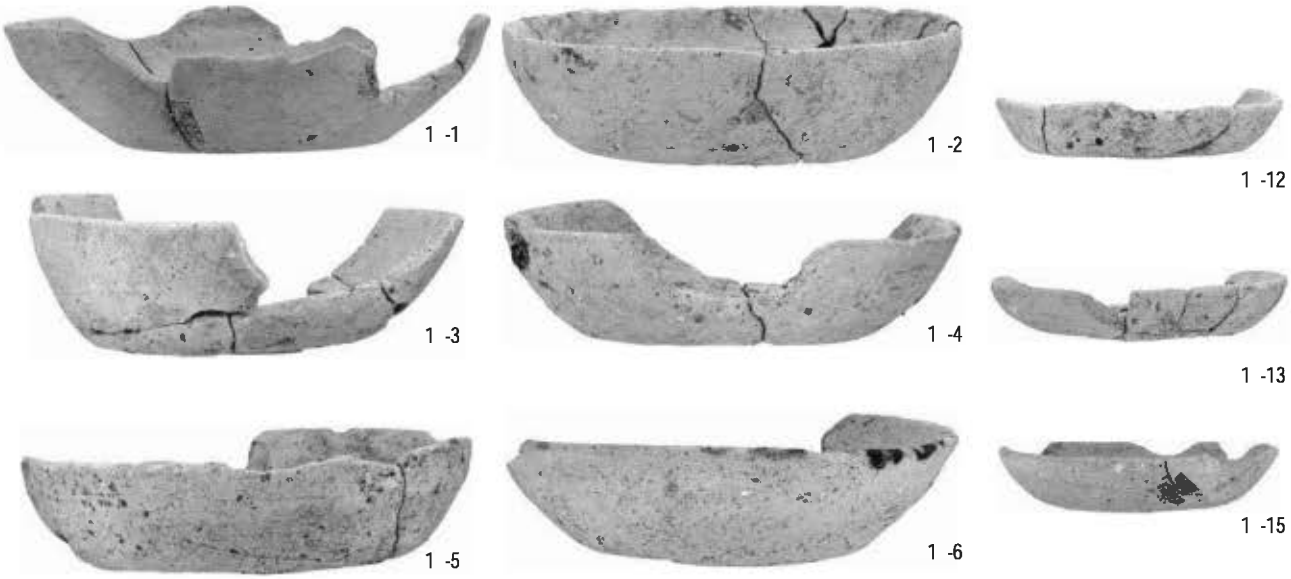
17-15

遺構 155

17-16

遺構 166

17-13

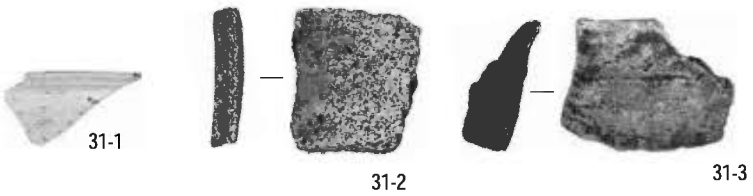


第 4 面構成土出土遺物

遺構 232　　遺構 242

第 4a 面遺構出土遺物

第 6 面構成土　　第 7 面構成土



第 8 面以下

31-1
31-2
31-3
31-4
31-5
31-6
31-7
31-10
31-11
31-12
31-13
31-16

横小路周辺遺跡（No.259）

二階堂字荏柄26番イの一部地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市二階堂字荏柄26番イの一部において実施した、横小路周辺遺跡（鎌倉市No.259）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は平成30年10月15日から同年12月7日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、約34.77㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調　査　員　　神田倫子、清水由加里、松吉里永子、吉田桂子
（以上、鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作　業　員　　大滝信治、寺尾征夫、南齋敬資、根市真古人、松澤和通、三嶋義人
（以上、公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）
整理作業参加者　岡田慶子、押木弘己、神田倫子、清水由加里、菅野知子、松吉里永子、吉田桂子（以上、鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）

4．本報告の作成は、以下の分担で行った。

執筆・編集　　押木
遺構挿図作成　　押木
遺物挿図作成　　岡田、押木、神田
写真図版作成　　押木、神田、菅野
遺物観察表・カウント表作成　岡田、神田、松吉

5．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＹＫ１８０３」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。

2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正後）に基づいている。

3．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより0°　09′　25″ほど東に振れている。

4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

5．出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、 筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明　2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年―東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要　第56号　第4部　人文・社会・自然科学編』鶴見大学

◆瓦質土器：河野眞知郎　1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河　第2集』神奈川県考古学会

◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会　2000

◆瀬戸窯製品：藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史　別編窯業3　中世・近世常滑系』愛知県　2012

本文目次

第一章　遺跡の位置と周辺の発掘調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・373
第二章　調査の方法と経過
　第１節　調査の経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・376
　第２節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・377
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・377
第四章　検出遺構と出土遺物
　第１節　検出遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・379
　第２節　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・385
第五章　横小路周辺遺跡のプラント・オパール分析と花粉分析・・・・・・・・・・・・・・・・・409
第六章　調査成果のまとめ
　第１節　中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・413
　第２節　古代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・413

挿図目次

図１　調査地点の位置・・・・・・・・・・・374
図２　調査区配置図・・・・・・・・・・・・376
図３　土層断面図（Ⅱ区南壁）・・・・・・・・378
図４　2a 面全体図・・・・・・・・・・・・・380
図５　2b 面全体図・・・・・・・・・・・・・381
図６　2c 面全体図・・・・・・・・・・・・・382
図７　３面全体図・・・・・・・・・・・・・383
図８　４面全体図・・・・・・・・・・・・・384
図９　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・385
図 10　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・386
図 11　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・387
図 12　出土遺物（4）・・・・・・・・・・・388
図 13　出土遺物（5）・・・・・・・・・・・389
図 14　出土遺物（6）・・・・・・・・・・・390
図 15　出土遺物（7）・・・・・・・・・・・391
図 16　出土遺物（8）・・・・・・・・・・・392
図 17　出土遺物（9）・・・・・・・・・・・394
図 18　出土遺物（10）・・・・・・・・・・・395

表目次

表１　周辺の主な調査地点・・・・・・・・・375
表２　出土遺物観察表・・・・・・・・・・・396
表３　出土遺物数量表（遺構）・・・・・・・402
表４　出土遺物数量表（遺構以外）・・・・・406

写真図版目次

図版１

1. 表土掘削（北西から）
2. 表土除去後（＝１面・北西から）
3. 2a 面（北西から）
4. 2a 面　作業風景（北から）
5. 2b 面（南東から）

図版２

1. 2b 面　溝１・２（北東から）
2. 2b 面　かわらけ集積１（北から）
3. 2b 面　かわらけ集積２（北から）
4. 2b 面　かわらけ集積２（南から）
5. 2b 面　かわらけ集積３（東から）
6. 2b 面ピット 57　かわらけ出土状況（北から）
7. 2b 面ピット 54 西脇　漆器碗出土状況（北東から）

図版３

1. ３面（北西から）
2. ４面（北西から）

図版４

1. ４面（南西から）
2. ４面北西部（北西から）
3. ４面　南東部落ち込み（南西から）
4. 同上　土器出土状況（北西から）
5. 調査区西壁断面（北東から）
6. 調査区北壁断面（南東から）
7. 調査区東壁断面（北西から）
8. 測量作業風景（北西から）

図版５～10　出土遺物（1）～（6）

第一章　遺跡の位置と周辺の発掘調査成果

本調査地点は、鎌倉市二階堂字荏柄26番イの一部に所在する。横小路周辺遺跡は鎌倉中心市街地の北東部に位置し、岐れ道から鎌倉宮方面に通じる東西道を挟んだ両エリアが遺跡範囲となる。

本地点は荏柄天神社と鎌倉宮の両参道が交差する北東の一画に位置する。現況の標高は14.1ｍ前後で、東から西、および北から南になだらかに下る地形上に立地している。

荏柄天神社は菅原道真を主神として祀り、社伝によれば長治元年（1104）に勧請され、後に源頼朝が自身の居所である大倉御所の鬼門の鎮守としたという。社名の「荏柄」は本調査地を含む二階堂地区の字名でもあるが、これは奈良の正倉院に伝存する『天平七年相模国封戸租交易帳』（735）や、承平年間（931～938）成立という『和名類聚抄』などに鎌倉郡の一郷として記載された「荏草（えがや）」が転訛したものと理解されている。

同社は『吾妻鏡』などの中世史料にも登場し、『武家年代記裏書』からは、弘安三年（1280）と延慶三年（1310）に火災に遭ったことが分かる。『鎌倉年中行事』からは公方の参詣・参籠の対象とされていたことが分かり、戦国時代には北条氏康が天文十七年（1548）、社伝造営のために今の関取橋付近に関を設けて寄進、通行者からの関銭を費用に充てたという（「荏柄社造営関定書案」）。

鎌倉宮は明治二年（1869）の創建で、護良親王を祭神とする。境内は東光寺の旧跡地であったとされ、同寺については不明な点が多いなか、鎌倉幕府の政所執事を世襲した二階堂氏などにより鎌倉時代でも比較的早い時期に創建されていたとする説がある。

横小路周辺遺跡は鶴岡八幡宮～源氏三代の将軍御所（大倉御所）～永福寺という、鎌倉時代でも初期の枢要施設が並ぶエリアを占めており、これらを核とする土地利用が、鎌倉でも他の地区より先んじて進んだ状況が推察でき、このことは既存の発掘成果からも指摘可能となっている。

令和2年9月現在、横小路周辺遺跡では16地点で発掘調査が実施されている（図1-❼・❽・❾・❿地点は、現在は他遺跡の範囲に位置している）。各地点が散在しているため、中世における空間構成の把握も断片的にならざるを得ないが、全体としては掘立柱建物（柱穴群）を主体とする、屋敷地としての傾向が強いようである。市立第2小学校の増改築にともなう発掘調査（「向荏柄遺跡」、図1-❶・❷）では2回の発掘調査が実施され、中世2枚の遺構面上、掘立柱建物を主体としたⅠ～Ⅴ期にわたる遺構変遷が把握されている。また、中世基盤層下では奈良・平安時代の竪穴住居が重複して検出されている。地点❸は「六浦道」に面し、やはり夥しい数の柱穴が検出されたが、報告書では建物の復元には至っていない。中世Ⅰ～Ⅳ期の遺構変遷が把握され、13世紀中頃～16世紀初頭という年代が与えられている。Ⅱ期（13世紀末～14世紀前半）以降、大倉地域では珍しく方形竪穴（竪穴建物）が建てられるようになり、続くⅢ期（14世紀中頃～15世紀前半）に盛行期を迎える。竪穴建物が若宮大路二ノ鳥居以南で多く検出されている例と同様、倉庫を主たる機能としているのであれば、鎌倉後期～南北朝・室町期にかかるこの時期、「六浦道」の経済的重要性が増したことを示していると言えようか。❹では覚園寺川と二階堂川の合流点かとも推測された中世の旧流路が検出され、この一部埋め立て跡について、報告書では永福寺創建に伴う周辺一帯の造成との関連が指摘されている。永福寺に向かう二階堂大路そのものは見つかっていないが、❻および大倉幕府周辺遺跡の①・③では、大路側溝、またはそれに向かうなだらかな傾斜が確認されている。鎌倉宮に程近い⓯では大きく8枚の中世遺構面が検出され、礎石建物や木組み護岸を施した溝などが発見されている。出土遺物では13世紀初頭頃～15世紀前半頃にかけての

図１　調査地点の位置（⓰が本調査地）

表１　周辺の主な調査地点（番号は図１に対応）

No.	地番	調査年度（開始年度）	面積（㎡）	所収文献
横小路周辺遺跡（No. 259）				
❶	二階堂字荏柄 880 番	1982 年度	72	『向荏柄遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄・原　廣志・福田　誠ほか 1985
❷	二階堂字荏柄 874 番	1982 年度	572	『向荏柄遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄・原　廣志・福田　誠ほか 1985
❸	二階堂字荏柄 9 番 1	1987 年度	500	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 6』鎌倉市教育委員会　菊川英政 1990 『横小路周辺遺跡発掘調査報告書』横小路周辺遺跡発掘調査団　菊川英政 1991
❹	二階堂字横小路 110 番 3	1994 年度	260	『横小路周辺遺跡―永福寺関連遺跡の調査―』横小路周辺遺跡発掘調査団　宗臺秀明ほか 1996
❺	雪ノ下五丁目 557 番 1	1996 年度	18	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　野本賢二 1998
❻	二階堂字横小路 93 番 11	1997 年度	142	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　野本賢二 1999
❼	二階堂字荏柄 10 番 6 外	1998 年度	96	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　福田　誠ほか 2002
❽	二階堂字荏柄 10 番 1	2000 年度	67	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 19』鎌倉市教育委員会　原　廣志ほか 2003
❾	二階堂字会下 323 番外	2001 年度	15	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20』鎌倉市教育委員会　福田　誠 2004
❿	二階堂字四ツ石 115 番 3 の一部	2003 年度	80	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 23（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　福田　誠 2007
⓫	二階堂字荏柄 875 番 4	2008 年度	42	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 3 分冊）』鎌倉市教育委員会　永田史子・斉藤修祐 2018
⓬	二階堂字稲葉越 856 番 5	2009 年度	41	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35（第 3 分冊）』鎌倉市教育委員会　永田史子・米澤雅美 2019
⓭	二階堂字荏柄 939 番 10	2011 年度	40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　熊谷　満 2015
⓮	二階堂字横小路 98 番外	2017 年度	652	『神奈川県埋蔵文化財調査報告 64』神奈川県教育委員会 2019
⓯	二階堂字荏柄 818 番 1	2017 年度	68	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 37（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　押木弘己 2021
⓰	**二階堂字荏柄 26 番 イの一部**	**2018 年度**	**35**	**本報告**
大倉幕府周辺遺跡（No. 49）				
①	二階堂字荏柄 38 番 1	1991 年度	1000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　馬淵和雄 1993
②	二階堂字荏柄 38 番 2	2011 年度	1552	『第 22 回　鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』NPO 法人鎌倉考古学研究所　齋木秀雄 2012
③	二階堂字荏柄 12 番 8	2016 年度	64	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 1 分冊）』　鎌倉市教育委員会　押木弘己 2018
④	二階堂字荏柄 76 番 8	2005 年度	35	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30（第 1 分冊）』　鎌倉市教育委員会　伊丹まどか　ほか 2014
⑤	二階堂字荏柄 76 番 8	2006 年度	42	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35（第 3 分冊）』　鎌倉市教育委員会　永田史子・米澤雅美 2019

❼・❽は大倉幕府周辺遺跡、❾は覚園寺旧境内遺跡、❿は永福寺跡の範囲に所在

かわらけ器形の変化を層位的に把握し得る資料が出土している点、今後の有用な研究材料になることが期待できる。中世基盤層上では南東に向かう大規模な落ち込みが検出されており、薬師堂ヶ谷に繋がる谷戸地形を埋め立てて中世の土地利用が進んだ様子が窺い知れる。鎌倉宮の参道に面した⓮では、中世遺構の他、平安時代の住居跡も発見されている。大倉幕府周辺遺跡の①・②では古墳時代および奈良・平安時代の建物跡や井戸・流路が検出されており、中世以前から集落を営むのに適した、安定した土地であったことを窺わせてくれる。②では 11 世紀頃の所産と推定される大規模な堀が検出されているというが、正式報告が未刊行であるため詳細については不明である。上記年代観が妥当であれば、平直方や源頼義といった日本史上の人物が鎌倉に縁を持つ時期とも重なることになり、興味深い。正式報告の刊行が待たれる。④では 13 世紀初頭に始まる 6 枚の中世遺構面が検出され、その下部、標高 12.6 ｍで中世基盤層である明青灰色砂質土が検出された。明確な古代遺構は発見されていないが、中世層からは一定量の古代遺物が出土しており、近傍での集落の展開を推察させる。

（一部、地点⓯文献の第一章と共用）

参考文献

鎌倉市史編纂委員会編 1958『鎌倉市史　史料編第一』鎌倉市

鎌倉市史編纂委員会編 1959『鎌倉市史　総説編』鎌倉市

鎌倉市史編纂委員会編 1959『鎌倉市史　社寺編』鎌倉市

貫　達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂

鈴木棠三・鈴木良一監修 1984『神奈川県の地名』平凡社

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設工事に先立つ埋蔵文化財の記録保存調査として、鎌倉市教育委員会文化財課（市教委）が実施した。建設に当たっては地盤の柱状改良工事を行う計画であったことから、市教委では平成 30 年 3 月 14・15 日に確認調査を実施し、その結果を受け、建設計画のうち埋蔵文化財に抵触する可能性がある部分については、工事着手前に本格的な発掘調査を行う必要があるという判断に至った。調査の対象面積は 34.77 ㎡で、平成 30 年 10 月 15 日～同年 12 月 7 日の 2 ヶ月弱を要した。

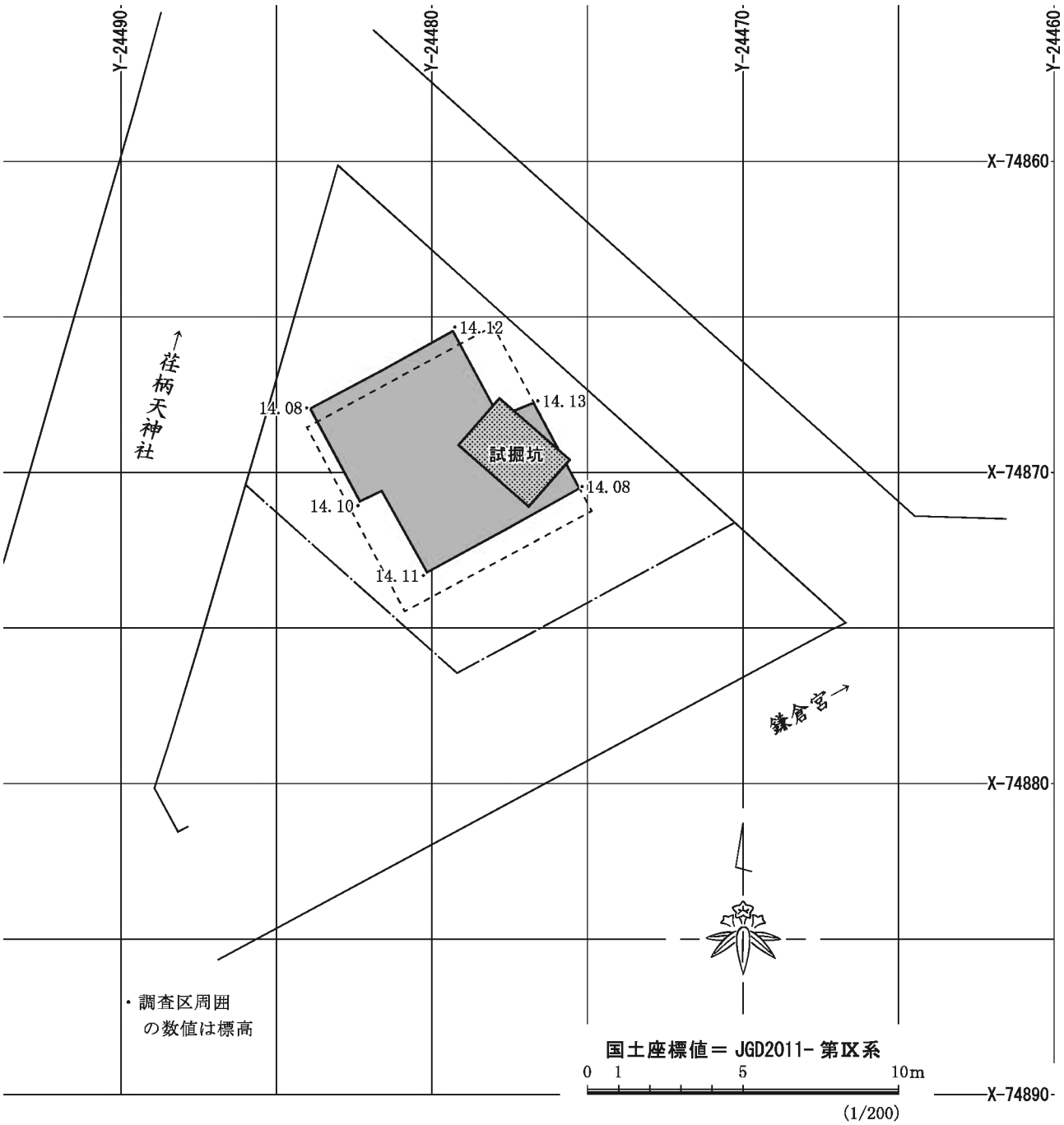


図２　調査区配置図

第２節　調査の方法

今回の発掘調査は地盤改良の施工範囲を対象としたが、安全面を配慮して、隣地や道路との境界から十分な距離を取ったため、最終的な調査面積は 34.77 ㎡となった。掘削排土の仮置き場は敷地内に確保できる見通しであったことから、調査区の分割は行わなかった。

表土の除去は重機で行い、遺物包含層以下の掘削は全て人力によった。今回は 4 時期の中世遺構群と中世基盤層下での古代遺構が検出され、それぞれ遺構の確認と掘削作業を行い、写真撮影・測量図作成等の記録作業を進めた。測量には世界測地系（JGD2011）の国家座標軸に沿った基準軸を設定し、光波測距儀で測点の座標値を得て、それを方眼紙上に落とす方法によって平面図を作成した。

国家座標の移設には市道上に打設された都市再生街区三角点 2005A と同多角点 20A32 の 2 点間の関係を起点に開放トラバース法によって測量を行い、現地敷地内の任意点に座標値を与えた。標高は上記の街区多角点 20A32（15.759 m）を起点として光波測距儀によるレベル測量を繰り返し、調査地の任意点に移設した。

第三章　基本土層

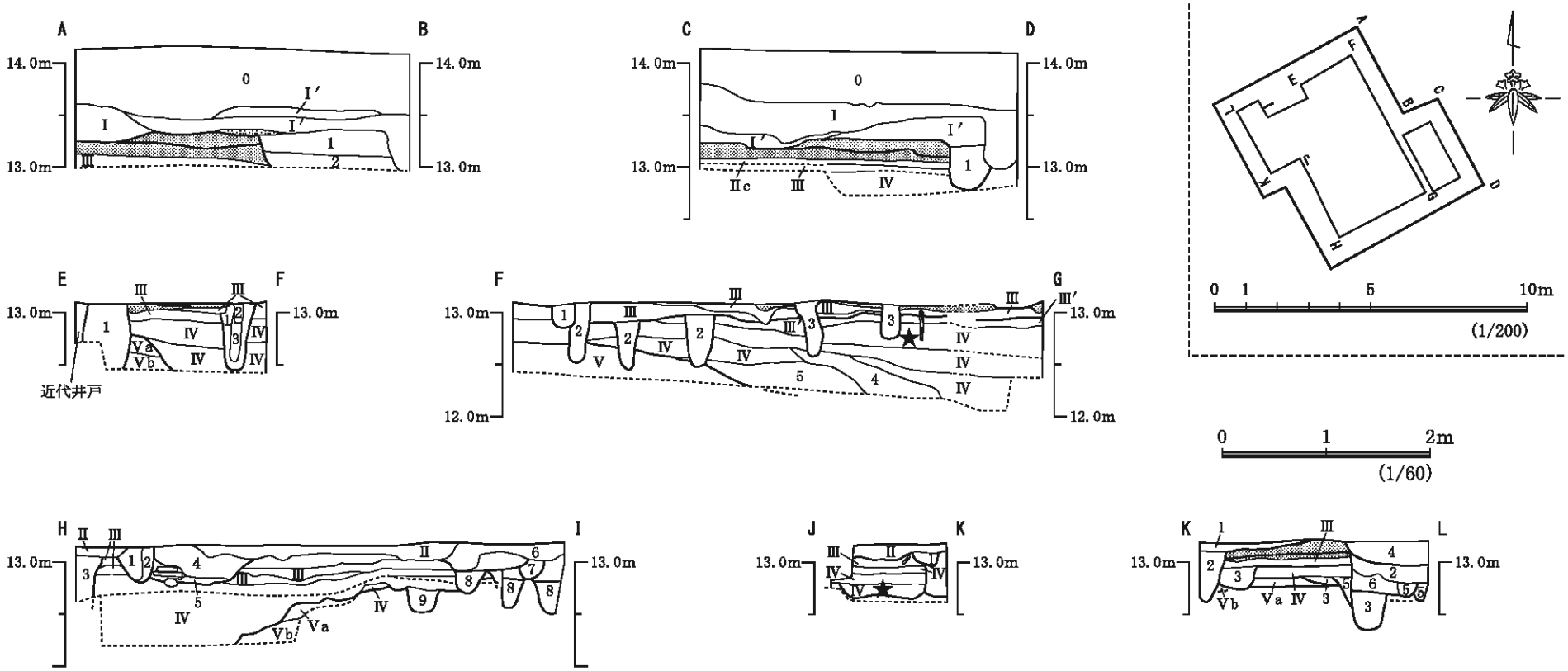
調査着手前の地表面標高は、14.1 m前後であった（図 2）。重機での表土掘削は地表下 60 ㎝までとし、ここを 1 面として精査したが、未だ近世以降の耕作土中であることが分かったため、1 面は欠番とした。中世の遺構面は、地表下 90 ～ 100 ㎝の標高 13.1 ～ 13.2 m前後で検出され、ここを 2 面（2a 面）とした。

調査区の東辺近くでは泥岩粒を多用した良好な整地面が遺存していたが、西側では後世の削平によるためか、一連の整地面として捉えることはできなかった。

2a 面上で確認できた遺構を調査後、下位への掘り下げを行ったが明瞭な整地面は確認できず、このさらに下位でも同様の状況であったが、それぞれのレベルで精査を試みると遺構の確認はできたため、上位から順に 2b・2c 面の名称を付して遺構の掘削と記録作業を進めた。2a ～ 2c 面では、上位で確認できた遺構から順次確認と掘削を行ったものの、整然とした遺構把握は成し得ず、後述するように出土遺物についても上位と下位の遺構間で新旧の様相が混在、逆転している状況が見受けられた。よって、本来は上位の遺構面で確認すべき遺構を見落としてしまい、より下位の遺構面で把握してしまった場合も多々あったことと思う。遺構確認面の上・下が、必ずしも検出遺構の新・旧を意味しないことになる。

2c 面遺構の調査終了後、標高 12.7 ～ 12.8 mで暗褐色粘質土層の広がりを確認し、ここを 3 面として遺構の確認と掘削を行った。同粘質土は鎌倉の発掘従事者が「ネチャ」と呼称するもので、中世基盤層の直上に堆積し、基盤層土が多少の撹拌を受けたかのような印象を与える。

「ネチャ」を除去した後、標高 12.7 m前後で中世基盤層である青灰～黒灰色粘質土（Ⅴ層）の広がりを確認し、ここを 4 面とした。4 面では南東に向けて調査区外へと続く大型の落ち込みと小規模な溝が確認され、ここからは古代以前の遺物しか出土しなかった。今回の調査では、Ⅴ層以下への掘り下げは行わなかった。通常は無遺物層で、水磨した泥岩粒で構成される砂礫層などを挟んでいる。



基本土層

0	灰褐色土	現代造成土。
Ⅰ	灰褐色土	近世以降の畑作土。
Ⅰ′	暗灰褐色土	Ⅰ層にⅡ層以下が混入。
Ⅱa	黄褐色土	泥岩粒多い。2a 面築成土。
Ⅱb	黄褐色土	泥岩粒密。2b 面築成土。
Ⅱc	暗褐色土	粘質土（ネチャ）。上面が 2c 面。
Ⅲ	暗褐色土	粘質土（ネチャ）。
Ⅳ	黒色土	粘質土。古代遺物包含層。
Va	青灰色土	粘質土。中世基盤層。
Vb	黒灰色土	粘質土。中英基盤層。

A－B

1	暗褐色土	泥岩粒やや多い。
2	暗褐色土	泥岩粒少量。

C－D

1	灰色土	泥岩粒少量。

E－F

1	灰色土	粘質土。
2	灰色土	軟質の粘質土。
3	灰色土	粘質土。

F－G

1	暗褐色土	泥岩粒多い。
2	黒色土	粘質土。
3	灰色土	粘質土。
4	青灰色砂	砂礫層。水磨した泥岩粒含む。
5	青灰色砂	細砂。

H－I

1	暗褐色土	泥岩粒多い。
2	暗褐色土	泥岩粒少量。
3	灰色土	粘質土。
4	暗赤褐色土	酸化鉄多い。
5	黒褐色土	炭＋有機質腐植土（まぐそ）。
6	黒褐色土	炭多い。
7	黒褐色土	粘質土。
8	灰色土	粘質土。
9	灰色土	粘質土。

J－K

1	黒色土	粘質土。

図３　土層断面図（Ⅱ区南壁）

第四章　検出遺構と出土遺物

第１節　検出遺構

重機掘削後に精査・検出した１面は中世層まで到達していなかったため、欠番とした。以下、上位の遺構確認面から順に検出遺構について説明を加えるが、前章でも述べたように、2a ～ 2c 面については遺構確認レベルの上・下と、出土遺物から見える新・旧の様相が必ずしも整合していない。

なお、各平面図で切り合い関係にある遺構については、原則として番号の数字が小さいものを新しい遺構としている。

（１）2a 面の検出遺構（図 4）

標高 13.1 ～ 13.2 ｍ前後で検出された。2 面としては最も新しい段階の遺構として、北東～南西方向に延びる土層の境目と、これと並行して点在する炭埋土の落ち込み土層の境目および炭層の展開方向は N16° E 前後であり、現行の荏柄天神社参道と同一の軸線といえる。土層の境目については本来、遺構などがあったことに起因するのかもしれないが、その具体的痕跡は把握できなかった。

（２）2b 面の検出遺構（図 5）

標高 13.0 ～ 13.1 ｍ前後で検出され、破砕泥岩を用いた整地面は調査区の南東部において良好に遺存していた。こうした中、調査区中央部を走る小規模な溝 2 条、かわらけ集積遺構 3 ヶ所、土坑・ピット多数が検出された。溝は N10 ～ 15° E 前後の走行軸を持ち、2a 面と同様に、現行の荏柄天神社参道と同一の軸線で展開していたことが窺える。ピットには底面に礎板状の厚板が据わった例も見られたが、柱穴列として明確な連なりを認めることはできなかった。かわらけ集積はいずれも小規模なまとまりに過ぎず、出土したかわらけ様相には型式差＝年代差が見て取れたことから、本来は 2a 面よりも上位を掘り込み面としていた遺構も含んでいると考える。また、2b 面～ 2c 面へと掘り下げる際に掘り下げた遺構については 2b 面で見落としたものとの認識に立ち、2b 面に帰属させることとした。

（３）2c 面の検出遺構（図 6）

標高 12.9 ～ 13.0 ｍ前後で、大よそⅢ層（ネチャ）の上面で遺構確認を行った結果、ピットを中心とする遺構が散在していた。破砕泥岩を用いた整地面は確認されていない。調査区の中央付近では北東～南西に延びる土相の境目が確認され、現地では溝 3 の名称を付したものの、実際のところ下層における落ち込みの斜面堆積を水平に削り込んだことによる差異と思われる。ピットには底面に礎板と見られる厚板を据えた例もあったが、柱穴列としての確実な並びを把握することはできなかった。

（４）3 面の検出遺構（図 7）

標高 12.7 ～ 12.8 ｍ前後で、Ⅲ層（ネチャ）を取り除いた後のⅣ層（中世基盤層）上面で遺構確認を行った結果、ピットを中心とする遺構が散在して検出された。Ⅲ層と同質土を埋土としており、上位面で見つけきれなかった遺構も含んでいると思われる。ピット底に礎板と思しき厚板を据えた例もあったが、建物など、ピット列としての並びを抽出するには至らなかった。

（５）4 面の検出遺構（図 8）

標高 12.5 ～ 12.8 ｍ前後、中世基盤層であるⅣ～Ⅴ層にかけて遺構確認を行った結果、調査区南東外に続く大規模な落ち込みと、この北西側の平坦面上で小規模な溝 3 条を確認した。これら遺構の埋土はⅣ層・黒色粘質土をベースとしており、出土遺物は僅少ながら、ほぼ全てが古代以前に帰属する資料で

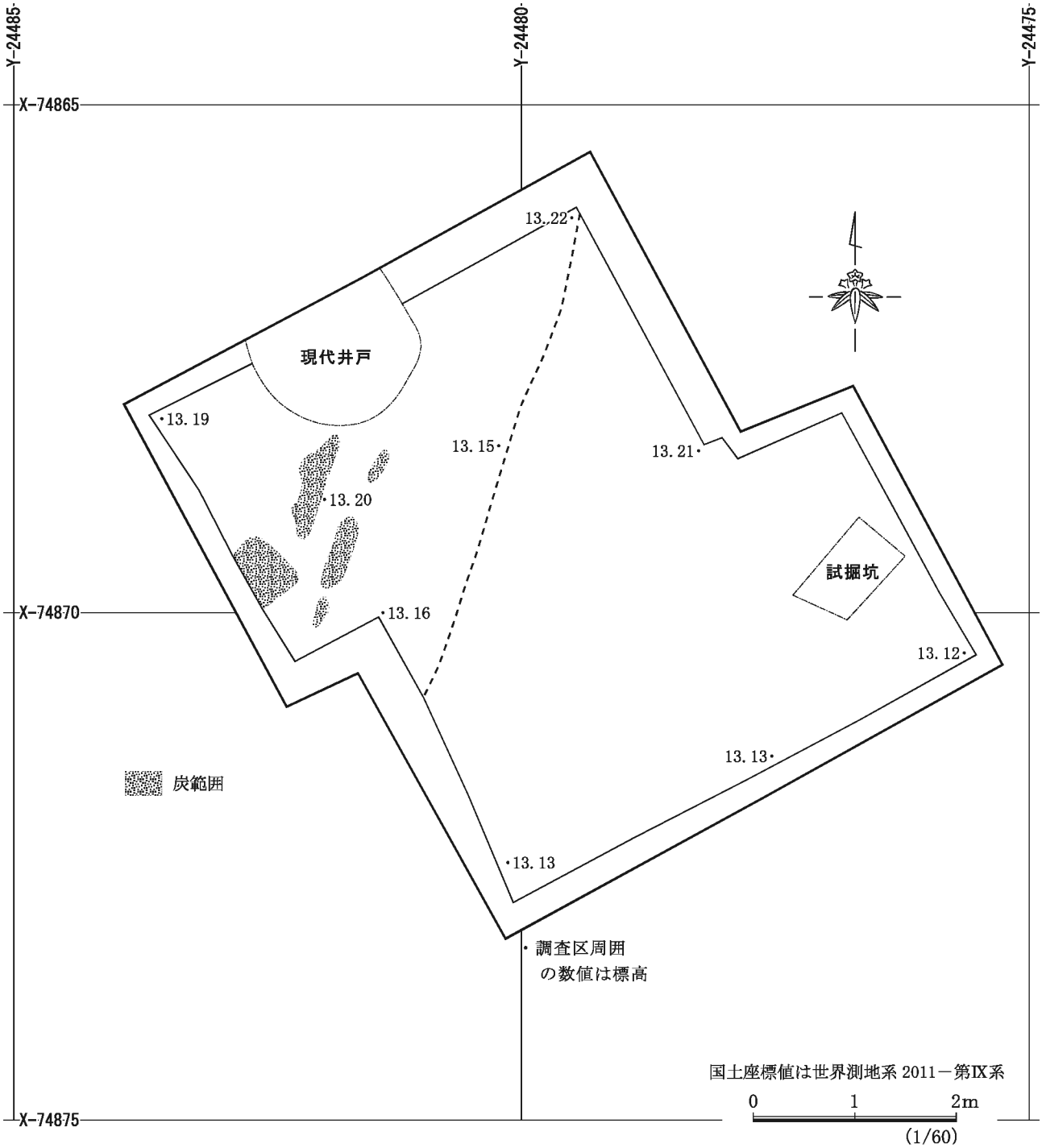
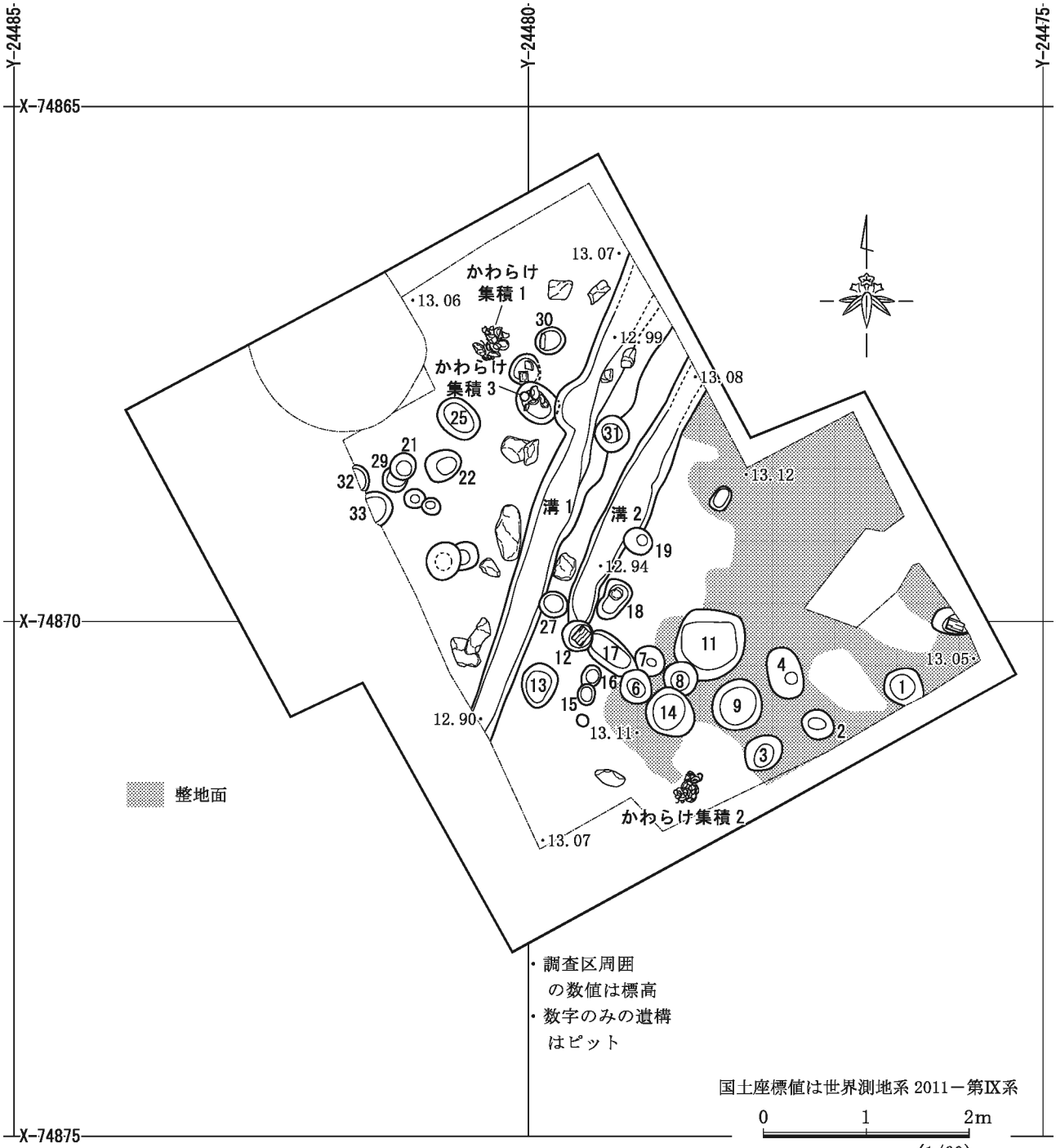


図４　２ａ面全体図

占められていた。落ち込みは埋土と基盤面の境界が不明瞭な箇所もあったためプラン確定に迷ったが、概ねN35° E前後が北岸のラインであったと考えている。これは、北西部溝群の走方向も規定しているように見受けられた。図3のF-G間・H-I間断面図が示すように斜度15～20°程度の非常になだらかな落ち込みであり、確認レベルから40cmほど掘り下げただけでは底面の検出には至らなかった。埋土は最上層がⅣ層・黒色粘質土であったが、その下位では水磨した泥岩粒が主体となる青灰色砂・砂礫層の堆積が確認された。出土遺物は僅少であったが、黒色粘質土層からは残存率の高い資料が一定量出土しており、 青灰色砂礫層からも灰釉陶器などの遺物片が出土している。埋土の様相としては河川堆積という印象を持ったが、 出土土器の器面や割れ口は水磨しておらず、墨書文字が明瞭に遺存している資料も少なからず見て取れたことから、上流から土砂とともに運ばれてきたと見るよりは、一定の埋没



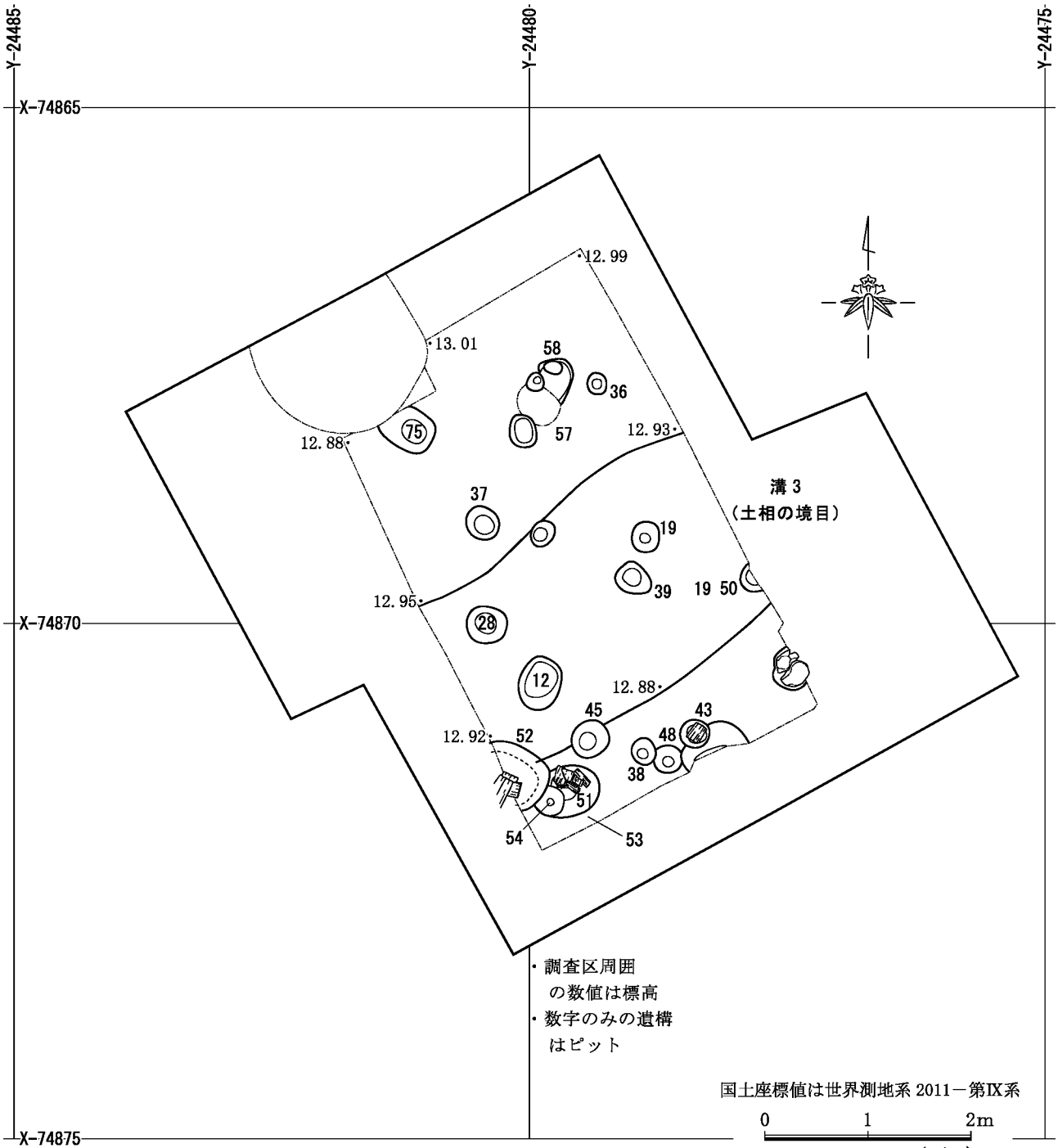
面	遺構 No.	底面標高（m）
2b	ピット 1	12.93
2b	ピット 2	12.94
2b	ピット 3	12.98
2b	ピット 4	12.88
2b	ピット 5	欠番
2b	ピット 6	12.89
2b	ピット 7	12.69
2b	ピット 8	12.92
2b	ピット 9	12.91
2b	ピット 10	欠番
2b	ピット 11	12.89

面	遺構 No.	底面標高（m）
2b	ピット 12	12.77
2b	ピット 13	12.79
2b	ピット 14	12.92
2b	ピット 15	12.92
2b	ピット 16	12.96
2b	ピット 17	欠番
2b	ピット 18	12.80
2b	ピット 19	12.70
2b	ピット 20	欠番
2b	ピット 21	12.96
2b	ピット 22	12.67

面	遺構 No.	底面標高（m）
2b	ピット 23	欠番
2b	ピット 24	欠番
2b	ピット 25	12.83
2b	ピット 26	欠番
2b	ピット 27	12.85
2b	ピット 28	12.57
2b	ピット 29	12.93
2b	ピット 30	12.95
2b	ピット 31	12.80
2b	ピット 32	12.90
2b	ピット 33	12.93

平面規模は、各平面図を参照のこと

図５　２ｂ面全体図

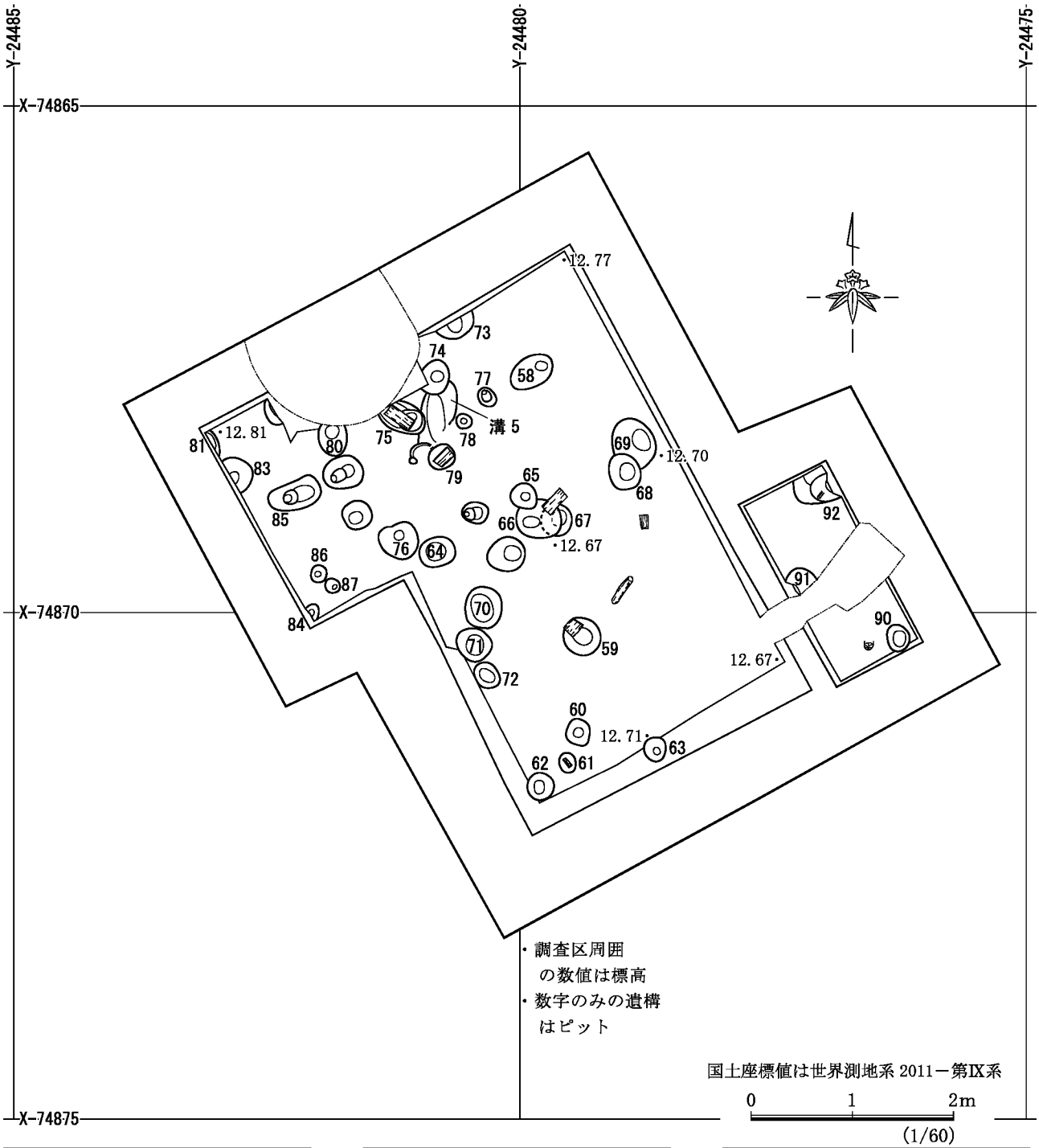


面	遺構 No.	底面標高（m）
2c	ピット 34	欠番
2c	ピット 35	欠番
2c	ピット 36	12.80
2c	ピット 37	12.82
2c	ピット 38	12.90
2c	ピット 39	12.77
2c	ピット 40	欠番
2c	ピット 41	欠番
2c	ピット 42	欠番

面	遺構 No.	底面標高（m）
2c	ピット 43	12.84
2c	ピット 44	欠番
2c	ピット 45	12.64
2c	ピット 46	欠番
2c	ピット 47	欠番
2c	ピット 48	12.56
2c	ピット 49	欠番
2c	ピット 50	12.78
2c	ピット 51	12.80

面	遺構 No.	底面標高（m）
2c	ピット 52	(12.78)
2c	ピット 53	12.82
2c	ピット 54	12.59
2c	ピット 55	欠番
2c	ピット 56	欠番
2c	ピット 57	12.85
2c	ピット 58	12.42
2c	ピット 75	12.55

図６　２ｃ面全体図



面	遺構 No.	底面標高（m）
3	ピット 59	12.50
3	ピット 60	12.44
3	ピット 61	未計測
3	ピット 62	12.48
3	ピット 63	12.55
3	ピット 64	12.23
3	ピット 65	12.32
3	ピット 66	12.43
3	ピット 67	12.23
3	ピット 68	12.37
3	ピット 69	12.33
3	ピット 70	12.50

面	遺構 No.	底面標高（m）
3	ピット 71	12.41
3	ピット 72	12.52
3	ピット 73	12.44
3	ピット 74	12.44
3	ピット 76	12.53
3	ピット 77	12.59
3	ピット 78	12.71
3	ピット 79	12.59
3	ピット 80	12.52
3	ピット 81	12.71
3	ピット 82	欠番

面	遺構 No.	底面標高（m）
3	ピット 83	12.41
3	ピット 84	12.60
3	ピット 85	12.38
3	ピット 86	12.60
3	ピット 87	12.60
3	ピット 88	12.22
3	ピット 89	12.41
3	ピット 90	12.58
3	ピット 91	12.39
3	ピット 92	12.32
3	ピット 93	12.58

図７　３面全体図

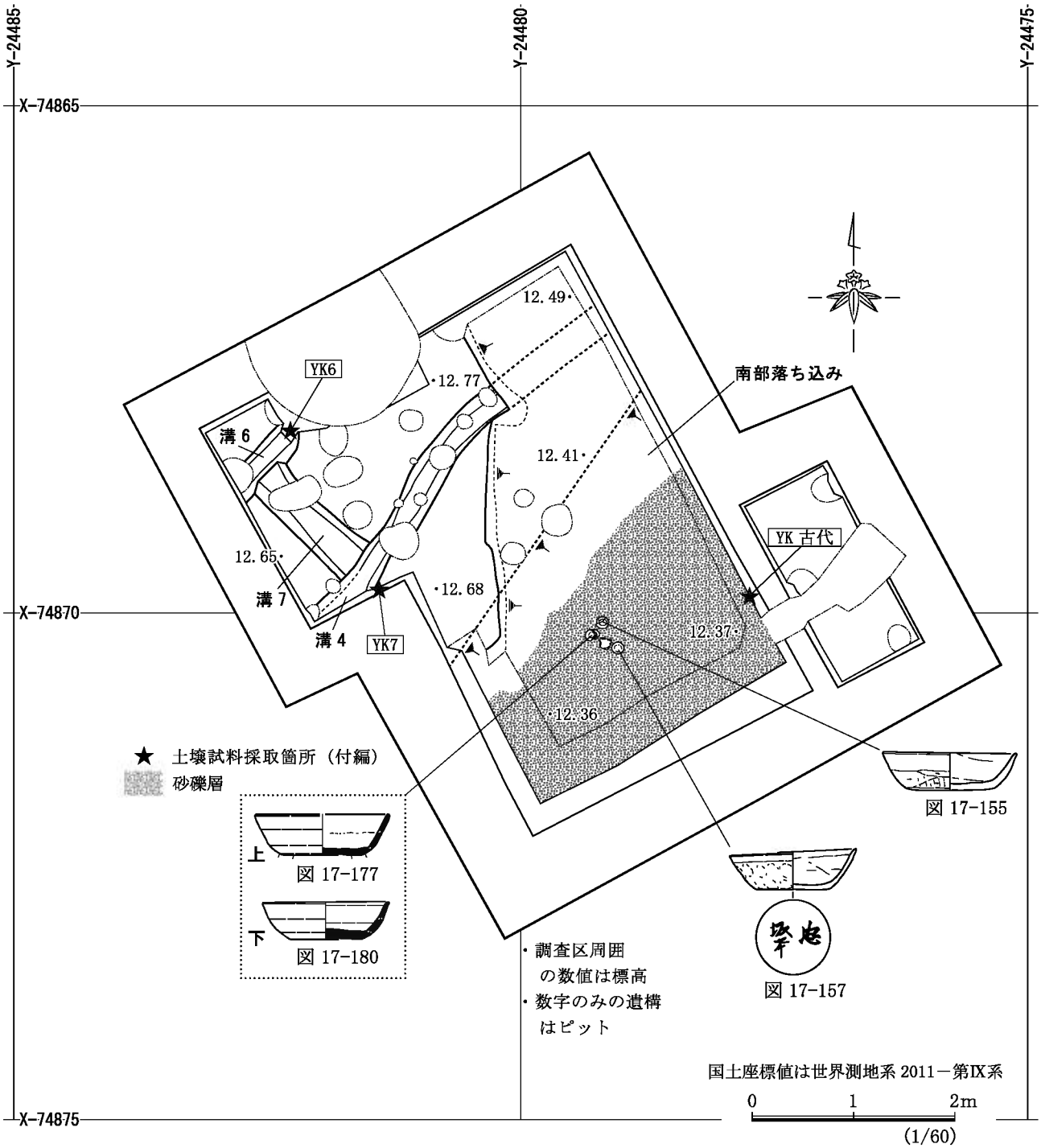


図８　４面全体図

が進んだところに、ごく近傍で使用された土器が廃棄（あるいは埋置）されたものと考えている。

落ち込み、および溝 4・6・7 の埋土からは灰釉陶器やロクロ土師器の破片が出土していることから、平安時代の遺構と位置付けることができる（表 3)。落ち込みと溝 4 では中世遺物の出土も見られたが、これらは調査時に混入したものと考えている。

落ち込みでは完形、ないしはそれに近い土器 4 個体が一ヶ所にまとまった状態で出土する例もあった(図版 4-3・4)。正位・伏位という出土状態に加え墨書資料を含んでいる点から、意図的埋置の可能性も想定できる。

落ち込み最上部の堆積土と溝 6・7 の埋土について植物珪酸体分析を行った結果、水田土壌の混入を推測させるに十分な量のイネのプラント・オパールが検出され、溝 6 以外ではイネの穎破片も多く確認

されている（第五章）。古代の本地点近傍において水稲耕作が営まれていたことの傍証となり、小規模な溝群も、居住関連よりは耕作との関連で理解可能な遺構形態を呈している。今回、水田と確実に断定できる遺構の検出には至らなかったが、今後、周辺で調査を行う際には水田の存在を視野に入れて作業に当たる必要があろう。

第２節　出土遺物

（１）確認調査・表土掘削時の出土遺物（図９）

確認調査時には、２・３の木製品が出土している。詳細な出土層位は明らかでないが、一応中世に属

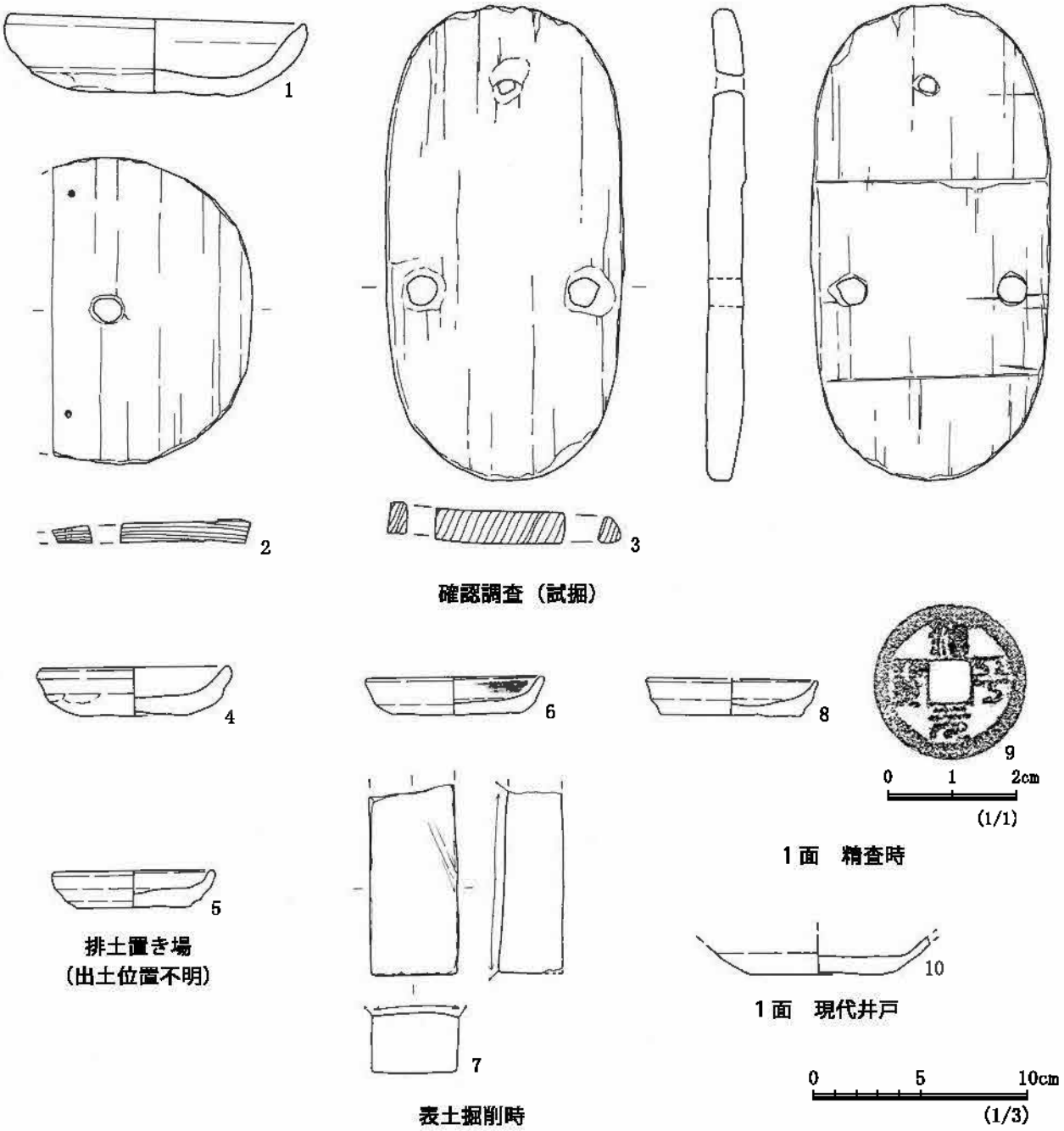
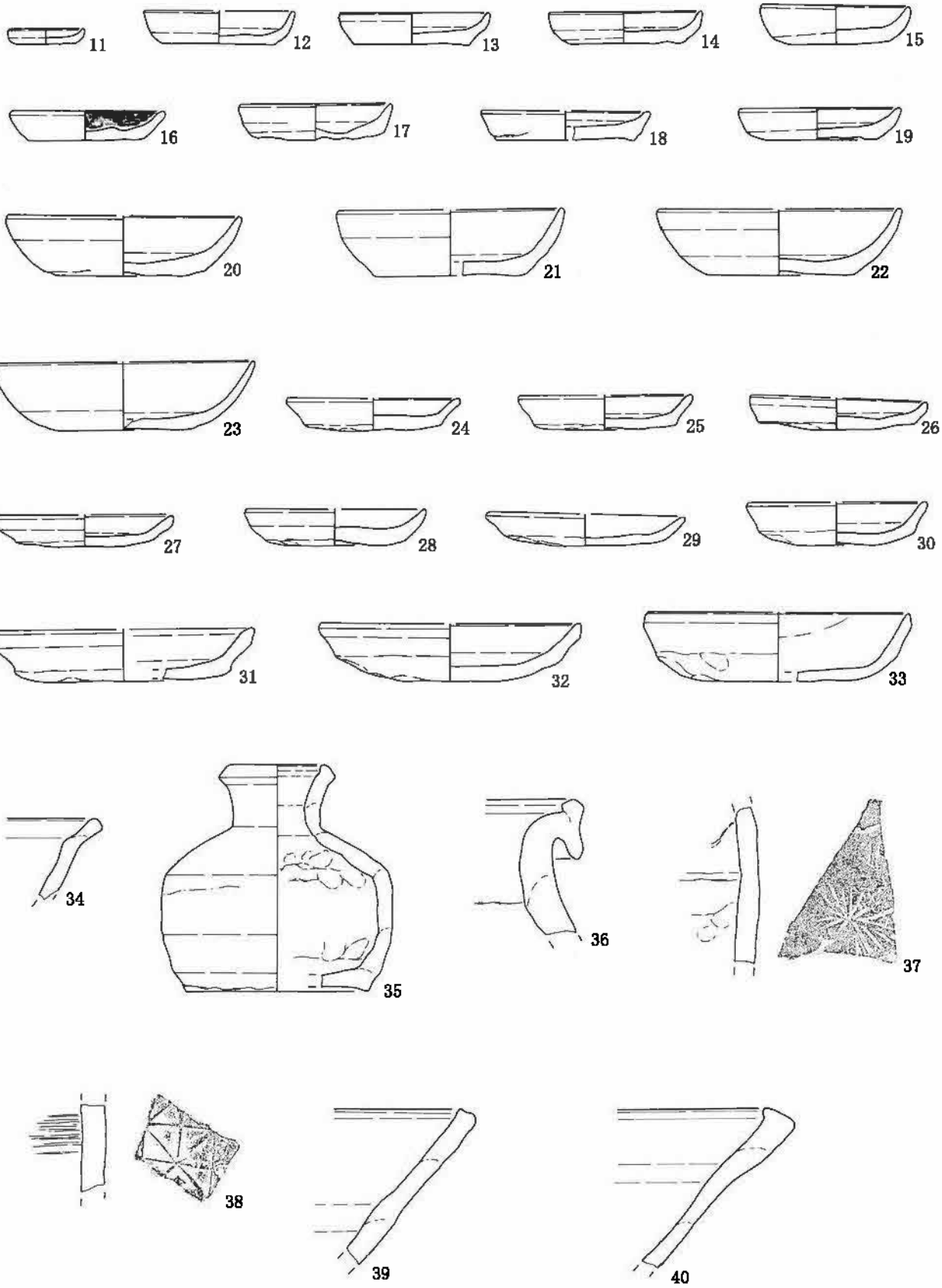


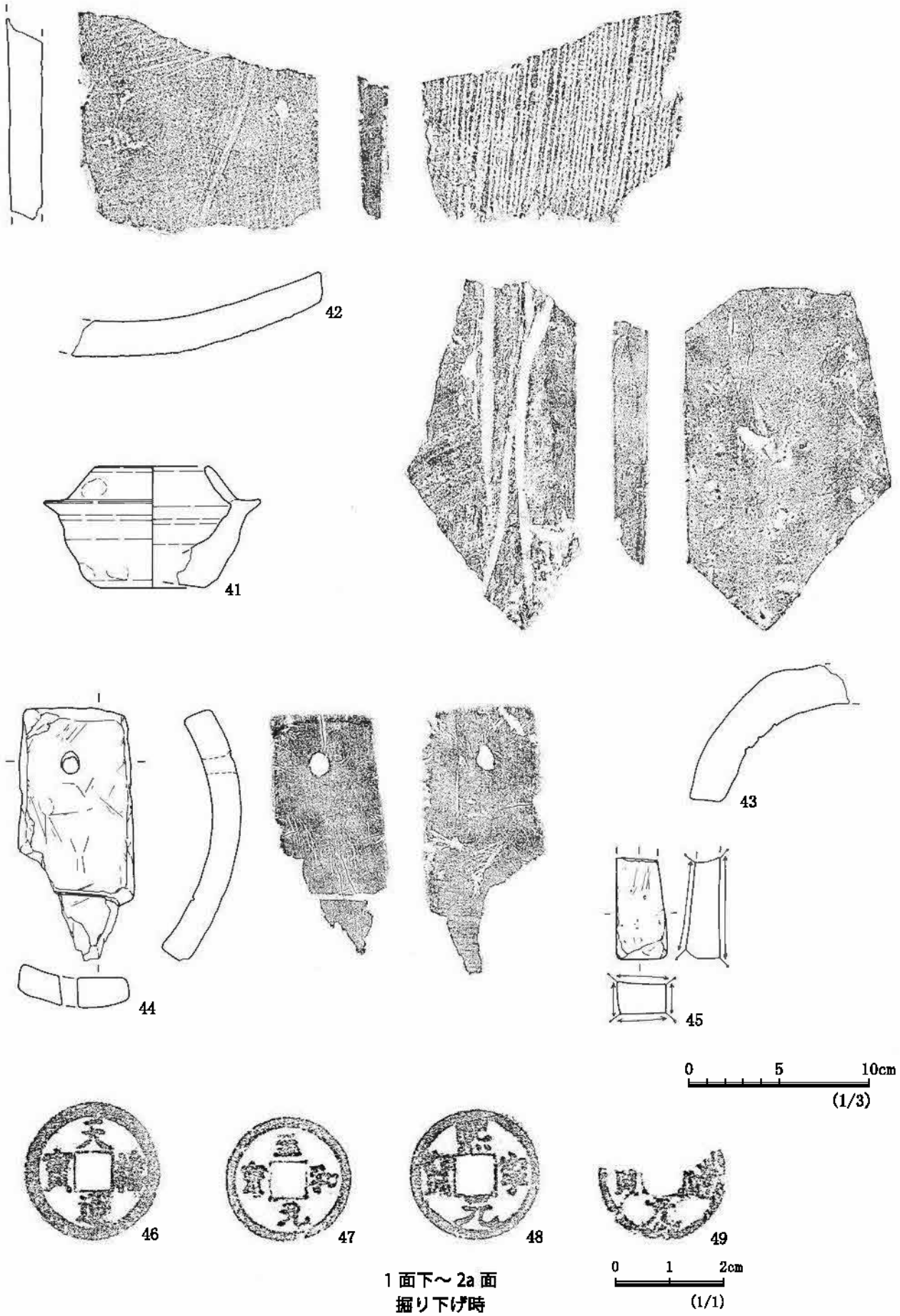
図９　出土遺物（1）



1面下～2a面
掘り下げ時

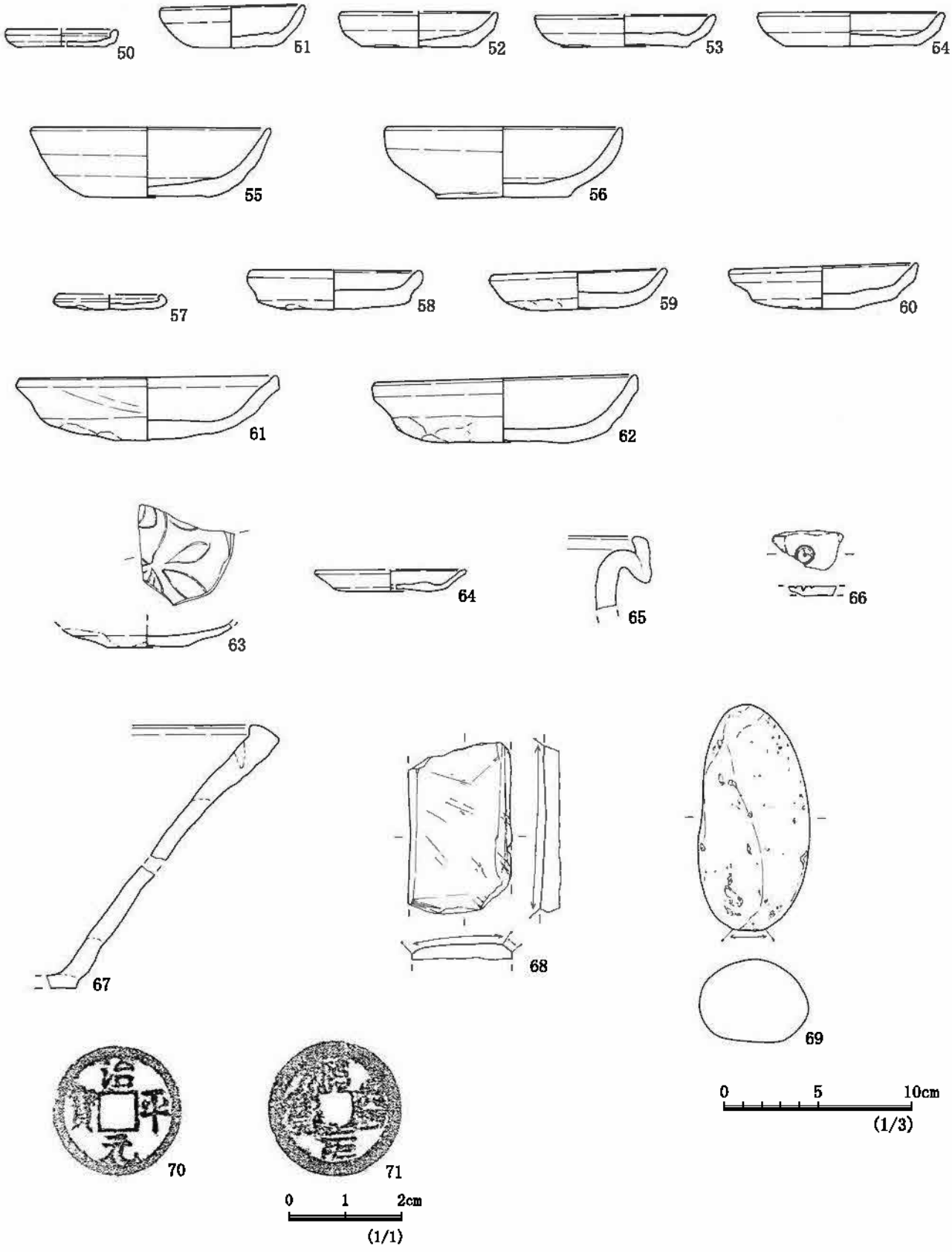
0 5 10cm
(1/3)

図10　出土遺物（2）



1面下～2a面
掘り下げ時

図11　出土遺物（3）



1面下～2a面
掘り下げ時②

図12　出土遺物（4）

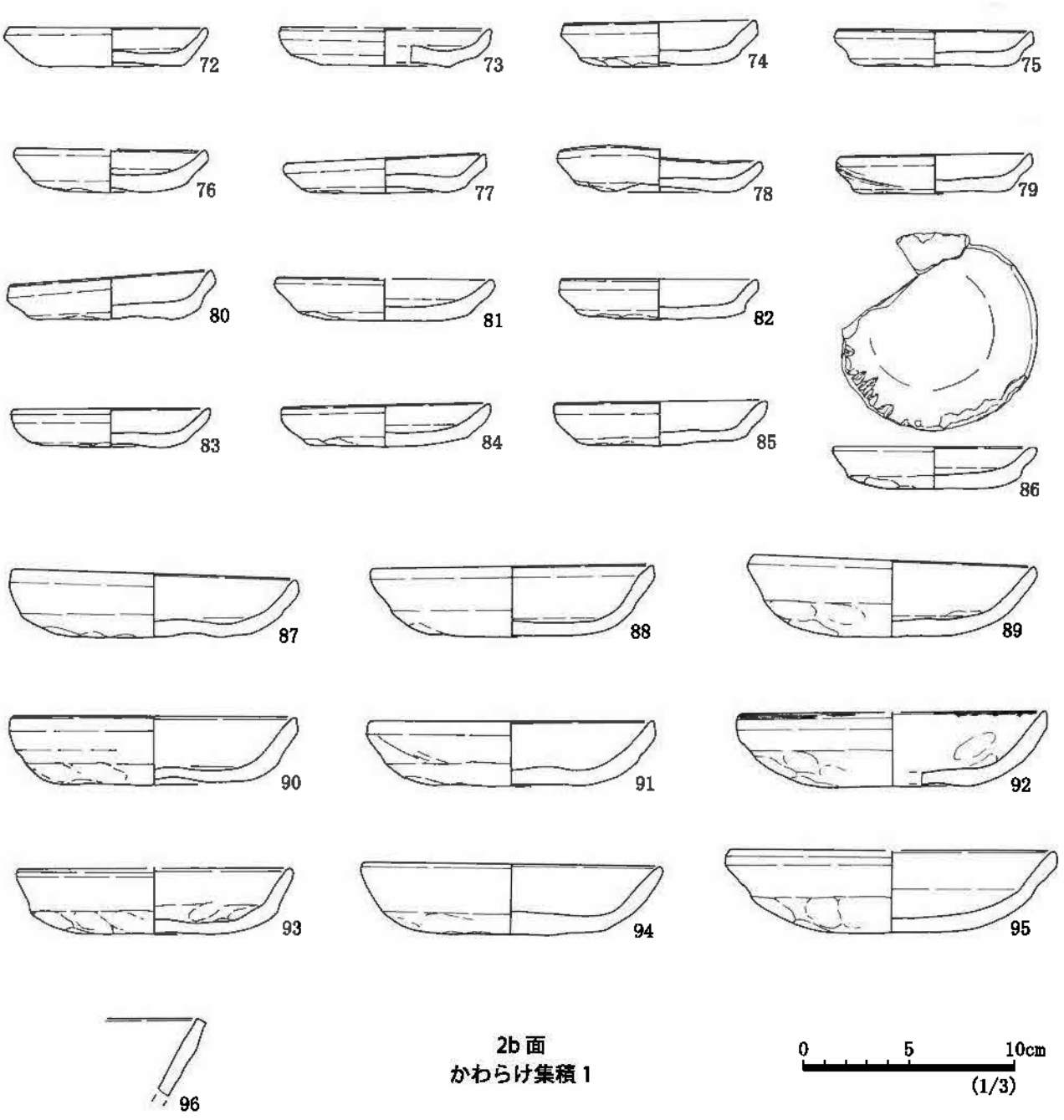


図13　出土遺物（5）

するものであろう。

表土掘削時の遺物について、今回は厚手・外反タイプのロクロかわらけなど15世紀的様相を呈する遺物は殆ど認められなかった。近世以降の耕作土（Ⅰ層）直下である2a面で鎌倉時代の遺構群が検出された状況を見ると、本地点では、南北朝～室町期の遺構面は削平で失われてしまった可能性がある。

（2）1面下～2a面の出土遺物（図10～12）

現地調査における1面は中世遺構面でなかったため欠番としたが、ここから2a面の検出までに掘り下げた際、出土した遺物を図10～12に掲げた。その中でも11～49は上層から、50～71は下層から出土したものである。結果として、層位の上下関係が遺物様相の新旧を反映した内容とはならなかったが、全体としては鎌倉時代に収め得る資料群であった。数量的傾向を見ると、かわらけはロクロ成形品が手づくねをやや上回る状況で（表3）、多少の混在要素も見られるが、手づくね消失以前の堆積層と

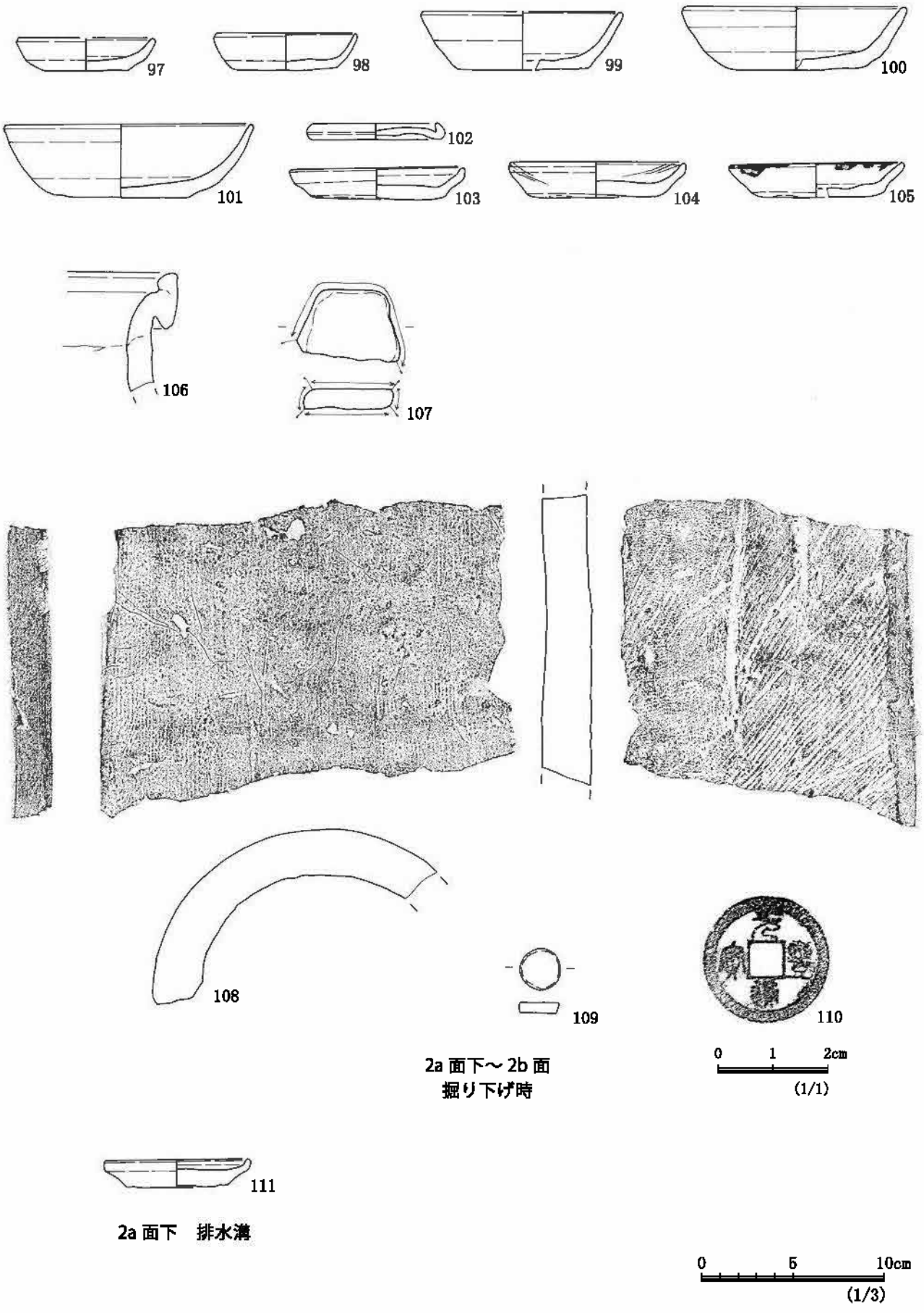
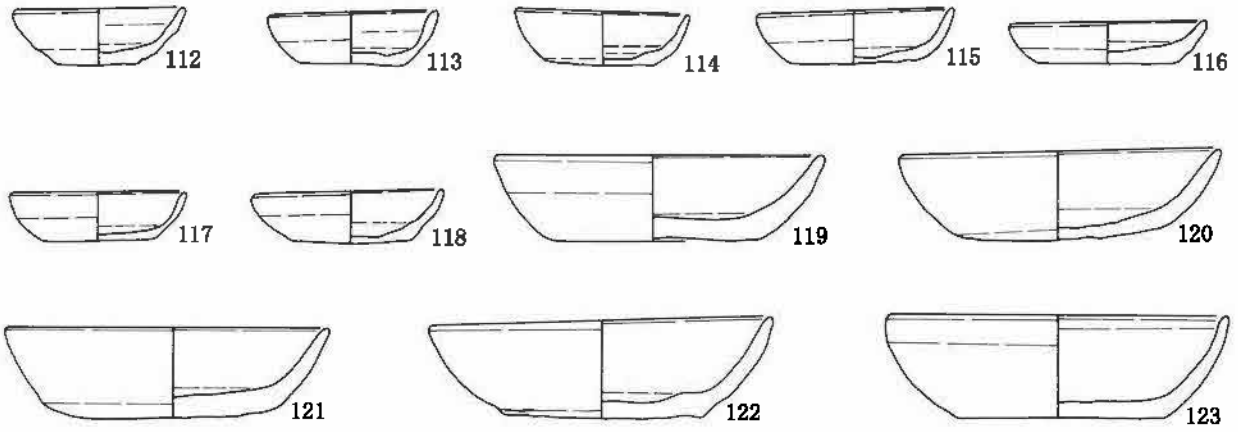
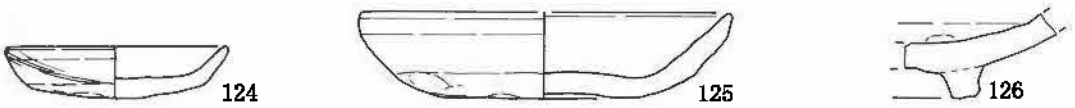

97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
0 1 2cm
(1/1)
2a 面下～2b 面
掘り下げ時
111
2a 面下　排水溝
0 5 10cm
(1/3)

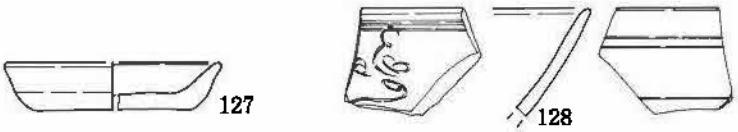
図 14　出土遺物（6）



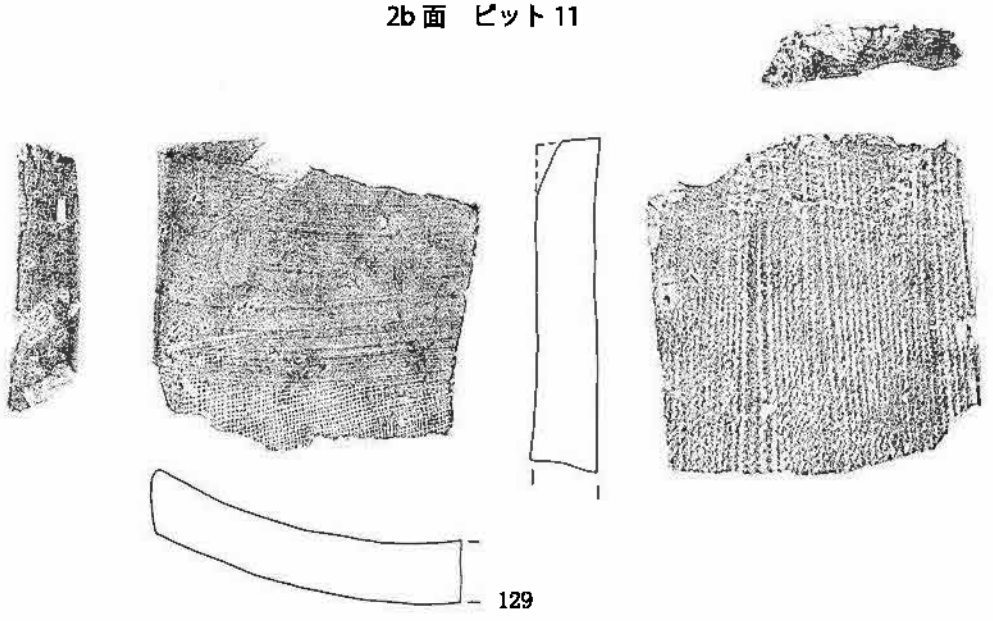
2b 面
かわらけ集積 2



2b 面　溝 1



2b 面　ピット 11



2b 面　ピット 22

2b 面　ピット 36･38

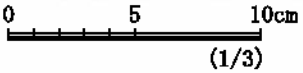


図 15　出土遺物（7）

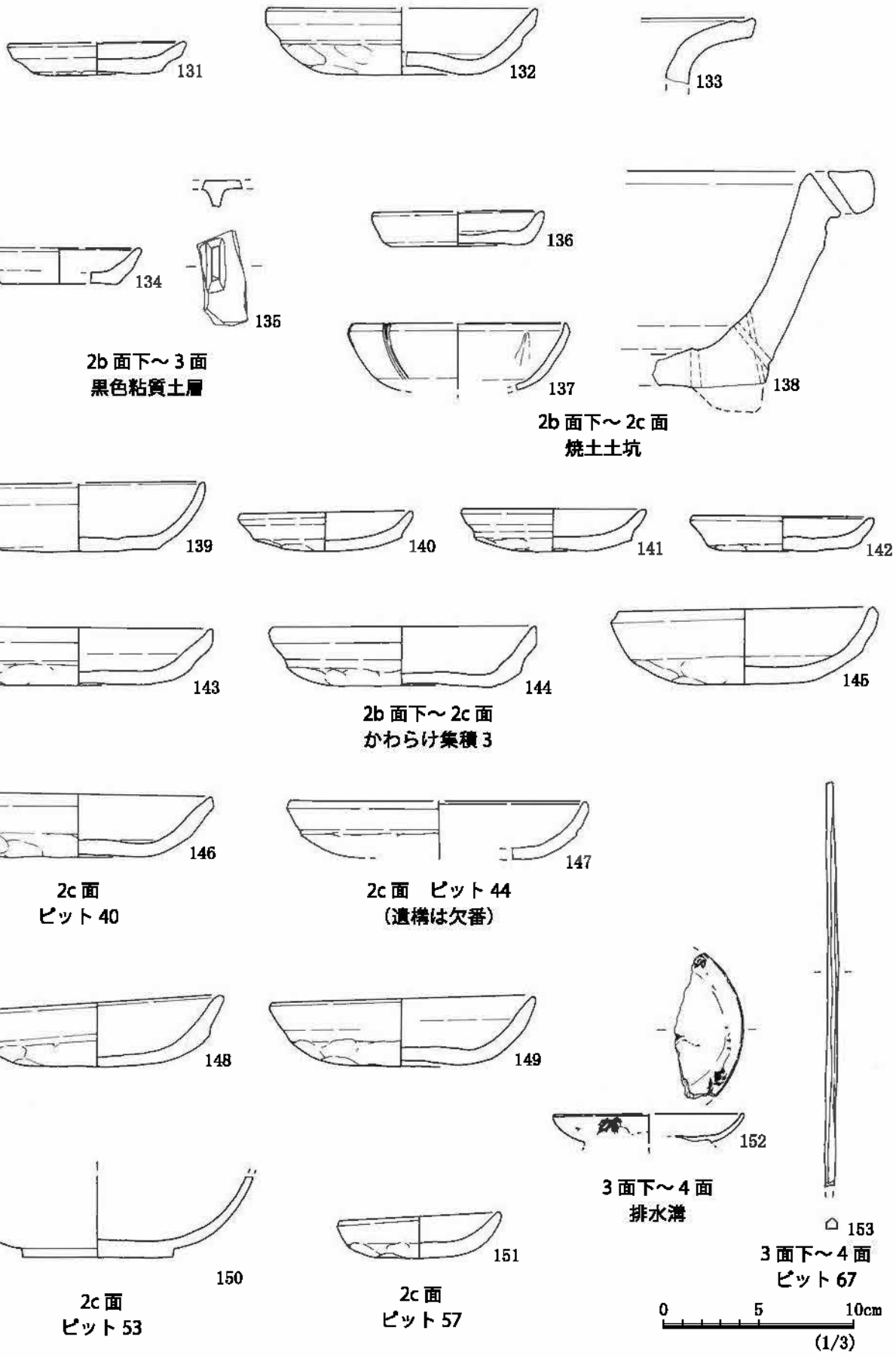

131
132
133
134
135
2b 面下～ 3 面
黒色粘質土層
136
137
138
2b 面下～ 2c 面
焼土土坑
139
140
141
142
143
144
145
2b 面下～ 2c 面
かわらけ集積 3
146
147
2c 面
ピット 40
2c 面　ピット 44
（遺構は欠番）
148
149
150
2c 面
ピット 53
151
2c 面
ピット 57
152
3 面下～ 4 面
排水溝
153
3 面下～ 4 面
ピット 67
0
5
10cm
(1/3)

図 16　出土遺物（8）

理解すべきだろう。

（3）2a 面下～ 2 面の出土遺物（図 14）

表 3 では、かわらけの破片点数・重量において手づくねがロクロと拮抗し、小皿ではロクロを凌いでいる。この点、僅かながら上層よりも古い要素として認め得ようか。ただし、後述するように遺構確認の上・下と遺物様相の新・旧が整合しないケースが間々あるので、数量データとしては信頼性に欠けた内容となっている。

（4）2b 面遺構の出土遺物（図 13・15・16）

挿図の掲載順が離れてしまったが、図 13 にかわらけ集積 1 の出土遺物を、図 15 にその他の遺構出土遺物を提示した。かわらけ集積 1（72 ～ 96）では手づくねが圧倒的多数を占めており、ロクロのみのかわらけ集積 2（112 ～ 123）とは全く様相が異なる。後者は小皿まで身深・内湾器形を呈して 14 世紀中葉頃まで下る可能性があり、前者とは 100 年近い型式・年代差がある。本来の掘り込み面が異なっていたと考えるべきだろうが、現地では明確には把握できなかった。同様に、後述するかわらけ集積 3 も 2b 面下～ 2c 面検出までに確認したものだが、本報告では 2b 面に帰属するものとした。

この他、溝 1、ピット 11・22 の出土遺物を図 15 に、2b 面下～ 2c 面への掘り下げ時に検出した焼土土坑の出土遺物を図 16 に掲載したが、全体として 13 世紀前半に収まる遺物様相と見なすことができる。

（3）3 面遺構の出土遺物（図 16）

該当遺物は非常に少なく、153 の箸状木製品 1 点のみを掲図した。3 面下～ 4 面の掘り下げ時に確認した、ピット 67 からの出土である。表 3 ではかわらけをはじめ中世遺物も散見できるが、どちらかといえば土師器・須恵器などの古代遺物が目立つ。

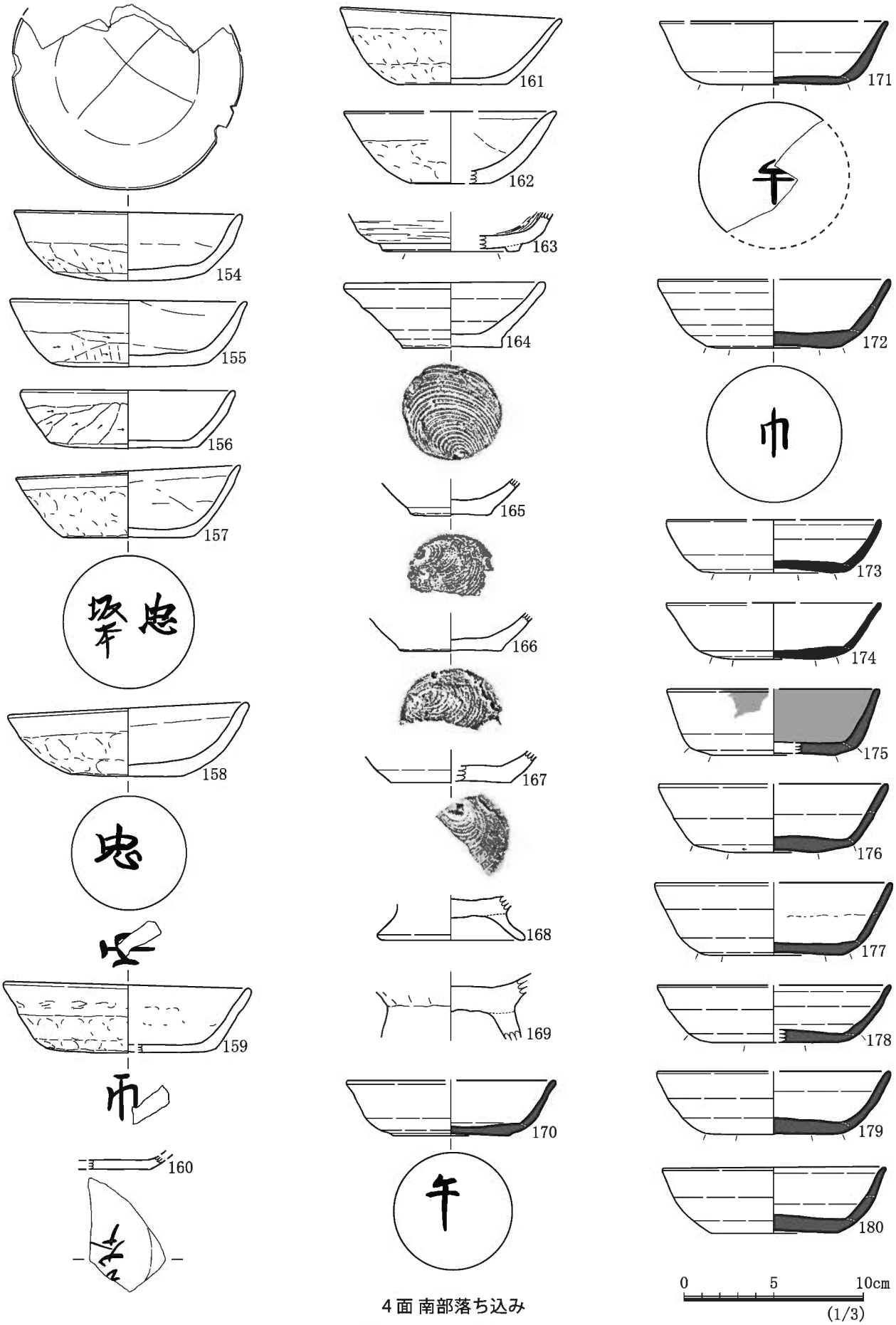
（4）4 面遺構の出土遺物（図 17・18）

154 ～ 204 は南部落ち込みの埋土から出土し、181 以下は砂礫層からの出土である。8 ～ 9 世紀という年代幅があるが、8 世紀後半～ 9 世紀初頭頃の資料が主体となるようである。194 は 14 世紀代まで下るロクロかわらけで、掘り残した上層遺構などにともなう、混入遺物であろう。

土師器坏 155・157 と須恵器坏 177・180 は砂礫層上の標高 12.35 m前後で、一まとまりになって出土した（図 8、図版 4-3・4）。厳密に完形品といえるのは 157 のみで、他の 3 点は一部が欠けていた。157 は南武蔵型坏で、底部外面に「忠」と「坂本」の墨書文字が並んでいる。155 は相模型坏で、底部外面に薄く煤が付着している。形態・法量から 8 世紀後葉の所産と考えられる。出土状態および墨書資料を含んでいる事情を鑑み、これら 4 点は意図的に埋置された可能性が高いように思う。墨書土器は土師器坏が 4 点（157 ～ 160）、須恵器坏が 4 点（170 ～ 172・202）の計 8 点を確認・掲載した。落ち込み自体、調査区内では 2.5 × 3 m程度の狭い範囲しか確認できなかったことを考えれば、墨書土器としてはまとまった資料といえるだろう。いずれも 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭という年代観で、文字種や筆致に統一感があることから、概ね同時期の資料と考えられる。160 は南武蔵型坏の底部片で、外面の墨書二文字は 157 と同様、「坂本」と読むのが妥当であろう。

前章で述べたように、出土土器の器面や割れ口は水磨しておらず、墨書文字の残りも良好であった。落ち込みが埋没していく過程で、近在する集落から土器がもたらされたことを示していよう。

当地点の古代遺物を通観するに、土師器坏の中で南武蔵型の比率が高いことが特徴として指摘できようか。表 3 から相模型坏との重量比を算出すると南武蔵型 1：相模型 4 という比率となるが、これでも相模国域としては十分に高い数字に思え、掲図できた資料も 6 点と多い。これが当エリアの古代遺跡に共通する状況といえるのか、調査・報告成果の蓄積が期待される。



4面 南部落ち込み

図 17　出土遺物（9）

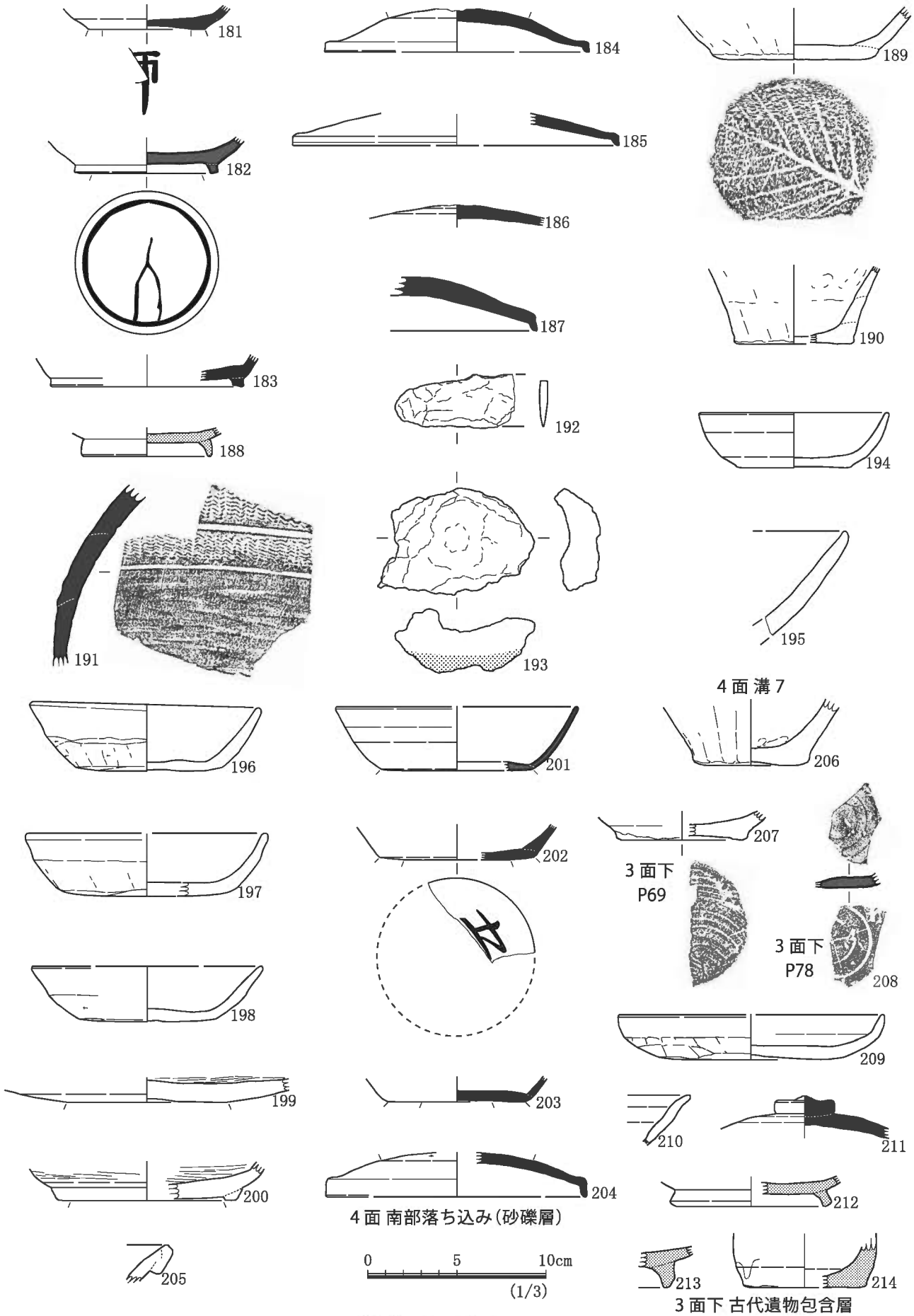

181
182
183
188
184
185
186
187
189
190
192
194
191
193
195
4面 溝7
196
201
206
197
202
207
3面下
P69
3面下
P78
208
198
209
199
203
210
211
200
204
212
205
4面 南部落ち込み(砂礫層)
0
5
10cm
(1/3)
213
214
3面下 古代遺物包含層

図 18　出土遺物（10）

表２　出土遺物観察表

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量（cm）			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図91	在地土器	かわらけ 手づくね 大	3/4	13.7	—	3.45	—	B	橙	ナデ	—	
図92	木製品	円盤状	3/4	長さ 14.2	幅 [9.5]	厚さ 1.1	—	—	—			
図93	木製品	？	完形？	長さ 22.0	幅 11.0	厚さ 1.5	—	—	—			歯は折損（摩滅）か
図94	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/3	(8.6)	—	2.2	—	B D	橙～ 淡橙	ナデ	—	
図95	在地土器	かわらけ ロクロ　小	3/4	(7.4)	5.4	1.7	[53.3]	B	黄灰	ナデ	板状	
図96	在地土器	かわらけ ロクロ　小	3/4	8.1	5.9	1.8	[50.8]	B	灰黄	ナデ	板状	内面一部褐色に変色
図97	石製品	砥石	—	長さ [8.5]	幅 4.0	厚さ 3.0	[209.6]	—	—	—	—	伊予 中砥 一面使用
図98	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/2	(7.8)	(6.4)	1.7	[24.2]	B	黄灰	ナデ	不明	
図99	銅製品	銭	—	径 2.4	内孔 0.6	厚さ 0.1	3.9	—	—	—	—	治平元寶 北宋1064年初鋳 篆書
図910	国産陶器	瀬戸 皿類	底片	—	(6.0)	[1.8]	—	良	灰白	摩耗	—	縁釉小皿か折縁小皿か 中・後期 浸け掛けの灰釉
図1011	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/2	(3.8)	(3.0)	0.8	[3.9]	B	灰黄	ナデ	不明	
図1012	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/2	(7.6)	(5.8)	1.7	[24.4]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1013	在地土器	かわらけ ロクロ　小	3/4	7.7	5.9	1.7	[46.7]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1014	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/2	7.8	5.8	1.7	[37.3]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1015	在地土器	かわらけ ロクロ　小	ほぼ 完形	7.6	5.2	1.5	67.0	B	灰黄	ナデ	板状	口縁楕円状 最大口径7.9cm
図1016	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/2	7.8	5.8	1.5	[30.4]	B	黄灰	ナデ	板状	坩堝・取瓶として使用か 被熱で黒変・気泡
図1017	在地土器	かわらけ ロクロ　小	ほぼ 完形	7.8	6.4	1.9	56.8	B	灰黄	ナデ	板状	
図1018	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/3	(8.6)	(7.0)	1.5	[22.0]	B	淡橙	ナデ	板状	胎芯黒灰色
図1019	在地土器	かわらけ ロクロ　小	ほぼ 完形	8.2	6.0	2.6	[56.7]	B	橙	ナデ	板状	
図1020	在地土器	かわらけ ロクロ　大	1/2	(12.0)	(8.0)	3.1	[78.5]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1021	在地土器	かわらけ ロクロ　中	1/3	(11.6)	(7.8)	3.4	[58.7]	B	灰黄	ナデ	板状	
図1022	在地土器	かわらけ ロクロ　大	1/2	(12.4)	(7.6)	3.4	[74.6]	B	灰	橙	板状	
図1023	在地土器	かわらけ ロクロ　大	1/2	(13.4)	(7.0)	3.5	[63.6]	B	橙	ナデ	板状	「薄手丸深」系
図1024	在地土器	かわらけ 手づくね　小	3/4	(8.8)	—	1.2	[49.5]	D	橙	ナデ	—	
図1025	在地土器	かわらけ 手づくね　小	1/2	(8.8)	—	1.8	[41.5]	D	灰黄	ナデ	板状 か	
図1026	在地土器	かわらけ 手づくね　小	ほぼ 完形	9.0	—	1.55	[64.1]	B	橙	ナデ	—	粘土板折り曲げ成形
図1027	在地土器	かわらけ 手づくね　小	2/3	(9.0)	—	1.75	[49.0]	B	灰黄	ナデ	—	内底ナデ→周縁ナデ
図1028	在地土器	かわらけ 手づくね　小	1/3	(9.2)	—	1.9	[34.6]	B	橙	ナデ	—	内面に細かな傷
図1029	在地土器	かわらけ 手づくね　小	1/2	(10.0)	—	1.65	[43.0]	D	黄灰	ナデ	—	内外面薄く黒変 内底ナデ→周縁ナデ
図1030	在地土器	かわらけ 手づくね　小	1/2	(9.2)	—	2.2	[29.8]	D	灰黄	ナデ	板状	
図1031	在地土器	かわらけ 手づくね　大	1/3	(13.4)	—	2.7	[50.0]	D	淡橙	ナデ	—	
図1032	在地土器	かわらけ 手づくね　大	1/2	(13.4)	—	3.0	[96.5]	B	灰黄	ナデ	—	
図1033	在地土器	かわらけ 手づくね　大	1/4	(13.4)	—	3.1	[41.7]	B	橙	ナデ	—	
図1034	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口小片	—	—	[4.2]	—	—	灰	—	—	中期前半 浸け掛けの灰釉
図1035	国産陶器	常滑 鳶口壺	—	4.8	(9.8)	12.0	—	—	暗灰褐	—	—	口頸部と胴底部に接合点なし

遺物番号	種別	器種	残存率	法量（cm）			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図10 36	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[7.0]	—	—	暗灰	—	—	縁帯幅[3.1]cm C類 6b型式
図10 37	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	厚さ 1.0	—	—	灰	—	—	
図10 38	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	厚さ 1.2	—	—	緑褐	—	—	
図10 39	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[8.0]	—	—	暗灰 ～暗褐	—	—	C類 6b型式か
図10 40	瓦質土器	火鉢	口小片	—	—	[8.2]	—	—	灰	—	—	Ⅰc類
図11 41	瓦	平瓦	—	長さ [14.2]	幅 [12.8]	厚さ 19.5	[389.1]	—	灰	—	—	
図11 42	土製品	不明	—	(6.2)	(5.8)	6.7	[215.3]	B	灰黄	—	—	
図11 43	瓦	丸瓦	—	—	—	[7.5]	[537.7]	—	灰褐	—	—	
図11 44	石製品	滑石鍋	—	長さ 13.8	幅 6.3	厚さ 1.6	[279.7]	—	—	—	—	西彼杵 転用加工途中か
図11 45	石製品	砥石	—	長さ [5.5]	幅 2.6	厚さ 1.8	—	—	—	—	—	上野 中砥 4面使用
図11 46	銅製品	銭	完形	径 2.5	内孔 0.6	厚さ 0.1	3.8	—	—	—	—	天禧通寶 北宋1017年初鋳
図11 47	銅製品	銭	完形	径 2.2	内孔 0.5	厚さ 0.1	3.0	—	—	—	—	至和元寶 北宋1054年初鋳 真書
図11 48	銅製品	銭	完形	径 2.3	内孔 0.6	厚さ 0.1	4.4	—	—	—	—	熙寧元宝 北宋1068年初鋳 篆書
図11 49	銅製品	銭	1/2	径 2.2	—	厚さ 0.1	[1.6]	—	—	—	—	銭銘不明
図12 50	在地土器	内折かわらけ ロクロ　極小	1/2	(5.8)	(4.8)	0.9	[5.4]	B	橙	ナデ	板状	
図12 51	在地土器	かわらけ ロクロ　小	4/5	7.5	4.9	2.2	[48.7]	B	橙	ナデ	板状	
図12 52	在地土器	かわらけ ロクロ　小	1/2	(8.2)	(6.0)	1.9	[37.1]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部歪み
図12 53	在地土器	かわらけ ロクロ　小	3/4	(9.4)	6.6	1.7	[38.5]	B E	灰黄	ナデ	板状	
図12 54	在地土器	かわらけ ロクロ　小	ほぼ 完形	9.7	7.2	1.9	[66.4]	B	橙	ナデ	板状	口縁部歪み 最小口径(9.0)cm
図12 55	在地土器	かわらけ ロクロ　大	ほぼ 完形	12.4	6.4	3.7	[183.0]	B	淡橙	ナデ	板状	内底に渦巻き状痕跡
図12 56	在地土器	かわらけ ロクロ　大	2/3	12.4	7.0	3.8	[147.4]	B	橙	ナデ	板状	
図12 57	在地土器	白かわらけ 手づくね極小	1/3	(5.4)	—	0.8	[7.1]	D	黄白	ナデ	—	内折れ
図12 58	在地土器	かわらけ 手づくね　小	ほぼ 完形	8.9	—	2.05	80.4	B	淡橙	ナデ	板状	
図12 59	在地土器	かわらけ 手づくね　小	ほぼ 完形	9.0	—	2.0	76.9	B	橙	ナデ	板状	粘土板折り曲げ成形か
図12 60	在地土器	かわらけ 手づくね　小	3/4	9.8	—	2.25	[85.1]	D	灰黄	ナデ	—	
図12 61	在地土器	かわらけ 手づくね　大	3/4	13.6	—	3.4	[151.5]	B	灰黄	ナデ	—	
図12 62	在地土器	かわらけ 手づくね　大	4/5	13.9	—	3.4	[204.6]	B E	灰黄	ナデ	—	
図12 63	舶載磁器	白磁 皿	底部片	—	(4.2)	[1.2]	—	精良	灰緑	—	—	大宰府Ⅷ-1b類 内底 ヘラ描き草花文
図12 64	国産陶器	東濃型 山茶碗	1/2	(7.8)	(4.6)	1.15	—	良	灰	ナデ	板状	第7～8型式か
図12 65	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[3.9]	—	—	暗褐	—	—	縁帯幅2.5cm B類　6a型式
図12 66	土器	不明	小片	—	—	—	—	—	橙 ～灰白	—	—	点+竹管状押捺文
図12 67	瓦質土器	火鉢	—	—	—	[14.0]	—	—	暗灰	—	—	Ⅰc類
図12 68	石製品	砥石	—	長さ [8.9]	幅 5.4	厚さ [1.0]	[72.2]	—	—	—	—	上野 中砥(近世か)
図12 69	石製品	敲打具？	—	長さ 17.0	幅 5.8	厚さ 4.5	402.5	—	—	—	—	一部敲打痕か
図12 70	銅製品	銭	完形	径 2.3	内孔 0.6	厚さ 0.1	3.2	—	—	—	—	治平元寶 北宋1064年初鋳 真書
図12 71	銅製品	銭	完形	径 2.4	内孔 0.5	厚さ 0.1	2.9	—	—	—	—	紹聖元寶 北宋1094年初鋳 篆書

遺物番号	種別	器種	残存率	法量（cm）			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図13 72	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	9.2	6.8	1.8	72.9	B	灰黄	ナデ	板状	
図13 73	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/5	(9.8)	6.0	1.8	[18.6]	E	灰黄	ナデ	—	
図13 74	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/2	8.8	—	2.05	[51.0]	B	淡橙	ナデ	—	
図13 75	在地土器	かわらけ 手づくね 小	2/3	9.2	—	1.7	[59.8]	D	灰黄	ナデ	—	
図13 76	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/2	(8.8)	—	2.0	[42.5]	B	橙	ナデ	板状	
図13 77	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/2	9.3	—	1.6	[46.0]	D	灰黄	ナデ	—	内底ナデ→周縁ナデ
図13 78	在地土器	かわらけ 手づくね 小	完形	9.4	—	2.0	71.2	B	灰黄	ナデ	—	粘土板折り曲げ成形
図13 79	在地土器	かわらけ 手づくね 小	3/4	8.8	—	1.8	[54.0]	B	橙	ナデ	—	内底ナデ→周縁ナデ
図13 80	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/2	9.4	—	2.0	[40.3]	B	淡橙	ナデ	—	
図13 81	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/2	(9.8)	—	2.0	[57.0]	B E	灰黄	—	—	内底ナデ不鮮明
図13 82	在地土器	かわらけ 手づくね 小	4/5	9.1	—	1.9	[64.7]	B	淡橙	—	—	内底ナデ→周縁ナデ
図13 83	在地土器	かわらけ 手づくね 小	3/4	9.2	—	1.8	[52.4]	D	淡橙	ナデ	—	内底ナデ→周縁ナデ
図13 84	在地土器	かわらけ 手づくね 小	完形	9.6	—	2.0	72.4	B	橙	ナデ	—	口縁歪み　最大口径9.8cm 内底ナデ→周縁ナデ
図13 85	在地土器	かわらけ 手づくね 小	4/5	9.8	—	2.1	[84.7]	B	灰黄	ナデ	—	内底ナデ→周縁ナデ
図13 86	在地土器	かわらけ 手づくね 小	4/5	(9.4)	—	2.0	[65.4]	D	灰黄	ナデ	—	口縁部細かく打ち欠き 内底ナデ→周縁ナデ
図13 87	在地土器	かわらけ 手づくね 大	完形	13.3	—	3.0	182.8	B	灰黄	ナデ	—	
図13 88	在地土器	かわらけ 手づくね 大	ほぼ 完形	13.1	—	3.25	[176.8]	B	灰黄 ～淡褐	ナデ	—	口縁歪み　最大口径13.7cm
図13 89	在地土器	かわらけ 手づくね 大	ほぼ 完形	13.2	—	3.6	190.3]	B	淡橙	ナデ	—	口縁歪み　最大口径13.7cm 最小口径12.9cm
図13 90	在地土器	かわらけ 手づくね 大	4/5	13.3	—	3.2	[168.5]	B	淡橙	ナデ	—	
図13 91	在地土器	かわらけ 手づくね 大	ほぼ 完形	13.3	—	3.05	[198.5]	B	灰黄	ナデ	板状	
図13 92	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/3	(14.2)	—	3.5	[61.2]	B	淡橙	ナデ	—	笹口か　荒砥 端材を再加工
図13 93	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/2	(12.8)	—	3.1	[91.9]	B	橙	ナデ	—	
図13 94	在地土器	かわらけ 手づくね 大	ほぼ 完形	14.0	—	3.35	[215.9]	B	灰黄	ナデ	—	内面泥状の付着物あり
図13 95	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/2	(15.2)	—	3.9	[141.5]	D	灰黄	ナデ	—	
図13 96	国産陶器	瀬戸 卸皿	口小片	—	—	[3.7]	—	—	淡褐	—	—	刷毛塗りの灰釉
図14 97	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	(7.4)	4.6	1.8	[45.3]	B	淡橙	ナデ	板状	
図14 98	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.6	5.4	2.05	[45.3]	B C	灰黄	ナデ	板状	
図14 99	在地土器	かわらけ ロクロ 中	1/2	(10.8)	(7.2)	3.2	[69.1]	B	灰黄	ナデ	板状	
図14 100	在地土器	かわらけ ロクロ 大	2/3	12.0	(7.4)	3.0	[100.9]	B	赤橙	ナデ	板状	
図14 101	在地土器	かわらけ ロクロ 大	2/3	13.4	7.4	4.0	[141.9]	B C	淡橙	ナデ	板状	
図14 102	瓦器	内折れ皿	1/2	(6.8)	—	0.9	[18.8]	—	灰白 ～灰黒	—	—	2a面下+1面下②接合 いぶし焼成による変色
図14 103	在地土器	かわらけ 手づくね 小	4/5	9.4	—	1.7	[68.9]	B	橙	ナデ	—	内底ナデ→回転ナデ
図14 104	在地土器	かわらけ 手づくね 小	2/3	9.3	—	1.95	[69.7]	B	灰黄	ナデ	—	内外面に横ナデ引き上げ痕 内底ナデ→回転ナデ
図14 105	在地土器	かわらけ 手づくね 小	2/3	9.4	—	1.85	[43.9]	D	赤橙	ナデ	—	口縁部煤付着 割れ口黒灰色 内底ナデ→回転ナデ
図14 106	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[6.5]	—	—	茶褐	—	—	縁帯幅3.0 c類 6b型式
図14 107	国産陶器	常滑 転用研磨具	—	縦 [3.7]	横 5.4	厚さ 0.6	—	—	—	—	—	甕片再利用か

遺物番号	種別	器種	残存率	法量（cm）			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図14 108	瓦	丸瓦	—	—	—	9.5	—	—	灰 ～暗灰	—	—	永福寺B類 凸面縄目→ナデ 凹面布目痕 糸切り痕
図14 109	土製品	かわらけ転用 円盤状	完形	径 2.2	—	厚さ 0.6	3.4	—	淡橙	—	—	双六駒か
図14 110	銅製品	銭	完形	径 2.3	内孔 0.6	厚さ 0.1	3.3	—	—	—	—	元宝通宝 北宋1078年 篆書
図14 111	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	(7.8)	5.6	1.5	[57.4]	E	灰黄	ナデ	—	外底部に粘土塊付着
図15 112	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	6.6	3.2	2.25	[37.6]	B C	淡橙	ナデ	板状	8
図15 113	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	6.5	4.1	2.1	36.2	B C	淡橙	ナデ	板状	9の下
図15 114	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	6.7	4.2	2.1	37.0	B C	淡橙	ナデ	板状	9
図15 115	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.6	5.0	2.1	[44.5]	B C	橙	ナデ	板状	6
図15 116	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	7.6	5.4	1.6	[33.9]	B	淡橙	ナデ	板状	11
図15 117	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	6.8	4.2	1.95	30.2	B C	淡橙	ナデ	板状	4
図15 118	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.4	4.8	2.1	42.9	B C	淡橙	ナデ	板状	7
図15 119	在地土器	かわらけ ロクロ 大	ほぼ 完形	12.8	8.0	3.4	[203.4]	B	淡橙	ナデ	板状	2
図15 120	在地土器	かわらけ ロクロ 大	4/5	12.4	8.0	3.55	[158.9]	B	淡橙	ナデ	板状	3
図15 121	在地土器	かわらけ ロクロ 大	ほぼ完形	12.6	6.8	3.6	[196.9]	B C	灰黄	ナデ	板状	1
図15 122	在地土器	かわらけ ロクロ 大	4/5	13.4	7.8	3.85	[183.1]	B	灰黄	ナデ	板状	10
図15 123	在地土器	かわらけ ロクロ 大	ほぼ 完形	13.3	8.2	4.05	[214.4]	B C	橙	ナデ	板状	5
図15 124	在地土器	かわらけ 手づくね 小	ほぼ 完形	8.7	—	2.05	[64.8]	B D	灰黄	ナデ	—	外面回転ナデ引き上げ痕
図15 125	在地土器	かわらけ 手づくね 大	3/4	(14.6)	—	3.4	[161.6]	B D	橙	ナデ	—	
図15 126	国産陶器	渥美 片口鉢	底小片	—	—	[3.3]	—	—	灰	—	—	高台接地面に籾殻痕
図15 127	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/3	(8.4)	(6.2)	1.9	[29.2]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 128	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	口小片	—	—	[4.2]	—	精良	灰緑	—	—	太宰府Ⅰ-4b類
図15 129	瓦	平瓦	—	長さ [13.0]	幅 [12.3]	厚さ 2.5	—	—	灰	—	—	永福寺女瓦A類
図15 130	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/3	(9.8)	—	1.9	[26.2]	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図16 131	在地土器	かわらけ 手づくね 小	1/2	(9.2)	—	1.7	[41.4]	B D	淡橙	ナデ	—	
図16 132	在地土器	かわらけ 手づくね 大	3/5	(14.0)	—	3.5	[133.5]	B	灰黄	ナデ	—	
図16 133	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[3.5]	—	—	灰	—	—	3型式
図16 134	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/5	(8.4)	(6.2)	1.9	[16.3]	B	灰黄	—	—	緩めの回転糸切り
図16 135	土師器	脚付盤か	底小片	—	—	[1.4]	—	—	茶	—	—	
図16 136	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/4	(8.8)	(7.2)	1.8	[23.7]	B	淡灰褐	ナデ	—	
図16 137	瓦器	坏	口小片	(11.2)	—	[3.5]	—	—	灰白	—	—	輪花形
図16 138	瓦質土器	火鉢	—	—	—	[12.6]	—	—	淡桃	—	—	Ⅱe類 体下部に細い貫通孔11ヶ所
図16 139	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/2	(13.0)	(8.0)	3.6	[116.8]	B C	淡橙	ナデ	—	
図16 140	在地土器	かわらけ 手づくね 小	完形	8.9	—	2.05	[70.9]	D	橙	ナデ	—	
図16 141	在地土器	かわらけ 手づくね 小	ほぼ 完形	9.4	—	2.2	[81.2]	D	灰黄	ナデ	—	楕円状 最大口径9.7
図16 142	在地土器	かわらけ 手づくね 小	ほぼ 完形	9.3	—	1.8	[77.4]	D	灰黄	ナデ	—	
図16 143	在地土器	かわらけ 手づくね 大	3/4	13.9	—	3.0	[156.5]	D	灰黄	ナデ	—	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量（cm）			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図16 144	在地土器	かわらけ 手づくね 大	3/4	13.6	—	3.1	[140.8]	B	淡橙	ナデ	—	
図16 145	在地土器	かわらけ 手づくね 大	4/5	13.3	—	3.95	[201.5]	D	淡橙	ナデ	—	
図16 146	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/2	14.1	—	3.25	[118.0]	D E	灰黄 ～橙	ナデ	—	
図16 147	在地土器	かわらけ 手づくね 大	1/5	(15.4)	—	[3.0]	[40.8]	D	灰 ～橙	ナデ	—	内底ナデ→回転ナデ
図16 148	在地土器	かわらけ 手づくね 大	ほぼ 完形	13.0	—	3.35	[180.0]	B D	橙	ナデ	—	楕円状 最大口径13.5cm
図16 149	在地土器	かわらけ 手づくね 大	3/4	13.7	—	3.5	[189.0]	B D	灰黄	ナデ	—	底部内面のナデは布によるか
図16 150	木製品	漆器 椀	底完存	-	8.0	[4.2]	—	—	—	—	—	
図16 151	在地土器	かわらけ 手づくね 小	ほぼ 完形	8.4	—	2.2	[83.5]	D E	灰黄 ～灰褐	ナデ	—	楕円状に歪む 最小口径8.0cm
図16 152	木製品	漆器 皿	1/3	(9.8)	—	[2.1]	—	—	—	—	—	黒地に朱色の草文
図16 153	木製品	箸	—	長さ [21.3]	—	径 0.6	—	—	—	—	—	
図17 154	土師器	相模型坏	3/4	12.6	8.6	3.8	[91.7]	密	淡黄橙	—	—	底部内面に焼成後の線刻「×」
図17 155	土師器	相模型坏	ほぼ 完形	13.2	8.6	3.7	[152.5]	密	淡黄灰	—	—	
図17 156	土師器	相模型坏	2/3	11.7	8.2	3.3	[63.0]	密	淡橙	—	—	
図17 157	土師器	南武蔵型坏	完形	12.3	7.4	3.7	121.8	密	淡黄灰～ 淡橙灰	—	—	底部外面に墨書 「忠　坂本」
図17 158	土師器	南武蔵型坏	3/4	13.1	6.3	3.8	[143.4]	普通	淡橙灰	—	—	底部外面に墨書「忠」
図17 159	土師器	南武蔵型坏	4/5	13.6	9.5	3.7	[135.0]	普通	淡橙	—	—	底部内外面に墨書「市」
図17 160	土師器	南武蔵型坏	底小片	—	—	[0.7]	[13.2]	密	淡黄灰	—	—	底部外面に墨書
図17 161	土師器	南武蔵型坏	2/3	12.2	6.0	4.0	[80.3]	密	淡橙灰	—	—	
図17 162	土師器	南武蔵型坏	1/6	(11.7)	(4.4)	[4.0]	[55.3]	密	淡黄灰	—	—	
図17 163	ロクロ 土師器	高台付盤状坏	底1/3	—	(7.6)	[2.2]	[31.1]	密	淡橙灰	—	—	
図17 164	ロクロ 土師器	坏	4/5	11.1	5.6	3.6	[110.2]	やや粗	淡橙褐	—	—	
図17 165	ロクロ 土師器	坏	底1/3	—	(4.6)	[2.1]	[27.5]	微砂質	淡橙褐	—	—	
図17 166	ロクロ 土師器	坏	底1/2弱	—	(5.7)	[2.1]	[28.0]	微砂質	赤灰	—	—	
図17 167	ロクロ 土師器	坏	底1/3	—	(6.6)	[1.8]	[22.1]	密	橙褐	—	—	
図17 168	ロクロ 土師器	高台付坏	高台3/4	—	8.0	[2.4]	[80.9]	微砂質	灰褐～ 淡橙褐	—	—	
図17 169	ロクロ 土師器	足高高台付坏	高台基部 全周	—	—	[3.7]	[116.0]	微砂質 白針	淡赤褐	—	—	
図17 170	須恵器	坏	口1/3 ～底片	(11.6)	6.5	3.1	[92.3]	密	淡灰～ 淡橙灰	—	—	外底面に墨書「午」
図17 171	須恵器	坏	口わずか ～底1/2	(12.8)	(8.2)	3.5	[77.5]	密	灰～ 灰橙	—	—	底部外面に墨書「午」か 南比企窯か東金子窯か
図17 172	須恵器	坏	口1/3 ～底部	(12.8)	7.5	3.8	[160.7]	密	淡灰～ 淡橙灰	—	—	底部外面に墨書「市」
図17 173	須恵器	坏	口1/4 ～底3/4	(11.8)	(6.8)	3.0	[52.2]	密	灰	—	—	南比企窯か
図17 174	須恵器	坏	口1/4 ～底1/2	(12.0)	7.0	3.2	[57.0]	密	灰	—	—	前内出
図17 175	須恵器	坏	3/4	(11.6)	(9.2)	3.7	[98.6]	密	灰	—	—	内面全体に黒変
図17 176	須恵器	坏	1/3強	(12.6)	(8.9)	3.8	[89.8]	粗	淡灰	—	—	
図17 177	須恵器	坏	口1/3 ～底部	(13.2)	7.4	4.0	[111.1]	密	灰～ 橙灰	—	—	南比企窯か
図17 178	須恵器	南比企 坏	口1/4 ～底3/4	(12.9)	7.0	3.2	[70.8]	密	黒灰	—	—	
図17 179	須恵器	坏	口1/3 ～底1/2	(12.9)	(7.4)	3.5	[77.5]	密	灰～ 灰橙	—	—	南比企窯か東金子窯か

遺物番号	種別	器種	残存率	法量（cm）			重量	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図17 180	須恵器	坏	4/5	12.3	7.0	3.7	[151.9]	やや粗	灰～ 橙灰	—	—	南比企窯か
図18 181	須恵器	坏	底3/4	—	6.6	[1.4]	[39.2]	密	淡橙 ～灰	—	—	前内出か 底部外面に墨書「市」
図18 182	須恵器	高台付坏	底完存	—	高台径 (8.0)	[2.0]	[103.9]	微砂質 白針	灰	—	—	南比企窯か
図18 183	須恵器	高台付坏	底1/6	—	高台径 (10.8)	[1.8]	[23.2]	やや 砂質	灰	—	—	武蔵産か
図18 184	須恵器	坏蓋	1/6	(14.6)	—	[2.4]	[32.6]	微砂質	灰	—	—	
図18 185	須恵器	坏蓋	1/5	(18.2)	—	[1.8]	[38.7]	微砂質 白針	暗灰	—	—	
図18 186	須恵器	坏蓋	1/8	—	—	[1.3]	[38.5]	やや粗	暗灰	—	—	産地不明
図18 187	須恵器	坏蓋 (大盤蓋？)	1/8以下	—	—	[3.0]	[40.3]	密	暗灰	—	—	
図18 188	灰釉陶器	猿投系 碗	底1/2	—	高台径 7.0	[1.6]	[39.3]	やや粗	灰	—	—	残存部位は無釉
図18 189	土師器	相模型 胴張り甕	底4/5	—	9.2	[2.9]	[102.1]	細砂質 雲母粒	内面灰褐 底外黒変	—	—	
図18 190	土師器	相模型 長胴甕	底1/3	—	(6.8)	[4.4]	[39.2]	細砂質 雲母粒	灰褐	—	—	
図18 191	須恵器	甕	小片	—	—	—	[187.3]	密	灰	—	—	
図18 192	鉄製品	鎌先？	小片	[6.8]	3.0	0.5	[17.8]	—	—	—	—	
図18 193	鍛冶滓	碗形滓	—	長さ 7.7	幅 6.6	厚さ 3.3	175.8	—	—	—	—	下半部に炉床の粘土塊付着
図18 194	土器	かわらけ ロクロ 中	3/4	10.5	6.5	3.1	[88.1]	B	淡橙	—	—	
図18 195	国産陶器	渥美 片口鉢	口小片	—	—	—	[37.0]	密	暗灰	—	—	
図18 196	土師器	相模型坏	2/3	12.7	8.3	3.9	[104.5]	密	淡橙	—	—	
図18 197	土師器	相模型坏	1/3	(13.4)	(10.0)	3.5	[53.4]	密	淡橙	—	—	
図18 198	土師器	相模型坏	1/6	(12.8)	(7.4)	3.1	[46.3]	密	淡橙	—	—	
図18 199	土師器	盤状坏 (大型品)	底2/3	—	—	(1.3)	[171.2]	密	淡橙灰 ～灰	—	—	在地産 底部内面一部黒変
図18 200	土師器	高台付盤状坏	底1/4	—	高台径 (9.8)	[2.2]	[44.6]	密	淡赤褐 ～黒変	—	—	在地産
図18 201	須恵器	南比企 坏	1/4	(13.5)	(8.5)	3.6	[28.8]	やや粗	灰白	—	—	
図18 202	須恵器	南比企 坏	底1/3	—	(8.6)	[2.0]	[23.2]	やや粗	灰白	—	—	底部外面に薄い墨書 (判読不可)
図18 203	須恵器	東金子 坏	底完存	—	7.8	[1.4]	[58.0]	やや粗	灰	—	—	
図18 204	須恵器	坏蓋	1/6	(14.4)	—	[2.5]	[30.8]	密	暗灰	—	—	
図18 205	土器	壺	口小片	—	—	—	[10.3]	砂粒多	暗灰～ 淡橙灰	—	—	弥生末～古墳前期頃か
図18 206	土師器	甕	底部片	—	(6.4)	[3.7]	—	—	黒灰～ 灰赤	—	—	
図18 207	土師器	坏	底部片	—	(6.8)	[1.6]	—	—	橙	—	—	
図18 208	須恵器	東海系 坏身か	小片	—	—	厚さ 0.8	—	—	灰緑	—	—	湖西窯などか
図18 209	土師器	相模型皿	1/4	(14.8)	—	2.5	[44.2]	—	淡橙	—	—	
図18 210	土師器	相模型坏	口小片	—	—	[2.8]	—	—	黄灰	—	—	
図18 211	須恵器	蓋	小片	—	—	[2.4]	—	—	灰～ 暗灰	—	—	
図18 212	灰釉陶器	猿投系 碗	底部片	—	(8.4)	[1.7]	—	—	灰	—	—	
図18 213	灰釉陶器	猿投系 碗	底部片	—	—	[2.3]	—	—	灰	—	—	
図18 214	灰釉陶器	猿投系 小瓶？	底部片	—	(6.8)	[3.0]	—	—	灰	—	—	

かわらけの胎土分類は、二階堂81番1地点と同じ（266頁を参照）

表３　出土遺物数量表（遺構）

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
現代井戸				
ロクロかわらけ	小		1	8
	大		7	78
手づくねかわらけ	小		6	50
	大		2	39
かわらけ	小片		27	112
青白磁	合子蓋		1	2
瀬戸	縁釉皿		1	42
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	87
	甕		2	191
渥美	甕		1	40
瓦質土器	火鉢		1	33
土器(近世以降)	香炉		2	53
陶器(近世以降)	碗		1	5
1面　溝1				
手づくねかわらけ	大		2	24
かわらけ	小片		8	31
常滑	甕		4	72
2b面　かわらけ集積1				
ロクロかわらけ	小		9	101
手づくねかわらけ	小		84	1498
	大		92	2542
かわらけ	小片		106	333
白磁	小片		1	1
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	30
舶載陶器	褐釉壺		4	37
瀬戸			1	36
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	65
	甕		2	170
渥美	甕		1	115
瓦	平瓦	A	1	74
鉄製品	釘		1	2
石製品	滑石鍋片		1	39
土師器	甕？		1	7
2b面　かわらけ集積2				
ロクロかわらけ	小		7	270
	大		16	1102
手づくねかわらけ	小		1	3
	大		5	35
かわらけ	小片		39	114
常滑	甕		1	47
土師器	甕		1	3
2b面　かわらけ集積3				
ロクロかわらけ	小		5	46
	大		2	164
手づくねかわらけ	小		9	265
	大		21	837
かわらけ	小片		8	19
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	21
常滑	甕		1	10
瓦質土器	火鉢	Ⅰc	1	71
土師器	小片		2	12
2b面　溝1				
ロクロかわらけ	小		15	45
	大		60	465
手づくねかわらけ	小		5	106
	大		17	330
かわらけ	小片		7	15
舶載陶器	褐釉壺		3	21
常滑	壺		1	34
常滑	甕		10	215
渥美	片口鉢		1	123
瓦質土器	火鉢	Ⅰc	1	107

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2b面　溝1				
土師器	甕		1	3
灰釉陶器	碗		1	1
2b面　溝2				
ロクロかわらけ	小		1	3
手づくねかわらけ	小		2	5
	大		9	117
瀬戸	入子		1	2
かわらけ	不明		5	20
2b面　ピット1				
かわらけ	大		1	8
2b面　ピット3				
かわらけ	小片		3	20
土師器	甕？		1	7
2b面　ピット4				
手づくねかわらけ	大		2	87
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	15
2b面　ピット6				
手づくねかわらけ	大		4	39
舶載陶器	褐釉壺		1	5
2b面　ピット7				
手づくねかわらけ	小		1	6
2b面　ピット8				
手づくねかわらけ	小片		1	2
土師器	甕		1	5
2b面　ピット9				
ロクロかわらけ	小		1	3
	大		1	10
手づくねかわらけ	小		3	16
	大		3	28
かわらけ	小片		7	25
常滑	甕		1	10
常滑か渥美	甕		1	14
須恵器	不明		1	15
2b面　ピット10（欠番）				
かわらけ	小片		1	4
渥美	甕		1	16
2b面　ピット11				
ロクロかわらけ	小		1	29
	大		2	59
手づくねかわらけ	小		4	24
	大		15	155
土器	不明		5	15
舶載陶器	褐釉壺		2	54
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	19
常滑	甕		1	18
2b面　ピット12				
ロクロかわらけ	小		2	9
手づくねかわらけ	小		1	12
かわらけ	小片		3	4
2b面　ピット13				
手づくねかわらけ	小		1	7
土器	小片		2	13
2b面　ピット14･15				
手づくねかわらけ	小		1	4
	大		4	65
手づくね白かわらけ	小		1	5
土器	鍋･釜		1	7
舶載陶器	褐釉壺		1	5
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	19

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2b面　ピット14･15				
陶器	不明		1	23
自然遺物	獣骨		3	—
2b面　ピット16				
かわらけ	小片		1	9
2b面　ピット17				
手づくねかわらけ	小		2	10
	大		2	22
かわらけ	小片		5	32
2b面　ピット18				
かわらけ	小片		2	18
2b面　ピット19				
手づくねかわらけ	小		1	6
2b面　ピット21				
ロクロかわらけ	大		1	23
手づくねかわらけ	大		1	11
かわらけ	小片		2	8
2b面　ピット22				
ロクロかわらけ	大		1	27
手づくねかわらけ	大		2	39
瓦	平瓦	A	1	459
木製品	漆器椀		1	—
2b面　ピット25				
ロクロかわらけ	小		1	23
	大		2	35
手づくねかわらけ	大		1	43
かわらけ	小片		4	25
須恵器	坏		1	5
2b面　ピット27				
手づくねかわらけ	大		1	14
2b面　ピット28				
手づくねかわらけ	大		3	64
	小		1	12
2b面　ピット29				
手づくねかわらけ	大		1	13
かわらけ	不明		2	11
2b面　ピット30				
手づくねかわらけ	小		3	39
2b面　ピット31				
かわらけ	不明		2	7
2b面　ピット33				
手づくねかわらけ	大		2	31
2c面　ピット37				
土師器	小片		1	3
須恵器	小片		1	6
2c面　ピット39				
手づくねかわらけ	小		1	6
かわらけ	小片		1	2
龍泉窯系青磁	碗･皿		1	1
瓦	平瓦	A	1	175
2b面　ピット40（欠番）				
手づくねかわらけ	大		2	126
かわらけ	小片		1	4
瓦器？	小片		1	4
2b面下～2c面　焼土土坑				
ロクロかわらけ	小		8	59
	大		1	14
手づくねかわらけ	小		12	92
	大		11	245

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2b面下～2c面　焼土土坑				
かわらけ	小片		22	148
舶載陶器	褐釉壺		4	64
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	72
瓦器	輪花形坏		1	15
瓦質土器	火鉢	Ⅱe	1	909
木製品	漆器		1	—
2c面　溝3				
ロクロかわらけ	大		2	97
手づくねかわらけ	大		2	36
かわらけ	小片		16	50
土師器	相模型坏		1	7
	甲斐型坏？		1	11
	坏？		1	15
	甕		1	7
	小片		1	8
須恵器	坏		4	31
	甕		6	121
	小片		1	10
自然遺物	桃核		1	—
2c面　ピット36				
手づくね かわらけ	小		1	3
2c面　ピット36or38				
かわらけ	不明		3	10
2c面　ピット43				
手づくねかわらけ	小		1	4
2c面　ピット44（欠番）				
手づくねかわらけ	小		1	12
	大		1	41
灰釉陶器	碗		1	10
2c面　ピット45				
手づくねかわらけ	大		1	9
かわらけ	小片		1	2
2c面　ピット48				
土師器	相模型坏		1	7
2c面　ピット49				
手づくねかわらけ	大		3	127
手づくね白かわらけ	小片		1	3
2c面　ピット53				
手づくねかわらけ	小		1	4
	大		5	367
かわらけ	小片		4	18
漆器	碗		1	—
2c面　ピット54				
ロクロかわらけ	大		1	7
手づくねかわらけ	大		2	23
手づくね白かわらけ	大		1	6
瓦器	輪花碗		1	8
土師器	坏		1	23
	甕		1	9
土器	不明		2	3
灰釉陶器	碗？		1	16
2c面　ピット57				
手づくねかわらけ	小		1(完形)	85
	大		1	14
土器	小片		2	7
2c面　ピット58				
手づくねかわらけ	大		1	31
須恵器	甕		1	17

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
3面　溝5				
土師器	坏		1	5
	甕		2	4
須恵器	坏		1	5
3面　ピット59				
土器	小片		3	8
須恵器	坏		1	21
3面　ピット60				
土師器	相模型坏		1	7
土器	小片		2	4
須恵器	坏		1	6
3面　ピット61				
須恵器	坏？		1	2
3面　ピット62				
土師器	坏		3	17
土器	小片		1	6
3面　ピット64				
手づくねかわらけ	小		1	2
土器	小片		1	3
3面　ピット65				
手づくねかわらけ	大		1	6
3面　ピット67				
木製品	箸		1	—
3面　ピット68				
土師器	坏		1	9
ロクロ土師器	坏		1	3
3面　ピット69				
ロクロかわらけ			1	32
白かわらけ	不明		1	6
土師器	甕		1	13
3面　ピット70				
手づくねかわらけ	大		1	16
緑釉陶器	碗		1	3
3面　ピット73				
かわらけ	小片		1	3
3面　ピット74				
ロクロかわらけ	小		1	7
3面　ピット75				
土師器	小片		3	15
須恵器	甕		1	60
3面　ピット76				
土師器	坏		2	5
	甕		10	30
ロクロ土師器	坏		4	9
須恵器	坏		1	2
	小片		1	7
土器	小片		6	13
種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
3面　ピット78				
木	木片		1	—
須恵器	坏		1	11
3面　ピット79				
土師器	坏		1	3
3面　ピット80				
土師器	甕		2	7

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
3面　ピット83				
土師器	坏		1	2
	甕		1	5
ロクロ土師器	坏		1	14
須恵器？	坏？		1	6
3面　ピット84				
土師器	甕		1	2
3面　ピット86				
土師器	甕		2	8
3面　ピット87				
土器	小片		1	1
3面　ピット89（欠番）				
かわらけ	小片		3	2
土師器	甕		2	13
自然遺物	桃核		1	—
3面　ピット91				
土師器	小片		2	6
3面　ピット92				
土師器	坏		2	10
	小片		2	11
4面　溝4				
龍泉窯系青磁	碗	ⅡかⅢ	1	1
土師器	坏		7	28
	甕		1	26
	小片		39	79
ロクロ土師器	坏		1	8
須恵器	甕		2	54
	坏		1	11
灰釉陶器	碗		1	3
4面　溝6				
土師器	坏		10	32
	盤状坏		3	13
	甕		10	39
	小片		18	22
ロクロ土師器	坏		3	23
須恵器	坏		3	16
	蓋		1	1
	甕		3	145
灰釉陶器	碗		3	4
4面　溝7				
土師器	坏		22	78
土師器	盤状坏		4	26
土師器	甕		10	107
土師器	小片		20	33
ロクロ土師器	坏		3	26
須恵器	坏		6	27
須恵器	蓋		1	10
須恵器	甕		1	12
灰釉陶器	碗		1	2
灰釉陶器	壷		1	1

種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量* *(g)*
4面　南部落ち込み				
ロクロかわらけ	小		3	*17*
	大		4	*130*
手づくねかわらけ	小		1	*7*
	大		7	*174*
渥美	片口鉢		1	*37*
土師器	相模型坏		406	*2894*
	盤状坏		28	*222*
	南武蔵型坏		29	*615*
	甲斐型坏		1	*16*
	鬼高坏		2	*11*
	相模型甕		81	*765*
	甕		19	*173*
	小片		211	*533*
ロクロ土師器	坏		38	*392*
	高台付坏		3	*239*
内黒土器	碗		1	*14*
古式土師器	壺？		1	*17*
	甕		22	*283*
須恵器	坏		123	*1776*
	坏か蓋		6	*163*
	甕		38	*1203*
灰釉陶器	碗		21	*106*
	壺		2	*94*
土製品	鞴羽口		1	*9*
鉄製品	板状		1	*27*
鉄滓	碗形滓		1	*176*
石	軽石		1	*9*
自然遺物	獣骨		34	—
	獣歯		3	—
4面　南部落ち込み砂礫層				
土師器	相模型坏		87	*944*
	盤状坏		22	*387*
	南武蔵型坏		1	*122*
	相模型甕		14	*127*
須恵器	坏		28	*579*
	坏か蓋		10	*161*
	高台付坏		2	*17*
	瓶		5	*67*
	甕		6	*357*
古式土師器	壺		2	*14*
	甕		8	*76*
土器	不明		52	*166*
石	砂岩		1	*1190*
自然遺物	獣骨		4	—

表４　出土遺物数量表（遺構以外）

種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
確認調査時				
ロクロかわらけ	小		2	*15*
	大		17	*183*
手づくねかわらけ	小		4	*43*
	大		12	*328*
舶載陶器	褐釉壺		1	*37*
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	*60*
	甕		12	*812*
渥美	甕		2	*96*
木製品	下駄		1	—
	円盤状		1	—
確認調査時　下層				
ロクロかわらけ	大		2	*27*
手づくねかわらけ	小		4	*84*
	大		6	*79*
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*40*
	甕		1	*72*
渥美	甕		1	*73*
漆器	碗		1	—
確認調査坑　埋め土				
ロクロかわらけ	小		5	*24*
	大		11	*125*
手づくねかわらけ	小		6	*49*
	大		20	*250*
かわらけ	小片		26	*86*
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ or Ⅲ	1	*1*
磁器	小片		1	*2*
常滑	壺		1	*19*
	甕		4	*167*
瓦	平瓦	A	1	*167*
表土掘削時				
ロクロかわらけ	小		8	*101*
	大		21	*221*
手づくねかわらけ	大		4	*84*
白磁	皿	Ⅳ	1	*4*
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	*7*
		Ⅱ or Ⅲ	2	*35*
舶載陶器	褐釉壺		1	*17*
瀬戸	卸皿		1	*27*
常滑	片口鉢	Ⅰ	4	*143*
		Ⅱ	1	*243*
	甕		24	*1335*
瓦質土器	火鉢		1	*44*
瓦	平瓦	A	1	*403*
		CかD	1	*122*
石製品	硯		1	*10*
	砥石	伊予中砥	2	*258*
鉄製品	釘		1	*5*
肥前系磁器	染付碗		2	*5*
磁器（近世以降）	不明		1	*2*
志野窯陶器	皿		1	*4*
排土山（出土地不明）				
ロクロかわらけ	小		7	*104*
	大		6	*85*
手づくねかわらけ	小		6	*31*
	大		8	*79*
かわらけ	小片		6	*33*
青白磁	碗		1	*8*
磁器	小片		2	*2*
常滑	甕		1	*14*
瓦	丸瓦	A	1	*82*
須恵器	坏		1	*2*

種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
1面　精査時				
ロクロかわらけ	小		4	*36*
手づくねかわらけ	小		1	*8*
かわらけ	小片		41	*174*
白かわらけ	小片		1	*3*
舶載陶器	褐釉壺		1	*5*
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	*7*
	不明		1	*12*
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	2	*80*
銅製品	銭		1	*4*
鉄製品	釘		2	*10*
1面下～2a面　掘り下げ時				
ロクロかわらけ	極小･内折れ		1	*4*
	小		311	*2642*
	大		969	*10018*
手づくねかわらけ	小		210	*1956*
	大		524	*6329*
かわらけ	小片		723	*3109*
ロクロ白かわらけ	小		1	*14*
	小片		3	*7*
土器	香炉？		1	*211*
	鍋･釜		1	*9*
青白磁	合子蓋		2	*2*
	梅瓶蓋		1	*12*
	瓶類		2	*113*
白磁	皿	Ⅳ	2	*45*
	碗	Ⅴ	1	*8*
			2	*9*
	壺		6	*42*
	小片		2	*4*
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	7	*47*
		Ⅱor Ⅲ	14	*111*
		Ⅲ-Ⅰ	1	*10*
			3	*5*
	坏	Ⅲ	2	*26*
舶載陶器	褐釉壺		114	*1929*
瀬戸	入子		2	*3*
	天目茶碗？		1	*3*
	平底広末碗？		1	*17*
	卸皿		3	*53*
	柄付片口		8	*264*
	擂鉢		1	*26*
	茶入？		1	*6*
	壺		5	*70*
常滑	片口鉢	Ⅰ	46	*1294*
		Ⅱ	11	*531*
	壺		6	*285*
	甕		356	*16360*
渥美	甕		32	*1204*
尾張型	山茶碗		5	*27*
東濃型	山茶碗		2	*5*
東播系須恵器	片口鉢		2	*32*
不明陶器	甕		2	*73*
	不明		4	*32*
瓦器	輪花碗		1	*14*
瓦質土器	火鉢	Ⅰb	1	*121*
		Ⅰc	4	*457*
		Ⅱa	1	*27*
		Ⅲ	2	*125*
		Ⅳ	1	*34*
		不明	15	*502*

種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
1面下～2a面　掘り下げ時				
瓦	軒丸瓦	丸B	1	*41*
	丸瓦	B	6	*414*
		C	1	*526*
	平瓦	A	9	*1057*
		D	4	*580*
		D？	10	*462*
土製品	鋳型？		1	*18*
銅製品	銭		4	*26*
	不明		1	*54*
鉄製品	釘		16	*100*
	鉄滓		1	*102*
	不明		1	*15*
石製品	滑石鍋		3	*337*
	滑石鍋再加工品		3	*435*
	中砥	上野	1	*48*
	中砥	伊予？	1	*13*
	仕上げ砥	鳴滝	9	*200*
石	石英		1	*2*
石	軽石		2	*15*
須恵器	甕		5	*160*
灰釉陶器	碗・皿		2	*2*
古式土師器？	不明		1	*64*
自然遺物	獣骨		38	－
1面下～2a面　掘り下げ時②				
ロクロかわらけ	小		98	*910*
	大		326	*3578*
手づくねかわらけ	内折れ小		1	*3*
	小		307	*3155*
	大		447	*7315*
かわらけ	小片		550	*2750*
手づくね白かわらけ	小		1	*7*
	小片		8	*19*
白かわらけ	内折れ小		1	*7*
土器	鍋・釜		4	*25*
	不明		4	*43*
青白磁	合子蓋		1	*5*
	梅瓶		1	*3*
白磁	碗		1	*9*
	皿	Ⅳ	3	*16*
		Ⅷ(-1b)	1	*20*
			1	*5*
同安窯系青磁	碗		1	*2*
	皿		1	*4*
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	7	*69*
		ⅡorⅢ	1	*18*
		Ⅲ	1	*2*
	皿	Ⅰ	2	*8*
	坏	Ⅲ(盤)	2	*21*
	小片		8	*20*
磁器	小片		6	*11*
舶載陶器	緑釉盤		1	*9*
	褐釉壺		67	*972*
瀬戸	入子？		1	*4*
	鉢？		1	*12*
	瓶子		1	*8*
常滑	片口鉢	Ⅰ	11	*358*
		Ⅱ	3	*184*
	甕		125	*4706*
渥美	片口鉢		1	*171*
	甕		1	*14*
東濃型	山茶碗小皿		1	*15*
陶器	不明		2	*37*

種別 産地等	器種	分類	破片数	*重量 (g)*
1面下～2a面　掘り下げ時②				
瓦器	坏		4	*23*
	内折れ小皿		1	*12*
瓦質土器	火鉢	Ⅰc	1	*248*
			4	*216*
瓦	丸瓦	A	1	*30*
		D	2	*216*
	平瓦	A？	5	*260*
		D	1	*128*
石製品	仕上げ砥	鳴滝	5	*71*
	中砥	伊予	1	*185*
	砥石		1	*72*
	敲石？		1	*339*
	滑石片		4	*69*
石	雲母片		4	*0*
	軽石		1	*9*
銅製品	銭		2	*7*
鉄製品	釘		4	*21*
土師器	甕		1	*8*
灰釉陶器	碗		2	*5*
須恵器	坏		3	*12*
	甕		2	*30*
骨？	棒状		1	*3*
2a面下～2b面　掘り下げ時				
ロクロかわらけ	小		72	*634*
	中		2	*115*
	大		213	*3666*
手づくねかわらけ	小		118	*1425*
	大		182	*2864*
かわらけ	小片		407	*2015*
手づくね白かわらけ	小片		8	*46*
土器	鍋・釜		2	*15*
青白磁	梅瓶？		1	*16*
	水注？		1	*1*
白磁	皿	Ⅳ	2	*6*
同安窯系青磁	碗		1	*17*
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	4	*9*
		ⅡorⅢ	4	*30*
		小片	2	*15*
			1	*3*
	坏	Ⅲ	1	*5*
舶載陶器	褐釉壺		32	*715*
			1	*29*
常滑	片口鉢	Ⅰ	11	*274*
		Ⅱ	1	*26*
	壺		5	*160*
	甕		61	*2540*
	転用研磨具		1	*32*
渥美	甕		9	*356*
	壺		1	*97*
不明陶器	碗・皿		4	*32*
	壺		2	*30*
	小片		9	*46*
瓦質土器	火鉢		2	*100*
瓦	丸瓦	A	2	*236*
		BかD	1	*1250*
		C	1	*272*
	平瓦	A	4	*368*
		D	1	*86*
瓦器	坏		1	*3*
	内折れ小皿		2	*8*
土製品	双六駒？		1	*3*
銅製品	銭		1	*3*
鉄製品	釘		2	*21*

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2a面下～2b面　掘り下げ時				
石	雲母片		3	*1*
土師器	相模型坏		1	*8*
	高台付盤･坏		1	*9*
須恵器	坏蓋		1	*7*
	甕		1	*6*
2a面下　サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小		9	*123*
	大		7	*48*
手づくねかわらけ	小		12	*142*
	大		50	*415*
かわらけ	小片不明		25	*118*
手づくね白かわらけ	小片		2	*7*
同安窯系青磁	碗		1	*8*
	皿		1	*13*
龍泉窯系青磁	碗	I	2	*60*
舶載陶器	褐釉壺		4	*37*
	褐釉壺？		1	*47*
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	*25*
	甕		1	*12*
渥美	片口鉢		1	*20*
	甕		1	*95*
瓦器	輪花碗		1	*3*
瓦	平瓦	F	1	*45*
土師器	高台付坏(盤状)		1	*7*
	甕		1	*2*
須恵器	甕		1	*117*
磁器（近世以降）	碗？		1	*2*
2b面下～2c面　泥岩整地層				
ロクロかわらけ	小		2	*15*
	大		12	*224*
手づくねかわらけ	小		10	*133*
	大		25	*356*
かわらけ	小片		38	*130*
舶載陶器	褐釉壺		8	*194*
常滑	甕		1	*63*
渥美	甕		1	*164*
土師器	相模型坏		2	*11*
	相模型甕		1	*7*
2b面下～2c面　掘り下げ時				
ロクロかわらけ	小		15	*75*
	大		37	*420*
手づくねかわらけ	小		23	*120*
	大		56	*535*
白かわらけ	小片		2	*4*
土器	小片		168	*513*
白磁？	碗？		1	*1*
龍泉窯系青磁	碗		2	*7*
舶載陶器	褐釉壺		1	*3*
常滑	甕		9	*298*
猿投系陶器	壺		4	*62*
瓦	丸瓦	A	1	*372*
	平瓦	A	1	*22*
		F	1	*19*
土師器	坏		5	*32*
	甕		14	*123*
	脚付盤？		1	*10*
ロクロ土師器	坏		2	*22*
須恵器	坏		4	*33*
	坏か蓋		1	*5*
	壺		1	*3*
	甕		1	*6*
	小片		1	*3*
緑釉陶器	碗		1	*4*

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
2b面下～2c面　掘り下げ時				
灰釉陶器	碗		4	*5*
自然遺物	獣骨			
木製品	箸		2	—
	漆器椀		1	—
	漆器皿		1	—
自然遺物	桃核		1	—
2c面～3面下　遺物包含層				
ロクロかわらけ	小		1	*4*
	大		7	*71*
手づくねかわらけ	小		3	*10*
	大		14	*110*
土器	小片		340	*769*
舶載陶器	褐釉壺		1	*40*
常滑	甕		2	*67*
石製品	砥石		1	*95*
土師器	相模型坏		82	*460*
	盤状坏		9	*56*
	甕		25	*171*
ロクロ土師器	坏		31	*251*
須恵器	坏		19	*135*
	坏か蓋		5	*80*
	瓶		6	*52*
	甕		42	*1006*
緑釉陶器	碗		1	*2*
灰釉陶器	碗		22	*109*
	壺		5	*62*
木製品	木地皿		1	—
	箸		16	—
	棒状		8	—
自然遺物	獣歯(馬か牛)		1	—
	桃核		2	—
2c面～3面下　サブトレンチ				
手づくねかわらけ	大		3	*46*
龍泉窯系青磁	碗	I	1	*5*
鉄製品	釘		1	*5*
土師器	甕		1	*3*
木製品	漆器皿		1	—
調査区北西部　南壁				
瓦	平瓦	A	1	*161*

第五章　横小路周辺遺跡のプラント・オパール分析と花粉分析

鈴木　茂・森　将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

鎌倉市の横小路周辺遺跡（二階堂字荏柄 26 番イの一部地点）において行われた発掘調査で、溝遺構が検出された。この遺構を構成する土層より採取された土壌試料について、プラント・オパール分析と花粉分析を行った。

2. 試料と分析方法

試料は、横小路周辺遺跡の溝 6、溝 7、古代遺物包含層（南部落ち込み上）の埋土より採取された総計 3 試料である。土相について、溝 6（YK6）は黒色（10YR1.7/1）シルト、溝 7（YK7）も黒色（10YR1.7/1）シルト、古代遺物包含層（YK 古代）も黒色（10YR1.7/1）シルトである。これらの 3 試料について、以下の手順にしたがって分析を行った。

2-1. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約 1g（秤量）をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ（直径約 0.04mm）を加える。これに 30% の過酸化水素水を約 20 ～ 30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により 0.01mm 以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版 1 に載せた。

2-2. 花粉分析

試料(湿重量約 3g)を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え、10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え、1 時間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。

表 1　試料 1 g 当たりのプラント・オパール個数

試料	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
YK6	26,900	0	144,700	7,700	7,700	1,300	0	15,400	58,900	11,500
YK7	40,300	1,300	124,900	9,400	10,700	5,400	0	22,800	210,900	13,400
YK古代	35,600	4,100	176,500	1,400	12,300	1,400	1,400	32,800	97,100	10,900

3. 分析結果

3-1. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から、試料 1g 当たりの各プラント・オパール個数を求め（表 1）、それらの分布を図 1 に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料 1g 当たりの検出個数である。

表２　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	溝6	溝7	古代遺物包含層
樹木				
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	−	−	1
Cryptomeria	スギ属	−	1	−
草本				
Gramineae	イネ科	1	−	1
Chenopodiaceae−Amaranthaceae	アカザ科−ヒユ科	1	−	−
Artemisia	ヨモギ属	−	1	−
シダ植物				
monolete type spore	単条溝胞子	−	−	1
trilete type spore	三条溝胞子	1	−	−
Arboreal pollen	樹木花粉	−	1	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	2	1	1
Spores	シダ植物胞子	1	−	1
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	3	2	3
unknown	不明	−	−	−

検鏡の結果、全 3 試料よりイネのプラント・オパールが検出された。検出個数は 3 試料とも 20,000 個以上と多く、また、イネの穎に形成される珪酸体の破片（イネ穎破片）が YK7 と YK 古代の 2 試料で検出され、イネ型短細胞珪酸体は 3 試料で観察された。

イネ以外ではネザサ節型が多く検出されており、3 試料ともに 100,000 個を超えている。次いでウシクサ族が多く、YK7 では 210,900 個を示している。キビ族は、全試料において 10,000 個を超えている。その他には、ササ属型やヨシ属、シバ属などが検出されている。

3-2. 花粉分析

3 試料の検鏡を行った結果、十分な量の花粉化石が得られなかった。3 試料から検出されたのは、樹木花粉では、マツ属複維管束亜属とスギ属、草本花粉ではイネ科とアカザ科－ヒユ科、ヨモギ属である。産出花粉・シダ植物胞子の一覧を表 2 に示す。なお、十分な量の花粉化石が得られていないため、分布図は示していない。

4. 考察

3 試料からは十分な量の花粉化石が得られなかった。一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境に堆積すると、紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。よって、試料採取地点は堆積時か堆積後において、好気的環境に晒されていた可能性がある。一方で、植物珪酸体はガラス質であるため、乾燥的環境においても良好に保存される。以下では、分析試料から産出した植物珪酸体に基づき、遺構の特徴やイネ科植物相について検討した。

試料を採取した溝 6（YK6）や溝 7（YK7）、古代遺物包含層（YK 古代）の埋土を構成しているシルト層は、水田土壌の可能性があると考えられている。プラント・オパール分析の結果、イネのプラント・オパールが 20,000 個以上検出されている。福岡県の板付北遺跡において行われた水田址の検証例を示すと、イネのプラント・オパールが試料 1g 当たり 5,000 個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原，1984）。この検証例から、稲作の検証として 5,000 個を目安に、イネの機動細胞珪酸体の産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。横小路周辺遺跡の 3 試料からは、5,000 個をはるかに超えるイネのプラント・オパールが検出されており、埋土に水田土壌が混入している可能性が推察される。なお、その他に埋土からイネのプラント・オパールが検出される要因としては、溝への廃棄等による稲藁の混入が考えられ

図１　プラント・オパール分布図

る。

その他では、ネザサ節型やササ属型、ウシクサ族、キビ族、ヨシ属などの機動細胞珪酸体が3試料から産出している。例えば、遺構周辺の林縁部などの開けた場所にネザサ節やウシクサ族、キビ族が、林床などにササ属が生育しており、水分が十分な場所にヨシ属が生育していた可能性がある。あるいは、水田が存在していたとすると、タイヌビエなど水田に関わりのあるキビ族も生育していた可能性もある。

引用文献

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－．考古学ジャーナル，227，2-7.

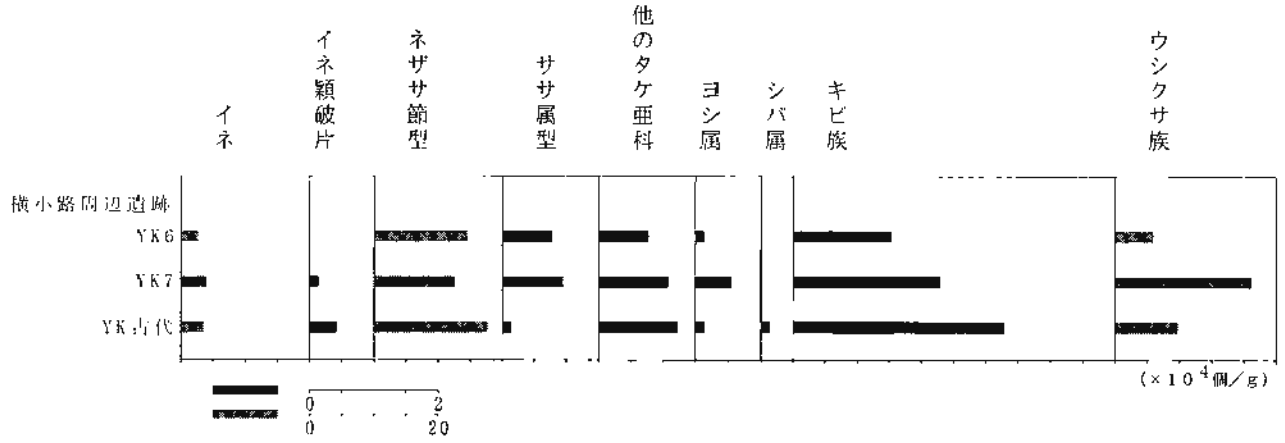
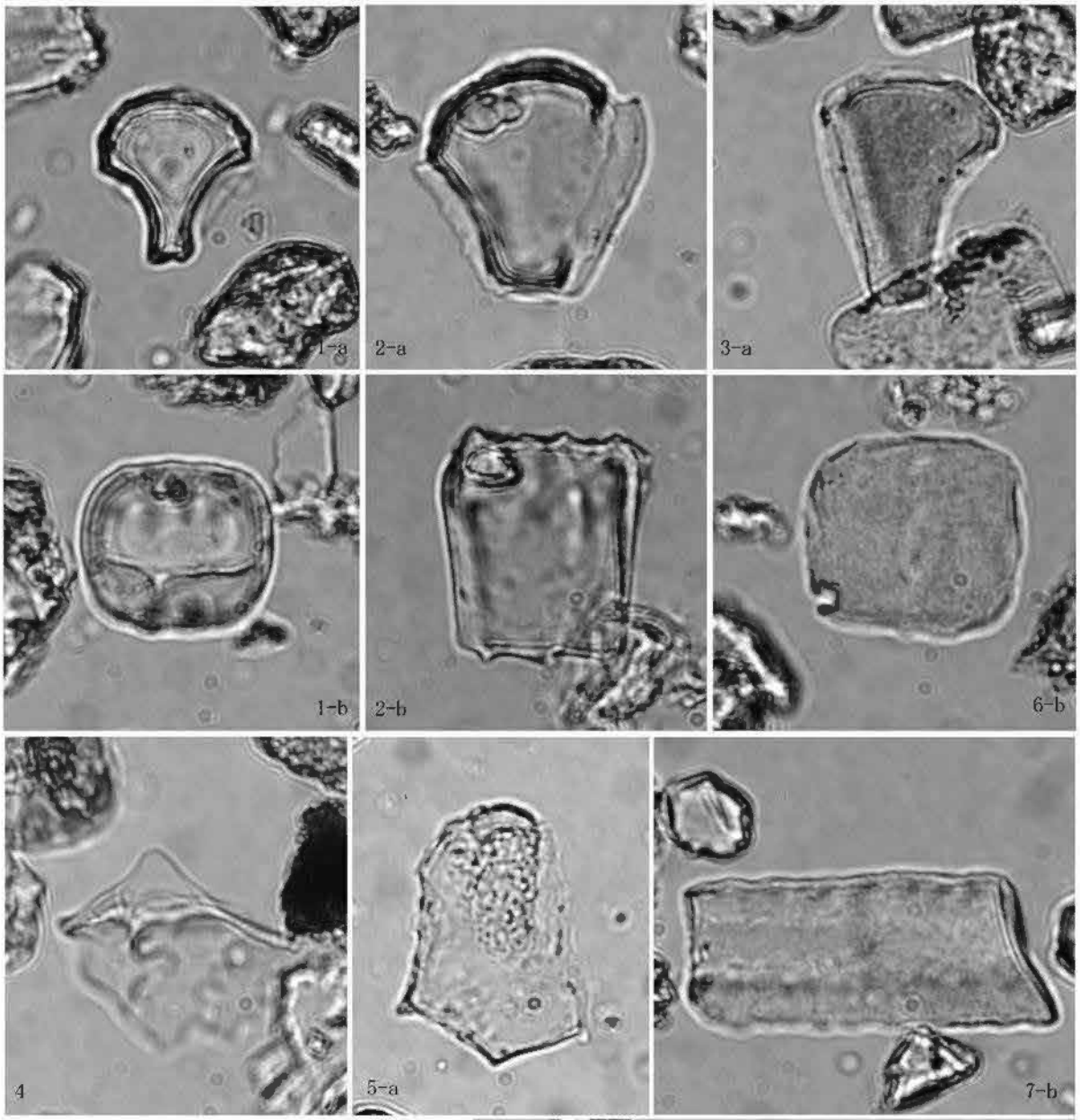


図1　プラント・オパール分布図



図版1　横小路周辺遺跡（溝7）から産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体
2. ネザサ節型機動細胞珪酸体
3. ウシクサ族機動細胞珪酸体
4. イネ穎破片
5. ササ属型機動細胞珪酸体
6. キビ族機動細胞珪酸体
8. ヨシ属機動細胞珪酸体

a：断面　b：側面

第六章　調査成果のまとめ

第１節　中世

前章までに、検出遺構と出土遺物について簡単な説明を行ってきた。そこでも述べたように、当地点では後世の削平の影響もあって中世整地面の遺存は一部に留まり、この面上において明確に把握できた遺構は少ないものであった。特に 2a ～ 2c 面は、上位から順次掘り下げを行いながら遺構の確認を繰り返す過程で便宜的に設けたもので、正確には遺構面という呼び方には適合しない。遺構の確認に際して見落としがあったであろうことも既述したとおりで、同一面上で確認した遺構のかわらけ様相に型式差＝年代差が見て取れたのも、ここに起因している。

近世層直下の2a面を検出するまでに鎌倉前期である13世紀前半の遺物が多く出土していることから、鎌倉後期以降、南北朝～室町時代の整地面は既に削平で失われてしまっており、そこから掘り込まれた一部の遺構が 2a 面上に痕跡を留めていたものと考えている。これは鎌倉宮参道に面した調査地点ではある程度共通して見られる状況といえ、中世後期以降のある時期、当地周辺では土地の削平をともなう比較的大規模な開発が行われていたことを推測させる。

中世の各面（2a ～ 2c 面・3 面）で確認できた遺構は溝やピットが中心で、溝の走方向は現行の荏柄天神社参道と軸線をほぼ同じくしていた。複数のピット底面には礎板が据えてあったため柱穴と考えて良いだろうが、調査範囲の中では確実な柱穴列を見出すことはできなかった。他に、ごく規模の小さいかわらけ集積も 3 ヶ所で確認された。

以上を要約すると、当地点では 13 世紀前半には荏柄社参道と近い軸線で土地区画が行われ、小規模な柱穴で構成される掘立柱構造の建物・塀といった諸施設が展開していた状況を復元し得る。加えて、ごく小規模とはいえ一括廃棄されたかわらけ集積が複数箇所で認められた点は、飲食をともなう何らかの儀礼的行為の実施を想起させ、当エリアの性格も加味してシンプルに考えると、武家屋敷地の一画であったという推論に導かれる。狭小な範囲の調査ではあったが、近隣の成果とも照らし合わせることで、より具体的な遺跡様相に近付くことを期待したい。

今回の調査地では、削平のため南北朝～室町時代の遺構面が失われたであろうことは既述した。当該期、当地点を内包する「大倉」エリアは公方御所を擁した政治権力の中枢であり、鎌倉幕府が滅亡した後も破砕泥岩を用いた大規模な土地の嵩上げが行われていたことが、これまでの発掘成果によって確認されている。御所推定地に程近い浄明寺地区では、鎌倉時代後期より上位の遺構面で掘立柱建物を主体とする濃密な遺構展開が確認されており、厚手・外反化の進んだロクロかわらけや古瀬戸後期様式に属する什器類が豊富に出土している（押木 2019)。中世都市鎌倉を通史的に理解する上でも、当エリアの考古学的情報が重要性を増しつつあることは間違いないだろう。

第２節　古代

4面では奈良～平安時代の落ち込みと、この軸線に規定されたであろう、小規模な溝3条が検出された。落ち込みは人工ではなく自然要因で形成されたものと見られ、埋土には水磨した泥岩粒による砂礫層を挟むことから、一時的かもしれないが、洪水など水流にともなって埋没した可能性も想定できる。一方、

砂礫層上位の埋土中から出土した土器には水磨を受けた資料がないことから、水が引いた段階で近傍の集落などから土器を中心とする生活廃棄物がもたらされたと考えることができる。完形ないしはそれに準じた土器4個体をまとめて埋置したような出土状況も認められ、「忠」「坂本」の墨書資料を含む点も含め、所謂「水辺の祭祀」など、儀礼的性格を強く窺わせるものであった。墨書土器は全8点を数え、8世紀後葉～9世紀初頭頃の同時期に使用されたものと判断できた。出土した古代遺物の中心時期とも重なることから、当該期、周辺における土地利用や人的営為の実相に迫るうえで貴重な研究素材となり得よう。

また、落ち込み最上部の堆積土などについて植物珪酸体分析を依頼した結果、水田土壌の混入を推測させるに十分な量のイネのプラント・オパールや穎破片が検出され、遅くとも平安時代の前期には当地点の近傍で水稲耕作が営まれていたことの徴証が示された（第五章）。小規模な溝群が水田に関連するものかは不明で、今回は畦畔や水路など、明確な水田遺構の検出には至らなかった。古い調査だが鶴岡八幡宮境内遺跡の国宝館収蔵庫地点では中世以前の水田跡と推定された、土手で仕切られた遺構群が検出されている（鶴岡八幡宮境内発掘調査団編 1985）。こうした事例や今回のような分析結果を受け、鎌倉低地では「頼朝以前」の水田が存在したという前提に立って発掘調査に当たる必要があるだろう。

当地区は史料上に見える古代鎌倉郡の「荏草郷」に比定する見方が有力だが、考古学の情報から検証するには至っていない。周辺の調査では中世基盤層下から古代の遺構・遺物が発見されることは珍しくないので、今後はこれらを繋ぎ合わせることで古代における土地利用の開始期～変遷、そして各時期における遺跡の性格といった点について考察を進めて行く必要があるだろう。ただし、規模の大きな調査については正式報告書が未刊行となっている事例も多いことから、まずは適切な公開が果たされることを切に願う。

引用・参考文献

鶴岡八幡宮境内発掘調査団編 1985『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書（鎌倉国宝館収蔵庫建設に伴う緊急調査）』鎌倉市教育委員会

押木弘己 2019「南北朝・室町期における“都市鎌倉”の変容―大倉地域の土地利用変化を中心に―」『シンポジウム　南北朝・室町時代の鎌倉―発表資料集―』特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所

1.　表土掘削（北西から）

2.　表土除去後（＝ 1 面・北西から）

3.　2a 面（北西から）

4.　2a 面　作業風景（北から）

5.　2b 面（南東から）

図版２

1.　2b 面　溝 1・2（北東から）

2.　2b 面　かわらけ集積 1（北から）

3.　2b 面　かわらけ集積 2（北から）

4.　2b 面　かわらけ集積 2（南から）

5.　2b 面　かわらけ集積 3（東から）

6.　2b 面ピット 57　かわらけ出土状況（北から）

7.　2b 面ピット 54 西脇　漆器碗出土状況
（北東から）

1.　３面（北西から）

2.　４面（北西から）

図版４

1.　４面（南西から）

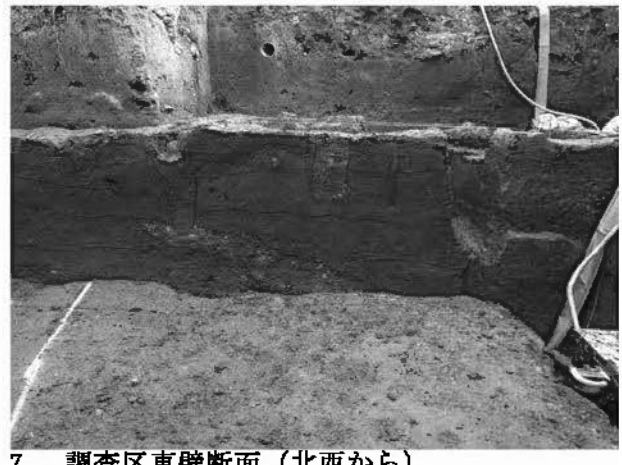
2.　４面北西部（北西から）

3.　４面　南東部落ち込み（南西から）

4.　同上　土器出土状況（北西から）

5.　調査区西壁断面（北東から）

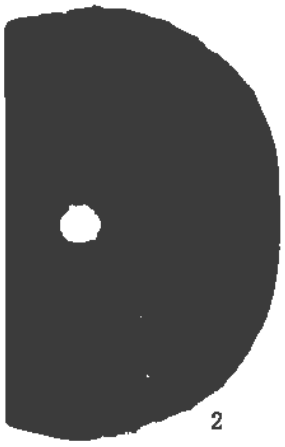
6.　調査区北壁断面（南東から）



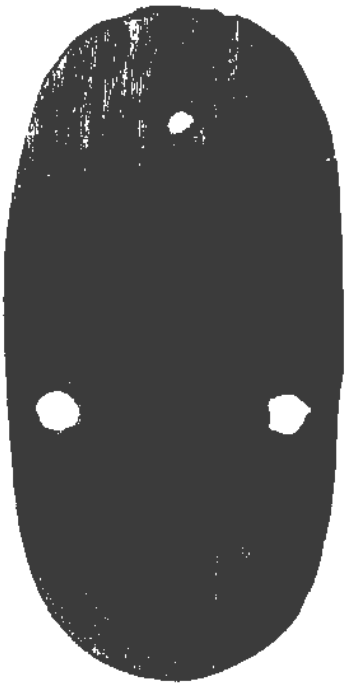
7.　調査区東壁断面（北西から）

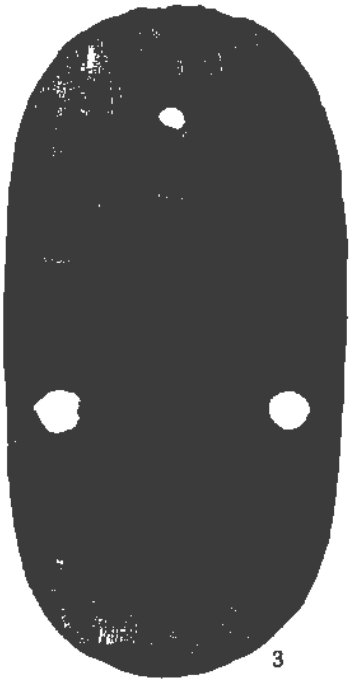
8.　測量作業風景（北西から）

図 9-1


2

試掘坑




3

6

7

表土掘削

図 10-11

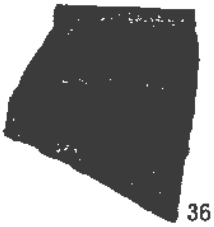
15

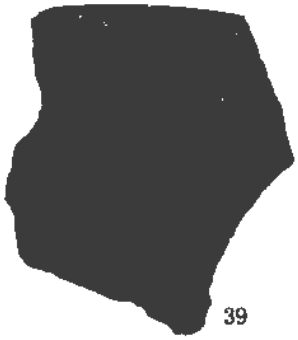
17

19

26

35


36


39

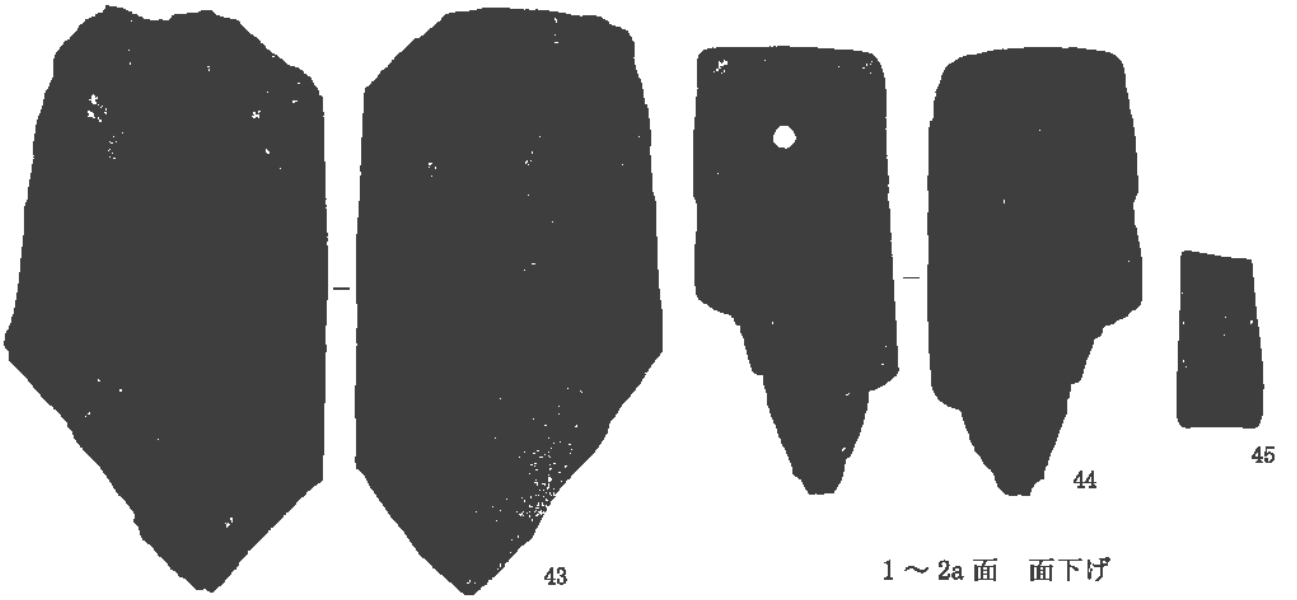
42

40

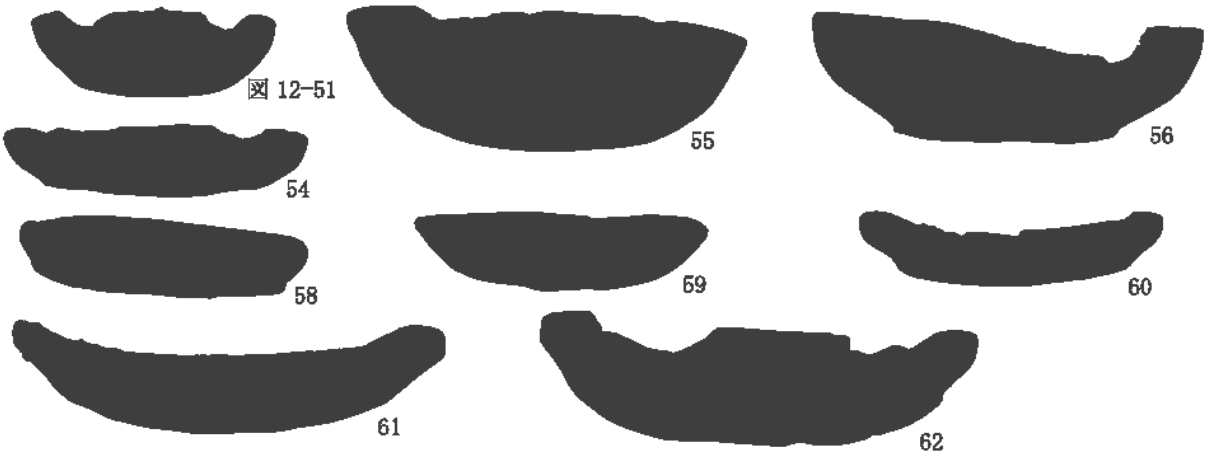
図11-41

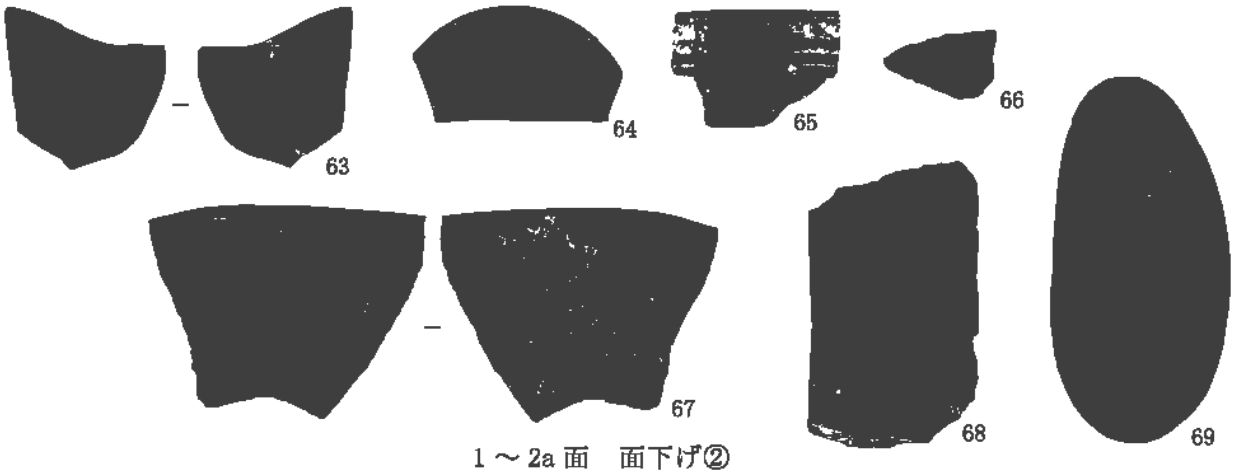
出土遺物（1）　縮尺＝約 2/5

図版６



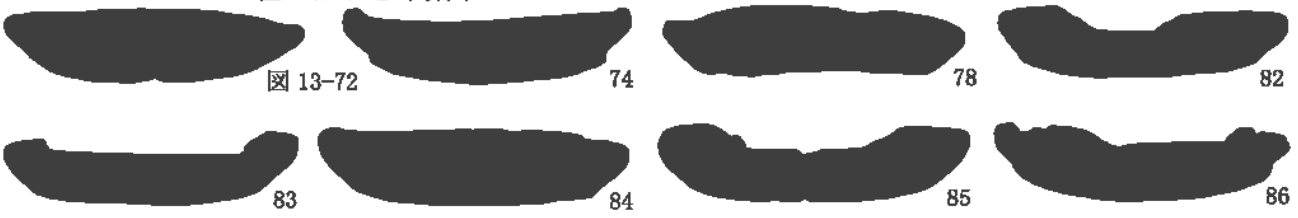
1 ～ 2a 面　面下げ



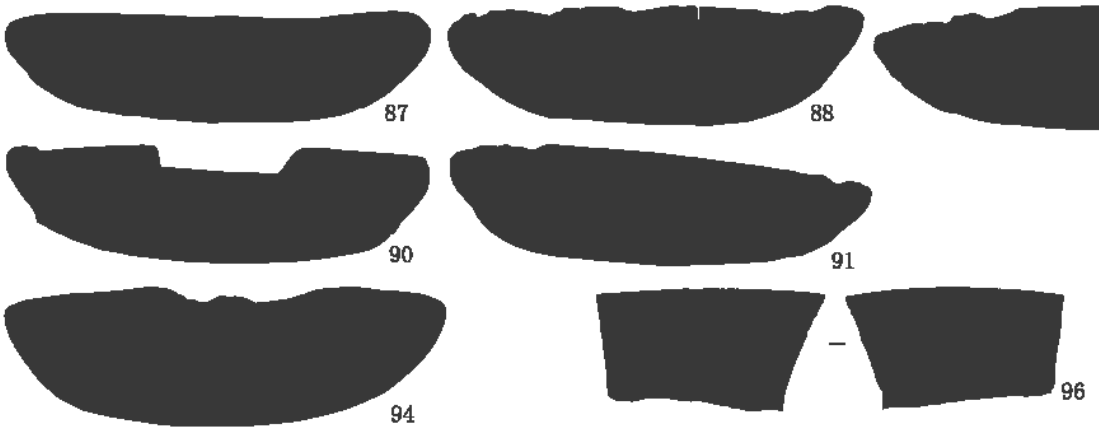


1 ～ 2a 面　面下げ②

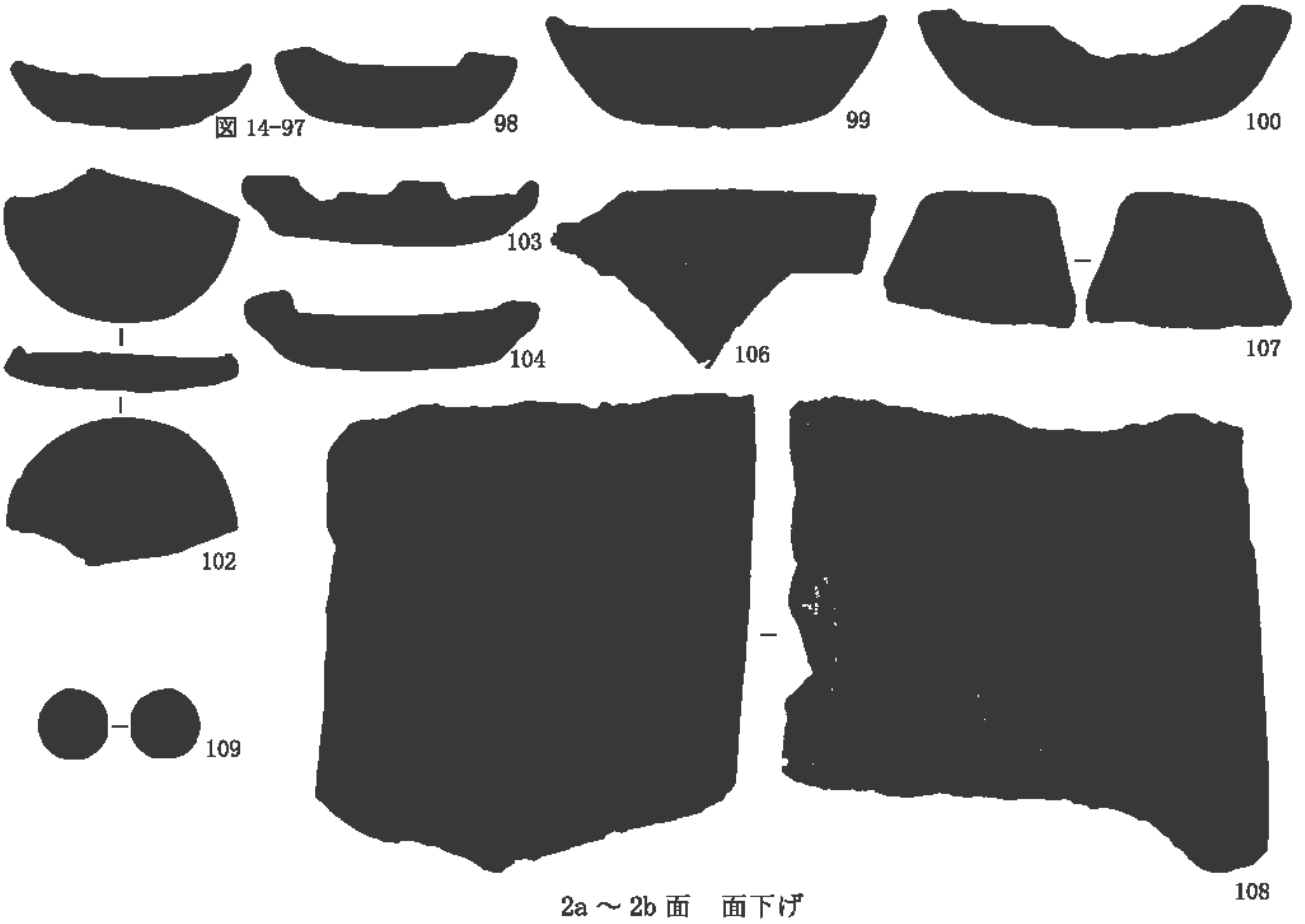
1 ～ 2a 面　かわらけ集中



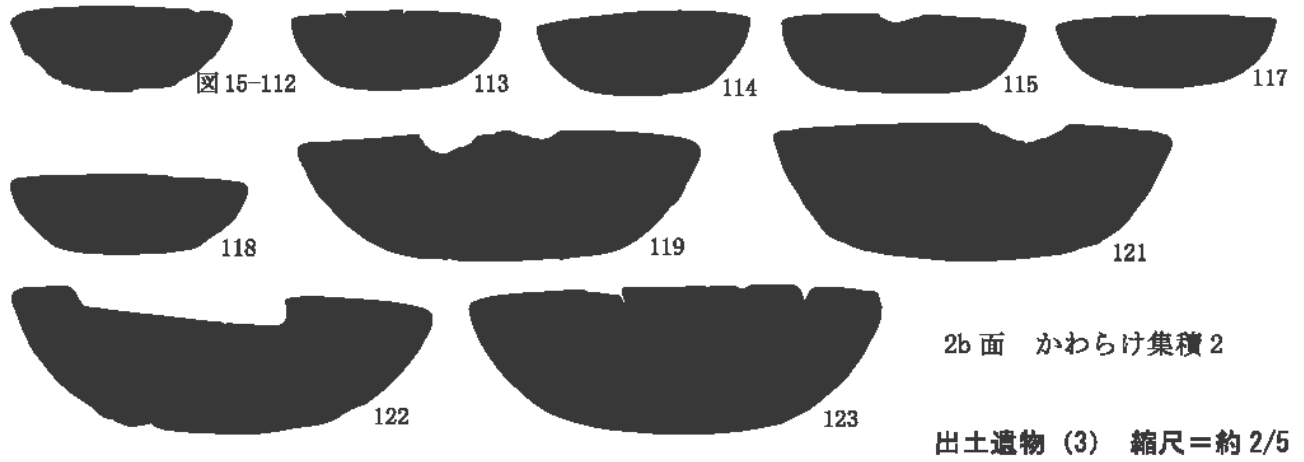
出土遺物（2）　縮尺＝約 2/5



1 ～ 2a 面　かわらけ集中



2a ～ 2b 面　面下げ



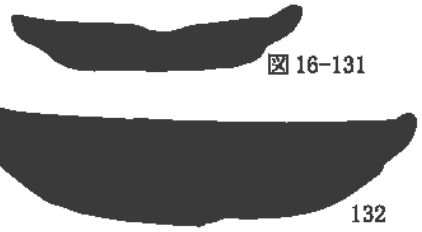
2b 面　かわらけ集積 2

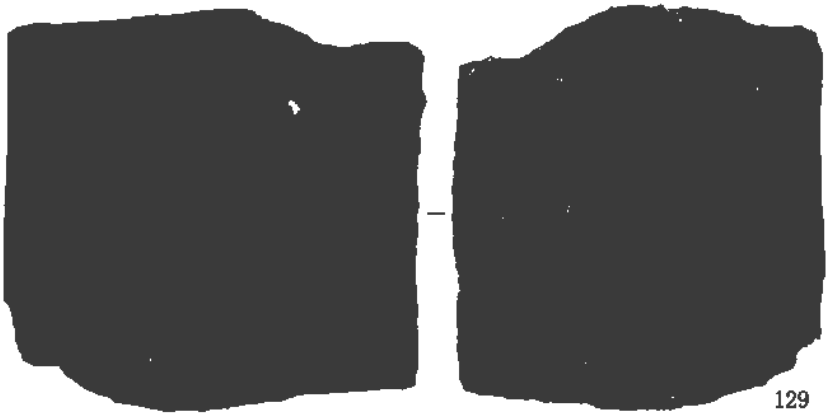
出土遺物（3）　縮尺＝約 2/5

図版８

2b 面　溝 1

2b 面　ピット 11



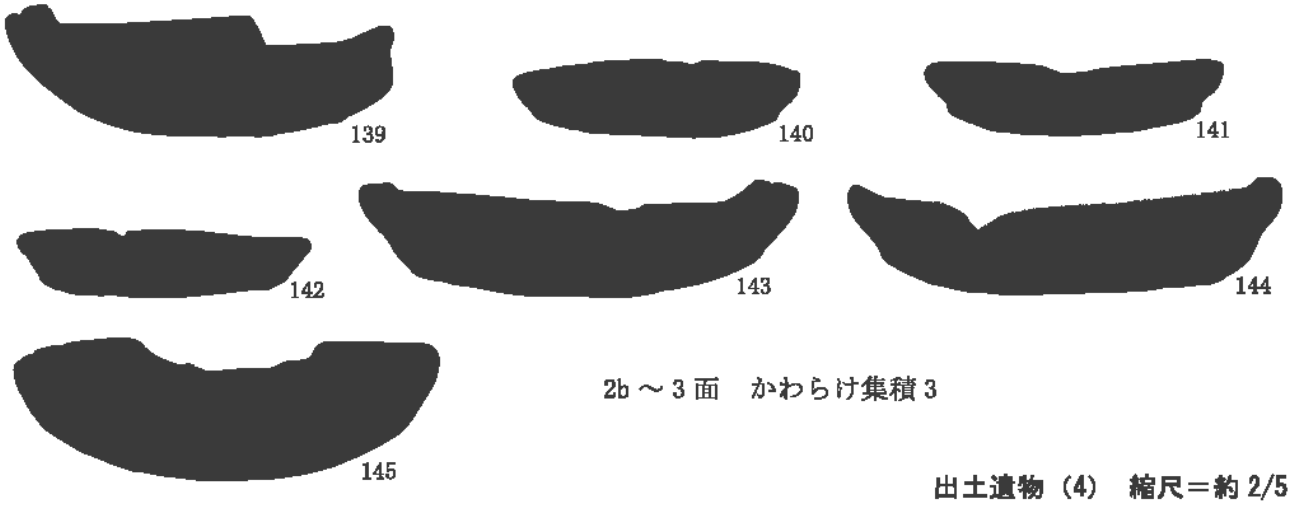


2b 面　ピット 22

2b ～ 3 面　土丹地業掘り下げ

2b ～ 3 面
黒色粘土掘り下げ

2b ～ 3 面　焼土土坑



2b ～ 3 面　かわらけ集積 3

出土遺物（4）　縮尺＝約 2/5

148

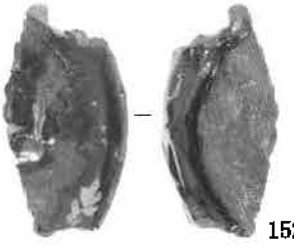
149

150

2b ～ 3 面　ピット 53

151

2b ～ 3 面　ピット 57


152

2c(3) ～ 4 面　排水溝

153

3 ～ 4 面　ピット 67

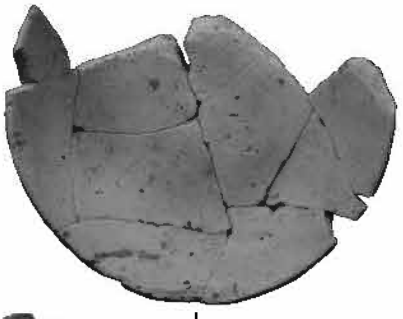
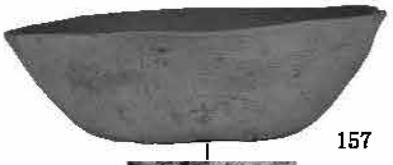


図 17-154

155


157

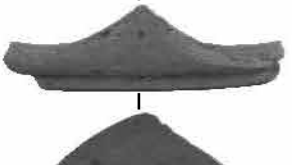
158

159

160

161

171



163

164

168

169

170

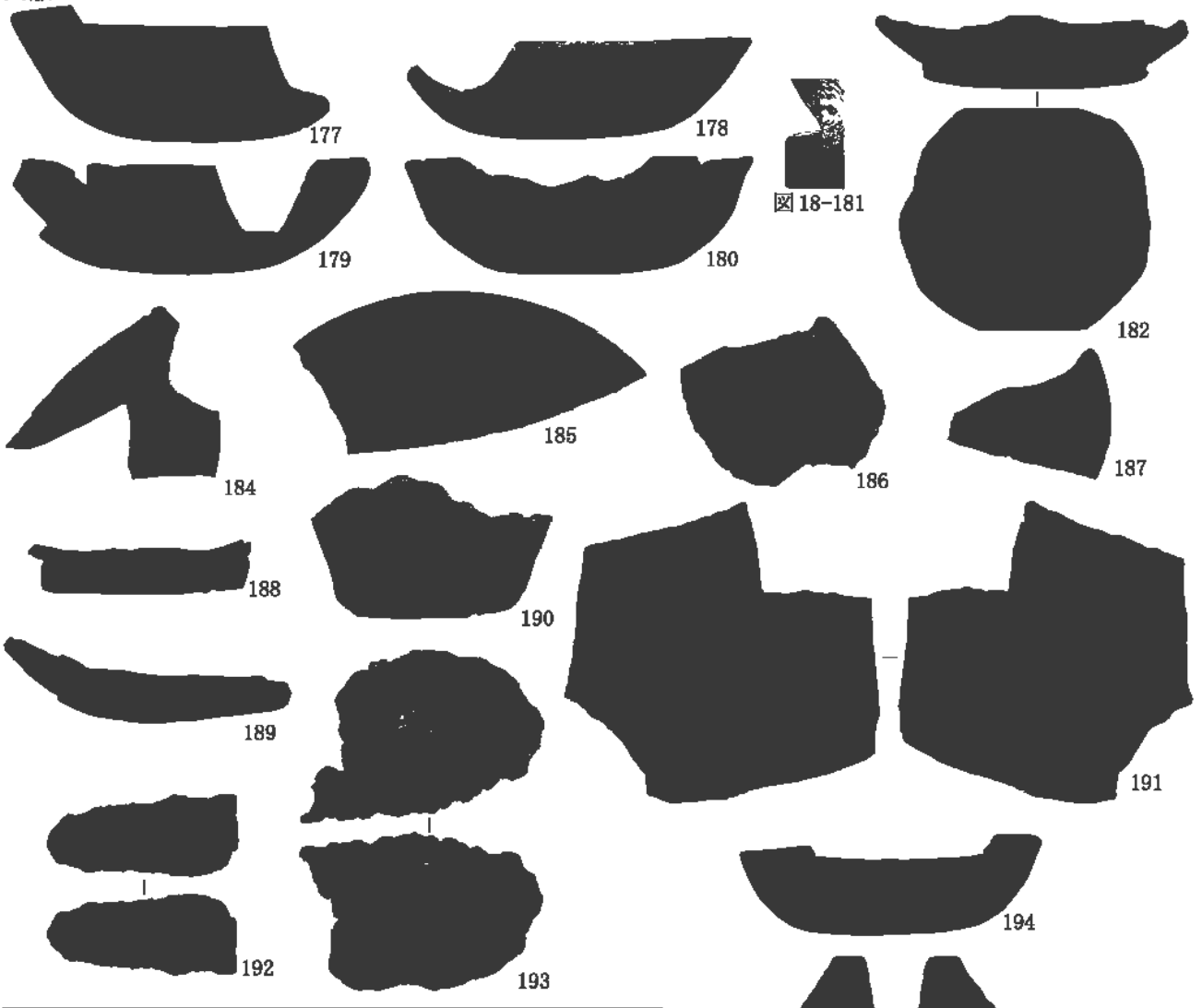
172

173

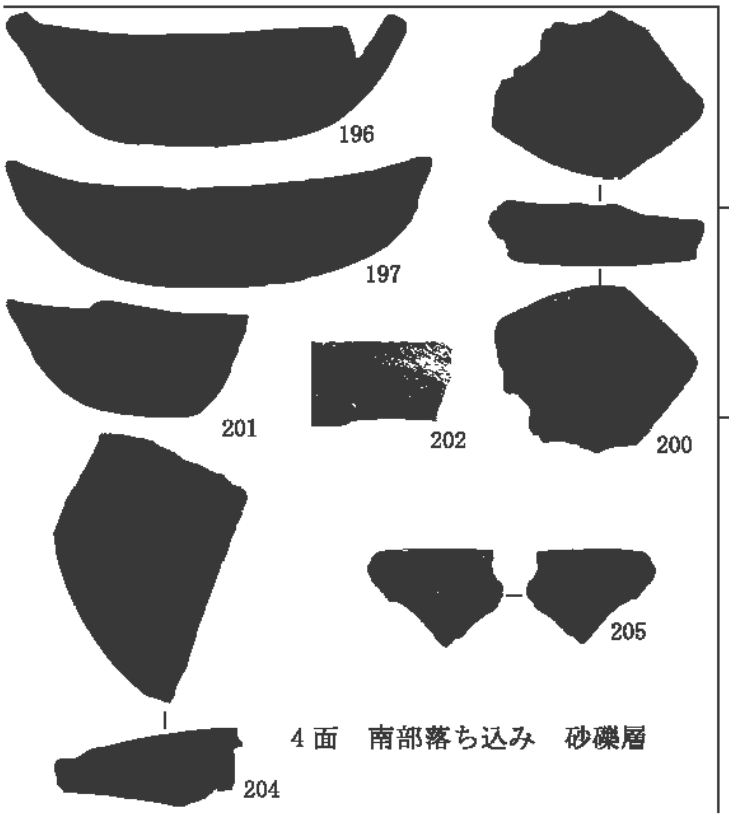
176

出土遺物（5）　縮尺＝約 2/5

図版 10

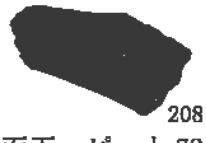


4 面　南部落ち込み

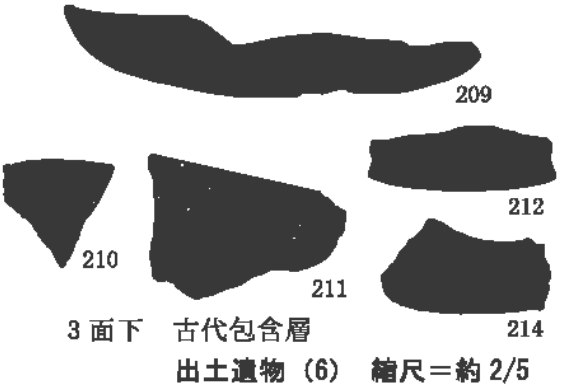


4 面　南部落ち込み　砂礫層

4 面　溝 7



3 面下　ピット 78



3 面下　古代包含層

出土遺物（6）　縮尺＝約 2/5

多宝寺跡（No.187）

扇ガ谷二丁目260番1地点

例　言

1．本報告は、鎌倉市扇ガ谷二丁目260番1において実施した、「多宝寺跡」（鎌倉市No.187遺跡）の発掘調査報告である。

2．発掘調査は令和元年6月12日から同年7月24日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、74.9㎡である。

3．発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調　査　員　　神田倫子、栂岡ケイト、（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作　業　員　　関塚　通、南齋敬資、吉澤　功
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）
調 査 協 力　　前田卓宏、櫻井真貴、内田　豊（睦合文化財株式会社）
資料整理・報告書作成　　押木弘己、神田倫子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
遺物実測・挿図作成　　神田
その他　　押木

4．資料整理および本報告の作成は、鎌倉市文化財課分室で行った。

5．現地調査に際し、国家座標系の測量成果は（株）博通より提供いただいた。

6．本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「ＴＨＴ１９０１」とし、出土品への注記などに使用した。

凡　例

1．挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。

2．本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（JGD2011-第Ⅸ系）に基づいている。

3．挿図に示した方位標は座標北（Ｙ軸）で、真北はこれより0° 09′ 25″ほど東に振れている。

4．遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。

5．出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、 筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明　2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年―東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要　第56号 第4部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学

◆瓦質土器：河野眞知郎　1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河　第2集』神奈川県考古学会

◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市教育委員会　2000

◆瀬戸窯製品：藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史　別編窯業3　中世・近世常滑系』愛知県　2012

本文目次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　遺跡の位置と沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・428
第２節　周辺の発掘調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・428
第二章　調査の方法と経過
　第１節　調査の経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・431
　第２節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・433
第三章　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・433
第四章　検出遺構と出土遺物
　第１節　Ⅰ区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・434
　第２節　Ⅱ区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・440
第五章　調査成果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・441

挿図目次

図１　調査地点の位置・・・・・・・・・・・429
図２　調査区配置図・・・・・・・・・・・・432
図３　Ⅰ区土層断面図・・・・・・・・・・434
図４　１面全体図・・・・・・・・・・・・435
図５　２面全体図・・・・・・・・・・・・436
図６　Ⅱ区１面　石組み溝ａ・ｂ
　　　立面図・エレベーション図・・・437
図７　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・437
図８　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・438
図９　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・439
図10　確認調査成果との合成図・・・・・・442

表目次

表１　周辺の主な調査地点・・・・・・・・・431
表２　出土遺物カウント・計量表・・・・・443
表３　出土遺物観察表・・・・・・・444～446

写真図版目次

図版１
　1. Ⅰ区表土掘削前（南東から）
　2. Ⅰ区表土掘削後（南から）
　3. Ⅰ区１面　全景（北から）
　4. Ⅰ区１面　土坑１（南から）
　5. Ⅰ区１面　土坑２（北から）
図版２
　1. Ⅰ区２面　全景（北から）
　2. Ⅰ区２面　段差遺構（南東から）
　3. Ⅰ区北壁断面（南から）
　4. Ⅱ区表土掘削作業（南東から）
　5. Ⅱ区１面精査（南東から）
図版３
　1. Ⅱ区１面　全景（南東から）
　2. Ⅱ区１面　石積み溝ａ（南から）
　3. Ⅱ区１面　石積み溝ａ（東から）
　4. Ⅱ区１面　石積み溝ａ　遺物出土状況
　5. Ⅱ区１面　石積み溝ａ裏込め　遺物出土状況
図版４
　1. Ⅱ区１面　石積み溝ｂ（南西から）
　2. Ⅱ区１面　石積み溝ｂ（南から）
　3. Ⅱ区１面　石積み溝ｂ（南西から）
　4. Ⅱ区１面　石積み溝ｂ　埋土断面（西から）
　5. Ⅱ区１面　石積み溝ｂ　清掃作業（南から）
図版５～７　出土遺物

第一章　遺跡の位置と歴史的環境

第1節　遺跡の位置と沿革

本調査地は鎌倉市扇ガ谷二丁目260番1に所在する。扇ガ谷地区は鎌倉旧市街地の北西部に位置し、滑川の支流である扇川が形成した谷戸を中心に、ここから樹枝状に派生した小支谷で構成される。鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』に「扇谷」の名は見えず、「亀谷」が当地域の古地名であったとされる。鎌倉時代末期の『崇顕（金沢貞顕）書状』には「扇谷」からの出火に関する記述が見え、この時は「亀谷」～「浄光明寺西頬」まで類焼したという。『吾妻鏡』には「亀谷」の他「武蔵大路」の名が見え、文永二年（1265）三月五日条には鎌倉中で許可された町屋9ヶ所の一つとして「武蔵大路下」が列挙されている。文字通り武蔵方面へと抜ける要路の沿道に、幕府公認の商業地域が存在していた状況が窺える。

今回の調査地は、数ある支谷のうち、「泉ヶ谷」から北東に続く「多宝寺ヶ谷」の開口部付近に位置する（図1－5）。西方30ｍには、「泉ヶ谷」の由来とも言われる「泉の井」が湧水を湛えている（ａ）。

「泉ヶ谷」には泉谷山浄光明寺が所在する。建長三年（1251）頃、北条時頼・長時が開基となり真阿を開山に迎えて創建されたという。長時は後に幕府第6代執権を務め、これを退いた後の文永元年(1264)に浄光明寺で没して同寺に葬られた。翌年、彼の法要が「泉谷新造堂」で営まれている。長時以後も、彼に始まる赤橋流北条氏の菩提寺となった。第16代にして最後の執権となる守時も赤橋流の出身で、妹の登子は足利尊氏の正室である。こうした縁もあってか、尊氏は建武二年に謀反の嫌疑を掛けられた際、後醍醐天皇に恭順の意を表すため同寺に蟄居した。南北朝～室町時代には鎌倉公方の祈願寺として多くの寺領が寄進され、隆盛を誇ったという。境内には、訴訟のため京より下り、嘉暦三年（1328）に亡くなった歌人・冷泉為相の墓である宝篋印塔（ｂ）や、多宝寺長老にして徳治二年（1307）に没した覚賢の墓である大型五輪塔（ｃ）が所在する。

2000年には建武二年（1335）頃に描かれた『浄光明寺敷地絵図』が発見され、南北朝初期における同寺域および周辺屋地の所有者に関する貴重な情報が得られることとなった。朱線と足利氏執事である上杉重能の花押によって示された寺域の東端には「守時跡 今所望」（下線は朱字）と記載され、伽藍に並んで守時の邸宅が所在し、幕府滅亡にともなう彼の死後は縁深い同寺の寺域として安堵されたことを示している。

「泉ヶ谷」北東の谷戸奥部は「多宝寺ヶ谷」と呼ばれ、今は廃寺となった扇谷山多宝寺が所在したとされる。創建は弘長二年（1262）とされ、開基は北条時頼とも業時とも言われる。開山は忍性で、後に極楽寺の長老となった。忍性以下、多宝寺の長老は、覚賢を除いて全員が極楽寺の長老になったという。『随分私記』と『北条九代記』の記述からは、乾元元年（1302）と延慶三年（1310）の2度にわたって火災で焼失したことが知られる。『享徳日記』の享徳元年（1452）十二月条に寺名が記されているのを最後に、これ以後、廃寺となったと考えられている。

第2節　周辺の発掘調査成果

「泉ヶ谷」以北では発掘調査の件数が少なく、小規模な調査が占めている。

浄光明寺の境内では、宝物庫新築にともなう210㎡の調査が実施され、岩盤面で近世～近代の墓壙群

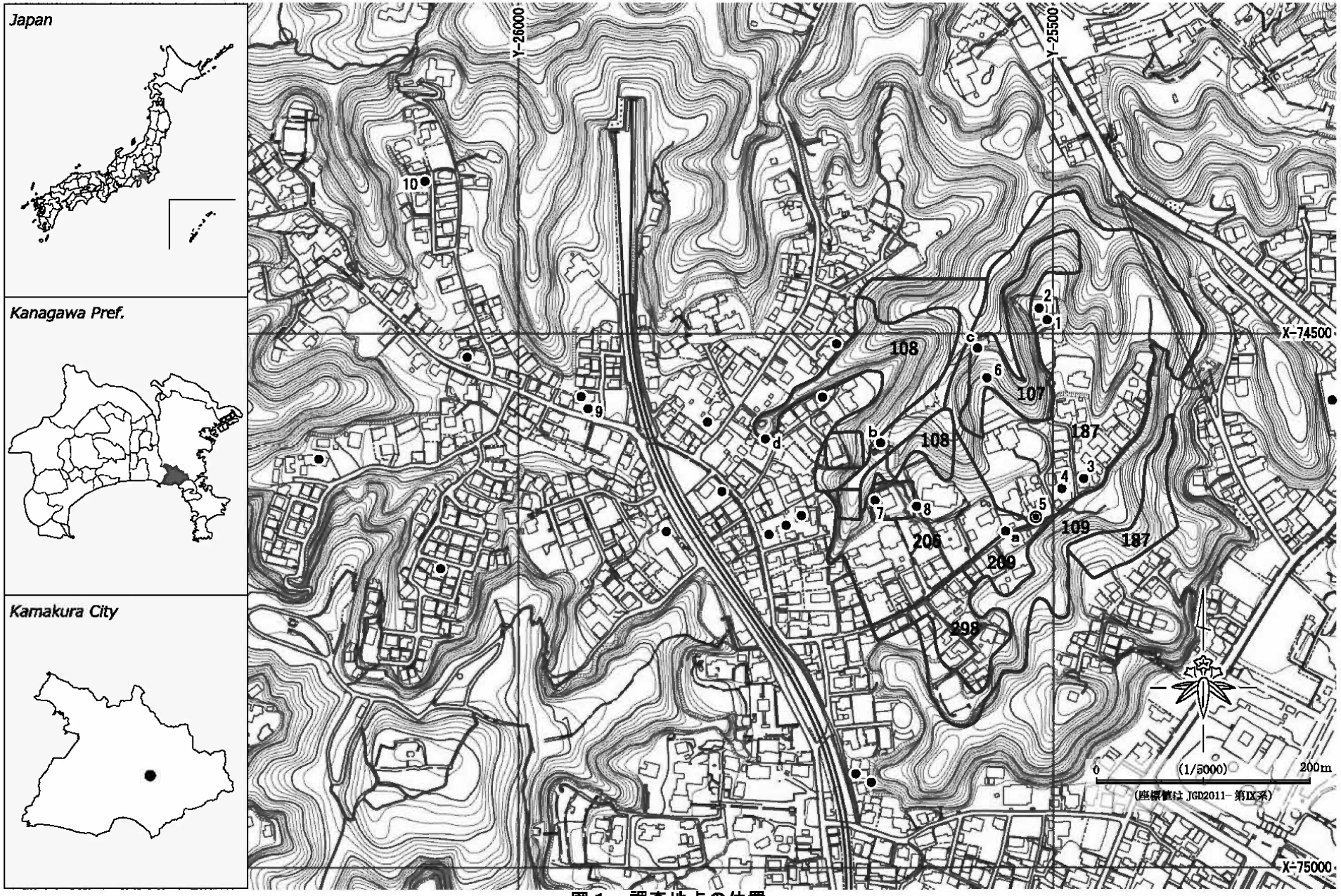

Japan
Kanagawa Pref.
Kamakura City
Y-26000
Y-25500
X-74500
X-75000
108
107
187
109
206
209
208
0
(1/5000)
200m
(座標値は JGD2011- 第IX系)

図１　調査地点の位置

と中世の礎石建物が発見されている。後者は凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）を用い、岩盤面を四角く掘り窪めた中に据えられていた。南北5間×東西4間以上で、建物中央の広い空間は須弥壇を設けた内陣と考えられている（図1-7）。

同地点の東約40ｍでは、尾根線上の平場において稲荷社建て替えにともなう調査が実施され、表土の直下でほぼ完形の常滑大甕が出土した。先述した『浄光明寺敷地絵図』には、この位置に「経塚」と記されていることから、大甕は経筒外容器として埋納されたものと考えられている。甕内の埋土は一部筒状に変色しており、 竹製の経筒が腐朽した痕跡と見られている。絵図の正確性を実証する意味でも、貴重な発見である（8）。

多宝寺ヶ谷では、覚賢塔下の斜面地にやぐら群が展開し、前面の平場も含めて第1～7次調査までが実施されている。確認されたやぐらは20基に上り、天井を持たない例も見られた。平場南東角の10号やぐらの前面では、凝灰質砂岩の切石を敷き並べた遺構が広がり、僧侶の修行の場や、授戒を行う際の戒壇といった見方が示されている。この中心的な平場から下る斜面中腹の平場では、近世の土坑墓群が発見され、さらに最下段の平場では、地表下110～120㎝で炭化物を主体とする薄い黒色土に覆われた安山岩の礎石3基が検出された。各礎石は210㎝間隔で配置され、建物の南東角を確認したものと見られている。礎石の周囲、および上位堆積土から出土した遺物の様相から、鎌倉末期～南北朝初期の遺構と考えられている（6）。

やぐら群とは尾根を隔て東隣となる支谷の最奥部では、宅地造成にともなう発掘調査が2回に分けて実施され、中世および近世の遺構面が確認されている。近世の第1面では、宝永四年（1707）の富士山火山灰混入土層の下で畑の畝と思われる遺構が検出され、出土した肥前陶磁器などから17世紀後半の所産と推定されている。中世の第2面では、野面積みの石垣で区画された平場群と、これらを結ぶ通路遺構が検出されている。建物跡は発見されていないが、日常生活に関わる遺物の出土から、僧坊や雑舎などが建っていたのではないかと推測されている。第2面の存続期間は14世紀～15世紀前半頃とされ、谷戸の奥（北）側から平場の造成が始まり、後に開口部側に拡張されて行ったものと考えられている。第3面は谷戸奥の調査でのみ確認され、面上には薄い炭化物層が堆積していたことから、火災を受けた可能性が強いという。面上では東西3間×南北1間以上の礎石建物が検出され、安山岩の礎石上面には12㎝角の柱痕が残っていた。火災・被熱による退色を、柱当たりだけが免れた痕かもしれない。この痕跡により､柱間隔が2ｍであったことも確認されている。3面上造成土で出土した遺物は14世紀代に、2面の地鎮遺構で出土した完形かわらけ5点が13世紀末～14世紀中葉の年代幅で考えられていることから､3面上の火災跡が､14世紀初頭における2度の火災のどちらかに当たる可能性が指摘されている。さらに下位にも生活面が残っている可能性がある（1・2）。

多宝寺ヶ谷の開口部近くでは、小規模調査ながら2枚の遺構面が確認され、15世紀代の遺物が出土している。また、創建期を含む永福寺の所用瓦も出土、または採集されている。

なお、JR横須賀線を挟んだ西側の調査地となるが、法泉寺跡（9）と清涼寺跡（10）で凝灰質砂岩の切石積み護岸を設けた溝が検出されており、後述する本地点の成果と共通点が見られる。

参考文献（表1掲載分以外）

NPO法人 鎌倉考古学研究所2018『扇が谷地域を学ぶⅠ 資料集』

他､表1に掲げた各調査報告書の遺跡概観を参考とした。

表１　周辺の主な調査地点（番号は図１に対応）

No.	地番	調査年度（開始年度）	面積（㎡）	所収文献
多宝寺跡（No.187）				
1	扇ガ谷二丁目 250 番 1･4	1989 年度	100	『多宝寺跡』 多宝寺跡発掘調査団　菊川英政他 1998
2	扇ガ谷二丁目 250 番 6	1991 年度	140	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9（第 3 分冊）』鎌倉市教育委員会　菊川英政　　1993
3	扇ガ谷二丁目 238 番 7	2000 年度	96	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 19』鎌倉市教育委員会　汐見一夫 2003
4	扇ガ谷二丁目 258 番	2019 年度	36	未報告
5	**扇ガ谷二丁目 260 番 1**	**2019 年度**	**75**	**本報告**
多宝寺跡やぐら群（No.107）				
6	扇ガ谷二丁目（第 1 ～ 7 次）	1959・1962・1970・1974・1977 年度	—	『多宝律寺遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　多宝律寺遺跡発掘調査団編 1976
浄光明寺旧境内遺跡（No.206）				
7	扇ガ谷二丁目	1987 年度	210	「扇が谷地域の発掘調査」『扇が谷地域を学ぶⅠ 資料集』NPO 法人鎌倉考古学研究所　宮田　眞 2018
8	扇ガ谷二丁目	2001 年度	—	「扇が谷地域の発掘調査」『扇が谷地域を学ぶⅠ 資料集』NPO 法人鎌倉考古学研究所　宮田　眞 2018
法泉寺跡（No.182）				
9	小町一丁目 333 番 15	2009 年度	38	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　伊丹まどか 2018
清涼寺跡（No.183）				
10	小町一丁目 325 番イ外	2005 年度	65	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会　伊丹まどか他 2012
その他の史跡				
a	泉の井			
b	冷泉為相墓			
c	覚賢墓			
d	扇の井			

第二章　調査の方法と経過

第１節　調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設工事に先立つ埋蔵文化財の記録保存調査として、鎌倉市教育委員会文化財課（市教委）が実施した。本地点を含む近隣の 5 区画は平成 26 年以降に宅地造成されたもので、市教委ではこの計画申請を受けて同年 1 月 10 日に確認調査を実施し、この結果をもとに工事時立会の措置をとって造成が進められた。

造成後、本地点の北 2/3 ほどは厚さ 2 m以上の盛土が施され、その土留めとして間知ブロック擁壁が設置された。今回の建設計画では基礎工事のため最大深度 2.42 m（造成前地表面より 76.5 ㎝）の掘削をともなう設計で、確認調査で検出された中世遺構面レベルに工事深度が及ぶことが予測されたため、建設計画の実施に先立っては本格的な発掘調査を行う必要があるものと判断された。

発掘調査は令和元年 6 月 12 日に盛土部分となる北側Ⅰ区の表土掘削から着手し、6 月 26 日にⅠ区の埋め戻しと南側Ⅱ区の表土掘削を行った。当年は梅雨時の長雨に見舞われたため実働日は限られたが、7 月 18 日にはⅡ区の埋め戻しを終え、同月 23 日に調査用具を撤収して現地での作業工程は完了した。

撤収後、即座に出土品・記録類の整理作業と報告書の作成に着手し、文化財課分室にて約半月の期間を要した。

なお、調査終了後の建築工事に当たっては、令和 2 年 2 月 7 日に工事立ち会いを行い、後述するⅠ区の 1 面・2 面ともに調査区の範囲外へ良好な状態で広がっていることを確認した。

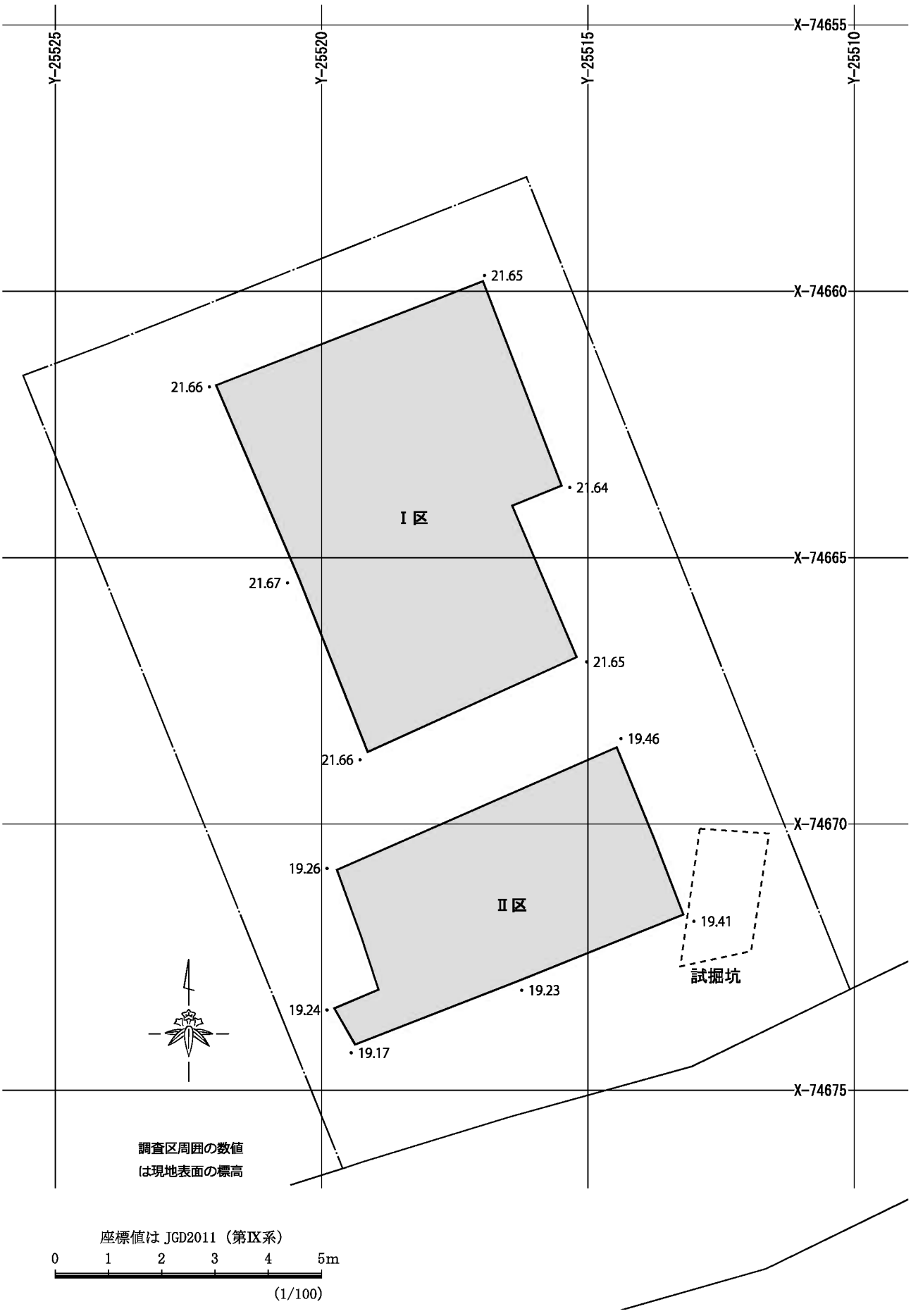

X-74655
X-74660
X-74665
X-74670
X-74675
Y-25525
Y-25520
Y-25515
Y-25510
21.65
21.66
21.64
Ⅰ区
21.67
21.65
21.66
19.46
19.26
Ⅱ区
19.41
試掘坑
19.23
19.24
19.17
調査区周囲の数値
は現地表面の標高
座標値は JGD2011（第Ⅸ系）
0 1 2 3 4 5m
(1/100)

図 2　調査区配置図

第2節　調査の方法

本地点の北半部は盛土造成が施され、南面道路からフラットにすり付く敷地南半部より2.2～2.5ｍほど嵩上げされていた（図2の標高値を参照）。建築計画は盛土を除去した上で建物基礎を設ける内容であったことから、盛土部分の調査発生土は場外搬出することとした。

今回は北側の盛土部分から調査に着手し、これをⅠ区とした。Ⅰ区では盛土上端から2ｍ以上の深さをオープンカットで掘削しなければならないことから、崩落の危険を回避するために50～60°の勾配を付けながら重機で表土を除去した。このため実質的に調査できた面積は小さく、調査区上縁（GL）で計測した面積35.4㎡のうち、1面（GL-2.0ｍ）で9.6㎡、2面（GL-2.4ｍ）で6.0㎡しか調査の対象にできなかった。

南側のⅡ区は盛土がなく、確認調査時の地表面レベル（GL）とほぼ変化がないものと思われる。調査着手時には、北東から南西に向けてわずかに低くなっており、南西隅近辺は工事による最大深度とほぼ同レベルという状況であった。表土を除去すると規制深度近くで調査区南辺と並行する凝灰岩の切石列が検出され、確認調査で見つかった中世石積み溝の北岸と推測された。今回、中世遺構の埋土に関しては工事深度を超えて掘削することを前提として調査に着手したため、石列南側の溝埋土は安全面に配慮しながら掘り進めた。また、Ⅱ区の大部分には造成時の所産と思われる撹乱が及んでいたが、石積み溝に接する箇所以外は範囲の確認までにとどめ、埋め土を掘り進めることはしなかった。

Ⅱ区調査時の掘削発生土はⅠ区側に仮置きし、調査終了後はこれで埋め戻した。

Ⅰ・Ⅱ区とも遺構確認面ごとに写真撮影・測量図作成などの記録作業を行った。測量には国家座標系（JGD2011）の基準軸を用い、市道上に打設された都市再生街区多角点（補助点）2点間の関係を起点に、開放トラバース測量によって調査地の敷地内に基準点を移設した。今回、平面座標は近隣で実施された民間調査組織による測量成果の提供を受け、垂直座標（標高）については街区多角点20A60（12.624ｍ）を起点に、光波測距儀で測定を繰り返しながら現地敷地内まで移動した。

第三章　基本土層

本地点の北半部は近年の盛土造成のため、南面する道路から平坦に続く敷地南半部より2.2～2.5ｍほど嵩上げされており、標高は21.65ｍ前後であった（図2）。今回は北側の盛土部分から調査を始め、ここをⅠ区とした。Ⅰ区では表土（盛土）を除去すると標高20.2ｍ前後で近世耕作土層が見え始め、これ以下の堆積土は人力で取り除くこととした。標高19.65ｍ前後で炭層に覆われた硬化面が検出され、ここを1面として平面的に広げた。面上は所々で被熱のため赤く変色していた。さらに掘り下げた標高19.2ｍ前後でも炭層に覆われた硬化面が検出され、ここを2面とした。やはり被熱によって赤く変色した箇所が見受けられた。この面上が建設計画における最大深度とほぼ同じレベルであったため、ここで確認できた落ち込みのみ掘削して、Ⅱ区の調査に移行した。

Ⅱ区では薄い表土の直下で中世の切石列が確認され、この検出レベルを1面とした。造成工事のため撹乱の広がりが大きく、中世段階での確実な整地面は捉えられなかった。また、Ⅰ区とⅡ区の間は間知積み擁壁の基礎によって分断されており、層位的な繋がりは全く分からなかった。

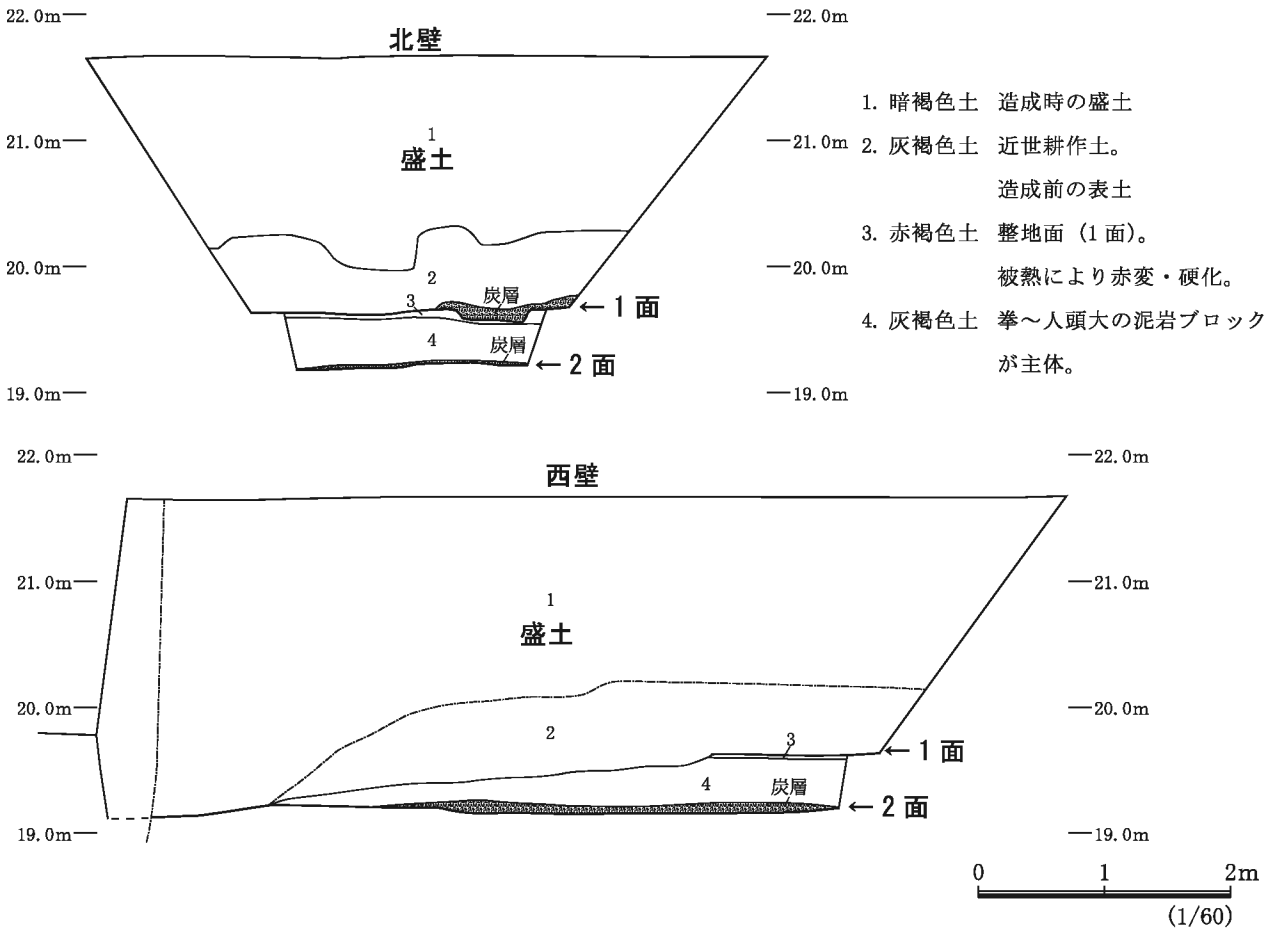


図3　Ⅰ区土層断面図

第四章　検出遺構と出土遺物

第1節　Ⅰ区の遺構と遺物

（1）1面の遺構（図4）

Ⅰ区では表土および近世耕作土を除去した後、標高19.65ｍ前後で硬化面が検出され、ここを1面とした。10㎡弱を調査できたうち、南側2/3ほどは近世耕作土層の落ち込みが整地面を削ってしまっており、耕作土を取り除くと2面上に堆積した泥岩ブロックが露出した。残る北側1/3部分では、小規模な土坑が2基検出された。ともに灰褐色の軟質土で埋まっていた。わずかな調査範囲での検出であり、遺構の性格は不明である。1面上には薄い炭層が堆積し、硬化面自体も火を受けて赤く変色していた。1面下～2面上は、拳～人頭大の泥岩ブロックが埋め立てられていた。

（2）2面の遺構（図5）

2面は標高19.2ｍ前後で検出された。面上には厚さ5～10cm程度の炭層が被り、整地面自体も被熱のため赤く変色していた。6㎡ほどしか調査できなかった中、南東角では20cmほどの落差を持つ段差が確認された。落ち込みのラインはN2°Wで、整地面に対して垂直な痕跡であった。調査時の印象は、掘り込みというよりも元々配置してあった切石を取り外した際の痕跡、というものであった。この他、西壁際でわずかな窪みが見られたが、明確な遺構とはならなかった。

工事深度に達したため2面以下の掘り下げは行わなかったが、段差の壁面と底面には泥岩ブロックが

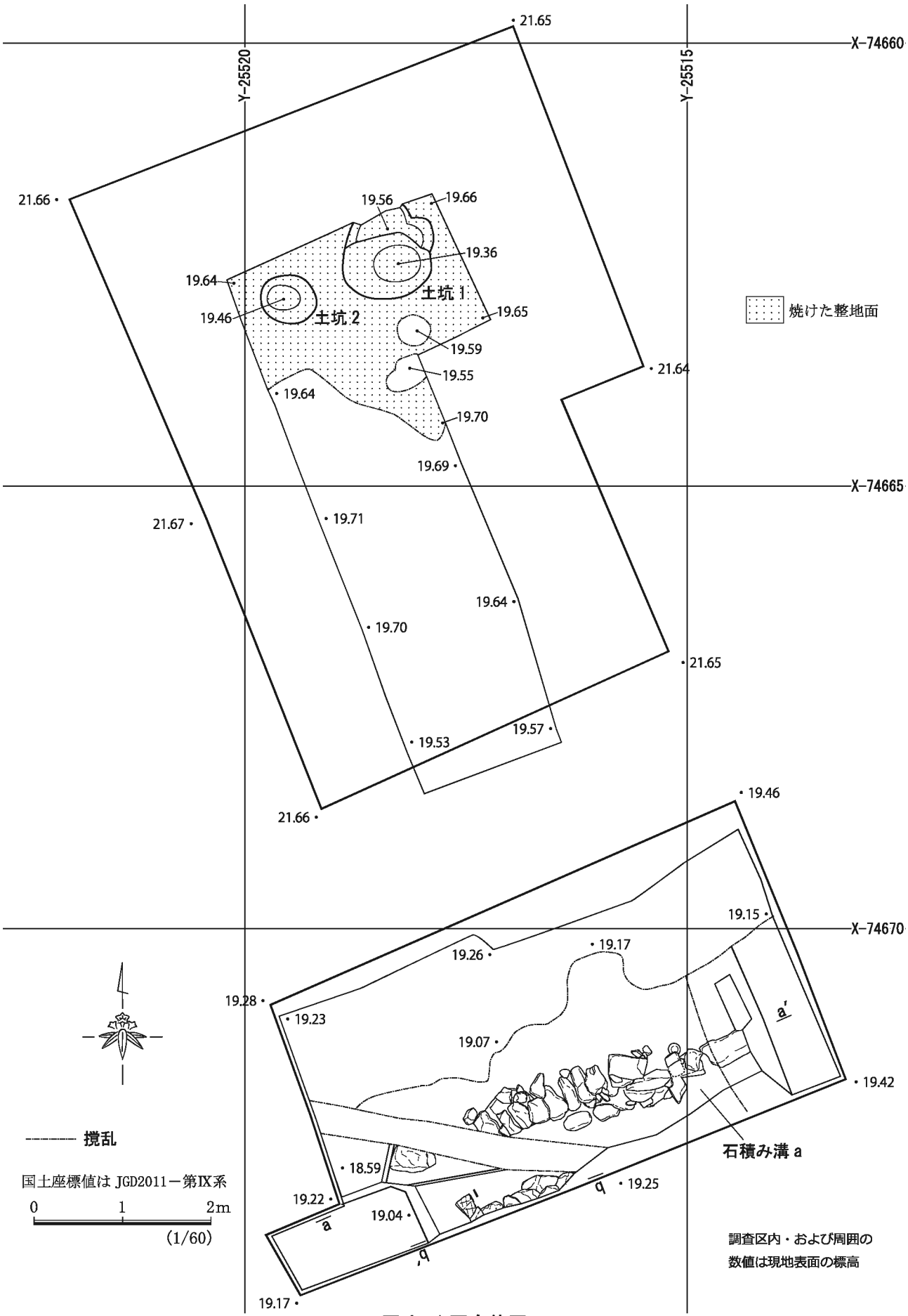

X-74660
X-74665
X-74670
Y-25520
Y-25515
土坑 1
土坑 2
焼けた整地面
21.65
21.66
19.56
19.66
19.36
19.64
19.46
19.65
19.59
19.55
19.64
19.70
19.69
21.64
21.67
19.71
19.64
19.70
21.65
19.53
19.57
21.66
19.46
19.15
19.26
19.17
19.28
19.23
19.07
19.42
石積み溝 a
18.59
19.22
19.04
19.25
19.17
a
a'
b
b'
撹乱
国土座標値は JGD2011－第Ⅸ系
0 1 2m
(1/60)
調査区内・および周囲の
数値は現地表面の標高

図 4　1 面全体図

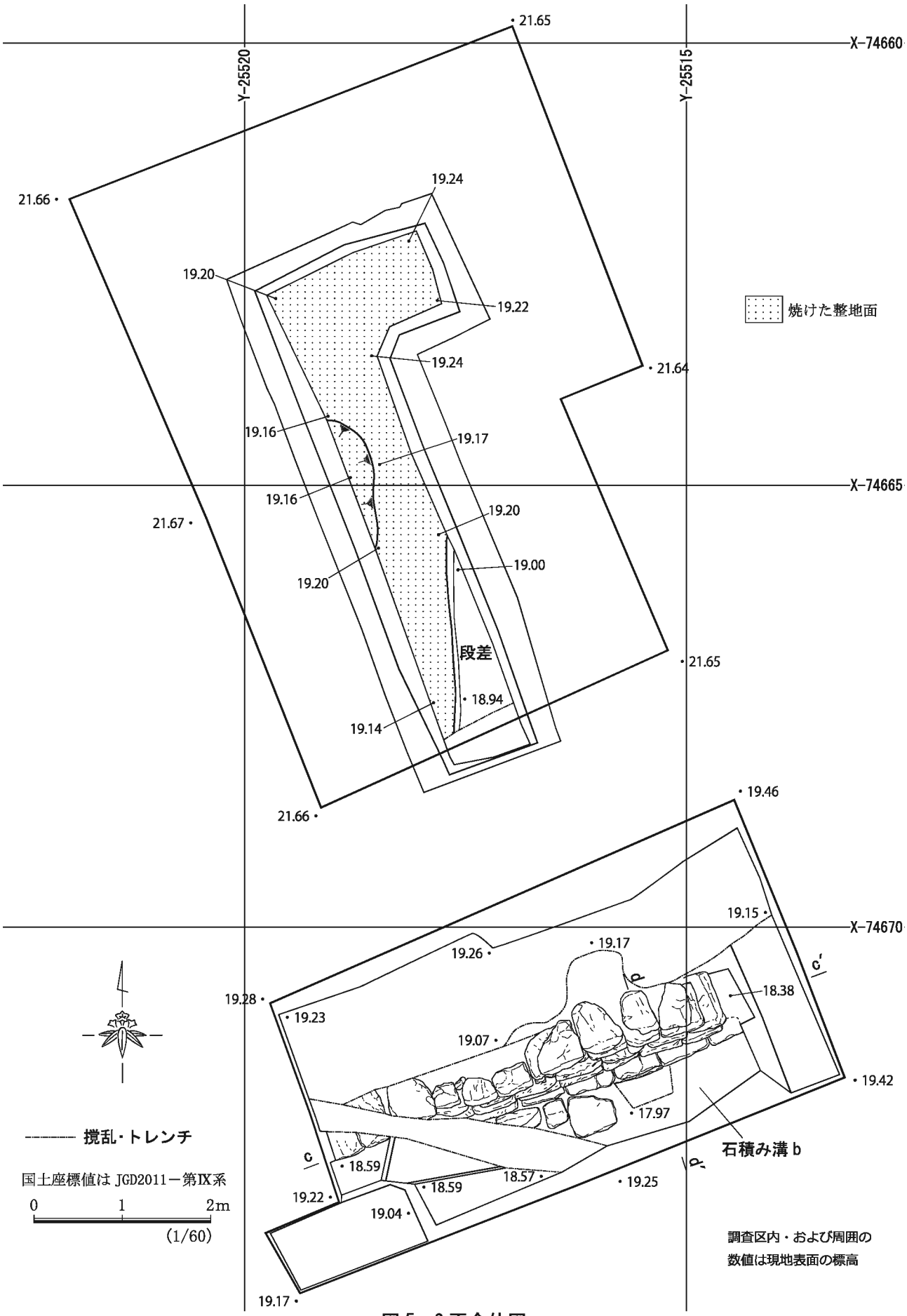
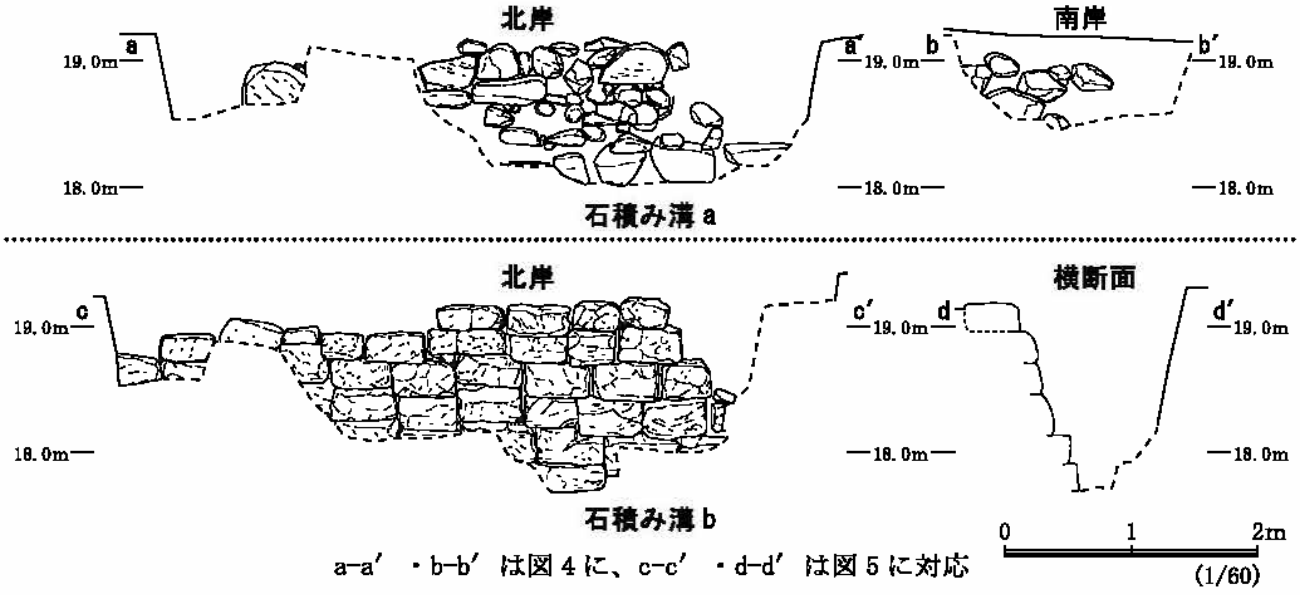

X-74660
X-74665
X-74670
Y-25520
Y-25515
焼けた整地面
段差
石積み溝 b
搅乱・トレンチ
国土座標値は JGD2011－第Ⅸ系
0 1 2m
(1/60)
調査区内・および周囲の
数値は現地表面の標高

図 5　2 面全体図



a–a′ ・b–b′ は図４に、c–c′ ・d–d′ は図５に対応

図６　Ⅱ区１面　石組み溝 a・b 立面図・エレベーション図

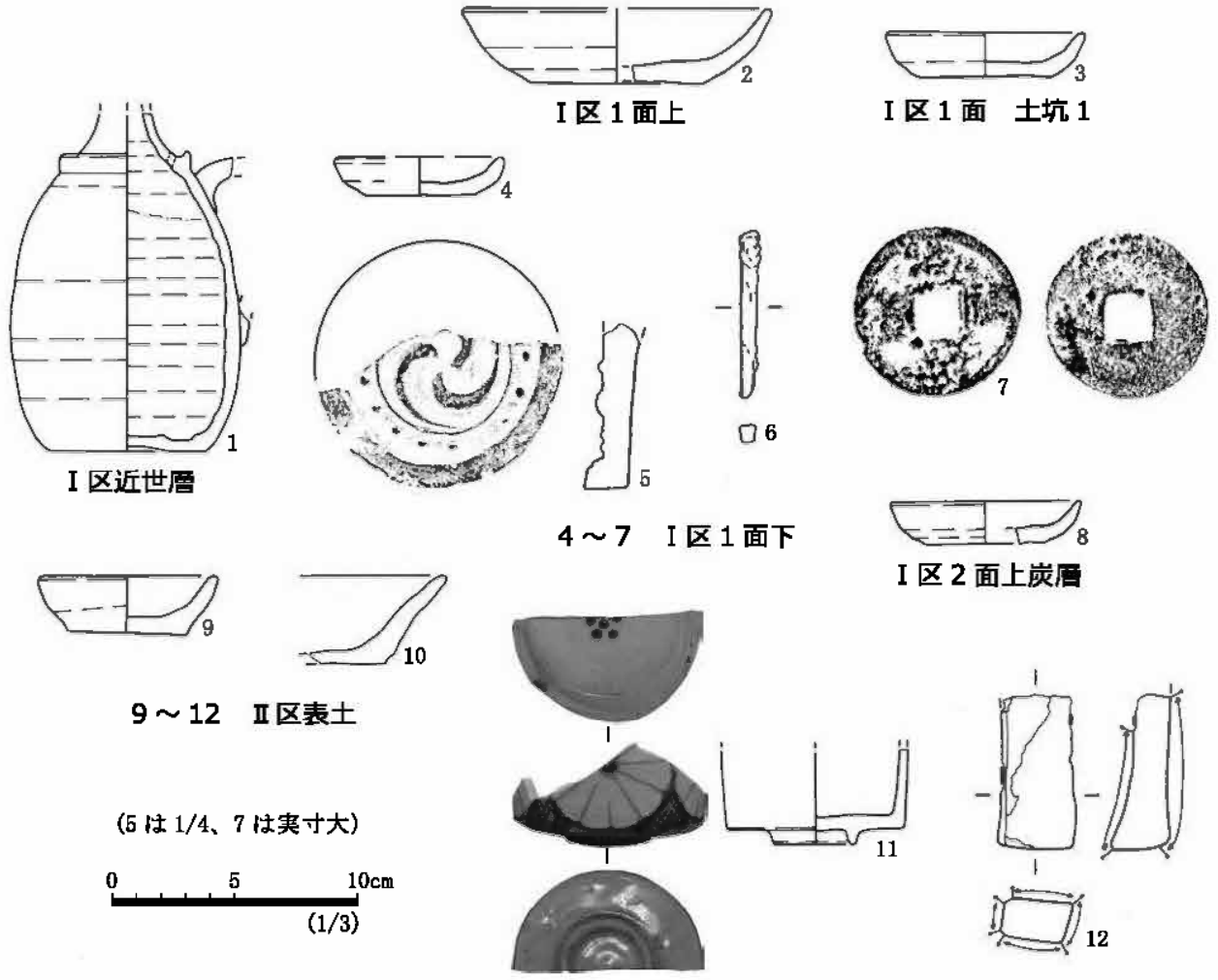


図７　出土遺物（1）

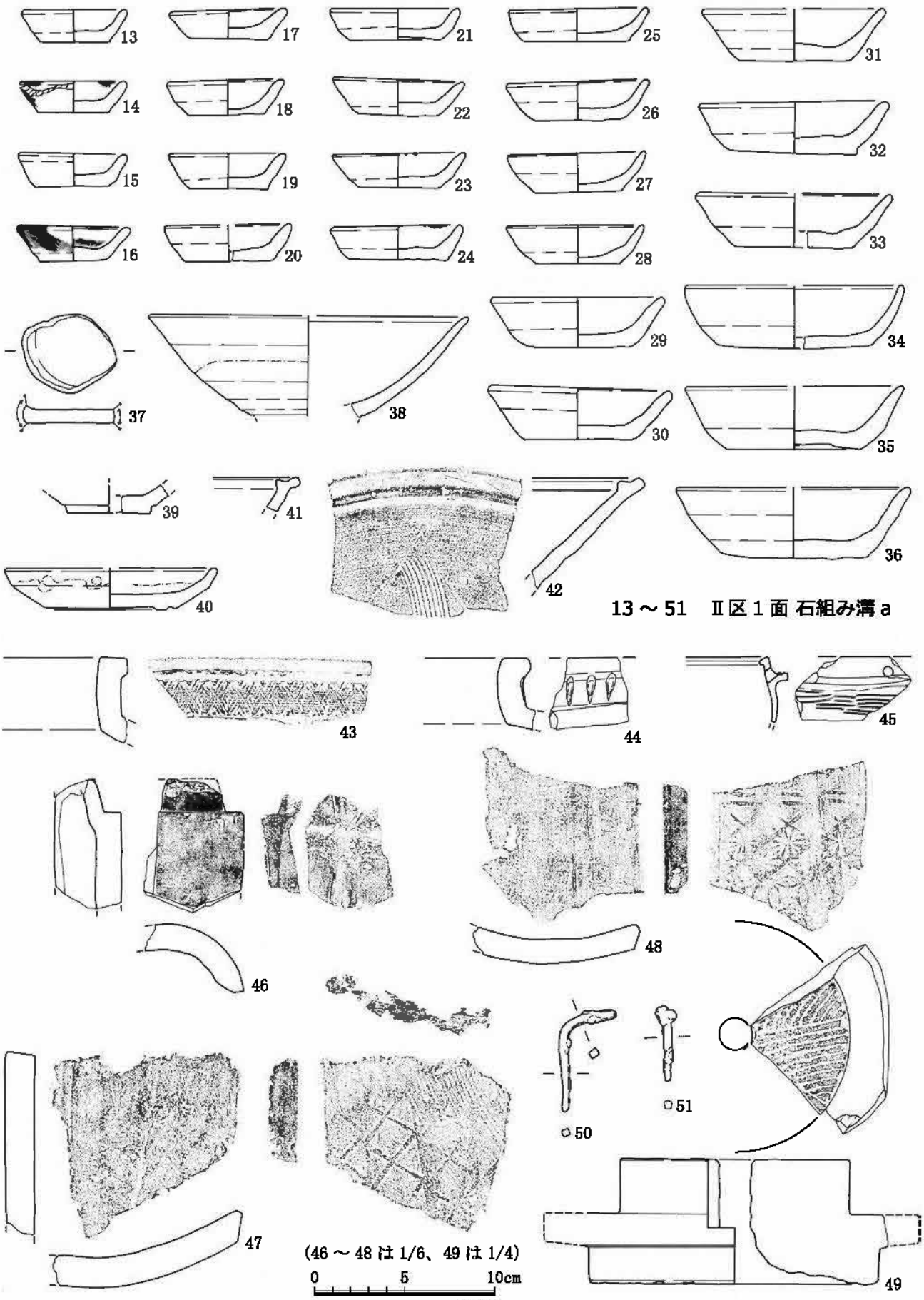
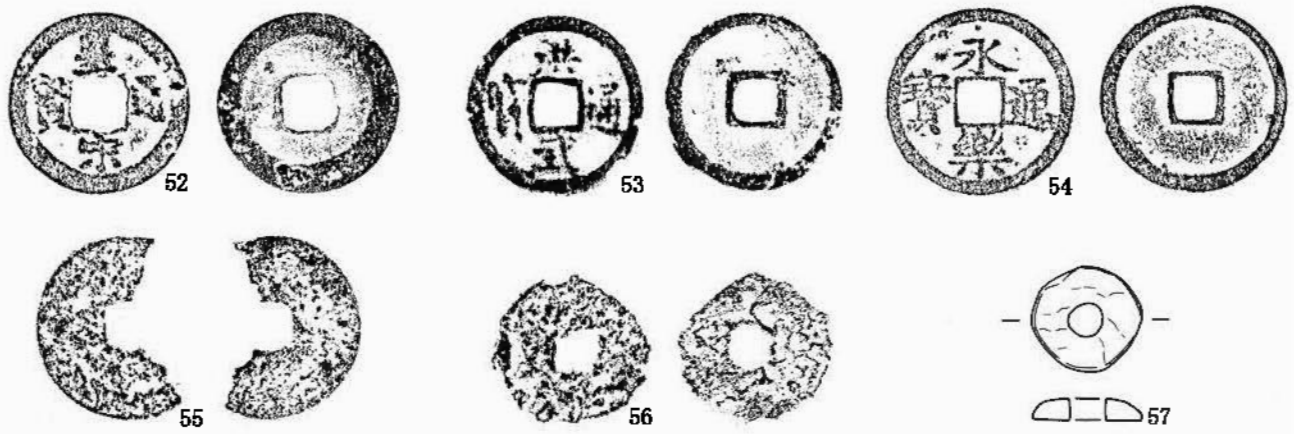
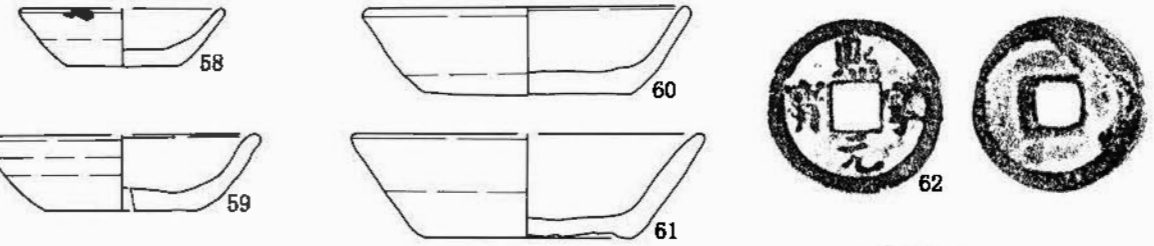

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
13～51　Ⅱ区1面 石組み溝a
(46～48は1/6、49は1/4)
0
5
10cm
(1/3)

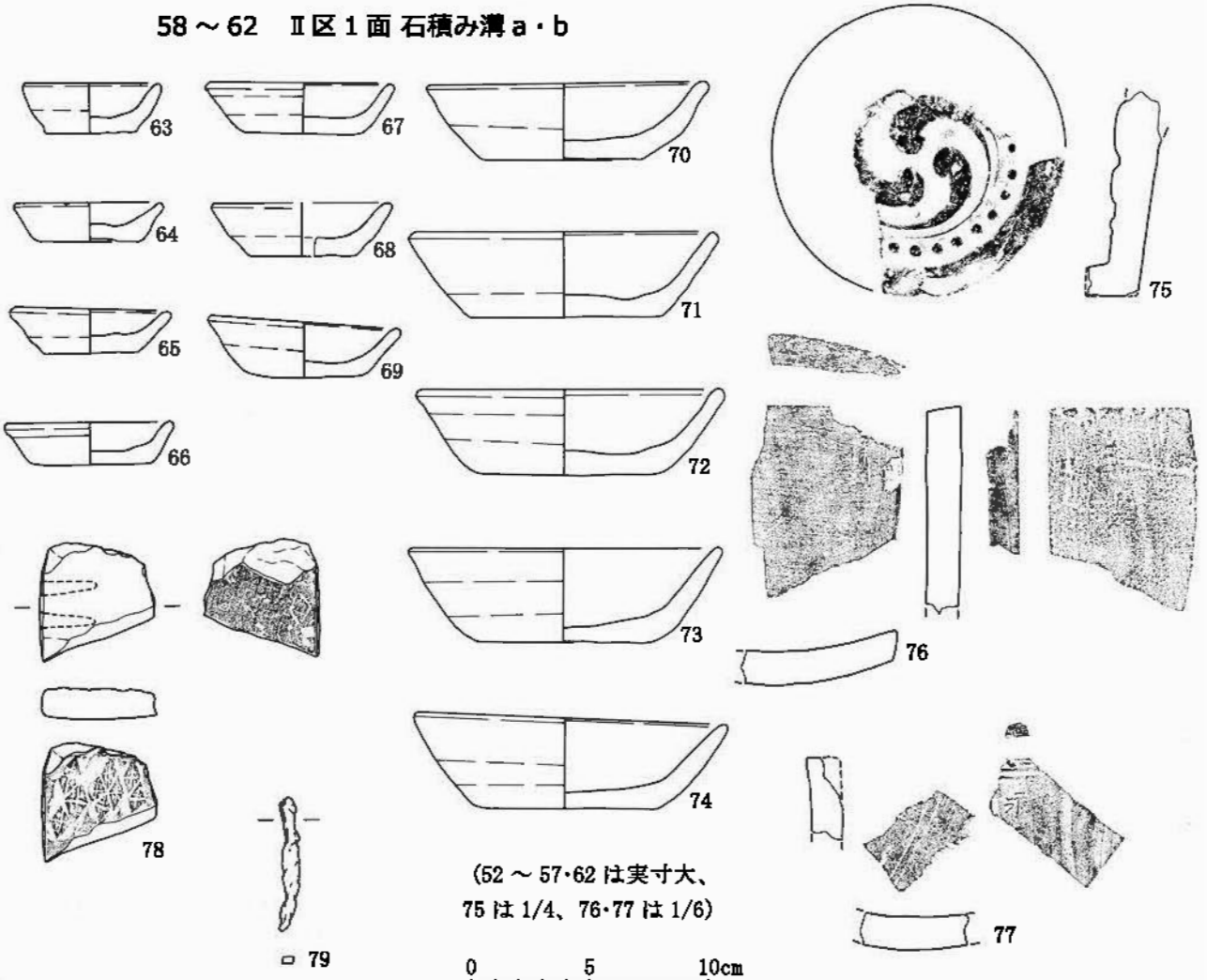
図8　出土遺物（2）



52～57　Ⅱ区１面 石積み溝ａ



58～62　Ⅱ区１面 石積み溝ａ・ｂ



(52～57･62は実寸大、
75は1/4、76･77は1/6)

0　5　10cm
(1/3)

63～79　Ⅱ区１面 石積み溝ｂ

図９　出土遺物（3）

見て取れ、やや厚い埋め立て層の上に2面が形成された様子が垣間見えた。

（3）Ⅰ区の出土遺物（図7-1～8）

1は近世耕作土から出土した資料で、陶器の取手付瓶。3は1面の土坑1から出土した、ロクロかわらけの小皿。体部はやや丸みを持ちつつ、低く立ち上がる。4～7はⅠ面下～2面、8は2面上の炭層から出土した。かわらけ小皿は3と同様の特徴を持つ。5は軒丸瓦（鐙瓦）のが瓦当片で、圏線をもつ左回り三ツ巴文である。珠文は18個となろうか。永福寺の瓦分類には、完全に合致する例がない。

遺物の全体量が少ないため明言はできないが、図化できたロクロかわらけを見る限り、13世紀後葉～14世紀前葉という年代幅の中で理解すべき遺物となろう。

第2節　Ⅱ区の遺構と遺物

（1）1・2面の遺構（図4～6）

Ⅱ区では、数cm～30cmという浅いレベルで凝灰質砂岩の切石列が検出され、平成26年の確認調査で検出された石積み溝の延長部と判断した。切石の配置状況や確認調査坑の位置から、石列の南側部分が溝の埋土と考えられたため、Ⅱ区の調査は溝埋土の除去と石積みの検出に主眼を置いて進めた。石列の北側は造成工事の影響か、撹乱が大きく広がっていたが、調査では石材の輪郭を出すにとどめ、深く掘削することはしなかった。南側対岸の石積みは調査区外となるため、今回は検出できなかった。

石積みの護岸は2時期あり、新しいものは溝の内側（南側）に人頭大の泥岩ブロックを野面積みしたもので、 石積み溝aと呼称した（図4・6）。古段階は切石積みで、石積み溝bと呼称した（図5・6）。

石積み溝bでは長さ65cm×幅50cm×厚さ30cmの規格品を主体に、これより小ぶりの切石も用いていた。調査区の南壁際ということもあり、安全性を確保するため基底部までの掘り下げは断念したが、5段分、高さ150cmまでは確認することができた。石積み前面のラインは、N72° E。

なお、図4ではⅠ区1面の全体図に石積み溝aを、図5ではⅠ区2面の全体図に石積み溝bを合成して示したが、前章で述べたようにⅠ－Ⅱ区間の土層堆積の繋がりが全く分からないため、両図面ともに便宜的に合成・表示したものに過ぎない。次節で述べる石積み溝a・b出土の遺物様相は、Ⅰ区1・2面で出土したものより新しいことは間違いなくいえる。

（2）Ⅱ区の出土遺物（図7-9～13・図8・9）

図7-9～12は表土から出土した。11は肥前系磁器の筒形碗（湯呑み碗）で、18世紀後葉の所産品であろう。

図8-13～図9-57は石積み溝aの埋土中から出土した。13～36はロクロかわらけの小皿で、口径は大きく①6cm前後、②7cm台、③10cm前後、④12cm前後に分けられる。完形品の重量は、①30g台、②50g前後、③100～120g前後、④該当資料なし、といった分布を示している。本報告では①・②を小皿、③を中皿、④を大皿と呼称した。各法量とも器壁が厚く、直線～外反器形の資料が主体をなしている。38～42は瀬戸・美濃窯製品で、後期様式の資料で占められる。40の縁釉小皿は削り出しの高台を有し後Ⅳ期に、42のすり鉢は後Ⅲ期～Ⅳ期古段階に当てることができ、15世紀前葉～中葉頃の所産年代を示している。53の洪武通寶、54の永楽通寶は中国の明銭であり、54は初鋳が1408年なので、ここからも本遺構の埋没時期が15世紀以降であることが分かる。他の遺物は小片が主体で、43・44の瓦質風炉や49の茶臼下石など、喫茶関連の製品が散見できる。46～48は永福寺Ⅰ・Ⅱ期の所用瓦で鎌倉時代前半の所産であり、谷戸奥の調査地でも一定量が出土し、寺院の存在を窺わせる。

図 9-58 ～ 62 は石積み溝 a・b 出土遺物のうち、厳密な帰属を掴めなかった資料である。

図 9-63 ～ 79 は、石積み溝 b の埋土から出土した。63 ～ 74 はロクロかわらけで、石積み溝 a の資料と概ね同じ口径分布を示している。71・72 の大皿は完形品で、重量は約 180g である。各法量とも器壁が厚い資料が主体となる点は石積み溝 a と同様であるが、溝 b では大皿の体部が殆ど外反しない点など、一段階古い器形的特徴として指摘できるかもしれない。75 は軒丸瓦のが瓦当片で、圏線のない右回り三ツ巴文に珠文が 24 個めぐるものと見られる。永福寺の瓦分類には、完全に合致する例がない。77 の平瓦は永福寺の女瓦Ｄ類で、凸面に「永」の陽刻スタンプが捺されている。瓦は、いずれも 13 世紀代の所産品と見られる。本遺構では図化できる瀬戸・美濃窯製品がなく搬入資料による年代推定の根拠は示せないが、在地産かわらけは溝 a の資料と大きな器形差がなく、近い年代を考えるべきだろう。

第五章　調査成果のまとめ

今回は種々制約がある中での調査となり、中世における断片的な情報を入手できたに過ぎない。以下、要点を整理する。

（１）Ｉ区の調査成果について

Ｉ区では 2 枚の中世遺構面を検出し、さらに下位にも整地面があった可能性が高い。安全面への配慮から調査対象はごく小規模な範囲にとどまり、遺構展開に関する情報は殆ど得ることができなかった。1・2 面とも上面が焼けて赤変・硬化しており、また炭層に覆われていたことからも火災に遭った可能性が強い。両遺構面にともなう出土遺物はきわめて少ないが、かわらけは 13 世紀後葉～ 14 世紀前葉の様相を持つものと考えられた。史料に残る 1302 年と 1310 年の 2 回の火災とも乖離しない年代観ではあるが、下層の遺跡状況が不明なので、事実関係の提示にとどめたい。

（２）Ⅱ区の調査成果について

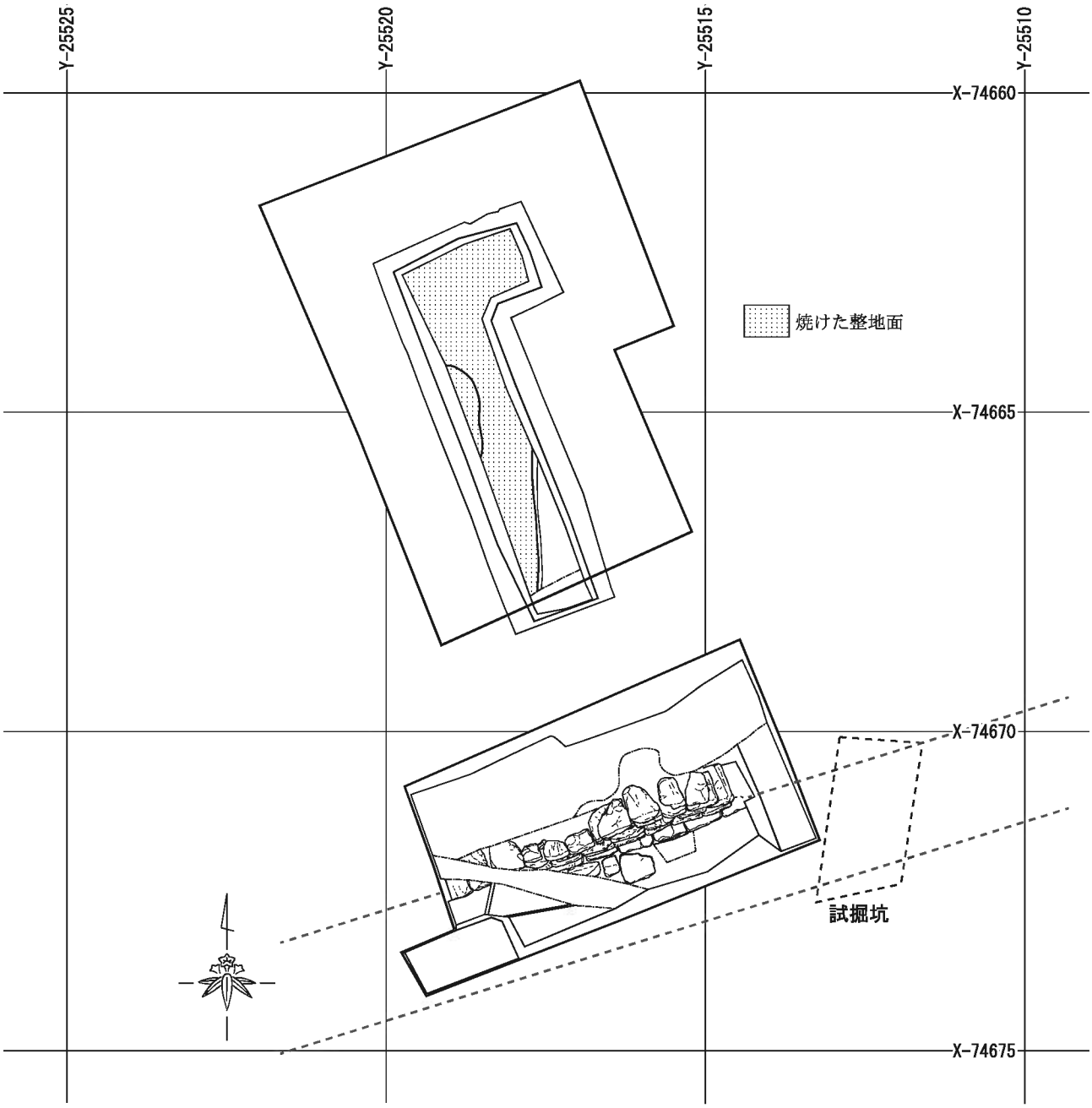
Ⅱ区では、石積み溝 a･b の調査のみで終わった。新しい段階の溝 a では泥岩ブロック野面積み護岸で、出土遺物から 15 世紀中頃以降に埋没したと考えられる。古段階の溝 b は凝灰質砂岩の切石積み護岸で、部分的に切り欠きを施して精緻に積み上げられていた。調査範囲・安全面の制約により溝底の検出には至らなかったが、5 段分、高さ 150 ㎝以上となることは確認できた。遺物様相は溝 a と大きく違わず、決め手は欠くものの、15 世紀前半頃と考えておきたい。この点でも史料上、推測されてきた多宝寺の廃絶時期と齟齬がなく、15 世紀中葉以降、谷戸内の土地利用が一変したことを推察させる。

溝 a･b ともに永福寺所用瓦が出土し、近傍の谷戸内に瓦葺きの堂宇があったことを想起させる。また、溝 a では喫茶道具類も出土しており、寺院における生活の一端を垣間見せている。

（３）切石積み溝について

扇ガ谷地区では、法泉寺跡（図 1-9）や清涼寺跡（10）で切石積み護岸の溝が発見されており、前者は 15 世紀初頭頃に廃絶、後者は 14 世紀代の遺物を含んでいる。遺物様相だけを見ると本地点の石積み溝 b が最も新しいが、今回の調査では埋没年代しか知り得ず、構築時期に関する情報は一切得ることができなかったため、各地点の切石積み溝と年代的に開きがあるものとは即断できないだろう。いずれも寺院の境内や前面を限る場所で検出されていることから、溝の護岸という機能面だけでなく、寺院地を荘厳化する意図も含まれていたのかもしれない。

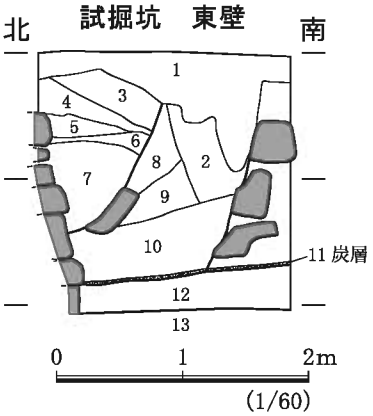
図 10 には、平成 26 年に実施された確認調査時の記録を掲げた。試掘坑の位置は正確でないが、溝の上幅が 1.7 ｍと記録されているので、大よそ図示したようなラインに復元できるだろう。断面図で注目



座標値は JGD2011（第Ⅸ系）

0 1 2 3 4 5m

(1/100)



1. 表土・撹乱
2. 暗灰色砂質土　締まりあり。
3. 暗褐色砂質土
4. 暗褐色砂質土
5. 暗褐色砂質土
6. 暗灰色砂質土　炭化物・かわらけ包含。
7. 暗褐色粗砂　切石側に遺物多い。
8. 暗灰褐色砂質土 軟質。
9. 暗褐色砂質土　軟質。炭化物含む。
10. 暗灰色砂質土　灰粒・炭化物多量。
11. 炭層
12. 暗褐色土　締まりあり。炭化物含む。
13. 暗灰色粘質土　締まりあり。炭化物含む。

･･･ 石

図 10　確認調査成果との合成図

表２　出土遺物カウント・計量表

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅰ区近世層（2層）				
ロクロかわらけ	大		2	41
常滑	甕		1	75
瓦	平瓦	D	1	118
肥前磁器	染付碗		1	12
近世陶器	水指し		1	326
	碗		1	14
Ⅰ区1面精査時				
ロクロかわらけ	小		1	7
	大		2	132
常滑	甕		4	164
鉄製品	不明		1	9
Ⅰ区1面　土坑1				
ロクロかわらけ	小		1	47
	小片		3	14
常滑	甕		2	165
Ⅰ区1面　近世土坑				
ロクロかわらけ	小片		1	7
常滑	甕		1	20
Ⅰ区1面下				
ロクロかわらけ	小		2	17
	大		24	288
瀬戸	卸皿		1	6
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	141
	甕		2	90
瓦	軒丸瓦 燻べ	左巴+ 圏線	1	271
	平瓦	D	3	390
銅製品	銭		1	3
鉄製品	釘		1	10
陶器	不明		1	18
Ⅰ区2面上炭層				
ロクロかわらけ	小		1	16
	大		14	180
	小片		20	58
土器	不明		1	17
瀬戸	入子		1	4
常滑	甕		1	35
	壺?		1	32
銅製品	不明		1	7
鉄製品	釘		5	14
Ⅱ区表土				
ロクロかわらけ	小		9	106
	大		80	910
	小片		42	137
瀬戸	皿		1	5
	柄付片口?		1	20
	盤類		2	19
常滑	片口鉢	Ⅱ	4	158
	甕		11	429
渥美	甕		1	17
瓦質土器	火鉢		1	16
瓦	平瓦	A	2	168
	丸瓦 燻べ		2	101
石製品	硯		1	61
	砥石		1	58
鉄製品	不明		1	60
肥前磁器	染付碗		1	45
磁器	不明		1	2
陶器	灯明皿		1	4
陶器	不明		6	116
土器	不明		1	17

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区1面　石組み溝a				
ロクロかわらけ	小		50	980
	大		320	4750
	転用円盤		1	16
	小片		270	995
土器	鍔付鍋		1	13
常滑	甕	7型式まで	21	1858
瀬戸	天目茶碗		1	20
	平碗		2	102
	縁釉小皿		2	57
	碗皿		2	6
	折縁深皿		2	59
	直縁大皿		1	19
	すり鉢		1	44
	尊式花瓶		1	45
	すり鉢		1	65
瓦質土器	火鉢		4	133
	風炉		3	121
瓦	丸瓦	A	2	865
		B	1	47
			1	34
	平瓦	A	3	284
		D	6	2964
			4	162
石製品	滑石鍋		1	48
	硯		1	51
	仕上げ砥	鳴滝	1	50
	茶白下石		1	1465
銅製品	銭		5	12
	不明		1	2
鉄製品	釘		8	39
陶器	不明		1	3
土器	不明		1	5
自然遺物	獣骨		1	—
Ⅱ区1面　石組み溝a-b				
ロクロかわらけ	小		7	119
	大		48	892
	小片		29	51
龍泉窯系青磁	碗?		1	2
瀬戸	天目茶碗		1	10
	花瓶?		1	8
常滑	甕		2	67
銅製品	銭		1	3
Ⅱ区1面　石組み溝b				
ロクロかわらけ	小		25	405
	大		160	3134
		別系統	1	50
	小片		102	305
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	23
	小碗		1	8
瀬戸	平碗		2	15
	碗皿		4	16
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	125
	甕		6	345
瓦質土器	風炉		1	170
石製品	滑石スタンプ		1	46
瓦	軒丸瓦	Ⅱ04b	1	325
	平瓦	A	3	1215
		D	2	395
鉄製品	釘		1	5
Ⅱ区1面　石組み溝b裏込め				
ロクロかわらけ	大		1	11
舶載施釉陶器	天目茶碗		1	22
瀬戸	壺類		1	9
瓦質土器	平瓦	D	1	6

表３　出土遺物観察表

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	産地・器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・その他の特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図71	国産陶器	産地不詳 把手付瓶	胴～底 略完形	—	6.3	[13.7]		気泡	灰/赤褐			Ⅰ区近世層 頸～胴部外面に鉄釉
図72	在地土器	かわらけ ロクロ 大	2/5	(12.3)	(6.8)	3.1		b	淡橙	ナデ	板状	Ⅰ区1面上
図73	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	8.0	5.4	1.9		b		ナデ	板状	Ⅰ区1面　土坑1
図74	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/6	(6.7)	(4.4)	1.4		b		ナデ	板状	Ⅰ区1面下～2面
図75	瓦	連珠三ツ巴文 軒丸瓦	瓦当 1/2	瓦当径 (13.2)	内区径 (8.0)	厚さ 2.4		密 黒色粒	灰/黒灰			Ⅰ区1面下～2面 YAⅡ 燻し焼成
図76	鉄製品	釘	完形	6.8	0.8	0.7	10.2					Ⅰ区1面下～2面
図77	銅製品	北宋銭 元祐通寶	完形	外径 2.3	内区径 1.9	方孔径 0.6	2.9					Ⅰ区1面下～2面 篆書か　1086年初鋳
図78	在地土器	かわらけ ロクロ・小	1/3	(7.6)	(4.7)	1.7		c 雲母粒	橙	ナデ	不明	Ⅰ区2面炭層
図79	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	7.0	4.8	2.4		b	淡黄褐	ナデ	板状	Ⅱ区表土 外面うすく黒変
図710	在地土器	かわらけ ロクロ 大	1/8以下	—	—	3.6		a～b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区表土 外面
図711	国産磁器	肥前系染付 箱形碗	底2/5	—	(3.3	[3.8]		密	白灰/藍			Ⅱ区表土　体外面に菊花文 内底面に梅花文
図712	石製品	天草 中砥	1/2	長さ [6.3]	幅 3.0	厚さ 2.3	[58]		灰			Ⅱ区表土
図813	在地土器	かわらけ ロクロ 小	略完形	5.6	3.9	1.8	[26.2]	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図814	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口わずか 底完存	(5.8)	3.9	1.7		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a 口縁に油煤付着 口縁を細かく打ち欠き
図815	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	5.8	4.1	1.9	32.6	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a 口縁に油煤付着
図816	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	6.1	3.8	2.0	32.3	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a 全体に油煤付着
図817	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	6.3	4.3	1.8	33.8	b	橙褐	ナデ	板状	二次的に被熱か
図818	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	6.3	4.2	2.0	32.7	b	橙褐	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図819	在地土器	かわらけ ロクロ 小	略完形	6.3	4.3	2.0	[35.3]	b	橙	ナデ		Ⅱ区1面　石組み溝a
図820	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/3	(6.9)	(4.7)	2.0		b	淡黄褐	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a 体部外面うすく黒変
図821	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口3/4 底完存	7.0	5.0	1.8		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図822	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口3/4 底完存	7.2	4.3	2.2		b	黄橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図823	在地土器	かわらけ ロクロ 小	3/4	7.3	4.4	2.0		b	黄橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a 口縁に油煤付着
図824	在地土器	かわらけ ロクロ 小	略完形	7.1	5.3	2.0	[50.0]	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a 口縁に油煤付着
図825	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/2	7.5	5.9	1.9		b	黄橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図826	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	7.7	5.1	2.3		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図827	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口1/2 底完存	7.5	4.8	2.2		b	黄灰	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図828	在地土器	かわらけ ロクロ 小	3/4	7.5	4.7	2.1		b	灰白	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図829	在地土器	かわらけ ロクロ 中	完形	9.4	5.6	2.8	91.1	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図830	在地土器	かわらけ ロクロ 中	完形	9.9	6.0	3.0	100.0	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図831	在地土器	かわらけ ロクロ 中	口1/5 底2/3	(10.0)	6.0	2.9		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図832	在地土器	かわらけ ロクロ 中	略完形	10.2	7.0	3.0	[121.8]	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図833	在地土器	かわらけ ロクロ 中	口1/4 底4/3	(10.5)	(6.5)	3.0		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図834	在地土器	かわらけ ロクロ 大	1/4	(11.9)	(8.5)	3.5		b	黄灰	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a

（　）＝復元値　［　］＝残存値

遺物番号	種別	産地・器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・その他の特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図83 35	在地土器	かわらけ ロクロ 大	1/3	(12.0)	(7.3)	3.5		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図83 36	在地土器	かわらけ ロクロ 大	口1/8 底2/3	(12.7)	8.1	3.9		b	黄橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a
図83 37	在地土器	かわらけ 転用円盤	(完形)	長径 5.2	短径 4.4	厚さ 0.9	15.8	b	橙			Ⅱ区1面　石組み溝a ロクロ・大の底部片
図83 38	国産陶器	瀬戸 灰釉平碗	口～体 1/4	(17.5)	—	[5.6]		密	灰白/ 淡緑灰			Ⅱ区1面　石組み溝a 後Ⅱ期以降
図83 39	国産陶器	瀬戸 平碗	底 1/3	—	(4.6)	[1.6]		やや粗	淡灰黄/ 淡灰緑			Ⅱ区1面　石組み溝a 後Ⅱ期以降
図83 40	国産陶器	瀬戸 縁釉小皿	口1/6 底1/2	(11.6)	(6.2)	2.3		やや粗	淡灰黄/ 淡灰緑			Ⅱ区1面　石組み溝a 後Ⅳ期か
図83 41	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口小片	—	—	[1.8]		やや粗	灰/ 淡灰緑			Ⅱ区1面　石組み溝a 後Ⅳ期か
図83 42	国産陶器	瀬戸 すり鉢	口小片	—	—	[6.1]		やや粗	灰白 /褐			Ⅱ区1面　石組み溝a上層 古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期古
図83 43	在地産 瓦質土器	風炉	口小片	—	—	[4.7]		やや粗	灰白/ 暗灰			Ⅱ区1面　石組み溝a 口頸部外面連続菱形文 黒色処理
図83 44	在地産 瓦質土器	風炉	口小片	—	—	[4.0]		やや粗	灰白			Ⅱ区1面　石組み溝a 口頸部外面ヘラ押し文
図83 45	搬入土器	東海産 鍔付鍋	口～鍔 小片	—	—	[3.6]		密	灰白～黒			Ⅱ区1面　石組み溝a 胴外面ハケメ　伊勢系か
図83 46	瓦	丸瓦	筒部 ～玉縁	長さ [14.3]	幅 [10.8]	厚さ 2.9		密	灰～黒灰			Ⅱ区1面　石組み溝a 有段式　永福寺男瓦A類
図83 47	瓦	平瓦	一側辺 残存	長さ [20.2]	幅 [21.0]	厚さ 3.3		粗	淡灰			Ⅱ区1面　石組み溝a上層 永福寺女瓦D類 凸面斜格子タタキ
図83 48	瓦	平瓦	一側辺 残存	長さ [18.5]	幅 [18.5]	厚さ 3.0		粗	灰			Ⅱ区1面　石組み溝a上層 永福寺女瓦D類 凸面斜格子・花菱文・七宝文ﾀﾀｷ
図83 49	石製品	茶臼 下臼	1/4	最大径 [22.6]	上面径 (16.8)	高さ 9.1	[1465]		灰黒			Ⅱ区1面　石組み溝a 安山岩製 軸孔径(2.4)cm
図83 50	鉄製品	釘	略完形	長さ 8.2	幅 0.6	厚さ 0.4	[6.2]					Ⅱ区1面　石組み溝a
図83 51	鉄製品	釘	略完形	長さ 4.2	幅 0.4	厚さ 0.4	[2.7]					Ⅱ区1面　石組み溝a
図93 52	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	外径 2.3	内区径 1.9	孔径 0.75	2.6					Ⅱ区1面　石組み溝a 真書　1038年初鋳
図93 53	銅製品	明銭 洪武通寶	完形	外径 2.3	内区径 2.0	孔径 0.6	3.4					Ⅱ区1面　石組み溝a 1368年初鋳
図93 54	銅製品	明銭 永楽通寶	完形	外径 2.4	内区径 2.1	孔径 0.55	2.9					Ⅱ区1面　石組み溝a 1408年初鋳
図93 55	銅製品	銭 銭銘不明	1/3	外径 2.4	内区径 —	孔径 0.6	[1.9]					Ⅱ区1面　石組み溝a
図93 56	銅製品	銭 銭銘不明	摩滅	外径 [2.0]	内区径 —	孔径 [0.55]	[1.0]					Ⅱ区1面　石組み溝a
図93 57	銅製品	不明 座金状	略完形	外径 1.45	孔径 0.45	厚さ 0.25	1.5					Ⅱ区1面　石組み溝a
図93 58	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口1/3 底2/3	(8.0)	4.4	2.3		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a・b 口縁に油煤付着
図93 59	在地土器	かわらけ ロクロ 中	1/3	(10.7)	(6.0)	3.0		b	黄灰	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a・b
図93 60	在地土器	かわらけ ロクロ 大	略完形	12.5	8.1	3.6	[167.6]	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a・b
図93 61	在地土器	かわらけ ロクロ 大	1/4	(13.8)	(8.1)	4.1		b	黄灰	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝a・b
図93 62	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	外径 2.3	内区径 1.9	孔径 0.6	3.3					Ⅱ区1面　石組み溝a・b 真書　1068年初鋳
図93 63	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	5.6	4.0	2.2	32.9	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図93 64	在地土器	かわらけ ロクロ 小	略完形	6.0	4.2	1.6	[34.1]	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b 口縁に油煤付着
図93 65	在地土器	かわらけ ロクロ 小	3/4	6.5	4.0	2.0		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図93 66	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	7.0	5.0	1.8		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b

（ ）＝復元値　［ ］＝残存値

遺物番号	種別	産地・器種	残存率	法量(cm)			重量	胎土	色調 素材/表面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・その他の特徴
				口径	底径	器高	(g)					
図967	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口1/2 底完存	7.7	5.0	2.1		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図968	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口2/3 底1/3	(7.4)	(4.5)	2.3		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図969	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口1/2 底完存	7.9	4.9	2.7		b	黄灰	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図970	在地土器	かわらけ ロクロ 大	口2/3 底完存	11.6	6.6	3.4		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図971	在地土器	かわらけ ロクロ 大	完形	12.5	8.0	3.6	181.2	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図972	在地土器	かわらけ ロクロ 大	完形	12.8	7.5	3.6	178.3	b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b
図973	在地土器	かわらけ ロクロ 大	口1/2 底完存	13.0	7.2	3.9		b	橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b 口～体部うすく黒変
図974	在地土器	かわらけ ロクロ 大	3/4	13.0	7.5	4.0		b	黄橙	ナデ	板状	Ⅱ区1面　石組み溝b 白針
図975	瓦	連珠三ツ巴文 軒丸瓦	瓦当 1/3	瓦当径 (16.2)	内区径 (9.8)	厚さ 2.5		密	灰/ 暗灰			Ⅱ区1面　石組み溝b YaⅡ　燻し焼成か
図976	瓦	平瓦	広端面 右側面	長さ [17.5]	幅 [12.7]	2.9		密	暗灰			Ⅱ区1面　石組み溝b 永福寺女瓦A類
図977	瓦	平瓦	狭端面 わずか	長さ [11.0]	幅 [11.7]	厚さ 2.8		粗	灰			Ⅱ区1面　石組み溝b 永福寺女瓦D類 凸面「永」銘
図978	石製品	滑石鍋片 転用スタンプ	側辺 一部欠	長さ [5.0]	幅 [4.8]	厚さ 1.3	[46]		灰			Ⅱ区1面　石組み溝b 花菱文
図979	鉄製品	釘	略完形	長さ 5.6	0.5	厚さ 0.3	[3.7]					Ⅱ区1面　石組み溝b

凡例：在地産かわらけの胎土分類

ａ：粉質　ｂ：泥質　ｃ：精良・硬質　ｄ：泥質・精良　ｅ：砂質・硬質

いずれの胎土も白針（骨針化石）や雲母粒・泥岩粒を含む例が主体となる（多寡や欠落もあり）。

大よそｅ・ｄ→ｂ・ｃ→ａという順で新しくなり、ｃは「薄手丸深」タイプに、ａは「戦国タイプ」に使用。

すべきは11層とした炭層の存在で、南側は石積み溝の基底部下まで広がっている。標高は１ｍ以上も低くなるが、これがⅠ区で確認された炭層のどちらかに対応するのか、興味深いところである。南側の切石積みは北側に比べ緻密さに欠け、また炭層上に構築されていたことから、火災後の土地整理を行う際、本来はより南側にあった石積み護岸を北側に移して積み直した可能性も指摘できる。いずれにせよ断片的な情報をもとにした推測でしかないので、今後、近隣において確認可能な調査の機会があれば、留意して当たる必要があるだろう。

1.　Ⅰ区表土掘削前（南東から）

2.　Ⅰ区表土掘削後（南から）

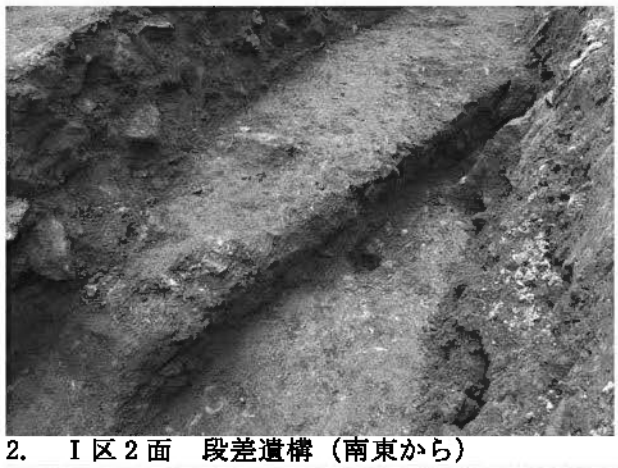
3.　Ⅰ区 1 面　全景（北から）

4.　Ⅰ区 1 面　土坑 1（南から）

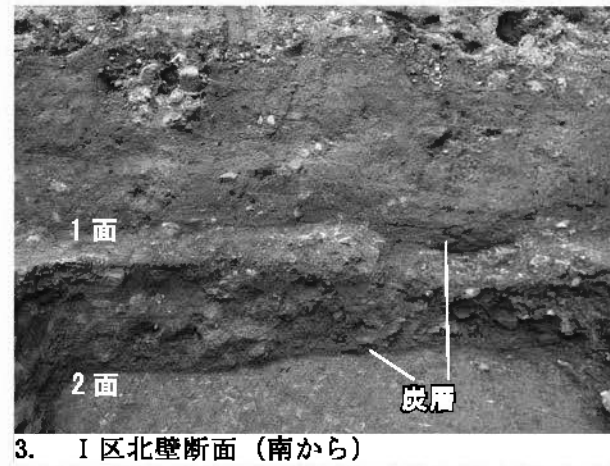
5.　Ⅰ区 1 面　土坑 2（北から）

図版２

1.　Ⅰ区２面　全景（北から）



2.　Ⅰ区２面　段差遺構（南東から）



3.　Ⅰ区北壁断面（南から）

4.　Ⅱ区表土掘削作業（南東から）

5.　Ⅱ区１面精査（南東から）

1.　Ⅱ区１面　全景（南東から）

2.　Ⅱ区１面　石積み溝ａ（南から）

3.　Ⅱ区１面　石積み溝ａ（東から）

4.　Ⅱ区１面　石積み溝ａ　遺物出土状況

5.　Ⅱ区１面　石積み溝ａ裏込め　遺物出土状況

図版４

1.　Ⅱ区１面　石積み溝ｂ（南西から）

2.　Ⅱ区１面　石積み溝ｂ（南から）

3.　Ⅱ区１面　石積み溝ｂ（南西から）

4.　Ⅱ区１面　石積み溝ｂ　埋土断面（西から）

5.　Ⅱ区１面　石積み溝ｂ　清掃作業（南から）

図 7-1

近世耕作土

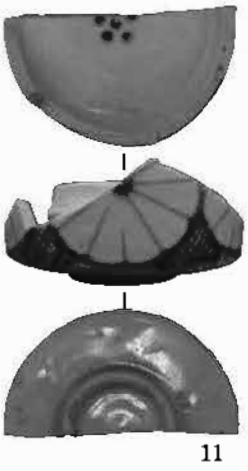
2面上炭層

1面上

1面土坑1

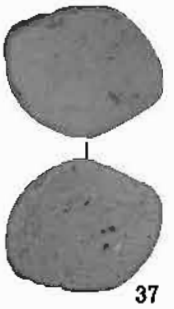
4～6　1面下

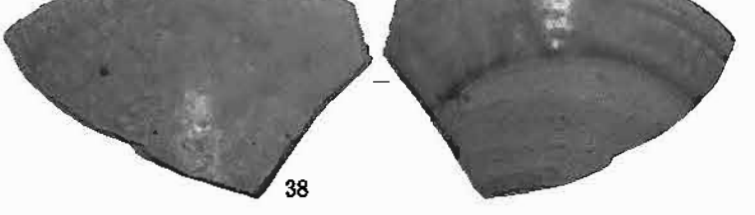
Ⅰ区出土遺物

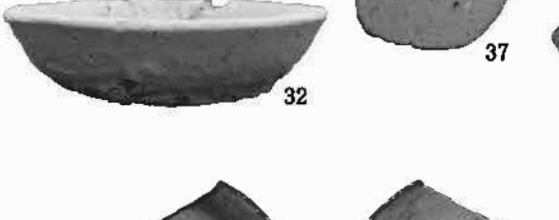


11・12　表土

図 8-13





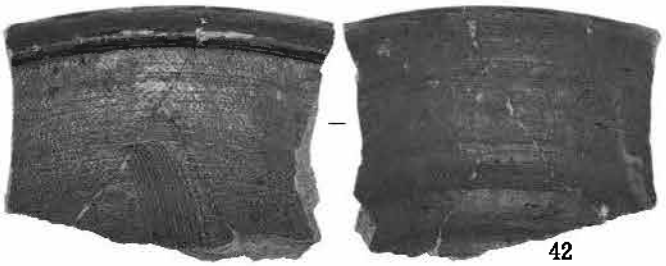


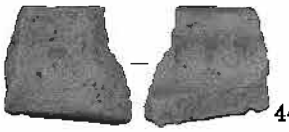
13～41　1面石積み溝a

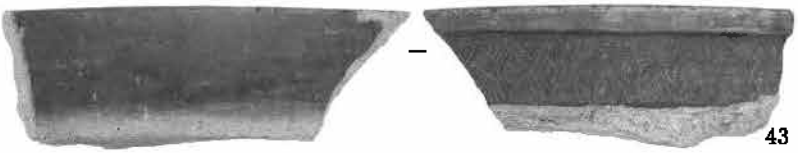
Ⅱ区出土遺物

出土遺物（縮尺＝約2/5、瓦は約1/4）

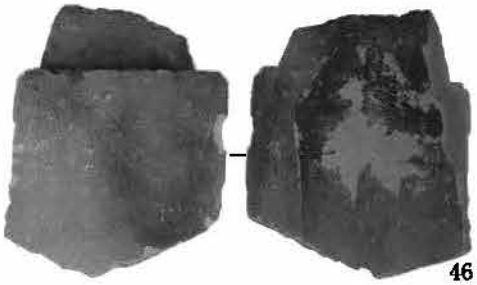
図版６

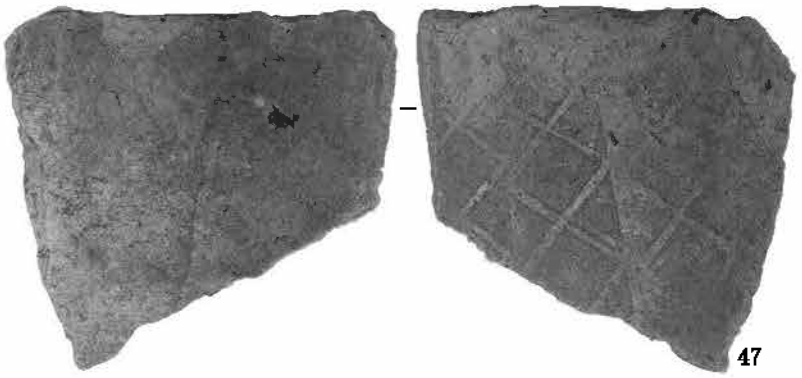

42


44


43

45


46


47

49

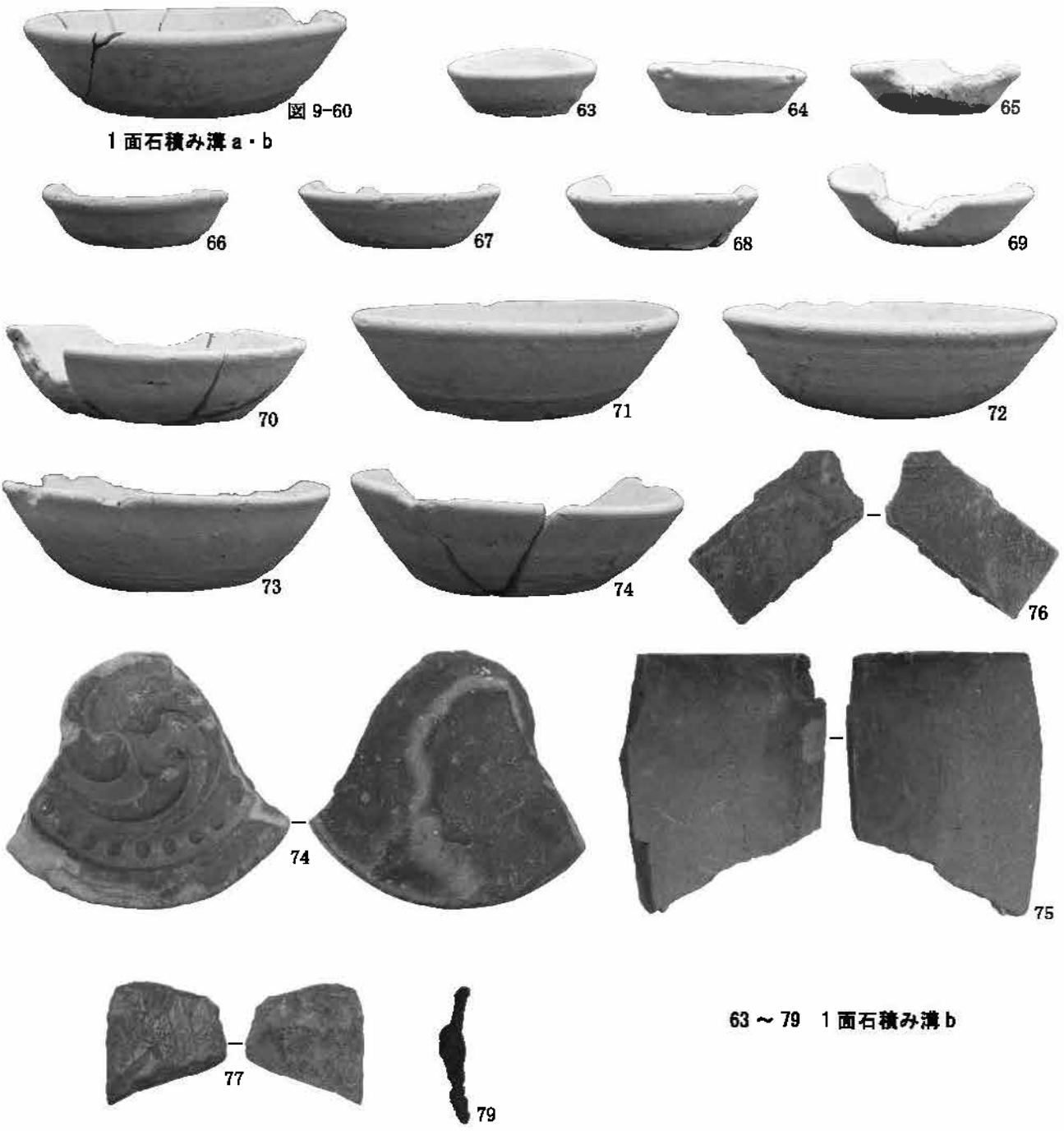
48

50

51

42 ～ 51　１面石積み溝 a

Ⅱ区出土遺物
出土遺物（縮尺＝約 2/5、瓦は約 1/4）



１面石積み溝ａ・ｂ

６３～７９　１面石積み溝ｂ

Ⅱ区出土遺物

出土遺物（縮尺＝約 2/5、瓦は約 1/4）

報 告 書 抄 録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	令和２年度調査報告
巻次	３７　（第２分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	伊丹まどか／押木弘己／押木弘己／後藤　健／押木弘己／押木弘己
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒２４８－８６８６　鎌倉市御成町１８番１０号
発行年月日	西暦２０２１年３月２６日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町一丁目 324番４	14204	242	35° 19′ 7″	139° 33′ 11″	20140609 ～ 20140919	67.00	個人専用住宅 （柱状改良工事）
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜一丁目 163番１	14204	201	35° 18′ 58″	139° 33′ 55″	20161101 ～ 20170316	216.79	個人専用住宅 （杭工事）
よここうじしゅうへんいせき 横小路周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 81番１	14204	259	35° 19′ 32″	139° 33′ 55″	20170904 ～ 20171201	68.25	個人専用住宅 （柱状改良工事）
やまのうちうえすぎていあと 山ノ内上杉邸跡	神奈川県鎌倉市 山ノ内字西管領屋敷 344番５	14204	170	35° 20′ 6″	139° 32′ 51″	20171030 ～ 20180207	65.00	個人専用住宅 （鋼管杭工事）
よここうじしゅうへんいせき 横小路周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 26番イの一部	14204	259	35° 19′ 29″	139° 33′ 51″	20181015 ～ 20181207	34.77	個人専用住宅 （柱状改良工事）
たほうじあと 多宝寺跡	神奈川県鎌倉市 扇ガ谷二丁目 260番１	14204	187	35° 19′ 36″	139° 33′ 10″	20190612 ～ 20190724	74.90	個人専用住宅 （基礎工事）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市 城館跡	中世	竪穴建物・土坑・ピット・溝状遺構	土器・国産陶器・舶載磁器・土製品・石製品・瓦・金属製品・銭・鉄滓・鞴の羽口・チャート・漆器	竪穴建物と工人の存在をうかがわせる遺物が出土。
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市 城館跡	古墳時代・中世	竪穴建物・井戸・土坑・柱穴列・埋甕遺構	土器・陶磁器・土師器・須恵器	竪穴建物を主体とする鎌倉時代後期の遺構群。鎌倉前期の井戸や古墳後期の流路状痕跡も確認。
よここうじしゅうへんいせき 横小路周辺遺跡	城館跡	中世	道路状遺構・溝・柱穴	土器・木製品・漆器	南北道路状遺構と木組み側溝を検出。中世基盤層上では埋没谷を確認。
やまのうちうえすぎていあと 山ノ内上杉邸跡	社寺跡	中世	石列遺構・溝状遺構・かわらけ溜まり・土坑・ピット	かわらけ・舶載磁器・国産陶器・土師器・須恵器・土師質・瓦質土器・瓦・土製品・石製品・金属製品・木製品	強固な砂岩による地業面を複数確認。石列遺構や複数の溝状遺構を検出。
よここうじしゅうへんいせき 横小路周辺遺跡	城館跡	古代・中世	柱穴・土器集積・溝・落ち込み	土器・土師器・須恵器	荏柄天神社参道と同じ軸線の中世遺構群。平安時代の落ち込みからは墨書土器が出土。
たほうじあと 多宝寺跡	社寺跡 散布地	中世	石積み溝・土坑	土器・陶磁器・瓦	15世紀前後の石積み護岸溝と、その北側に火災面と思しき炭層の広がりを確認。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　37
令和３年度発掘調査報告
（ 第 2 分 冊 ）

発 行 日　令和３年（2021年）３月26日

編集・発行　　鎌倉市教育委員会
印　　刷　　文一堂印刷株式会社

第２分冊　正誤表

箇所	誤	正
Ⅳページ ３行目	第五章　横小路周辺伊勢路の～	第五章　横小路周辺遺跡の～
2頁 12行目	清水由香里	清水由加里
308頁 11,13,16行目	清水由香里	清水由加里
314頁 3行目	mを測る表土は	mを測る。表土は
314頁 22行目	西側（I区） 東側（II区）	西側（2区） 東側（1区）
341頁 3行目	10-1は近現	１は近現
343頁 38行目	この箇所は次節で述べる第７面の	この箇所は第７面の
343頁 7行目	敷地お一画	敷地の一画
366頁 図キャプション	28-○ 31-○　※○はそれぞれ番号です	28-○となっている遺物写真は全て27-○ 31-○となっている遺物写真は全て30-○
375頁 表１の⑤	二階堂字荏柄76番８	二階堂字荏柄76番４
奥付	令和３年度発掘調査報告	令和２年度発掘調査報告